

奈良県三郷町
3D 都市モデル拡張製品仕様書 第 1.0 版

令和 8 年 3 月
奈良県三郷町

本拡張製品仕様書が参照する 3D 都市モデル標準製品仕様書の版 ： 第 5.0 版

本拡張製品仕様書及び拡張製品仕様書が参照する外部のファイルの名称及び所在

	テンプレート一式の内容	ファイル名	所在
1	拡張製品仕様書（本ファイル）	29343_city_2025_specification_op.docx	ルートフォルダの直下の specification フォルダに格納。
2	取得項目一覧	29343_city_2025_objectlist_op.xlsx	ルートフォルダの直下の specification フォルダに格納。 シート名：A3.1_取得項目一覧
3	拡張コードリスト	29343_city_2025_objectlist_op.xlsx	ルートフォルダの直下の specification フォルダに格納。 シート名：A3.2_拡張コードリスト
4	建築物の拡張属性	29343_city_2025_objectlist_op.xlsx	ルートフォルダの直下の specification フォルダに格納。 シート名：A.3.3_建築物の拡張属性リスト
5	拡張地物定義	29343_city_2025_objectlist_op.xlsx	ルートフォルダの直下の specification フォルダに格納。 シート名：A.3.4_拡張地物定義
6	汎用都市オブジェクト	29343_city_2025_objectlist_op.xlsx	ルートフォルダの直下の specification フォルダに格納。 シート名：A.3.5_汎用都市オブジェクト
7	汎用属性	29343_city_2025_objectlist_op.xlsx	ルートフォルダの直下の specification フォルダに格納。 シート名：A.3.6_汎用属性
8	拡張品質要求	29343_city_2025_objectlist_op.xlsx	ルートフォルダの直下の specification フォルダに格納。 シート名：A.3.7_拡張品質要求
9	XMLSchema 一式	—	ルートフォルダ直下の schemas フォルダに格納。
10	コードリスト一式	—	ルートフォルダ直下の codelists フォルダに格納。

[都市コード]、[提供者区分]及び[整備年度]は、ルートフォルダの名称に一致する。

[都市コード] 3D 都市モデルの整備範囲を示すコード（市区町村の場合は、都道府県コード（2 桁）と市区町村コード（3 桁）の組み合わせからなる 5 桁の数字、都道府県の場合は都道府県コード）とする。

[提供者区分] データセットの提供者を識別するための文字列であり、半角英数字及び区切り文字（-）の組み合わせ。

[整備年度] 3D 都市モデルを整備した年度（半角数字 4 桁の西暦）

目次

1	概 覧	7
1.1	製品仕様の作成情報	7
1.2	目的	7
1.3	製品の範囲	7
1.4	引用規格等	8
1.5	用語と定義	9
1.6	記号及び略語	12
2	適用範囲	13
3	データ製品識別	13
3.1	データ製品の名称	13
3.2	データ製品の日付	13
3.3	データ製品の問合せ先	13
3.4	データ製品の地理記述	13
4	データの内容及び構造	14
4.1	はじめに	14
4.1.1	標準製品仕様書が対象とする地物とLOD	14
4.1.2	3D都市モデル応用スキーマパッケージ図	21
4.1.3	応用スキーマクラス図の記法	25
4.1.4	応用スキーマ文書の読み方	28
4.1.5	基本的なデータ型	29
4.2	建築物モデルの応用スキーマ	31
4.2.1	建築物モデルのLOD	31
4.2.2	建築物の応用スキーマクラス図	71
4.2.3	建築物の応用スキーマ文書	82
4.2.4	建築物で使用するコードリストと列挙型	180
4.3	交通（道路）モデルの応用スキーマ	205
4.3.1	交通（道路）モデルのLOD	208
4.3.2	交通（道路）モデルの応用スキーマクラス図	223
4.3.3	交通（道路）モデルの応用スキーマ文書	227
4.3.4	交通（道路）で使用するコードリストと列挙型	248
4.4	交通（鉄道）モデルの応用スキーマ	257
4.5	交通（徒歩道）モデルの応用スキーマ	257
4.6	交通（広場）モデルの応用スキーマ	257
4.7	交通（航路）モデルの応用スキーマ	257
4.8	土地利用モデルの応用スキーマ	257
4.8.1	土地利用モデルのLOD	257
4.8.2	土地利用モデルの応用スキーマクラス図	259
4.8.3	土地利用モデルの応用スキーマ文書	260
4.8.4	土地利用モデルで使用するコードリストと列挙型	267
4.9	災害リスクモデルの応用スキーマ	270
4.9.1	災害リスクモデルのLOD	272
4.9.2	災害リスクモデルの応用スキーマクラス図	274
4.9.3	災害リスクモデルの応用スキーマ文書	278
4.9.4	災害リスクモデルで使用するコードリストと列挙型	301
4.10	都市計画決定情報モデルの応用スキーマ	307
4.10.1	都市計画決定情報モデルのLOD	307
4.10.2	都市計画決定情報モデルの応用スキーマクラス図	308

4.10.3	都市計画決定情報モデルの応用スキーマ文書	332
4.10.4	都市計画決定情報モデルで使用するコードリストと列挙型	677
4.11	橋梁モデルの応用スキーマ	694
4.12	トンネルモデルの応用スキーマ	694
4.13	その他の構造物モデルの応用スキーマ	694
4.14	都市設備モデルの応用スキーマ	694
4.15	地下埋設物モデルの応用スキーマ	694
4.16	地下街モデルの応用スキーマ	695
4.17	植生モデルの応用スキーマ	695
4.18	地形モデルの応用スキーマ	695
4.18.1	地形のLOD	695
4.18.2	地形モデルの応用スキーマクラス図	702
4.18.3	地形モデルの応用スキーマ文書	703
4.18.4	地形モデルで使用するコードリストと列挙型	715
4.19	水部モデルの応用スキーマ	718
4.20	区域モデルの応用スキーマ	719
4.21	汎用都市オブジェクトモデルの応用スキーマ	719
4.22	アピアランスモデルの応用スキーマ	719
4.22.1	アピアランスモデルのLOD	719
4.22.2	アピアランスモデルの応用スキーマクラス図	719
4.22.3	アピアランスモデルの応用スキーマ文書	720
4.22.4	アピアランスモデルで使用するコードリストと列挙型	724
4.23	ポイントクラウドモデルの応用スキーマ	724
4.24	都市オブジェクトグループモデルの応用スキーマ	724
4.25	公共測量標準図式の応用スキーマ	725
4.25.1	公共測量標準図式のLOD	725
4.25.2	公共測量標準図式の応用スキーマクラス図	726
4.25.3	公共測量標準図式の応用スキーマ文書	726
4.25.4	公共測量標準図式で使用するコードリストと列挙型	730
4.26	施設管理の応用スキーマ	738
4.27	データ集合の応用スキーマ	738
4.27.1	データ集合のLOD	738
4.27.2	データ集合の応用スキーマクラス図	739
4.27.3	データ集合の応用スキーマ文書	740
4.27.4	データ集合で使用するコードリストと列挙型	741
4.28	空間スキーマプロファイル	741
4.28.1	クラス図	741
4.28.2	スキーマ文書	743
5	参照系	749
5.1	空間参照系	749
5.2	時間参照系	749
6	データ品質	750
6.1	標準製品仕様の品質要求	750
6.2	品質評価手順に関する共通事項	750
6.3	品質要求及び品質評価手順	751
6.3.1	完全性	751
6.3.2	論理一貫性	756
6.3.3	位置正確度	767
6.3.4	時間正確度	772

6.3.5 主題正確度.....	772
6.4 本製品仕様書で追加した品質要求及び評価手順.....	773
なし	773
7 データ製品配布.....	775
7.1 配布書式情報.....	775
7.1.1 書式名称.....	775
7.1.2 符号化仕様.....	775
7.1.3 文字集合.....	777
7.1.4 言語.....	777
7.2 配布媒体情報.....	777
7.2.1 ファイル単位.....	777
7.2.2 境界線上の地物の取り扱い.....	779
7.2.3 ファイル名称.....	779
7.2.4 フォルダ構成とフォルダ名称.....	782
7.2.5 成果品の単位と空間範囲.....	786
7.2.6 媒体名.....	787
7.2.7 オープンデータのための配布媒体情報.....	788
8 メタデータ.....	789
8.1 メタデータの形式.....	789
8.2 メタデータの記載項目.....	789
8.3 メタデータの作成単位.....	791
8.4 メタデータのファイル名称.....	792
8.5 原典資料リストの仕様.....	792
8.5.1 原典資料リストの記載項目.....	792
8.5.2 原典資料リストの作成単位.....	793
8.5.3 原典資料リストのファイル仕様.....	793
8.5.4 原典資料リストのファイル名称.....	794
8.6 READMEの仕様.....	794
8.6.1 形式.....	794
8.6.2 ファイル名.....	794
8.6.3 記載項目.....	794
8.6.4 作成単位.....	796
8.6.5 テンプレート.....	796
8.7 索引図の仕様.....	796
9 その他.....	798
9.1 データ取得.....	798
9.2 製品仕様のプロファイル.....	798
9.2.1 拡張規則.....	798
9.2.2 制限規則.....	800
9.3 XMLSchemaの多重度と運用上の多重度についての留意事項.....	800
9.4 テクスチャのための標準製品仕様.....	800
9.4.1 画像の仕様.....	800
9.4.2 テクスチャの実装仕様.....	801
9.5 三次元点群データのための標準製品仕様.....	801
9.6 データ利用時の留意事項.....	801
9.6.1 XMLSchemaタグの日本語表記.....	801
9.6.2 不明な値の表記.....	801
9.7 品質評価ツール.....	802
9.8 地下埋設物における特記事項.....	803

9.8.1 空間参照系.....	803
9.8.2 ファイル単位	804
9.8.3 境界線上の地物の取り扱い	804
9.8.4 ファイル名称	804
9.8.5 繰り返しオブジェクト（Implicit Geometry）	806
参考文献.....	809

1 概 覧

1.1 製品仕様の作成情報

製品仕様の題名	奈良県三郷町3D都市モデル拡張製品仕様書
製品仕様の版	第1.0版
日付	2026-03-05
作成者	奈良県三郷町
言語	日本語
分野	都市
文書書式	PDF

1.2 目的

「奈良県三郷町3D都市モデル拡張製品仕様書」（以下、「本製品仕様書」と呼ぶ）は、奈良県三郷町における3D都市モデルの作成を目的とする。

本製品仕様書では、以下に示すユースケースに3D都市モデルが使用されることを想定し、その製品仕様を定めている。

- 都市に関わる様々な地理空間データを格納する基盤（オープンデータ化を含む）
- 3次元空間における都市計画決定情報の可視化
- 災害リスク情報の3次元可視化

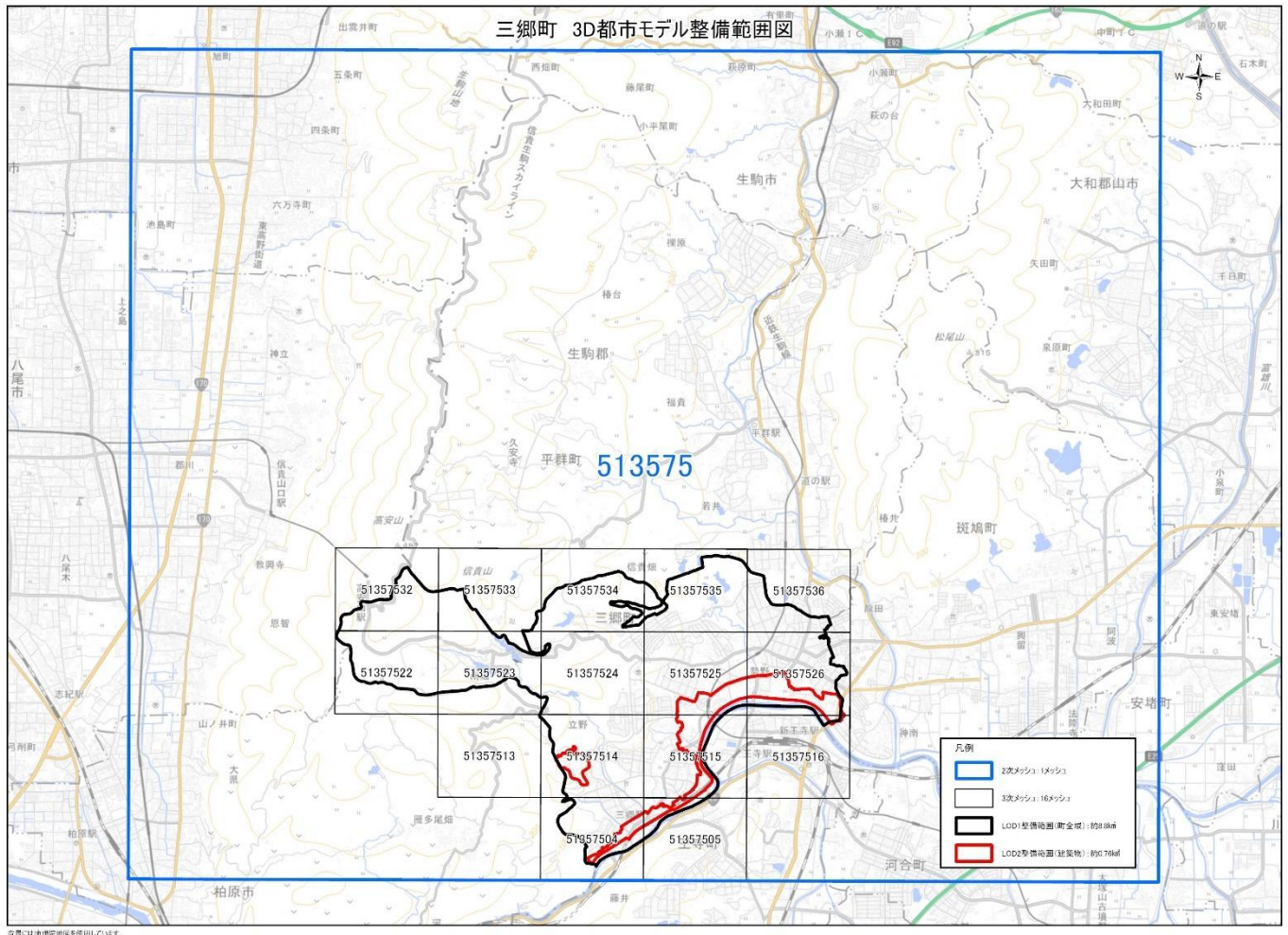
本製品仕様書が規定する奈良県三郷町における 3D 都市モデルの製品仕様は、国土交通省都市局が作成した 3D 都市モデル標準製品仕様書 5.0 版 (<https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/>)（以下、「標準製品仕様書」と呼ぶ）に基づく。

1.3 製品の範囲

本製品仕様書に基づくデータ製品の空間範囲は、奈良県三郷町とする。

なお、行政界を跨ぐ全ての地物を本データ製品に含む。

本製品仕様書に基づくデータ製品の時間範囲は任意であり、特に定めない。



1.4 引用規格等

本書が引用する規格・仕様・マニュアルを以下に示す。3D都市モデルの整備に際しては、これらの文献を理解することが前提となる。

引用文献のうちで、版の記載があるものは、その版を適用し、その後の改訂版（追補を含む）は適用しない。版の記載がないものは、その最新版（追補を含む）を適用する。

三郷町公共測量作業規程

PLATEAU Handbook #03, 国土交通省都市局. 3D都市モデル整備のためのBIM活用マニュアル. Version 第3.0版. 国土交通省. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/>

ISO 19106:2004, Geographic information—Profiles

ISO/IEC 19501:2005 / iso-reference ISO/IEC 19501:2005(E) / URN urn:iso:std:iso-iec:19501:stage-90.60, Information technology—Open Distributed Processing—Unified Modeling Language (UML) Version 1.4.2

JPGIS 品質の要求, 評価及び報告のための規則, 国土交通省国土地理院. 品質の要求, 評価及び報告のための規則. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-downloads.html>

作業規程の準則について, 国土交通省国土地理院. 作業規程の準則. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/gijyutukanri/gijyutukanri41018.html>

河川基盤地図ガイドライン (案), 国土交通省都市局. 河川基盤地図. Version 第2.1版. 入手先: https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kasen/gis/pdf_docs/chizu/kiban_chizu.pdf

道路基盤地図情報 (整備促進版) 製品仕様書 (案), 国土交通省国土技術政策総合研究所. 道路基盤地図情報

報. 入手先: <https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryounn/tnn0848pdf/ks084811.pdf>

都市計画データ標準製品仕様書, 国土交通省都市局. 都市計画データ標準製品仕様書. 入手先: https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000187.html

電子国土基本図地図情報ファイル仕様書, 国土交通省国土地理院. 電子国土基本図地図. Version 第1.1版. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/common/000189294.pdf>

高潮浸水想定区域図作成の手引き, 国土交通省国土地理院. 高潮浸水想定区域. Version 第2.11版. 入手先: https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kaigan/takashioshinsui_manual.pdf

JPGIS 解説書 1.0, 国土交通省国土地理院. 地理情報標準プロファイル (JPGIS) Ver. 1.0 解説書. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-rh.html>

IFC2x3 CV2.0, buildingSMART International. IFC 2×3 Coordination View 2.0. 入手先: <https://standards.buildingsmart.org/IFC/RELEASE/IFC2x3/FINAL/HTML/>

JMP 2.0, 国土交通省国土地理院. JMP 2.0仕様書. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-downloads.html>

3次元屋内地理空間情報データ仕様書 (案), 国土交通省国土地理院. 3次元屋内地理空間情報データ仕様書. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/common/000212582.pdf>

i-Construction推進のための3次元数値地形図データ作成マニュアル, 国土交通省国土地理院. i-Construction 推進. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/gijyutukanri/gijyutukanri41029.html>

i-UR 3.2, 内閣府地方創生推進事務局. Data Encoding Specification of i-Urban Revitalization -Urban Planning ADE- ver.3.2. 入手先: <https://www.chisou.go.jp/tiiki/toshisaisei/itoshisaisei/iur/index.html>

JPGIS 2014, 国土交通省国土地理院. 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 2014. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-downloads.html>

地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書 (案), 国土交通省国土地理院. 地図情報レベル 2500数値地形図データ標準製品仕様書. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/common/000259076.pdf>

OGC 12-019, Gerhard Gröger, Thomas H. Kolbe, Claus Nagel, Karl-Heinz Häfele. OGC City Geography Markup Language (CityGML) Encoding Standard. Open Geospatial Consortium. 入手先: <https://www.ogc.org/standards/citygml>

OGC 05-099r2, Arliss Whiteside. GML 3.1.1 simple dictionary profile. Version 2. Open Geospatial Consortium. 入手先: <https://www.ogc.org/standards/gml>

PLATEAU Handbook #03-1, 国土交通省都市局. 3D都市モデル整備のためのBIM活用マニュアル (第3.0版) (別冊) 3D都市モデルとの連携のためのBIMモデルIDM・MVD. Version 第2.0版. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/>

1.5 用語と定義

標準製品仕様書で使用する用語を示す。以下に記載のない用語とその定義については、JPGIS 2014付属書5 (規定) 定義に従う。

1.5.1

3D都市モデル

都市空間の地物及び属性を都市スケールで3次的に再現したCityGML形式のデータ。

1.5.2

BIM (Building Information Modeling)

コンピュータ上に作成した主に三次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等、建築物の属性情報を併せ持つ建築物情報モデルを構築するもの。

[出典: PLATEAU Handbook #03-1]

1.5.3

BIM モデル

コンピュータ上に作成した三次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等の建築物の属性情報を併せ持つ建築物情報モデル。

[出典： PLATEAU Handbook #03-1]

1.5.4

IFC (Industry Foundation Classes)

buildingSMART International(以降bSI)が策定した三次元モデルデータ形式。

2013年にはISO 16739:2013:Ver.4.0.0.0(IFC4)として、国際標準として承認されている。

2018年に改訂され、ISO 16739-1:2018:Ver.4.0.2.1(IFC4 ADD2 TC1)が最新である。当初は、建築分野でのデータ交換を対象にしていたが、2013年にはbSI内にInfrastructure Roomが設置され、土木分野を対象にした検討が進められている。

[出典： PLATEAU Handbook #03-1]

1.5.5

Levels Of Detail (LOD)

詳細さの度合い（詳細度）であり、CityGMLにおいて定義されている一つのオブジェクトの幾何を、その利用や可視化の目的に応じて、複数の段階に抽象化することを可能とする、マルチスケールなモデリングの仕組みである。

[出典： OGC 12-019]

1.5.6

応用スキーマ

一つ又は複数の応用システムによって要求されるデータのための概念スキーマ。

[出典： JPGIS 2014]

1.5.7

数値地形図

都市、河川、道路、ダム等の計画、管理及び土木工事のために使用できる位置精度を有した地理空間情報及び数値地形図。

[出典: 付録 7 公共測量標準図式]

1.5.8

地物

現実世界の現象の抽象概念。

地物は型又はインスタンスとして存在できる。地物型又は地物インスタンスはいずれか一方を意味する場合に用いるべきである。

[出典： JPGIS 2014]

1.5.9

地物属性

地物の特性。

[出典： JPGIS 2014]

1.5.10

地物関連

地物間の関係。

[出典： JPGIS 2014]

1.5.11

関連役割

関連において相手の地物に対する自分の役割を指す。

[出典：JPGIS 解説書 1.0]

1.5.12

プロファイル

1つ以上の基本規格のセット又は基本規格のサブセット及び該当する場合には特定の機能を達成するために必要なそれらの基本規格から選択された条項、クラス、オプション及びパラメータの識別。

注 標準製品仕様書は、i-UR及びCityGMLから3D都市モデルとして必要な地物型等をi-UR及びCityGMLと矛盾なく抽出した、i-UR及びCityGMLのプロファイルである。また、各都市で作成される拡張製品仕様書も、i-UR及びCityGMLのプロファイルでなくてはならない。

[出典：ISO 19106:2004]

1.6 記号及び略語

BIM	Building Information Modeling
CityGML	City Geography Markup Language
GML	Geography Markup Language
IDM	Information Delivery Manual
IFC	Industry Foundation Classes
i-UR	Data Encoding Specification of i-Urban Revitalization -Urban Planning ADE-
JPGIS	Japan Profile of Geographic Information Standards
LOD	Level Of Detail
MMS	Mobile Mapping System
MVD	Model View Definition
UML	Unified Modeling Language

なお、標準製品仕様書で使用する以下の略語は、特段の記載がない場合にはそれぞれ下表に示す版を指す。

表1-1 — 略語に使用する版

略語	使用する版	備考
CityGML	CityGML2.0	
GML	GML3.1.1	ISO19136に対応するGMLの版はGML3.2.1であるが、CityGML2.0が参照するGMLの版は、GML3.1.1である。そのため、GML3.2.1と矛盾のない範囲でGML3.1.1を使用する。
i-UR	i-UR3.2	

2 適用範囲

標準製品仕様書が適用される範囲の名称は「奈良県三郷町3D都市モデル標準製品仕様書適用範囲」とし、適用される範囲は「データ集合系列」とする。

3 データ製品識別

3.1 データ製品の名称

データ製品の名称は、「3D都市モデル_29343_city_2025」とする。

3.2 データ製品の日付

2026年3月5日

3.3 データ製品の問合せ先

電話番号：0745-43-7326

FAX：0745-73-6334

Email：toshikensetsu@town.sango.lg.jp

3.4 データ製品の地理記述

奈良県三郷町

4 データの内容及び構造

4.1 はじめに

4.1.1 標準製品仕様書が対象とする地物とLOD

CityGMLには、LOD0からLOD4までの五つのLODの段階が用意されている。標準製品仕様書では、地物型ごとに、対象とするLOD、各LODにおける都市オブジェクトの幾何の表現及び使用可能な地物型を定めている。

標準製品仕様書で定める地物型とその地物型が対象とするLODを表4-1に示す。

表4-1 — 標準製品仕様書が対象とするLOD

LOD	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	LOD4
建築物	○	○	○		
交通（道路）		○			
交通（徒歩道）					
交通（広場）					
交通（鉄道）					
交通（航路）					
都市計画決定情報		○			
土地利用		○			
災害リスク		○			
都市設備					
植生					
水部					
地形		○			
橋梁					
トンネル					
その他の構造物					
地下街					
地下埋設物					
区域					
汎用都市オブジェクト					

本製品仕様書に従い作成される3D都市モデルに含むべき地物とその属性等の一覧を「取得項目一覧」に示す。

説明	拡張製品仕様書対象				拡張製品仕様書の対象とすべき主題属性		
	作成対象	追加対象	コード拡張	備考	●：データ作成上必須 ○：原則として入力 空欄：必要に応じ入力 ※子となる属性は親となる属性を作成する場合にのみ作成する。	不明な場合に不明値を入力する。	想定されるデータソース
建築物	○						
名称	○				○		(公共施設) 国土数値情報「公共施設」
データ作成日	○				●	○	
区分	○				○	○	数値地形図(地図情報レベル2500)、基盤地図情報
用途	○				○	○	都市計画基礎調査、家屋現況図、建築計画概要書
計測高さ	○				○	○	DSM (Digital Surface Model)
地上階数	○				○	○	都市計画基礎調査、家屋現況図、建築計画概要書
lod0屋根面	○						
lod1立体	○						
lod2立体	○						
データ品質属性	○				●(bldg:BuildingPartにない場合)	○	
LOD0幾何オブジェクト原典資料	○					○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○				●	○	
LOD2幾何オブジェクト原典資料	○					○	
主題属性原典資料	○					○	
LOD0アビタランス原典資料	○					○	
LOD1アビタランス原典資料	○					○	
LOD2アビタランス原典資料	○					○	
詳細LOD	○						
LOD1の立ち上げに使用する高さ	○				●	○	
公共測量品質属性	○						
LOD0地図情報レベル	○						
LOD1地図情報レベル	○						
LOD2地図情報レベル	○						
LOD0公共測量成果種類	○						
LOD1公共測量成果種類	○						
LOD2公共測量成果種類	○						
洪水浸水リスク	○				○		
指定河川名称	○		○	RiverFloodingRiskAttribute_description.xml	●		洪水浸水想定区域図、国土数値情報(洪水浸水想定区域データ)
浸水ランク	○				○		洪水浸水想定区域図、国土数値情報(洪水浸水想定区域データ)
浸水深	○				○		洪水浸水想定区域図、国土数値情報(洪水浸水想定区域データ)
指定機関区分	○				●		洪水浸水想定区域図、国土数値情報(洪水浸水想定区域データ)
浸水規模	○				●		洪水浸水想定区域図、国土数値情報(洪水浸水想定区域データ)
継続時間	○				○		洪水浸水想定区域図、国土数値情報(洪水浸水想定区域データ)
土砂災害リスク	○				○		
現象区分	○				●		土砂災害警戒区域、国土数値情報(土砂災害警戒区域データ)
区域区分	○				●		土砂災害警戒区域、国土数値情報(土砂災害警戒区域データ)
建物利用現況	○				○	○	
敷地面積	○				○	○	都市計画基礎調査、家屋現況図、建築計画概要書
延床面積	○				○	○	都市計画基礎調査、家屋現況図、建築計画概要書

説明	拡張製品仕様書対象				拡張製品仕様書の対象とすべき主題属性		
	作成対象	追加対象	コード拡張	備考	●：データ作成上必須 ○：原則として入力 空欄：必要に応じ入力 ※子となる属性は親となる属性を作成する場合にのみ作成する。	不明な場合に不明値を入力する。	想定されるデータソース
建築面積	○				○	○	都市計画基礎調査、家屋現況図、建築計画概要書
構造種別	○				○	○	都市計画基礎調査、家屋現況図、建築計画概要書
都市計画区域	○		○		○	○	都市計画基礎調査、建築計画概要書、都市計画決定図書
区域区分	○		○		○	○	都市計画基礎調査、建築計画概要書、都市計画決定図書
地域地区	○		○		○	○	都市計画基礎調査、都市計画決定図書
建物利用現況（中分類）	○		○	BuildingDetailAttribute_orgUsage.xml		○	都市計画基礎調査
建物利用現況（小分類）	○		○	BuildingDetailAttribute_orgUsage2.xml		○	都市計画基礎調査
調査年	○				●	○	都市計画基礎調査
建物識別情報	○				●	○	
建物ID	○				●	○	（建築物毎に固有の識別子を作成する）
都道府県	○				○	○	都市計画基礎調査、家屋現況図、建築計画概要書
市区町村	○				●	○	都市計画基礎調査、家屋現況図、建築計画概要書
屋根面	○						
lod2面	○						
外壁面	○						
lod2面	○						
底面	○						
lod2面	○						
土地利用	○						
データ作成日	○				●	○	
土地利用区分	○				○	○	都市計画基礎調査
lod1幾何	○						
土地利用詳細属性	○				○	○	
土地利用区分（独自分類）	○		○	LandUseDetailAttribute_orgLandUse.xml	○	○	都市計画基礎調査
都市計画区域	○		○		○	○	都市計画基礎調査
区域区分	○		○		○	○	都市計画基礎調査
都道府県	○				○	○	都市計画基礎調査
市区町村	○				●	○	都市計画基礎調査
調査年	○				●	○	都市計画基礎調査
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○					○	
主題属性原典資料	○					○	
道路	○						
データ作成日	○				●	○	
分類	○				○	○	（固定値）
lod1面	○						
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○				●	○	
主題属性原典資料	○					○	
公共測量品質属性	○						
LOD1地図情報レベル	○						
LOD1公共測量成果種類	○						
道路構造	○				○	○	

説明	拡張製品仕様書対象				拡張製品仕様書の対象とすべき主題属性		
	作成対象	追加対象	コード拡張	備考	●：データ作成上必須 ○：原則として入力 空欄：必要に応じ入力 ※子となる属性は親となる属性を作成する場合にのみ作成する。	不明な場合に不明値を入力する。	想定されるデータソース
区間種別	○				○	○	デジタル道路地図
洪水浸水想定区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域	○						
名称	○				●	○	洪水浸水想定区域図、津波浸水想定、高潮浸水想定区域図、内水浸水想定区域図
データ作成日	○				●	○	
分類	○				○	○	(固定値)
機能	○				●	○	洪水浸水想定区域図、津波浸水想定、高潮浸水想定区域図、内水浸水想定区域図
洪水浸水想定区域	○						
指定河川名称	○		○	RiverFloodingRiskAttribute_description.xml	●		洪水浸水想定区域図、国土数値情報（洪水浸水想定区域データ）
浸水ランク	○				●		洪水浸水想定区域図、国土数値情報（洪水浸水想定区域データ）
指定機関	○				●		洪水浸水想定区域図、国土数値情報（洪水浸水想定区域データ）
規模	○				●		洪水浸水想定区域図、国土数値情報（洪水浸水想定区域データ）
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○				●	○	
主題属性原典資料	○					○	
土砂災害警戒区域	○						
データ作成日	○				●	○	
効力を生じる日	○				○	○	土砂災害警戒区域、国土数値情報（土砂災害警戒区域データ）
都道府県名	○				●	○	土砂災害警戒区域、国土数値情報（土砂災害警戒区域データ）
市区町村名	○					○	
LOD1面（区域）	○						
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○				●	○	
主題属性原典資料	○					○	
災害種別	○				●	○	土砂災害警戒区域、国土数値情報（土砂災害警戒区域データ）
区域区分	○				●	○	土砂災害警戒区域、国土数値情報（土砂災害警戒区域データ）
区域番号	○				●	○	土砂災害警戒区域、国土数値情報（土砂災害警戒区域データ）
区域名	○				●	○	土砂災害警戒区域、国土数値情報（土砂災害警戒区域データ）
都市計画区域	○						
名称	○				●	○	都市計画決定図書
データ作成日	○				●	○	
区域の種類	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日の区分	○				●	○	都市計画決定図書
決定者	○				●	○	都市計画決定図書
告示番号（当初）	○				●	○	都市計画決定図書
告示日（最終）	○				●	○	
告示番号（最終）	○				●	○	
都道府県名	○				○	○	都市計画決定図書
市区町村名	○				○	○	都市計画決定図書
LOD1面（区域）	○						

説明	拡張製品仕様書対象				拡張製品仕様書の対象とすべき主題属性		
	作成対象	追加対象	コード拡張	備考	●：データ作成上必須 ○：原則として入力 空欄：必要に応じ入力 ※子となる属性は親となる属性を作成する場合にのみ作成する。	不明な場合に不明値を入力する。	想定されるデータソース
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○				●	○	
主題属性原典資料	○					○	
区域区分の決定の有無	○				●	○	都市計画決定図書
区域区分を決定する理由又はしない理由	○				●	○	都市計画決定図書
区域区分	○						
データ作成日	○				●	○	
区域の種類	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日の区分	○				●	○	都市計画決定図書
決定者	○				●	○	都市計画決定図書
告示番号（当初）	○				●	○	都市計画決定図書
告示日（最終）	○				●	○	
告示番号（最終）	○				●	○	
都市計画区域	○		○		○	○	都市計画決定図書
都道府県名	○				○	○	都市計画決定図書
市区町村名	○				○	○	都市計画決定図書
LOD1面（区域）	○						
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○					○	
主題属性原典資料	○					○	
用途地域	○						
データ作成日	○				●	○	
用途地域の種類	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日の区分	○				●	○	都市計画決定図書
決定者	○				●	○	都市計画決定図書
告示番号（当初）	○				●	○	都市計画決定図書
告示日（最終）	○				●	○	都市計画決定図書
告示番号（最終）	○				●	○	都市計画決定図書
都道府県名	○				○	○	都市計画決定図書
市区町村名	○				○	○	都市計画決定図書
LOD1面（区域）	○						
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○					○	
主題属性原典資料	○					○	
容積率	○				●	○	都市計画決定図書
高度地区	○						
データ作成日	○				●	○	
地域地区の種類	○		○		●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日の区分	○				●	○	都市計画決定図書
決定者	○				●	○	都市計画決定図書

説明	拡張製品仕様書対象				拡張製品仕様書の対象とすべき主題属性		
	作成 対象	追加 対象	コード 拡張	備考	●：データ作成上必須 ○：原則として入力 空欄：必要に応じ入力 ※子となる属性は親となる属性を作成する場合にのみ作成する。	不明な場合に不明値を入力する。	想定されるデータソース
告示番号（当初）	○				●	○	都市計画決定図書
告示日（最終）	○				●	○	都市計画決定図書
告示番号（最終）	○				●	○	都市計画決定図書
都道府県名	○				○	○	都市計画決定図書
市区町村名	○				○	○	都市計画決定図書
LOD1面（区域）	○						
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○					○	
主題属性原典資料	○					○	
高さの最高限度	○				○		都市計画決定図書
市街地開発事業	○						
名称	○				●	○	都市計画決定図書
データ作成日	○				●	○	
市街地開発事業の種類	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日	○				●	○	都市計画決定図書
効力を生じる日の区分	○				●	○	都市計画決定図書
決定者	○				●	○	都市計画決定図書
告示番号（当初）	○				●	○	都市計画決定図書
告示日（最終）	○				●	○	都市計画決定図書
告示番号（最終）	○				●	○	都市計画決定図書
都市計画区域	○		○			○	
区域区分	○		○			○	
面積	○				○	○	都市計画決定図書
都道府県名	○				○	○	都市計画決定図書
市区町村名	○				○	○	都市計画決定図書
LOD1面（区域）	○						
データ品質属性	○				●	○	
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○					○	
主題属性原典資料	○					○	
アビタランス	○						
主題	○					○	
テキスト画像又は色等の設定への参照	○						
テキスト	○						
テキスト画像URI	○					○	
画像フォーマット	○					○	
対象ジオメトリ	○						
テキスト座標	○						
	○				●（テキストを使用する場合は、いずれか1つ以上）		
地形	○						
名称	○				○	○	標準地域メッシュコード
データ作成日	○				●	○	
lod	○				●	○	（原則として1となる。原典データの品質により1～3のいずれかを入力する）
データ品質属性	○				●	○	

説明	拡張製品仕様書対象				拡張製品仕様書の対象とすべき主題属性		
	作成対象	追加対象	コード拡張	備考	●：データ作成上必須 ○：原則として入力 空欄：必要に応じ入力 ※子となる属性は親となる属性を作成する場合にのみ作成する。	不明な場合に不明値を入力する。	想定されるデータソース
LOD1幾何オブジェクト原典資料	○					○	
主題属性原典資料	○					○	
公共測量品質属性	○						
LOD1地図情報レベル	○						
LOD1公共測量成果種類	○						
TIN地形	○						
名称	○				○	○	標準地域メッシュコード
データ作成日	○					○	
lod	○				●	○	（原則として1となる。原典データの品質により1～3のいずれかを入力する）
TIN	○						

4.1.2 3D都市モデル応用スキーマパッケージ図

4.1.2.1 3D都市モデル応用スキーマとCityGML及びi-URとの関係

3D都市モデル応用スキーマは、CityGML及びi-URを引用する。さらに、CityGMLはGMLを引用し、i-URはCityGML及びGMLを引用している。

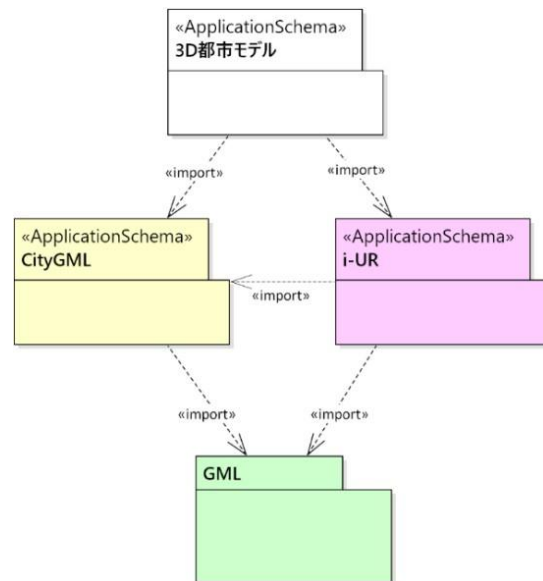


図4-1

4.1.2.2 3D都市モデル応用スキーマ

3D都市モデル応用スキーマは、これに含まれる地物型に応じて分けられた、20個のパッケージから構成する。



図4-2

各パッケージは、CityGML及びi-URに定義されたパッケージを引用する（表4-2）。

表4-2 ー 3D都市モデルが引用するCityGML及びi-URのパッケージ

モデル	GML	CityGML													i-UR	
		Core	Appearance	Bridge	Building	CityFurniture	City Object Group	Generic	LandUse	Relief	Transportation	Tunnel	Vegetation	Water Body	Urban Object	Urban Function
建築物	✓	✓	*1		✓		*3	*2							✓	
交通（道路）	✓	✓	*1					*2			✓				✓	
交通（鉄道）	✓	✓	*1					*2			✓				✓	
交通（徒歩道）	✓	✓	*1					*2			✓				✓	
交通（広場）	✓	✓	*1					*2			✓				✓	
交通（航路）	✓	✓	*1					*2			✓				✓	
土地利用	✓	✓						*2	✓						✓	
災害リスク	✓	✓						*2						✓	✓	✓
都市計画決定情報	✓	✓					*4	*2								✓
橋梁	✓	✓	*1	✓				*2							✓	
トンネル	✓	✓	*1					*2				✓			✓	
その他の構造物	✓	✓	*1					*2							✓	
都市設備	✓	✓	*1			✓		*2							✓	
地下埋設物	✓	✓	*1			✓		*2							✓	
地下街	✓	✓	*1		✓			*2							✓	
植生	✓	✓	*1					*2					✓		✓	
水部																
地形	✓	✓						*2		✓					✓	
区域	✓	✓						*2								✓

汎用都市オブジェクト	✓	✓						✓							
記号説明 *1 ：テクスチャ画像の貼付けや表示色の設定を行う場合に引用する。 *2 ：CityGMLやi-URにない地物型や属性を追加する場合に引用する。 *3 ：建築物の「階」を表現する場合に引用する。 *4 ：複数の都市計画決定情報をグループ化する場合に引用する。															

4.1.3 応用スキーマクラス図の記法


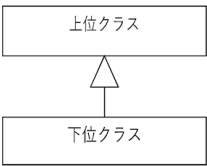
3D都市モデルに必要な地物の概念構造を記述した応用スキーマ（以下、「3D都市モデル応用スキーマ」と呼ぶ）は、同じく応用スキーマであるi-UR及びCityGMLから、標準製品仕様書に設定したユースケースに必要な地物型、地物属性及び地物関連を抽出したプロファイルとして構成する。そのため、応用スキーマクラス図では、それぞれの出典を明らかにするため、以下の記法を用いる。


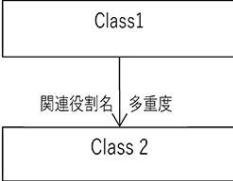
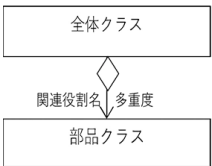
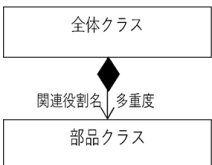
表4-3 ー 応用スキーマクラス図における出典の明示

出典	地物型
GML	接頭辞：gml 色：緑 rgb(204, 255,204)
CityGML	接頭辞：core, bldg, luse, tran, brid, tun, frn, veg, wtr, dem 色：黄 rgb(255, 255,204)
i-UR	接頭辞：uro, urf 色：赤 rgb(255, 204, 255)

応用スキーマクラス図は、UMLクラス図(ISO/IEC 19501:2005, Information technology — Open Distributed Processing — Unified Modeling Language (UML) Version1.4.2)に定められた記法に基づき、JPGISにおいて応用スキーマクラス図を記述するために抽出された記法により記述する。応用スキーマクラス図の記述に使用する記法を表4-4に示す。

表4-4 ー 応用スキーマクラス図の表記

表記	意味												
 <pre> classDiagram class "Class" { <<stereotype>> 接頭辞::クラス名 +属性名 :xs:integer[0..1] } </pre>	<p>クラス。</p> <p>クラスは3段の箱により記述する。</p> <p>1段目の箱には、ステレオタイプ（クラスの種類）とクラス名を記述する。クラス名には、表4-3に示す接頭辞を付ける。</p> <p>2段目の箱には、クラスの属性を記述する。</p> <p>3段目の箱は使用しない。</p> <p>クラスの属性は、属性名、属性の型、属性の多重度から構成する。</p> <p>属性の型は、属性が取る値の種類を指定する。xs:string（文字列型）のような基本的な型やgml:Solidのような幾何型、あるいは、応用スキーマで定義した別のクラスを指定できる。</p> <p>属性の基本的な型は、4.1.5に定義を示す。</p> <p>応用スキーマクラス図では、属性名の前に「+」の記号が表示される。</p> <p>これはUMLクラス図において、他のクラスからその属性を表示し、使用できるかどうか（可視性）を示す。</p> <p>ただし、応用スキーマクラス図では可視性を使用しないため、無視してよい。</p> <p>属性の多重度は、その属性が繰り返し出現可能な回数を指定する。</p> <p>[a..b]のように指定し、a及びbは、$a \leq j \leq b$となる任意の整数jを意味する。[a..a]は、[a]と同じとみなす。以下のような記載方法がある。</p> <table border="1"> <tr> <td>[0..1]</td><td>0又は1</td></tr> <tr> <td>[0..*]</td><td>0 以上</td></tr> <tr> <td>[1..*]</td><td>1 以上</td></tr> <tr> <td>[m]</td><td>m</td></tr> <tr> <td>[m..n]</td><td>m 以上 n以下</td></tr> <tr> <td>[m,n]</td><td>m 又は n</td></tr> </table> <p>なお、属性の多重度を省略することもできる。省略された場合は、1となる。</p>	[0..1]	0又は1	[0..*]	0 以上	[1..*]	1 以上	[m]	m	[m..n]	m 以上 n以下	[m,n]	m 又は n
[0..1]	0又は1												
[0..*]	0 以上												
[1..*]	1 以上												
[m]	m												
[m..n]	m 以上 n以下												
[m,n]	m 又は n												
表記	意味												
 <pre> classDiagram class 上位クラス class 下位クラス 下位クラス -- > 上位クラス </pre>	<p>継承。</p> <p>元となるクラス（上位クラス）の特性を受け継ぐ新しいクラス（下位クラス）との関係を意味する。継承を実装する場合、下位クラスのインスタンス（データ）は、自分自身に定義された属性や関連役割だけではなく、上位クラスに定義された属性や関連役割もつ。</p> <p>△が付く側（Class1）が上位クラスである。</p> <p>なお、後述する関連とは異なり、上位クラスと下位クラスのインスタンスは、互いへの参照はもたない。あくまで、下位クラスのインスタンスが、上位クラスに定義された属性等を記述するデータ構造をもつことだけを意味する。</p>												

 	<p>関連。</p> <p>二つのクラス間に関係性があることを意味する。</p> <p>関連役割名は、この関連における役割を示す。また、関連には多重度を指定できる。多重度は、相手のクラス1に対して関連する自分の数を記載する。</p> <p>多重度の記法は、属性の多重度と同じである。また、多重度が省略された場合は1となる。</p> <p>関連を実装する場合、関連役割名をつけた属性として、他方のクラスのインスタンスへの参照をもたせる。</p> <p>関連には向きをつけることができる。向きは矢印により記述する。関連に向きが付けられた場合、参照は片方向となる。すなわち、例図の場合にはClass1のインスタンスがClass2のインスタンスへの参照ともつが、Class2のインスタンスはClass1のインスタンスへの参照をもたない。</p> <p>CityGMLでは、地物型と幾何型との間に関連が定義されている。これにより、都市オブジェクトは幾何オブジェクトへの参照をもつことができる。例えば、道路型（<code>tran:Road</code>）は空間属性として面型（<code>gml:MultiSurface</code>）と関連をもっている。これにより、道路の形状を面として取得し、道路オブジェクトは幾何オブジェクトとして取得した面を参照できる。</p>
	<p>集成。</p> <p>二つのクラス間に全体と部分という関係がある関連である。全体となるクラス側に白いひし形を記述する。</p> <p>関連役割名は、この関連における役割を示す。また、関連には多重度を指定できる。多重度は、相手のクラス1に対して関連する自分の数を記載する。</p> <p>多重度の記法は、属性の多重度と同じである。また、多重度が省略された場合は1となる。また、向きをつけることができる。</p> <p>集成を実装する場合、関連役割名をつけた属性として他方のクラスのインスタンスへの参照をもたせる、又は部品となるクラスのインスタンスを全体となるクラスのインスタンスの内部に記述する。</p> <p>なお、標準製品仕様書では、集成の実装は、部品となるクラスのインスタンスを、全体となるクラスのインスタンスの内部に記述することを原則とする。部品となるクラスは、他のクラスのインスタンスから参照してもよい。</p> <p>CityGMLでは、<code>uro:Building</code>（建築物）と<code>uro:WallSurface</code>（外壁面）との間に集成関連が定義されている。このとき、建築物が全体となり外壁面はその部品となる。</p>
	<p>合成。</p> <p>二つのクラス間に全体と部分という関係がさらに強固な関連である。全体となるクラス側に黒いひし形を記述する。合成は、全体となるクラスが無くなった場合に、部分となるクラスも無くなる関係に用いる。</p> <p>関連役割名や多重度の表記は、集成と同様である。</p> <p>合成を実装する場合、部品となるクラスのインスタンスを、全体となるクラスのインスタンスの内部に記述する。</p>

また、各クラスのステレオタイプは以下を意味する。

表4-5 ー 応用スキーマクラス図で使用するステレオタイプ

ステレオタイプ	説明
<< FeatureType >>	地物型に適用するステレオタイプ。このステレオタイプをもつクラスは、応用スキーマのパッケージ内で定義される。 [出典：JPGIS 2014]
<< DataType >>	個々のインスタンスを区別する必要がない、値の集合となるクラスに適用するステレオタイプ。個々に区別する必要がないため、識別子をもたない。<< DataType >>のステレオタイプをもつクラスは、データ型と呼ばれ、属性の型として使用される。データ型には、あらかじめ定義された型と使用者が定義できる型とがある。あらかじめ定義された型には、基本データ型がある。 [出典：JPGIS 2014] 標準製品仕様書では、地物属性のまとまりとして定義したクラスに<< DataType >>を使用する。<< DataType >>で定義されたクラスは地物の属性の型もしくは地物の部品（合成関連における部品）として使用される。
<< Type >>	識別子を持ち、他と区別することができるオブジェクトに適用するステレオタイプ。識別子をもつため、他から参照することができる。 [出典：JPGIS 2014] 標準製品仕様書では、GMLやCityGMLで定義された地物以外の型のうち、識別子（gml:id）をもつ型（例：幾何オブジェクト）に<< Type >>を使用する。
<< BasicType >>	値を表現するための基本的なデータ型。 [出典：JPGIS 2014] データ型のうち、あらかじめ定義された、基本データ型のことである。 標準製品仕様書では、GMLやCityGMLにおいて定義された、文字列型や整数型等の基本的な型から使用可能な値の範囲を狭めたデータ型に BasicType >>を使用する。
<< Enumeration >>	文字列型や整数型などの基本データ型を制限し、取りうる値のみを列挙したリストとなるクラスに適用するステレオタイプ。 [出典：JPGIS 2014] 標準製品仕様書では、地物属性の定義域が固定となる場合に、定義域に含まれる値を列挙した型に<< Enumeration >>を使用する。 なお、 Enumeration >>は定義域が固定されるため、拡張製品仕様書において定義域が拡張される可能性のある場合には Enumeration >>は使用せず、コードリスト（gml:CodeType）を使用する。
<< Union >>	指定したいいくつかの型のうちの一つだけが選択される共用体に適用するステレオタイプ。 [出典：JPGIS 2014] 標準製品仕様書では、複数の属性のうち、いずれか一つを選択して値を記述したい場合に、複数の属性を列挙した型に<< Union >>を使用する。

4.1.4 応用スキーマ文書の読み方

応用スキーマ文書では、応用スキーマクラス図に示す各クラスについて、クラスの定義及びクラスがもつ属性及び関連役割の定義を表形式で示す。表に記載する属性名、属性の型及び多重度、また、関連役割、関連役割の型（関連の相手クラス）及び多重度は、クラス図と一致する。

定義列の説明文には、属性や関連役割の定義説明に加え、該当の属性や関連役割が運用上必須であったり、標準製品仕様で使用しない旨の情報も記載する。標準製品仕様書では使用しない属性及び関連役割は、特段の注意書きが無い限り、拡張製品仕様書で使用できる。

なお、応用スキーマ文書では、具象型（インスタンスを作成できる型）のみを示す。抽象型（インスタンスを作成できない型）の定義は省略するが、抽象型から継承する属性や関連役割は、継承する属性又は継承する関連役割として示す。

表4-6 — 定義文書の構成

クラスの定義		クラスの定義を記載。
上位の型		クラスが他のクラスを継承している場合、上位のクラスの名称を記載する。
ステレオタイプ		クラスのステレオタイプを記載する。
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
継承する属性の名称 [継承元のクラス名称]	属性の型と多重度 多重度は以下のように記載する。 [1..1] : 必ず1 [0..1] : 0又は1 [0..*] : 0以上 [1..*] : 1以上	上位クラスに定義され、このクラスが継承する属性の定義。 運用上必須であったり、標準製品仕様で使用しない場合は、説明を記載する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
自身に定義された属性の名称 [自身のクラス名称]	属性の型と多重度	自身に定義された属性の定義。 運用上必須であったり、標準製品仕様で使用しない場合は、説明を記載する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
継承する関連役割の名称 [継承元のクラス名称]	関連の相手クラスと多重度	上位クラスに定義され、このクラスが継承する関連役割の定義。 運用上必須であったり、標準製品仕様で使用しない場合は、説明を記載する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
自分自身に定義された関連役割の名称 [自身のクラス名称]	関連の相手クラスと多重度	関連役割の定義。 運用上必須であったり、標準製品仕様で使用しない場合は、説明を記載する。

継承する属性や、継承する関連役割の表示順は、継承元のクラスごととなる。また、クラス、属性及び関連役割には、それらが定義されたパッケージの接頭辞を付す。

4.1.5 基本的なデータ型

地物属性の型（値の種類）として使用される基本的なデータ型の定義を示す。4.2以降で示す、各応用スキーマにおいて特段記載のない場合には、本項に示す定義及び定義域（属性の値が取りうる範囲）を適用する。

4.1.5.1 文字列型（xs:string）

漢字、平仮名、カタカナ、数字、アルファベット及び記号により構成される任意の文字列に使用する。漢字、平仮名及びカタカナは全角、数字、アルファベット及び記号は半角を基本とする。

ただし、原典資料において半角のカタカナ、全角の数字・アルファベットが使用されており、これとの一致が必要となる場合には、この限りではない。値が不明な場合は「Null」を入力する。

4.1.5.2 コード型 (gml:CodeType)

指定されたコードリストに定義されたコード又は任意の文字列のいずれかの値をとる。

標準製品仕様書では、コードにより記述する場合は、参照すべきコードリストの名称を示す。また、文字列により記述する場合は文字列で入力することを示す。コードにより記述する場合で、値が不明な場合はコードリストに定義された不明を示すコードを選択する。

文字列により記述する場合で、値が不明な場合は文字列で「Null」を入力する。

4.1.5.3 真偽値 (xs:boolean)

true、false又は1、0のいずれかの値をとる。不明な場合はデータを作成しない。

4.1.5.4 日付型 (xs:date)

JIS X0301により定義された暦日付により、拡張形式による完全表記 (YYYY-MM-DD) を用いて記述する。ここで、YYYYは暦年、MMは暦月、DDは暦日を示す。暦年は4桁、暦月は2桁、暦日は2桁の半角数字で記述する (1桁日や1桁月は、01、02のように0を付ける。)

年が分かるが月日が分からない場合は、YYYY-01-01とする。また、年月が分かるが日が分からない場合は、YYYY-MM-01とする。年月日が不明な場合は0001-01-01とする。

4.1.5.5 グレゴリオ年型 (xs:gYear)

グレゴリオ暦による年を4桁の半角数字で記述する。値が不明な場合は0001とする。

4.1.5.6 整数型 (xs:integer)、非負整数型 (xs:nonNegativeInteger)

整数の値を記述する。非負整数型の場合は、正の整数のみを可とする。

整数型の値が不明な場合は-9999とする。非負整数型の値が不明な場合は9999とする。

4.1.5.7 実数型 (xs:double)

計測により新規に取得する場合には、小数点1桁とする (小数点2桁目を四捨五入)。原典資料から取得する場合には、原典資料の記載に一致させる。値が不明な場合は-9999とする。

4.1.5.8 単位付き計測値型 (gml:MeasureType, gml:LengthType)

uom属性を用いて、数値の単位を記載する。原則として、長さの単位はm、面積の単位はm²、時間の単位はhour (時間) とする。

計測により新規に取得する場合には、小数点1桁とする (小数点2桁目を四捨五入)。ただし、原典資料において小数点2桁目以降の記載があり、これとの一致が必要となる場合には、この限りではない。

値が不明な場合は-9999とする。このときの単位は、属性ごとに指定された単位とする。

4.1.5.9 単位付き数値又はNull値リスト型 (gml:MeasureOrNullListType)

単位付き数値又はNull値とする。uom属性を用いて、数値の単位を記載すること。使用する単位は4.1.5.8と同じとする。

Null値は、以下の定義域より選択する。

Null値の定義域	説明
inapplicable	データ無
missing	欠測
template	追って提供
unknown	不明
withheld	保留

4.1.5.10 識別子型 (xs:anyURI)

任意のURI(Universal Resource Identifier)。httpsによる指定を原則とする。値が不明な場合は、「Null」と入力する。

4.1.5.11 エンベロープ型 (gml:Envelope)

任意の次元で対向する角となる一対の位置（最小となる座標値と最大となる座標値）を用いて、矩形により範囲を定義する型。srsName属性とsrsDimension属性をもつことができる。srsName属性は、座標に使用される空間参照系を指定する。また、srsDimension属性は、座標の次元数を指定する。

4.2 建築物モデルの応用スキーマ

建築物は、普通建物、堅ろう建物、普通無壁舎及び堅ろう無壁舎をいう。普通建物とは、3階未満の建物及び3階以上の木造等で建築された建物をいう。堅ろう建物とは、鉄筋コンクリート等で建築された建物で、地上3階以上又は3階相当以上の高さのものやスタンドを備えた競技場をいう。普通無壁舎とは、側壁のない建物、温室及び工場内の建物類似の構築物で、3階未満のものをいう。堅ろう無壁舎とは、鉄筋コンクリート等で建築された側壁のない建物及び建物類似の構築物で、地上3階以上又は3階相当以上の高さのものをいう。

[出典：作業規程の準則付録7 公共測量標準図式]

4.2.1 建築物モデルのLOD

標準製品仕様書が対象とする建築物モデル (bldg:Building) のLODは、LOD0からLOD4までとする。



4.2.1.1 建築物モデル (LOD0)

4.2.1.1.1 建築物モデル (LOD0) の概要

建築物モデル (LOD0) では、建築物の形状を面により表現する。

建築物モデル (LOD0) の取得イメージを表4-7に示す。

表4-7 建築物モデル（LOD0）の取得イメージ

LOD0	
	
RoofEdge	FootPrint

4.2.1.1.2 建築物モデル（LOD0）の定義

建築物モデル（LOD0）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-8

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD0	●	Building	Multi Surface	射影の短辺の実長1m以上	【RoofEdgeの取得方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・建築物の正射影の外周^{a)}を取得する。 ・高さは0とする。 【FootPrintの取得方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・地表面と外壁面との交線を取得する。 ・高さは0とする。 	外周は、屋根の外周（RoofEdge）を原則とするが、地表面と外壁面との交線（FootPrint）で代替できる。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい） 注 ^{a)} 正射影とは、ある図形上の各点から、直線又は平面上に下ろした垂線の足の集まり。LOD0の場合は、上方からの正射影をいう。〔出典：付録7 公共測量標準図式〕						

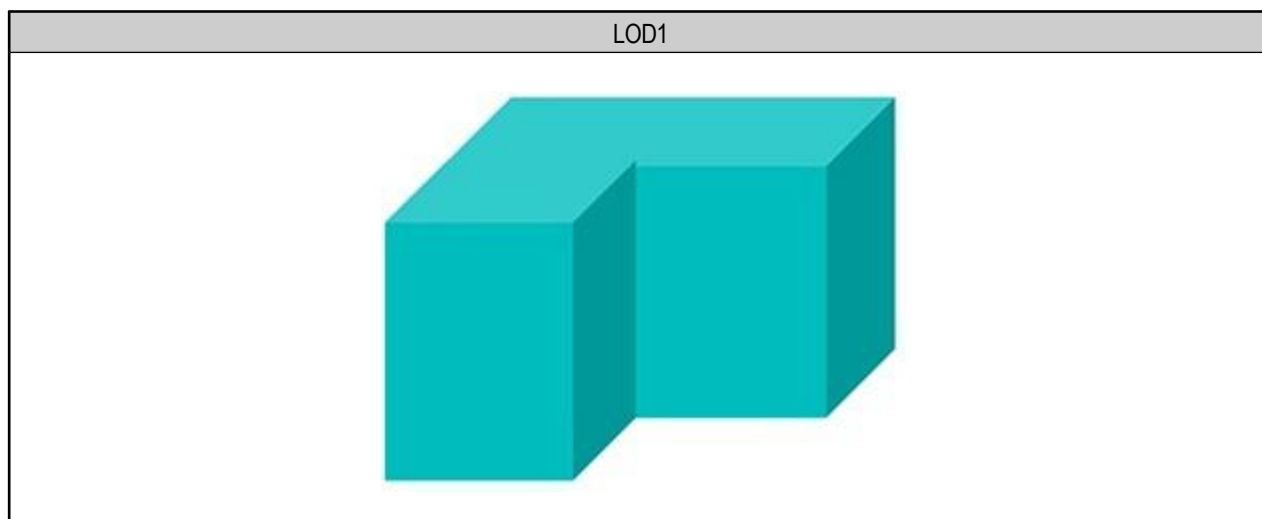
4.2.1.2 建築物モデル（LOD1）

4.2.1.2.1 建築物モデル（LOD1）の概要

建築物モデル（LOD1）では、建築物の形状を、面を一律の高さで上向きに押し出した立体により表現する。

建築物モデル（LOD1）の取得イメージを表4-9に示す。

表4-9 建築物モデル（LOD1）の取得イメージ



4.2.1.2.2 建築物モデル（LOD1）の定義

建築物モデル（LOD1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-10

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD1	●	Building	Solid	射影の短辺の実長1m以上	・ 建築物の上方からの正射影の外周を取得し、地上から一律の高さで上向きに押し出した立体を作成する。	一律の高さは、中央値を原則とする。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.2.1.3 建築物モデル（LOD2）

4.2.1.3.1 建築物モデル（LOD2）の概要

建築物モデル（LOD2）では、建築物の形状を、屋根形状を含む立体として表現し、立体の境界面を、屋根面、外壁面及び底面に区分するとともに、建築物の外側の付属物を区分する。

建築物モデル（LOD2）は、含むべき地物により、LOD2.0、LOD2.1及びLOD2.2に区分する（表4-11）。LOD2.0、LOD2.1及びLOD2.2は、航空写真等上空から取得したデータの利用を前提とした区分であり、屋根形状を含む建築物の上面を詳細化する。

標準製品仕様書は、原則としてLOD2.0を採用する。ただし、ユースケースの必要に応じてLOD2.1又はLOD2.2を採用できる。

表4-11 — LOD2.0,LOD2.1及びLOD2.2の区分

建築物モデル (LOD2) に含むべき地物	対応する City GMLの地物型	LOD2.0	LOD2.1	LOD2.2
建築物	Building	●	●	●
屋根	RoofSurface	● 射影の短辺の実長 3m以上	● 射影の短辺の実長 3m以上 又は射影の短辺の実 長1m以上かつ正射 影の面積3m ² 以上	● 射影の短辺の実長 1m以上 又は正射影の面積 1m ² 以上
底面	GroundSurface	●	●	●
外壁面	WallSurface	●	●	●
建築物部分	BuildingPart	■ 一棟の建築物を主題 属性の異なる複数の 部分に分ける場合に 必須とする。	■ 一棟の建築物を主題 属性の異なる複数の 部分に分ける場合に 必須とする。	■ 一棟の建築物を主題 属性の異なる複数の 部分に分ける場合に 必須とする。
閉鎖面	ClosureSurface	■ BuildingPartを使用す る場合に必須とする	■ BuildingPartを使用す る場合に必須とする	■ BuildingPartを使用す る場合に必須とする
屋外床面	OuterFloorSur- face		○	○
屋外天井面	OuterCeilingSur- face			
屋外付属物 バルコニー、屋外階 段、スロープ、手す り、エレベータ、エス カレータ、庇、アンテ ナ、煙突、看板等	BuildingInstall- ation		● 射影の短辺の実長 3m以上 又は射影の短辺の実 長1m以上かつ正射 影の面積が3m ² 以上	● 射影の短辺の実長 1m以上
記号説明 ● : 必須 ■ : 条件付必須 ○ : 任意 (ユースケースに応じて要否を決定してよい)				

建築物モデル (LOD2) に含むべき地物は、建築物の以下に示す部分をいう。建築物モデル (LOD2) では、屋外天井面を使用しないため、下の階よりも上の階が張り出したような構造は表現されない。

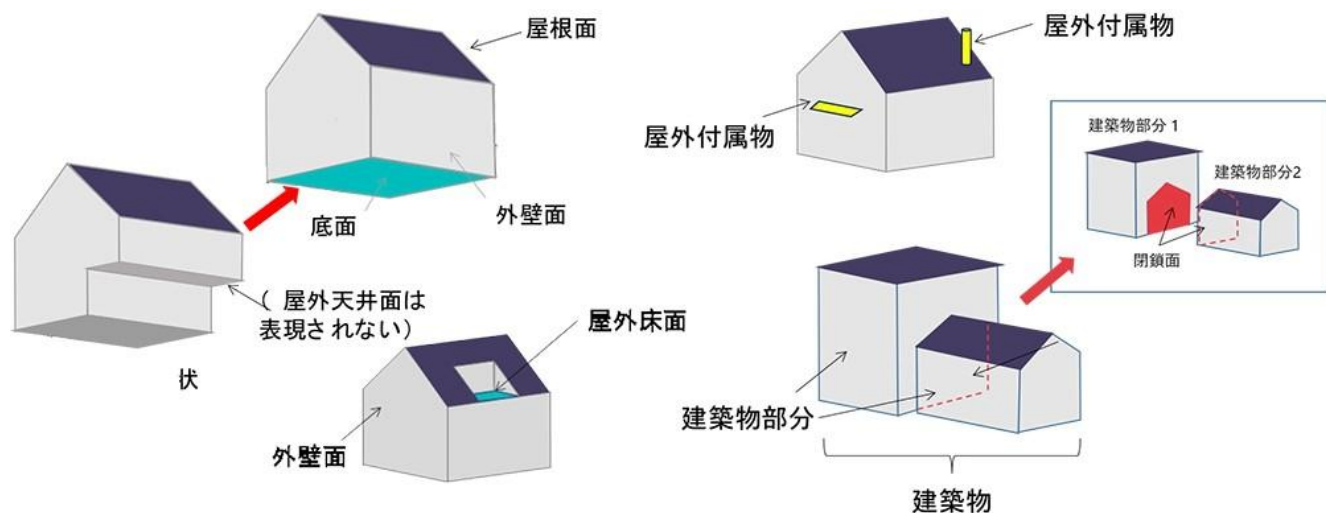


図4-3 建築物モデル（LOD2）に含むべき地物

LOD2.0、LOD2.1及びLOD2.2それぞれの取得イメージを表4-12に示す。

表4-12 建築物モデル（LOD2）の取得例

LOD	LOD2.0	LOD2.1	LOD2.2
取得例			
説明	屋根の主要な外形が再現される。LOD2.0では付属物は取得しないため、バルコニーも屋根として取得する。 なお、LOD2では屋根面は詳細化されるが外壁面は詳細化されないため、バルコニーの下部も建築物の一部として表現される。	小屋根のうち規模が大きいものが再現される。LOD2.0では切妻屋根として表現されたが、LOD2.1の条件を満たしたため、小屋根として表現された。 また、LOD2.1の条件を満たすバルコニーが、付属物として区分される。	小屋根のうち規模の小さいものが再現される。LOD2.1では無視された屋根窓の屋根がLOD2.2の条件を満たしたため、この屋根形状が表現された。 また、LOD2.2の条件を満たす屋根上の煙突が付属物として、さらに区分される。

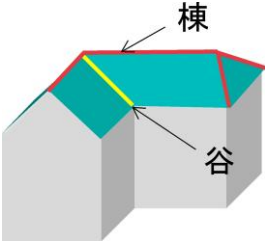
■ RoofSurface ■ WallSurface ■ BuildingInstallation

図4-4

4.2.1.3.2 建築物モデル（LOD2.0）の定義

建築物モデル（LOD2.0）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-13

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2.0	●	Building	Solid	射影の短辺の実長1m以上	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (Wall Surface) 及び底面 (GroundSurface) を境界面とする立体を作成する。 	
LOD2.0	●	Roof Surface	Multi Surface	射影の短辺の実長3m以上	<ul style="list-style-type: none"> 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟（屋根の頂部であり、屋根の分水嶺となる箇所）及び谷（屋根と屋根のつなぎの谷状の部分）で区切る。 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。 	<p>屋根の棟及び谷で区切ることにより、屋根の傾斜や向きを再現する。 屋根の棟及び谷は、以下を指す。</p>  <p>曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。</p>
LOD2.0	●	Ground Surface	Multi Surface	全て対象	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の上方からの正射影の外周を取得する。 外周を構成する各頂点に、地表面の高さを与える。 	地表面の高さは、建築物の上方からの正射影の外周に含まれる地表面の高さのうち、最も低い高さとする。
LOD2.0	●	Wall Surface	Multi Surface	全て対象	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面 (RoofSurface) と底面 (Ground Surface) を垂直に結ぶ各辺をつないだ面を取得する。 方位が変化する場所で区切る。 	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD2.0	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、主題属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (Wall Surface)、底面 (GroundSurface) 及び閉鎖面 (ClosureSurface) を境界面とす 	<ul style="list-style-type: none"> BuildingPartを使用する場合、一棟のBuildingには必ず2つ以上のBuildingPartが含まれていなければならない、それらは互いに接していなければ

					る立体を作成する。	ばならない。 ・ BuildingPart を使用する場合、 Building の空間属性は空となる。
		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2.0	■	Closure Surface	Multi Surface	BuildingPart を作成する場合に必須とする。	・ BuildingPart と連続する他の BuildingPart との境界線により囲まれた面を取得する。	・ ClosureSurface の境界線は、屋根面（ RoofSurface ）、外壁面（ WallSurface ）又は底面（ GroundSurface ）を区切る線分となる。
LOD2.0		Outer Floor Surface				対象外
LOD2.0		Outer Ceiling Surface				対象外
LOD2.0		BuildingInstallation				対象外
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.2.1.3.3 建築物モデル（LOD2.1）の定義

建築物モデル（LOD2.1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-14

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2.1	●	Building	Solid	短辺の実長1m 以上	・ 屋根面（ RoofSurface ）、外壁面（ WallSurface ）、屋外床面（ OuterFloorSurface ）及び底面（ GroundSurface ）を境界面とする立体を作成する。	屋外床面（ OuterFloorSurface ）を使用する場合は、これも境界面となる。
LOD2.1	●	Roof Surface	Multi Surface	短辺の実長3m以上	・ 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟及び谷で区切る。	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分

					・ 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。	割する。
LOD2.1	●	Ground Surface	Multi Surface	全て対象	・ 建築物の上方からの正射影の外周を取得し、外周を構成する各頂点に、地表面の高さを与える。	地表面の高さは、建築物の上方からの正射影の外周に含まれる地表面の高さのうち、最も低い高さとする。
		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2.1	●	Wall Surface	Multi Surface	全て対象	・ 屋根面（RoofSurface）と底面（Ground Surface）を垂直に結ぶ各辺をつないだ面を取得する。 ・ 方位が変化する場所で区切る。	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD2.1	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、主題属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	・ 屋根面（RoofSurface）、外壁面（Wall Surface）、底面（GroundSurface）及び閉鎖面（ClosureSurface）を境界面とする立体を作成する。	・ BuildingPartを使用する場合、一棟のBuildingには必ず2つ以上のBuildingPartが含まれていなければならない。 ・ Buildingの空間属性は空でなければならない。
LOD2.1	■	Closure Surface	Multi Surface	BuildingPartを作成する場合に必須とする。	・ BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面を取得する。	ClosureSurfaceの境界線は、屋根面（RoofSurface）、外壁面（Wall Surface）又は底面（GroundSurface）を区切る線分となる。
LOD2.1	○	Outer Floor Surface	Multi Surface	ユースケースで必要な場合	・ 外壁のうち、上向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。	RoofSurfaceの代替として使用できる。
LOD2.1		Outer Ceiling Surface	Multi Surface			対象外
LOD2.1	●	BuildingInstallation	Multi Surface	短辺の実長3m以上又は短辺が実長1m以上かつ側方又は上方からの正射影の面積が3m ² 以上	・ 屋外付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得する。 ・ 面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。	・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
記号説明 ● : 必須 ■ : 条件付必須 ○ : 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.2.1.3.4 建築物モデル（LOD2.2）の定義

建築物モデル（LOD2.2）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-15

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2.2	●	Building	Solid	射影の短辺の実長1m以上	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (Wall Surface)、屋外床面 (OuterFloorSurface) 及び底面 (Ground Surface) を境界面とする立体を作成する。 	屋外床面 (OuterFloor Surface) を使用する場合、これも境界面となる。
LOD2.2	●	Roof Surface	Multi Surface	射影の短辺の実長1m以上 又は上方からの正射影の面積1m2以上	<ul style="list-style-type: none"> 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟及び谷で区切る。 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。 	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD2.2	●	Ground Surface	Multi Surface	全て対象	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の上方からの正射影の外周を取得し、外周を構成する各頂点の水平座標に、地表面の高さを与える。 	地表面の高さは、建築物の上方からの正射影の外周に含まれる地表面の高さのうち、最も低い高さとする。
LOD2.2	●	Wall Surface	Multi Surface	全て対象	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面 (RoofSurface) と底面 (Ground Surface) を垂直に結ぶ各辺をつないだ面を取得する。 方位が変化する場所で区切る。 	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD2.2	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、主題属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (Wall Surface)、底面 (GroundSurface) 及び閉鎖面 (ClosureSurface) を境界面とする立体を作成する。 	BuildingPartを使用する場合、一棟のBuildingには必ず2つ以上のBuildingPartが含まれていなければならない。それらは互いに接していなければならない。また、Buildingの空間属性は空でなければならない。
LOD2.2	■	Closure Surface	Multi Surface	BuildingPartを作成する場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面を取得する。 	ClosureSurfaceの境界線は、屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (Wall Surface) 又は底面 (GroundSurface) を区切る線分となる。
LOD2.2	○	Outer Floor Surface	Multi Surface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> 屋外床面 (OuterFloor Surface) の外周を取得し、外周の各頂点にその位置の屋根の高さを与える。 	RoofSurfaceの代替として使用できる。

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2.2		Outer Ceiling Surface	Multi Surface			対象外
LOD2.2	●	Building Installation	Multi Surface	短辺の実長1m以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得する。 ・ 面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。 	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.2.1.4 建築物モデル（LOD3）

4.2.1.4.1 建築物モデル（LOD3）の概要

建築物モデル（LOD3）は、含むべき地物により、LOD3.0、LOD3.1、LOD3.2及びLOD3.3に分かれる（表4-16）。

LOD3.0、LOD3.1、LOD3.2及びLOD3.3は、MMSによる点群や画像等、側面から取得したデータの利用を前提とした区分であり、外壁面や開口部を含む建築物の側面を詳細化する。

標準製品仕様書では原則としてLOD3.0を採用する。ただし、ユースケースの必要に応じてLOD3.1、LOD3.2又はLOD3.3を採用できる。

表4-16 — LOD3.0, LOD3.1, LOD3.2及びLOD3.3の区分

建築物モデル（LOD3）に含むべき地物	対応するCityGMLの地物型	LOD3.0	LOD3.1	LOD3.2	LOD3.3
建築物	Building	●	●	●	●
屋根面	RoofSurface	● 短辺の実長3m以上	● 短辺の実長1m以上かつ上方からの正射影の面積3m ² 以上	● 短辺の実長1m以上又は上方からの正射影の1m ² 以上	● 全てを対象とする
底面	GroundSurface	●	●	●	●
外壁面	WallSurface	● 短辺の実長3m以上	● 短辺の実長1m以上かつ側方からの正射影の面積3m ² 以上	● 短辺が実長1m以上又は側方からの正射影の面積1m ² 以上	● 全てを対象とする
軒裏	WallSurface	● 屋根の外周と外壁面との距離3m以上	● 屋根の外周と外壁面との距離1m以上	● 屋根の外周と外壁面との距離1m以上	● 全てを対象とする

建築物部分	BuildingPart	■ 一棟の建築物を主題属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	■ 一棟の建築物を主題属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	■ 一棟の建築物を主題属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	■ 一棟の建築物を主題属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。
閉鎖面	ClosureSurface	■ BuildingPartを使用する場合	■ BuildingPartを使用する場合	■ BuildingPartを使用する場合	■ BuildingPartを使用する場合
屋外床面	OuterFloorSurface	○	○	○	○
屋外天井面	OuterCeilingSurface	○	○	○	○
屋外付属物 バルコニー、屋外階段、スロープ、手すり、エレベータ、エスカレータ、庇、アンテナ、煙突、看板等	BuildingInstallation	● 短辺が実長3m以上 又は短辺が実長1m以上かつ 上方又は側方からの正射影の面積3m ² 以上	● 短辺が実長3m以上 又は短辺が実長1m以上かつ 上方又は側方からの正射影の面積3m ² 以上	● 短辺が実長1m以上 又は上方又は側方からの正射影の面積1m ² 以上	● 全てを対象とする
扉	Door	● 短辺が実長1m以上	● 短辺が実長1m以上	● 上方又は側方からの正射影の面積1m ² 以上	● 全てを対象とする
窓	Window	● 短辺が実長1m以上	● 短辺が実長1m以上	● 上方又は側方からの正射影の面積1m ² 以上	● 全てを対象とする
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）					

建築物モデル（LOD3）では、建築物モデル（LOD2）に含むべき地物に加え、開口部（窓及び扉）が追加される。また、建築物の側面が詳細化されるが、屋根の外周と外壁面との距離や外壁面の大きさにより、各LODにおいて表現される内容が異なる（図4-5）。

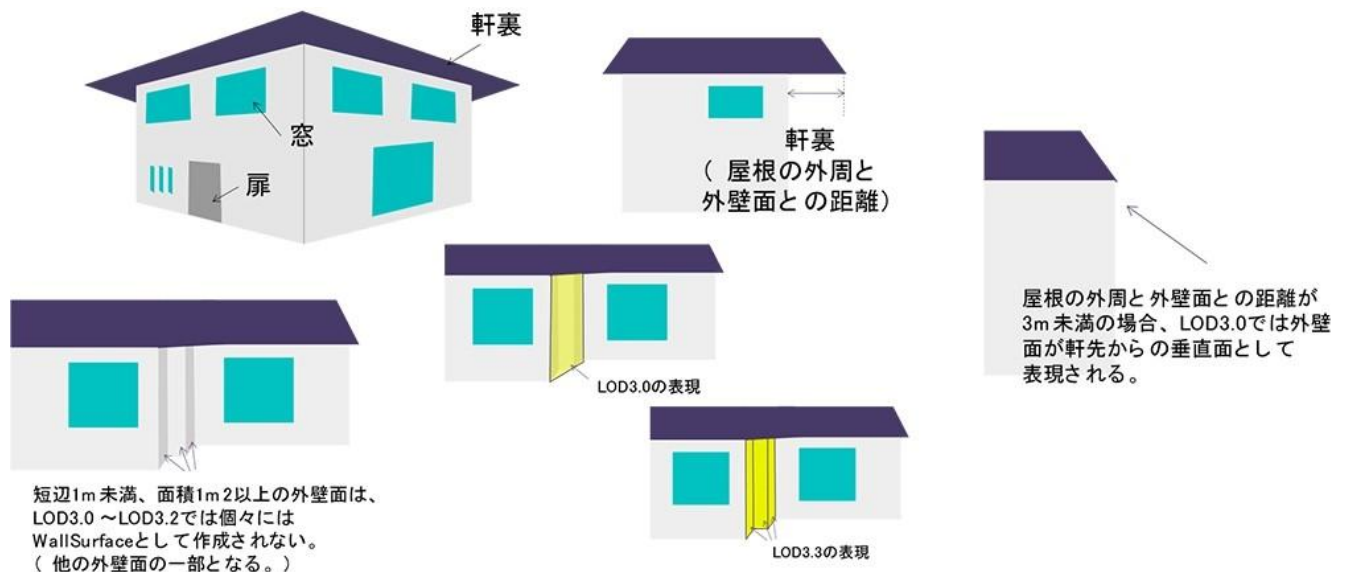
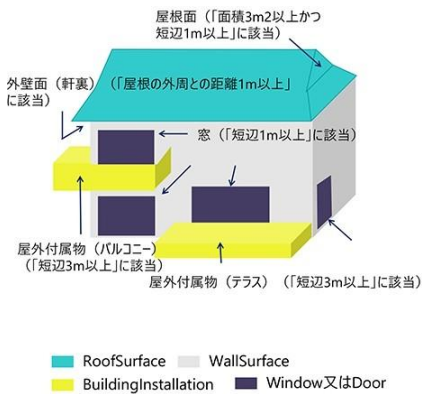
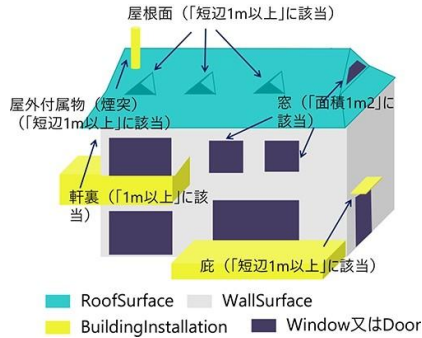
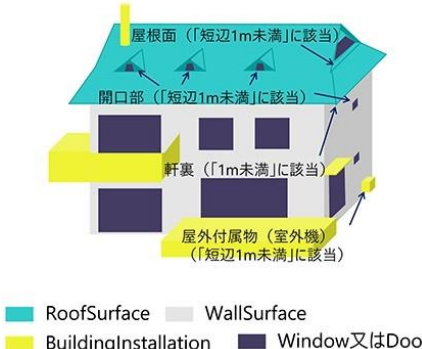


図4-5 建築物モデル（LOD3）に含むべき地物と取得基準

建築物モデル（LOD3.0）、建築物モデル（LOD3.1）、建築物モデル（LOD3.2）及び建築物モデル（LOD3.3）それぞれの取得イメージを表4-17に示す。

表4-17 建築物モデル（LOD3）の取得イメージ

	取得イメージ	説明
LOD3.0	<p>屋根面 (「短辺3m以上」に該当)</p> <p>窓 (「短辺1m以上」に該当)</p> <p>外壁面 (「短辺3m以上」に該当)</p> <p>扉 (「短辺1m以上」に該当)</p> <p>屋外付属物 (テラス) (「短辺3m以上」に該当)</p> <p>屋外付属物 (バルコニー) (「短辺3m以上」に該当)</p> <p>外壁面 (軒裏) (「幅3m以上」に該当)</p> <p>扉 (「短辺1m以上」に該当)</p> <p>屋外付属物 (回廊) (「短辺3m以上」に該当)</p> <p>Legend: RoofSurface (blue), WallSurface (grey), BuildingInstallation (yellow), Window又はDoor (dark blue)</p>	<p>屋根のうち短辺3m以上の屋根面が表現される。</p> <p>付属物のうち、短辺3m以上の規模の大きな付属物が再現される。</p> <p>LOD3では外壁面が詳細化されるため、LOD2では表現されない付属物の下部の形状も表現される。</p> <p>また、外壁面に設けられた短辺1m以上の開口部（窓、扉）が再現される。</p> <p>なお、上図の場合、軒裏は3m以内であったため、表現されなかった。</p> <p>下図に3m以上の軒を表現した例を示す。LOD3.0において軒を表現する建築物として、寺社や城といった特殊な建築物あるいは倉庫等の規模が大きな建築物が該当する。</p>

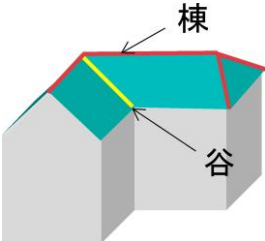
LOD3.1	 <p>屋根面（「面積3m2以上かつ短辺1m以上」に該当）</p> <p>外壁面（軒裏）（「屋根の外周との距離1m以上」に該当）</p> <p>窓（「短辺1m以上」に該当）</p> <p>屋外付属物（バルコニー）（「短辺3m以上」に該当）</p> <p>屋外付属物（テラス）（「短辺3m以上」に該当）</p> <p>Legend: RoofSurface (Blue), WallSurface (Grey), BuildingInstallation (Yellow), Window又はDoor (Dark Blue)</p>	<p>短辺の実長1m以上かつ上方からの正射影の面積3m2以上の屋根面が表現される。</p> <p>この結果、左図の例では、LOD3.0では切妻屋根として表現されたが、LOD3.1の条件を満たしたため、入母屋屋根として表現された。</p> <p>また、この例図では、軒裏の距離が1m以上あったため、表現された。</p> <p>開口部及び屋外付属物の表現は、LOD3.0と同様の表現となる。</p>
LOD3.2	 <p>屋根面（「短辺1m以上」に該当）</p> <p>屋外付属物（煙突）（「短辺1m以上」に該当）</p> <p>軒裏（「1m以上」に該当）</p> <p>窓（「面積1m2」に該当）</p> <p>庇（「短辺1m以上」に該当）</p> <p>Legend: RoofSurface (Blue), WallSurface (Grey), BuildingInstallation (Yellow), Window又はDoor (Dark Blue)</p>	<p>LOD3.2ではさらに詳細な表現が可能となり、短辺の実長1m以上又は上方からの正射影の1m2以上屋根が再現される。</p> <p>左図の例では、屋根に設けられた小屋根がこの条件に該当し、再現されている。</p> <p>また、LOD3.2では、短辺が実長1m以上又は上方又は側方からの正射影の面積1m2以上の屋外付属物が表現される。</p> <p>左図の例では、屋根上の煙突と外壁面に設けられた庇がこの条件を満たしたため屋外付属物として表現された。</p> <p>LOD3.2では、面積1m2以上の窓や扉も表現されるため、この条件に該当する窓が追加された。</p>
LOD3.3	 <p>屋根面（「短辺1m未満」に該当）</p> <p>開口部（「短辺1m未満」に該当）</p> <p>軒裏（「1m未満」に該当）</p> <p>屋外付属物（室外機）（「短辺1m未満」に該当）</p> <p>Legend: RoofSurface (Blue), WallSurface (Grey), BuildingInstallation (Yellow), Window又はDoor (Dark Blue)</p>	<p>LOD3.3では、短辺の実長が1m未満の細かな屋根の形状が表現される。</p> <p>左図の例では、LOD3.1及びLOD3.2では1枚の屋根面として表現されていたが、LOD3.3では傾斜の異なる2枚の屋根面として区分された。</p> <p>また、軒裏のうち、屋根の外周との距離が1m未満の狭い軒裏も表現された。</p> <p>さらに、LOD3.3の条件を満たす1m未満の小さな開口部や付属物が追加された。</p>

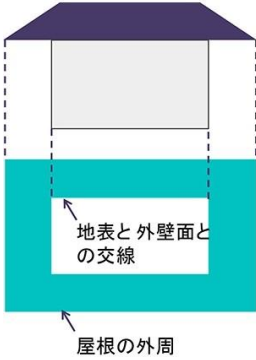
4.2.1.4.2 建築物モデル（LOD3.0）の定義

建築物モデル（LOD3.0）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-18

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3.0	●	Building	Solid	短辺の実長1m以上	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、底面（GroundSurface）、閉鎖面（ClosureSurface）、扉 	

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					(Door) 及び窓 (Window) を境界面とする立体を作成する。	
LOD3.0	●	Roof Surface	Multi Surface	短辺の実長3m以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟及び谷で区切る。 ・ 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の棟及び谷で区切ることにより、屋根の傾斜や向きを再現する。屋根の棟及び谷は、以下を指す。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD3.0	●	Ground Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が3m未満】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、各頂点に地表面の高さを与える。 <p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面と交線の正射影の距離が3m以上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地表面と外壁面との交線を取得し、各頂点に地表面の高さを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地表面の高さは、建築物の上方からの正射影の外周に含まれる地表面の頂点の標高のうち、最も低い標高とする。 ・ 屋根の外周と外壁面との距離が3m未満の場合は、軒裏を表現せず、3m以上の場合は表現する。
LOD3.0	●	Wall Surface	Multi Surface	短辺の実長が3m以上の外壁	<p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が3m未満】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根面 (RoofSurface) と底面 (Ground Surface) を垂直に結ぶ各辺をつないだ面を取得する。 ・ 方位が変化する場所で区切る。 <p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面</p>	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					と外壁面の交線の正射影の距離が3m以上】 ・ 外壁の角を結ぶ外周を取得する。 ・ 角となる場所で区切る。 ・ 高さは各頂点の高さとする。	
				幅3m以上の軒裏	・ 屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面との交線により囲まれた面を取得する。 ・ 高さは、各頂点の高さとする。	 <p>地表と外壁面との交線</p> <p>屋根の外周</p>
LOD3.0	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	・ 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (WallSurface)、底面 (GroundSurface)、閉鎖面 (ClosureSurface)、扉 (Door) 及び窓 (Window) を境界面とする立体を作成する。	
LOD3.0	■	ClosureSurface	MultiSurface	BuildingPartを作成する場合に必須とする。	・ BuildingPartと連続するBuildingPartとの境界線により囲まれた面を取得する。	
LOD3.0	○	OuterFloorSurface	MultiSurface	ユースケースで必要な場合	・ 外壁のうち、上向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。	RoofSurfaceの代替として使用できる。
LOD3.0	○	OuterCeilingSurface	MultiSurface	ユースケースで必要な場合	・ 外壁のうち、下向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。	WallSurfaceの代替として利用できる。
LOD3.0	●	BuildingInstallation	MultiSurface	短辺の実長3m以上又は短辺の実長1m以上かつ上方又は側方からの正射影の面積3m ² 以上	・ 屋外付属物の外形 (外側から見える形) を構成する面を取得する。 ・ 面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。	曲面の場合は、平面に分割する。
LOD3.0	●	Door	MultiSurface	短辺の実長1m以上	【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が3m未満】	正射影は、扉 (Door) が設置されている外壁面 (WallSurface) 等への正射影とする。

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					<ul style="list-style-type: none"> 扉の正射影の外周を取得する。 【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面と交線の正射影の距離が3m以上】 扉の外周を取得する。 	LOD3.0では3m未満の軒裏を表現せず、外壁面を屋根面の外周から垂直に下した面として表現する。開口部はこの外壁面上に作成されることから、外壁面等に対する正射影を取得する。
LOD3.0	●	Window	Window	短辺の実長1m以上	<ul style="list-style-type: none"> 【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が3m未満】 窓の正射影の外周を取得する。 【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が3m以上】 窓の外周を取得する。 	正射影は、窓（Window）が設置されている外壁面（WallSurface）等への正射影とする。 LOD3.0では3m未満の軒裏を表現せず、外壁面を屋根面の外周から垂直に下した面として表現する。開口部はこの外壁面上に作成されることから、外壁面等に対する正射影を取得する。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.2.1.4.3 建築物モデル（LOD3.1）の定義

建築物モデル（LOD3.1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-19

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3.1	●	Building	Solid	短辺の実長1m以上	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、底面（GroundSurface）、閉鎖面（ClosureSurface）、扉（Door）及び窓（Window）を境界面とする立体を作成する。 	

LOD3.1	●	Roof Surface	Multi Surface	短辺3m以上 又は短辺1m以上かつ面積が3m ² 以上	・ 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟（屋根の頂部	・ 屋根の棟及び谷で区切るにより、屋
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					であり、屋根の分水嶺となる箇所）及び谷（屋根と屋根のつなぎの谷状の部分）で区切る。 ・ 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。	根の傾斜や向きを再現する。 ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD3.1	●	Ground Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影との距離が1m未満】 ・ 屋根の外周を取得し、各頂点に地表面の高さを与える。 【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影との距離が1m以上】 ・ 地表面と外壁面との交線を取得し、各頂点に地表面の高さを与える。	地表面の高さは、建築物の上方からの正射影の外周に含まれる地表面の頂点の標高のうち、最も低い標高とする。
LOD3.1	●	Wall Surface	Multi Surface	短辺が実長1m以上かつ側方からの正射影の面積3m ² 以上の外壁	・ 外壁の角に囲まれた外周を取得する。 ・ 方位が変化する場所で区切る。 【建築物の上方からの正射影の外周と、建築物の設置面における外周との水平距離が1m以上】 ・ 屋根面の外周と、外壁面の上端の外周により囲まれた面を取得する。	・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
				幅1m以上の軒裏	・ 屋根面の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面との交線により囲まれた面を取得する。 ・ 高さは、各頂点の高さとする。	

LOD3.1	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (WallSurface)、屋外床面 (OuterFloorSurface)、屋外天井面 (OuterCeilingSurface)、底面 (GroundSurface)、閉鎖面 (ClosureSurface)、扉 (Door) 及び窓 (Window) を境界面 	
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					とする立体を作成する。	
LOD3.1	■	ClosureSurface	MultiSurface	BuildingPartを作成する場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ BuildingPartと連続する BuildingPart との境界線により囲まれた面を取得する。 	
LOD3.1	○	OuterFloorSurface	MultiSurface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁のうち、上向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。 	RoofSurfaceの代替として使用できる。
LOD3.1	○	OuterCeilingSurface	MultiSurface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁のうち、下向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。 	WallSurfaceの代替として利用できる。
LOD3.1	●	BuildingInstallation	MultiSurface	短辺が実長3m以上又は短辺1m以上かつ上方又は側方からの正射影の面積3m ² 以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得する。 ・ 面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD3.1	●	Door	MultiSurface	短辺1m以上	<p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が1m未満】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 扉 (Door) の正射影の外周を取得する。 <p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が1m以上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 扉 (Door) の外周を取得する。 	<p>正射影は、扉 (Door) が設置されている外壁面 (WallSurface) 等への正射影とする。</p> <p>LOD3.1では1m未満の軒裏を表現せず、外壁面を屋根面の外周から垂直に下した面として表現する。開口部はこの外壁面上に作成されることから、外壁面等に対する正射影を取得する。</p>

LOD3.1	●	Window	Window	短辺1m以上	<p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が1m未満】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 窓（Window）の正射影の外周を取得する。 <p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影の距離が1m以上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 窓（Window）の外周を取得する。 	<p>正射影は、窓（Window）が設置されている外壁面（WallSurface）等への正射影とする。</p> <p>LOD3.1では1m未満の軒裏を表現せず、外壁面を屋根面の外周から垂直に下した面として表現する。開口部はこの外壁面上に作成されることから、外壁面等に対する正射影を取得する。</p>
<p>記号説明</p> <p>● ： 必須</p> <p>■ ： 条件付必須</p> <p>○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）</p>						

4.2.1.4.4 建築物モデル（LOD3.2）の定義

建築物モデル（LOD3.2）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-20

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3.2	●	Building	Solid	短辺が実長1m以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根面（RoofSurface）、壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、底面（GroundSurface）、閉鎖面（ClosureSurface）、扉（Door）及び窓（Window）を境界面とする立体を作成する。 	
LOD3.2	●	Roof Surface	Multi Surface	短辺が実長1m以上 又は 側方からの正射影又は上方からの正射影の面積1m ² 以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟（屋根の頂部であり、屋根の分水嶺となる箇所）及び谷（屋根と屋根のつなぎの谷状の部分）で区切る。 ・ 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の棟及び谷で区切ることにより、屋根の傾斜や向きを再現する。 ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD3.2	●	Ground Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<p>【屋根の上方から正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影との距離が1m未満】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の外周を取得し、各頂点に地表面の高さを与える。 <p>【屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面の交線の正射影との距離が1m以上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地表面と外壁面との交線を取得し、各頂点に地表面の高さを与える。 	地表面の高さは、建築物の上方からの正射影の外周に含まれる地表面の頂点の標高のうち、最も低い標高とする。

LOD3.2	●	Wall Surface	Multi Surface	短辺が実長1m以上かつ側方からの正射影の面積3m ² 以上の外壁	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁の角に囲まれた外周を取得する。 ・ 方位が変化する場所で区切る。 <p>【建築物の上方からの正射影の外周と、建築物の設置面における外</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					<p>周との水平距離が1m以上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根面の外周と、壁面の先端の外周により囲まれた面を取得する。 	
				幅1m以上の軒裏	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面との交線により囲まれた面を取得する。 ・ 高さは、各頂点の高さとする。 	
LOD3.2	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根面（RoofSurface）、壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、底面（GroundSurface）、閉鎖面（ClosureSurface）、扉（Door）及び窓（Window）を境界面とする立体を作成する。 	
LOD3.2	■	Closure Surface	Multi Surface	BuildingPartを作成する場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ BuildingPartと連続するBuildingPartとの境界線により囲まれた面を取得する。 	
LOD3.2	○	Outer Floor Surface	Multi Surface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁のうち、上向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。 	RoofSurfaceの代替として利用できる。
LOD3.2	○	Outer Ceiling Surface	Multi Surface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁のうち、下向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。 	WallSurfaceの代替として利用できる。

LOD3.2	●	Build- ingIn- stalla- tion	Multi Surface	短辺が実長1m以上又は 上方又は側方からの正 射影の面積1m2以上	・ 屋外付属物の外形 （外側から見える 形）を構成する面を 取得する。 ・ 面の各頂点に屋外付 属物の高さを与える。	
LOD3.2	●	Door	Multi Surface	正射影の面積が1m2以 上	【屋根の上方からの正 射影の外周と、地表面 と外壁面の交線の正射 影の距離が1m未満】 ・ 扉（Door）の正射影 の外周を取得する。 【屋根の上方からの正 射影の外周と、地表面	正射影は、扉（Door） が設置されている外壁 面（WallSurface）等へ の正射影とする。 LOD3.2では1m未満の軒 裏を表現せず、外壁面 を屋根面の外周から垂
LOD		地物型	空間属 性の型	取得基準	取得方法	補足
					と外壁面の交線の正射 影の距離が1m以上】 ・ 扉（Door）の外周を 取得する。	直に下した面として表 現する。開口部はこの 外壁面上に作成される ことから、外壁面等に 対する正射影を取得す る。
LOD3.2	●	Window	Window	正射影の面積が1m2以 上	【屋根の上方からの正 射影の外周と、地表面 と外壁面の交線の正射 影の距離が1m未満】 ・ 窓（Window）の正 射影の外周を取得す る。 【屋根の上方からの正 射影の外周と、地表面 と外壁面の交線の正射 影の距離が1m以上】 ・ 窓（Window）の外周 を取得する。	正射影は、窓（Window ）が設置されている外 壁面（WallSurface）等 への正射影とする。 LOD3.2では1m未満の軒 裏を表現せず、外壁面 を屋根面の外周から垂 直に下した面として表 現する。開口部はこの 外壁面上に作成される ことから、外壁面等に 対する正射影を取得す る。
記号説明 ● ： 必須 ■ ： 条件付必須 ○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.2.1.4.5 建築物モデル（LOD3.3）の定義

建築物モデル（LOD3.3）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-21

LOD		地物型	空間属 性の型	取得基準	取得方法	補足
-----	--	-----	------------	------	------	----

LOD3.3	●	Building	Solid	短辺が実長1m以上	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面 (RoofSurface)、壁面 (WallSurface)、屋外床面 (OuterFloorSurface)、屋外天井面 (Outer CeilingSurface)、底面 (GroundSurface)、閉鎖面 (Closure Surface)、扉 (Door) 及び窓 (Window) を境界面とする立体を作成する。 	取得する建築物は、原則としてLOD0及びLOD1と同じである。
LOD3.3	●	Roof Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟（屋根の頂部であり、屋根の分水嶺となる箇所）及び谷（屋根と屋根のつ 	<ul style="list-style-type: none"> 屋根の棟及び谷で区切ることにより、屋根の傾斜や向きを再現する。 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					<ul style="list-style-type: none"> なぎの谷状の部分) で区切る。 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。 	平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD3.3	●	Ground Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> 地表面と外壁面との交線を取得し、各頂点に地表面の高さを与える。 	地表面の高さは、上方からの正射影の外周に含まれる地表面の頂点の標高のうち、最も低い標高とする。
LOD3.3	●	Wall Surface	Multi Surface	外壁	<ul style="list-style-type: none"> 外壁の角を結ぶ外周を取得する。 角となる場所で区切る。 	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
				軒裏	<ul style="list-style-type: none"> 屋根の上方からの正射影の外周と、地表面と外壁面との交線により囲まれた面を取得する。 高さは、各頂点の高さとする。 	

LOD3.3	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に使用する。	・ 屋根面 (RoofSurface)、壁面 (WallSurface)、屋外床面 (OuterFloorSurface)、屋外天井面 (Outer CeilingSurface)、底面 (GroundSurface)、閉鎖面 (Closure Surface)、扉 (Door) 及び窓 (Window) を境界面とする立体を作成する。	
LOD3.3	■	Closure Surface	Multi Surface	BuildingPartを使用する場合に必須とする。	・ BuildingPartと連続する BuildingPart との境界線により囲まれた面を取得する。	
LOD3.3	○	Outer Floor Surface	Multi Surface	ユースケースが必要な場合	・ 外壁のうち、上向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。	RoofSurfaceの代替として使用できる。
LOD3.3	○	Outer Ceiling Surface	Multi Surface	ユースケースが必要な場合	・ 外壁のうち、下向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。	WallSurfaceの代替として利用できる。
LOD3.3	●	BuildingInstallation	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 屋外付属物の外形 (外側から見える形) を構成する面を取得する。	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					・ 面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。	に収まるよう平面に分割する。
LOD3.3	●	Door	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 扉 (Door) の外周を取得する。	
LOD3.3	●	Window	Window	全てを対象とする。	・ 窓 (Window) の外周を取得する。	
記号説明 ● : 必須 ■ : 条件付必須 ○ : 任意 (ユースケースに応じて要否を決定してよい)						

4.2.1.5 建築物モデル (LOD4)

4.2.1.5.1 建築物モデル (LOD4) の概要

建築物モデル (LOD4) は、建築物モデル (LOD3) により表現される建築物の外側の形状に加え、建築物の内側の形状 (屋内空間) を表現する。

建築物モデル (LOD4) は、BIMモデルからの変換又は屋内測量によって取得する。BIMモデルからの変換フローは、「PLATEAU Handbook #03」を参照のこと。

建築物モデル（LOD4）は、含むべき地物により、LOD4.0、LOD4.1及びLOD4.2に区分する（表4-22）。

標準製品仕様書では原則としてLOD4.0を採用する。ただし、ユースケースの必要に応じてLOD4.1又はLOD4.2を採用できる。

表4-22 — LOD4.0, LOD4.1及びLOD4.2の区分

建築物モデル（LOD4）に含むべき地物		対応するCityGMLの地物型	LOD4.0	LOD4.1	LOD4.2
建築物		bldg:Building	●	●	●
建築物部分		bldg:BuildingPart	■ 一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	■ 一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	■ 一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。
屋根面		bldg:RoofSurface	●	●	●
壁面		bldg:WallSurface	●	●	●
底面		bldg:GroundSurface	●	●	●
屋外天井面		bldg:OuterGroundSurface	○	○	○
屋外床面		bldg:OuterFloorSurface	○	○	○
屋外付属物		bldg:BuildingInstallation	●	●	●
部屋		bldg:Room	●	●	●
天井面		bldg:CeilingSurface	●	●	●
内壁面		bldg:InteriorWallSurface	●	●	●
床面		bldg:FloorSurface	●	●	●
閉鎖面		bldg:ClosureSurface	■ BuildingPartを使用する場合、及び、内壁面、天井面、床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る場合に必須とする。	■ BuildingPartを使用する場合、及び、内壁面、天井面、床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る場合に必須とする。	■ BuildingPartを使用する場合、及び、内壁面、天井面、床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る場合に必須とする。
窓		bldg:Window	●	●	●
扉		bldg:Door	●	●	●
屋内付属物	階段	bldg:IntBuildingInstallation		●	●
	スロープ	bldg:IntBuildingInstallation		●	●
	輸送設備	bldg:IntBuildingInstallation		●	●
	柱	bldg:IntBuildingInstallation		●	●
	デッキ・ステージ	bldg:IntBuildingInstallation		●	●
	梁	bldg:IntBuildingInstallation			○
	パネル	bldg:IntBuildingInstallation			○
手すり		bldg:IntBuildingInstallation			○
家具		bldg:BuildingFurniture			○
階		grp:CityObjectGroup	●	●	●

任意設定空間（例：防火区画）	grp:CityObjectGroup			○
記号説明 ● ： 必須 ■ ： 条件付必須 ○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）				

建築物モデル（LOD4）に含むべき地物を、図4-6に示す。

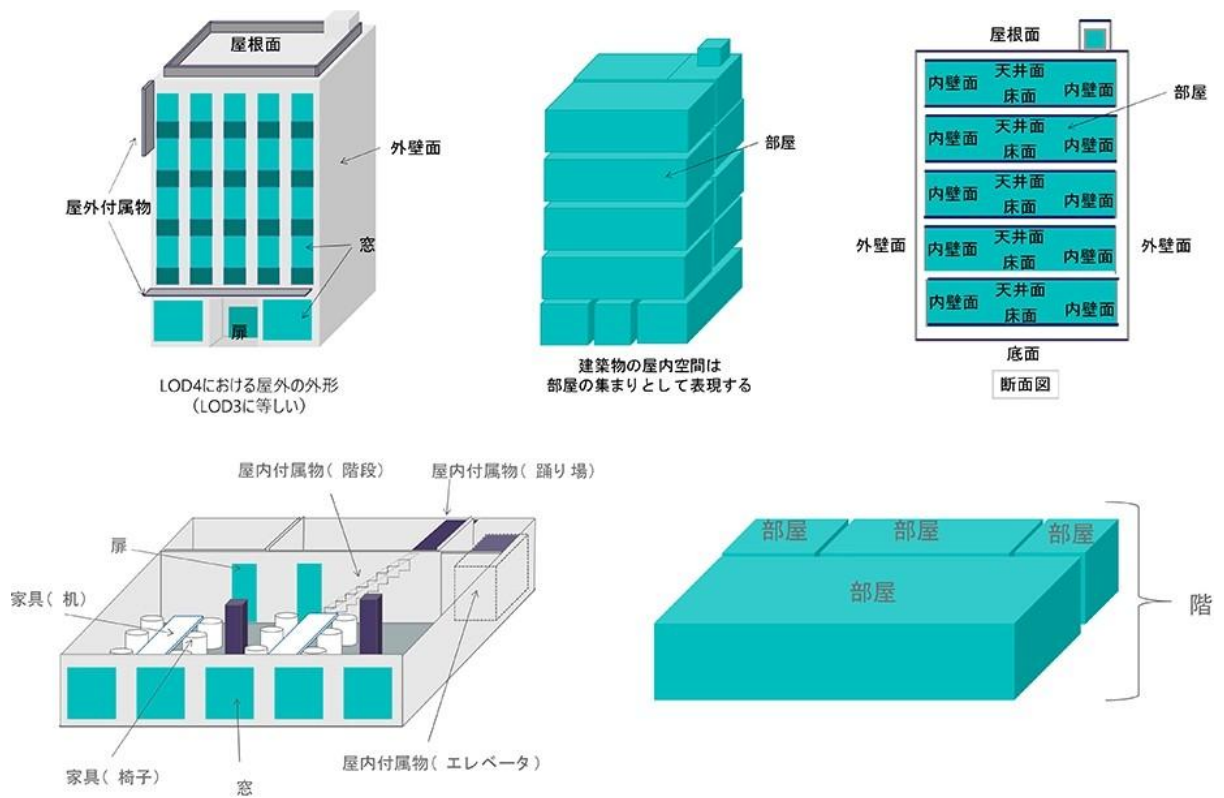
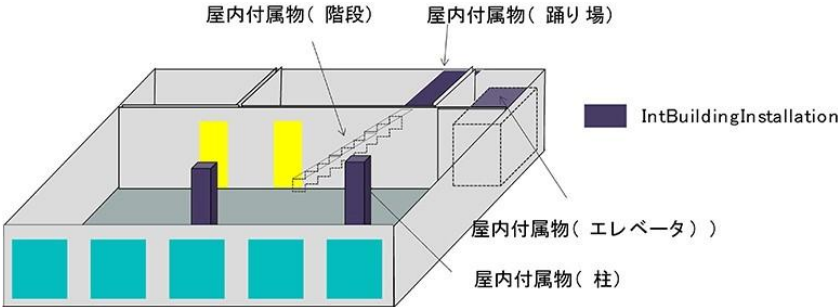
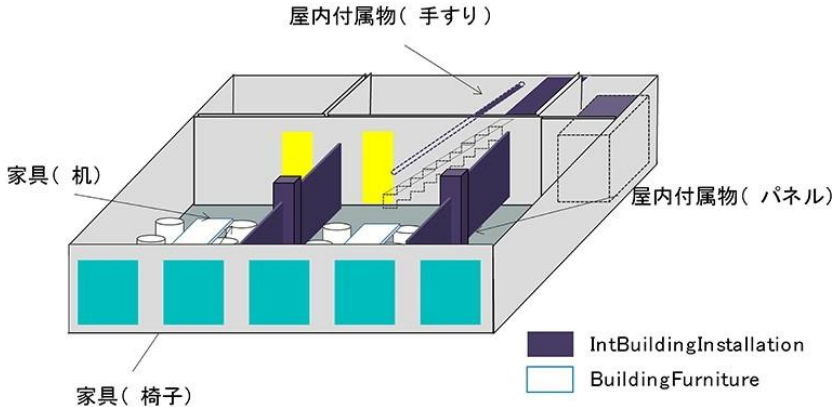


図4-6 建築物モデル（LOD4）に含むべき地物

LOD4.0、LOD4.1及びLOD4.2それぞれの取得イメージを表4-23に示す。

表4-23 建築物モデル（LOD4）の取得イメージ

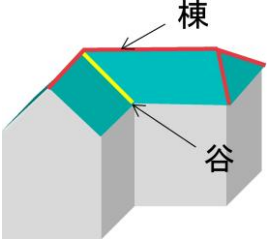
LOD	取得イメージと説明
LOD4.0	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 33%;"> <p>1</p> <p>RoofSurface WallSurface Window Door</p> </div> <div style="width: 33%;"> <p>2</p> <p>Room</p> </div> <div style="width: 33%;"> <p>3</p> <p>断面図</p> <p>InteriorWallSurface CeilingSurface FloorSurface WallSurface RoofSurface GroundSurface</p> </div> <div style="width: 33%;"> <p>4</p> <p>InteriorWallSurface FloorSurface ClosureSurface Window Door</p> </div> <div style="width: 33%;"> <p>5</p> <p>Room InteriorWallSurface WallSurface 屋内 屋外</p> </div> </div>

LOD	取得イメージと説明
	<p>LOD4.0は建築物の外形（上図1）に加え、建築物の内部を表現する。このとき、建築物の内部を部屋（bldg:Room）に区切り、各部屋の形状を立体として表現する（上図2）。また、部屋の立体の境界面を、天井面（bldg:CeilingSurface）、内壁面（bldg:InteriorWallSurface）、床面（bldg:FloorSurface）又は閉鎖面（bldg:ClosureSurface）のいずれかに区分する（上図3）。さらに、各部屋の天井面、内壁面又は床面に存在する扉（bldg:Door）及び窓（bldg:Window）を区分する（上図4）。</p> <p>閉鎖面は、内壁面や天井面、床面はないが、建築確認申請では部屋となっている空間を区切る場合に仮想的な境界面として使用する。</p> <p>建築物の階を表現する場合は、CityObjectGroupを使用する。上図1のように、建築物が複数の階から構成される場合、上図4に示す同じ階の部屋を、CityObjectGroupを使用してグループ化する。このとき、CityObjectGroupの名称（gml:name）は階を識別する名称となる。</p> <p>なお、CityGMLでは、壁面や天井面などは全て面として表現する。一方、現実世界の壁には厚みがある。1つの壁が建築物の外形を示す外壁と部屋の外形を示す内壁との機能を備えていた場合（上図5）、建築物の外形となる面（bldg:WallSurface）と部屋の外形となる面（bldg:InteriorWallSurface）の2枚の面として表現され、それらの面の間には隙間（壁の厚み）ができる（何も無い）。</p> <p>また、LOD4.0では建築物の内部に存在する付属物や家具を表現しない。</p>
LOD4.1	 <p>屋内付属物（階段） 屋内付属物（踊り場）</p> <p>IntBuildingInstallation</p> <p>屋内付属物（エレベータ）</p> <p>屋内付属物（柱）</p> <p>LOD4.1ではLOD4.0に、屋内付属物（bldg:IntBuildingInstallation）として、階段、スロープ、輸送設備（エスカレータ、エレベータ及び動く歩道）、柱及びデッキ・ステージが追加される。上図の例では、LOD4.0に加えて、階段、踊り場、エレベータ、柱が付属物として追加された。</p>
LOD4.2	 <p>屋内付属物（手すり）</p> <p>家具（机）</p> <p>家具（椅子）</p> <p>屋内付属物（パネル）</p> <p>IntBuildingInstallation</p> <p>BuildingFurniture</p> <p>LOD4.2ではLOD4.1に屋内の付属物（bldg:IntBuildingInstallation）として、手すり、パネル及び梁が付属物として追加される。</p> <p>また、机やいすなどの移動可能な家具（bldg:BuildingFurniture）が追加される。</p> <p>上図の例では、LOD4.2に加えて屋内付属物として階段の手すりとパネル（間仕切り）、また、家具として机及び椅子が追加された。</p>

4.2.1.5.2 建築物モデル（LOD4.0）の定義

建築物モデル（LOD4.0）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-24

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD4.0	●	Building	Solid 又は Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面（RoofSurface）、壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、底面（GroundSurface）、閉鎖面（ClosureSurface）、扉（Door）及び窓（Window）を境界面とする立体を作成する。 	測量により取得する場合は、Solidとする。BIMモデルからの変換により取得する場合はMultiSurfaceとする。
LOD4.0	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> 屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、底面（GroundSurface）、閉鎖面（ClosureSurface）、扉（Door）及び窓（Window）を境界面とする立体を作成する。 	BIMモデルからの変換により取得する場合は使用しない。
LOD4.0	●	Roof Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟及び谷で区切る。 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋根の棟及び谷で区切るにより、屋根の傾斜や向きを再現する。屋根の棟及び谷は、以下を指す。  <ul style="list-style-type: none"> 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよ

						う平面に分割する。
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD4.0	●	Ground Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 建築物の最下面の外周を取得する。	
LOD4.0	●	Wall Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 外壁の角を結ぶ外周を取得する。 ・ 角となる場所で区切る。	・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD4.0	■	Closure Surface	Multi Surface	境界面となる内壁面や天井面、床面はないが、建築確認申請では部屋となっている空間を区切る場合に必須とする。	・ 床面（FloorSurface）、天井面（CeilingSurface）及び内壁面（InteriorWallSurface）を区切る仮想的な境界線に囲まれた面を取得する。	
LOD4.0	○	Outer Floor Surface	Multi Surface	ユースケースで必要な場合	・ 外壁のうち、上向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。	RoofSurfaceの代替として使用できる。
LOD4.0	○	Outer Ceiling Surface	Multi Surface	ユースケースで必要な場合	・ 外壁のうち、下向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。	WallSurfaceの代替として利用できる。
LOD4.0	●	Door	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 扉（Door）の外周を取得する。	
LOD4.0	●	Window	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 窓（Window）の外周を取得する。	
LOD4.0	●	Building Installation	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 屋外付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得する。 ・ 面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD4.0	●	Room	Solid	全てを対象とする。	・ 天井面（CeilingSurface）、内壁面（InteriorWallSurface）、閉鎖面（ClosureSurface）及び床面（FloorSurface）を境界面とする立体を作成する。	建築確認申請書に部屋として記載されている区画を対象とする。
LOD4.0	●	Ceiling Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 天井の外周を取得する。	
LOD4.0	●	InteriorWall Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 部屋（Room）を区切る内壁の角を結ぶ外周を取得する。 ・ 角となる場所で区切る。	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD4.0	●	Floor Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 床の外周を取得する。	
LOD4.0		Int Building Installation				対象外
LOD4.0	●	Ceiling Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 天井の外周を取得する。	
LOD4.0	●	Interior Wall Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 部屋（Room）を区切る内壁の角を結ぶ外周を取得する。 ・ 角となる場所で区切る。	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD4.0	●	Floor Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 床の外周を取得する。	
LOD4.0		Building Furniture				対象外
LOD4.0	●	City Object Group	—	階	—	Roomの集まりとして表現する。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい） 注記 CityObjectGroupは空間属性をもたないため、「—」としている。						

4.2.1.5.3 建築物モデル（LOD4.1）の定義

建築物モデル（LOD4.1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-25

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD4.1	●	Building	Solid	全てを対象とする。	・ 屋根面（RoofSurface）、外壁面（Wall Surface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、底面（Ground Surface）、閉鎖面（ClosureSurface）、扉（Door）及び窓（Window）を境界面	ユースケースに応じて、境界面の集まり（MultiSurface）又は立体（Solid）のいずれかを選択する。

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					とする立体を作成する。	
LOD4.1	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (WallSurface)、屋外床面 (OuterFloorSurface)、屋外天井面 (OuterCeilingSurface)、底面 (GroundSurface)、閉鎖面 (ClosureSurface)、扉 (Door) 及び窓 (Window) を境界面 とする立体を作成する。 	BIMからの変換により取得する場合は使用しない。
LOD4.1	●	RoofSurface	MultiSurface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟及び谷で区切る。 ・ 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の棟及び谷で区切ることにより、屋根の傾斜や向きを再現する。 ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD4.1	●	GroundSurface	MultiSurface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の基礎の下端の外周を面として取得する。 	
LOD4.1	●	WallSurface	MultiSurface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁の角を結ぶ外周を取得する。 ・ 角となる場所で区切る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD4.1	○	ClosureSurface	MultiSurface	境界面となる内壁面や天井面、床面はないが、建築確認申請では部屋となっている空間を区切る場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床面 (FloorSurface)、天井面 (CeilingSurface) 及び内壁面 (InteriorWallSurface) を区切る仮想的な境界線に囲まれた面を取得する。 	
LOD4.1	○	OuterFloorSurface	MultiSurface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁のうち、上向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。 	RoofSurfaceの代替として利用できる。
LOD4.1	○	OuterCeilingSurface	MultiSurface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁のうち、下向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。 	WallSurfaceの代替として利用できる。

LOD4.1	●	Build- ingIn-	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 屋外付属物の外形 （外側から見える	・ 曲面の場合は、デー タセットが採用する
LOD		地物型	空間属 性の型	取得基準	取得方法	補足
		stalla- tion			形）を構成する面を 取得する。 ・ 面の各頂点に屋外付 属物の高さを与える る。	地図情報レベルの水平 及び高さの誤差の 標準偏差に収まるよ う平面に分割する。
LOD4.1	●	Door	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 扉（Door）の外周を 取得する。	
LOD4.1	●	Window	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 窓（Window）の外周 を取得する。	
LOD4.1	●	Room	Solid	全てを対象とする。	・ 天井面（CeilingSur- face）、内壁面（In- teriorWallSurface）、 閉鎖面（ClosureSur- face）及び床面 （FloorSurface）を 境界 面とする立体を作成 する。	建築確認申請書に部屋 として記載されている 区画を対象とする。
LOD4.1	●	Ceiling Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 天井の外周を取得す る。	
LOD4.1	●	Interi- orWall Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 部屋（Room）を区 切る内壁の角を結ぶ 外周を取得する。 ・ 角となる場所で区切 る。	・ 曲面の場合は、デー タセットが採用する 地図情報レベルの水平 及び高さの誤差の 標準偏差に収まるよ う平面に分割する。
LOD4.1	●	Floor Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 床の外周を取得す る。	
LOD4.1	●	Int Build- ingIn- stalla- tion	Multi Surface	階段、スロープ、エ スカレータ、輸送設備 （エレベータ、エスカ レータ、動く歩道）、 柱、デッキ、ステージ	・ 屋内付属物の外形 （外側から見える 形）を構成する面を 取得する。 ・ 面の各頂点に屋内付 属物の高さを与える る。	・ 曲面の場合は、デー タセットが採用する 地図情報レベルの水平 及び高さの誤差の 標準偏差に収まるよ う平面に分割する。
LOD4.1		Build- ingFur- niture				対象外
LOD4.1	●	City Object Group	—	階	—	Roomの集まりとして表 現する。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい） 注記 CityObjectGroupは空間属性をもたないため、空間属性の型及び取得方法を「—」としている。						

4.2.1.5.4 建築物モデル（LOD4.2）の定義

建築物モデル（LOD4.2）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-26

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD4.2	●	Building	Solid	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (Wall Surface)、屋外床面 (OuterFloorSurface)、屋外天井面 (OuterCeilingSurface)、底面 (Ground Surface)、閉鎖面 (ClosureSurface)、扉 (Door) 及び窓 (Window) を境界面 とする立体を作成する。 	測量により取得する場合は立体 (Solid)、BIMモデルからの変換により取得する場合は面の集まり (MultiSurface) とする。
LOD4.2	■	BuildingPart	Solid	一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根面 (RoofSurface)、外壁面 (Wall Surface)、屋外床面 (OuterFloorSurface)、屋外天井面 (OuterCeilingSurface)、底面 (Ground Surface)、閉鎖面 (ClosureSurface)、扉 (Door) 及び窓 (Window) を境界面 とする立体を作成する。 	BIMからの変換により取得する場合は使用しない。
LOD4.2	●	Roof Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、棟及び谷で区切る。 ・ 区切った面の各頂点に屋根の高さを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の棟及び谷で区切ることにより、屋根の傾斜や向きを再現する。 ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD4.2	●	Ground Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の上方からの正射影の外周を取得し、建築物の最下面の高さが異なる箇所区切る。 ・ 区切った面の各頂点に建築物の最下面の高さを与える。 	

LOD4.2	●	Wall Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁の角を結ぶ外周を取得する。 ・ 角となる場所で区切る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD4.2	○	Closure Surface	Multi Surface	境界面となる内壁面や天井面、床面はないが、建築確認申請では部屋となっている空間を区切る場合に必須とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床面（FloorSurface）、天井面（CeilingSurface）及び内壁面（InteriorWallSurface）を区切る仮想的な境界線に囲まれた面を取得する。 	
LOD4.2	○	Outer Floor Surface	Multi Surface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁のうち、上向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。 	RoofSurfaceの代替として使用できる。
LOD4.2	○	Outer Ceiling Surface	Multi Surface	ユースケースで必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁のうち、下向きとなる面の外周を取得する。 ・ 面の各頂点に、外壁の高さを与える。 	WallSurfaceの代替として利用できる
LOD4.2	●	BuildingInstallation	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得する。 ・ 面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。 	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD4.2	●	Door	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 扉（Door）の外周を取得する。 	
LOD4.2	●	Window	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓（Window）の外周を取得する。 	
LOD4.2	●	Room	Solid	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天井面（CeilingSurface）、内壁面（InteriorWallSurface）、閉鎖面（ClosureSurface）及び床面（FloorSurface）を境界面とする立体を作成する。 	建築確認申請書に部屋として記載されている区画を対象とする。
LOD4.2	●	Ceiling Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天井の外周を取得する。 	
LOD4.2	●	InteriorWall Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部屋（Room）を区切る内壁の角を結ぶ外周を取得する。 ・ 角となる場所で区切る。 	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。

LOD4.2	●	Floor Surface	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 床の外周を取得する。	
LOD4.2	●	Int BuildingInstallation	Multi Surface	階段、スロープ、エスカレータ、輸送設備（エレベータ、エスカレータ、動く歩道）、柱、デッキ、ステージ、手すり、パネル、梁	・ 屋内付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得する。 ・ 面の各頂点に屋内付属物の高さを与える。	曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD4.2	●	BuildingFurniture	Multi Surface	全てを対象とする。	・ 家具の外形（外側から見える形）を構成する面を取得する。 ・ 面の各頂点に家具の高さを与える。	・ 曲面の場合は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう平面に分割する。
LOD4.2	●	City Object Group	—	階	—	Roomの集まりとして表現する。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい） 注記 CityObjectGroupは空間属性をもたないため、空間属性の型及び取得方法を「—」としている。						

4.2.1.6 各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性

建築物モデルの各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性を表4-27に示す。

表4-27 建築物モデルの記述に使用する地物型と空間属性

地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	LOD4	適用
bldg:Building		●	●	●	●	●	
	lod0FootPrint	○					外周は、屋根の外周（RoofEdge）を原則とするが、地表面と外壁面との交線（FootPrint）で代替できる。
	lod0RoofEdge	■					lod0FootPrintがある場合は不要とする。
	lod1Solid		●				
	lod2Solid			●			
	lod3Solid				●		
	lod4Solid					■	Solid又はMultiSurfaceのいずれかとする。
	lod4MultiSurface					■	
bldg:BuildingPart				■	■	■	一棟の建築物を、属性の異なる複数の部分に分ける場合に必須とする。
	lod1Solid						
	lod2Solid			■			
	lod3Solid				■		
	lod4Solid					■	Solid又はMultiSurfaceのいずれかとする。
	lod4MultiSurface					■	

bldg:Room						●	
	lod4Solid					●	
bldg:RoofSurface				●	●	●	
	lod2MultiSurface			●			
	lod3MultiSurface				●		
	lod4MultiSurface					●	
地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	LOD4	適用
bldg:WallSurface				●	●	●	
	lod2MultiSurface			●			
	lod3MultiSurface				●		
	lod4MultiSurface					●	
bldg:GroundSurface				●	●	●	
	lod2MultiSurface			●			
	lod3MultiSurface				●		
	lod4MultiSurface					●	
bldg:OuterCeilingSurface					○	○	外壁面のうち、天井の機能をもつ面を明示するために使用できる。
	lod2MultiSurface						bldg:OuterCeilingSurfaceを作る場合は必須とする。
	lod3MultiSurface				■		
	lod4MultiSurface					■	
bldg:OuterFloorSurface				○	○	○	屋根面のうち、通行可能な面を明示するために使用できる。
	lod2MultiSurface			■			bldg:OuterFloorSurfaceを作る場合は必須とする。
	lod3MultiSurface				■		
	lod4MultiSurface					■	
bldg:ClosureSurface				■	■	■	BuildingPartを作成する場合は必須とする。 LOD4において、内壁面等はないが、建築確認申請では部屋となっている空間を区切る場合は必須とする。
	lod2MultiSurface			■			bldg:ClosureSurfaceを作る場合は必須とする。
	lod3MultiSurface				■		
	lod4MultiSurface					■	
bldg:InteriorWallSurface						●	
	lod4MultiSurface					●	
bldg:CeilingSurface						●	
	lod4MultiSurface					●	
bldg:FloorSurface						●	
	lod4MultiSurface					●	
bldg:Door					●	●	
	lod3MultiSurface				●		
	lod4MultiSurface					●	
bldg:Window					●	●	
	lod3MultiSurface				●		
	lod4MultiSurface					●	

bldg:BuildingInstallation				■	●	●	LOD2.0では不要であるが、LOD2.1及びLOD2.2の場合は必須となる。
	lod2Geometry			■			MultiSurfaceを使用することを基本とする。
	lod3Geometry				●		
	lod4Geometry					●	
bldg:IntBuildingInstallation						■	LOD4.1及び4.2では必須とする。
地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	LOD4	適用
	lod4Geometry					■	MultiSurfaceを使用することを基本とする。
bldg:BuildingFurniture						○	
	lod4Geometry					■	bldg:BuildingFurnitureを作成する場合は必須とする。 MultiSurfaceを使用することを基本とする。
記号説明 ● ： 必須 ■ ： 条件付必須 ○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）							

4.2.2 建築物の応用スキーマクラス図

4.2.2.1 Building (CityGML)

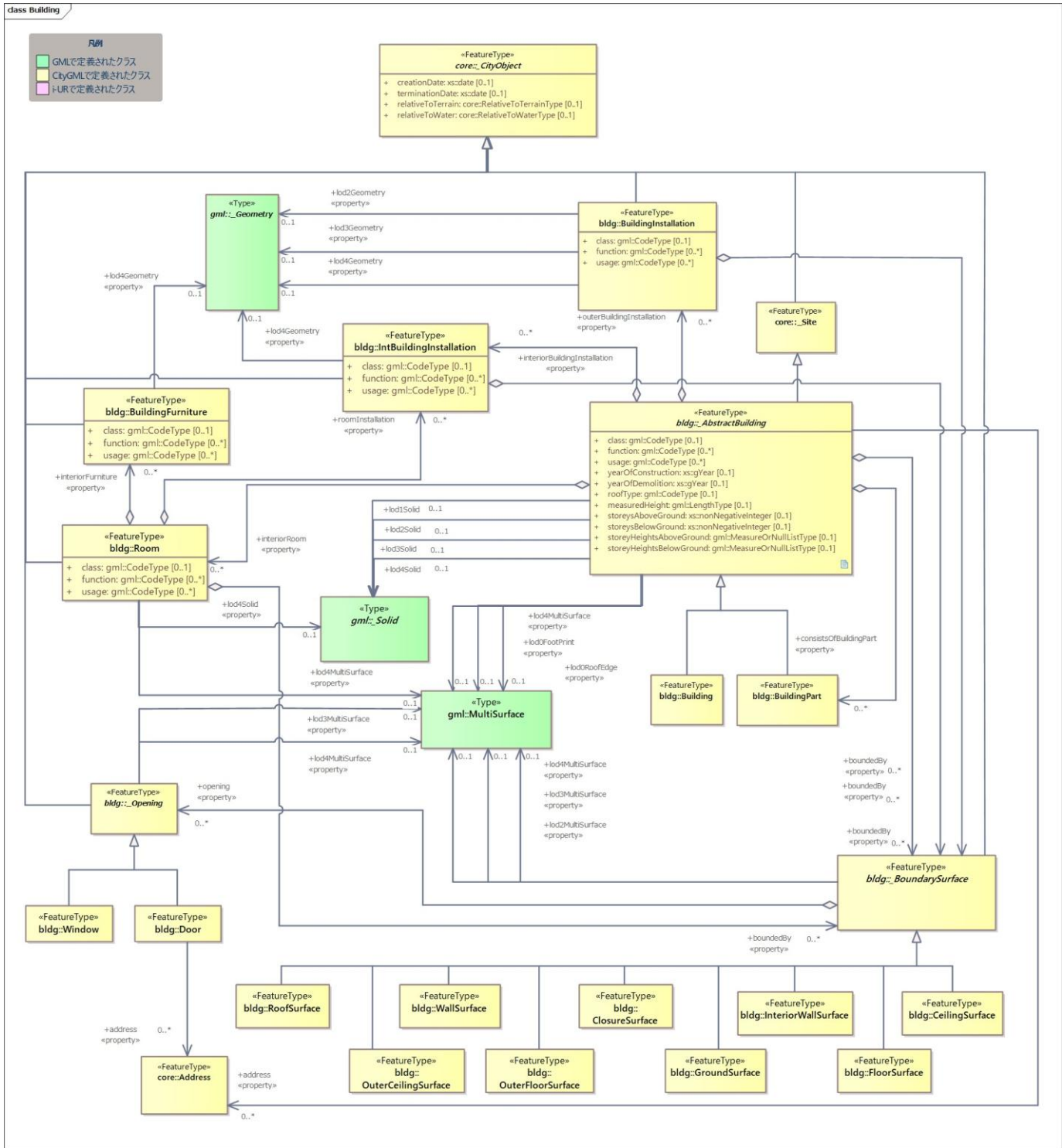


图4-7

4.2.2.2 Urban Object (i-UR)

4.2.2.2.1 bldg:Buildingの拡張属性

建築物モデルに付与する詳細な属性のためのデータ型を定義する。

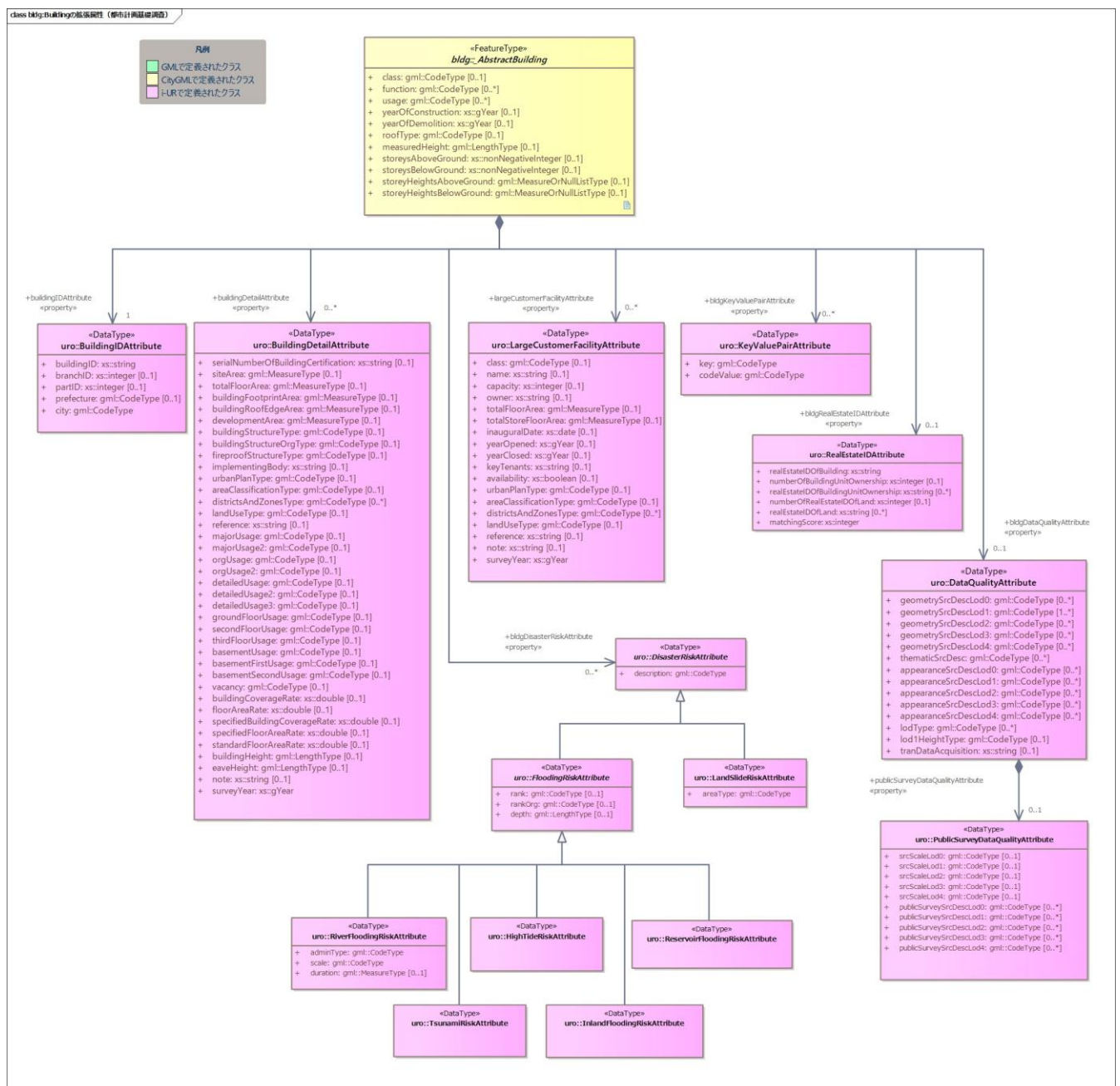


図4-8

4.2.2.2 施設管理のための拡張属性

建築物モデルに付与する詳細な属性のうち、施設管理のための属性のデータ型を定義する。
uro::FacilityAttributeは抽象クラスであり、これを継承する具象クラスを、施設管理属性の応用スキーマに定義する。

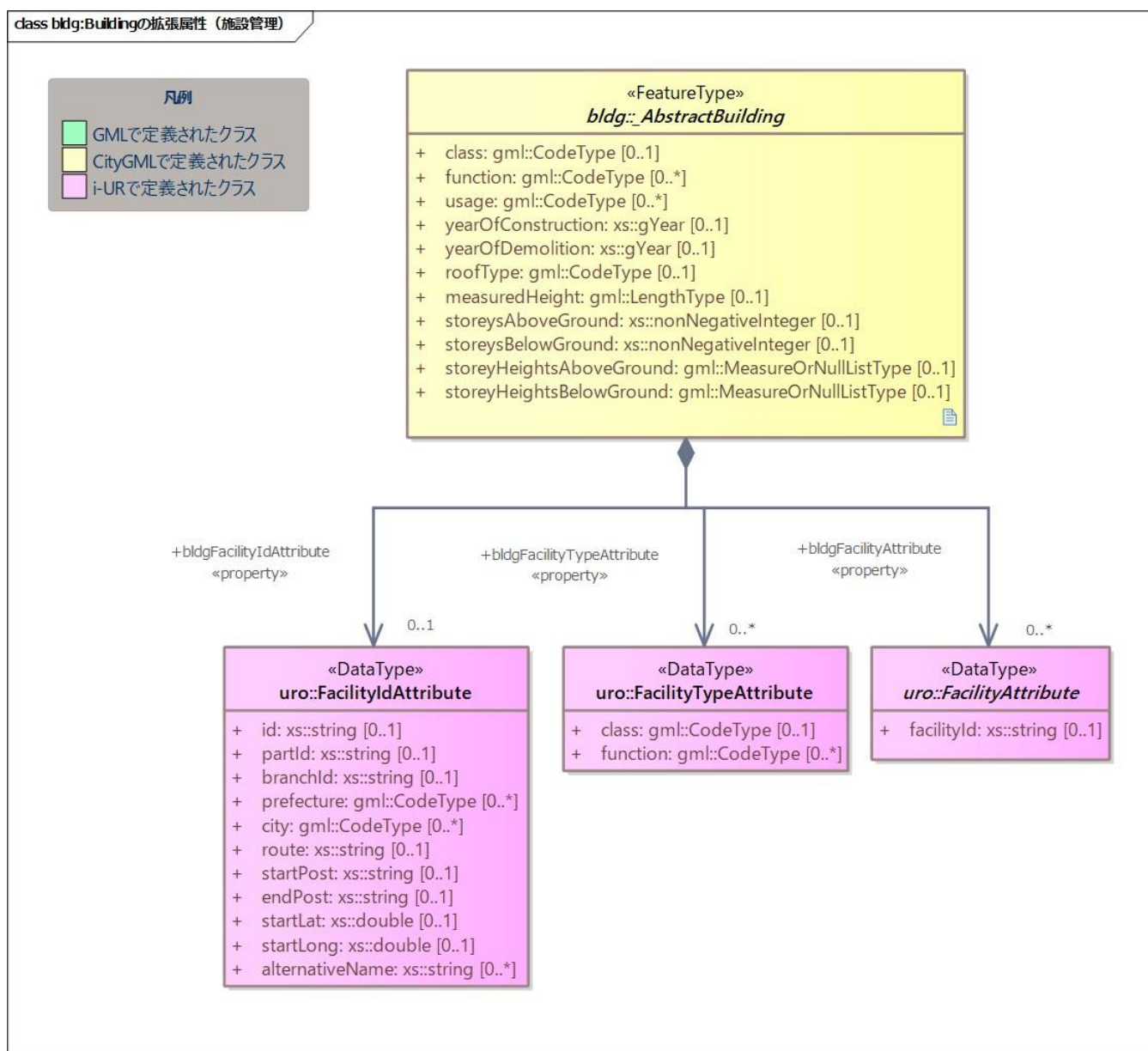


図4-9

4.2.2.2.3 数値地形図のための拡張属性

以下に示すクラスは、数値地形図データとの互換性を保つために、地図情報レベル2500数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）に定義された属性を建築物の属性として付与することを可能にするためのデータ型である。

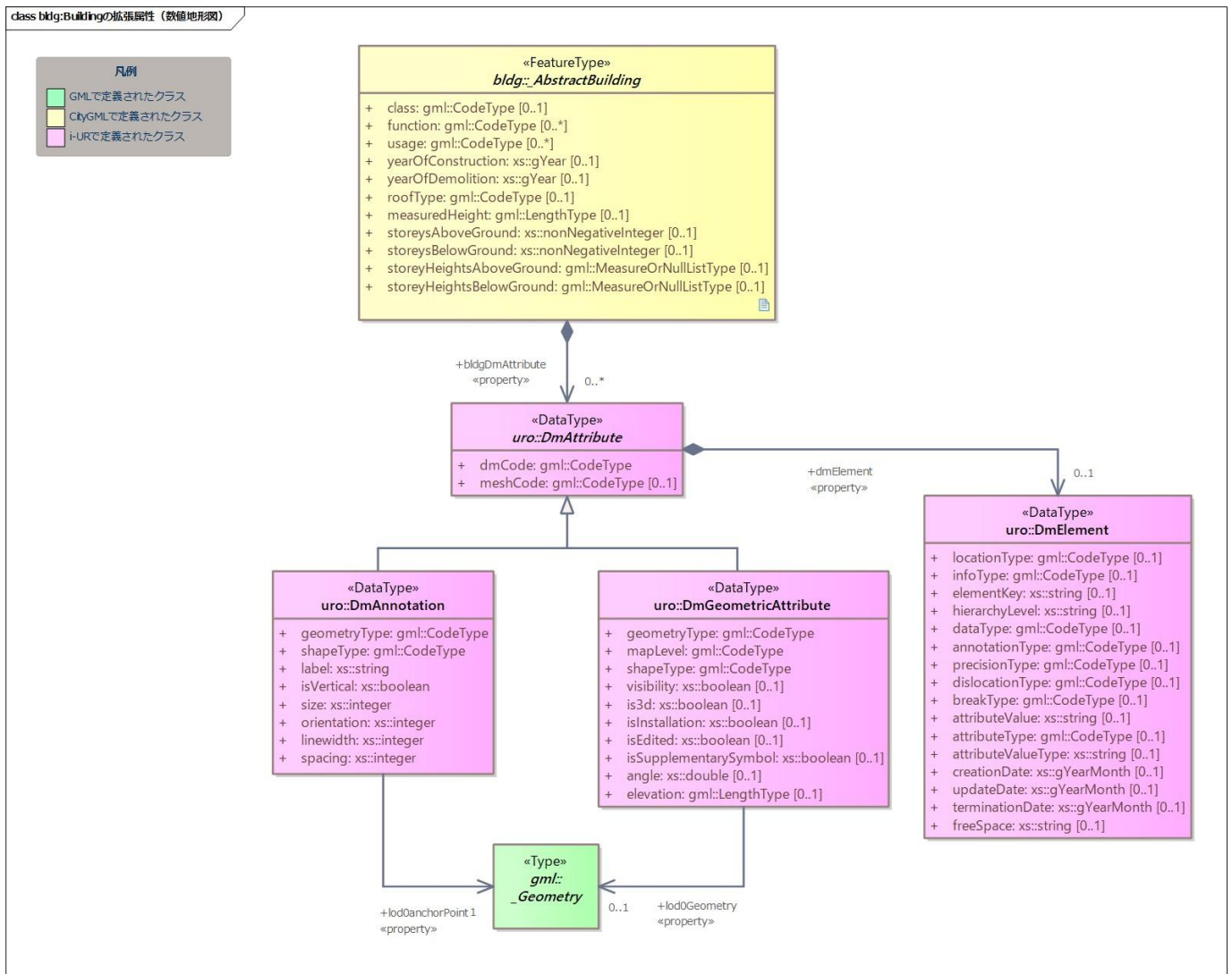


図4-10

4.2.2.2.4 建築物モデル（LOD4）の拡張属性

以下に示すクラスは、建築物モデル（LOD4）を構成するbldg:Buildingなどの地物に、BIMモデルから変換した詳細な情報を属性として付与するためのデータ型である。

a) から f) に示すデータ型は、「PLATEAU Handbook #03-1」(以下、「IDM・MVD」という)に定義されたクラスの属性及びプロパティセットに対応する。また、g) に示すデータ型は「3次元屋内地理空間データ製品仕様書(案)」に定義されたクラスの属性及びプロパティセットに対応する。

a) bldg:_AbstractBuildingの下位型に付与する属性

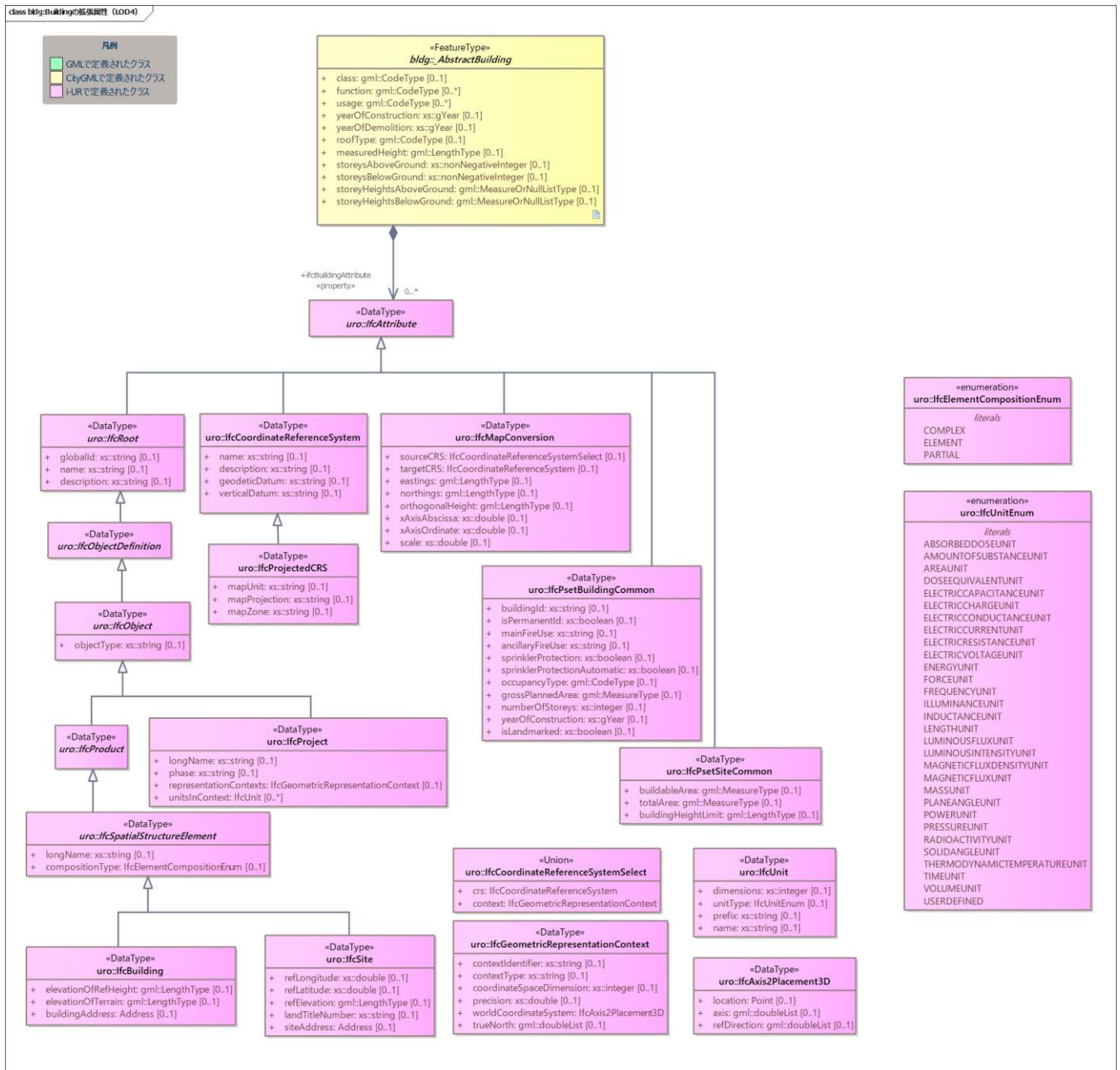


图4-11

b) bldg:Roomの下位型に付与する属性

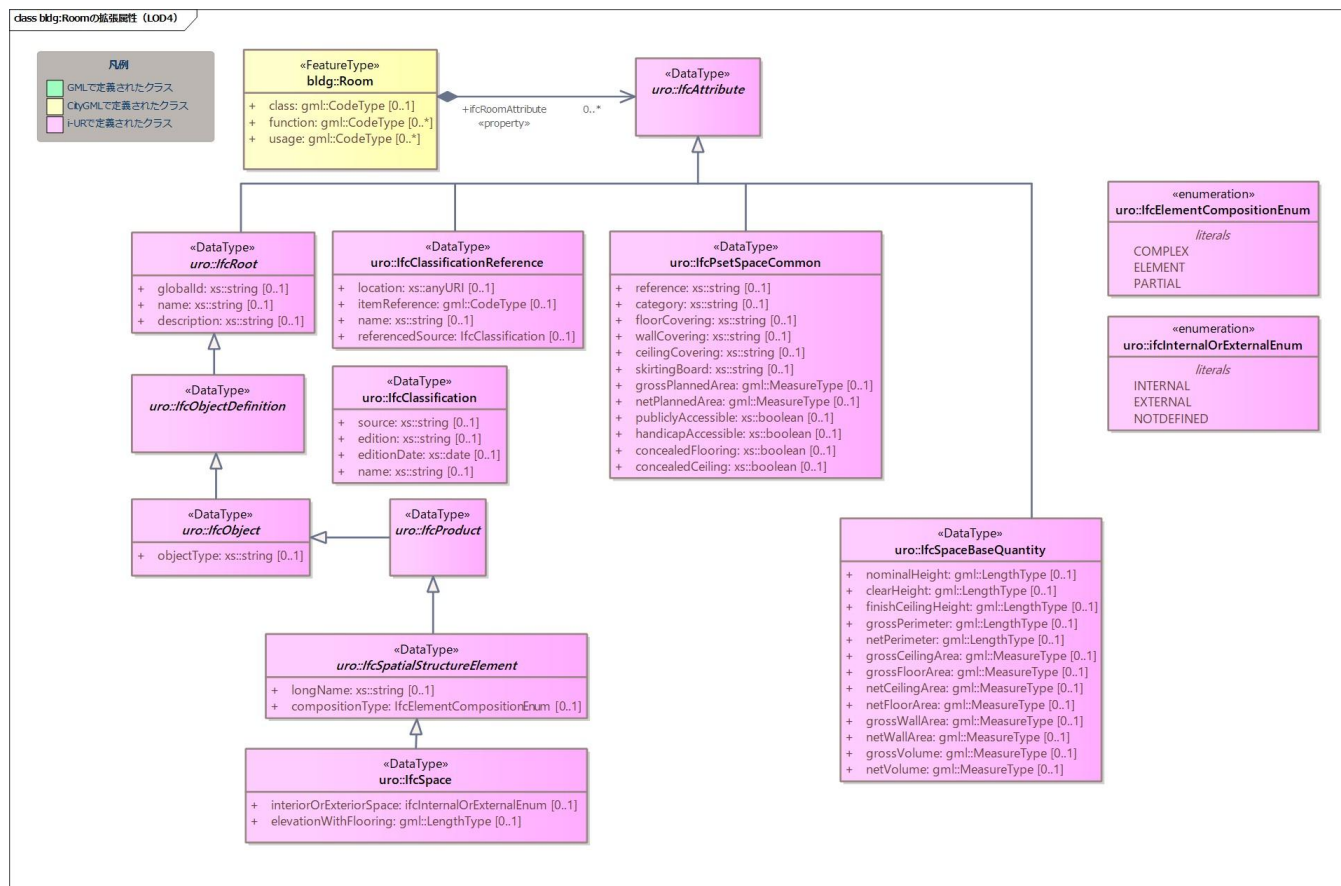


図4-12

c) bldg:_BoundarySurfaceの下位型に付与する属性

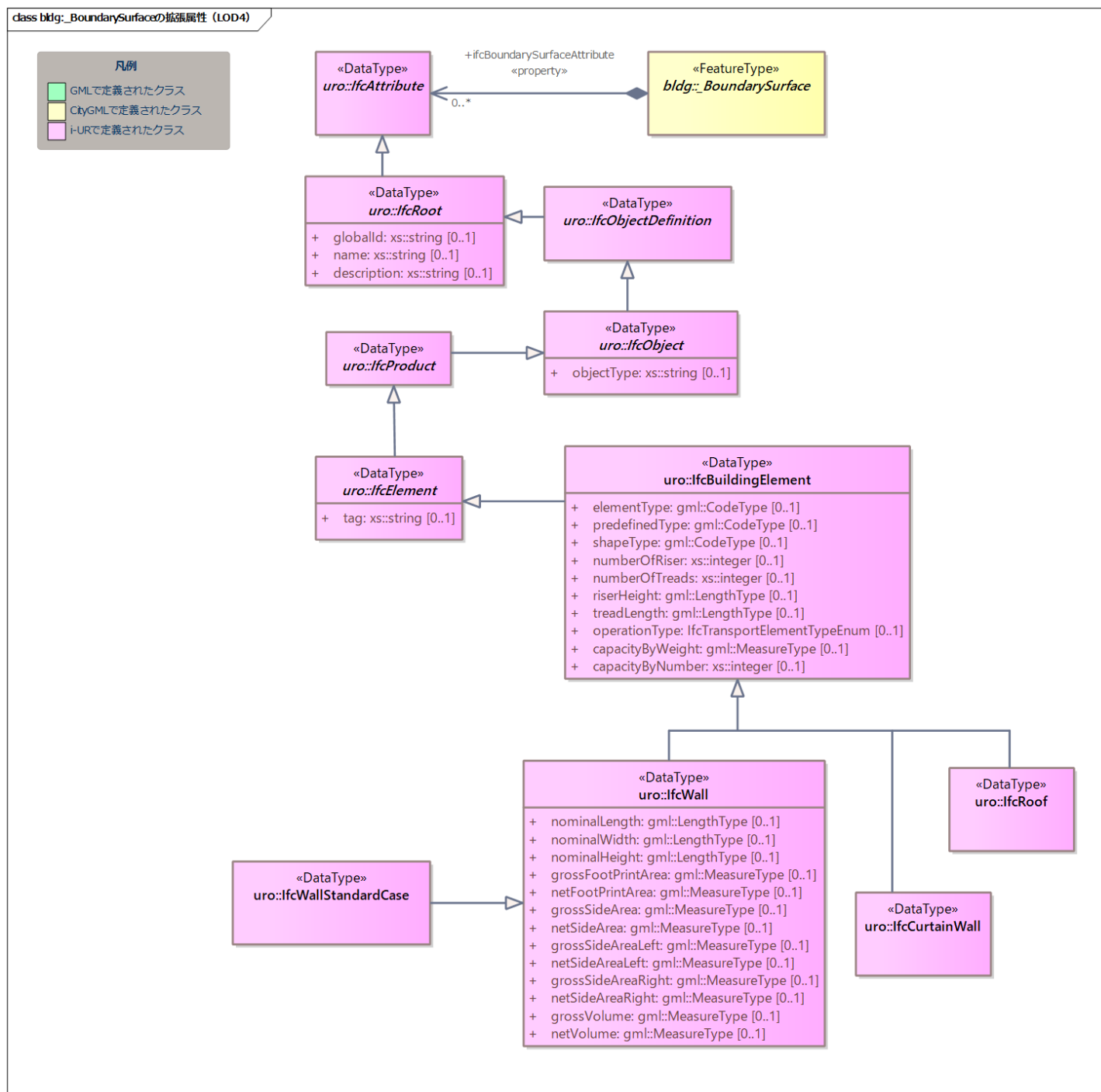


図4-13

d) bldg:_Openingの下位型に付与する属性

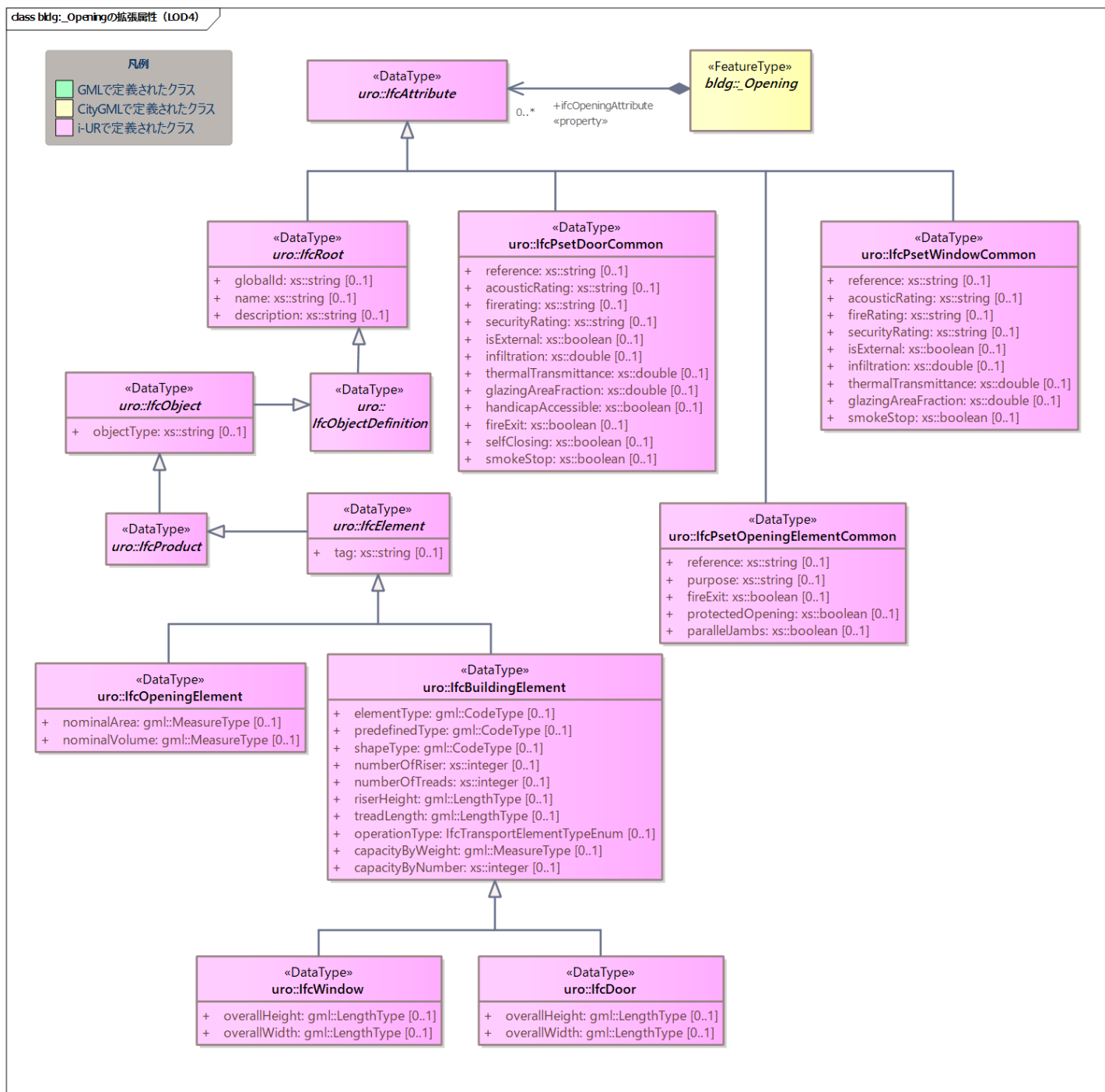


図4-14

e) bldg:BuildingInstallation及びbldg:IntBuildingInstallationに付与する属性

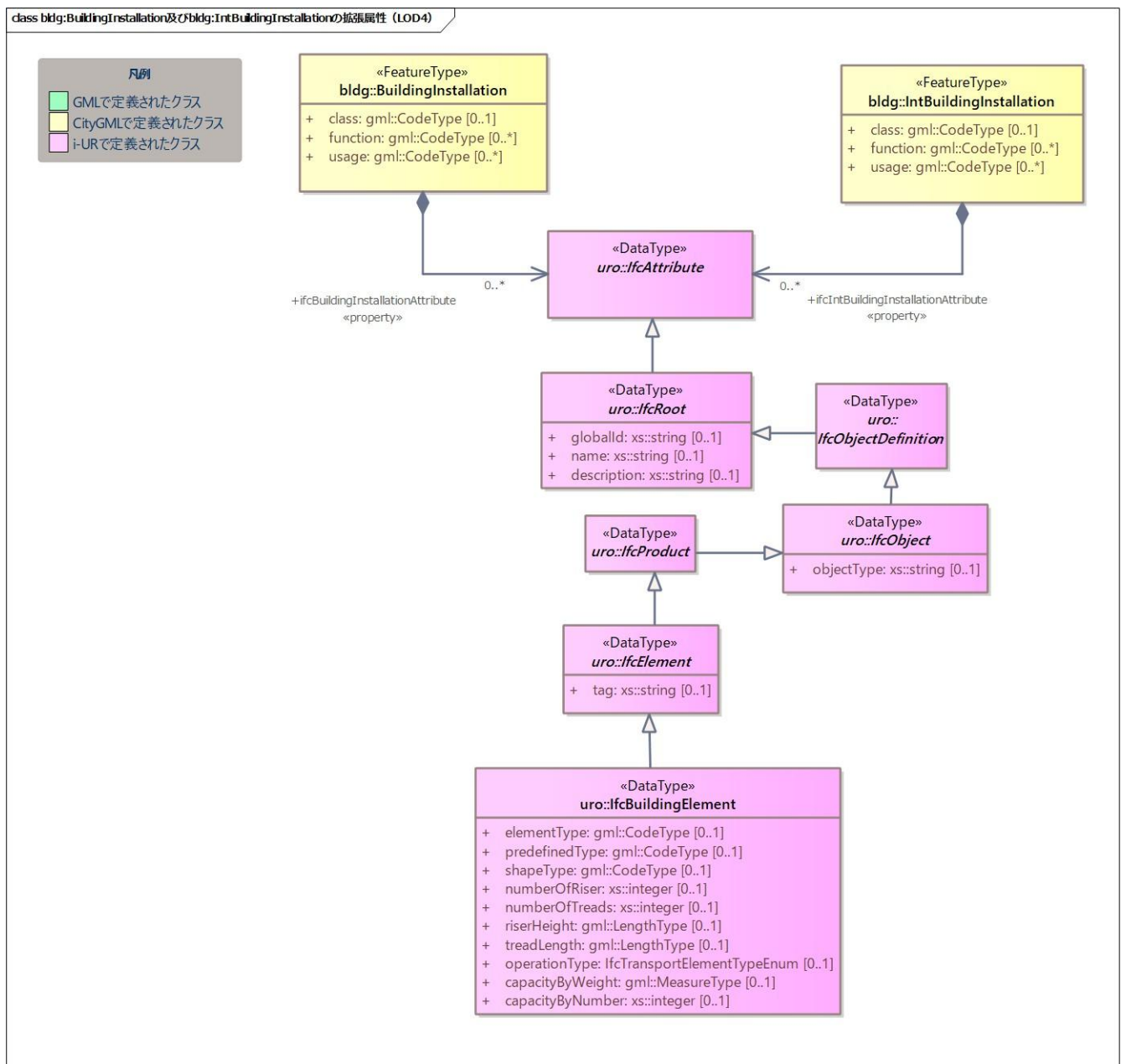


図4-15

f) bldg:BuildingFurnitureに付与する属性

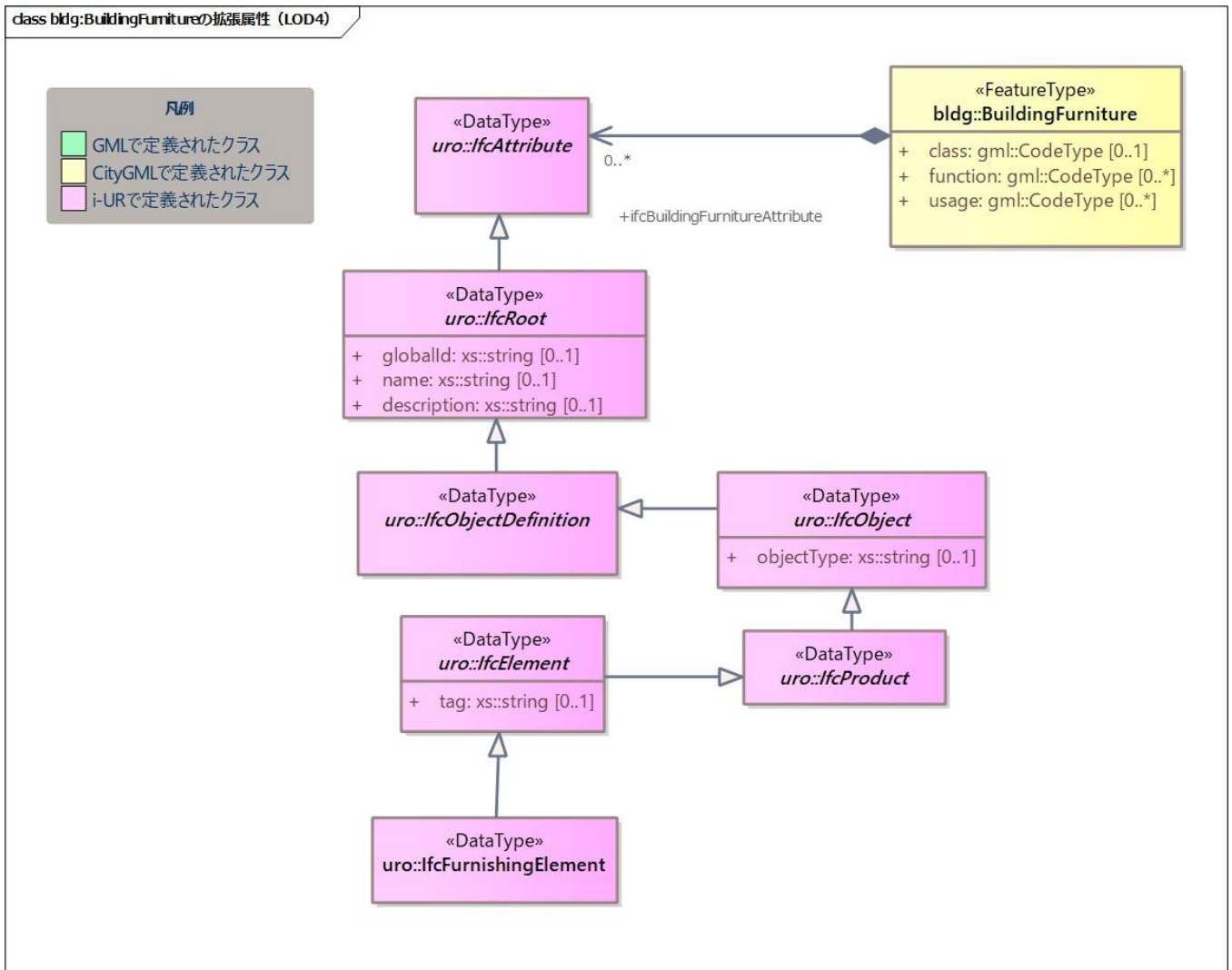


図4-16

g) 3次元屋内地理空間データに対応する属性

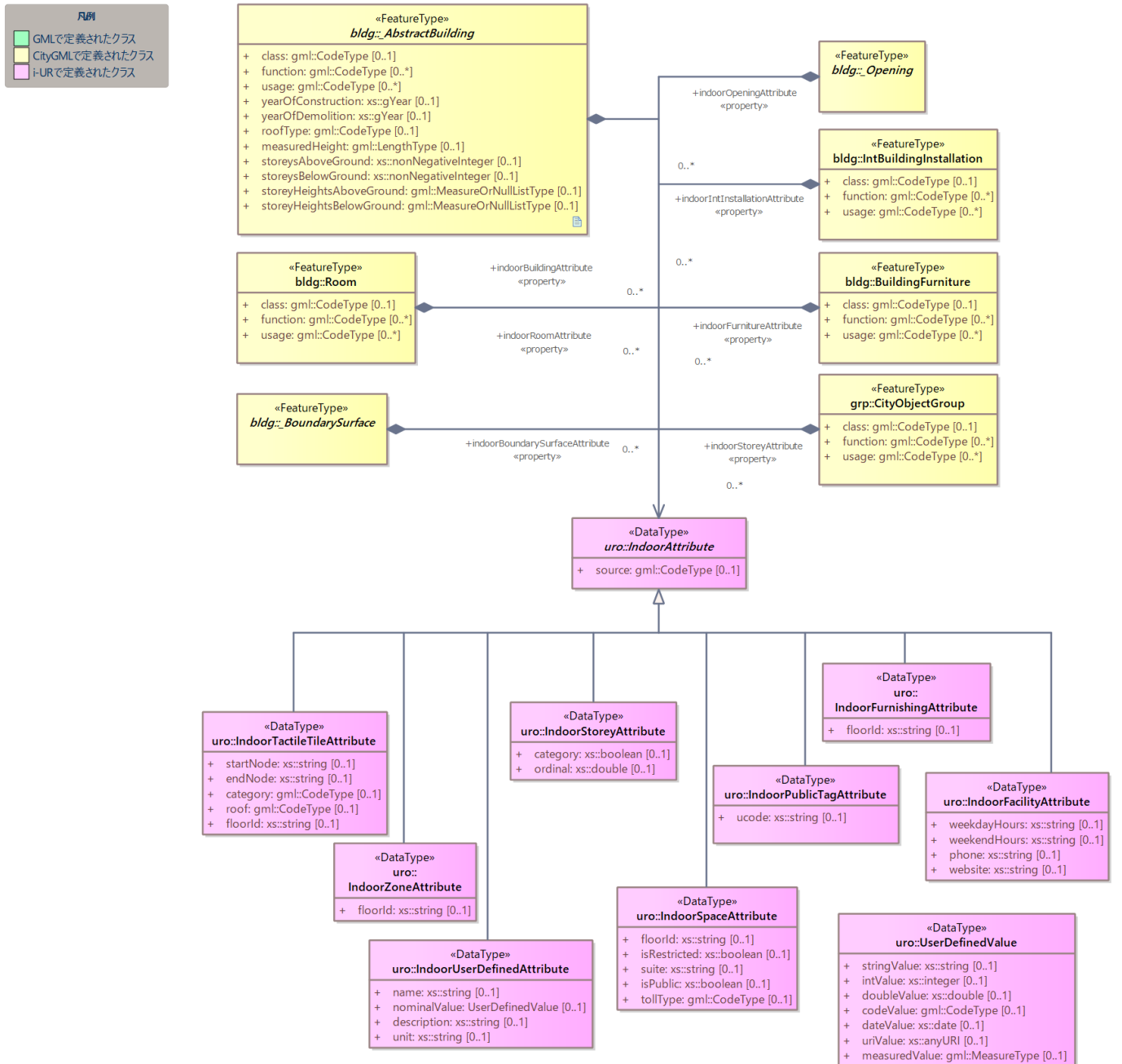


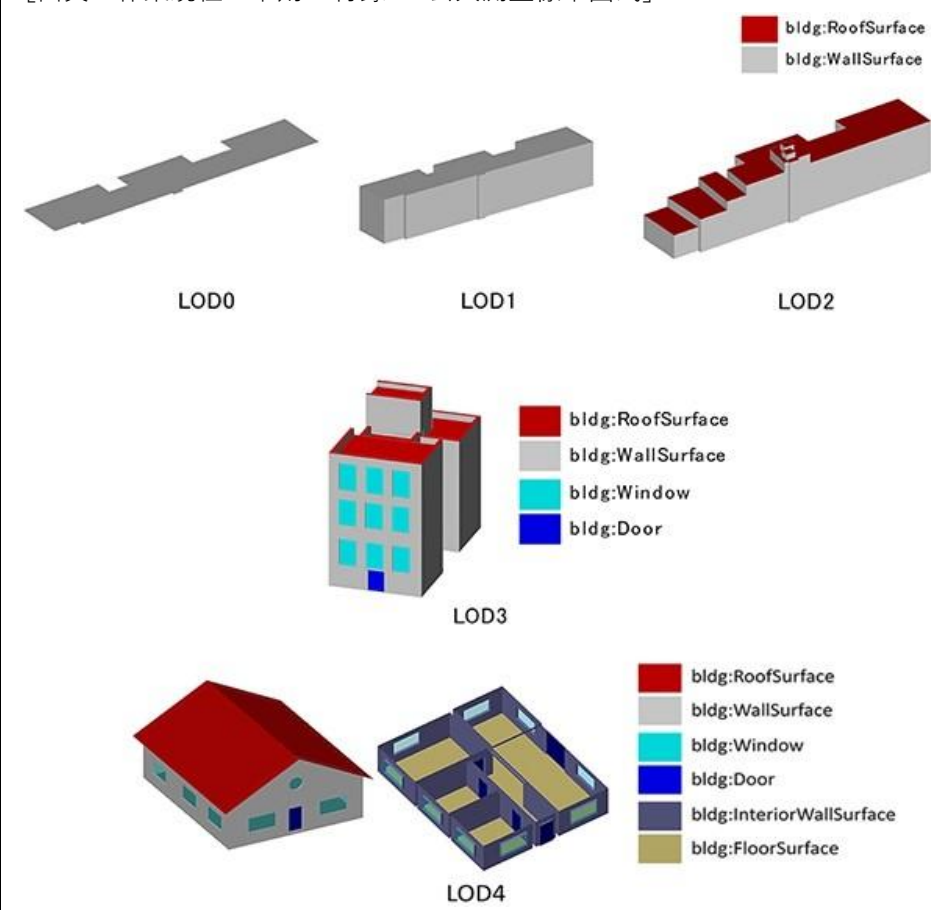
図4-17

4.2.3 建築物の応用スキーマ文書

4.2.3.1 Building (CityGML)

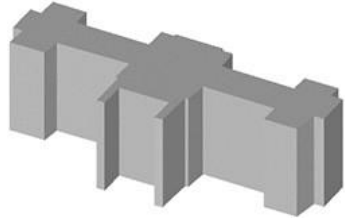
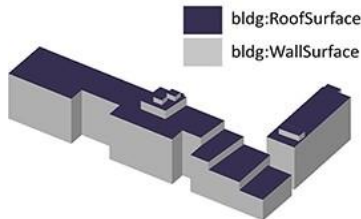
4.2.3.1.1 bldg:Building

表4-28

型の定義	<p>居住その他の目的をもって構築された建築物。 普通建物、堅ろう建物、普通無壁舎及び堅ろう無壁舎に区分する。 普通建物とは、3階未満の建物及び3階以上の木造等で建築された建物をいう。 堅ろう建物とは、鉄筋コンクリート等で建築された建物で、地上3階以上又は3階相当以上の高さのものやスタンドを備えた競技場をいう。 普通無壁舎とは、側壁のない建物、温室及び工場内の建物類似の構築物で、3階未満のものをいう。 堅ろう無壁舎とは、鉄筋コンクリート等で建築された側壁のない建物及び建物類似の構築物で、地上3階以上又は3階相当以上の高さのものをいう。 [出典：作業規程の準則 付録7 公共測量標準図式]</p>  <p>bldg:Buildingの例</p> <p>LOD0からLOD3 までは、建築物の屋外の形状を表現する。 LOD4では、建築物の屋外の形状に加え、屋内の形状を表現する。</p>
上位の型	bldg:_AbstractBuilding
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
bldg:class [_AbstractBuilding]	gml::CodeType [0..1]	形態による区分。コードリスト (Building_class.xml) より選択する。地下街の場合は使用しない。
bldg:function [_AbstractBuilding]	gml::CodeType [0..*]	主たる働き。標準製品仕様書では使用しない。
bldg:usage [_AbstractBuilding]	gml::CodeType [0..*]	主な使い道。 コードリスト (Building_usage.xml) より選択する。 用途の区分は、都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）による区分とする。複数の建築物で一体の施設を構成しているものについては、一体としての用途とする。店舗等併用住宅、同共同住宅、作業所併用住宅は、1/3以上が住宅のものとする。複合用途の建築物（商業系複合施設及び併用住宅を除く）については、主たる用途により分類する。複数の用途を記述する場合は、主たる用途を最初に記載する。
bldg:yearOfConstruction [_AbstractBuilding]	xs:gYear [0..1]	建築された年。
bldg:yearOfDemolition [_AbstractBuilding]	xs:gYear [0..1]	解体された年。
bldg:roofType [_AbstractBuilding]	gml::CodeType [0..1]	屋根形状の種類。コードリスト (Building_roofType.xml) より選択する。地下街の場合は使用しない。
bldg:measuredHeight [_AbstractBuilding]	gml::LengthType [0..1]	計測により取得した建築物の地上の最低点から最高点までの高さ。単位はm (uom="m") とする。地下街の場合は使用しない。
bldg:storeysAboveGround [_AbstractBuilding]	xs::nonNegativeInteger [0..1]	地上階の階数。地下街の場合は使用しない。
bldg:storeysBelowGround [_AbstractBuilding]	xs::nonNegativeInteger [0..1]	地下階の階数。
bldg:storeyHeightsAboveGround [_AbstractBuilding]	gml::MeasureOrNullListType [0..1]	地上の各階の高さを、地表面に最も近い階から列挙する。地下街の場合は使用しない。
bldg:storeyHeightsBelowGround [_AbstractBuilding]	gml::MeasureOrNullListType [0..1]	地下の各階の高さを、地表面に最も近い階から列挙する。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:address [_AbstractBuilding]	core:Address [0..*]	建築物に付与された住所。 CityGMLでは複数個の記述が可能（多重度[0..*]）であるが、標準製品仕様書では、最大1個とする。
bldg:boundedBy [_AbstractBuilding]	bldg:_BoundarySurface [0..*]	建築物を構成する外壁、屋根等の境界面。
bldg:consistsOfBuildingPart [_AbstractBuilding]	bldg:BuildingPart [0..*]	階数や屋根の種別が異なる複合的な一つの建築物を、複数の建築物の集まりとして記述する場合の、部品となる建築物。 bldg:BuildingのLOD2、LOD3又はLOD4においてのみ使用できる。 bldg:BuildingPartには使用しない。
bldg:interiorBuildingInstallation [_AbstractBuilding]	bldg:InteriorBuildingInstallation [0..*]	建築物の内部に付属する、階段、手すり、柱等の固定設備。 建築物の内部の外観を特徴づける設備であり、恒久的に設置されている、固定されたもののみを対象とする。 なお、bldg:interiorBuildingInstallationを用いて記述する内部の固定設備は、個々の部屋（bldg:Room）に属さない設備を対象とする。 個々の部屋に付属する設備は、bldg:Roomのbldg:roomInstallationとして記述する。 bldg:interiorBuildingInstallationにより建築物内部の付属物を取得する場合、この建築物には、必ずLOD4の形状（bldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurface）が無ければならない。
bldg:interiorRoom [_AbstractBuilding]	bldg:Room [0..*]	建築物の内部に存在する部屋。 bldg:interiorRoomにより建築物内部の部屋を取得する場合、この建築物には、必ずLOD4の形状（bldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurface）が無ければならない。
bldg:lod0FootPrint [_AbstractBuilding]	gml:MultiSurface [0..1]	地表面と外壁面との交線に囲まれた面。

		<p>bldg:lod0FootPrint又はbldg:lod0RoofEdgeのいずれか一方が出現する。 bldg:lod0RoofEdgeを使用することを原則とする。</p>
<p>bldg:lod0RoofEdge [_AbstractBuilding]</p>	<p>gml:MultiSurface [0..1]</p>	<p>建築物の上方からの正射影の外周。 bldg:lod0FootPrint又はbldg:lod0RoofEdgeのいずれか一方が出現する。 建築物のLOD0の形状は、建築物モデル（LOD0）の定義に従う。</p>
<p>bldg:lod1Solid [_AbstractBuilding]</p>	<p>gml:_Solid [0..1]</p>	<p>建築物の外周の上方からの正射影を取得し、地上から一律の高さを与えて上向きに押し出した立体。</p>  <p>LOD1 立体イメージ</p> <p>一律の高さは中央値を原則とする。</p>
<p>bldg:lod2MultiSurface [_AbstractBuilding]</p>	<p>gml:MultiSurface [0..1]</p>	<p>建築物の主要構造を保護又はこれに付随する設備の外形を示す面。 LOD2では、建築物をSolidにより記述するため、MultiSurfaceは使用しない。</p>
<p>bldg:lod2Solid [_AbstractBuilding]</p>	<p>gml:_Solid [0..1]</p>	<p>建築物の主要構造の外形を示す立体であり、屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）及び底面（GroundSurface）を境界面とする。</p>  <p>LOD2立体イメージ</p> <p>建築物をbldg:BuildingPartの集まりとして記述する場合、bldg:Buildingのlod2Solidは使用しない。</p>
<p>bldg:lod3MultiSurface [_AbstractBuilding]</p>	<p>gml:MultiSurface [0..1]</p>	<p>建築物の主要構造を保護又はこれに付随する設備の外形を示す面。 LOD3では、建築物をSolidにより記述するため、MultiSurfaceは使用しない。</p>
<p>bldg:lod3Solid [_AbstractBuilding]</p>	<p>gml:_Solid [0..1]</p>	<p>建築物の詳細な形状を示す立体であり、屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、底面（Ground Surface）及び開口部の面（境界面の内空として作成されている場合）を境界面とする。</p>

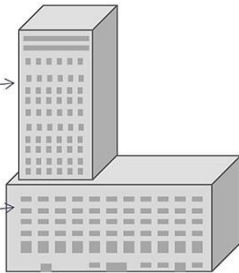
		 <p style="text-align: center;">LOD3立体イメージ</p> <p>建築物をbldg:BuildingPartの集まりとして記述する場合、bldg:Buildingのlod3Solidは使用しない。</p>
bldg:lod4MultiSurface [_AbstractBuilding]	gml:MultiSurface [0..1]	<p>建築物の詳細な形状を示す面の集まりであり、屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、及び底面（GroundSurface）から構成する。 bldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurfaceのいずれかが出現する。 BIMモデルからの変換により取得する場合はMultiSurfaceとする。</p>
bldg:lod4Solid [_AbstractBuilding]	gml:_Solid [0..1]	<p>建築物の詳細な形状を示す立体であり、屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、及び底面（GroundSurface）を境界面とする。 bldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurfaceのいずれかが出現する。 測量により取得する場合は、Solidとする。</p>
bldg:outerBuildingInstallation [_AbstractBuilding]	bldg:BuildingInstallation [0..*]	<p>建築物の外側に付属する小屋根、外階段、バルコニー等の設備。 建築物の外側の外観を特徴づける設備であり、恒久的に設置されているもののみを対象とする。</p>
uro:bldgDataQualityAttribute [_AbstractBuilding]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	<p>作成したデータの品質に関する情報。原則必須とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:Buildingがbldg:BuildingPartをもたない場合、bldg:Buildingの品質属性は必須とする。 ・ bldg:Buildingがbldg:BuildingPartをもち、bldg:BuildingPartが品質属性をもつ場合は、bldg:Buildingの品質属性は省略する。 ・ bldg:Buildingがbldg:BuildingPartをもち、bldg:BuildingPartが品質属性をもつ場合は、bldg:Buildingの品質属性は省略する。
uro:bldgDisasterRiskAttribute [_AbstractBuilding]	uro:DisasterRiskAttribute [0..*]	<p>当該建築物に対する災害リスクに関する情報。 i-URでは複数個の記述が可能（多重度[0..*]）であるが、標準製品仕様書では、uro:LandSlideRiskAttributeの出現回数は最大3回とする。 bldg:BuildingPartには使用しない。</p>
uro:bldgDmAttribute [_AbstractBuilding]	uro:DmAttribute [0..*]	<p>公共測量標準図式による図形表現に必要な情報。建築物の一部（bldg:BuildingPart）には使用しない。</p>
uro:bldgFacilityAttribute [_AbstractBuilding]	uro:FacilityAttribute [0..*]	<p>uro:bldgFacilityTypeAttributeによって指定された分野における施設管理情報。 bldg:BuildingPartには使用しない。</p>
uro:bldgFacilityIdAttribute [_AbstractBuilding]	uro:FacilityIdAttribute [0..1]	<p>uro:bldgFacilityTypeAttribute.classによって指定された分野における施設の識別情報。 bldg:BuildingPartには使用しない。</p>

uro:bldgFacilityTypeAttribute [_AbstractBuilding]	uro:FacilityTypeAttribute [0..*]	特定分野における施設の分類情報。 bldg:BuildingPartには使用しない。
uro:bldgKeyValuePairAttribute [_AbstractBuilding]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード型の属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。 bldg:BuildingPartには使用しない。
uro:bldgRealEstateIDAttribute [_AbstractBuilding]	uro:RealEstateIDAttribute [0..1]	建築物に紐づく不動産IDの情報。
uro:bldgUsecaseAttribute [_AbstractBuilding]	uro:BuildingUsecaseAttribute [0..1]	建築物を使用するユースケースのための属性。標準製品仕様書では使用しない。
uro:buildingDetailAttribute [_AbstractBuilding]	uro:BuildingDetailAttribute [0..*]	建築物に関する基礎的な情報。 bldg:BuildingPartにuro:buildingDetailAttributeが記述されている場合は、bldg:Buildingには出現しない。
uro:buildingIDAttribute [_AbstractBuilding]	uro:BuildingIDAttribute [1..1]	建築物の識別情報。必ず1つ作成する。
uro:ifcBuildingAttribute [_AbstractBuilding]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。bldg:BuildingPartには使用しない。 bldg:Buildingに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcProject uro:IfcBuilding uro:IfcSite uro:IfcCoordinateReferenceSystem uro:IfcProjectedCRS uro:IfcMapConversion uro:IfcPsetBuildingCommon uro:IfcPsetSiteCommon
uro:indoorBuildingAttribute [_AbstractBuilding]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。bldg:BuildingPartには使用しない。 bldg:Buildingに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IndoorFacilityAttribute uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute
uro:largeCustomerFacilityAttribute [_AbstractBuilding]	uro:LargeCustomerFacilityAttribute [0..*]	当該建築物が大規模集客施設である場合の立地状況への参照。大規模集客施設の場合にのみ付与する。 bldg:BuildingPartには使用しない。

4.2.3.1.2 bldg:BuildingPart

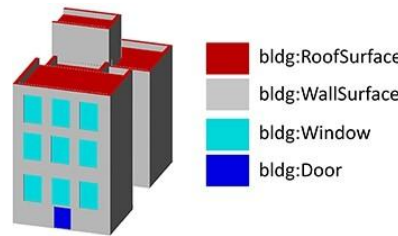
表4-29

型の定義	<p>建築物の一部。</p> <p>一棟の建築物が、複数の屋根の形状や階数が異なる部分、あるいは用途が異なる部分から構成されており、それぞれを属性として保持したい場合に、建築物を複数の部分として分けて記述するために用いる。</p> <p>この地物型を使用する場合、一つの建築物には、複数の建築物部分が存在しなければならない。</p> <p>また、一棟の建築物を構成する建築物部分は同じ建築物を構成する他の建築物部分と接していなければならない。</p>
------	---

	<div>2つのBuildingPartから構成されるBuildingとして作成</div> <div><div>BuildingPartとして取得</div><div>BuildingPartとして取得</div></div>  <p>この地物型は、LOD2、LOD3及びLOD 4 の建築物を記述する際に使用可能であるが、ユースケースにより、建築物と建築物部分を区分する必要がある場合には、建築物部分として分けて、一体的な建築物としてよい。</p>	
上位の型	bldg:_AbstractBuilding	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
bldg:class [_AbstractBuilding]	gml::CodeType [0..1]	形態による区分。コードリスト (Building_class.xml) より選択する。地下街の場合は使用しない。
bldg:function [_AbstractBuilding]	gml::CodeType [0..*]	主たる働き。標準製品仕様書では使用しない。
bldg:usage [_AbstractBuilding]	gml::CodeType [0..*]	主な使い道。 コードリスト (Building_usage.xml) より選択する。 用途の区分は、都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）による区分とする。複数の建築物で一体の施設を構成しているものについては、一体としての用途とする。店舗等併用住宅、同共同住宅、作業所併用住宅は、1/3 以上が住宅のものとする。複合用途の建築物（商業系複合施設及び併用住宅を除く）については、主たる用途により分類する。複数の用途を記述する場合は、主たる用途を最初に記載する。
bldg:yearOfConstruction [_AbstractBuilding]	xs:gYear [0..1]	建築された年。
bldg:yearOfDemolition [_AbstractBuilding]	xs:gYear [0..1]	解体された年。

bldg:roofType [_AbstractBuilding]	gml::CodeType [0..1]	屋根形状の種類。コードリスト (Building_roofType.xml) より選択する。地下街の場合は使用しない。
bldg:measuredHeight [_AbstractBuilding]	gml::LengthType [0..1]	計測により取得した建築物の地上の最低点から最高点までの高さ。単位はm(uom="m")とする。地下街の場合は使用しない。
bldg:storeysAboveGround [_AbstractBuilding]	xs::nonNegativeInteger [0..1]	地上階の階数。地下街の場合は使用しない。
bldg:storeysBelowGround [_AbstractBuilding]	xs::nonNegativeInteger [0..1]	地下階の階数。
bldg:storeyHeightsAboveGround [_AbstractBuilding]	gml::MeasureOrNullListType [0..1]	地上の各階の高さを、地表面に最も近い階から列挙する。地下街の場合は使用しない。
bldg:storeyHeightsBelowGround [_AbstractBuilding]	gml::MeasureOrNullListType [0..1]	地下の各階の高さを、地表面に最も近い階から列挙する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:address [_AbstractBuilding]	core:Address [0..*]	建築物に付与された住所。 CityGMLでは複数個の記述が可能（多重度[0..*]）であるが、標準製品仕様書では、最大1個とする。
bldg:boundedBy [_AbstractBuilding]	bldg:_BoundarySurface [0..*]	建築物を構成する外壁、屋根等の境界面。
bldg:consistsOfBuildingPart [_AbstractBuilding]	bldg:BuildingPart [0..*]	階数や屋根の種別が異なる複合的な一つの建築物を、複数の建築物の集まりとして記述する場合の、部品となる建築物。 bldg:BuildingのLOD2、LOD3又はLOD4においてのみ使用できる。 bldg:BuildingPartには使用しない。
bldg:interiorBuildingInstallation [_AbstractBuilding]	bldg:InteriorBuildingInstallation [0..*]	建築物の内部に付属する、階段、手すり、柱等の固定設備。 建築物の内部の外観を特徴づける設備であり、恒久的に設置されている、固定されたもののみを対象とする。

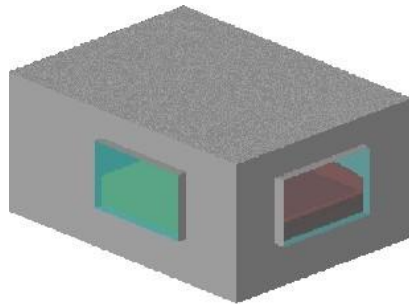
		<p>なお、bldg:interiorBuildingInstallationを用いて記述する内部の固定設備は、個々の部屋（bldg:Room）に属さない設備を対象とする。</p> <p>個々の部屋に付属する設備は、bldg:Roomのbldg:roomInstallationとして記述する。</p> <p>bldg:interiorBuildingInstallationにより建築物内部の付属物を取得する場合、この建築物には、必ずLOD4の形状（bldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurface）が無ければならない。</p>
bldg:interiorRoom [_AbstractBuilding]	bldg:Room [0..*]	<p>建築物の内部に存在する部屋。</p> <p>bldg:interiorRoomにより建築物内部の部屋を取得する場合、この建築物には、必ずLOD4の形状（bldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurface）が無ければならない。</p>
bldg:lod0FootPrint [_AbstractBuilding]	gml:MultiSurface [0..1]	<p>地表面と外壁面との交線に囲まれた面。</p> <p>bldg:lod0FootPrint又はbldg:lod0RoofEdgeのいずれか一方が出現する。</p> <p>bldg:lod0RoofEdgeを使用することを原則とする。</p>
bldg:lod0RoofEdge [_AbstractBuilding]	gml:MultiSurface [0..1]	<p>建築物の上方からの正射影の外周。</p> <p>bldg:lod0FootPrint又はbldg:lod0RoofEdgeのいずれか一方が出現する。</p> <p>建築物のLOD0の形状は、建築物モデル（LOD0）の定義に従う。</p>
bldg:lod1Solid [_AbstractBuilding]	gml:_Solid [0..1]	<p>建築物の外周の上方からの正射影を取得し、地上から一律の高さを与えて上向きに押し出した立体。</p> <div data-bbox="979 996 1329 1216" data-label="Image"> </div> <p>LOD1 立体イメージ</p> <p>一律の高さは中央値を原則とする。</p>
bldg:lod2MultiSurface [_AbstractBuilding]	gml:MultiSurface [0..1]	<p>建築物の主要構造を保護又はこれに付随する設備の外形を示す面。</p> <p>LOD2では、建築物をSolidにより記述するため、MultiSurfaceは使用しない。</p>
bldg:lod2Solid [_AbstractBuilding]	gml:_Solid [0..1]	<p>建築物の主要構造の外形を示す立体であり、屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）及び底面（GroundSurface）を境界面とする。</p> <div data-bbox="975 1610 1345 1827" data-label="Image"> </div> <p>LOD2 立体イメージ</p>

		建築物をbldg:BuildingPart の集まりとして記述する場合、bldg:Buildingのlod2Solidは使用しない。
bldg:lod3MultiSurface [_AbstractBuilding]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物の主要構造を保護又はこれに付随する設備の外形を示す面。 LOD3では、建築物をSolid により記述するため、MultiSurface は使用しない。
bldg:lod3Solid [_AbstractBuilding]	gml:_Solid [0..1]	<p>建築物の詳細な形状を示す立体であり、屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、底面（Ground Surface）及び開口部の面（境界面の内空として作成されている場合）を境界面とする。</p>  <p style="text-align: center;">LOD3立体イメージ</p> <p>建築物をbldg:BuildingPart の集まりとして記述する場合、bldg:Buildingのlod3Solidは使用しない。</p>
bldg:lod4MultiSurface [_AbstractBuilding]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物の詳細な形状を示す面の集まりであり、屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、及び底面（GroundSurface）から構成する。 bldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurfaceのいずれかが出現する。 BIMモデルからの変換により取得する場合はMultiSurfaceとする。
bldg:lod4Solid [_AbstractBuilding]	gml:_Solid [0..1]	建築物の詳細な形状を示す立体であり、屋根面（RoofSurface）、外壁面（WallSurface）、屋外床面（OuterFloorSurface）、屋外天井面（OuterCeilingSurface）、及び底面（GroundSurface）を境界面とする。 bldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurfaceのいずれかが出現する。 測量により取得する場合は、Solidとする。
bldg:outerBuildingInstallation [_AbstractBuilding]	bldg:BuildingInstallation [0..*]	建築物の外側に付属する小屋根、外階段、バルコニー等の設備。 建築物の外側の外観を特徴づける設備であり、恒久的に設置されているもののみを対象とする。
uro:bldgDataQualityAttribute [_AbstractBuilding]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	<p>作成したデータの品質に関する情報。原則必須とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:Buildingがbldg:BuildingPartをもたない場合、bldg:Buildingの品質属性は必須とする。 ・ bldg:Building がbldg:BuildingPartをもち、bldg:BuildingPartが品質属性をもつ場合は、bldg:Buildingの品質属性は省略する。 ・ bldg:Buildingがbldg:BuildingPartをもち、bldg:BuildingPartが品質属性をもつ場合は、bldg:Buildingの品質属性は省略する。
uro:bldgDisasterRiskAttribute [_AbstractBuilding]	uro:DisasterRiskAttribute [0..*]	当該建築物に対する災害リスクに関する情報。

		i-URでは複数個の記述が可能（多重度[0..*]）であるが、標準製品仕様書では、uro:LandSlideRiskAttributeの出現回数は最大3回とする。 bldg:BuildingPartには使用しない。
uro:bldgDmAttribute [_AbstractBuilding]	uro:DmAttribute [0..*]	公共測量標準図式による図形表現に必要な情報。建築物の一部（bldg:BuildingPart）には使用しない。
uro:bldgFacilityAttribute [_AbstractBuilding]	uro:FacilityAttribute [0..*]	uro:bldgFacilityTypeAttributeによって指定された分野における施設管理情報。 bldg:BuildingPartには使用しない。
uro:bldgFacilityIdAttribute [_AbstractBuilding]	uro:FacilityIdAttribute [0..1]	uro:bldgFacilityTypeAttribute.classによって指定された分野における施設の識別情報。 bldg:BuildingPartには使用しない。
uro:bldgFacilityTypeAttribute [_AbstractBuilding]	uro:FacilityTypeAttribute [0..*]	特定分野における施設の分類情報。 bldg:BuildingPartには使用しない。
uro:bldgKeyValuePairAttribute [_AbstractBuilding]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード型の属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。 bldg:BuildingPartには使用しない。
uro:bldgRealEstateIdAttribute [_AbstractBuilding]	uro:RealEstateIdAttribute [0..1]	建築物に紐づく不動産IDの情報。
uro:bldgUsecaseAttribute [_AbstractBuilding]	uro:BuildingUsecaseAttribute [0..1]	建築物を使用するユースケースのための属性。標準製品仕様書では使用しない。
uro:buildingDetailAttribute [_AbstractBuilding]	uro:BuildingDetailAttribute [0..*]	建築物に関する基礎的な情報。 bldg:BuildingPartにuro:buildingDetailAttributeが記述されている場合は、bldg:Buildingには出現しない。
uro:buildingIdAttribute [_AbstractBuilding]	uro:BuildingIdAttribute [1..1]	建築物の識別情報。必ず1つ作成する。
uro:ifcBuildingAttribute [_AbstractBuilding]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。bldg:BuildingPartには使用しない。 bldg:Buildingに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcProject uro:IfcBuilding uro:IfcSite uro:IfcCoordinateReferenceSystem uro:IfcProjectedCRS uro:IfcMapConversion uro:IfcPsetBuildingCommon uro:IfcPsetSiteCommon
uro:indoorBuildingAttribute [_AbstractBuilding]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。bldg:BuildingPartには使用しない。 bldg:Buildingに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IndoorFacilityAttribute uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute
uro:largeCustomerFacilityAttribute [_AbstractBuilding]	uro:LargeCustomerFacilityAttribute [0..*]	当該建築物が大規模集客施設である場合の立地状況への参照。大規模集客施設の場合にのみ付与する。 bldg:BuildingPartには使用しない。

4.2.3.1.3 bldg:Room

表4-30

型の定義	<div>壁、間仕切り、床、天井などで仕切られ、生活の場などに用いられる、建物内部の隔てられた空間の区画（部屋）。</div> <div></div> <div>bldg:Roomの例</div> <div>bldg:Roomは、bldg:Buildingに含まれる地物として記述する。 このとき、bldg:Roomは、複数の地物の集まりとして表現する。bldg:Roomに含まれる地物とは、以下である。 部屋を区切る境界面（bldg:_BoundarySurfaceの下位型） 部屋に付属する固定的な設備（bldg:InteriorBuildingInstallation） 部屋の中に設置された移動可能な家具（bldg:BuildingFurniture） さらに、部屋を区切る境界面及び部屋に付属する固定的な設備は、開口部（bldg:_Opening）の下位型を含むことができる。</div>	
上位の型	core:_CityObject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
bldg:class [Room]	gml::CodeType [0..1]	部屋の形態による区分。 コードリスト（ Room_class.xml）より選択する。
bldg:function [Room]	gml::CodeType [0..*]	部屋の主たる働き。 コードリスト（ Room_function.xml）より選択する。

bldg:usage [Room]	gml::CodeType [0..*]	部屋の主な使い道。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
bldg:boundedBy [Room]	bldg:_BoundarySurface [0..*]	部屋の外形を示す境界面。 境界面は、内壁面 (bldg:InteriorWallSurface)、天井面 (bldg:CeilingSurface)、床面 (bldg:FloorSurface) 又は閉鎖面 (bldg:ClosureSurface) のいずれかでなければならない。
bldg:interiorFurniture [Room]	bldg:BuildingFurniture [0..*]	部屋に設置された移動可能な家具 (bldg:BuildingFurniture)。
bldg:lod4MultiSurface [Room]	gml:MultiSurface [0..1]	部屋の主要構造の外形を示す面の集まり。 gml:MultiSurfaceを構成するgml:Polygonは、以下のいずれかの地物のLOD4幾何オブジェクトに含まなければならない。 <ul style="list-style-type: none"> 境界面 (bldg:_BoundarySurface) 及びその開口部 (bldg:_Opening) : ただし、境界面は、このbldg:Roomが、関連役割bldg:boundedByにより参照する境界面であること。また、開口部は、その境界面に包含されていること。 屋内付属物 (bldg:InteriorBuildingInstallation) の境界面及びその開口部 : ただし、屋内付属物は、このbldg:Roomが、関連役割bldg:roomInstallationにより参照する付属物であること。また、開口部はその付属物に包含されていること。 bldg:lod4Solidを作成しない場合は、bldg:lod4MultiSurfaceを必ず作成する。
bldg:lod4Solid [Room]	gml:_Solid [0..1]	部屋の外形を示す立体。 gml:Solidを構成するgml:Polygonは、以下のいずれかの地物のLOD4幾何オブジェクトに含まなければならない。

		<ul style="list-style-type: none"> 境界面 (bldg:_BoundarySurface) 及びその開口部 (bldg:_Opening) ただし、境界面は、このbldg:Roomが、関連役割bldg:boundedByにより参照する境界面であること。また、開口部は、その境界面に包含されていること。 屋内付属物 (bldg:IntBuildingInstallation) の境界面及びその開口部 ただし、屋内付属物は、このbldg:Roomが、関連役割bldg:roomInstallationにより参照する付属物であること。また、開口部はその付属物に包含されていること。 <p>bldg:lod4Solid 又はbldg:lod4MultiSurface のいずれかを必須とするが、bldg:lod4Solidにより記述することを基本とする。</p>
bldg:roomInstallation [Room]	bldg:IntBuildingInstallation [0..*]	部屋に設置された屋内付属物 (bldg:IntBuildingInstallation) 。
uro:ifcRoomAttribute [Room]	uro:IfcAttribute [0..*]	<p>IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。bldg:Roomに付与可能なデータ型は以下とする。</p> <p>uro:IfcPsetSpaceCommon uro:IfcSpace uro:IfcSpaceBaseQuantity uro:IfcClassificationReference</p>
uro:indoorRoomAttribute [Room]	uro:IndoorAttribute [0..*]	<p>屋内ナビゲーションに必要な情報。</p> <p>bldg:Roomに付与可能なデータ型は以下とする。</p> <p>uro:IndoorSpaceAttribute uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute</p>

4.2.3.1.4 bldg:RoofSurface

表4-31

型の定義	<p>主に建築物の上部を覆う構造物。</p> <div data-bbox="863 1317 1238 1666" data-label="Image"> </div> <p>bldg:RoofSurfaceの例</p>
上位の型	bldg:_BoundarySurface
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD2）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD3）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD4）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内

		壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。 LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。 bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:ifcBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。 ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcWall uro:IfcWallStandardCase uro:IfcCurtainWall このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcWall、IfcWallStandardCase又はIfcCurtainWallとなる。 ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterFloorSurface に付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab となる。 ・ bldg:OuterCeilingSurface、bldg:InteriorWallSurface、bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurface及びbldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:indoorBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で使用する。 bldg:InteriorWallSurface bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用すること。

4.2.3.1.5 bldg:WallSurface

表4-32

型の定義	建築物の外周を構成する壁面（外壁面）。
------	---------------------

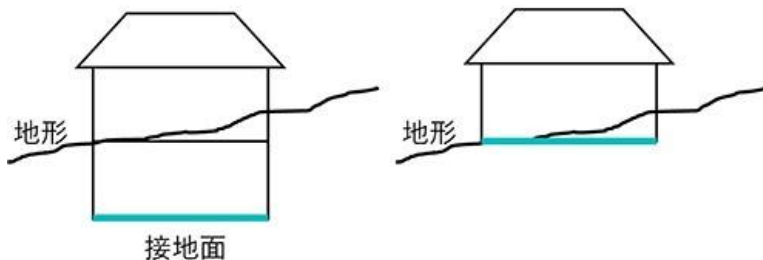
<div><div></div><div>bldg:WallSurfaceの例</div><div>カーテンウォールはbldg:WallSurfaceにより表現する。 カーテンウォールとは、建築物の外側に配置され、建築物を囲む非耐荷重の壁である。 [出典: ISO 6707-1]</div></div>		
上位の型	bldg:_BoundarySurface	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD2）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD3）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD4）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。 LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。 bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:ifcBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。 ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcWall uro:IfcWallStandardCase uro:IfcCurtainWall このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcWall、IfcWallStandardCase又はIfcCurtainWallとなる。 ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterFloorSurface に付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement

		<p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementType の値はIfcSlab となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:OuterCeilingSurface、 bldg:InteriorWallSurface、 bldg:CeilingSurface、 bldg:FloorSurface及びbldg:Closure Surfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:indoorBoundarySurface Attribute [_BoundarySurface]	uro:IndoorAttribute [0..*]	<p>屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で使用する。</p> <p>bldg:InteriorWallSurface bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface</p> <p>なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用すること。</p>

4.2.3.1.6 bldg:GroundSurface

表4-33

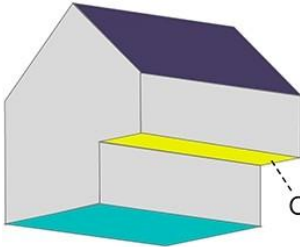
型の定義	建築物の立体形状の底面。 建築物の底面又は建築物の外壁面と地表面との交線を境界とする面を取得する。  bldg:GroundSurface	
上位の型	bldg:_BoundarySurface	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD2）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD3）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD4）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。 LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。 bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:ifcBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。 ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。

		uro:lfcWall uro:lfcWallStandardCase uro:lfcCurtainWall このとき、uro:lfcBuildingElement の属性uro:elementType の値はlfcWall、lfcWallStanadrdCase又はlfcCurtainWallと なる。 ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下 とする。 uro:lfcBuildingElement このとき、uro:lfcBuildingElement の属性uro:elementType の値はlfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterFloorSurface に付与可能なデータ型は以 下とする。 uro:lfcBuildingElement このとき、uro:lfcBuildingElement の属性uro:elementType の値はlfcSlab となる。 ・ bldg:OuterCeilingSurface、bldg:InteriorWallSurface、 bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurface及びbldg:Closure Surfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:indoorBoundarySurface Attribute [_BoundarySurface]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で 使用する。 bldg:InteriorWallSurface bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、 それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用 すること。

4.2.3.1.7 bldg:OuterCeilingSurface

表4-34

型の定義	建築物の外側を覆う部分であり、天井としての機能を有する部分。 <div></div> <p>bldg:OuterCeilingSurfaceの例</p> <p>ユースケースで屋外の天井と外壁面との区分が必要な場合に、bldg:OuterCeiling Surfaceを使用する。</p> <p>ユースケースで屋外の天井と外壁面との区分が不要な場合には、この型は使用せず、bldg:WallSurfaceを使用する。</p>	
上位の型	bldg:_BoundarySurface	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。

gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD2）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD3）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD4）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。

		<p>LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。</p> <p>bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。</p>
<p>uro:ifcBoundarySurfaceAttribute</p> <p>[_BoundarySurface]</p>	<p>uro:IfcAttribute [0..*]</p>	<p>IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof <p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcWall uro:IfcWallStandardCase uro:IfcCurtainWall <p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcWall、IfcWallStandardCase又はIfcCurtainWallとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcBuildingElement <p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:OuterFloorSurface に付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement <p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:OuterCeilingSurface、bldg:InteriorWallSurface、bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurface及びbldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
<p>uro:indoorBoundarySurfaceAttribute</p> <p>[_BoundarySurface]</p>	<p>uro:IndoorAttribute [0..*]</p>	<p>屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で使用する。</p> <p>bldg:InteriorWallSurface bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface</p> <p>なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用すること。</p>

4.2.3.1.8 bldg:OuterFloorSurface

表4-35

型の定義	<p>建築物の外側を覆う部分であり、通行可能な床面としての機能を有する部分。例えば、屋上や通路として利用されている面が該当する。</p>
------	--



OuterFloorSurface

OuterFloorSurfaceの例

ユースケースで通行可能な床面と屋根面の区分が必要な場合に、bldg:OuterFloorSurfaceを使用する。
ユースケースで通行可能な床面と屋根面との区分が不要な場合には、この型は使用せず、bldg:RoofSurfaceを使用する。

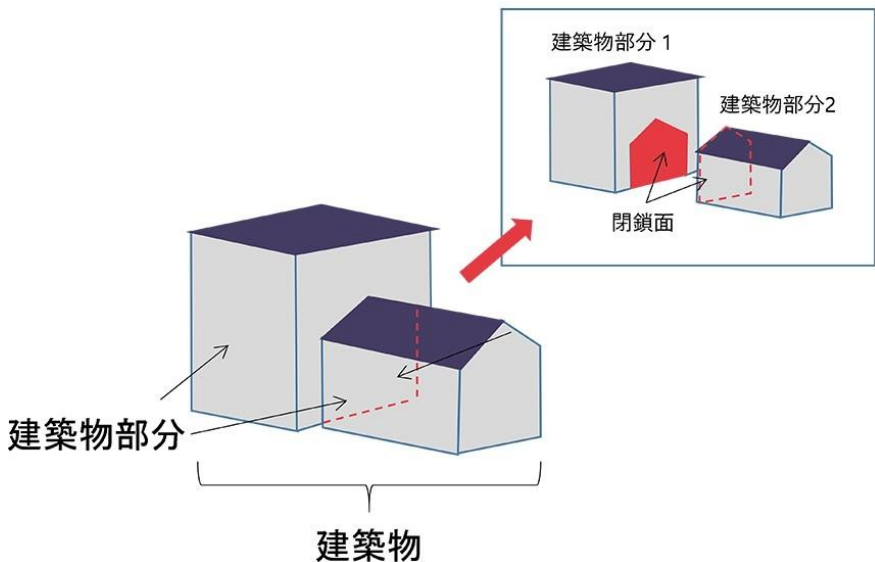
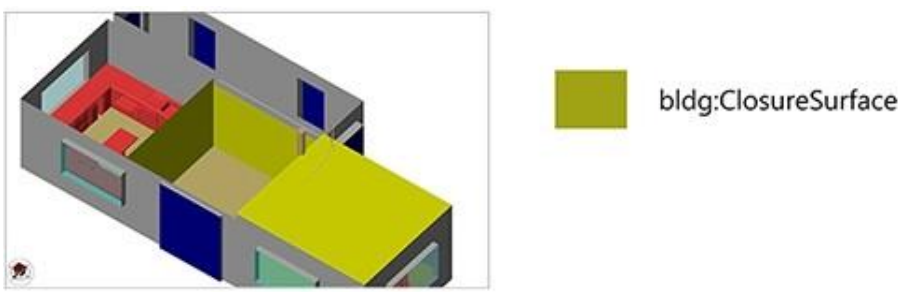
上位の型	bldg:_BoundarySurface	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

[_CityObject]		
bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD2）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD3）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD4）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。 LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。 bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:ifcBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。 ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcWall uro:IfcWallStandardCase uro:IfcCurtainWall このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcWall、IfcWallStandardCase又はIfcCurtainWallとなる。 ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterFloorSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterCeilingSurface、bldg:InteriorWallSurface、bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurface及びbldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:indoorBoundarySurfaceAttribute	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で使用する。

[_BoundarySurface]	bldg:InteriorWallSurface bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用すること。
----------------------	---

4.2.3.1.9 bldg:ClosureSurface

表4-36

型の定義	<p>建築物の立体又は部屋の立体を構成するために仮想的に設ける閉鎖面。一棟の建築物を、主題属性の異なる複数の部分に分ける場合に、その境界面として使用する。</p>  <p style="text-align: center;">建築物</p> <p style="text-align: center;">LOD2又はLOD3でのbldg:ClosureSurfaceの例</p> <p>屋内においては、境界面となる内壁面や天井面、床面はないが、建築確認申請では部屋となっている空間を区切る場合に、部屋の境界面として便宜上設けられた仮想的な面をさす。</p>  <p style="text-align: center;">LOD4でのbldg:ClosureSurfaceの例</p>
------	---

		
LOD4でのbldg:ClosureSurfaceを非表示にした例		
上位の型	bldg:_BoundarySurface	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル (LOD2) において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル (LOD3) において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル (LOD4) において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。 LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。 bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:ifcBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof このとき、uro:IfcBuildingElementの属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。 ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcWall uro:IfcWallStandardCase uro:IfcCurtainWall このとき、uro:IfcBuildingElementの属性uro:elementTypeの値はIfcWall、IfcWallStandardCase又はIfcCurtainWallとなる。 ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElementの属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterFloorSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElementの属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterCeilingSurface、bldg:InteriorWallSurface、bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurface及びbldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:indoorBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で使用する。 bldg:InteriorWallSurface

		bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用すること。
--	--	---

4.2.3.1.10 bldg:InteriorWallSurface

表4-37

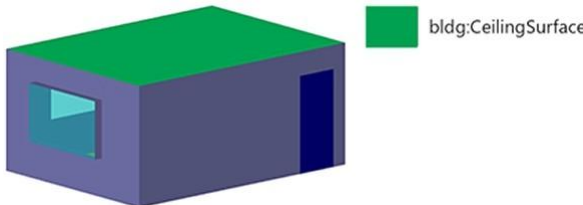
型の定義			建築物の内側に向けた壁や仕切り。部屋（bldg:Room）の立体を構成する垂直方向の境界面となる。
			bldg:InteriorWallSurface
bldg:InteriorWallSurfaceの例			CityGMLでは、壁は面として表現し、1つの壁は、内側の面と外側の面の2つの面として表現する。 例えば、屋外と屋内を仕切る壁があった場合、屋外に面する壁の面は、bldg:WallSurface（外壁面）として表現し、屋内に面する壁の面は、bldg:InteriorWallSurface（内壁面）として表現する。このとき、bldg:WallSurfaceと、bldg:InteriorWallSurfaceとの間（壁の厚みに相当する空間）には何も存在しない。 bldg:InteriorWallSurfaceの法線ベクトルは、部屋の内側を向く。
上位の型			bldg:_BoundarySurface
ステレオタイプ			<< FeatureType >>
継承する属性			
属性名	属性の型及び多重度	定義	
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。	
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。	
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。	
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。	
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。	
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。	
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。	

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD2）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD3）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD4）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。 LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。 bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:ifcBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。 ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。

		uro:IfcWall uro:IfcWallStandardCase uro:IfcCurtainWall このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementType の値はIfcWall、IfcWallStandardCase又はIfcCurtainWallと なる。 ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下 とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementType の値はIfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterFloorSurface に付与可能なデータ型は以 下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementType の値はIfcSlab となる。 ・ bldg:OuterCeilingSurface、bldg:InteriorWallSurface、 bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurface及びbldg:Closure Surfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:indoorBoundarySurface Attribute [_BoundarySurface]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で 使用する。 bldg:InteriorWallSurface bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、 それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用 すること。

4.2.3.1.11 bldg:CeilingSurface

表4-38

型の定義	部屋など構造物内部の上側の面（天井）。部屋（bldg:Room）の境界面となる。	
		
	bldg:CeilingSurfaceの例	
	bldg:CeilingSurfaceの法線ベクトルは下向き（部屋の内側に向く方向が正）となる。	
上位の型	bldg:_BoundarySurface	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD2）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD3）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD4）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。 LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。

		bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:ifcBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IfcAttribute [0..*]	<p>IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof <p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcWall uro:IfcWallStandardCase uro:IfcCurtainWall <p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcWall、IfcWallStandardCase又はIfcCurtainWallとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcBuildingElement <p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:OuterFloorSurface に付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement <p>このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:OuterCeilingSurface、bldg:InteriorWallSurface、bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurface及びbldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:indoorBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IndoorAttribute [0..*]	<p>屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で使用する。 bldg:InteriorWallSurface bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface</p> <p>なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用すること。</p>

4.2.3.1.12 bldg:FloorSurface

表4-39

型の定義	建物の内部空間の各階下面に位置する水平で平らな板状の構造物（床面）。部屋（bldg:Room）の境界面となる。
------	---

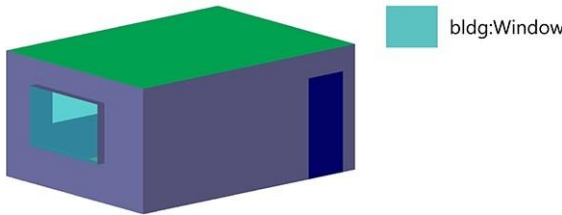
<div></div> <div>bldg:FloorSurfaceの例</div> <p>bldg:FloorSurfaceの法線ベクトルは上向き（部屋の内側に向く方向が正）となる。</p>		
上位の型	bldg:_BoundarySurface	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

[_CityObject]		
bldg:lod2MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD2）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod3MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD3）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。
bldg:lod4MultiSurface [_BoundarySurface]	gml:MultiSurface [0..1]	建築物モデル（LOD4）において境界面の形状・起伏を再現した面。 取得基準及び取得方法は、建築物のLOD定義に従う。 bldg:ClosureSurfaceの場合は、BuildingPartと連続する他のBuildingPartとの境界線により囲まれた面又は内壁面、天井面若しくは床面が無いが建築確認申請上部屋として区分されている空間を区切る面。
bldg:opening [_BoundarySurface]	bldg:_Opening [0..*]	境界面に設置される、窓や扉への参照。LOD3又はLOD4の空間属性。 LOD3又はLOD4の空間属性をもつ場合のみ開口部への参照を作成できる。 bldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:ifcBoundarySurfaceAttribute [_BoundarySurface]	uro:IfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:RoofSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement uro:IfcRoof このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab又はIfcRoofとなる。 ・ bldg:WallSurfaceに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcWall uro:IfcWallStandardCase uro:IfcCurtainWall このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcWall、IfcWallStandardCase又はIfcCurtainWallとなる。 ・ bldg:GroundSurfaceに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlabとなる。 ・ bldg:OuterFloorSurface に付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElement の属性uro:elementTypeの値はIfcSlab となる。 ・ bldg:OuterCeilingSurface、bldg:InteriorWallSurface、bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurface及びbldg:ClosureSurfaceの場合、本関連役割は使用しない。
uro:indoorBoundarySurfaceAttribute	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。以下の地物型で使用する。

[_BoundarySurface]	bldg:InteriorWallSurface bldg:CeilingSurface bldg:FloorSurface なお、uro:IndoorAttributeは抽象クラスであるため、それぞれの地物型はこれを継承する具象クラスを使用すること。
----------------------	---

4.2.3.1.13 bldg:Window

表4-40

型の定義	<div>採光、通風、換気、眺望などの目的のため、建築物の屋根又は壁、部屋の天井、壁、床に設けられた開口部のうち、人や物の出入りを目的としないもの。</div> <div></div> <div>bldg:Windowの例</div> <div>CityGMLでは、窓を面として表現し、一つの窓を外側と内側の二つのbldg:Windowのオブジェクトとして表現する。 例えば、屋内と屋外をつなぐ窓があった場合、外側となるbldg:Windowは、建築物の外壁面（bldg:WallSurface）等の境界面に含まれる。 内側となるbldg:Windowは、部屋の内壁面（bldg:InteriorWallSurface）等の境界面に含まれる。 このとき、屋外の境界面（bldg:WallSurface、bldg:GroundSurface、bldg:OuterFloorSurface、bldg:OuterCeilingSurface）に設けられた開口部は、常にその法線ベクトルが建築物の外側を向く。部屋の境界面（bldg:InteriorWallSurface、bldg:FloorSurface、bldg:CeilingSurface）に設けられた開口部は、常にその法線ベクトルが部屋の内側を向く。</div>	
上位の型	bldg:_Opening	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:lod3MultiSurface [_Opening]	gml:MultiSurface [0..1]	開口部の外周に囲まれた面。必須とする。
bldg:lod4MultiSurface [_Opening]	gml:MultiSurface [0..1]	開口部の外周に囲まれた面。必須とする。
uro:ifcOpeningAttribute [_Opening]	uro:lfcAttribute [0..*]	DM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:Windowに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:lfcOpeningElement uro:lfcWindow uro:lfcPsetOpeningElementCommon uro:lfcPsetWindowCommon ・ bldg:Doorに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:lfcOpeningElement uro:lfcDoor uro:lfcPsetOpeningElementCommon uro:lfcPsetDoorCommon
uro:indoorOpeningAttribute [_Opening]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。 <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:Windowに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute ・ bldg:Doorに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute

4.2.3.1.14 bldg:Door

表4-41

型の定義	<div>採光、通風、換気、眺望、通行などの目的のため、建築物の屋根、天井、壁、床などに設けられた開口部のうち、人や物の出入りを目的とするもの。</div> <div></div> <div>bldg:Doorの例</div> <div>CityGMLでは、扉を面として表現し、一つの扉を外側と内側の二つのbldg:Doorのオブジェクトとして表現する。 例えば、屋内と屋外をつなぐ窓があった場合、外側となるbldg:Doorは、建築物の外壁面（bldg:WallSurface）等の境界面に含まれる。 内側となるbldg:Doorは、部屋の内壁面（bldg:InteriorWallSurface）等の境界面に含まれる。 このとき、屋外の境界面（bldg:WallSurface、bldg:GroundSurface、bldg:OuterFloorSurface、bldg:OuterCeilingSurface）に設けられた開口部は、常にその法線ベクトルが建築物の外側を向く。部屋の境界面（bldg:InteriorWallSurface、bldg:FloorSurface、bldg:CeilingSurface）に設けられた開口部は、常にその法線ベクトルが部屋の内側を向く。</div>	
上位の型	bldg:_Opening	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
<code>gml:description</code> [_Feature]	<code>gml:StringOrRefType</code> [0..1]	都市オブジェクトの概要。
<code>gml:name</code> [_Feature]	<code>gml::CodeType</code> [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
<code>gml:boundedBy</code> [_Feature]	<code>gml::Envelope</code> [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
<code>core:creationDate</code> [_CityObject]	<code>xs:date</code> [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
<code>core:terminationDate</code> [_CityObject]	<code>xs:date</code> [0..1]	データが削除された日。
<code>core:relativeToTerrain</code> [_CityObject]	<code>core::RelativeToTerrainType</code> [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
<code>core:relativeToWater</code> [_CityObject]	<code>core::RelativeToWaterType</code> [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
<code>core:externalReference</code> [_CityObject]	<code>core:ExternalReference</code> [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
<code>gen:dateAttribute</code>	<code>gen:dateAttribute</code> [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
bldg:lod3MultiSurface [_Opening]	gml:MultiSurface [0..1]	開口部の外周に囲まれた面。必須とする。
bldg:lod4MultiSurface [_Opening]	gml:MultiSurface [0..1]	開口部の外周に囲まれた面。必須とする。
uro:ifcOpeningAttribute [_Opening]	uro:lfcAttribute [0..*]	DM・MVDで定義されるIFCのクラス及びプロパティセットに含まれる情報。 <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:Windowに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:lfcOpeningElement uro:lfcWindow uro:lfcPsetOpeningElementCommon uro:lfcPsetWindowCommon ・ bldg:Doorに付与可能なデータ型は、以下とする。 uro:lfcOpeningElement uro:lfcDoor uro:lfcPsetOpeningElementCommon uro:lfcPsetDoorCommon
uro:indoorOpeningAttribute [_Opening]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。 <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:Windowに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute ・ bldg:Doorに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
bldg:address [Door]	core:Address [0..*]	扉に紐づけられた住所。 CityGMLでは複数個の記述が可能（多重度[0..*]）であるが、標準製品仕様書では、最大1個とする。

4.2.3.1.15 bldg:BuildingInstallation

表4-42

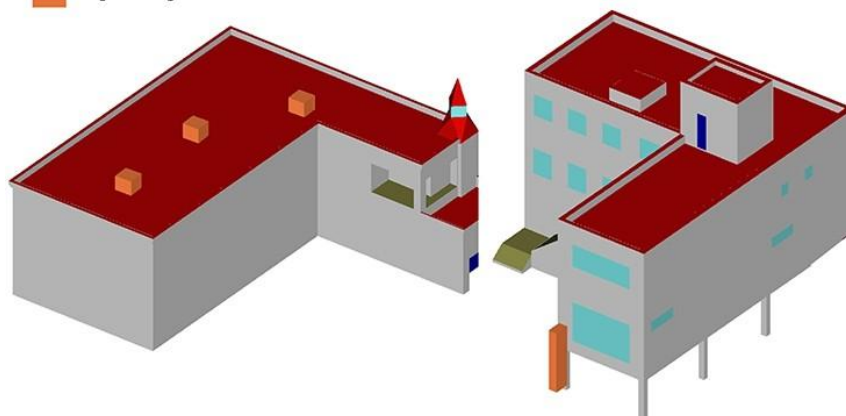
型の定義	建築物の外側（屋外）に設置され、建築物の外観を特徴づける設備。
------	---------------------------------

建築物の付帯的な設備であり、主要な部分であってはならない。また、建築物（bldg:Building）と接していなければならない。

建築物の屋外付属物には以下を含む。ただし、全て屋外に設置され、建築物と接するもののみを対象とする。

バルコニー、ポーチ、アーケード、テラス、サンテラス、回廊、エントランスホール、ダクト、装飾的な柱、デッキ、屋根飾り、出窓、ドーマー、（建築物の一部としての）煙突、看板、換気口、（建築物の一部としての）塔、階段、カーポート、物置、アンテナ、外階段や歩道に設けられた屋根、手すり、スロープ、パネル（内装・外装の仕上げ等で利用される板材）、エレベータ、エスカレータ、動く歩道など。

 bldg:BuildingInstallation

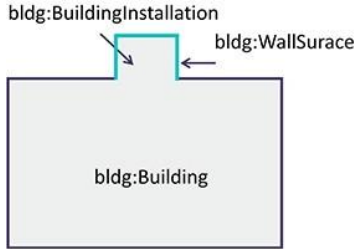


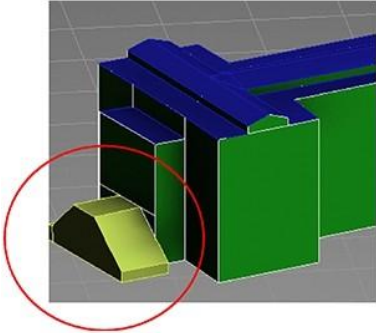
bldg:BuildingInstallationの例

（左：屋根面に設置された建築物の屋外付属物 右：外壁面に設置された建築物の屋外付属物）

ユースケースの要求に応じて、取得対象とする建築物の屋外付属物を限定してもよく、また、建築物の屋外付属物として取得せず建築物の一部として取得してもよい。

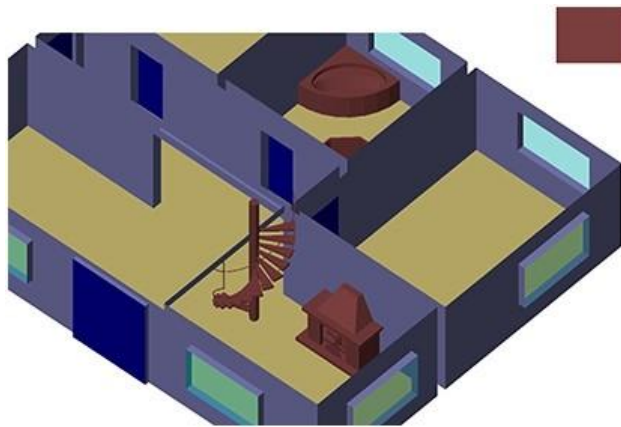
上位の型	core:_CityObject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

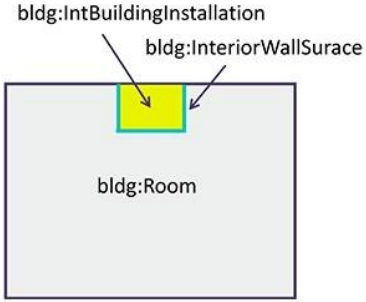
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
bldg:class [BuildingInstallation]	gml::CodeType [0..1]	建築物の屋外付属物の形態による区分。コードリスト（BuildingInstallation_class.xml）より選択する。建築物の外側に取り付けられた付属物の場合は、1000となる。
bldg:function [BuildingInstallation]	gml::CodeType [0..*]	建築物の屋外付属物の主たる働き。コードリスト（BuildingInstallation_function.xml）より選択する。
bldg:usage [BuildingInstallation]	gml::CodeType [0..*]	建築物の屋外付属物の主な使い道。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
bldg:boundedBy [BuildingInstallation]	bldg:_BoundarySurface [0..*]	<p>建築物の屋外付属物を構成する外壁、屋根等の境界面への参照。建築物の屋外付属物の境界面が建築物（bldg:Building）の境界面となる場合にのみ作成する。</p> <p>例えば、下図（平面図）のように建築物に建築物の屋外付属物があった場合、この建築物の屋外付属物を含む空間（gml:Solid）をBuildingとしたい場合は、建築物の屋外付属物の境界面を外壁面（bldg:WallSurface）とする。</p>  <p style="text-align: center;">bldg:BuildingInstallationの境界面の例</p>

		建築物の空間に建築物の屋外付属物を含まない場合は、建築物の屋外付属物を構成する面を、境界面（ bldg: BoundarySurface ）に区別する必要はない。
bldg:lod2Geometry [BuildingInstallation]	gml:_Geometry [0..1]	<p>建築物の屋外付属物のLOD2の形状。屋外付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得し、面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。各面は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう取得する。 gml:MultiSurfaceを使用することを基本とする。 容積の算出等、ユースケースで必要な場合はgml:Sol-idを使用する。</p>  <p>bldg:BuildingInstallationの取得例（屋外階段）</p>
bldg:lod3Geometry [BuildingInstallation]	gml:_Geometry [0..1]	<p>建築物の屋外付属物のLOD3の形状。屋外付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得し、面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。各面は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう取得する。 gml:MultiSurfaceを使用することを基本とする。容積の算出等、ユースケースで必要な場合はgml:Solidを使用する。</p>
bldg:lod4Geometry [BuildingInstallation]	gml:_Geometry [0..1]	<p>建築物の屋外付属物のLOD4の外形。屋外付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得し、面の各頂点に屋外付属物の高さを与える。各面は、データセットが採用する地図情報レベルの水平及び高さの誤差の標準偏差に収まるよう取得する。 gml:MultiSurfaceにより記述することを基本とする。容積の算出等、ユースケースで必要な場合はgml:Sol-idを使用する。</p>
uro:ifcBuildingInstallationAttribute [BuildingInstallation]	uro:IfcAttribute [0..*]	<p>IDM・MVDで定義されるIFCに含まれる情報。 bldg:BuildingInstallationに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IfcBuildingElement このとき、uro:IfcBuildingElementの属性uro:elementTypeの値はIfcBeam、IfcColumn、IfcPlate、IfcRailing、IfcRamp、IfcRampFlight、IfcSlab、IfcStair、IfcStairFlight、IfcBuildingElementProxy、IfcTransportElementのいずれかとなる。</p>

4.2.3.1.16 bldg:IntBuildingInstallation

表4-43

型の定義	<p>建築物の内側に設置された、恒久的に存在する固定的な設備（屋内付属物）。</p> <p>屋内付属物は、建築物の付帯的な設備であり、主要な部分であってはならない。また、屋内付属物は、建築物（bldg:Building）又は部屋（bldg:Room）と接していなければならない。</p> <div><p style="text-align: right;">IntBuildingInstallation</p></div> <p style="text-align: center;">bldg:IntBuildingInstallationの例（階段、手すり）</p> <p>LOD4では、この屋内付属物を含む建築物に適用されたLOD4の細分に従い、以下を取得する。</p> <p>LOD4.0：屋内付属物を取得しない（bldg:IntBuildingInstallationは取得しない）。</p> <p>LOD4.1：階段、スロープ、輸送設備（エレベータ、エスカレータ及び動く歩道）、柱、デッキ・ステージ</p> <p>LOD4.2：LOD4.1の取得対象に加え、梁・手すり・パネル等の全ての建築物の屋外付属物及び全ての建築物の屋外付属物</p>		
上位の型	core:_CityObject		
ステレオタイプ	<< FeatureType >>		
継承する属性			
属性名	属性の型及び多重度	定義	
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。	
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。	
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。	
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。	
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。	
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。	
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。	

自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
bldg:class [IntBuildingInstallation]	gml:CodeType [0..1]	屋内付属物の形態による区分。コードリスト (IntBuildingInstallation_class.xml) より選択する。
bldg:function [IntBuildingInstallation]	gml:CodeType [0..*]	屋内付属物の主たる働き。コードリスト (IntBuildingInstallation_function.xml) より選択する。
bldg:usage [IntBuildingInstallation]	gml:CodeType [0..*]	屋内付属物の主な使い道。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
bldg:boundedBy [IntBuildingInstallation]	bldg:_BoundarySurface [0..*]	<p>屋内付属物を構成する内壁、天井等の境界面への参照。屋内付属物の境界面が部屋 (bldg:Room) の境界面となる場合にのみ作成する。 例えば、下図 (平面図) のように部屋内に屋内付属物があった場合、この屋内付属物を除く空間 (gml:Solid) をRoomとしたい場合は、屋内付属物の境界面を内壁面 (bldg:InteriorWallSurface) とする。</p>  <p>The diagram illustrates a room (bldg:Room) as a light gray rectangle. Inside the room, there is a yellow square representing an interior wall surface (bldg:InteriorWallSurface). A label 'bldg:IntBuildingInstallation' with an arrow points to the yellow square. Another label 'bldg:InteriorWallSurface' with an arrow points to the boundary of the yellow square. The label 'bldg:Room' is placed inside the gray rectangle.</p> <p>bldg:IntBuildingInstallationの境界面の取得例</p>

		<p>ただし、部屋の空間から屋内付属物を除く必要が無い場合は、屋内付属物の形状を構成する面を、境界面 (bldg:BoundarySurface) にする必要はない。</p> <p>また、ユースケースによりエレベータの出入口を、エレベータの扉を使って表現する必要がある場合は、bldg:boundedBy 関連役割により、エレベータの扉が存在する境界面を内壁面 (bldg:InteriorWallSurface) として区分し、この内壁面に扉 (bldg:Door) を作成することでエレベータの扉を表現可能となる。</p>
bldg:lod4Geometry [IntBuildingInstallation]	gml:_Geometry [0..1]	<p>屋内付属物のLOD4の外形。</p> <p>屋内付属物の外形（外側から見える形）を構成する面を取得する。面の各頂点に屋内付属物の高さを与える。</p> <p>gml:MultiSurfaceにより記述することを基本とする。容積の算出等ユースケースで必要な場合は、gml:Solidを使用する。</p>
uro:ifcIntBuildingInstallationAttribute [IntBuildingInstallation]	uro:ifcAttribute [0..*]	<p>IDM・MVDで定義されるIFCに含まれる情報。 bldg:IntBuildingInstallationに使用可能なデータ型は以下とする。</p> <p>uro:ifcBuildingElement</p> <p>このとき、uro:ifcBuildingElement の属性 uro:elementType の値は適用されたLOD4の詳細に応じて以下となる。</p> <p>LOD4.1 : IfcRamp、IfcRampFlight、IfcStair、IfcStairFlight、IfcTransportElement、IfcColumn、IfcBuildingElementProxyのいずれかとなる。</p> <p>LOD4.2 : IfcBeam、IfcColumn、IfcPlate、IfcRailing、IfcRamp、IfcRampFlight、IfcStair、IfcStairFlight、IfcBuildingElementProxy、IfcTransportElementのいずれかとなる。</p>
uro:indoorIntInstallationAttribute [IntBuildingInstallation]	uro:IndoorAttribute [0..*]	<p>屋内ナビゲーションに必要な情報。</p> <p>bldg:IntBuildingInstallationに付与可能なデータ型は以下とする。</p> <p>uro:IndoorFurnishingAttribute uro:IndoorTactileTileAttribute uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute</p>

4.2.3.1.17 **bldg:BuildingFurniture**

表4-44

型の定義	<p>室内の移動できる備品（家具）。</p> <p>bldg:IntBuildingInstallationが、建築物内部に設置された恒久的かつ固定的な設備であることと対照的に、bldg:BuildingFurnitureは椅子やテーブルのような、動かすことができる備品である。</p>
------	---



bldg:BuildingFurnitureの例（机、椅子）

LOD4.2の場合にのみ取得する。
ただし、ユースケースの要求に応じて、取得対象とする家具を限定してよい。

上位の型	core:_CityObject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
bldg:class [BuildingFurniture]	gml::CodeType [0..1]	家具の形態による区分。コードリスト（BuildingFurniture_class.xml）より選択する。
bldg:function [BuildingFurniture]	gml::CodeType [0..*]	家具の主たる働き。コードリスト（BuildingFurniture_function.xml）より選択する。
bldg:usage [BuildingFurniture]	gml::CodeType [0..*]	家具の主な使い道。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
bldg:lod4Geometry [BuildingFurniture]	gml:_Geometry [0..1]	家具の形状。 家具の主要な構造について、それぞれの外形を構成する特徴点により作成した立体を平面に分割した面の集まりとして、表現する。 gml:MultiSurfaceにより記述することを基本とする。 容積の算出等ユースケースで必要な場合は、gml:Solidを使用する。 gml:MultiSurfaceにより記述することを基本とする。
uro:ifcBuildingFurnitureAttribute [BuildingFurniture]	uro:lfcAttribute [0..*]	IDM・MVDで定義されるIFCに含まれる情報。 bldg:BuildingFurnitureに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:lfcFurnishingElement
uro:indoorFurnitureAttribute [BuildingFurniture]	uro:IndoorAttribute [0..*]	屋内ナビゲーションに必要な情報。 bldg:BuildingFurnitureに付与可能なデータ型は以下とする。 uro:IndoorPublicTagAttribute uro:IndoorZoneAttribute uro:IndoorUserDefinedAttribute

4.2.3.2 bldg:Buildingの拡張属性

CityGMLを拡張し、bldg:Buildingに詳細な属性を付与するためのデータ型を定義する。

4.2.3.2.1 uro:BuildingIDAttribute

表4-45

型の定義	建築物を識別するための情報。	
上位の型	uro:BuildingAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:buildingID [BuildingIDAttribute]	xs:string [1..1]	主たる建築物を識別するための番号。必須とする。 [市区町村コード]-[接頭辞]-[オブジェクト連番] とする。

		<p>[市区町村コード] は、当該地物が存在する市区町村に該当するコードとする。</p> <p>先頭の0は省略せず、5桁で記述する。</p> <p>[接頭辞]は地物型の区分を示す3桁又は4桁のコードとする。</p> <p>建築物の場合は、bldgとする。</p> <p>[オブジェクト連番]は半角数字の連番とする。</p>
uro:branchID [BuildingIDAttribute]	xs::integer [0..1]	主たる建築物に対して付帯する建築物を識別するための番号。
uro:partID [BuildingIDAttribute]	xs::integer [0..1]	主たる建築物を複数のbldg:BuildingPartに分けて記述する場合の、建築物部分を識別するための番号。 bldg:BuildingPartには必須とする。
uro:prefecture [BuildingIDAttribute]	gml::CodeType [0..1]	建築物が存在する都道府県の都道府県コード。JIS X0401に定義される2桁の半角数字。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
uro:city [BuildingIDAttribute]	gml::CodeType [1..1]	<p>建築物が存在する市区町村の市区町村コード。JIS X0401に定義される2桁の半角数字とJIS X0402に定義される3桁の半角数字とを組み合わせる5桁の半角数字。政令市の場合は、区の市区町村コードとする。</p> <p>コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。</p> <p>i-URでは多重度が[0..1]となっているが、建築物の位置の把握に使用するため、標準製品仕様書では必須とする。</p>

4.2.3.2.2 uro:BuildingDetailAttribute

表4-46

型の定義	都市計画法に基づき実施される都市計画基礎調査において収集された、建築物に関する基礎的な情報。	
上位の型	uro:BuildingAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:serialNumberOfBuilding Certification [BuildingDetailAttribute]	xs::string [0..1]	建築確認申請番号。
uro:siteArea [BuildingDetailAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	当該建築物が立地する敷地の面積。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:totalFloorArea [BuildingDetailAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	当該建築物の各階の床面積の合計。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:buildingFootprintArea [BuildingDetailAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	建築物の壁や柱の中心線で囲まれた部分の水平投影面積。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:buildingRoofEdgeArea [BuildingDetailAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	屋根を含む建築物の水平投影面積。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:developmentArea [BuildingDetailAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	開発された面積。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:buildingStructureType [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	構造種別。 コードリスト（BuildingDetailAttribute_buildingStructure-Type.xml）より選択する。
uro:buildingStructureOrgType	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の構造種別。

[BuildingDetailAttribute]		コードリスト (BuildingDetailAttribute_buildingStructureOrgType.xml) より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:fireproofStructureType [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	耐火構造区分。 コードリスト (BuildingDetailAttribute_fireproofStructure-Type.xml) より選択する。
uro:implementingBody [BuildingDetailAttribute]	xs:string [0..1]	建築物建築の実施主体の名称。
uro:urbanPlanType [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	建築物が立地する土地が属する都市計画区域の区分。 コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。
uro:areaClassificationType [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	建築物が立地する土地が属する区域区分。 コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。
uro:districtsAndZonesType [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..*]	建築物が立地する土地が属する地域地区の区分。 コードリスト (Common_districtsAndZonesType.xml) より選択する。建築物が複数の地域地区に含まれる場合は、複数を列挙する。
uro:landUseType [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	建築物が立地する土地の土地利用区分。 コードリスト (Common_landUseType.xml) より選択する。
uro:reference [BuildingDetailAttribute]	xs:string [0..1]	建築物の位置を示す図面上の番号。
uro:majorUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	urf:orgUsageよりも粗い区分による都市独自の分類。 コードリスト (BuildingDetailAttribute_majorUsage.xml) より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:majorUsage2 [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	uro:orgUsageよりも粗く、uro:majorUsageよりも細かい区分による都市独自の分類。 コードリスト (BuildingDetailAttribute_majorUsage2.xml) より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:orgUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）に示された建築物の「用途分類」に相当する都市独自の分類。 コードリスト (BuildingDetailAttribute_orgUsage.xml) より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:orgUsage2 [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）に示された建築物の「用途分類」のうち、商業施設、文教厚生施設、運輸倉庫施設、工場が詳細化された区分に相当する都市独自の分類。 コードリスト (BuildingDetailAttribute_orgUsage2.xml) より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:detailedUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	uro:orgUsage2よりも細かい区分による都市独自の分類。 コードリスト (BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml) より選択する。本属性を使用する場合は、本製品仕様書に示すコードリストを必要に応じて加工すること。
uro:detailedUsage2 [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	uro:detailedUsageよりも細かい区分による都市独自の分類。

		コードリスト（BuildingDetailAttribute_detailedUsage2.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:detailedUsage3 [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	uro:detailedUsage2よりも細かい区分による都市独自の分類。 コードリスト（BuildingDetailAttribute_detailedUsage3.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:groundFloorUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物1階の用途。 コードリスト（BuildingDetailAttribute_groundFloorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:secondFloorUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の2階又は2階以上の用途。 コードリスト（BuildingDetailAttribute_secondFloorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:thirdFloorUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の3階又は3階以上の用途。 コードリスト（BuildingDetailAttribute_thirdFloorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:basementUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の地下の用途。 コードリスト（BuildingDetailAttribute_basementFloorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:basementFirstUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の地下1階の用途。 コードリスト（BuildingDetailAttribute_basementFirstUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:basementSecondUsage [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の地下2階の用途。 コードリスト（BuildingDetailAttribute_basementSecondUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:vacancy [BuildingDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	空き家か否かの別。 コードリスト（ BuildingDetailAttribute_vacancy.xml）より選択する。
uro:buildingCoverageRate [BuildingDetailAttribute]	xs::double [0..1]	建蔽率（敷地面積に対する建築面積の割合）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は%。
uro:floorAreaRate [BuildingDetailAttribute]	xs::double [0..1]	容積率（敷地面積に対する延床面積の割合）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は%。
uro:specifiedBuildingCoverageRate [BuildingDetailAttribute]	xs::double [0..1]	指定建蔽率（用途地域別に定められている建蔽率）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は%。
uro:specifiedFloorAreaRate [BuildingDetailAttribute]	xs::double [0..1]	指定容積率（都市計画で定められる容積率の最高限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は%。

uro:standardFloorAreaRate [BuildingDetailAttribute]	xs::double [0..1]	基準容積率（前面道路の幅員が12m未満の場合に、前面道路の幅員による限度により算出される容積率）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は%。
uro:buildingHeight [BuildingDetailAttribute]	gml::LengthType [0..1]	建築基準法施行令第2条に定義される地盤面からの建築物の高さ。単位はm（uom="m"）とする。
uro:eaveHeight [BuildingDetailAttribute]	gml::LengthType [0..1]	建築基準法施行令第2条に定義される建築物の地盤面から軒桁までの高さ。単位はm（uom="m"）とする。
uro:note [BuildingDetailAttribute]	xs:string [0..1]	その他建築物に関して特筆すべき事項。
uro:surveyYear [BuildingDetailAttribute]	xs:gYear [1..1]	建物利用現況調査の実施年（西暦）。

4.2.3.2.3 uro:LargeCustomerFacilityAttribute

表4-47

型の定義	都市計画法に基づき実施される都市計画基礎調査において収集された、大規模小売店舗や大規模集客施設に関する基礎的な情報。	
上位の型	uro:BuildingAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:class [LargeCustomerFacilityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	集客施設の種類。 コードリスト（ LargeCustomerFacilityAttribute_class.xml ）より選択する。
uro:name [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs::string [0..1]	集客施設の名称。
uro:capacity [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs::integer [0..1]	集客施設の収容人数。（病院の場合は、病床数、大学等の場合は学生数とする。）
uro:owner [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs::string [0..1]	施設の所有者の名称。
uro:totalFloorArea [LargeCustomerFacilityAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	集客施設各階の床面積を合計した面積。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:totalStoreFloorArea [LargeCustomerFacilityAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	集客施設各階における店舗の床面積を合計した面積。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:inauguralDate [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs::date [0..1]	集客施設が運営を開始した年月日。
uro:yearOpened [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs:gYear [0..1]	開設年。
uro:yearClosed [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs:gYear [0..1]	廃止年。

uro:keyTenants [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs:string [0..1]	集客施設が商業施設の場合の、主要なテナントの名称。
uro:availability [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs:boolean [0..1]	集客施設が医療施設の場合の、3次医療圏規模の有無。
uro:urbanPlanType [LargeCustomerFacilityAttribute]	gml:CodeType [0..1]	集客施設が立地する土地が属する都市計画区域の区分。 コードリスト（ Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
uro:areaClassificationType [LargeCustomerFacilityAttribute]	gml:CodeType [0..1]	集客施設が立地する土地が属する区域区分。 コードリスト（ Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
uro:districtsAndZonesType [LargeCustomerFacilityAttribute]	gml:CodeType [0..*]	集客施設が立地する土地が属する地域地区の区分。 コードリスト（ Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。建築物が複数の地域地区に含まれる場合は、複数を列挙する。
uro:landUseType [LargeCustomerFacilityAttribute]	gml:CodeType [0..1]	集客施設が立地する土地の土地利用区分。 コードリスト（ Common_landUseType.xml）より選択する。
uro:reference [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs:string [0..1]	図面对照番号。集客施設の位置を示す図面上の番号。
uro:note [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs:string [0..1]	その他集客施設に関して特筆すべき事項。
uro:surveyYear [LargeCustomerFacilityAttribute]	xs:gYear [1..1]	集客施設の立地状況調査の実施年（西暦）。

4.2.3.2.4 uro:RiverFloodingRiskAttribute

表4-48

型の定義	<p>洪水浸水想定区域内に存在する建築物に、浸水想定区域がもつ属性を与えるための属性型。</p> <p>同一の浸水想定区域図において、複数の区域に建築物が跨って存在する場合は、同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、浸水ランクがより危険な区域を採用する）</p> <p>浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する）</p> <p>浸水継続時間は採用した浸水深のメッシュと重なる浸水継続時間のメッシュの浸水継続時間を採用する。複数の浸水継続時間のメッシュが重なる場合は最も大きい浸水継続時間の値を採用する。</p> <p>浸水深の有効桁数は、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第4版）」に従い、浸水深の有効桁数は、小数点以下 3 桁まで登録可能とするが、小数点以下 2 桁でもよいとする。</p> <p>面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。</p>
------	---

<div></div>		
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	<p>使用する下位のデータ型により以下のように定義する。</p> <ul style="list-style-type: none">洪水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。<p>指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。</p><p>一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。</p>津波浸水想定の場合<ul style="list-style-type: none">津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。高潮浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。内水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。ため池ハザードマップの場合<ul style="list-style-type: none">ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より

		<p>選択する。都市ごとにコードリストを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（HighTideRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加え</p>

		て定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。
uro:depth [FloodingRiskAttribute]	gml::LengthType [0..1]	浸水の深さ。 津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。 単位はm（uom="m"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:adminType [RiverFloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	洪水予報河川又は水位周知河川を指定した機関の別。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_adminType.xml）より選択する。
uro:scale [RiverFloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	想定最大規模降雨あるいは計画規模降雨のいずれにより作成されたかの区分。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_scale.xml）より選択する。
uro:duration [RiverFloodingRiskAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	浸水が継続する時間。単位は時間（uom="hour"）とする。

4.2.3.2.5 uro:TsunamiRiskAttribute

表4-49

型の定義	津波浸水想定区域内に存在する建築物に、津波浸水想定区域の属性を与えるための属性型。 1回の津波浸水シミュレーションに関して、複数の区域が一棟の建築物に跨って存在する場合は、同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、より危険な区域を採用する） 浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する） 浸水深の有効桁数は、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第4版）」に従い、浸水深の有効桁数は、小数点以下3桁まで登録可能とするが、小数点以下2桁でもよいとする。 面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。	
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	使用する下位のデータ型により以下のように定義する。 ・洪水浸水想定区域の場合 －指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列

		<p>挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（HighTideRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>

uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> －コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> －コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> －コードリスト（HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> －コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> －コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:depth [FloodingRiskAttribute]	gml::LengthType [0..1]	<p>浸水の深さ。</p> <p>津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。</p> <p>単位はm（uom="m"）とする。</p>

4.2.3.2.6 uro:HighTideRiskAttribute

表4-50

型の定義	<p>高潮浸水想定区域に存在する建築物に、高潮浸水想定区域の属性に与えるための属性型。</p> <p>一回の高潮浸水シミュレーションに関して、複数の区域が一棟の建築物に跨って存在する場合は同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、浸水ランクがより危険な区域を採用する）</p> <p>浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する）</p> <p>浸水深の有効桁数は、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第4版）」に従い、浸水深の有効桁数は、小数点以下3桁まで登録可能とするが、小数点以下2桁でもよいとする。</p> <p>面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。</p>
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute
ステレオタイプ	<< DataType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	<p>使用する下位のデータ型により以下のように定義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> 指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> 内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 高潮浸水想定区域の場合

		<ul style="list-style-type: none"> コードリスト (HighTideRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト (InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト (ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト (RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト (TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト (HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト (InlandFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト (ReservoirFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:depth [FloodingRiskAttribute]	gml::LengthType [0..1]	<p>浸水の深さ。</p> <p>津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。</p> <p>単位はm (uom="m") とする。</p>

4.2.3.2.7 uro:InlandFloodingRiskAttribute

表4-51

型の定義	内水浸水想定区域に存在する建築物に、内水浸水想定区域の属性を与えるための属性型。
------	--

	1回の内水浸水シミュレーションに関して、複数の区域が一棟の建築物に跨って存在する場合は、同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、浸水ランクがより危険な区域を採用する） 浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する） 浸水深の有効桁数は、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第4版）」に従い、浸水深の有効桁数は、小数点以下 3 桁まで登録可能とするが、小数点以下 2 桁でもよいとする。 面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。	
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	使用する下位のデータ型により以下のように定義する。 <ul style="list-style-type: none">・洪水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">－ 指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。・津波浸水想定の場合<ul style="list-style-type: none">－ 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。・高潮浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">－ 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。・内水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">－ 内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。・ため池ハザードマップの場合<ul style="list-style-type: none">－ ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。・土砂災害警戒区域の場合

		<ul style="list-style-type: none"> 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（HighTideRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:depth	gml:LengthType [0..1]	浸水の深さ。

[FloodingRiskAttribute]	津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。 単位はm (uom="m") とする。
---------------------------	--

4.2.3.2.8 uro:ReservoirFloodingRiskAttribute

表4-52

型の定義	ため池ハザードマップに存在する建築物に、ため池ハザードマップの属性を与えるための属性型。 「ため池ハザードマップ」とは、ため池が決壊する恐れのある場合又は決壊した場合に迅速かつ安全に非難するための参考資料である。 〔出典：「ため池ハザードマップ作成の手引き」農林水産省農村振興局防災課、2013年5月〕 複数の区域が一棟の建築物に跨って存在する場合は、同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、より浸水ランクの危険な区域を採用する） 浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する） 面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。	
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	使用する下位のデータ型により以下のように定義する。 ・洪水浸水想定区域の場合 － 指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。 ・津波浸水想定の場合 － 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・高潮浸水想定区域の場合 － 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（

		<p>HighTideRiskAttribute_description.xml) より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 内水浸水想定区域の属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト (InlandFloodingRiskAttribute_description.xml) より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － ため池ハザードマップの属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト (ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml) より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 発生が想定されている災害の種類。コードリスト (LandSlideRiskAttribute_description.xml) より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (TsunamiRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (HighTideRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 ・ 内水浸水想定区域の場合

		<ul style="list-style-type: none"> コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rank Org.xml）より選択する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rank Org.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:depth [FloodingRiskAttribute]	gml::LengthType [0..1]	<p>浸水の深さ。</p> <p>津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。</p> <p>単位はm（uom="m"）とする。</p>

4.2.3.2.9 uro:LandSlideRiskAttribute

表4-53

型の定義	土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に存在する構造物に、いずれの区域に含まれているかを属性として付与する。 一つの都市オブジェクトに、複数の「区域区分」が重なっている場合は、以下の優先順位に基づき、最も優先順位の高い区域区分のみを付与する。 区域区分の優先順位は優先順位の高いほうから、 <ul style="list-style-type: none">・ 土砂災害特別警戒区域（指定済）・ 土砂災害警戒区域（指定済）・ 土砂災害特別警戒区域（指定前）・ 土砂災害警戒区域（指定前） とする。 なお、一つの建築物に、複数の「現象区分」が重なっている場合は、それぞれを土砂災害リスク属性として記述する。	
上位の型	uro:DisasterRiskAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	使用する下位のデータ型により以下のように定義する。 <ul style="list-style-type: none">・ 洪水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">－ 指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作

		<p>成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:areaType [LandSlideRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	土砂災害警戒区域に含まれているのか、否かの区分。 コードリスト（ LandSlideRiskAttribute_areaType.xml）より選択する。

4.2.3.2.10 uro:KeyValuePairAttribute

表4-54

型の定義	都市オブジェクトに付与する追加情報。都市オブジェクトが継承する属性及び都市オブジェクトに定義された属性以外にコード型の属性を追加したい場合に使用する。 属性名称と属性の値の対で構成される。コード値以外の属性を追加する場合は、gen:_GenericAttributeを使用すること。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:key [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張する属性の名称。名称は、コードリスト（KeyValuePairAttribute_key.xml）を作成し、選択する。
uro:codeValue [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張された属性の値。名称は、コードリスト（KeyValuePairAttribute_key[key].xml）を作成し、選択する。 [key]は、属性uro:keyの値に一致する。

表4-55

型の定義	都市オブジェクトの品質を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:geometrySrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [1..*]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:geometrySrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれ

		ているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。))。
uro:geometrySrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択する。拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること(例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。))。</p>
uro:thematicSrcDesc [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>主題属性の作成に使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>主題属性が作成対象となっている場合は必須とする。</p>
uro:appearanceSrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD0の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD2の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD3の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。</p>

		<p>拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:lodType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>幾何オブジェクトに適用されたLODの詳細な区分。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の場合 コードリスト（ Building_lodType.xml）より選択する。 LOD2以上の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 道路、徒歩道又は広場の場合 コードリスト（ Road_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 鉄道の場合 コードリスト（ Railway_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ LODの細分が定義されていない地物型の場合 この属性を使用しない。
uro:lod1HeightType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>LOD1の立体図形を作成する際に使用した高さの算出方法。コードリスト（DataQualityAttribute_lod1Height-Type.xml）より選択する。立体の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。</p>
uro:tranDataAcquisition [DataQualityAttribute]	xs:string [0..1]	<p>道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）（平成27年5月）に定める「取得レベル(level)」を記述するための属性。 道路の場合にのみ使用する。</p>
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:publicSurveyDataQualityAttribute [DataQualityAttribute]	uro:PublicSurveyDataQualityAttribute [0..1]	<p>使用した公共測量成果の地図情報レベルと種類。各LODの幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性（uro:geometrySrcDescLod0等）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）となっている場合は、必須とする。</p>

4.2.3.2.12 uro:PublicSurveyDataQualityAttribute

表4-56

型の定義	都市オブジェクトのデータ作成情報を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:srcScaleLod0 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml ）より選択する。 「LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性」（uro:geometrySrcDescLod0）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml ）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。
uro:srcScaleLod1 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml ）より選択する。 「LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod1）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml ）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。
uro:srcScaleLod2 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml ）より選択する。 「LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod2）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml ）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。 複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、壁面は地図情報レベル1000、屋根面は地図情報レベル2500となる場合は、地図情報レベル2500とする。
uro:srcScaleLod3 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml ）より選択する。 「LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod3）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml ）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。

		複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、壁面は地図情報レベル1000、屋根面は地図情報レベル2500となる場合は、地図情報レベル2500とする。
uro:srcScaleLod4 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。</p> <p>コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。</p> <p>「LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod4）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、外側の形状は地図情報レベル1000、屋内の形状は地図情報レベル500となる場合は地図情報レベル1000とする。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod0 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>「LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod0）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod1 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>「LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod1）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod2 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>「LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod2）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod3 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p>

		<p>「LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」(uro:geometrySrcDescLod3)のコード値(コードリスト(DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml)より選択される)が公共測量成果(コード「000」)のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod4 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml:CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト(PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml)より選択する。</p> <p>「LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」(uro:geometrySrcDescLod4)のコード値(コードリスト(DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml)より選択される)が公共測量成果(コード「000」)のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>

4.2.3.2.13 uro:RealEstateIDAttribute

表4-57

型の定義	建築物が存在する土地及び建築物に紐づく不動産IDを、建築物の属性として付与するためのデータ型。 不動産IDとは、「不動産を一意に特定することができる、各不動産の共通コード」である。 (不動産IDルールガイドライン)	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:realEstateIDOfBuilding [RealEstateIDAttribute]	xs::string [1..1]	建築物の「建築物全体」に付された不動産ID。不動産IDルールガイドライン（国土交通省）に基づく「不動産番号13桁+”-”（ハイフン）+4桁」で記載される。
uro:numberOfBuildingUnit Ownership [RealEstateIDAttribute]	xs::integer [0..1]	当該建築物が区分所有の場合の、当該建築物の区分所有の数量。
uro:realEstateIDOfBuilding UnitOwnership [RealEstateIDAttribute]	xs::string [0..*]	当該建築物が区分所有の場合の、当該建築物の各専有部分の不動産IDの一覧。不動産IDルールガイドライン（国土交通省）に基づく「不動産番号13桁+”-”（ハイフン）+4桁」で記載される。
uro:numberOfRealEstateID- OfLand [RealEstateIDAttribute]	xs::integer [0..1]	当該建築物のある土地（筆）の数量。
uro:realEstateIDOfLand [RealEstateIDAttribute]	xs::string [0..*]	当該建築物のある土地の不動産ID。不動産IDルールガイドライン（国土交通省）に基づく「不動産番号13桁+”-”（ハイフン）+4桁」で記載される。複数の土地にまたがる場合、建築物に紐づけられた登記簿の「所在」欄に記載されている地番の順番に従う。

uro:matchingScore [RealEstateIDAttribute]	xs::integer [1..1]	<p>建築物に不動産IDを付与する際に、Project PLATEAUが2023年度に開発した「dt23-03 3D都市モデル・不動産IDマッチングシステム」を用いる場合は、確率的なマッチング手法を採用していることから、当該建築物と登記簿データが付与された筆との空間属性及び主題属性の一致の程度が点数化して表される。uro:matchingScoreはその値を表す。</p> <p>「dt23-03 3D都市モデル・不動産IDマッチングシステム」を用いる場合は必須とする。</p> <p>uro:matchingScoreは、以下に示す①から④の項目のうち、「①、②及び④」又は「①、③及び④」の3項目の各点数の合計点（300点満点）の大きい方を100点満点に換算して算出する。</p> <p>①重なりスコア：建築物に紐づけられた登記簿の「所在」欄に記載されている土地と建築物を土地に投影した二次元空間属性の重なり割合（％）</p> <p style="text-align: center;">式：重なり面積 ÷ 建築物の図形面積 × 100</p> <p>②階数スコア：建築物が地上階数を bldg:storeysBelow Ground属性に保持している場合、建築物に紐づけられた登記簿の「床面積」欄から算出した地上階数と建築物の地上階数の一致度</p> <p>地上階数が一致した場合は100点とする。一致しない場合は0点とする。</p> <p>③建築物高さスコア：建築物に紐づけられた登記簿の「床面積」欄から算出した地上階数から換算した高さと建築物の計測高さ(bldg:measuredHeight)の一致度</p> <p style="text-align: center;">式：100－ABS（登記簿から算出した地上階数 × 2.95m + 1.95m － 建築物の計測高さ）</p> <p>ABS（X）は、Xの絶対値とする。このときXは数値でなければならない。式の値が負の場合は0とする。</p> <p>④床面積スコア：建築物に紐づけられた登記簿の「床面積」欄から算出した各階ごとの床面積のうち最大となる床面積と建築物の図形面積の一致度</p> <p>建築物がuro:buildingFootprintArea属性を保持している場合、登記簿から算出した面積と比較し、m2単位で一致していた場合は100点とする。属性がない場合またはm2単位で一致していなければ以下を算出する。</p> <p style="text-align: center;">式：100－$\frac{ABS(登記データの1階床面積 - 建築物の水平投影面積 \times 0.8)}{登記データの1階床面積} \times 100$</p> <p>ABS（X）は、Xの絶対値とする。このときXは数値でなければならない。式の値が負の場合は0とする。</p> <p>建築物の図形面積は、次の建築物の各空間属性のうち、最初に存在する空間属性の水平投影面積とする。</p> <p>bldg:lod0RoofEdge、bldg:lod1Solid、bldg:lod2Solid.RoofSurface、bldg:lod3Solid.RoofSurface</p>
--	--------------------	---

4.2.3.3 施設管理のための拡張属性

4.2.3.3.1 uro:FacilityIdAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照

4.2.3.3.2 uro:FacilityTypeAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照

4.2.3.3.3 uro:FacilityAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照

4.2.3.4 数値地形図のための拡張属性

4.2.3.4.1 uro:DmAttribute

公共測量標準図式の応用スキーマ文書 参照

4.2.3.5 建築物モデル（LOD4）の拡張属性

本項では、IDM・MVDで定義されるIFCに含まれる情報を保持するためのデータ型及び屋内ナビゲーションのためのデータ型の定義を示す。各データ型は、IFCのクラス又はプロパティセットに対応づく。

なお、屋内ナビゲーションのためのデータ型は、「3次元屋内地理空間情報データ仕様書（案）」（3次元屋内地理空間情報データ仕様書（案））に定義されたプロパティセットに対応する。

4.2.3.5.1 uro:IfcAxis2Placement3D

表4-58

型の定義	ローカル座標系の変換を定義する座標系情報を設定するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:location [IfcAxis2Placement3D]	Point [0..1]	3次元ローカル座標系における原点。
uro:axis [IfcAxis2Placement3D]	gml::doubleList [0..1]	ローカル座標系におけるZ軸ベクトルを示し、アフィン変換のパラメータとして使用する。デフォルト値は (0, 0, 1)。uro:refDirection を設定した場合は必ず設定する。
uro:refDirection [IfcAxis2Placement3D]	gml::doubleList [0..1]	ローカル座標系におけるX軸ベクトルを示し、アフィン変換のパラメータとして使用する。デフォルト値は(1, 0, 0)。uro:axis を設定した場合は必ず設定する。

4.2.3.5.2 uro:lfcBuilding

表4-59

型の定義	IFCで記述された建築物の属性。	
上位の型	uro:lfcSpatialStructureElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [lfcRoot]	xs:string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [lfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [lfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [lfcObject]	xs:string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:longName [lfcSpatialStructureElement]	xs:string [0..1]	人が識別可能な名称。 uro:lfcBuildingの場合は、敷地を識別するための名称とする。
uro:compositionType [lfcSpatialStructureElement]	lfcElementCompositionEnum [0..1]	空間構成の区分。 ・ 単一であればELEMENTを設定。 ・ 複数から構成される場合はCOMPLEXを設定。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:elevationOfRefHeight [lfcBuilding]	gml::LengthType [0..1]	建築物の基準となる海拔高度。通常基準となる階（1階）のスラブ上部面。 単位はmとする。
uro:elevationOfTerrain [lfcBuilding]	gml::LengthType [0..1]	建築物周囲の地盤面の最小の海拔高度。単位はmとする。
uro:buildingAddress [lfcBuilding]	Address [0..1]	建築物の住所。

4.2.3.5.3 uro:lfcBuildingElement

表4-60

型の定義	建築物の部材を記述するデータ型。	
上位の型	uro:lfcElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [lfcRoot]	xs:string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [lfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [lfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [lfcObject]	xs:string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [lfcElement]	xs:string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。

自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:elementType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	建築物の部材の区分。コードリスト (IfcBuildingElement_elementType.xml) から選択する。 uro:elementTypeの値により、uro:predefinedType以降の使用可能な属性が異なる。
uro:predefinedType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	定義済み型に基づく区分。コードリスト (IfcBuildingElement_predefinedType.xml) から選択する。 uro:elementTypeが、Covering, Railing, Slabに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:shapeType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	形状の区分。コードリスト (IfcBuildingElement_shapeType.xml) から選択する。 uro:elementTypeがRamp, Stairに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfRiser [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	蹴上数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfTreads [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	踏面数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:riserHeight [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	蹴上の高さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:treadLength [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	踏面の奥行の長さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:operationType [IfcBuildingElement]	IfcTransportElementType Enum [0..1]	輸送設備の区分。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByWeight [IfcBuildingElement]	gml::MeasureType [0..1]	許容積載量。単位はkg。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByNumber [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	許容定員数。単位は人。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。

4.2.3.5.4 uro:IfcClassification

表4-61

型の定義	IFCで記述された分類の諸元に関する属性。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:source [IfcClassification]	xs::string [0..1]	この分類のソース（又は発行者）。
uro:edition [IfcClassification]	xs::string [0..1]	分類表記の版。
uro:editionDate [IfcClassification]	xs::date [0..1]	使用された版が有効になった日付。
uro:name [IfcClassification]	xs::string [0..1]	分類の名称。

4.2.3.5.5 uro:lfcClassificationReference

表4-62

型の定義	IFCで記述された分類に関する属性。	
上位の型	uro:lfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:location [lfcClassificationReference]	xs:anyURI [0..1]	分類の外部ソース情報。
uro:itemReference [lfcClassificationReference]	gml:CodeType [0..1]	分類コード。コードリスト（lfcClassificationReference_itemReference.xml）から選択する。この属性を使用する場合は、コードリストを作成する。
uro:name [lfcClassificationReference]	xs:string [0..1]	コードに対応するラベル。
uro:referencedSource [lfcClassificationReference]	lfcClassification [0..1]	分類の諸元。

4.2.3.5.6 uro:lfcCoordinateReferenceSystem

表4-63

型の定義	座標参照系の情報を記述するためのデータ型。	
上位の型	uro:lfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:name [lfcCoordinateReferenceSystem]	xs:string [0..1]	座標参照系の名称。 EPSG: [EPSGコード] [EPSGコード]は、EPSGにより指定された半角数字の組合せによる識別子とする。
uro:description [lfcCoordinateReferenceSystem]	xs:string [0..1]	EPSGコードの説明情報。
uro:geodeticDatum [lfcCoordinateReferenceSystem]	xs:string [0..1]	測地原子の識別子。 JGD2011とする。
uro:verticalDatum [lfcCoordinateReferenceSystem]	xs:string [0..1]	垂直原子。TPを原則とする。

4.2.3.5.7 uro:lfcCoordinateReferenceSystemSelect

表4-64

型の定義	座標参照系の記述する方法を指定する共用体型。 uro:lfcCoordinateReferenceSystem 又はuro:lfcGeometricRepresentationContextのいずれかを選択する。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< Union >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

uro:crs [IfcCoordinateReferenceSystemSelect]	IfcCoordinateReferenceSystem [1..1]	uro:IfcCoordinateReferenceSystemを用いた座標参照系の記述。
uro:context [IfcCoordinateReferenceSystemSelect]	IfcGeometricRepresentationContext [1..1]	uro:IfcGeometricRepresentationContextを用いた座標参照系の記述。

4.2.3.5.8 uro:IfcCurtainWall

表4-65

型の定義	IFCで記述されたカーテンウォールの属性。	
上位の型	uro:IfcBuildingElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs::string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs::string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [IfcElement]	xs::string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。
uro:elementType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	建築物の部材の区分。コードリスト（IfcBuildingElement_elementType.xml）から選択する。 uro:elementTypeの値により、uro:predefinedType以降の使用可能な属性が異なる。
uro:predefinedType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	定義済み型に基づく区分。コードリスト（IfcBuildingElement_predefinedType.xml）から選択する。 uro:elementTypeが、Covering, Railing, Slabに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:shapeType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	形状の区分。コードリスト（IfcBuildingElement_shapeType.xml）から選択する。 uro:elementTypeがRamp, Stairに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfRiser [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	蹴上数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfTreads [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	踏面数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:riserHeight [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	蹴上の高さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:treadLength [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	踏面の奥行の長さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:operationType [IfcBuildingElement]	IfcTransportElementType Enum [0..1]	輸送設備の区分。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。

uro:capacityByWeight [IfcBuildingElement]	gml::MeasureType [0..1]	許容積載量。単位はkg。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByNumber [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	許容定員数。単位は人。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。

4.2.3.5.9 uro:lfcDoor

表4-66

型の定義	IFCで記述された扉の属性。	
上位の型	uro:IfcBuildingElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs::string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs::string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [IfcElement]	xs::string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。
uro:elementType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	建築物の部材の区分。コードリスト（IfcBuildingElement_elementType.xml）から選択する。 uro:elementTypeの値により、uro:predefinedType以降の使用可能な属性が異なる。
uro:predefinedType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	定義済み型に基づく区分。コードリスト（IfcBuildingElement_predefinedType.xml）から選択する。 uro:elementTypeが、Covering, Railing, Slabに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:shapeType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	形状の区分。コードリスト（IfcBuildingElement_shapeType.xml）から選択する。 uro:elementTypeがRamp, Stairに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfRiser [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	蹴上数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfTreads [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	踏面数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:riserHeight [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	蹴上の高さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:treadLength [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	踏面の奥行の長さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:operationType [IfcBuildingElement]	IfcTransportElementType Enum [0..1]	輸送設備の区分。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。

uro:capacityByWeight [IfcBuildingElement]	gml::MeasureType [0..1]	許容積載量。単位はkg。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByNumber [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	許容定員数。単位は人。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:overallHeight [IfcDoor]	gml::LengthType [0..1]	扉全体の高さ。単位はm。
uro:overallWidth [IfcDoor]	gml::LengthType [0..1]	扉全体の幅。単位はm。

4.2.3.5.10 uro:lfcFurnishingElement

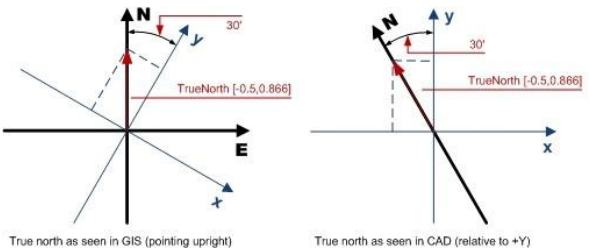
表4-67

型の定義	IFCで記述された家具の属性。	
上位の型	uro:lfcElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs:string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs:string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [IfcElement]	xs:string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。

4.2.3.5.11 uro:lfcGeometricRepresentationContext

表4-68

型の定義	プロジェクト内のIfcProduct オブジェクトの形状表現に適用されるコンテキストを定義する、3D のモデル表現形式のためのデータ型。 コンテキスト情報とは、形状表現が定義されるコンテキストのタイプと、このコンテキストで定義される形状表現項目に適用される数値精度を定義、さらに、uro:worldCoordinateSystem 属性を使用して、グローバルな原点からプロジェクト座標系をオフセットする情報となる。uro:worldCoordinateSystem のy 軸が真北を指していない場合、uro:trueNorth 属性を指定することができる。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:contextIdentifier [IfcGeometricRepresentation Context]	xs::string [0..1]	識別子。

uro:contextType [IfcGeometricRepresentation Context]	xs:string [0..1]	“Model”とする。
uro:coordinateSpaceDimension [IfcGeometricRepresentation Context]	xs:integer [0..1]	次元数。3とする。
uro:precision [IfcGeometricRepresentation Context]	xs:double [0..1]	精度。通常は、1E-5 から 1E-8 の値を設定する。
uro:worldCoordinateSystem [IfcGeometricRepresentation Context]	IfcAxis2Placement3D [1..1]	プロジェクトで使用される全ての表現コンテキストのエンジニアリング座標系。
uro:trueNorth [IfcGeometricRepresentation Context]	gml::doubleList [0..1]	<p>北方角との差を2次元ベクトルで設定する。角度表現のラジアン又は度の設定は、MVD-IfcProject.UnitsIn-Context（短径設定情報）を参照。北が0時の方向であれば値は(0,1)。</p> 

4.2.3.5.12 uro:IfcMapConversion

表4-69

型の定義	座標参照系の変換情報を記述するためのデータ型。	
上位の型	uro:IfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:sourceCRS [IfcMapConversion]	IfcCoordinateReferenceSystemSelect [0..1]	変換元となる座標参照系の情報。
uro:targetCRS [IfcMapConversion]	IfcCoordinateReferenceSystem [0..1]	変換先となる座標参照系の情報。
uro:eastings [IfcMapConversion]	gml::LengthType [0..1]	変換先の座標参照系の座標系の東座標に沿った位置を指定する。右手デカルト座標系の場合、これは x 軸に沿った位置を定める。
uro:northings [IfcMapConversion]	gml::LengthType [0..1]	変換先の座標参照系の座標系の北座標に沿った位置を指定する。右手デカルト座標系の場合、y 軸に沿った位置を定める。
uro:orthogonalHeight [IfcMapConversion]	gml::LengthType [0..1]	変換先の座標参照系の垂直座標における位置（高さ）を指定する。右手デカルト座標系の場合、z 軸に沿った位置を定める。

uro:xAxisAbscissa [IfcMapConversion]	xs::double [0..1]	施工基準座標参照系のローカル x 軸の位置を示すベクトルの終点の東座標軸に沿った値を指定する。 ・ 右手デカルト座標系の場合、x 軸に沿った位置を定める。 ・ XAxisOrdinate とともに、マップ座標系の水平面内のローカル x 軸の方向を提供する。
uro:xAxisOrdinate [IfcMapConversion]	xs::double [0..1]	施工基準座標参照系のローカル x 軸の位置を示すベクトルの終点の北座標軸に沿った値を指定する。 ・ 右手デカルト座標系の場合、y 軸に沿った位置を定める。 ・ XAxisAbscissa とともに、マップ座標系の水平面内のローカル x 軸の方向を提供する。
uro:scale [IfcMapConversion]	xs::double [0..1]	CRS の単位が施工基準座標系の単位と同一でない場合に使用されるスケール。省略した場合は1.0となる。

4.2.3.5.13 uro:IfcOpeningElement

表4-70

型の定義	IFCで記述された、床や壁に設けられた開口部の属性。	
上位の型	uro:IfcElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs::string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs::string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [IfcElement]	xs::string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:nominalArea [IfcOpeningElement]	gml::MeasureType [0..1]	全体の面積。単位はm2。
uro:nominalVolume [IfcOpeningElement]	gml::MeasureType [0..1]	全体の体積。単位はm3。

4.2.3.5.14 uro:lfcProject

表4-71

型の定義	IFCで記述されたプロジェクトに適用される属性。	
上位の型	uro:lfcObject	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [lfcRoot]	xs:string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [lfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [lfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [lfcObject]	xs:string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:longName [lfcProject]	xs:string [0..1]	人が認識可能な名称。
uro:phase [lfcProject]	xs:string [0..1]	プロジェクトの状態。計画、完成など。
uro:representationContexts [lfcProject]	lfcGeometricRepresentationContext [0..1]	プロジェクト内のlfcProduct オブジェクトの形状表現に適用されるコンテキスト。
uro:unitsInContext [lfcProject]	lfcUnit [0..*]	使用される単位系情報。

4.2.3.5.15 uro:lfcProjectedCRS

表4-72

型の定義	投影座標参照系の情報を記述するためのデータ型。	
上位の型	uro:lfcCoordinateReferenceSystem	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:name [lfcCoordinateReferenceSystem]	xs:string [0..1]	座標参照系の名称。 EPSG: [EPSGコード] [EPSGコード]は、EPSGにより指定された半角数字の組合せによる識別子とする。
uro:description [lfcCoordinateReferenceSystem]	xs:string [0..1]	EPSGコードの説明情報。
uro:geodeticDatum [lfcCoordinateReferenceSystem]	xs:string [0..1]	測地原子の識別子。 JGD2011とする。
uro:verticalDatum [lfcCoordinateReferenceSystem]	xs:string [0..1]	垂直原子。TPを原則とする。
自身に定義された属性		

属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:mapUnit [lfcProjectedCRS]	xs:string [0..1]	座標軸の単位。mとする。
uro:mapProjection [lfcProjectedCRS]	xs:string [0..1]	投影座標系の名称。Japan Plane Rectangularとする。
uro:mapZone [lfcProjectedCRS]	xs:string [0..1]	平面直角座標系の系。半角数字1～19までのいずれかとする。

4.2.3.5.16 uro:lfcPsetBuildingCommon

表4-73

型の定義	IFCで記述された建築物に共通となる属性の集まり。	
上位の型	uro:lfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:buildingId [lfcPsetBuildingCommon]	xs:string [0..1]	建築物に付与される固有の識別子。計画申請時に一時的な識別子が付与される。この一時的な識別子は、建物が法的な建物とプロパティのデータベースに登録されると、恒久的な識別子に変更される。
uro:isPermanentId [lfcPsetBuildingCommon]	xs:boolean [0..1]	建物に割り当てられた識別子が永続的か一時的かを示す。 1：永続的 0：一時的
uro:mainFireUse [lfcPsetBuildingCommon]	xs:string [0..1]	建築物の主な防災用途で、関連する国の建築基準法で定められた防災用途分類表から割り当てられるもの。
uro:ancillaryFireUse [lfcPsetBuildingCommon]	xs:string [0..1]	付属的な防災用途で、関連する国家建築基準法の防災用途分類表から割り当てられたもの。
uro:sprinklerProtection [lfcPsetBuildingCommon]	xs:boolean [0..1]	スプリンクラーで保護されているか、されていないかを示す。 1：保護されている 0：保護されていない
uro:sprinklerProtectionAutomatic [lfcPsetBuildingCommon]	xs:boolean [0..1]	自動スプリンクラーで保護されているかどうかを示す。 1：保護されている 0：保護されていない これは、プロパティ “SprinklerProtection” が 1（true）に設定されている場合にのみ、指定されるべきである。
uro:occupancyType [lfcPsetBuildingCommon]	gml:CodeType [0..1]	入居者タイプ。国の建築基準法に従って定義される。コードリスト（lfcPsetBuildingCommon_occupancyType.xml）から選択する。この属性を使用する場合は、コードリストを作成する。
uro:grossPlannedArea [lfcPsetBuildingCommon]	gml:MeasureType [0..1]	建築物の計画総面積。
uro:numberOfStoreys [lfcPsetBuildingCommon]	xs:integer [0..1]	建築物内の階数。
uro:yearOfConstruction [lfcPsetBuildingCommon]	xs:gYear [0..1]	この建築物の建築年。
uro:isLandmarked [lfcPsetBuildingCommon]	xs:boolean [0..1]	この建築物が歴史的建造物として登録されているか否か。 1：されている

4.2.3.5.17 uro:lfcPsetDoorCommon

表4-74

型の定義	IFCで記述された扉に共通の属性。	
上位の型	uro:lfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:reference [lfcPsetDoorCommon]	xs:string [0..1]	このプロジェクトのための参照記号。
uro:acousticRating [lfcPsetDoorCommon]	xs:string [0..1]	遮音等級情報。関連する建築基準法を参照。
uro:firerating [lfcPsetDoorCommon]	xs:string [0..1]	主要な耐火等級。関連する建築基準法、消防法などの国家基準を参照。
uro:securityRating [lfcPsetDoorCommon]	xs:string [0..1]	防犯等級情報。関連する基準を参照。
uro:isExternal [lfcPsetDoorCommon]	xs:boolean [0..1]	外部の部材かどうかを示すブーリアン値。 1：外部の部材で建物の外側に面している 0：そうではない
uro:infiltration [lfcPsetDoorCommon]	xs:double [0..1]	隙間風の流量値。
uro:thermalTransmittance [lfcPsetDoorCommon]	xs:double [0..1]	熱貫流率U値。ここでは扉を通した熱移動の方向における全体の熱還流率を示す。
uro:glazingAreaFraction [lfcPsetDoorCommon]	xs:double [0..1]	外壁の総面積に対するガラスの面積の比率。 ガラスの面積が外壁に含まれる全てのパネルと分離されていないときに、使用される。
uro:handicapAccessible [lfcPsetDoorCommon]	xs:boolean [0..1]	障害者にアクセスできるように設計されているか否か。 1：されている 0：されていない
uro:fireExit [lfcPsetDoorCommon]	xs:boolean [0..1]	火災時の出口として使用されるように設計されているか否か 1：されている 0：されていない
uro:selfClosing [lfcPsetDoorCommon]	xs:boolean [0..1]	扉が使用後に自動で閉まるか否か。 1：閉まる 0：閉まらない
uro:smokeStop [lfcPsetDoorCommon]	xs:boolean [0..1]	オブジェクトが煙止めを提供するように設計されているか否か。 1：されている 0：されていない

4.2.3.5.18 uro:lfcPsetOpeningElementCommon

表4-75

型の定義	lfcで記述された開口部に共通の属性。	
上位の型	uro:lfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:reference [lfcPsetOpeningElement Common]	xs:string [0..1]	参照用のID。
uro:purpose [lfcPsetOpeningElement Common]	xs:string [0..1]	この開口部の目的。（例：換気、アクセス）
uro:fireExit [lfcPsetOpeningElement Common]	xs:boolean [0..1]	この開口部が火災時の非常用出口として機能するよう設計されているか。 1：設計されている 0：されていない
uro:protectedOpening [lfcPsetOpeningElement Common]	xs:boolean [0..1]	この開口部が、防火上の観点で保護されているとみなせるかどうか。みなされる場合、該当する法令のもの確保された開口部としてカウントする。 1：みなされる 0：みなされない
uro:parallelJambs [lfcPsetOpeningElement Common]	xs:boolean [0..1]	湾曲した開口部のわき柱が平行になるように意図されているか否か。 1：意図されている 0：されていない

4.2.3.5.19 uro:lfcPsetSiteCommon

表4-76

型の定義	lfcで記述された敷地に共通する属性。	
上位の型	uro:lfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:buildableArea [lfcPsetSiteCommon]	gml::MeasureType [0..1]	建築基準法により建築可能な最大の面積。単位はm2。
uro:totalArea [lfcPsetSiteCommon]	gml::MeasureType [0..1]	敷地の総面積。建築基準法に従って測定される。単位はm2。
uro:buildingHeightLimit [lfcPsetSiteCommon]	gml::LengthType [0..1]	建築基準法により建築可能な建物の最大の高さ。単位はm。

4.2.3.5.20 uro:lfcPsetSpaceCommon

表4-77

型の定義	IFCで記述された部屋に共通の属性。	
上位の型	uro:lfcAttribute	

ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:reference [lfcPsetSpaceCommon]	xs:string [0..1]	このプロジェクトのための参照記号。
uro:category [lfcPsetSpaceCommon]	xs:string [0..1]	この部屋の用途。
uro:floorCovering [lfcPsetSpaceCommon]	xs:string [0..1]	この部屋の床材の材質又は仕上げ。
uro:wallCovering [lfcPsetSpaceCommon]	xs:string [0..1]	この部屋の壁材の材質又は仕上げ。
uro:ceilingCovering [lfcPsetSpaceCommon]	xs:string [0..1]	この部屋の天井カバーの材質又は仕上げ。
uro:skirtingBoard [lfcPsetSpaceCommon]	xs:string [0..1]	この部屋の幅木ボードの素材又は構造。
uro:grossPlannedArea [lfcPsetSpaceCommon]	gml::MeasureType [0..1]	総計画面積。単位はm2とする。
uro:netPlannedArea [lfcPsetSpaceCommon]	gml::MeasureType [0..1]	正味計画面積。単位はm2とする。
uro:publiclyAccessible [lfcPsetSpaceCommon]	xs:boolean [0..1]	この部屋（トイレなどの場合）が公衆の用に供するよう公的にアクセス可能な部屋として設計されているか。 1：されている 0：されていない
uro:handicapAccessible [lfcPsetSpaceCommon]	xs:boolean [0..1]	この部屋（トイレなどの場合）が障害者用に供するような部屋として設計されているか。 1：されている 0：されていない
uro:concealedFlooring [lfcPsetSpaceCommon]	xs:boolean [0..1]	この部屋が隠し床として定義されているか。隠し床は、通常上げ床の下のスペースを指す。 1：されている 0：されていない
uro:concealedCeiling [lfcPsetSpaceCommon]	xs:boolean [0..1]	この部屋が隠し天井として定義されているか。隠し天井は、通常スラブと吊り天井の間のスペースを指す。 1：されている 0：されていない

4.2.3.5.21 uro:lfcPsetWindowCommon

表4-78

型の定義	IFCで記述された窓に共通の属性。	
上位の型	uro:lfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:reference [lfcPsetWindowCommon]	xs:string [0..1]	このプロジェクトのための参照記号。
uro:acousticRating [lfcPsetWindowCommon]	xs:string [0..1]	遮音等級情報。関連する建築基準法を参照。

uro:fireRating [IfcPsetWindowCommon]	xs:string [0..1]	主要な耐火等級。関連する建築基準法、消防法などの国家基準を参照。
uro:securityRating [IfcPsetWindowCommon]	xs:string [0..1]	防犯等級情報。関連する基準を参照。
uro:isExternal [IfcPsetWindowCommon]	xs:boolean [0..1]	外部の部材かどうかを示すブーリアン値。 1：外部の部材で建物の外側に面している 0：そうではない
uro:infiltration [IfcPsetWindowCommon]	xs:double [0..1]	隙間風の流量値。
uro:thermalTransmittance [IfcPsetWindowCommon]	xs:double [0..1]	熱貫流率U値。ここでは窓を通した熱移動の方向における全体の熱還流率を示す。
uro:glazingAreaFraction [IfcPsetWindowCommon]	xs:double [0..1]	外壁の総面積に対するガラスの面積の比率。ガラスの面積が外壁に含まれる全てのパネルと分離されていないときに、使用される。
uro:smokeStop [IfcPsetWindowCommon]	xs:boolean [0..1]	オブジェクトが煙止めを提供するように設計されているか否か。 1：されている 0：されていない

4.2.3.5.22 uro:lfcRoof

表4-79

型の定義	IFCで記述された屋根の属性。	
上位の型	uro:lfcBuildingElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs::string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs::string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [IfcElement]	xs::string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。
uro:elementType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	建築物の部材の区分。コードリスト（IfcBuildingElement_elementType.xml）から選択する。 uro:elementTypeの値により、uro:predefinedType以降の使用可能な属性が異なる。
uro:predefinedType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	定義済み型に基づく区分。コードリスト（IfcBuildingElement_predefinedType.xml）から選択する。 uro:elementTypeが、Covering, Railing, Slabに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:shapeType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	形状の区分。コードリスト（IfcBuildingElement_shapeType.xml）から選択する。 uro:elementTypeがRamp, Stairに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfRiser [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	蹴上数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。

uro:numberOfTreads [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	踏面数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:riserHeight [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	蹴上の高さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:treadLength [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	踏面の奥行の長さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:operationType [IfcBuildingElement]	IfcTransportElementType Enum [0..1]	輸送設備の区分。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByWeight [IfcBuildingElement]	gml::MeasureType [0..1]	許容積載量。単位はkg。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByNumber [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	許容定員数。単位は人。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。

4.2.3.5.23 uro:lfcSite

表4-80

型の定義	IFCで記述されたプロジェクトの敷地に適用される属性の集まり。	
上位の型	uro:IfcSpatialStructureElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs:string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs:string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:longName [IfcSpatialStructureElement]	xs:string [0..1]	人が識別可能な名称。 uro:IfcBuildingの場合は、敷地を識別するための名称とする。
uro:compositionType [IfcSpatialStructureElement]	IfcElementCompositionEnum [0..1]	空間構成の区分。 ・ 単一であればELEMENTを設定。 ・ 複数から構成される場合はCOMPLEXを設定。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:refLongitude [IfcSite]	xs:double [0..1]	敷地の参照ポイントの経度。
uro:refLatitude [IfcSite]	xs:double [0..1]	敷地の参照ポイントの緯度。
uro:refElevation [IfcSite]	gml:LengthType [0..1]	敷地の参照ポイントの標高。
uro:landTitleNumber [IfcSite]	xs:string [0..1]	土地登記に関連する識別情報。

uro:siteAddress [IfcSite]	Address [0..1]	郵便住所。
--------------------------------	----------------	-------

4.2.3.5.24 uro:lfcSpace

表4-81

型の定義	IFCで記述された部屋の属性。	
上位の型	uro:lfcSpatialStructureElement	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs:string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs:string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:longName [IfcSpatialStructureElement]	xs:string [0..1]	人が識別可能な名称。 uro:lfcBuildingの場合は、敷地を識別するための名称とする。
uro:compositionType [IfcSpatialStructureElement]	IfcElementCompositionEnum [0..1]	空間構成の区分。 ・ 単一であればELEMENTを設定。 ・ 複数から構成される場合はCOMPLEXを設定。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:interiorOrExteriorSpace [IfcSpace]	IfcInternalOrExternalEnum [0..1]	INTERNAL/EXTERNAL/NOTDEFINED のいずれかを設定する。建物内部空間はINTERNAL、外部空間はEXTERNAL、不明/未定の場合はNOTDEFINEDを設定する。
uro:elevationWithFlooring [IfcSpace]	gml:LengthType [0..1]	床面（スラブの上にあるフロアリング材の上面）の高さ。建物の基準海拔高度からの相対的高さ。0.0が建物の基準海拔高度と一致する。

4.2.3.5.25 uro:lfcSpaceBaseQuantity

表4-82

型の定義	IFCで記述されたSpaceの数量に関する属性。	
上位の型	uro:lfcAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:nominalHeight [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::LengthType [0..1]	スラブ上端から上階スラブ下端までの高さ（予備寸法）。単位はm。
uro:clearHeight [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::LengthType [0..1]	床面（仕上げを含む）と天井面（仕上げ、下地を含む）の高さ。単位はm。
uro:finishCeilingHeight [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::LengthType [0..1]	天井高。例：床仕上げの上部面から天井の下部面までの高さ。単位はm。
uro:grossPerimeter [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::LengthType [0..1]	床レベルでの総周辺長（開口部の外周部分を含む）。単位はm。

uro:netPerimeter [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::LengthType [0..1]	正味周囲長（開口部外周部分は含まない）。単位はm。
uro:grossCeilingArea [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::MeasureType [0..1]	天井面積。単位はm2。
uro:grossFloorArea [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::MeasureType [0..1]	延面積（通常、柱、内壁などの面積も含まれる）。単位はm2。
uro:netCeilingArea [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::MeasureType [0..1]	正味天井面積（通常、柱、床開口部などの面積は除く）。単位はm2。
uro:netFloorArea [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::MeasureType [0..1]	正味延面積（通常、柱、床開口などの面積は除く）。単位はm2。
uro:grossWallArea [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::MeasureType [0..1]	壁面積（ドア、窓などの開口部分も含む）。単位はm2。
uro:netWallArea [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::MeasureType [0..1]	正味壁面積（ドア、窓などの開口部分を除く）。単位はm2。
uro:grossVolume [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::MeasureType [0..1]	体積（通常空間内の建築要素の体積も含む）。単位はm3。
uro:netVolume [IfcSpaceBaseQuantity]	gml::MeasureType [0..1]	正味体積（空間内の建築要素の体積は除く）。単位はm3。

4.2.3.5.26 uro:lfcUnit

表4-83

型の定義	単位を記述するデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:dimensions [IfcUnit]	xs::integer [0..1]	次元数。
uro:unitType [IfcUnit]	IfcUnitEnum [0..1]	単位の種類。
uro:prefix [IfcUnit]	xs::string [0..1]	単位のプリフィクス。
uro:name [IfcUnit]	xs::string [0..1]	単位の名称。

4.2.3.5.27 uro:lfcWall

表4-84

型の定義	IFCで記述された壁の属性。厚さが不均一な壁等、特殊な壁を表す。
上位の型	uro:lfcBuildingElement
ステレオタイプ	<< DataType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs:string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs:string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [IfcElement]	xs:string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。
uro:elementType [IfcBuildingElement]	gml:CodeType [0..1]	建築物の部材の区分。コードリスト (IfcBuildingElement_elementType.xml) から選択する。 uro:elementTypeの値により、uro:predefinedType以降の使用可能な属性が異なる。
uro:predefinedType [IfcBuildingElement]	gml:CodeType [0..1]	定義済み型に基づく区分。コードリスト (IfcBuildingElement_predefinedType.xml) から選択する。 uro:elementTypeが、Covering, Railing, Slabに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:shapeType [IfcBuildingElement]	gml:CodeType [0..1]	形状の区分。コードリスト (IfcBuildingElement_shapeType.xml) から選択する。 uro:elementTypeがRamp, Stairに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfRiser [IfcBuildingElement]	xs:integer [0..1]	蹴上数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfTreads [IfcBuildingElement]	xs:integer [0..1]	踏面数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:riserHeight [IfcBuildingElement]	gml:LengthType [0..1]	蹴上の高さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:treadLength [IfcBuildingElement]	gml:LengthType [0..1]	踏面の奥行の長さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:operationType [IfcBuildingElement]	IfcTransportElementType Enum [0..1]	輸送設備の区分。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByWeight [IfcBuildingElement]	gml:MeasureType [0..1]	許容積載量。単位はkg。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByNumber [IfcBuildingElement]	xs:integer [0..1]	許容定員数。単位は人。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:nominalLength [IfcWall]	gml:LengthType [0..1]	壁の中心線に沿った長さ。単位はm。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:nominalWidth [IfcWall]	gml:LengthType [0..1]	壁中心線に垂直に計測した壁の厚さ。壁中心線に沿って厚さが一定の場合のみ。単位はm。

		uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:nominalHeight [IfcWall]	gml::LengthType [0..1]	壁の高さ。壁中心線に沿って高さが一定の場合のみ。単位はm。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossFootPrintArea [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	平面図上に投影した壁の形状の面積。壁のへこみなどを考慮しない。単位はm。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netFootPrintArea [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	平面図上に投影した壁の形状の面積。壁のへこみなどを考慮する。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossSideArea [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	立面ビューによるカーテンウォールの面積。カーテンウォールに対する変形を考慮しない。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netSideArea [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	立面ビューによるカーテンウォールの面積。カーテンウォールに対する変形を考慮する。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossSideAreaLeft [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	Wall path の方向から見て左側の側面面積。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netSideAreaLeft [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	Wall path の方向から見て左側の正味側面面積。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossSideAreaRight [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	Wall path の方向から見て右側の側面面積。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netSideAreaRight [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	Wall path の方向から見て右側の正味側面面積。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossVolume [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	スラブの体積。開口、へこみなどを考慮しない。単位はm3。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netVolume [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	スラブの体積。開口、へこみなどを考慮する。単位はm3。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。

4.2.3.5.28 uro:IfcWallStandardCase

表4-85

型の定義	IFCで記述された壁の属性。厚さが均一な標準的な壁を表す。
上位の型	uro:IfcWall

ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs::string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs::string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs::string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [IfcElement]	xs::string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。
uro:elementType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	建築物の部材の区分。コードリスト（IfcBuildingElement_elementType.xml）から選択する。 uro:elementTypeの値により、uro:predefinedType以降の使用可能な属性が異なる。
uro:predefinedType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	定義済み型に基づく区分。コードリスト（IfcBuildingElement_predefinedType.xml）から選択する。 uro:elementTypeが、Covering, Railing, Slabに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:shapeType [IfcBuildingElement]	gml::CodeType [0..1]	形状の区分。コードリスト（IfcBuildingElement_shapeType.xml）から選択する。 uro:elementTypeがRamp, Stairに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfRiser [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	蹴上数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfTreads [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	踏面数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:riserHeight [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	蹴上の高さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:treadLength [IfcBuildingElement]	gml::LengthType [0..1]	踏面の奥行の長さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:operationType [IfcBuildingElement]	IfcTransportElementType Enum [0..1]	輸送設備の区分。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByWeight [IfcBuildingElement]	gml::MeasureType [0..1]	許容積載量。単位はkg。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByNumber [IfcBuildingElement]	xs::integer [0..1]	許容定員数。単位は人。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:nominalLength [IfcWall]	gml::LengthType [0..1]	壁の中心線に沿った長さ。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:nominalWidth [IfcWall]	gml::LengthType [0..1]	壁中心線に垂直に計測した壁の厚さ。壁中心線に沿って厚さが一定の場合のみ。単位はm。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。

uro:nominalHeight [IfcWall]	gml::LengthType [0..1]	壁の高さ。壁中心線に沿って高さが一定の場合のみ。単位はm。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossFootPrintArea [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	平面図上に投影した壁の形状の面積。壁のへこみなどを考慮しない。単位はm。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netFootPrintArea [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	平面図上に投影した壁の形状の面積。壁のへこみなどを考慮する。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossSideArea [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	立面ビューによるカーテンウォールの面積。カーテンウォールに対する変形を考慮しない。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netSideArea [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	立面ビューによるカーテンウォールの面積。カーテンウォールに対する変形を考慮する。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossSideAreaLeft [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	Wall path の方向から見て左側の側面面積。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netSideAreaLeft [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	Wall path の方向から見て左側の正味側面面積。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossSideAreaRight [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	Wall path の方向から見て右側の側面面積。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netSideAreaRight [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	Wall path の方向から見て右側の正味側面面積。単位はm2。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:grossVolume [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	スラブの体積。開口、へこみなどを考慮しない。単位はm3。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:netVolume [IfcWall]	gml::MeasureType [0..1]	スラブの体積。開口、へこみなどを考慮する。単位はm3。 uro:elementTypeがWall又はWallStandardCaseに区分される場合にこの属性を使用できる。

4.2.3.5.29 uro:IfcWindow

表4-86

型の定義	IFCで記述された窓の属性。
上位の型	uro:IfcBuildingElement
ステレオタイプ	<< DataType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:globalId [IfcRoot]	xs:string [0..1]	そのオブジェクトが単一に識別できる唯一な識別子。22桁の文字列により表現する。
uro:name [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの名称。
uro:description [IfcRoot]	xs:string [0..1]	オブジェクトの文字情報による追加説明。
uro:objectType [IfcObject]	xs:string [0..1]	オブジェクトの特定の型を示す。
uro:tag [IfcElement]	xs:string [0..1]	オブジェクトのシリアルナンバー、ポジションナンバーなどの識別番号。
uro:elementType [IfcBuildingElement]	gml:CodeType [0..1]	建築物の部材の区分。コードリスト (IfcBuildingElement_elementType.xml) から選択する。 uro:elementTypeの値により、uro:predefinedType以降の使用可能な属性が異なる。
uro:predefinedType [IfcBuildingElement]	gml:CodeType [0..1]	定義済み型に基づく区分。コードリスト (IfcBuildingElement_predefinedType.xml) から選択する。 uro:elementTypeが、Covering, Railing, Slabに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:shapeType [IfcBuildingElement]	gml:CodeType [0..1]	形状の区分。コードリスト (IfcBuildingElement_shapeType.xml) から選択する。 uro:elementTypeがRamp, Stairに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfRiser [IfcBuildingElement]	xs:integer [0..1]	蹴上数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:numberOfTreads [IfcBuildingElement]	xs:integer [0..1]	踏面数。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:riserHeight [IfcBuildingElement]	gml:LengthType [0..1]	蹴上の高さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:treadLength [IfcBuildingElement]	gml:LengthType [0..1]	踏面の奥行の長さ。単位はmとする。 uro:elementTypeがStairFlightに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:operationType [IfcBuildingElement]	IfcTransportElementType Enum [0..1]	輸送設備の区分。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByWeight [IfcBuildingElement]	gml:MeasureType [0..1]	許容積載量。単位はkg。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
uro:capacityByNumber [IfcBuildingElement]	xs:integer [0..1]	許容定員数。単位は人。 uro:elementTypeがTransportElementに区分される場合にこの属性を使用できる。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:overallHeight [IfcWindow]	gml:LengthType [0..1]	窓全体の高さ。単位はm。
uro:overallWidth [IfcWindow]	gml:LengthType [0..1]	窓全体の幅。単位はm。

4.2.3.5.30 uro:IndoorFacilityAttribute

表4-87

型の定義	施設に追加するナビゲーション用の属性。	
上位の型	uro:IndoorAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:source [IndoorAttribute]	gml::CodeType [0..1]	原典資料。コードリスト（Common_indoorSource.xml）から選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:weekdayHours [IndoorFacilityAttribute]	xs:string [0..1]	施設の営業時間（平日）。平日でも曜日により営業時間が異なる場合は、各曜日の営業時間を記載。
uro:weekendHours [IndoorFacilityAttribute]	xs:string [0..1]	施設の営業時間（土日祝祭日）。土日祝祭日により営業時間が異なる場合は、それぞれの営業時間を記載。
uro:phone [IndoorFacilityAttribute]	xs:string [0..1]	施設の電話番号。
uro:website [IndoorFacilityAttribute]	xs:string [0..1]	施設のウェブサイトアドレス（URL）。

4.2.3.5.31 uro:IndoorFurnishingAttribute

表4-88

型の定義	設備に追加するナビゲーション用の属性。	
上位の型	uro:IndoorAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:source [IndoorAttribute]	gml::CodeType [0..1]	原典資料。コードリスト（Common_indoorSource.xml）から選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:floorId [IndoorFurnishingAttribute]	xs::string [0..1]	固定設置物が紐づけられている階層の固有ID。

4.2.3.5.32 uro:IndoorPublicTagAttribute

表4-89

型の定義	パブリックタグに追加するナビゲーション用の属性。	
上位の型	uro:IndoorAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:source [IndoorAttribute]	gml::CodeType [0..1]	原典資料。コードリスト（Common_indoorSource.xml）から選択する。
自身に定義された属性		

属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:ucode [IndoorPublicTagAttribute]	xs:string [0..1]	場所情報コード。

4.2.3.5.33 uro:IndoorSpaceAttribute

表4-90

型の定義	物理的な空間に追加するナビゲーション用の属性。	
上位の型	uro:IndoorAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:source [IndoorAttribute]	gml::CodeType [0..1]	原典資料。コードリスト（Common_indoorSource.xml）から選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:floorId [IndoorSpaceAttribute]	xs::string [0..1]	物理的な空間が紐づけられている階層の固有ID。
uro:isRestricted [IndoorSpaceAttribute]	xs::boolean [0..1]	業務用エリアなど一般の人の進入制限の有無。 1：進入制限あり 0：進入制限なし
uro:suite [IndoorSpaceAttribute]	xs::string [0..1]	地図表示用の注記ラベル。
uro:isPublic [IndoorSpaceAttribute]	xs::boolean [0..1]	地図情報としての公開可否。 1：公開可 0：公開不可
uro:tollType [IndoorSpaceAttribute]	gml::CodeType [0..1]	有料施設の区分。コードリスト（IndoorSpaceAttribute_tollType.xml）より選択する。

4.2.3.5.34 uro:IndoorTactileTileAttribute

表4-91

型の定義	視覚障害者用誘導ブロックに追加するナビゲーション用の属性。	
上位の型	uro:IndoorAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:source [IndoorAttribute]	gml::CodeType [0..1]	原典資料。コードリスト（Common_indoorSource.xml）から選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:startNode [IndoorTactileTileAttribute]	xs::string [0..1]	視覚障害者誘導用ブロック等の開始位置の固有ID。接続するブロック（点）がある場合に入力する。
uro:endNode [IndoorTactileTileAttribute]	xs::string [0..1]	視覚障害者誘導用ブロック等の終了位置の固有ID。接続するブロック（点）がある場合に入力する。
uro:category [IndoorTactileTileAttribute]	gml::CodeType [0..1]	視覚障害者誘導用ブロック等の種類。コードリスト（IndoorTactileTileAttribute_category.xml）より選択する。
uro:roof [IndoorTactileTileAttribute]	gml::CodeType [0..1]	屋根の有無。コードリスト（IndoorTactileTileAttribute_roof.xml）より選択する。

uro:floorId [IndoorTactileTileAttribute]	xs:string [0..1]	誘導ブロックが紐づけられている階層の固有ID。
---	------------------	-------------------------

4.2.3.5.35 uro:IndoorZoneAttribute

表4-92

型の定義	任意の空間に追加するナビゲーション用の属性。 bldg:InteriorWallSurface、bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurfaceに使用する。	
上位の型	uro:IndoorAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:source [IndoorAttribute]	gml::CodeType [0..1]	原典資料。コードリスト（Common_indoorSource.xml）から選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:floorId [IndoorZoneAttribute]	xs::string [0..1]	任意の空間が紐づけられている階層の固有ID。

4.2.3.5.36 uro:IndoorUserDefinedAttribute

表4-93

型の定義	任意に追加するナビゲーション用の属性。 bldg:InteriorWallSurface、bldg:CeilingSurface、bldg:FloorSurfaceに使用する。	
上位の型	uro:IndoorAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:source [IndoorAttribute]	gml::CodeType [0..1]	原典資料。コードリスト（Common_indoorSource.xml）から選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:name [IndoorUserDefinedAttribute]	xs::string [0..1]	フィールド名。
uro:nominalValue [IndoorUserDefinedAttribute]	UserDefinedValue [0..1]	フィールド名に対応する属性値。
uro:description [IndoorUserDefinedAttribute]	xs::string [0..1]	説明情報。
uro:unit [IndoorUserDefinedAttribute]	xs::string [0..1]	単位。

4.2.3.5.37 uro:UserDefinedValue

表4-94

型の定義	任意に追加するナビゲーション用の属性の値。いずれか一つの属性を選択する。
上位の型	—

ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:stringValue [UserDefinedValue]	xs::string [0..1]	文字列。
uro:intValue [UserDefinedValue]	xs::integer [0..1]	整数。
uro:doubleValue [UserDefinedValue]	xs::double [0..1]	実数。
uro:codeValue [UserDefinedValue]	gml::CodeType [0..1]	コード。コードリスト（UserDefinedValue_codeValue[番号].xml）から選択する。[番号]は任意の半角数字とする。この属性を使用する場合は、コードリストを作成する。
uro:dateValue [UserDefinedValue]	xs::date [0..1]	日付。
uro:uriValue [UserDefinedValue]	xs::anyURI [0..1]	URI。
uro:measuredValue [UserDefinedValue]	gml::MeasureType [0..1]	単位付き数値。

4.2.4 建築物で使用するコードリストと列挙型

4.2.4.1 Building (CityGML)

4.2.4.1.1 Building_class.xml

表4-95

ファイル名	Building_class.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Building_class.xml
コード	説明
3001	普通建物
3002	堅ろう建物
3003	普通無壁舎
3004	堅ろう無壁舎
3000	分類しない建物
出典： 地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）	

4.2.4.1.2 Building_usage.xml

表4-96

ファイル名	Building_usage.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Building_usage.xml
コード	説明
401	業務施設
402	商業施設
403	宿泊施設
404	商業系複合施設
411	住宅
412	共同住宅
413	店舗等併用住宅
414	店舗等併用共同住宅
415	作業所併用住宅
421	官公庁施設
422	文教厚生施設
431	運輸倉庫施設
441	工場
451	農林漁業用施設
452	供給処理施設
453	防衛施設
454	その他
461	不明
出典：[33]	

4.2.4.1.3 Building_roofType.xml

表4-97

ファイル名	Building_roofType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Building_roofType.xml
コード	説明
1	切妻屋根
2	寄棟屋根
3	方形屋根
4	陸屋根
5	片流れ屋根
6	袴腰屋根/半切妻屋根
7	入母屋屋根
8	鍔（しころ）屋根
9	マンサード屋根
10	越屋根
11	招き屋根
12	差し掛け屋根
ファイル名	Building_roofType.xml

13	バタフライ屋根
14	鋸屋根
15	六柱屋根
16	八柱屋根
17	M型屋根
18	下屋付招き屋根
19	棟違い屋根
20	乗り越し屋根
21	腰折れ屋根
22	隅切屋根
23	アーチ屋根
24	ドーム屋根
25	シェル屋根
26	カテナリー屋根
27	膜構造
28	その他
9020	不明
出典: OGC 12-019, 附属書 C.1	

4.2.4.1.4 BuildingInstallation_class.xml

表4-98

ファイル名	BuildingInstallation_class.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/BuildingInstallation_class.xml
コード	説明
1000	外観の特徴
1020	廃棄物管理
1030	維持管理
1040	通信設備
1050	保安施設
1060	その他
出典: OGC 12-019, 附属書 C.1	

4.2.4.1.5 BuildingInstallation_function.xml

表4-99

ファイル名	BuildingInstallation_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/BuildingInstallation_function.xml
コード	説明
1000	バルコニー
1001	ポーチ
1002	テラス
1003	エントランスホール

ファイル名	BuildingInstallation_function.xml
1010	温室

1011	カーポート
1012	物置
1020	アーケード
1021	回廊
1030	煙突（建築物の一部としての）
1031	ダクト
1032	換気口
1033	アンテナ
1040	塔（建築物の一部としての）
1041	塔屋
1050	柱・円柱
1051	看板
1052	屋根飾り
1053	ドーマー
1054	出窓
1055	パネル
1060	階段
1061	手すり
1062	外階段・歩道の庇
1063	スロープ
1064	エスカレータ
1065	エレベータ
1066	動く歩道
1070	その他
出典: OGC 12-019, 附属書 C.1 ; ISO 6707-1	

4.2.4.1.6 Room_class.xml

表4-100

ファイル名	Room_class.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Room_class.xml
コード	説明
SL_20	管理事務、商業、保安の空間
SL_25	文化教育の空間
SL_30	産業の空間
SL_32	水土管理（農林水産）の空間
SL_35	医療、健康、福祉、衛生の空間
SL_40	レクリエーションの空間
SL_42	スポーツ活動の空間
SL_45	居住空間
SL_50	廃棄物処理の空間・場所
SL_55	配管による資源供給の空間
SL_60	暖房、冷房、冷凍（冷蔵）の空間

ファイル名	Room_class.xml
SL_70	電力・配電用の空間

SL_75	通信、セキュリティ、安全、保護の空間
SL_80	輸送・交通の空間
SL_82	車両スペース
SL_90	その他一般の空間
出典：[8]	

4.2.4.1.7 Room_function.xml

表4-101

ファイル名	Room_function.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Room_function.xml
コード	説明
SL_20_10	議会スペース
SL_20_15	管理事務活動の空間
SL_20_45	自動車整備および燃料補給空間
SL_20_50	商業活動の空間
SL_20_55	郵便通信の空間
SL_20_60	軍事保安のための空間
SL_20_62	パレード（行進）の空間
SL_20_65	警察業務空間
SL_20_70	司法活動の空間
SL_20_75	拘置・勾留の空間
SL_20_80	射撃訓練の空間
SL_20_85	セキュリティ活動の空間
SL_20_90	事故災害支援のための空間
SL_20_95	保護されたゾーン
SL_25_05	記念空間
SL_25_10	教育活動の空間
SL_25_20	デザインする空間
SL_25_30	科学および実験の空間
SL_25_40	トレーニングスペース
SL_25_50	展示空間
SL_25_70	情報活動空間
SL_25_75	学習リソーススペース
SL_25_80	準備スペース
SL_25_90	礼拝空間
SL_30_10	鉱物採掘の空間
SL_30_20	原子力・化学物質管理の空間
SL_30_30	鉱物処理の空間
SL_30_40	農林水産植物加工空間
SL_30_50	製造のための空間
SL_30_60	清掃・メンテナンスの空間
SL_30_80	機械式発電の空間
ファイル名	Room_function.xml
SL_30_85	港湾保全の空間
SL_30_90	倉庫・流通（配送）のための空間

SL_32_10	農業・園芸空間
SL_32_35	ダムスペース
SL_32_40	農地・園庭空間
SL_32_50	土地管理用空間
SL_32_65	海路・水路空間
SL_32_80	自然空間
SL_32_85	半自然空間
SL_32_95	水管理・治水スペース
SL_35_10	医療空間
SL_35_50	福祉空間
SL_35_60	食品管理空間
SL_35_70	葬斎空間
SL_35_80	健康衛生活動のための空間
SL_35_85	動物のための空間
SL_35_90	動物の医療、健康、福祉、葬儀の空間
SL_40_05	アミューズメント空間
SL_40_20	ダイニング（食事）空間
SL_40_35	歴史的空間
SL_40_55	屋外の遊び場と社交場
SL_40_60	舞台芸術空間
SL_40_65	舞台芸術の補助空間
SL_42_15	コート、ピッチ、フィールドでのスポーツの空間
SL_42_40	屋内アクティビティ用空間
SL_42_55	屋外アクティビティ用空間
SL_42_80	スポーツとアクティビティの支援空間
SL_42_85	水泳のための空間
SL_42_90	ウォーターアクティビティ
SL_42_95	ウィンタースポーツのための空間
SL_45_10	生活空間
SL_50_10	ガス廃棄物収集のための空間
SL_50_20	非水系廃棄物収集空間
SL_50_25	排水収集場所
SL_50_30	排水収集のための空間
SL_50_35	排水収集の場所
SL_50_40	乾燥廃棄物収集のための空間
SL_50_50	ガス廃棄物処理のための空間
SL_50_60	非水系廃棄物の処理および処分空間
SL_50_70	排水処理のための空間（排水処理場）
SL_50_75	廃水処理・処分のための空間
SL_50_80	乾燥廃棄物処理・処分のための空間
SL_55_05	ガス抽出処理のための空間
SL_55_10	液体燃料抽出・処理のための空間
SL_55_15	水抽出処理のための空間
ファイル名	Room_function.xml
SL_55_20	ガス供給のための空間
SL_55_30	消火供給のための空間

SL_55_40	蒸気供給のための空間
SL_55_50	液体燃料供給のための空間
SL_55_60	処理液供給のための空間
SL_55_65	換気および空調のための空間
SL_55_70	給水のための空間
SL_55_90	パイプ固形物供給のための空間
SL_60_30	線路および舗装の融雪のための空間
SL_60_40	室内冷暖房のための空間
SL_60_60	冷凍（冷蔵）のための空間
SL_60_80	乾燥のための空間
SL_70_10	発電のための空間
SL_70_30	配電・送電用の空間
SL_75_10	通信のための空間
SL_75_30	シグナルのための空間
SL_75_40	電子セキュリティの空間
SL_75_50	安全と保護のための空間
SL_75_60	環境安全
SL_75_70	制御・管理用の空間
SL_75_80	保護用の空間
SL_80_05	航空宇宙基地空間
SL_80_10	荷物積込・乗船スペース
SL_80_15	航空宇宙整備のための空間
SL_80_20	ケーブルウェイ（索道）
SL_80_30	ケーブル輸送の保管・メンテナンスの空間
SL_80_35	道路空間
SL_80_40	歩道空間
SL_80_45	車両保管のための空間
SL_80_50	鉄道空間
SL_80_70	海上・水上輸送のための空間
SL_80_90	輸送ハブ
SL_80_92	グリッド（輸送網）システム
SL_80_94	橋梁構造物の空間
SL_80_96	トンネル・立て坑の空間
SL_80_98	交通施設の車両限界
SL_82_61	乗客スペース
SL_90_10	資源循環のための空間
SL_90_20	共用空間（コモンスペース）
SL_90_30	建設余地
SL_90_40	一般レベル
SL_90_50	収納貯蔵のための空間
SL_90_60	占有されていない開口
SL_90_90	機械室及び制御室
出典：[8]	

4.2.4.1.8 IntBuildingInstallation_class.xml

表4-102

ファイル名	IntBuildingInstallation_class.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/IntBuildingInstallation_class.xml
コード	説明
BE_01	IfcBeam
BE_02	IfcColumn
BE_05	IfcPlate
BE_06	IfcRailing
BE_07	IfcRamp
BE_08	IfcRampFlight
BE_11	IfcStair
BE_12	IfcStairFlight
BE_16	IfcBuildingElementProxy
BE_17	IfcTransportElement
出典： IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.1.9 IntBuildingInstallation_function.xml

表4-103

ファイル名	IntBuildingInstallation_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/IntBuildingInstallation_function.xml
コード	説明
EF_25	壁およびバリア（バリケード） エレメント
EF_30	屋根、床、舗装エレメント
EF_35	階段および傾斜路（スロープ） エレメント
EF_37	トンネル、船舶（ベッセル）、煙突タワーエレメント
EF_40	標識、付属品、備品および設備（FF&E）エレメント
EF_45	動植物エレメント
EF_50	廃棄物処理機能[発生材運搬処分機能]
EF_55	配管供給機能
EF_60	暖房、冷房、冷凍（冷蔵）機能
EF_65	空調換気機能
EF_70	電力および照明機能
EF_75	通信、セキュリティ、安全、保護機能
EF_80	輸送機能
出典： [8]	

4.2.4.1.10 BuildingFurniture_class.xml

表4-104

ファイル名	BuildingFurniture_class.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/BuildingFurniture_class.xml
コード	説明
Pr_40_10	サインネープレート製品
Pr_40_20	衛生器具および付属品
Pr_40_30	継手
Pr_40_50	家具
Pr_40_70	装置
出典： [8]	

4.2.4.1.11 BuildingFurniture_function.xml

表4-105

ファイル名	BuildingFurniture_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/BuildingFurniture_function.xml
コード	説明
Pr_40_10_57	通知、識別、ラベル
Pr_40_10_77	サインとマーカー
Pr_40_10_90	水と航行援助標識
Pr_40_10_96	風向計製品
Pr_40_20_06	入浴金具
Pr_40_20_27	緊急用シャワー製品
Pr_40_20_60	パッケージ化された衛生器具
Pr_40_20_76	サニタリーアクセサリ
Pr_40_20_87	水栓、自動水栓
Pr_40_20_93	小便器とトイレの付属品
Pr_40_20_96	洗面台、シンク、トラフ
Pr_40_30_04	動物飼育
Pr_40_30_20	カーテンとスクリーン
Pr_40_30_21	自転車スタンドとロッカー
Pr_40_30_22	抑止力と罠
Pr_40_30_25	ディスプレイおよびプレゼンテーションフィッティング
Pr_40_30_26	物干しロープ
Pr_40_30_28	外部ストレージユニット
Pr_40_30_29	取り付けられた椅子、座席およびベンチ
Pr_40_30_30	取り付けられた机、テーブルおよび調理台
Pr_40_30_31	旗竿
Pr_40_30_50	メールフィッティング
Pr_40_30_55	楽器
Pr_40_30_61	遊具
Pr_40_30_65	POSフィッティング
ファイル名	BuildingFurniture_function.xml

Pr_40_30_66	ポスター表示ユニット
Pr_40_30_71	宗教的な付属品
Pr_40_30_75	金庫とセキュリティキャビネット
Pr_40_30_78	棚、ハンガー、ラック
Pr_40_30_80	スケートボードのインストール
Pr_40_30_83	スポーツフィッティング
Pr_40_30_84	スポーツゴール
Pr_40_30_85	スポーツネット
Pr_40_30_86	スイミングプールの付属品
Pr_40_30_87	ストレージユニットと食器棚
Pr_40_50_05	アートワーク
Pr_40_50_06	ベッド
Pr_40_50_07	ビンとバケツ
Pr_40_50_12	椅子、座席、ベンチ
Pr_40_50_13	時計
Pr_40_50_21	机、テーブル
Pr_40_50_28	消火器とファイヤーブランケット
Pr_40_50_31	家具ブース
Pr_40_50_33	庭の家具
Pr_40_50_51	医療用椅子とソファ
Pr_40_50_52	医療デスク、テーブル、調理台
Pr_40_50_53	医療用トロリー
Pr_40_50_81	ソフト家具
Pr_40_50_83	スポーツ家具
Pr_40_50_84	スタンド、ホルダー
Pr_40_50_86	スイミングプールの家具
Pr_40_50_90	トロリー
Pr_40_50_96	ホイール
Pr_40_70	装置
Pr_40_70_13	洗浄装置
Pr_40_70_15	冷水供給源
Pr_40_70_17	業務用調理器具
Pr_40_70_21	食器洗浄機
Pr_40_70_22	ディスペンサーと受け入れユニット
Pr_40_70_23	業務用ディスプレイおよびケータリングサービス製品
Pr_40_70_24	家庭用調理器具
Pr_40_70_25	家庭用洗濯設備
Pr_40_70_26	家庭用冷蔵・冷凍庫
Pr_40_70_27	環境保護装置
Pr_40_70_29	火災シミュレーション装置
Pr_40_70_31	食品冷蔵・冷凍庫
Pr_40_70_35	一般的なワークショップ機器
Pr_40_70_46	ランドリーの付属品および装置
Pr_40_70_47	洗濯機と乾燥機
Pr_40_70_50	メール機器
ファイル名	BuildingFurniture_function.xml

Pr_40_70_51	医療および実験装置
Pr_40_70_53	医療、実験室、薬局の冷蔵庫と冷凍庫
Pr_40_70_55	係留、ドッキング、浮揚装置
Pr_40_70_58	オフィス設備
Pr_40_70_62	パーソナルドライヤー
Pr_40_70_63	写真機材
Pr_40_70_65	準備ケータリング機器
Pr_40_70_66	プロセス機器
Pr_40_70_67	プロジェクター
Pr_40_70_71	レクリエーション設備
Pr_40_70_73	鉄道車庫設備
Pr_40_70_75	安全装置
Pr_40_70_84	スポーツ用品
Pr_40_70_86	舞台装置
Pr_40_70_96	スイミングプール設備
Pr_40_70_99	水制御装置
出典：[8]	

4.2.4.2 Urban Object (i-UR)

4.2.4.2.1 BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml

表4-106

ファイル名	BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml
コード	説明
401	業務施設
401101	事務所
401102	銀行
401103	会議場・展示場
401104	郵便局
401105	電話局
401106	民間研究所
401107	研修所
402	商業施設
4021	商業施設1（百貨店、小売店、卸売店、ガソリンスタンド等）
402101	百貨店
402102	小売店
402103	卸売店
402104	ガソリンスタンド
4022	商業施設2（食堂、喫茶店、弁当屋・宅配等）
402201	食堂
402202	喫茶店
402203	弁当屋・宅配
ファイル名	BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml

4023	商業施設3（理容店、美容院、レンタル業、宴会場、結婚式場、習い事教室、予備校、自動車教習所、住宅展示場、その他のサービス施設）
402301	理容店
402302	美容院
402303	レンタル業
402304	宴会場
402305	結婚式場
402306	習い事教室
402307	予備校
402308	自動車教習所
402309	住宅展示場
402310	その他サービス施設
4024	商業施設4（料理店、キャバレー、クラブ、バー、飲み屋等）
402401	料理店
402402	キャバレー
402403	クラブ
402404	バー
402405	飲み屋
4025	商業施設5（劇場、映画館等）
402501	劇場
402502	映画館
4026	商業施設6（ボーリング場、バッティングセンター、ゴルフ練習場、フィットネス、カラオケボックス、インターネットカフェ等）
402601	ボーリング場
402602	バッティングセンター
402603	ゴルフ練習場
402604	フィットネス
402605	カラオケボックス
402606	インターネットカフェ
4027	商業施設7（マージャン屋、パチンコ屋、馬券・車券発売所等）
402701	マージャン屋
402702	パチンコ店
402703	馬券・車券発売所
403	宿泊施設
403101	ホテル
403102	旅館
403103	民宿
403104	ラブホテル
404	商業系複合施設
411	住宅
4111	専用住宅（住宅に付随する物置、車庫を含む）
412	共同住宅
412101	アパート
412102	マンション
412103	長屋
412104	寮
ファイル名	BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml

413	店舗等併用住宅
414	店舗等併用共同住宅
415	作業所併用住宅
421	官公庁施設
421101	国県市町村庁舎
421102	裁判所
421103	税務署
421104	警察署
421105	消防署
421106	駐在所
422	文教厚生施設
4221	文教厚生施設1（大学、高等専門学校、各種学校、公的研究所等）
422101	大学
422102	高等専門学校
422103	各種学校
422104	公的研究所
4222	文教厚生施設2（小・中・高等学校、保育所等）
422201	小・中・高等学校
422202	保育所
4223	文教厚生施設3（図書館、博物館、文化ホール、集会所、動物園等）
422301	図書館
422302	博物館
422303	文化ホール
422304	集会所
422305	動物園
4224	文教厚生施設4（体育館、水泳場、野球場、陸上競技場その他のスポーツ施設（主に公共施設））
422401	体育館
422402	水泳場
422403	野球場
422404	陸上競技場その他のスポーツ施設（主に公共施設）
4225	文教厚生施設5（病院）
4226	文教厚生施設6（診療所、老人ホーム、介護福祉施設、公衆浴場、公衆便所等）
422601	診療所
422602	老人ホーム
422603	介護福祉施設
422604	公衆浴場
422605	公衆便所
4227	文教厚生施設7（神社、寺院、教会等）
422701	神社
422702	寺院
422703	教会
431	運輸倉庫施設
4311	運輸倉庫施設1（駅舎、電車車庫、バスターミナル、港湾・空港施設等）
431101	駅舎
431102	電車車庫
ファイル名	BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml

431103	バスターミナル
431104	港湾・空港施設
4312	運輸倉庫施設2（卸売市場、倉庫、トラックターミナル等）
431201	卸売市場
431202	倉庫
431203	トラックターミナル
4313	運輸倉庫施設3（立体駐車場、駐輪施設等）
431301	立体駐車場
431302	駐輪施設
441	工場
4411	工場1（危険物の製造、液化ガスの製造、塩素・臭素等の製造、肥料の製造、製紙、製革、アスファルトの精製、セメントの製造、金属の溶融等（準工業地域において立地不可））
441101	危険物の製造
441102	液化ガスの製造
441103	塩素・臭素等の製造
441104	肥料の製造
441105	製紙
441106	製革
441107	アスファルトの精製
441108	セメントの製造
441109	金属の溶解
4412	工場2（原動機を使用する150㎡を超える工場、引火性溶剤を用いるドライクリーニング、原動機を使用する岩石の粉碎、レディミクストコンクリートの製造、陶磁器・ガラスの製造等（商業地域において立地不可））
441201	原動機を使用する150㎡を超える工場
441202	引火性溶剤を用いるドライクリーニング
441203	原動機を使用する岩石の粉碎
441204	レディミクストコンクリートの製造
441205	陶磁器・ガラスの製造
4413	工場3（原動機を使用する50㎡を超える工場、原動機を使用する魚肉の練製品の製造・セメント製品の製造・金属の加工・印刷、木工所、めっき等（住居地域において立地不可））
441301	原動機を使用する50㎡を超える工場
441302	原動機を使用する魚肉の練製品の製造・セメント製品の製造・金属の加工・印刷
441303	木工所
441304	めっき
4414	工場4（50㎡以内のパン屋、米屋、豆腐屋、菓子屋その他これらに類する食品製造業を営む工場等）
441401	50㎡以内のパン屋
441402	米屋
441403	豆腐屋
441404	菓子屋その他これらに類する食品製造業を営む工場
4415	工場5（自動車修理工場）
451	農林漁業用施設
451101	農業用納屋
451102	畜舎
451103	温室
ファイル名	BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml

451104	船小屋
451105	農林漁業用作業場
452	供給処理施設
452101	処理場
452102	浄水場
452103	ポンプ場
452104	火葬場
452105	発電所
452106	変電所
452107	ガス・熱供給施設
453	防衛施設
454	その他
461	不明
471	空家
出典：[33]	

4.2.4.2.2 BuildingDetailAttribute_buildingStructureType.xml

表4-107

ファイル名	BuildingDetailAttribute_buildingStructureType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/BuildingDetailAttribute_buildingStructureType.xml
コード	説明
601	木造・土蔵造
602	鉄骨鉄筋コンクリート造
603	鉄筋コンクリート造
604	鉄骨造
605	軽量鉄骨造
606	レンガ造・コンクリートブロック造・石造
610	非木造
611	不明
出典：[33]	

4.2.4.2.3 BuildingDetailAttribute_fireproofStructureType.xml

表4-108

ファイル名	BuildingDetailAttribute_fireproofStructureType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/BuildingDetailAttribute_fireproofStructureType.xml
コード	説明
1001	耐火
1002	準耐火造
1003	その他
1011	不明
出典：[33]	

4.2.4.2.4 BuildingDetailAttribute_vacancy.xml

表4-109

ファイル名	BuildingDetailAttribute_vacancy.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/BuildingDetailAttribute_vacancy.xml
コード	説明
1	空き家
0	空き家以外

4.2.4.2.5 LargeCustomerFacilityAttribute_class.xml

表4-110

ファイル名	LargeCustomerFacilityAttribute_class.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/LargeCustomerFacilityAttribute_class.xml
コード	説明
1	大規模小売店舗（食品スーパー）
2	大規模小売店舗（百貨店・スーパー・ショッピングセンター・寄合百貨店・小売市場）
3	大規模小売店舗（ホームセンター・専門店（家具・家電・書籍等））
4	大規模小売店舗（その他）
5	大規模集客施設（床面積 1 万 m ² 超の店舗、映画館、アミューズメント施設、展示場等）
出典：[33]	

4.2.4.2.6 DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-111

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
101	（公共測量又は基本測量ではない）現地測量の測量成果
102	（公共測量又は基本測量ではない）UAV写真測量の測量成果
103	（公共測量又は基本測量ではない）空中写真測量の測量成果
104	（公共測量又は基本測量ではない）既成図数値化の測量成果
105	（公共測量又は基本測量ではない）修正測量の測量成果
106	（公共測量又は基本測量ではない）写真地図作成の測量成果
107	（公共測量又は基本測量ではない）地図編集の測量成果
108	（公共測量又は基本測量ではない）地上レーザ測量の測量成果
109	（公共測量又は基本測量ではない）UAV写真点群測量の測量成果
110	（公共測量又は基本測量ではない）UAVレーザ測量の測量成果
111	（公共測量又は基本測量ではない）車載写真レーザ測量の測量成果
112	（公共測量又は基本測量ではない）航空レーザ測量の測量成果
113	（公共測量又は基本測量ではない）航空レーザ測深測量の測量成果

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
-------	--

114	(公共測量又は基本測量ではない) 路線測量の測量成果
115	(公共測量又は基本測量ではない) 河川測量の測量成果
116	(公共測量又は基本測量ではない) 用地測量の測量成果
117	(公共測量又は基本測量ではない) その他の応用測量の測量成果
118	(公共測量又は基本測量ではない) LidarSLAM計測の測量成果
119	(公共測量又は基本測量ではない) 高密度航空レーザ測量の測量成果
120	(公共測量又は基本測量ではない) 写真点群測量の測量成果
121	(公共測量又は基本測量ではない) 三次元数値図化の測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
700	その他の資料
801	現地調査
803	GISデータ演算
901	推定
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.2.4.2.7 DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml

表4-112

ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
100	公共測量成果又は基本測量成果ではない測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
600	統計データ
701	建築計画概要書
700	その他の資料
801	現地調査
802	写真判読
803	GISデータ演算
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.2.4.2.8 DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml

表4-113

ファイル名	DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
コード	説明
1	空中写真
2	衛星写真
3	車載写真レーザ測量システムにより撮影した写真
4	手持ちカメラにより撮影した写真
5	疑似テクスチャ
99	未作成

4.2.4.2.9 DataQualityAttribute_lod1HeightType.xml

表4-114

ファイル名	DataQualityAttribute_lod1HeightType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_lod1HeightType.xml
コード	説明
1	点群から取得_最高高さ
2	点群から取得_中央値
3	点群から取得_平均値
4	点群から取得_最頻値
5	点群から取得_最低値
6	航空写真図化_最高高さ
7	建築確認申請書類等に記載された「建築物の高さ」
8	都市計画基礎調査（建物利用現況）の「高さ（m）」
9	階高3m×都市計画基礎調査（建物利用現況）の「階数・地上（階）」による推定値
10	図面から取得した高さ
0	取得不可のため一律値（3m）
出典：[22]	

4.2.4.2.10 Building_lodType.xml

表4-115

ファイル名	Building_lodType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Building_lodType.xml
コード	説明
2.0	LOD2.0
2.1	LOD2.1

ファイル名	Building_lodType.xml
-------	----------------------

2.2	LOD2.2
3.0	LOD3.0
3.1	LOD3.1
3.2	LOD3.2
3.3	LOD3.3
4.0	LOD4.0
4.1	LOD4.1
4.2	LOD4.2

4.2.4.2.11 PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml

表4-116

ファイル名	PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml
コード	説明
0	地図情報レベル5000
1	地図情報レベル2500
2	地図情報レベル1000
3	地図情報レベル500
9	定義なし

4.2.4.2.12 PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-117

ファイル名	PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
001	現地測量の測量成果
002	UAV写真測量の測量成果
003	空中写真測量の測量成果
004	既成図数値化の測量成果
005	修正測量の測量成果
006	写真地図作成の測量成果
007	地図編集の測量成果
008	地上レーザ測量の測量成果
009	UAV写真点群測量の測量成果
010	UAVレーザ測量の測量成果
011	車載写真レーザ測量の測量成果
012	航空レーザ測量の測量成果
013	航空レーザ測深測量の測量成果
014	路線測量の測量成果
015	河川測量の測量成果
016	用地測量の測量成果
017	その他の応用測量の測量成果
ファイル名	PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

018	LidarSLAM計測の測量成果
019	高密度航空レーザ測量の測量成果
020	写真点群測量の測量成果
021	三次元数値図化の測量成果
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #10	

4.2.4.2.13 IfcBuildingElement_elementType.xml

表4-118

ファイル名	IfcBuildingElement_elementType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/IfcBuildingElement_elementType.xml
コード	説明
BE_01	IfcBeam
BE_02	IfcColumn
BE_03	IfcCurtainWall
BE_04	IfcDoor
BE_05	IfcPlate
BE_06	IfcRailing
BE_07	IfcRamp
BE_08	IfcRampFlight
BE_09	IfcRoof
BE_10	IfcSlab
BE_11	IfcStair
BE_12	IfcStairFlight
BE_13	IfcWall
BE_14	IfcWallStandardCase
BE_15	IfcWindow
BE_16	IfcBuildingElementProxy
BE_17	IfcTransportElement
出典: IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.14 IfcBuildingElement_predefinedType.xml

表4-119

ファイル名	IfcBuildingElement_predefinedType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/IfcBuildingElement_predefinedType.xml
コード	説明
01	IfcColumn : COLUMN (柱)
02	IfcColumn : PILASTER (壁に貼り付けられた、又は埋め込まれた装飾用の柱)
03	IfcColumn : PIERSTEM (橋脚の個々の部分)
04	IfcColumn : PIERSTEM_SEGMENT (橋脚柱の垂直部分)
ファイル名	IfcBuildingElement_predefinedType.xml
05	IfcColumn : STANDCOLUMN (上部構造からその下のアーチに垂直荷重を伝達する柱)

11	IfcCovering : CEILING (天井)
12	IfcCovering : FLOORING (床)
13	IfcCovering : CLADDING (外壁の被覆材)
14	IfcCovering : ROOFING (屋根カバー)
15	IfcCovering : MOLDING (モールディング)
16	IfcCovering : SKIRTINGBOARD (幅木)
17	IfcCovering : INSULATION (絶縁)
18	IfcCovering : MEMBRANE (屋根カバー又は防湿の膜)
19	IfcCovering : SLEEVING (スリーブ)
20	IfcCovering : WRAPPING (テープを使用して配電要素を包む)
21	IfcCovering : COPING (壁又はパラペット保護)
30	IfcRailing : HANDRAIL (手すり)
31	IfcRailing : GUARDRAIL (防護柵)
32	IfcRailing : BALUSTRADE (欄干)
41	IfcSlab : FLOOR (床)
42	IfcSlab : ROOF (屋根)
43	IfcSlab : LANDING (階段又はスロープ内の踊り場)
44	IfcSlab : BASESLAB (地面に対する床スラブ)
出典 : IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.15 IfcElementCompositionEnum

表4-120

列挙型	IfcElementCompositionEnum
値	説明
COMPLEX	通常の単一の建物であればELEMENTを設定
ELEMENT	複数の建物から構成される複合建物の場合はCOMPLEXを設定
PARTIAL	部分的な空間を表現している建物の場合はPARTIALを設定
出典 : IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.16 IfcBuildingElement_shapeType.xml

表4-121

ファイル名	IfcBuildingElement_shapeType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/IfcBuildingElement_shapeType.xml
コード	説明
01	IfcRamp : STRAIGHT_RUN_RAMP (直線的なスロープ)
02	IfcRamp : TWO_STRAIGHT_RUN_RAMP (1ヵ所の踊り場のある直線的なスロープ)
03	IfcRamp : QUARTER_TURN_RAMP (1ヵ所の踊り場で90度転回するスロープ)
04	IfcRamp : TWO_QUARTER_TURN_RAMP (2ヵ所の踊り場で各90度転回するスロープ)
05	IfcRamp : HALF_TURN_RAMP (1ヵ所の踊り場で180度転回するスロープ)
06	IfcRamp : SPIRAL_RAMP (円形又は楕円形のスロープ)
21	IfcRoof : FLAT_ROOF (陸屋根)
ファイル名	IfcBuildingElement_shapeType.xml
22	IfcRoof : SHED_ROOF (片流れ屋根)
23	IfcRoof : GABLE_ROOF (切妻屋根)

24	IfcRoof : HIP_ROOF (寄棟屋根)
25	IfcRoof : HIPPED_GABLE_ROOF (半切妻屋根)
26	IfcRoof : GAMBREL_ROOF (腰折屋根)
27	IfcRoof : MANSARD_ROOF (マンサード屋根)
28	IfcRoof : BARREL_ROOF (かまぼこ屋根)
29	IfcRoof : RAINBOW_ROOF (虹型屋根)
30	IfcRoof : BUTTEFLY_ROOF (バタフライ屋根)
31	IfcRoof : PAVILION_ROOF (方形屋根)
32	IfcRoof : DOOM_ROOF (ドーム屋根)
99	USERDEFINED (利用者定義)
00	NOTDEFINED (定義なし)
出典 : IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.17 IfcInternalOrExternalEnum

表4-122

列挙型	IfcInternalOrExternalEnum
値	説明
INTERNAL	内部空間
EXTERNAL	外部空間
NOTDEFINED	未定／不明
出典 : IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.18 IfcSIPrefix

表4-123

列挙型	IfcSIPrefix
値	説明
EXA	10の18乗
PETA	10の15乗
TERA	10の12乗
GIGA	10の9乗
MEGA	10の6乗
KILO	10の3乗
HECTO	10の2乗
DECA	10
DECI	10の-1乗
CENTI	10の-2乗
MILLI	10の-3乗
MICRO	10の-6乗
NANO	10の-9乗
PICO	10の-12乗
FEMTO	10の-15乗

列挙型	IfcSIPrefix
ATTO	10の-18乗
出典 : IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.19 IfcSlabTypeEnum

表4-124

列挙型	IfcSlabTypeEnum
値	説明
USERDEFINED	利用者定義
NOTDEFINED	定義なし
出典： IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.20 IfcStairTypeEnum

表4-125

列挙型	IfcStairTypeEnum
値	説明
STRAIGHTRUNSTAIR	直線的な階段
TWOSTRAIGHTRUNSTAIR	踊り場が1ヵ所設けられた直線的な階段
QUARTERWINDINGSTAIR	90度転回する階段
QUARTERTURNSTAIR	踊り場1ヵ所で90度転回する直線的な階段
HALFWINDINGSTAIR	90度ずつ2回転回する階段
HALFTURNSTAIR	踊り場1ヵ所で180度転回する直線的な階段
TWOQUARTERWINDINGSTAIR	90度ずつ2回転回する階段
TWOQUARTERTURNSTAIR	踊り場2ヵ所で90度ずつ転回する直線的な階段
THREEQUARTERWINDINGSTAIR	90度ずつ3回転回する階段
THREEQUARTERTURNSTAIR	踊り場3ヵ所で90度ずつ転回する直線的な階段
SPIRALSTAIR	らせん階段
DOUBLERETURNSTAIR	踊り場につながる1つの広い階段と、90度転回して反対方向への2つの側方への階段を含む階段
CURVEDRUNSTAIR	1つの湾曲した階段
TWOCURVEDRUNSTAIR	踊り場が1ヵ所ある2つの曲線階段
OTHEROPERATION	利用者定義
NOTDEFINED	定義なし
出典： IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.21 IfcStairFlightTypeEnum

表4-126

列挙型	IfcStairFlightTypeEnum
値	説明
StraightRunStair	直線的な階段
STRAIGHT	直線
WINDER	直線部分と曲線部分
列挙型	IfcStairFlightTypeEnum
SPIRAL	螺旋
CURVED	湾曲
FREEFORM	自由形式
USERDEFINED	利用者定義
NOTDEFINED	未定義

4.2.4.2.22 IfcStateEnum

表4-127

列挙型	IfcStateEnum
値	説明
READWRITE	読み取り/書き込み状態。アプリケーションにより変更される場合がある。
READONLY	読み取り専用状態。アプリケーションで表示可、変更不可。
LOCKED	ロック状態。アプリケーションからアクセスできない場合がある。
READWRITE-LOCKED	読み取り/書き込みロック状態。アプリケーションからアクセスできない場合がある。
READONLYLOCKED	読み取り専用ロック状態。アプリケーションからアクセスできない場合がある。
出典： IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.23 IfcUnitEnum

表4-128

列挙型	IfcUnitEnum
値	説明
ABSORBEDDOSEUNIT	吸収線量
AMOUNTOFSUBSTANCEUNIT	物質質量
AREAUNIT	面積
DOSEEQUIVALENTUNIT	線量当量
ELECTRICCAPACITANCEUNIT	電気容量
ELECTRICCHARGEUNIT	電荷
ELECTRICCONDUCTANCEUNIT	電気伝導度
ELECTRICCURRENTUNIT	電流
ELECTRICRESISTANCEUNIT	電気抵抗
ELECTRICVOLTAGEUNIT	電圧
ENERGYUNIT	エネルギー
FORCEUNIT	力
FREQUENCYUNIT	周波数
ILLUMINANCEUNIT	照度
INDUCTANCEUNIT	インダクタンス
LENGTHUNIT	長さ
LUMINOUSFLUXUNIT	光束
LUMINOUSINTENSITYUNIT	光度
MAGNETICFLUXDENSITYUNIT	磁束密度
MAGNETICFLUXUNIT	磁力線

列挙型	IfcUnitEnum
MASSUNIT	質量
PLANEANGLEUNIT	平面角
POWERUNIT	動力
PRESSUREUNIT	圧力

RADIOACTIVITYUNIT	放射能
SOLIDANGLEUNIT	立体角
THERMODYNAMICTEMPERATUREUNIT	熱力学温度
TIMEUNIT	時間
VOLUMEUNIT	体積
USERDEFINED	利用者定義
出典： IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.24 IfcTransportElementTypeEnum

表4-129

列挙型	IfcTransportElementTypeEnum
値	説明
ELEVATOR	エレベータ
ESCALATOR	エスカレータ
MOVINGWALKWAY	動く歩道
USERDEFINED	利用者定義
NOTDEFINED	未定義
出典： IFC2x3 CV2.0	

4.2.4.2.25 Common_indoorSource.xml

表4-130

ファイル名	Common_indoorSource.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_indoorSource.xml
コード	説明
1	フロアマップ
2	CADデータ
3	BIMデータ
4	3次元地図データ
5	その他
出典： 3次元屋内地理空間情報データ仕様書（案）	

4.2.4.2.26 IndoorTactileTileAttribute_category.xml

表4-131

ファイル名	IndoorTactileTileAttribute_category.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/IndoorTactileTileAttribute_category.xml
ファイル名	IndoorTactileTileAttribute_category.xml
コード	説明
1	線状ブロック等
2	プラットフォーム縁等警告用内方表示ブロック
3	エスコートゾーン
出典： 3次元屋内地理空間情報データ仕様書（案）	

4.2.4.2.27 IndoorTactileTileAttribute_roof.xml

表4-132

ファイル名	IndoorTactileTileAttribute_roof.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/IndoorTactileTileAttribute_roof.xml
コード	説明
1	なし
2	あり
3	不明（未調査）
出典：3次元屋内地理空間情報データ仕様書（案）	

4.2.4.2.28 IndoorSpaceAttribute_tollType.xml

表4-133

ファイル名	IndoorSpaceAttribute_tollType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/IndoorSpaceAttribute_tollType.xml
コード	説明
1	不明
2	有料
3	無料
出典：3次元屋内地理空間情報データ仕様書（案）	

4.2.4.2.29 BuildingDetailAttribute_orgUsage.xml

表4-4-2-4-2-29

ファイル名	LandUseDetailAttribute_orgLandUse.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/LandUseDetailAttribute_orgLandUse.xml
コード	説明
1	田
2	畑
3	山林
4	水面
5	その他の自然地
6	住宅用地
7	商業用地
8	工業用地
9	公益施設用地
10	道路用地
11	交通施設用地
12	公共空地
13	その他の公的施設用地
14	その他の空地

4.2.4.2.30 BuildingDetailAttribute_orgUsage.xml

表4-4-2-4-2-29

ファイル名	BuildingDetailAttribute_orgUsage.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ BuildingDetailAttribute_orgUsage.xml
コード	説明
1	業務施設
2	商業施設
3	宿泊施設
4	娯楽施設A
5	娯楽施設B
6	遊戯施設A
7	遊戯施設B
8	商業系用途複合施設
9	住宅
10	共同住宅
11	店舗併用住宅
12	店舗併用共同住宅
13	作業所併用共同住宅
14	官公庁施設
15	文教厚生施設（A）
16	文教厚生施設（B）
17	運輸倉庫施設
18	重工業施設
19	軽工業施設
20	サービス工業施設（A）
21	サービス工業施設（B）
22	家内工業施設
23	危険物貯蔵処理・処理施設
24	農林漁業用施設
25	その他
99	不明

4.2.4.2.31 BuildingDetailAttribute_orgUsage2.xml

表4-4-2-4-2-29-2

ファイル名	BuildingDetailAttribute_orgUsage2.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ BuildingDetailAttribute_orgUsage2.xml
コード	説明
1	事務所、銀行、農協

ファイル名	BuildingDetailAttribute_orgUsage2.xml
2	百貨店、小売店（専門店）、卸売店、食堂、喫茶店、スナック、結婚式場
3	ホテル、旅館、モーテル、民宿
4	劇場、映画館、演芸場、観覧場
5	キャバレー、料理店、ナイトクラブ、ダンスホール、カラオケボックス
6	ボーリング場、スケート場、水泳場、ゴルフ練習場、バッティングセンター、自動車教習所
7	マージャン屋、パチンコ屋、斜敵情、馬券投票券発売所、ゲームセンター、玉突場
8	商業系用途（101～701）の複合施設
9	専門住宅（住宅に付属する物置、車庫を含む）
10	アパート、マンション、長屋、寮、下宿、寄宿舍（詰所）
11	住宅と商業系用途（101～701）の併用、布教所
12	共同住宅と商業系用途（101～801）の併用
13	住宅施設（901～1001）と工業系用途（1701～2101）の併用
14	県市町村庁舎、裁判所、税務署、郵便局、電話局、警察署、消防署、駐在所、公民館
15	大学
16	高等専門学校、各種学校
17	病院
18	公会堂、体育館、競技場、研究所
19	小・中・高等学校
20	老人ホーム
21	幼稚園、保育所
22	診療所
23	公衆浴場、神社、寺、教会
24	図書館、博物館
25	集会所
26	その他
27	駅舎、バスターミナル、自動車車庫、倉庫
28	アスファルト精製、金属の溶解又は精製、火薬類、塗料、合成樹脂、肥料、セメント、鉄釘の製造、可燃性ガス類等 マッチ、ゴム製品の製造、製革、バブルの製造、鍛造機を使用する金属製造等
29	原動機を使用する150㎡をこえる向上、ぼろ、綿の選別再製、岩石の粉碎、瓦れんが、れん炭、せっけん、生コン等 陶磁器、絵具の製造、塗料の加熱乾燥、吹付、引火性溶剤を用いるドライクリーニング等
30	作業150㎡をこえない自動車修理工場
31	原動機を使用する50㎡をこえる工場、作業場150㎡をこえる自動車修理工場、印刷、木材、石材の引割、機械撚糸、魚肉の練製品、セメント製品の製造 めっき、合成樹脂の射出成形加工等 作業場150㎡をこえる自動車修理工場
32	原動機を使用する150㎡をこえる向上、ぼろ、綿の選別再製、岩石の粉碎、瓦れんが、れん炭、せっけん、生コン等
33	消防法による設置許可の必要なもの、ガソリンスタンド

ファイル名	BuildingDetailAttribute_orgUsage2.xml
34	農業用納屋、畜舎、温室、舟小屋、農林漁業用作業場
35	処理場、浄水場、火葬場、発電所、変電所、防衛施設、その他上記に分類されないもの
99	不明

4.3 交通（道路）モデルの応用スキーマ

道路とは、一般交通の用に供する道であり、道路法第3条に示された道路の種類及び建築基準法第42条の定義を含む。

4.3.1 交通（道路）モデルのLOD

4.3.1.1 交通（道路）モデル（LOD0）

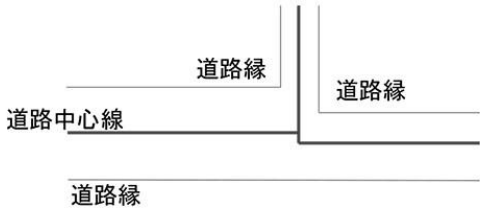
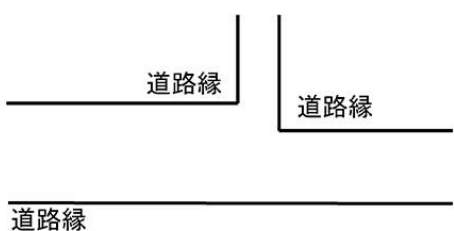
4.3.1.1.1 交通（道路）モデル（LOD0）の概要

交通（道路）モデル（LOD0）では、道路の形状を線により表現する。道路の形状の線は、ネットワーク（道路中心線）又は道路縁のいずれかとする。標準製品仕様書は、原則としてネットワーク（道路中心線）を採用する。ただし、数値地形図との互換性を保つために、道路縁を選択できる。

道路縁を採用する場合、「作業規程の準則 付録7 公共測量標準図式」（以下、「公共測量標準図式」という）に従う。道路縁とは、「道路法第2条第1項に規定された道路にあっては道路構造令に定める歩道、自転車道、車道、中央帯、路肩、又は植樹帯等で構成される道路の部分で最も外側の線（植樹帯が最も外側にある場合には、当該植樹帯を除いた道路の最も外側の線をいう。）、道路法第2条第1項に規定する以外の道路にあってはこれに準ずる線」をいう。[公共測量標準図式]

交通（道路）モデル（LOD0）の取得イメージを表4-134に示す。

表4-134 交通（道路）モデル（LOD0）の取得イメージ

LOD0		
取得例	<div>ネットワーク（道路中心線）の場合</div> 	<div>道路縁の場合</div> 
	説明	説明
	左右両側の道路縁から等距離となる点をつないだ線分を取得する。	道路縁を取得する。

4.3.1.1.2 交通（道路）モデル（LOD0）の定義

交通（道路）モデル（LOD0）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-135

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD0	●	Road	Geometric Complex	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図情報レベル2500では幅員1m以上 ・ 地図情報レベル1000では幅員0.5m以上 ・ 地図情報レベル500では全ての道路 ・ 道路ネットワークにより交通（道路）モデル（LOD0）を表現する場合に必須とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路縁を取得する。 ・ 左右の道路縁から等距離となる点をつないだ線分（道路中心線）を取得する。 ・ 高さは0とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路ネットワークによる表現は、<code>tran:lod0Network</code>を使用して記述する。 ・ <code>GeometricComplex</code>の下位型である<code>CompositeCurve</code>を使用する。
			Multi Curve	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図情報レベル2500では幅員1m以上 ・ 地図情報レベルでは幅員0.5m以上 ・ 地図情報レベル500では全ての道路 ・ 道路縁により交通（道路）モデル（ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路縁を取得する。 ・ 高さは0とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路縁による表現は、<code>uro:Dm-GeometricAttribute</code>の<code>uro:lod0Geometry</code>を使用する。

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
				LOD0) を表現する場合に必須とする。		
記号説明 ● : 必須 ■ : 条件付必須 ○ : 任意 (ユースケースに応じて要否を決定してよい)						

4.3.1.2 交通（道路）モデル（LOD1）

4.3.1.2.1 交通（道路）モデル（LOD1）の概要

交通（道路）モデル（LOD1）では、道路の形状を面により表現する。

交通（道路）モデル（LOD1）の取得イメージを表4-136に示す。

表4-136 交通（道路）モデル（LOD1）の取得イメージ

LOD1	
取得例	<p>道路を区切る場所</p>
説明	<p>道路縁により囲まれた範囲を面として取得し、以下の場所で区切る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交差部（四差路、多差路及び三差路） ・ 道路構造（トンネル、橋梁）が変化する場所 ・ 位置正確度や取得方法が変わる場所 <p>高さは0とする。</p>

4.3.1.2.2 交通（道路）モデル（LOD1）の定義

交通（道路）モデル（LOD1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-137

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD1	●	Road	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図情報レベル2500では幅員1m以上 ・ 地図情報レベルでは幅員0.5m以上 ・ 地図情報レベル500では全ての道路 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路縁をつないだ面を作成する。 ・ 以下の場所で区切る。 <ul style="list-style-type: none"> － 交差部 － 道路構造が変化する場所 － 位置正確度や取得方法が変わる場所 	

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					・ 高さは0とする。	
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.3.1.3 交通（道路）モデル（LOD2）

4.3.1.3.1 交通（道路）モデル（LOD2）の概要

交通（道路）モデル（LOD2）では、道路の形状を面により表現し、面を車道部、車道交差部、歩道部及び島に区分する。

交通（道路）モデル（LOD2）の取得イメージを表4-138に示す。

表4-138 交通（道路）モデル（LOD2）の取得イメージ

	LOD2
取得例	
説明	道路縁により囲まれた範囲を面として取得し、面を以下に区分する。 ・ 車道部 ・ 車道交差部 ・ 歩道部 ・ 島 高さは0とする。

車道部とは、主として自動車を利用する道路の部分で、車線、すりつけ区間、分離帯が切断された車道の部分、側帯、路肩、停車帯、待避所、乗合自動車停車所、非常駐車帯、副道を含む。

[出典：道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）]

車道交差部とは、十字路、丁字路、その他2つ以上の車道が交わる部分をいう。

[出典：道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）]

歩道部とは、専ら歩行者と自転車の通行の用に供するため、工作物により車道部と区画して設置される道路の部分で、自転車道、自転車歩行者道、歩道を含む。

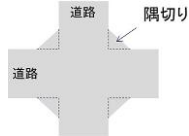
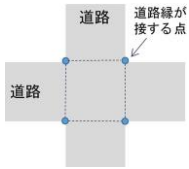
[出典：道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）]

島とは、車両の走行を制御し、安全な交通を確保するために設置される分離帯及び交通島の部分をいう。

4.3.1.3.2 交通（道路）モデル（LOD2）の定義

交通（道路）モデル（LOD2）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-139

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2	●	Road	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 道路法の道路 建築基準法第42条の道路 	<ul style="list-style-type: none"> TrafficArea及びAuxiliary TrafficAreaの集まりとして作成する。 	
LOD2	●	Traffic Area	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 車道部 	<ul style="list-style-type: none"> 車道の境界をつないだ面を作成し、車道交差部を除く面を取得する。 高さは0とする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 車道交差部（隅切りがある場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 隅切りに囲まれた車道部を取得する。 高さは0とする。 	<p>隅切りとは、道路構造令第27条第2項に示された、道路が同一平面で交差又は接続する場合に、隅角部を切り取り、適当な見とおしができる構造としたものをいう。また、建築基準法施行規則第144条の4第1項第2号に示される隅切りを含む。</p> 
				<ul style="list-style-type: none"> 車道交差部（隅切りが無い場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 交差する道路の道路縁が接する点を結ぶ線に囲まれた車道部を取得する。 高さは0とする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 歩道部 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の境界をつないだ面を取得する。 高さは0とする。 	

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2	●	Auxiliary Traffic Area	Multi Surface	・ 島	・ 島の外周を取得する。 ・ 高さは0とする。	
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.3.1.4 交通（道路）モデル（LOD3）

4.3.1.4.1 交通（道路）モデル（LOD3）の概要

交通（道路）モデル（LOD3）では、道路の形状を面により表現し、面を車道部、車道交差部、歩道部及び分離帯等に区分する。交通（道路）モデル（LOD3）は、「道路内の区分」（表4-140）と「高さの取得方法」（表4-141）の組み合わせが異なるLOD3.0、LOD3.1、LOD3.2、LOD3.3及びLOD3.4に区分する。標準製品仕様は、原則としてLOD3.0とする。ただし、ユースケースの必要に応じて、LOD3.1、LOD3.2、LOD3.3又はLOD3.4を採用できる。

表4-140 — LOD3.0、LOD3.1、LOD3.2、LOD3.3及びLOD3.4の「道路内の区分」

交通（道路）モデル（LOD3）に含むべき地物		対応するCityGMLの地物型	LOD3.0	LOD3.1	LOD3.2	LOD3.3	LOD3.4
道路		Road	●	●	●	●	●
車道部		TrafficArea	●	●	●	●	●
	車道交差部	TrafficArea	●	●	●	●	●
	車線	TrafficArea		●	●	●	●
	すりつけ区間、踏切道、軌道敷、待避所、副道、自動車駐車場（走路）、自転車駐車場（走路）	TrafficArea					○
	非常駐車帯、中央帯、側帯、路肩、停車帯、乗合自動車停車所、自動車駐車場（駐車区画）、自転車駐車場（駐車区画）	AuxiliaryTrafficArea					○
歩道部		TrafficArea	●	●	●	●	●
	歩道部上の植栽	AuxiliaryTrafficArea			●	●	●
	歩道、自転車歩行者道、自転車道	TrafficArea					○
島		AuxiliaryTrafficArea	●	●	●	●	●
	交通島、分離帯、植樹帯、路面電車停車所	AuxiliaryTrafficArea					○
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）							

表4-141 — LOD3.0、LOD3.1、LOD3.2、LOD3.3及びLOD3.4の「高さの取得方法」

取得方法	LOD3.0	LOD3.1	LOD3.2	LOD3.3	LOD3.4
道路の横断方向の高さは一律とし、車道の高さとする。	●	●			
道路の横断方向に15cm以上の高さの差が存在した場合に、車道部、歩道部、島それぞれの高さを取得する。			●		
道路の横断方向に2cm以上の高さの差が存在した場合に、車道部、歩道部、島それぞれの高さを取得する。				●	● ^{a)}
注 ^{a)} LOD3.4における取得の下限値は、ユースケースの必要に応じて定めることができる。					

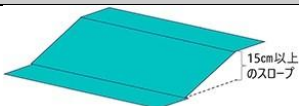
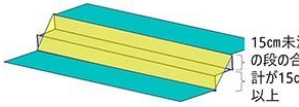
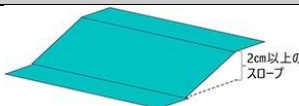
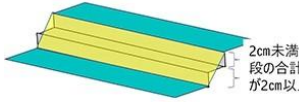

交通（道路）モデル（LOD3）の取得イメージを表4-142及び表4-143に示す。

表4-142 — 交通（道路）モデル（LOD3）の取得イメージ（道路内の区分）

LOD3.0	LOD3.1	LOD3.2及びLOD3.3	LOD3.4
車道部、車道交差部、島及び歩道部を区分する。	LOD3.0の区分を細分する。 車道部のうち、車線を区分する。	LOD3.1の区分を細分する。 歩道部のうち、植栽を区分する。	LOD3.3の区分を細分する。 細分はユースケースに応じて決定する。
注記 青色着色している道路内の区分は、当該LODにおいて新たに区別ができるようになる区分である。			

表4-143 — 交通（道路）モデル（LOD3）の取得イメージ（高さの取得方法）

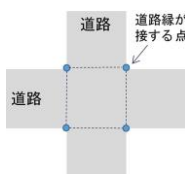
LOD3.0及びLOD3.1	LOD3.2	LOD3.3及びLOD3.4
道路内（車道部、歩道部、島）の高さは、横断方向に同一（全て車道の高さ）となる。 立体交差が表現できる。	道路の横断方向に存在する15cm以上の高さの差を取得する。 a) 高さの差が15cm以上の段は、段の形状を取得する。	道路の横断方向に存在する2cm以上の高さの差を取得する。 a) 高さの差が2cm以上の段は、段の形状を取得する。
	b) 高さの差が15cm以上のスロープは、スロープの形状を取得する。	b) 高さの差が2cm以上のスロープは、スロープの形状を取得する。

LOD3.0及びLOD3.1	LOD3.2	LOD3.3及びLOD3.4
	 <p>c) 高さの差が15cm未満の段が複数あり、合計15cm以上の高さの差がある場合は、スロープとして取得する。</p>  <p>歩道と車道との間や車道と島との間に存在する縁石による段を表現できる。</p>	 <p>c) 高さの差が2cm未満の段が複数あり、合計2cm以上の高さの差がある場合は、スロープとして取得する。</p>  <p>歩道に設けられた車道への切り下げ部に存在する段が表現できる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 切り下げ部の段 (2cm) を表現 </div> 

4.3.1.4.2 交通（道路）モデル（LOD3.0）の定義

交通（道路）モデル（LOD3.0）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-144

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3.0	●	Road	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 道路法の道路 建築基準法第42条の道路 	<ul style="list-style-type: none"> TrafficArea及びAuxiliary TrafficAreaの集まりとして作成する。 	道路内の高さは、横断方向に同一（全て車道の路面高さ）となる。
LOD3.0	●	Traffic Area	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 車道部 	<ul style="list-style-type: none"> 車道の境界をつないだ面を作成し、車道交差部を除く面を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 車道交差部（隅切りがある場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 隅切りで囲まれた車道部を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 車道交差部（隅切りが無い場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 交差する道路の道路縁が接する点を結ぶ線に囲まれた車道部を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 歩道部 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の境界をつないだ面を取得する。 	

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					・ 高さは車道の路面高さとする。	
LOD3.0	●	Auxiliary Traffic Area	Multi Surface	・ 島	・ 島の外周を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
記号説明 ● : 必須 ■ : 条件付必須 ○ : 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.3.1.4.3 交通（道路）モデル（LOD3.1）の定義

交通（道路）モデル（LOD3.1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-145

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3.1	●	Road	Multi Surface	・ 道路法の道路 ・ 建築基準法第42条の道路	・ TrafficArea及びAuxiliary TrafficAreaの集まりとして作成する。	道路内の高さは、横断方向に同一（全て車道の路面高さ）となる。
LOD3.1	●	Traffic Area	Multi Surface	・ 車道部	・ 車道の境界をつないだ面を作成し、車道交差部及び車線を除く面を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
				・ 車線	・ 区画線をつないだ面を作成する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
				・ 車道交差部（隅切りがある場合）	・ 停止線がある場合にはこの延長とし、停止線がない場合には、隅切りに囲まれた車道部を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
				・ 車道交差部（隅切りが無い場合）	・ 停止線がある場合にはこの延長とし、停止線がない場合には、交差する道路の道路縁が接する点を結ぶ線に囲まれた車道部を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	

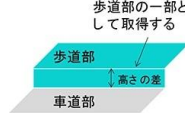
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
				・ 歩道部	・ 歩道の境界に囲まれた面を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
LOD3.1	●	Auxiliary Traffic Area	Multi Surface	・ 島	・ 島の外周を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
記号説明 ● : 必須 ■ : 条件付必須 ○ : 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.3.1.4.4 交通（道路）モデル（LOD3.2）の定義

交通（道路）モデル（LOD3.2）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-146

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3.2	●	Road	Multi Surface	・ 道路法の道路 ・ 建築基準法第42条の道路	・ TrafficArea及びAuxiliary TrafficAreaの集まりとして作成する。	道路の横断方向に存在する15cm以上の高さの差を取得する。
LOD3.2	●	Traffic Area	Multi Surface	・ 車道部	・ 車道の境界をつないだ面を作成し、車道交差部及び車線を除く面を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
				・ 車線	・ 区画線をつないだ面を作成する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
				・ 車道交差部（隅切りがある場合）	・ 停止線がある場合にはこの延長とし、停止線がない場合には、隅切りに囲まれた車道部を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	
				・ 車道交差部（隅切りが無い場合）	・ 停止線がある場合にはこの延長とし、停止線がない場合には、交差する道路の道路縁が接する点を結ぶ線に囲まれた車道部を取得する。 ・ 高さは車道の路面高さとする。	

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
				<ul style="list-style-type: none"> 歩道部 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の境界をつないだ面を取得する。 高さは歩道の路面高さとする。 横断歩道や車両出入口部に設置された歩道の切り下げ部では、歩道の高さは、車道の路面高さと同じの高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 歩道部と車道部との間に存在する15cm以上の高さの差 	<ul style="list-style-type: none"> 15cm以上の段の場合は、段の上端と下端を結ぶ面を作成し、その形状を取得する。 15cm以上のスロープは、スロープの下端と上端を結ぶ面を取得する。 15cm未満の段が複数存在する場合は、最下段の下端と最上段の上端を結ぶ面を作成する。 	<p>高さの差を表現する面は、歩道部の一部として取得する。</p> 
LOD3.2	●	Auxiliary Traffic Area	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 島 	<ul style="list-style-type: none"> 島の上端の外周を面として取得する。 島の下端の外周と島の上端の外周に囲まれた面を取得する。 島の下端の外周の各頂点には、路面の高さを与え、上端の外周の各頂点には、島の上端の高さを与える。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 植栽 	<ul style="list-style-type: none"> 植栽の上端の外周を面として取得する。 植栽の下端の外周と島の上端の外周に囲まれた面を取得する。 植栽の下端の外周の各頂点には、歩道の路面の高さを与え、上端の外周の各頂点には、植栽の上端の高さを与える。 	
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.3.1.4.5 交通（道路）モデル（LOD3.3）の定義

交通（道路）モデル（LOD3.3）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-147

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3.3	●	Road	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 道路法の道路 建築基準法第42条の道路 	<ul style="list-style-type: none"> TrafficArea及びAuxiliary TrafficAreaの集まりとして作成する。 	道路の横断方向に存在する2cm以上の高さの差を取得する。
LOD3.3	●	Traffic Area	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 車道部 	<ul style="list-style-type: none"> 車道の境界をつないだ面を作成し、車道交差部及び車線を除く面を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 車線 	<ul style="list-style-type: none"> 区画線をつないだ面を作成する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 車道交差部（隅切りがある場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 停止線がある場合にはこの延長とし、停止線がない場合には、隅切りに囲まれた車道部を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 車道交差部（隅切りが無い場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 停止線がある場合にはこの延長とし、停止線がない場合には、交差する道路の道路縁が接する点を結ぶ線に囲まれた車道部を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 歩道部 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の境界をつないだ面を取得する。 高さは歩道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 歩道部と車道部との間に存在する2cm以上の高さの差 	<ul style="list-style-type: none"> 2cm以上の段の場合は、段の上端と下端を結ぶ面を作成し、その形状を取得する。 2cm以上のスロープは、スロープの下端と上端を結ぶ面を取得する。 2cm未満の段が複数存在する場合は、最下段の下端と最上段の 	<p>高さの差を表現する面は、歩道部の一部として取得する。</p> <p>歩道部の一部として取得する</p> 


LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					上端を結ぶ面を作成する。	
LOD3.3	●	Auxiliary Traffic Area	Multi Surface	・ 島	<ul style="list-style-type: none">・ 島の上端の外周を面として取得する。・ 島の下端の外周と島の上端の外周に囲まれた面を取得する。・ 島の下端の外周の各頂点には、路面の高さを与え、上端の外周の各頂点には、島の上端の高さを与える。	
				・ 植栽	<ul style="list-style-type: none">・ 植栽の上端の外周を面として取得する。・ 植栽の下端の外周と島の上端の外周に囲まれた面を取得する。・ 植栽の下端の外周の各頂点には、歩道の路面の高さを与え、上端の外周の各頂点には、植栽の上端の高さを与える。	
記号説明						
● ： 必須						
■ ： 条件付必須						
○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.3.1.4.6 交通（道路）モデル（LOD3.4）の定義

交通（道路）モデル（LOD3.4）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-148

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3.4	●	Road	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 道路法の道路 建築基準法第42条の道路 	・ TrafficArea及びAuxiliary TrafficAreaの集まりとして作成する。	道路の横断方向に存在する2cm以上の高さの差を取得する。
LOD3.4	●	Traffic Area	Multi Surface	・ 車道部	<ul style="list-style-type: none"> 車道の境界をつないだ面を作成し、車道交差部及び車線を除く面を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				・ 車線	・ 区画線又は道路標示をつないだ面を取得する。	

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					<ul style="list-style-type: none"> 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 車道交差部（隅切りがある場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 停止線がある場合にはこの延長とし、停止線がない場合には、隅切りに囲まれた車道部を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 車道交差部（隅切りが無い場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 停止線がある場合にはこの延長とし、停止線がない場合には、交差する道路の道路縁が接する点を結ぶ線に囲まれた車道部を取得する。 高さは車道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 歩道部 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の境界をつないだ面を取得する。 高さは歩道の路面高さとする。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 歩道部と車道部との間に存在する2cm以上の高さの差 	<ul style="list-style-type: none"> 2cm以上の段の段の場合は、段の上端と下端を結ぶ面を作成し、その形状を取得する。 2cm以上のスロープは、スロープの下端と上端を結ぶ面を取得する。 2cm未満の段が複数存在する場合は、最下段の下端と最上段の上端を結ぶ面を作成する。 	<p>高さの差を表現する面は、歩道部の一部として取得する。</p> 
LOD3.4	○	Traffic Area	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> すりつけ区間、踏切道、軌道敷、待避所、副道、自動車駐車場（走路）、自転車駐車場（走路）、 	<ul style="list-style-type: none"> 区画線又は道路標示をつないだ面を取得する。 高さは路面高さとする。 	ユースケースの必要に応じて、車道部又は車線を細分する。
LOD3.4	○	Traffic Area	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 自転車歩行車道、自転車道、歩道 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道部の境界をつないだ面を取得する。 高さは自転車歩行車道又は自転車の路面高さとする。 	ユースケースの必要に応じて、歩道部を細分する。
LOD3.4	●	Auxiliary Traffic Area	Multi Surface	<ul style="list-style-type: none"> 島 	<ul style="list-style-type: none"> 島の上端の外周を面として取得する。 島の下端の外周と島の上端の外周に囲まれた面を取得する。 島の下端の外周の各頂点には、路面の高さを与え、上端の外 	

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
					周の各頂点には、島の上端の高さを与える。 ・ 植栽 ・ 植栽の上端の外周を面として取得する。 ・ 植栽の下端の外周と島の上端の外周に囲まれた面を取得する。 ・ 植栽の下端の外周の各頂点には、歩道の路面の高さを与え、上端の外周の各頂点には、植栽の上端の高さを与える。	
LOD3.4	○	Auxiliary Traffic Area	Multi Surface	・ 非常駐車帯、中央帯、側帯、路肩、停車帯、乗合自動車停車所、自動車駐車場（駐車区画）、自転車駐車場（駐車区画）	・ 車道端、区画線又は道路標示をつないだ面を取得する。 ・ 高さは路面高さとする。	ユースケースの必要に応じて、車道部を細分する。
LOD3.4	○	Auxiliary Traffic Area	Multi Surface	・ 分離帯、交通島	・ 分離帯又は交通島の上端の外周を面として取得する。 ・ 分離帯又は交通島の下端の外周と島の上端の外周に囲まれた面を取得する。 ・ 分離帯又は交通島の下端の外周の各頂点には、路面の高さを与え、上端の外周の各頂点には、分離帯又は交通島の上端の高さを与える。	ユースケースの必要に応じて、島を細分する。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.3.1.5 各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性

交通（道路）モデルの各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性を表4-149に示す。

表4-149 — 交通（道路）モデルの記述に使用する地物型と空間属性

地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	適用
tran:Road		●	●	●	●	
	tran:lod0Network	■				LOD0はネットワークを原則とするが、数値地形図との互換性を保つために、道路縁を選択できる。
	uro:lod0Geometry	■				

地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	適用
	tran:lod1MultiSurface		●			
	tran:lod2MultiSurface			●		
	tran:lod3MultiSurface				●	
tran:TrafficArea				●	●	
	tran:lod2MultiSurface			●		
	tran:lod3MultiSurface				●	
tran:AuxiliaryTrafficArea				●	●	
	tran:lod2MultiSurface			●		
	tran:lod3MultiSurface				●	
記号説明 ● ：必須 ■ ：条件付必須 ○ ：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.3.2 交通（道路）モデルの応用スキーマクラス図

4.3.2.1 Transportation（CityGML）

Transportationパッケージは、交通に関する地物型を定義する。

標準製品仕様では、道路（tran:Road）、広場（tran:Square）、徒歩道（tran:Track）及び鉄道（tran:Railway）を定義する。

これらは、道路を構成する歩道や車道のような通行可能な領域（tran:TrafficArea）と、道路における路肩のように、これを補助する役割をもつ領域（tran:AuxiliaryTrafficArea）の集まりとして構成できる。

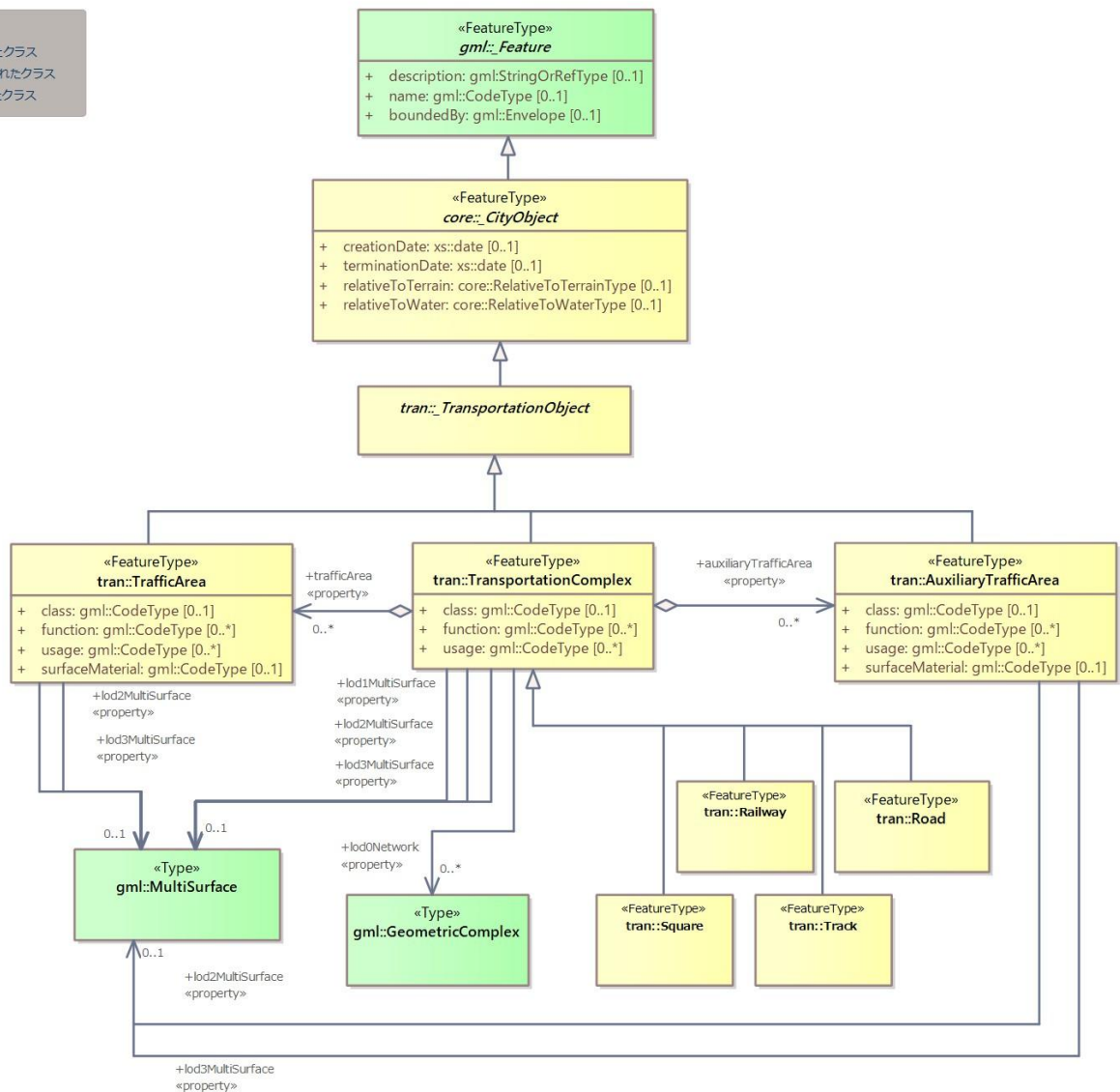
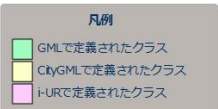


図4-18

4.3.2.2 Urban Object (i-UR)

4.3.2.2.1 tran:Roadの拡張属性

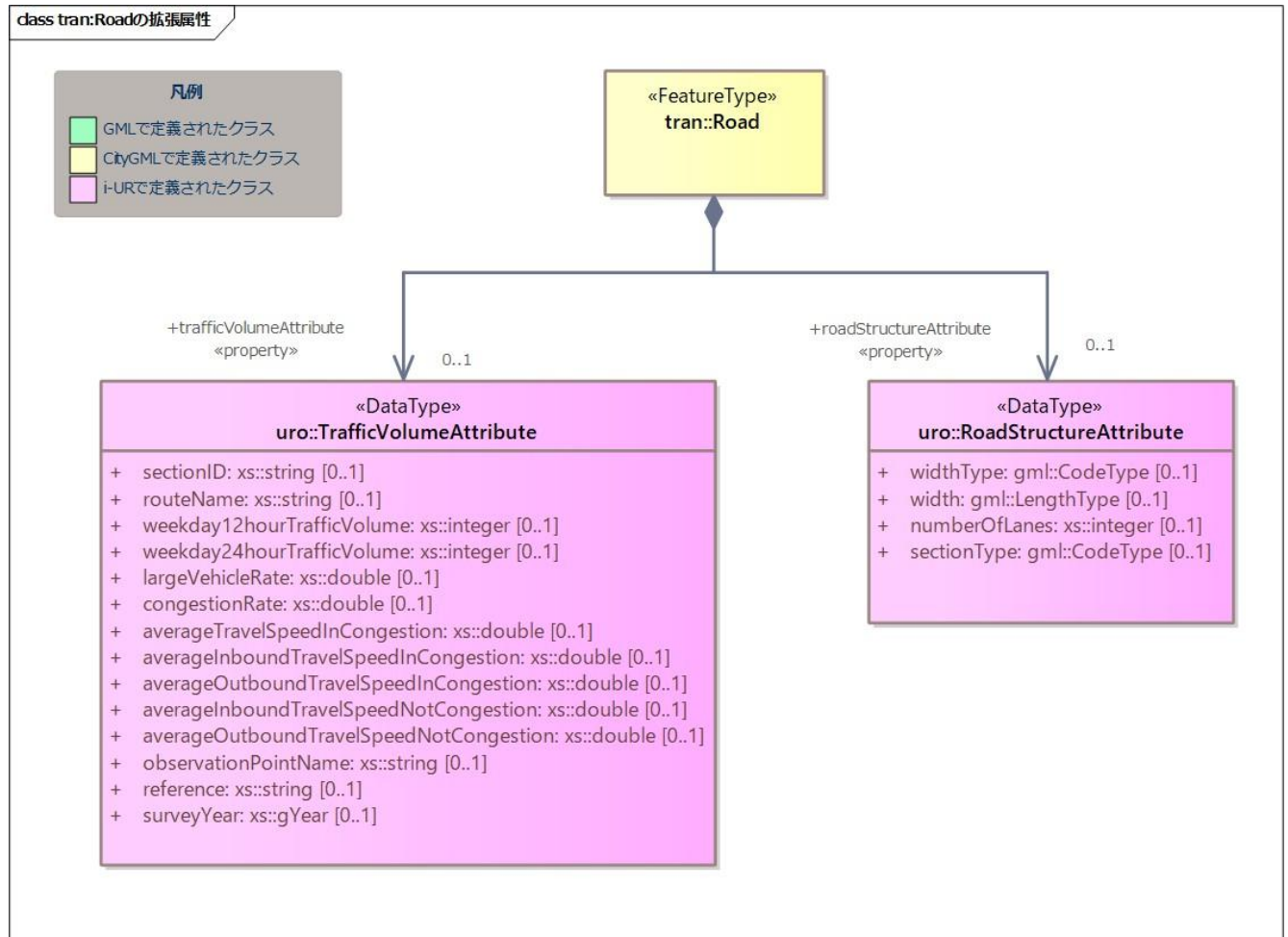


図4-19

4.3.2.2.2 tran:TrafficAreaの拡張属性

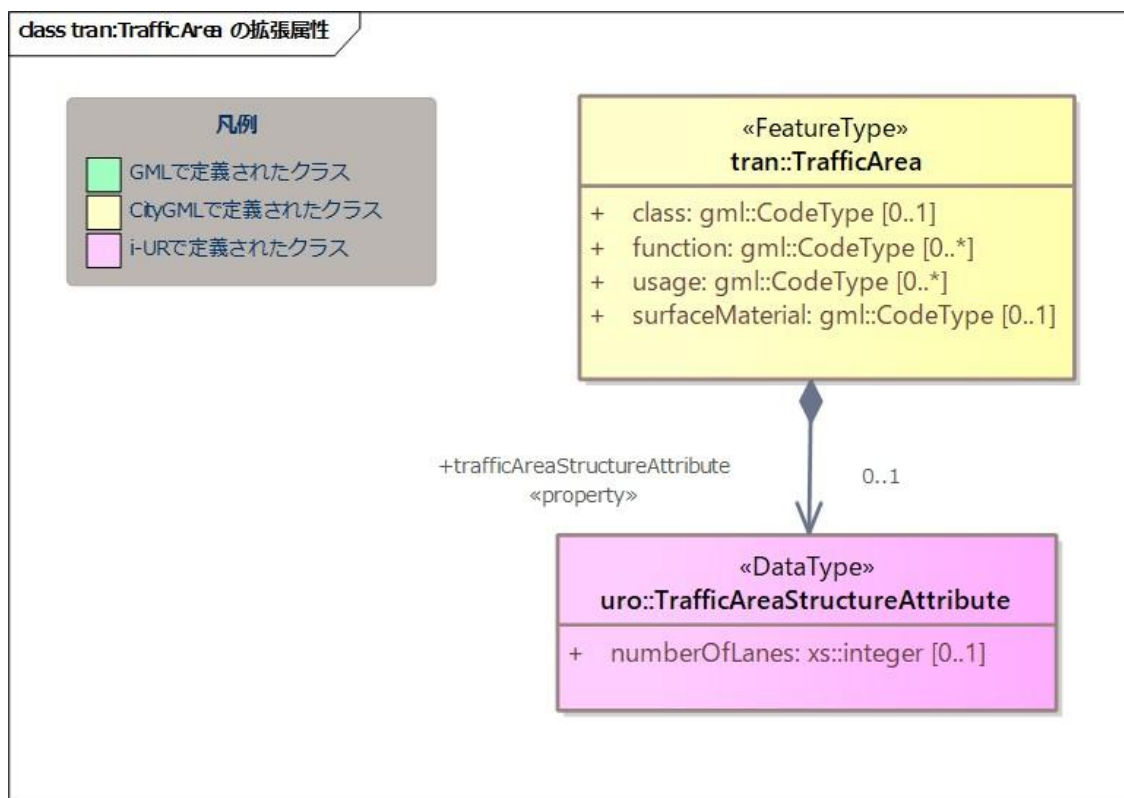


図4-20

4.3.2.2.3 tran:TransportationObject及びtran:TransportationComplexの拡張属性

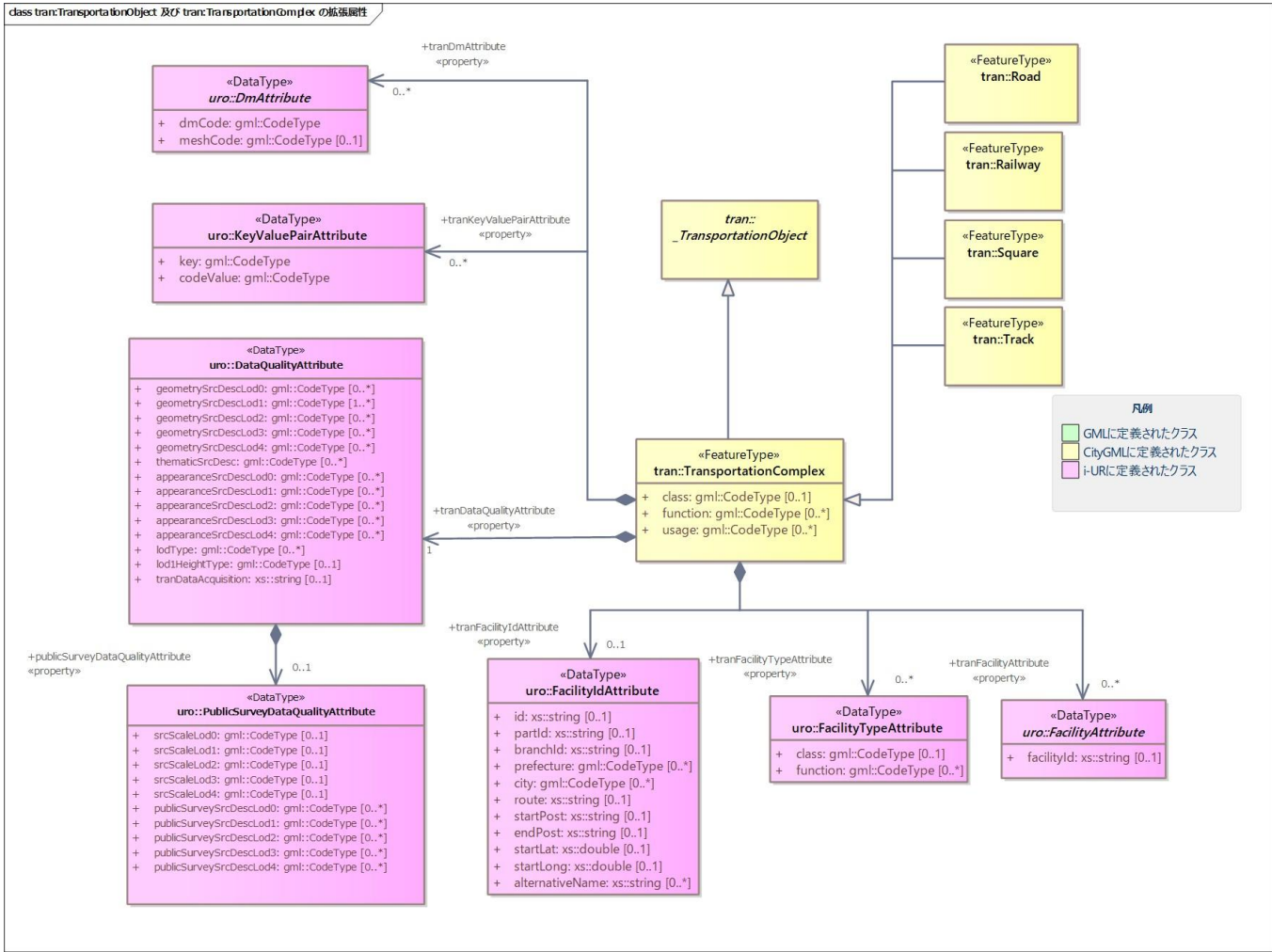


図4-21

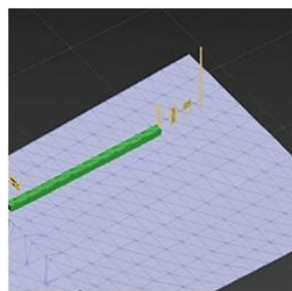
4.3.3 交通（道路）モデルの応用スキーマ文書

4.3.3.1 Transportation (CityGML)

4.3.3.1.1 tran:Road

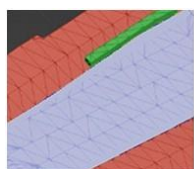
表4-150

型の定義	<p>一般交通の用に供する場所。道路法第3条に示された道路の種類及び建築基準法第42条の定義を含む。</p> <p>道路の延長方向は、以下の場所で区切る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 交差部（四差路、多差路及び三差路）・ 道路構造の変化点（トンネル、橋梁）・ 位置正確度（地図情報レベル）や取得方法 <p>tran:Roadに含まれるtran:TrafficArea及びtran:AuxiliaryTrafficAreaは、同一路線に含まなければならない。</p> <p>同一のLODにおいて、連続する道路の境界は一致しなければならない。</p>
------	---



tran:Road

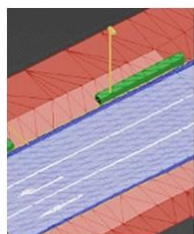
LOD1における道路の取得例



tran:TrafficArea (車道部)
tran:TrafficArea (歩道部)

tran:Road

LOD2における道路の取得例



tran:TrafficArea (車線)
tran:TrafficArea (自転車道)
tran:TrafficArea (歩道)
tran:AuxiliaryTrafficArea (路肩)

tran:Road

LOD3における道路の取得例

- ・ 属性tran:functionは、コードリスト (Road_function.xml) より選択する。
- ・ 属性tran:usageは、コードリスト (Road_usage.xml) より選択する。

上位の型	tran:TransportationComplex	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

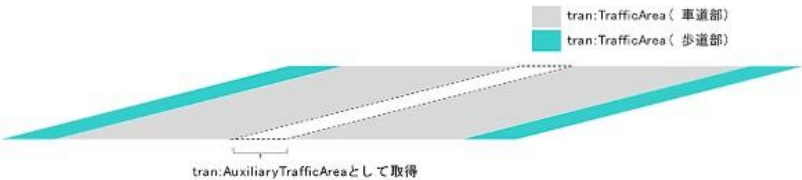
tran:class [TransportationComplex]	gml:CodeType [0..1]	交通の分類。コードリスト (TransportationComplex_class.xml) より選択する。航路の場合は使用しない。
tran:function [TransportationComplex]	gml:CodeType [0..*]	機能の区分。使用する下位の地物型に応じたコードリストを選択する。
tran:usage [TransportationComplex]	gml:CodeType [0..*]	利用方法の区分。使用する下位の地物型に応じたコードリストを選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
tran:auxiliaryTrafficArea [TransportationComplex]	tran:AuxiliaryTrafficArea [0..*]	道路、徒歩道又は広場の場合は、これらを構成する要素のうち、交通領域の機能を補助する領域。鉄道の場合は、鉄道用地を構成する要素のうち、交通領域（軌道）の機能を補助する領域。航路の場合は、この関連役割は使用しない。
tran:lod0Network [TransportationComplex]	gml:GeometricComplex [0..*]	各地物型により、tran:lod0Networkを以下の通り定義する。いずれも高さは0とする。詳細な取得基準は、各地物型のLOD定義に従うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・道路の場合は、道路の連続性を表現する線とする。 ・鉄道の場合は、軌道中心線とする。軌道中心線は、路線ごとに作成し、路線に上下線等複数の軌道が存在する場合には、それぞれの軌道中心線を取得し、これらの組をgml:GeometricComplexとする。 ・徒歩道の場合は、徒歩道の中心線及びこの端点と徒歩道に接続する道路のLOD0上の点を結ぶ線とする。 ・広場の場合は、広場の中心線とする。広場の中心線は、広場の区域に含まれる道路縁又は庭園路等により示される2本の縁線の中心をつないだ線分とする。広場の中心線は、広場に接続する道路のLOD0上の点まで伸ばす。 ・航路の区域の中心線とする。
tran:lod1MultiSurface	gml:MultiSurface [0..1]	各地物型により、tran:lod1MultiSurfaceを以下の通り定義する。

[TransportationComplex]		<p>詳細な取得基準は、各地物型のLOD定義に従うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の場合は、道路縁により囲まれた道路の範囲とする。車道交差部では、隅切りを結ぶ線により区切ることを基本とする。道路両側の隅切り位置が道路延長方向に大きく異なる場合は、より交差点より遠い隅切り位置より横断方向に区切る。隅切りが無い場合は、交差する道路の道路縁の接点を結ぶ線により区切る。 ・鉄道の場合は、一对のレールとレールとの間の範囲とし、高さは0とする。路線ごとに作成し、路線に上下線等複数の軌道が存在する場合には、それぞれのレールに囲まれた領域を取得し、これらの組をgml:MultiSurfaceとする。 ・歩道の場合は、歩道縁に囲まれた範囲とする。車道交差部では、隅切りを結ぶ線により区切ることを基本とする。歩道両側の隅切り位置が道路延長方向に大きく異なる場合は、より交差点より遠い隅切り位置より横断方向に区切る。隅切りが無い場合は、交差する道の道路縁の接点をつないだ境界で車道部を区切る。高さは0とする。 ・広場の場合は都市計画において指定された区域に一致する。高さは0とする。 ・航路の場合は、法令により定められた航路の区域とする。航路が交差する場合は、交差する部分の四隅を結ぶ位置で区切る。
tran:lod2MultiSurface [TransportationComplex]	gml:MultiSurface [0..1]	<p>各地物型により、tran:lod2MultiSurfaceを以下の通り定義する。高さは0とする。</p> <p>詳細な取得基準は、各地物型のLOD定義に従うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の場合は、道路縁により囲まれた道路の範囲とする。 ・鉄道の場合は、道床の範囲とする。 ・歩道の場合は、歩道縁に囲まれた範囲とする。 ・広場の場合は広場の範囲とする。tran:lod1MultiSurfaceの範囲に一致する。 ・航路の場合は、法令により定められた航路の区域。tran:lod1MultiSurfaceの範囲に一致する。 <p>tran:lod2MultiSurfaceの範囲は、各地物型が参照するtran:TrafficArea及びtran:AuxiliaryTrafficAreaのtran:lod2MultiSurfaceに含まれる、すべてのgml:Polygonにより構成しなければならない。</p>
tran:lod3MultiSurface [TransportationComplex]	gml:MultiSurface [0..1]	<p>各地物型により、tran:lod3MultiSurfaceを以下の通り定義する。</p> <p>詳細な取得基準は、各地物型のLOD定義に従うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の場合は、道路縁により囲まれた道路の範囲とする。 ・鉄道の場合は、鉄道用地の範囲とする。 ・歩道の場合は、歩道縁に囲まれた範囲とする。 ・広場の場合は広場の範囲とする。 ・航路の場合は、標準製品仕様書ではtran:lod3MultiSurfaceは対象外とする。

		tran:lod3MultiSurfaceの範囲は、各地物型が参照するtran:TrafficArea及びtran:AuxiliaryTrafficAreaのtran:lod3MultiSurfaceに含まれる、すべてのgml:Polygonにより構成しなければならない。
tran:trafficArea [TransportationComplex]	tran:TrafficArea [0..*]	道路、徒歩道又は広場の場合は、これらを構成する要素のうち、車両や人が通行可能な領域への参照。鉄道の場合は、鉄道用地を構成する要素のうち、車両の通行に使用する領域（軌道）への参照。航路の場合は、構成する要素のうち、船舶が航行可能な領域への参照。
uro:tranDataQualityAttribute [TransportationComplex]	uro:DataQualityAttribute [1..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:tranDmAttribute [TransportationComplex]	uro:DmAttribute [0..*]	公共測量標準図式による図形及び注記表現に必要な情報。航路の場合は使用しない。
uro:tranFacilityAttribute [TransportationComplex]	uro:FacilityAttribute [0..*]	uro:tranFacilityTypeAttribute.classによって指定された分野における施設管理情報。
uro:tranFacilityIdAttribute [TransportationComplex]	uro:FacilityIdAttribute [0..1]	uro:tranFacilityTypeAttribute.classによって指定された分野における施設の識別情報。
uro:tranFacilityTypeAttribute [TransportationComplex]	uro:FacilityTypeAttribute [0..*]	特定分野における施設の分類情報。
uro:tranKeyValuePairAttribute [TransportationComplex]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:roadStatus [Road]	uro:RoadType [0..1]	当該道路の状況。都市計画基礎調査の「道路の状況」の結果を付与する。標準製品仕様書では使用しない。
uro:roadStructureAttribute [Road]	uro:RoadStructureAttribute [0..1]	道路構造に関する情報。
uro:trafficVolumeAttribute [Road]	uro:TrafficVolumeAttribute [0..1]	車両の交通量に関する情報。

4.3.3.1.2 tran:TrafficArea

表4-151

型の定義	<p>これを部品として保持する各地物型により、tran:TrafficAreaを以下の通り定義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路、徒歩道又は広場の場合 <ul style="list-style-type: none"> 車両や人が通行可能な領域とする。 <ul style="list-style-type: none"> LOD2 及びLOD3.0 の場合は、車道部として、車両の利用が想定された車線や路肩その他一体的な舗装がされた全ての道路の部分を対象とする。また、歩道部として、歩道及び歩道上に設置された植栽の範囲を対象とする。  <p>LOD2及びLOD3.0におけるtran:TrafficAreaの例</p>
------	--

- － LOD3.1 の場合は、LOD3.0 の車道部のうち、車線を細分する。

tran:TrafficArea (車線)
 tran:TrafficArea (車線を除く車道部)
 tran:TrafficArea (歩道部)



LOD3.1におけるtran:TrafficAreaの例

- － LOD3.2 及びLOD3.3 の場合は、LOD3.1 の歩道部から歩道上の植栽を除いた範囲を歩道部とする。

tran:TrafficArea (車線)
 tran:TrafficArea (車線を除く車道部)
 tran:TrafficArea (植栽を除いた歩道部)



LOD3.2及びLOD3.3におけるtran:TrafficAreaの例

- － LOD3.4の場合は、コードリストの区分に従う。

tran:TrafficArea (車線)
 tran:TrafficArea (歩道)
 tran:TrafficArea (自転車歩行者道)

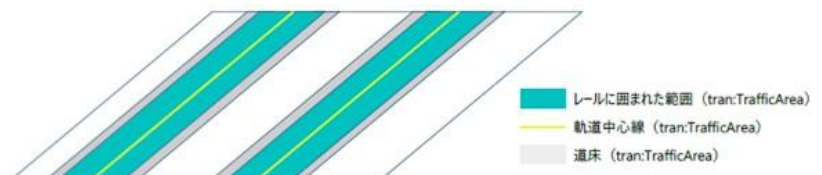


LOD3.4におけるtran:TrafficAreaの例

・ 鉄道の場合

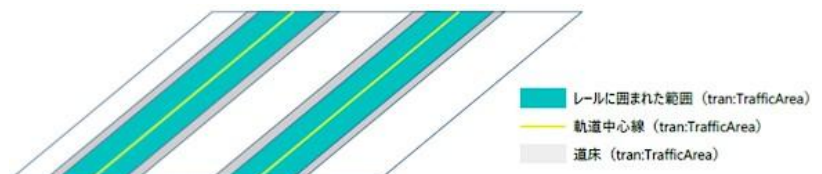
軌道。軌道とは、施工基面上の道床（スラブを含む）、軌きょう（レールとまくらぎとを、はしご状に組み立てたもの。）及び直接これらに付帯する施設。[JIS E 1001 : 2001]

- － LOD2の場合は、軌道中心線に加え、道床の外周に囲まれた範囲を取得する。高さは0とする。



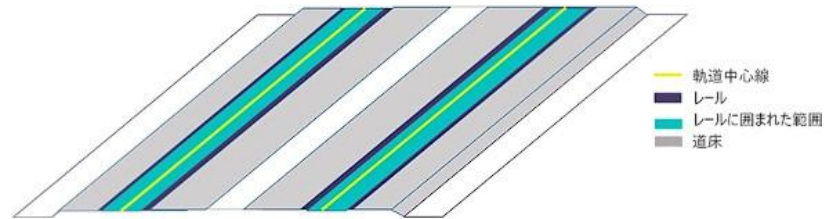
LOD2における鉄道のtran:TrafficAreaの例

- － LOD3.0の場合は軌道中心線に加え、道床の外周に囲まれた範囲を取得する。軌道中心線の各頂点には、軌道中心線上の勾配変化点の標高に基づき、高さを与える。また、道床の高さは、軌道中心線上の高さとする。



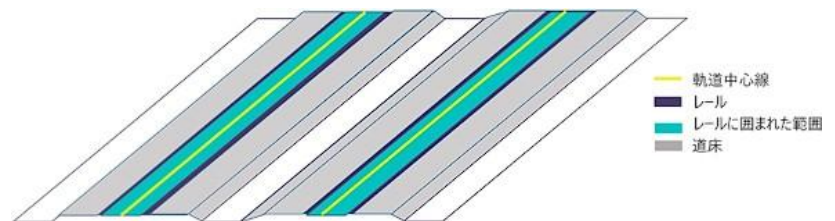
LOD3.0における鉄道のtran:TrafficAreaの例

- LOD3.1 の場合は、LOD3.0 の軌道中心線、道床に加え、レールを取得する。高さはそれぞれの水平位置における標高とする。15 cm以上の高さの差を取得する。



LOD3.1における鉄道のtran:TrafficAreaの例

- LOD3.2 の場合は、LOD3.1 の軌道中心線、道床及びレールの範囲を取得する。高さはそれぞれの水平位置における標高とする。15 cm未満の高さの差を取得する。



LOD3.2におけるtran:TrafficAreaの例

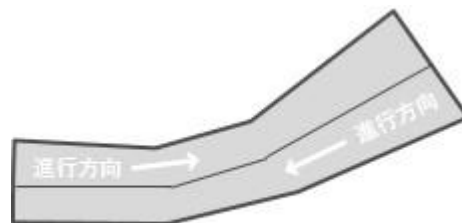
1つの鉄道オブジェクトに含まれる交通領域は、属性の変化が無い限り、延長方向では区分しない。

LOD3 では、軌道中心線の平面線形が変化する位置（円曲線及び緩和曲線の開始地点及び終了地点）で区切る。

・ 航路の場合

法令により指定された進行方向に区切った航路の部分。

高さは0とする。



□ 航路 (LOD2)

LOD2における航路のtran:TrafficAreaの例

上位の型	tran:_TransportationObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。

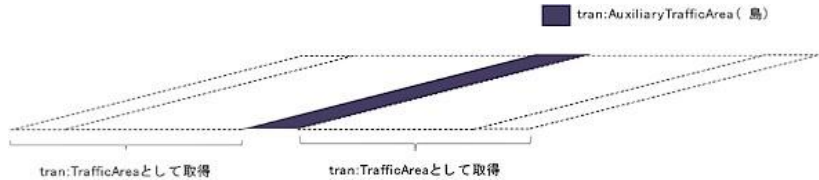
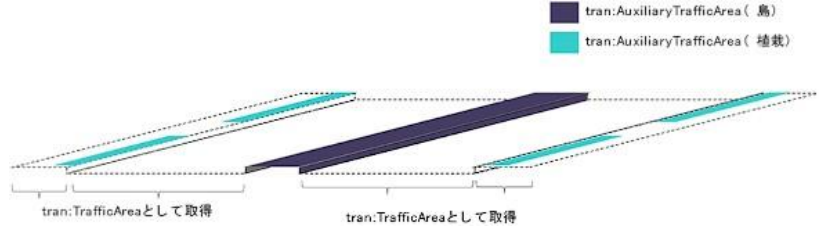
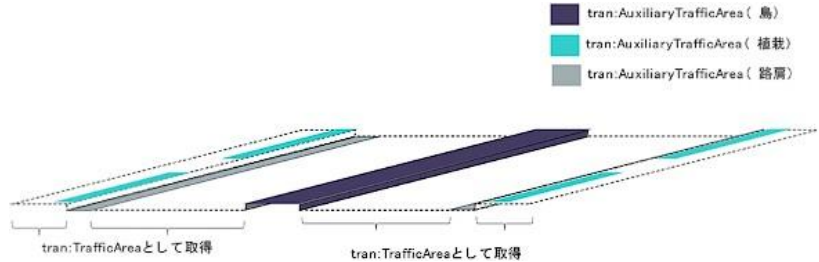
[_Feature]		CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
tran:class [TrafficArea]	gml:CodeType [0..1]	交通の分類。標準製品仕様書では使用しない。
tran:function [TrafficArea]	gml:CodeType [0..*]	交通領域の機能。コードリスト (TrafficArea_function.xml) より選択する。航路の場合は使用しない。
tran:usage [TrafficArea]	gml:CodeType [0..*]	交通領域の利用方法。標準製品仕様書では使用しない。
tran:surfaceMaterial [TrafficArea]	gml:CodeType [0..1]	表層舗装の有無及び材質。複数の表層舗装が混在している場合は、最も面積を占める舗装とする。道路、徒歩道及び広場の場合は、コードリスト (TrafficArea_surfaceMaterial.xml) より選択する。鉄道及び航路の場合は、標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
tran:lod2MultiSurface [TrafficArea]	gml:MultiSurface [0..1]	これを使用する各地物型により、交通領域のtran:lod2MultiSurfaceを以下の通り定義する。 詳細な取得基準は、各地物型のLOD定義に従うこと。 ・ 道路、徒歩道及び広場の場合 － 区画線や縁石等により示される境界線に囲まれた領域のうち、通行可能な道路の部分（歩

		<p>道部、車道部、車道交差部)。高さは0とする。</p> <p>隣接するtran:TrafficArea又はtran:AuxiliaryTrafficAreaとの境界線の座標を一致させる。</p> <p>tran:TrafficAreaのtran:lod2MultiSurfaceは、同一のtran:Roadのオブジェクトに含まれる他のtran:TrafficAreaやtran:AuxiliaryTrafficAreaのtran:lod2MultiSurfaceと重なることはない。(ただし、立体的な構造をもつ道路を除く)</p> <p>車道交差部での区切りは、LOD1と同様とする。分離帯がある場合には、車道交差部の範囲を分離帯までとする。</p> <p>境界線として区画線を使用する場合は、区画線の中心を境界線とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 道床の正射影の外周を取得する。各頂点に軌道中心線上の高さを与える。 ・ 航路の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 進行方向に区切られた航路の正射影の外周を取得する。高さは0とする。
tran:lod3MultiSurface [TrafficArea]	gml:MultiSurface [0..1]	<p>これを使用する各地物型により、交通領域のtran:lod3MultiSurfaceを以下の通り定義する。</p> <p>詳細な取得基準は、各地物型のLOD定義に従うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路、徒歩道及び広場の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 区画線や縁石等により示される境界線に囲まれた領域のうち、通行可能な道路の部分。 <p>LOD3.0の場合、横断方向に連続する交通領域の高さは一律とし、車道の標高とする。</p> <p>LOD3.1～LOD3.4では、各水平位置における標高とする。</p> <p>隣接するtran:TrafficArea又はtran:AuxiliaryTrafficAreaとの境界線の座標を一致させる。</p> <p>tran:TrafficAreaのtran:lod3MultiSurfaceは、同一のtran:Roadのオブジェクトに含まれる他のtran:TrafficAreaやtran:AuxiliaryTrafficAreaのtran:lod3MultiSurfaceと重なることはない。</p> <p>LOD3.0の場合、車道交差部での区切りはLOD2と同様とする。LOD3.1～LOD3.4では、停止線がある場合にはこれの延長とし、停止線がない場合には、LOD2と同様とするが、ユースケースに応じて決定できる。</p> <p>境界線として区画線を使用する場合は、区画線の中心を境界線とする。</p> ・ 鉄道の場合 <ul style="list-style-type: none"> － LOD3.0の場合：軌道中心線、レールに囲まれた範囲及び道床を面として取得する。各頂点に、軌道中心線上の高さを与える。 － LOD3.1の場合：軌道中心線、レールに囲まれた範囲、道床及びレールを面として取得する。各頂点に、それぞれの水平位置における標高を与える。15cm以上の高さの差を取得する。 － LOD3.2の場合：軌道中心線、レールに囲まれた範囲、道床及びレールを面として取得する。各頂点に、それぞれの水平位置における

		<p>標高を与える。15cm未満の高さの差を取得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 航路の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 使用しない。
uro:railwayTrackAttribute [TrafficArea]	uro:RailwayTrackAttribute [0..*]	軌道中心線の線形情報。鉄道でのみ使用する。
uro:trafficAreaStructureAttribute [TrafficArea]	uro:TrafficAreaStructureAttribute [0..1]	交通領域の構造。道路の交通領域の場合、かつ、車線を区分しない場合にのみ作成する。交通領域内の代表車線数を記述する。

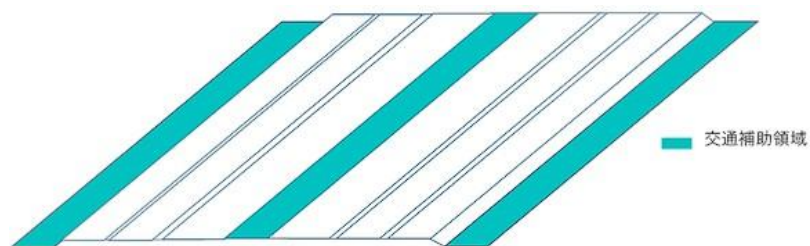
4.3.3.1.3 tran:AuxiliaryTrafficArea

表4-152

型の定義	<p>これを部品として保持する各地物型により、tran:TrafficAreaを以下の通り定義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路、徒歩道又は広場の場合 <ul style="list-style-type: none"> 道路、徒歩道又は広場を構成する領域のうち、交通領域の機能を補助するために設けられた領域。 <ul style="list-style-type: none"> － LOD2、LOD3.0及びLOD3.1の場合は、道路内の島状の施設（交通島及び分離帯、路面電車停車所）を対象とする。
	 <p>LOD2、LOD3.0及びLOD3.1での道路のtran:AuxiliaryTrafficAreaの取得例</p> <ul style="list-style-type: none"> － LOD3.2 及びLOD3.3 の場合は、上記に加え、歩道部に設置された植栽を対象とする。
	 <p>LOD3.2及びLOD3.3での道路のtran:AuxiliaryTrafficAreaの取得例</p> <ul style="list-style-type: none"> － LOD3.4 には場合は、tran:function により指定されるコードリストの区分に従う。
	 <p>LOD3.4での道路のtran:AuxiliaryTrafficAreaの取得例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道の場合

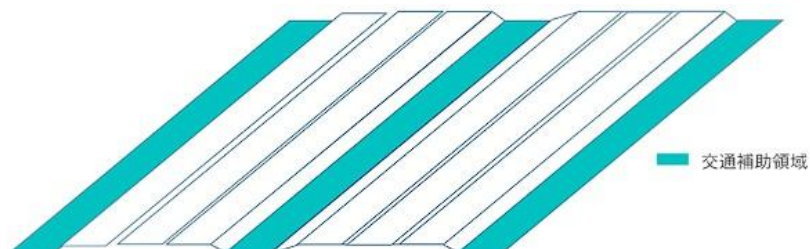
鉄道用地のうち、道床を除く範囲。

- － LOD2の場合は取得しない。（`tran:TrafficArea`のみを取得する。）
- － LOD3.0の場合は取得しない。（`tran:TrafficArea`のみを取得する。）
- － LOD3.1の場合は、鉄道敷地界及び道床の外周に囲まれた範囲を取得する。高さはそれぞれの水平位置における標高とする。15cm以上の高さの差を取得する。



LOD3.1における`tran:AuxiliaryTrafficArea`の例

- － LOD3.2の場合は、鉄道敷地界及び道床の外周に囲まれた範囲を取得する。高さはそれぞれの水平位置における標高とする。15cm未満の高さの差を取得する。



LOD3.2における`tran:AuxiliaryTrafficArea`の例

1つの道路オブジェクトに含まれる交通補助領域は、属性の変化が無い限り、延長方向では区分しない（例：延長方向に連続する分離帯を細分しない）。

- ・ 航路の場合
使用しない。

上位の型	tran:_TransportationObject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
tran:class [AuxiliaryTrafficArea]	gml::CodeType [0..1]	交通の分類。標準製品仕様書では使用しない。
tran:function [AuxiliaryTrafficArea]	gml::CodeType [0..*]	区画線や路面標示、道路標識等により示された交通補助領域の機能。コードリスト (AuxiliaryTrafficArea_function.xml) より選択する。鉄道及び航路の場合は使用しない。
tran:usage [AuxiliaryTrafficArea]	gml::CodeType [0..*]	交通補助領域の利用方法。標準製品仕様書では使用しない。
tran:surfaceMaterial [AuxiliaryTrafficArea]	gml::CodeType [0..1]	表層舗装の有無及び材質。複数の表層舗装が混在している場合は、最も面積を占める舗装とする。コードリスト (AuxiliaryTrafficArea_surfaceMaterial.xml) より選択する。航路の場合は使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
tran:lod2MultiSurface [AuxiliaryTrafficArea]	gml:MultiSurface [0..1]	<p>これを使用する各地物型により、交通補助領域の tran:lod2MultiSurface を以下の通り定義する。 詳細な取得基準は、各地物型のLOD定義に従うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路、徒歩道及び広場の場合 <ul style="list-style-type: none"> 縁石等により示される境界線に囲まれた領域のうち、通行の用に供しない道路の部分（分離帯、交通島、路面電車停車所）。高さは0とする。隣接する tran:TrafficArea 又は tran:AuxiliaryTrafficArea との境界線の座標を一致させる。 <p>tran: AuxiliaryTrafficArea の tran:lod2MultiSurface は、同一の tran:Road のオブジェクトに含まれる他の tran:TrafficArea や tran:AuxiliaryTrafficArea の tran:lod2MultiSurface と重なることはない。（ただし、立体的な構造をもつ道路を除く。）</p> <p>車道交差部での区切りは、LOD1 と同様とする。分離帯がある場合には、車道交差部の範</p>

		<p>囲を分離帯までとする。境界線として区画線を使用する場合は、区画線の中心を境界線とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 使用しない。
<p>tran:lod3MultiSurface [AuxiliaryTrafficArea]</p>	<p>gml:MultiSurface [0..1]</p>	<p>これを使用する各地物型により、交通補助領域の tran:lod3MultiSurface を以下の通り定義する。詳細な取得基準は、各地物型の LOD 定義に従うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路、徒歩道及び広場の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 縁石等により示される境界線に囲まれた領域のうち、通行の用に供しない道路の部分。 <ul style="list-style-type: none"> ・ LOD3.0 の場合、横断方向に連続する交通領域の高さは一律とし、車道の標高とする。 ・ LOD3.1～LOD3.4 では、各水平位置における標高とする。 － 隣接する tran:TrafficArea 又は tran:AuxiliaryTrafficArea との境界線の座標を一致させる。 － tran: AuxiliaryTrafficArea の tran:lod3MultiSurface は、同一の tran: AuxiliaryTrafficArea の tran:lod2MultiSurface は、同一の tran:Road のオブジェクトに含まれる他の tran:TrafficArea や tran:AuxiliaryTrafficArea の tran:lod2MultiSurface と重なることはない。（ただし、立体的な構造をもつ道路を除く。） － 車道交差部での区切りは、LOD1 と同様とする。分離帯がある場合には、車道交差部の範囲を分離帯までとする。 － 境界線として区画線を使用する場合は、区画線の中心を境界線とする。 ・ 鉄道の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 鉄道敷地界及び道床の外周に囲まれた範囲。 <ul style="list-style-type: none"> ・ LOD3.0 の場合は取得しない。 ・ LOD3.1 の場合は、15cm 以上の高さの差を取得する。 ・ LOD3.2 の場合は、15cm 未満の高さの差を取得する。

4.3.3.2 Urban Object (i-UR)

4.3.3.2.1 uro:KeyValuePairAttribute

表4-153

型の定義	都市オブジェクトに付与する追加情報。都市オブジェクトが継承する属性及び都市オブジェクトに定義された属性以外にコード型の属性を追加したい場合に使用する。 属性名称と属性の値の対で構成される。コード値以外の属性を追加する場合は、gen:_GenericAttributeを使用すること。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:key [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張する属性の名称。名称は、コードリスト（Key ValuePairAttribute_key.xml）を作成し、選択する。
uro:codeValue [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張された属性の値。名称は、コードリスト（Key ValuePairAttribute_key[key].xml）を作成し、選択する。 [key]は、属性uro:keyの値に一致する。

表4-154

型の定義	都市オブジェクトの品質を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:geometrySrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [1..*]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:geometrySrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例え

		ば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。)
uro:geometrySrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択する。拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること (例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。)
uro:thematicSrcDesc [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	主題属性の作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml) より選択する。 主題属性が作成対象となっている場合は必須とする。
uro:appearanceSrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。 拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:appearanceSrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。 拡張製品仕様書LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:appearanceSrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。 拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。

uro:appearanceSrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD3の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。</p> <p>この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。</p> <p>この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:lodType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>幾何オブジェクトに適用されたLODの詳細な区分。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の場合 コードリスト（Building_lodType.xml）より選択する。 LOD2以上の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 道路、徒歩道又は広場の場合 コードリスト（Road_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 鉄道の場合 コードリスト（Railway_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ LODの細分が定義されていない地物型の場合 この属性を使用しない。
uro:lod1HeightType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>LOD1の立体図形を作成する際に使用した高さの算出方法。コードリスト（DataQualityAttribute_lod1Height-Type.xml）より選択する。立体の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。</p>
uro:tranDataAcquisition [DataQualityAttribute]	xs:string [0..1]	<p>道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）（平成27年5月）に定める「取得レベル(level)」を記述するための属性。</p> <p>道路の場合にのみ使用する。</p>
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:publicSurveyDataQualityAttribute [DataQualityAttribute]	uro:PublicSurveyDataQualityAttribute [0..1]	<p>使用した公共測量成果の地図情報レベルと種類。</p> <p>各LODの幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性（uro:geometrySrcDescLod0等）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成</p>

		果（コード「000」）となっている場合は、必須とする。
--	--	-----------------------------

4.3.3.2.3 uro:PublicSurveyDataQualityAttribute

表4-155

型の定義	都市オブジェクトのデータ作成情報を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:srcScaleLod0 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。 「LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性」（uro:geometrySrcDescLod0）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。
uro:srcScaleLod1 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。 「LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod1）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。
uro:srcScaleLod2 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。 「LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod2）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。 複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、壁面は地図情報レベル1000、屋根面は地図情報レベル2500となる場合は、地図情報レベル2500とする。
uro:srcScaleLod3 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。 「LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod3）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共

		<p>測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、壁面は地図情報レベル1000、屋根面は地図情報レベル2500となる場合は、地図情報レベル2500とする。</p>
uro:srcScaleLod4 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。</p> <p>コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。</p> <p>「LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod4）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、外側の形状は地図情報レベル1000、屋内の形状は地図情報レベル500となる場合は地図情報レベル1000とする。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod0 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>「LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod0）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod1 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>「LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod1）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod2 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>「LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod2）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>

uro:publicSurveySrcDescLod3 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>「LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod3）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod4 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト（PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>「LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod4）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>

4.3.3.2.4 uro:RoadStructureAttribute

表4-156

型の定義	路線、同等以上の道路との交差点又は道路構造の変化点（トンネル、橋梁）で変化する場所で道路を区切った区間における、道路の構造。	
上位の型	uro:RoadAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:widthType [RoadStructureAttribute]	gml::CodeType [0..1]	幅員の区分。コードリスト（RoadStructureAttribute_widthType.xml）より選択する。都市計画基礎調査で収集されている場合にのみ作成する。
uro:width [RoadStructureAttribute]	gml::LengthType [0..1]	中央帯、車道、路肩、植樹帯、歩道等及び環境施設帯（環境施設帯の中の路肩、植樹帯、歩道等の部分を除いた部分）の幅員を合計した幅員。単位はm（uom="m"）とする。
uro:numberOfLanes [RoadStructureAttribute]	xs::integer [0..1]	上下線の合計（一方通行区間の場合を除く）の車線数。 道路構造令第2条第7号の登坂車線、同第2条第6号にいう付加追越車線、同第2条8号の屈折車線、同第2条第9号の変速車線及び同第2条第14号の停車帯、及びゆずり車線は車線数には含めない。交差点付近において、右左折のための車線が設けられている場合はこの数を含まない。 「1車線道路」は道路構造令第5条1項ただし書きによって、車線により構成されない車道を持つ道路であるが、ここでは車線数=1とする。「1車線道路」は車道幅員が5.5m未満の場合とする。

		道路構造が「交差部」の場合、この属性は作成しない。
uro:sectionType [RoadStructureAttribute]	gml::CodeType [0..1]	道路構造の種別。コードリスト（RoadStructureAttribute_sectionType.xml）より選択する。

4.3.3.2.5 uro:TrafficVolumeAttribute

表4-157

型の定義	道路の交通量に関する情報。全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査の対象となる高速自動車国道、都市高速道路、一般国道、主要地方道である都道府県道及び指定市の市道、一般都道府県道、指定市の一部の一般市道を対象とする。	
上位の型	uro:RoadAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:sectionID [TrafficVolumeAttribute]	xs:string [0..1]	交通量調査において、調査の単位となる交通調査基本区間に付与される番号。原則として「都道府県（2桁）」＋「道路種別（1桁）」＋「路線番号（4桁）」＋「順番号（4桁）」からなる11桁の番号。
uro:routeName [TrafficVolumeAttribute]	xs:string [0..1]	路線名。
uro:weekday12hourTrafficVolume [TrafficVolumeAttribute]	xs:integer [0..1]	平日7時～19時までに通過する車両台数。単位は台とする。
uro:weekday24hourTrafficVolume [TrafficVolumeAttribute]	xs:integer [0..1]	平日7時～翌朝7時又は0時～翌日0時までに通過する車両台数。単位は台とする。
uro:largeVehicleRate [TrafficVolumeAttribute]	xs:double [0..1]	自動車類交通量に対する大型車交通量の割合。単位は%とする。
uro:congestionRate [TrafficVolumeAttribute]	xs:double [0..1]	交通調査基本区間の交通容量に対する交通量の比。単位は%とする。
uro:averageTravelSpeedInCongestion [TrafficVolumeAttribute]	xs:double [0..1]	朝のラッシュ時間帯（7時～9時）又は夕方のラッシュ時間帯（17時～19時）において平均旅行速度を集計し、その遅い方の時間帯の旅行速度。都市計画基礎調査で収集されている場合にのみ作成する。単位はkm/hとする。
uro:averageInboundTravelSpeedInCongestion [TrafficVolumeAttribute]	xs:double [0..1]	朝のラッシュ時間帯（7時～9時）又は夕方のラッシュ時間帯（17時～19時）において上り線における平均旅行速度を集計し、その遅い方の時間帯の旅行速度。単位はkm/hとする。
uro:averageOutboundTravelSpeedInCongestion [TrafficVolumeAttribute]	xs:double [0..1]	朝のラッシュ時間帯（7時～9時）又は夕方のラッシュ時間帯（17時～19時）において下り線における平均旅行速度を集計し、その遅い方の時間帯の旅行速度。単位はkm/hとする。
uro:averageInboundTravelSpeedNotCongestion [TrafficVolumeAttribute]	xs:double [0..1]	昼間非混雑時（9～17時）における上り線の平均旅行速度。単位はkm/hとする。
uro:averageOutboundTravelSpeedNotCongestion [TrafficVolumeAttribute]	xs:double [0..1]	昼間非混雑時（9～17時）における下り線平均旅行速度。単位はkm/hとする。

uro:observationPointName [TrafficVolumeAttribute]	xs:string [0..1]	交通量等を観測した地点の名称。
uro:reference [TrafficVolumeAttribute]	xs:string [0..1]	対象となる道路の区間を図上で識別する番号。
uro:surveyYear [TrafficVolumeAttribute]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年。本データ型を作成する場合は、必須とする。

4.3.3.2.6 uro:TrafficAreaStructureAttribute

表4-158

型の定義	交通領域の構造。	
上位の型	uro:TrafficAreaAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:numberOfLanes [TrafficAreaStructureAttribute]	xs::integer [0..1]	交通領域内の合計（一方通行区間の場合を除く）の車線数。 道路構造令第2条第7号の登坂車線、同第2条第6号にいう付加追越車線、同第2条8号の屈折車線、同第2条第9号の変速車線及び同第2条第14号の停車帯、及びゆずり車線は車線数には含めない。交差点付近において、右左折のための車線が設けられている場合はこの数を含まない。 LOD2及びLOD3.0の車道部のみ（車線を分けない場合）にこの属性を付与する。

4.3.3.3 施設管理のための拡張属性

4.3.3.3.1 uro:FacilityIdAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照。

4.3.3.3.2 uro:FacilityTypeAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照。

4.3.3.3.3 uro:FacilityAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照。

4.3.3.4 数値地形図のための拡張属性

4.3.3.4.1 uro:DmAttribute

公共測量標準図式の応用スキーマ文書 参照。

4.3.4 交通（道路）で使用するコードリストと列挙型

4.3.4.1 Transportation（CityGML）

4.3.4.1.1 TransportationComplex_class.xml

表4-159

ファイル名	TransportationComplex_class.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TransportationComplex_class.xml
コード	説明
1020	徒歩道等
1040	道路
1060	鉄道
1070	水路
1080	地下鉄
1090	その他
出典: OGC 12-019, 附属書 C.8	

4.3.4.1.2 Road_function.xml

表4-160

ファイル名	Road_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Road_function.xml
コード	説明
1	高速自動車国道
2	一般国道
3	都道府県道
4	市町村道
10	建築基準法第42条1項2号道路
11	建築基準法第42条1項3号道路
12	建築基準法第42条1項4号道路
13	建築基準法第42条1項5号道路
14	建築基準法第42条2項道路
15	建築基準法第43条2項ただし書きの適用を受けたことがある道
9000	未調査
9010	対象外
9020	不明
出典: [31]; [23]	

4.3.4.1.3 Road_usage.xml

表4-161

ファイル名	Road_usage.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Road_usage.xml
コード	説明
1	緊急輸送道路（第一次緊急輸送道路）
2	緊急輸送道路（第二次緊急輸送道路）
3	緊急輸送道路（第三次緊急輸送道路）
4	緊急輸送道路（未指定）
5	避難路／避難道路
出典: [28]; [20]	

4.3.4.1.4 TrafficArea_function.xml

コードリストTrafficArea_function.xmlは、適用するLODにより使用可能なコードが異なるため、LOD別に示す。

- LOD2及びLOD3.0で使用する場合

表4-162

ファイル名	TrafficArea_function.xml			
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TrafficArea_function.xml			
大分類		小分類		定義
コード	説明	コード	説明	
1000	車道部			主として自動車を利用する道路の部分。
		1020	車道交差部	十字路、丁字路、その他二つ以上の車道が交わる部分。
2000	歩道部			自転車や歩行者のために供される道路の部分。歩道上の植栽を含む。
出典：道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）				

- LOD3.1で使用する場合

表4-163

ファイル名	TrafficArea_function.xml			
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TrafficArea_function.xml			
大分類		小分類		定義
コード	説明	コード	説明	
1000	車道部			主として自動車を利用する道路の部分のうち、自動車の通行の用に供される部分。
		1010	車線	一縦列の自動車を安全かつ円滑に通行させるために設けられる帯状の車道の部分。
		1020	車道交差部	十字路、丁字路、その他二つ以上の車道が交わる部分。
ファイル名	TrafficArea_function.xml			

2000	歩道部		自転車や歩行者のために供される道路の部分。歩道上の植栽を含む。
出典：道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）			

- LOD3.2及びLOD3.3で使用する場合

表4-164

ファイル名	TrafficArea_function.xml			
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TrafficArea_function.xml			
大分類		小分類		定義
コード	説明	コード	説明	
1000	車道部			主として自動車が利用する道路の部分のうち、自動車の通行の用に供される部分。
		1010	車線	一縦列の自動車を安全かつ円滑に通行させるために設けられる帯状の車道の部分。
		1020	車道交差部	十字路、丁字路、その他二つ以上の車道が交わる部分。
2000	歩道部			自転車や歩行者のために供される道路の部分。植栽を含まない。
出典： 道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）				

- LOD3.4で使用する場合

表4-165

ファイル名	TrafficArea_function.xml			
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TrafficArea_function.xml			
大分類		小分類		定義
コード	説明	コード	説明	
1000	車道部			主として自動車を利用する道路の部分のうち、自動車の通行の用に供される部分。 車線やすりつけ区間等区分されている以外の場所を全て車道部として取得する。
		1010	車線	一縦列の自動車を安全かつ円滑に通行させるために設けられる帯状の車道の部分。
		1020	車道交差部	十字路、丁字路、その他二つ以上の車道が交わる部分。
		1030	すりつけ区間	車線の数が増加もしくは減少する、又は道路が接続する場合に設けられる車道の部分。
		1040	踏切道	鉄道と交差する道路の部分。
		1050	軌道敷	路面電車が走行する道路の部分。
		1070	待避所	一車線の道路において、車両のすれ違いのために車道の幅員を拡げる部分。
		1130	副道	道路の構造により沿道との出入りが妨げられる場合に、沿道への出入りを確保するために本線車道に並行して設置される道路。
2000	歩道部			自転車や歩行者のために供される道路の部分。
		2010	自転車歩行者道	自転車及び歩行者の通行の用に供される道路の部分。
ファイル名	TrafficArea_function.xml			

		2020	歩道	歩行者の通行の用に供される道路の部分。
		2030	自転車道	自転車の通行の用に供される道路の部分。
6000	自転車駐車場			自転車駐車場のうち、走路部分。
7000	自動車駐車場			自動車駐車場のうち、走路部分。
出典：道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）				

4.3.4.1.5 AuxiliaryTrafficArea_function.xml

コードリストTrafficArea_function.xml及びAuxiliaryTrafficArea_function.xmlは、適用するLODにより使用可能なコードが異なるため、LOD別に示す。

- LOD2、LOD3.0及びLOD3.1で使用する場合

表4-166

ファイル名	AuxiliaryTrafficArea_function.xml		
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/AuxiliaryTrafficArea_function.xml		
大分類		定義	
コード	説明		
3000	島	車両の走行を制御し、安全な交通を確保するために設置される分離帯及び交通島。路面電車停車所が設けられた島を含む。	
出典： 道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）			

- LOD3.2及びLOD3.3で使用する場合

表4-167

ファイル名	AuxiliaryTrafficArea_function.xml		
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/AuxiliaryTrafficArea_function.xml		
大分類		定義	
コード	説明		
3000	島	車両の走行を制御し、安全な交通を確保するために設置される分離帯及び交通島。路面電車停車所が設けられた島を含む。	
5000	植栽	植樹帯及び植樹ます。	
出典：道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）			

- LOD3.4で使用する場合

表4-168

ファイル名	AuxiliaryTrafficArea_function.xml			
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/AuxiliaryTrafficArea_function.xml			
大分類	大分類	小分類	小分類	定義
ファイル名	AuxiliaryTrafficArea_function.xml			

コード	定義	コード	定義	
1000	車道部			主として自動車を利用する道路の部分のうち、自動車の通行の用に供されない（物理的に通行が可能であっても、道路設計上、車両が通行することが想定されていない）を部分。 非常駐車帯や中央帯の区分が不要な場合には、通行が想定されていない範囲を全て車道部として取得する。
		1060	非常駐車帯	左側路肩に設けられる、故障車等が本線車線から退避し一時的に駐車するための道路の部分。
		1080	中央帯	車線を往復の方向別に区分するための道路の部分。
		1090	側帯	運転者の視線を誘導し、側方余裕をもたせるため、路肩及び中央帯にも受けられる道路の部分。
		1100	路肩	道路の主要構造を保護し、車道の機能を確保するため、車道部や歩道部に連続して設置される道路の部分。
		1110	停車帯	車両が停車するために設けられる道路の部分。
		1120	乗合自動車停車所	バス乗客の乗降のため、本線車線から分離しても受けられる道路の部分。
3000	島			交通島、分離帯の区分が不要な場合は、島として取得する。
		3010	交通島	車両の走行を制御し歩行者を保護するために設置される島状の道路の部分。
		3020	分離帯	同方向又は対方向の交通流を分離するために設置される島状の道路の部分。
4000	路面電車停車所			路面電車の乗降、待合のための停留場として利用される島状の部分。
5000	植栽			植樹帯、植樹ますの区分をしない場合には全て植栽として取得する。
		5010	植樹帯	植栽のために工作物により区切られる道路の帯状の部分。
		5020	植樹ます	歩道上に設置される植栽のためのます。
6000	自転車駐車場			自転車駐車場のうち、駐車区画の部分。
7000	自動車駐車場			自動車駐車場のうち、駐車区画の部分。
出典：道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）				

4.3.4.1.6 TrafficArea_surfaceMaterial.xml、AuxiliaryTrafficArea_surfaceMaterial.xml

表4-169

ファイル名	TrafficArea_surfaceMaterial.xml、AuxiliaryTrafficArea_surfaceMaterial.xml		
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TrafficArea_surfaceMaterial.xml https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/AuxiliaryTrafficArea_surfaceMaterial.xml		
大分類		小分類	
コード	説明	コード	説明
1000	アスファルト舗装		
		1010	排水性アスファルト舗装
		1020	透水性アスファルト舗装
		1030	保水性アスファルト舗装

ファイル名	TrafficArea_surfaceMaterial.xml、AuxiliaryTrafficArea_surfaceMaterial.xml
2000	コンクリート舗装
3000	樹脂系混合舗装
4000	ブロック系舗装
5000	土系舗装
6000	木質系舗装
9000	その他
出典：[29]	

4.3.4.2 Urban Object (i-UR)

4.3.4.2.1 RoadStructureAttribute_widthType.xml

表4-170

ファイル名	RoadStructureAttribute_widthType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/RoadStructureAttribute_widthType.xml
コード	説明
1	15m以上
2	6m以上15m未満
3	4m以上6m未満
4	4m未満
出典：[33]	

4.3.4.2.2 RoadStructureAttribute_sectionType.xml

表4-171

ファイル名	RoadStructureAttribute_sectionType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/RoadStructureAttribute_sectionType.xml
コード	説明
1	土工区間・通常区間
2	高架橋
3	橋梁
4	交差部
5	アンダーパス
6	トンネル

4.3.4.2.3 DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-172

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
101	(公共測量又は基本測量ではない) 現地測量の測量成果

102	(公共測量又は基本測量ではない) UAV写真測量の測量成果
103	(公共測量又は基本測量ではない) 空中写真測量の測量成果
104	(公共測量又は基本測量ではない) 既成図数値化の測量成果
105	(公共測量又は基本測量ではない) 修正測量の測量成果
106	(公共測量又は基本測量ではない) 写真地図作成の測量成果
107	(公共測量又は基本測量ではない) 地図編集の測量成果
108	(公共測量又は基本測量ではない) 地上レーザ測量の測量成果
109	(公共測量又は基本測量ではない) UAV写真点群測量の測量成果
110	(公共測量又は基本測量ではない) UAVレーザ測量の測量成果
111	(公共測量又は基本測量ではない) 車載写真レーザ測量の測量成果
112	(公共測量又は基本測量ではない) 航空レーザ測量の測量成果
113	(公共測量又は基本測量ではない) 航空レーザ測深測量の測量成果
114	(公共測量又は基本測量ではない) 路線測量の測量成果
115	(公共測量又は基本測量ではない) 河川測量の測量成果
116	(公共測量又は基本測量ではない) 用地測量の測量成果
117	(公共測量又は基本測量ではない) その他の応用測量の測量成果
118	(公共測量又は基本測量ではない) LidarSLAM計測の測量成果
119	(公共測量又は基本測量ではない) 高密度航空レーザ測量の測量成果
120	(公共測量又は基本測量ではない) 写真点群測量の測量成果
121	(公共測量又は基本測量ではない) 三次元数値図化の測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
700	その他の資料
801	現地調査
803	GISデータ演算
901	推定
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.3.4.2.4 DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml

表4-173

ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
100	公共測量成果又は基本測量成果ではない測量成果

ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
201	都市計画基礎調査

202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
600	統計データ
701	建築計画概要書
700	その他の資料
801	現地調査
802	写真判読
803	GISデータ演算
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.3.4.2.5 DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml

表4-174

ファイル名	DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
コード	説明
1	空中写真
2	衛星写真
3	車載写真レーザ測量システムにより撮影した写真
4	手持ちカメラにより撮影した写真
5	疑似テクスチャ
99	未作成

4.3.4.2.6 Road_lodType.xml

表4-175

ファイル名	Road_lodType.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Road_lodType.xml
コード	説明
3.0	道路の横断方向の高さは一律とし、車道の高さとする。車道、車道交差部、分離帯及び歩道を区分する。
3.1	道路の横断方向の高さは一律とし、車道の高さとする。車道、車道交差部、分離帯及び歩道の区分に加え、車道を車線に区分する。
3.2	道路の横断方向に存在する15cm以上の高さの差を取得する。車道、車道交差部、分離帯及び歩道の区分に加え、車道を車線に区分し、歩道上の植栽を区分する。
3.3	道路の横断方向に存在する2cm以上の高さの差を取得する。車道、車道交差部、分離帯及び歩道の区分に加え、車道を車線に区分し、歩道上の植栽を区分する。

ファイル名	Road_lodType.xml
-------	------------------

3.4	道路の横断方向に存在する2cm以上の高さの差を取得する。車道、車道交差部、分離帯及び歩道の区分に加え、車道、分離帯、歩道を以下の区分に細分する。車道は、車線、すりつけ区間、踏切道、軌道敷、待避所、副道、自動車駐車場、非常駐車帯、中央帯、側帯、路肩、停車帯、乗合自動車停車所に区分する。分離帯は、交通島、分離帯、植樹帯、路面電車停車所に区分する。歩道は、歩道、自転車歩行者道、自転車道、植樹ますに区分する。
-----	--

4.3.4.2.7 PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml

表4-176

ファイル名	PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml
コード	説明
0	地図情報レベル5000
1	地図情報レベル2500
2	地図情報レベル1000
3	地図情報レベル500
9	定義なし

4.3.4.2.8 PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-177

ファイル名	PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
001	現地測量の測量成果
002	UAV写真測量の測量成果
003	空中写真測量の測量成果
004	既成図数値化の測量成果
005	修正測量の測量成果
006	写真地図作成の測量成果
007	地図編集の測量成果
008	地上レーザ測量の測量成果
009	UAV写真点群測量の測量成果
010	UAVレーザ測量の測量成果
011	車載写真レーザ測量の測量成果
012	航空レーザ測量の測量成果
013	航空レーザ測深測量の測量成果
014	路線測量の測量成果
015	河川測量の測量成果
016	用地測量の測量成果
017	その他の応用測量の測量成果
018	LidarSLAM計測の測量成果
019	高密度航空レーザ測量の測量成果
020	写真点群測量の測量成果
021	三次元数値図化の測量成果

ファイル名	PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.4 交通（鉄道）モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.5 交通（徒歩道）モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.6 交通（広場）モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.7 交通（航路）モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.8 土地利用モデルの応用スキーマ

土地利用とは、都市計画基礎調査の土地利用現況をいう。（都市計画法第6条）

[出典: [34]; [33]; 都市計画データ標準製品仕様書]

4.8.1 土地利用モデルのLOD

標準製品仕様書が対象とする土地利用（luse:LandUse）のLODは、LOD1とする。

4.8.1.1 土地利用モデル（LOD1）

4.8.1.1.1 土地利用モデル（LOD1）の概要

土地利用モデル（LOD1）では、土地利用の形状を面により表現する。

土地利用モデル（LOD1）の取得イメージを表4-296に示す。

表4-296 — 土地利用モデル（LOD1）の取得イメージ

	LOD1
--	------

取得例	
説明	都市計画基礎調査の土地利用現況において作成された面に一致する。 高さは0とする。

4.8.1.1.2 土地利用モデル（LOD1）の定義

表4-297

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD1	●	LandUse	Multi Surface	土地利用現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地利用現況を取得する。 ・ 高さは0とする。 	
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.8.1.2 各LODにおける使用可能な地物型と空間属性

土地利用モデルの各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性を表4-298に示す。

表4-298 — 土地利用モデルの記述に使用する地物型と空間属性

地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	適用
luse:LandUse			●			LOD1のみを対象とする。
	lod0MultiSurface					
	lod1MultiSurface		●			
	lod2MultiSurface					
	lod3MultiSurface					
記号説明 ● : 必須 ■ : 条件付必須 ○ : 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.8.2 土地利用モデルの応用スキーマクラス図

4.8.2.1 LandUse (CityGML)

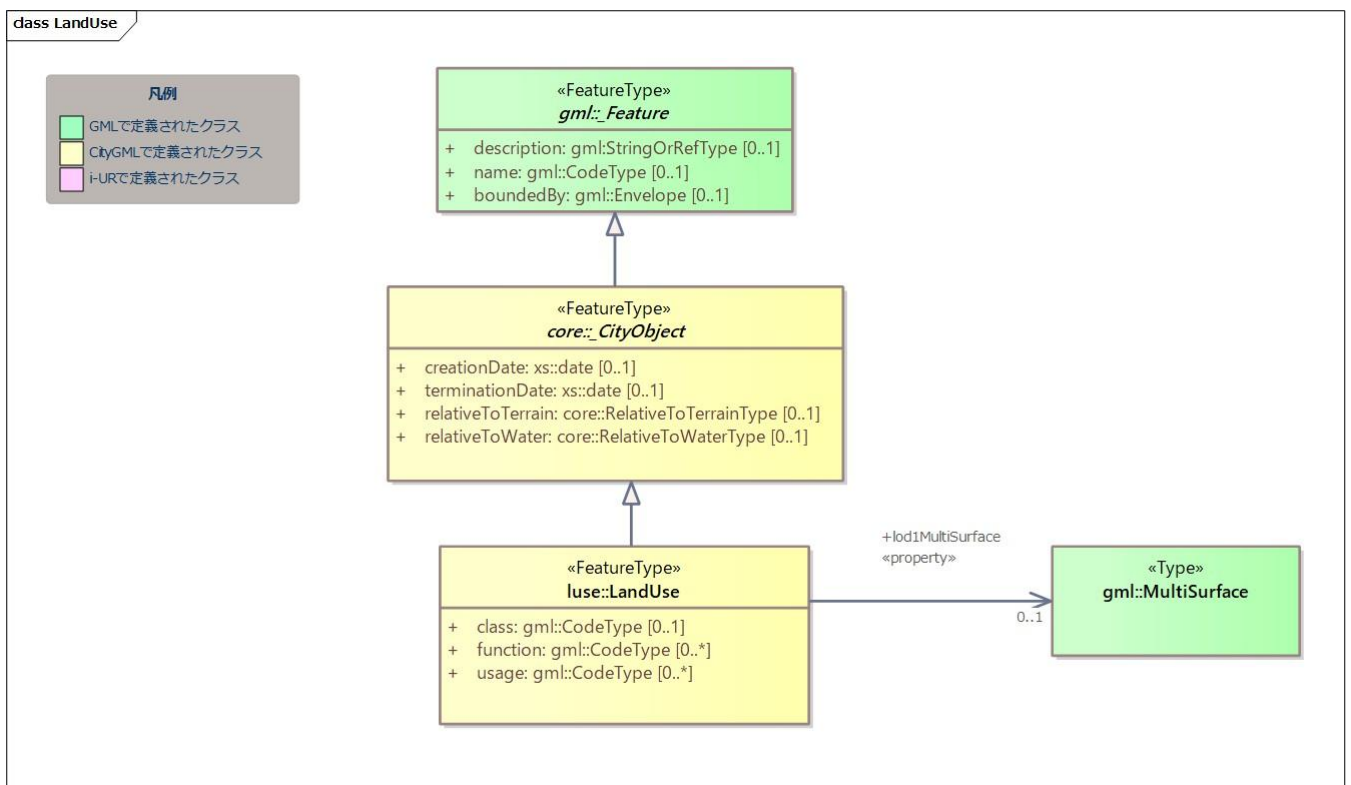


図4-28

4.8.2.2 Urban Object (i-UR)

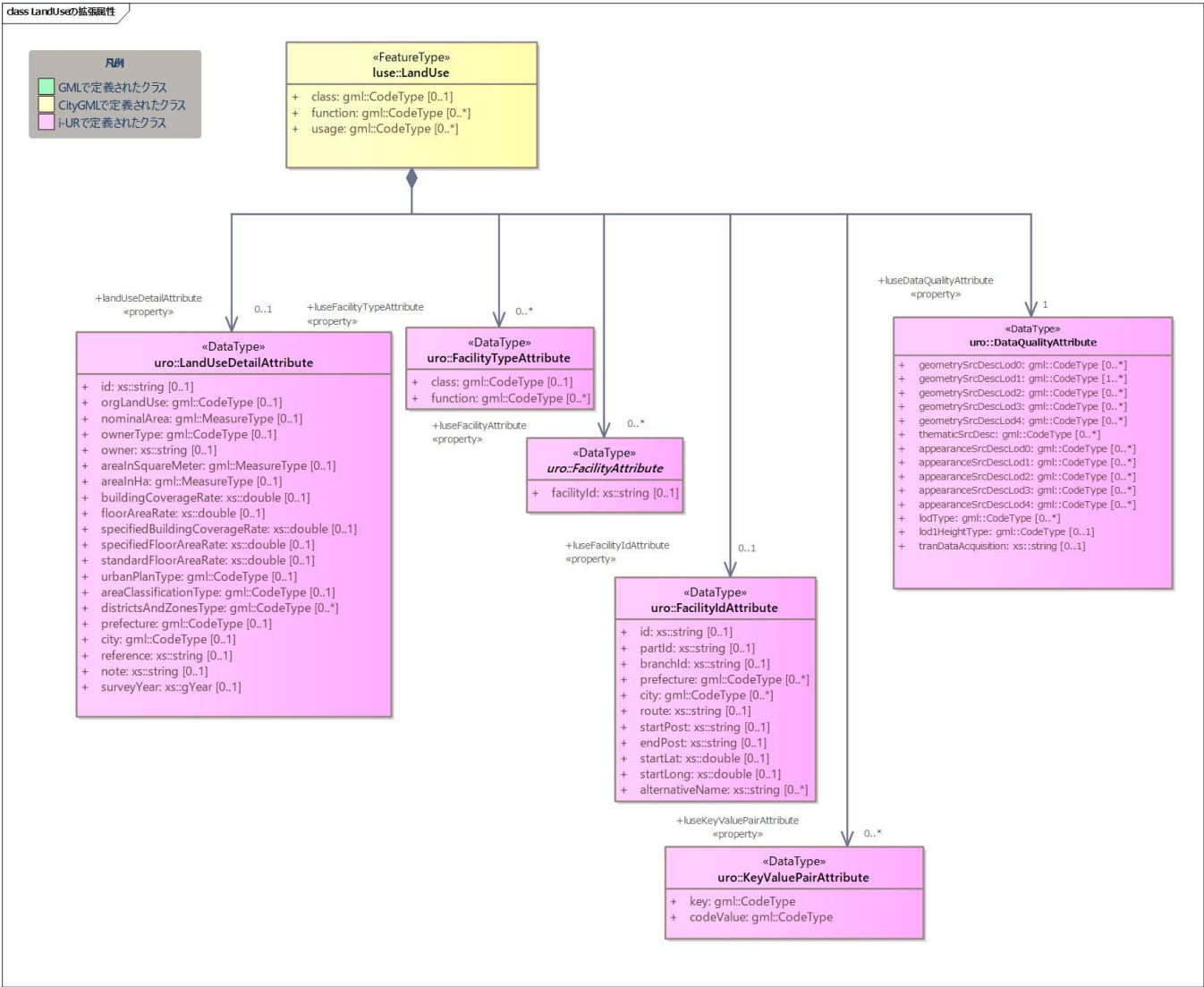


図4-29

4.8.3 土地利用モデルの応用スキーマ文書

4.8.3.1 LandUse (CityGML)

4.8.3.1.1 luse:LandUse

表4-299

型の定義	都市計画基礎調査の土地利用現況。	
上位の型	core:_CityObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。

[_Feature]		
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
luse:class [LandUse]	gml::CodeType [0..1]	土地利用用途の大きな区分。 土地利用用途の区分は、都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）による区分とする。コードリスト（ Common_landUseType.xml）より選択する。
luse:function [LandUse]	gml::CodeType [0..*]	土地利用の機能。標準製品仕様書では使用しない。
luse:usage [LandUse]	gml::CodeType [0..*]	土地利用の用途。標準製品仕様書では使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
luse:lod1MultiSurface [LandUse]	gml:MultiSurface [0..1]	土地利用が変化する境界により囲われた同一の土地利用の範囲。
uro:ifcLandUseAttribute [LandUse]	uro:IfcAttribute [0..*]	標準製品仕様書では使用しない。

uro:landUseDetailAttribute [LandUse]	uro:LandUseDetailAttribute [0..1]	土地利用現況調査により得られた土地の詳細情報。
uro:luseDataQualityAttribute [LandUse]	uro:DataQualityAttribute [1..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:luseDmAttribute [LandUse]	uro:DmAttribute [0..*]	標準製品仕様書では使用しない。
uro:luseFacilityAttribute [LandUse]	uro:FacilityAttribute [0..*]	uro:luseFacilityTypeAttribute.classによって指定された分野における施設管理情報。
uro:luseFacilityIdAttribute [LandUse]	uro:FacilityIdAttribute [0..1]	uro:luseFacilityTypeAttribute.classによって指定された分野における施設の識別情報。
uro:luseFacilityTypeAttribute [LandUse]	uro:FacilityTypeAttribute [0..*]	特定分野における施設の分類情報。
uro:luseKeyValuePairAttribute [LandUse]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。

4.8.3.2 Urban Object (i-UR)

4.8.3.2.1 uro:LandUseDetailAttribute

表4-300

型の定義	都市計画に関する基礎調査の一つとして、土地利用の現況と変化の動向を把握することを目的とし都市計画法第 6 条の規定に基づき実施される調査の結果。	
上位の型	uro:LandUseAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:id [LandUseDetailAttribute]	xs::string [0..1]	土地利用現況図における識別子。
uro:orgLandUse [LandUseDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市独自の分類による土地利用用途。コードリスト（LandUseDetailAttribute_orgLandUse.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro:nominalArea [LandUseDetailAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	図上計測面積を調整した値。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:ownerType [LandUseDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	土地所有者の区分。コードリスト（Common_owner-Type.xml）より選択する。
uro:owner [LandUseDetailAttribute]	xs::string [0..1]	土地所有者の名称。
uro:arealnSquareMeter [LandUseDetailAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	図上計測面積。単位はm2（uom="m2"）とする。
uro:arealnHa [LandUseDetailAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	図上計測面積（ha換算数）。単位はha（uom="ha"）とする。
uro:buildingCoverageRate [LandUseDetailAttribute]	xs::double [0..1]	建蔽率（敷地面積に対する建築面積の割合）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は％。
uro:floorAreaRate [LandUseDetailAttribute]	xs::double [0..1]	容積率（敷地面積に対する延床面積の割合）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は％。

uro:specifiedBuildingCoverageRate [LandUseDetailAttribute]	xs::double [0..1]	指定建蔽率（用途地域別に定められている建蔽率）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は％。
uro:specifiedFloorAreaRate [LandUseDetailAttribute]	xs::double [0..1]	指定容積率（都市計画で定められる容積率の最高限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は％。
uro:standardFloorAreaRate [LandUseDetailAttribute]	xs::double [0..1]	基準容積率（前面道路の幅員が12m未満の場合に、前面道路の幅員による限度により算出される容積率）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。単位は％。
uro:urbanPlanType [LandUseDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	土地が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
uro:areaClassificationType [LandUseDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	土地が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
uro:districtsAndZonesType [LandUseDetailAttribute]	gml::CodeType [0..*]	土地が属する地域地区の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。土地利用が複数の地域地区に含まれる場合は、複数を列挙する。
uro:prefecture [LandUseDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	土地が所在する都道府県の都道府県コード。JIS X0401に定義される2桁の半角数字。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
uro:city [LandUseDetailAttribute]	gml::CodeType [0..1]	土地が所在する市区町村の市区町村コード。JIS X0401に定義される2桁の半角数字とJIS X0402に定義される3桁の半角数字とを組み合わせた5桁の半角数字。政令市の場合は、区の市区町村コードとする。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。 運用上必須とする。
uro:reference [LandUseDetailAttribute]	xs:string [0..1]	土地の位置を示す図面上の番号。
uro:note [LandUseDetailAttribute]	xs:string [0..1]	その他土地に関して特筆すべき事項。
uro:surveyYear [LandUseDetailAttribute]	xs:gYear [0..1]	土地利用現況調査の実施年（西暦）。

4.8.3.2.2 uro:KeyValuePairAttribute

表4-301

型の定義	都市オブジェクトに付与する追加情報。都市オブジェクトが継承する属性及び都市オブジェクトに定義された属性以外にコード型の属性を追加したい場合に使用する。 属性名称と属性の値の対で構成される。コード値以外の属性を追加する場合は、gen:_GenericAttributeを使用すること。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:key [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張する属性の名称。名称は、コードリスト（Key ValuePairAttribute_key.xml）を作成し、選択する。
uro:codeValue [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張された属性の値。名称は、コードリスト（Key ValuePairAttribute_key[key].xml）を作成し、選択する。 [key]は、属性uro:keyの値に一致する。

表4-302

型の定義	都市オブジェクトの品質を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:geometrySrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [1..*]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:geometrySrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブ

		ジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。) 。
uro:geometrySrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択する。拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること (例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。) 。
uro:thematicSrcDesc [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	主題属性の作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml) より選択する。 主題属性が作成対象となっている場合は必須とする。
uro:appearanceSrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。 拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:appearanceSrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。 拡張製品仕様書LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:appearanceSrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。 拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:appearanceSrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD3の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。

		<p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:lodType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>幾何オブジェクトに適用されたLODの詳細な区分。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の場合 コードリスト（ Building_lodType.xml）より選択する。 LOD2以上の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 道路、徒歩道又は広場の場合 コードリスト（ Road_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 鉄道の場合 コードリスト（ Railway_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ LODの細分が定義されていない地物型の場合 この属性を使用しない。
uro:lod1HeightType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>LOD1の立体図形を作成する際に使用した高さの算出方法。コードリスト（DataQualityAttribute_lod1Height-Type.xml）より選択する。立体の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。</p>
uro:tranDataAcquisition [DataQualityAttribute]	xs:string [0..1]	<p>道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）（平成27年5月）に定める「取得レベル(level)」を記述するための属性。 道路の場合にのみ使用する。</p>
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:publicSurveyDataQualityAttribute [DataQualityAttribute]	uro:PublicSurveyDataQualityAttribute [0..1]	<p>使用した公共測量成果の地図情報レベルと種類。各LODの幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性（uro:geometrySrcDescLod0等）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）となっている場合は、必須とする。</p>

4.8.3.3 施設管理のための拡張属性

4.8.3.3.1 uro:FacilityIdAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照。

4.8.3.3.2 uro:FacilityTypeAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照。

4.8.3.3.3 uro:FacilityAttribute

施設管理属性の応用スキーマ文書 参照。

4.8.4 土地利用モデルで使用するコードリストと列挙型

4.8.4.1 LandUse (CityGML)

4.8.4.1.1 Common_landUseType.xml

表4-303

ファイル名	Common_landUseType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_landUseType.xml
コード	説明
201	田（水田）
202	畑（畑、樹園地、採草地、養鶏（牛・豚）場）
203	山林（樹林地）
204	水面（河川水面、湖沼、ため池、用水路、濠、運河水面）
205	その他自然地（原野・牧野、荒れ地（耕作放棄地等自然的状況のもの）、低湿地、河川敷・河原、海浜、湖岸）
211	住宅用地（住宅、共同住宅、店舗等併用住宅、店舗等併用共同住宅、作業所併用住宅）
212	商業用地（業務施設、商業施設、宿泊施設、商業系複合施設）
213	工業用地（工場）
219	農林漁業施設用地（農林漁業用施設）
214	公益施設用地（官公庁施設、文教厚生施設、供給処理施設）
215	道路用地（道路、駅前広場、私有地内に存在する沿道用途の「私道」または、私有地の一部分であるものの公共の通行に供されている土地の部分）
216	交通施設用地（運輸倉庫施設）
217	公共空地（公園・緑地、広場、運動場、墓園）
218	その他公的施設用地（防衛施設用地）
220	その他①（ゴルフ場）
221	その他②（太陽光発電のシステムを直接整備している土地）
222	その他③（平面駐車場）
223	その他④（その他①～③以外の用途に供されている都市的土地利用（建物跡地、資材置場、改変工事中の土地）、法面（道路、造成地等の主利用に含まれない法面））
224	低未利用土地（用途に供されていない空地、空家・空き店舗・空施設の存する土地等）

ファイル名	Common_landUseType.xml
-------	------------------------

231	不明
251	可住地
252	非可住地
260	農地（田、畑の区分がない）
261	宅地（住宅用地、商業用地等の区分が無い）
262	道路・鉄軌道敷（道路と交通施設用地が混在）
263	空地（その他①～④の区分が無い）

4.8.4.2 Urban Object (i-UR)

4.8.4.2.1 Common_ownerType.xml

表4-304

ファイル名	Common_ownerType.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_ownerType.xml
コード	説明
1010	国
1020	都道府県
1030	市区町村
1040	公社等
9000	未調査
9010	調査対象外
9020	不明

4.8.4.2.2 DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-305

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
101	（公共測量又は基本測量ではない）現地測量の測量成果
102	（公共測量又は基本測量ではない）UAV写真測量の測量成果
103	（公共測量又は基本測量ではない）空中写真測量の測量成果
104	（公共測量又は基本測量ではない）既成図数値化の測量成果
105	（公共測量又は基本測量ではない）修正測量の測量成果
106	（公共測量又は基本測量ではない）写真地図作成の測量成果
107	（公共測量又は基本測量ではない）地図編集の測量成果
108	（公共測量又は基本測量ではない）地上レーザ測量の測量成果
109	（公共測量又は基本測量ではない）UAV写真点群測量の測量成果
110	（公共測量又は基本測量ではない）UAVレーザ測量の測量成果
111	（公共測量又は基本測量ではない）車載写真レーザ測量の測量成果
112	（公共測量又は基本測量ではない）航空レーザ測量の測量成果

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
113	（公共測量又は基本測量ではない）航空レーザ測深測量の測量成果

114	(公共測量又は基本測量ではない) 路線測量の測量成果
115	(公共測量又は基本測量ではない) 河川測量の測量成果
116	(公共測量又は基本測量ではない) 用地測量の測量成果
117	(公共測量又は基本測量ではない) その他の応用測量の測量成果
118	(公共測量又は基本測量ではない) LidarSLAM計測の測量成果
119	(公共測量又は基本測量ではない) 高密度航空レーザ測量の測量成果
120	(公共測量又は基本測量ではない) 写真点群測量の測量成果
121	(公共測量又は基本測量ではない) 三次元数値図化の測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
700	その他の資料
801	現地調査
803	GISデータ演算
901	推定
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.8.4.2.3 DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml

表4-306

ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
100	公共測量成果又は基本測量成果ではない測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
600	統計データ
701	建築計画概要書
700	その他の資料
801	現地調査
802	写真判読
803	GISデータ演算
ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
999	未作成

4.8.4.2.4 DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml

表4-307

ファイル名	DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
コード	説明
1	空中写真
2	衛星写真
3	車載写真レーザ測量システムにより撮影した写真
4	手持ちカメラにより撮影した写真
5	疑似テクスチャ
99	未作成

4.8.4.2.5 LandUseDetailAttribute_orgLandUse.xml

表4-8-4-2-5

ファイル名	
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/LandUseDetailAttribute_orgLandUse.xml
コード	説明
1	田
2	畑
3	山林
4	水面
5	その他の自然地
6	住宅用地
7	商業用地
8	工業用地
9	公益施設用地
10	道路用地
11	交通施設用地
12	公共空地
13	その他の公的施設用地
14	その他の空地

4.9 災害リスクモデルの応用スキーマ

災害リスクとは、標準製品仕様書では、以下の7種類を指す。

- 洪水浸水想定区域図データ電子化ガイドラインが対象とする「洪水浸水想定区域」
- 内水浸水想定区域図作成マニュアル（案）に定める「内水浸水想定区域」

- 水防法第14条の3第1項に定める「高潮浸水想定区域」
- 津波防災地域づくりに関する法律第8条第1項に定める「津波浸水想定」
- ため池ハザードマップ作成の手引き（案）に定める「ため池ハザードマップ」
- 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第7条第1項に定める「土砂災害警戒区域」
- 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第9条第1項に定める「土砂災害特別警戒区域」

「洪水浸水想定区域」は、水防法第14条第1項に定める洪水浸水想定区域のほか、これに類する河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を含む。

また、「内水浸水想定区域」は、水防法に基づく想定最大規模降雨に対する内水による浸水が想定される区域（水防法第14条の2第1項に定める「雨水出水浸水想定区域」）、地域の既往最大降雨や他地域での大規模な降雨など一定の被害が想定される降雨に対する内水による浸水が想定される区域及び計画降雨等に対する内水による浸水が想定される区域を含む。

標準製品仕様書では、洪水浸水想定区域、内水浸水想定区域、高潮浸水想定区域及び津波浸水想定を「災害リスク（浸水）モデル」、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域を「災害リスク（土砂災害）モデル」と区分する。

4.9.1 災害リスクモデルのLOD


標準製品仕様書が対象とする災害リスク（浸水）モデル及び災害リスク（土砂災害）モデルのLODは、LOD1とする。

4.9.1.1 災害リスク（浸水）モデル（LOD1）

4.9.1.1.1 災害リスク（浸水）モデル（LOD1）の概要

災害リスク（浸水）モデル（LOD1）では、浸水面を表現する。
災害リスク（浸水）モデル（LOD1）の取得イメージを表4-308に示す。

表4-308 災害リスク（浸水）モデル（LOD1）の取得イメージ

LOD1	
取得例	<div></div> <p>災害リスク（浸水）モデルで表現される浸水面を、建築物モデル（LOD1）と重量して表示</p>
説明	洪水浸水想定区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの浸水面を取得する。 高さは標高に水位を加えた高さとする。

4.9.1.1.2 災害リスク（浸水）モデル（LOD1）の定義

災害リスク（浸水）モデル（LOD1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-309

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD1	●	Water Body	Multi Surface		<ul style="list-style-type: none">・ 浸水面を取得する。・ 各頂点の標高に水位を加えた高さを与える。	
<p>記号説明</p> <p>● ： 必須</p> <p>■ ： 条件付必須</p> <p>○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）</p>						

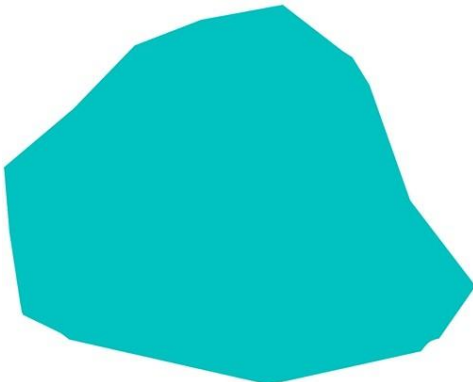
4.9.1.2 災害リスク（土砂災害）モデル（LOD1）

4.9.1.2.1 災害リスク（土砂災害）モデル（LOD1）の概要

災害リスク（土砂災害）モデル（LOD1）では、区域を表現する。

災害リスク（土砂災害）モデル（LOD1）の取得イメージを表4-310に示す。

表4-310 災害リスク（土砂災害）モデル（LOD1）の取得イメージ

LOD1	
取得例	
説明	土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定された範囲を取得する。 高さは0とする。

4.9.1.2.2 災害リスク（土砂災害）モデル（LOD1）の定義

災害リスク（土砂災害）モデル（LOD1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-311

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD1	●	Sediment Disaster Prone Area	Multi Surface		<ul style="list-style-type: none">・ 区域の境界線に囲まれた範囲を取得する。・ 高さは0とする。	
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.9.1.3 各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性

災害リスクモデルの各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性を表4-312に示す。

表4-312 — 災害リスクモデルの記述に使用する地物型と空間属性

地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	適用
wtr:WaterBody			●			災害リスク（浸水）モデルに使用する。
	wtr:lod1MultiSurface		●			
urf:SedimentDisasterProneArea			●			災害リスク（土砂災害）モデルに使用する。
	urf:lod1MultiSurface		●			
記号説明						
● ： 必須						
■ ： 条件付必須						
○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.9.2 災害リスクモデルの応用スキーマクラス図

4.9.2.1 WaterBody（CityGML）

災害リスク（浸水）モデル（LOD1）で表現する浸水面の記述には、CityGMLのWaterBodyを使用する。

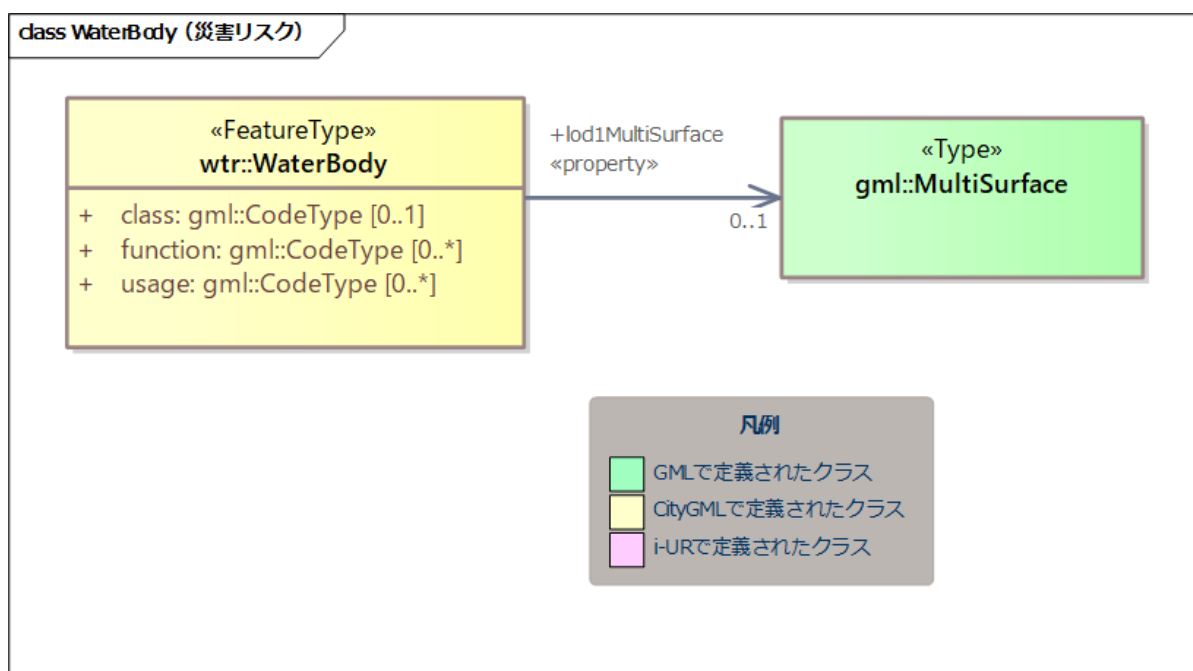


図4-30

4.9.2.2 Urban Object (i-UR)

4.9.2.2.1 洪水浸水想定区域、内水浸水想定区域、高潮浸水想定区域、津波浸水想定、ため池ハザードマップ

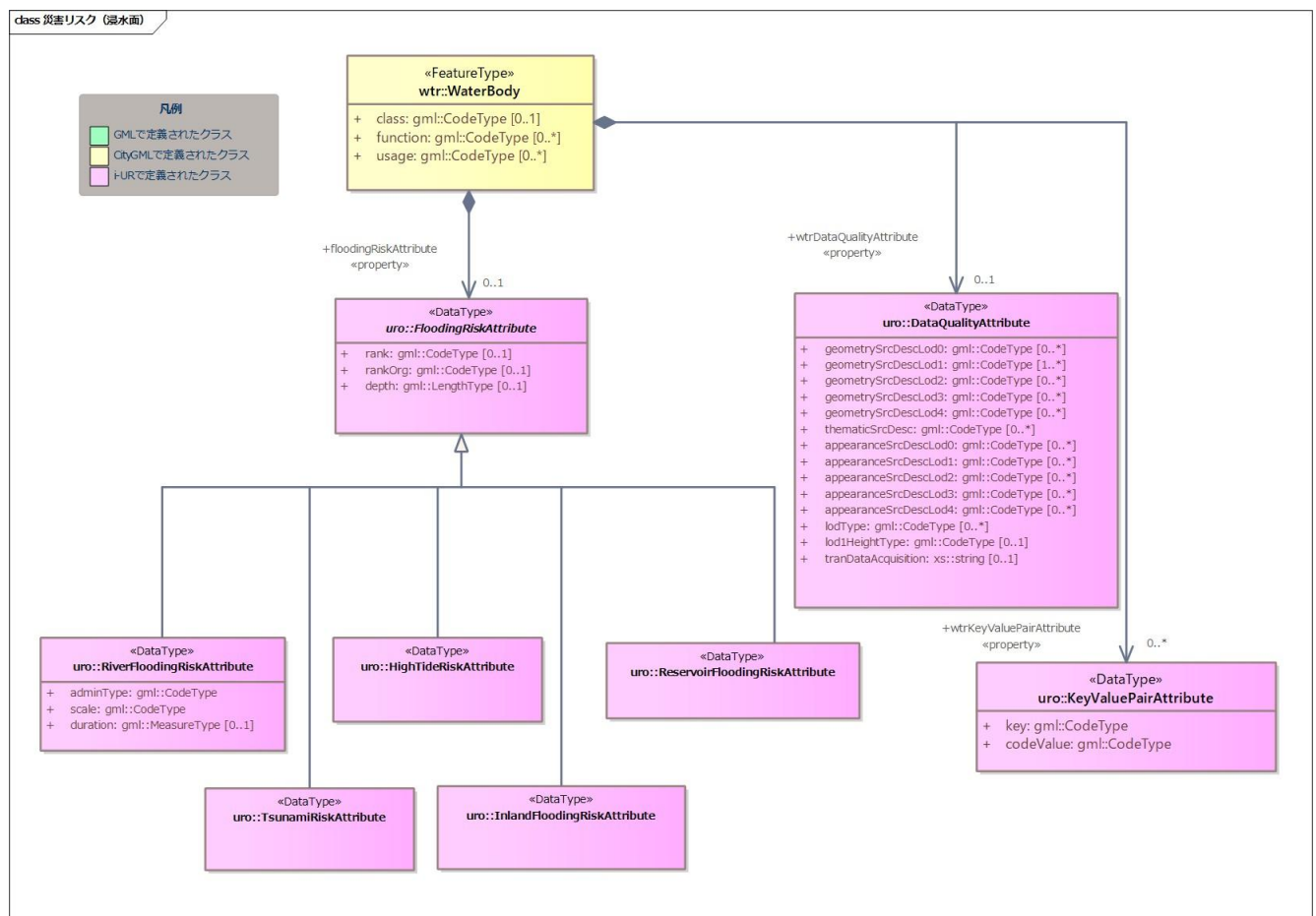


図4-31

4.9.2.2.2 災害リスク属性

橋梁等の都市オブジェクトに、災害リスク属性を付与するためのデータ型である。

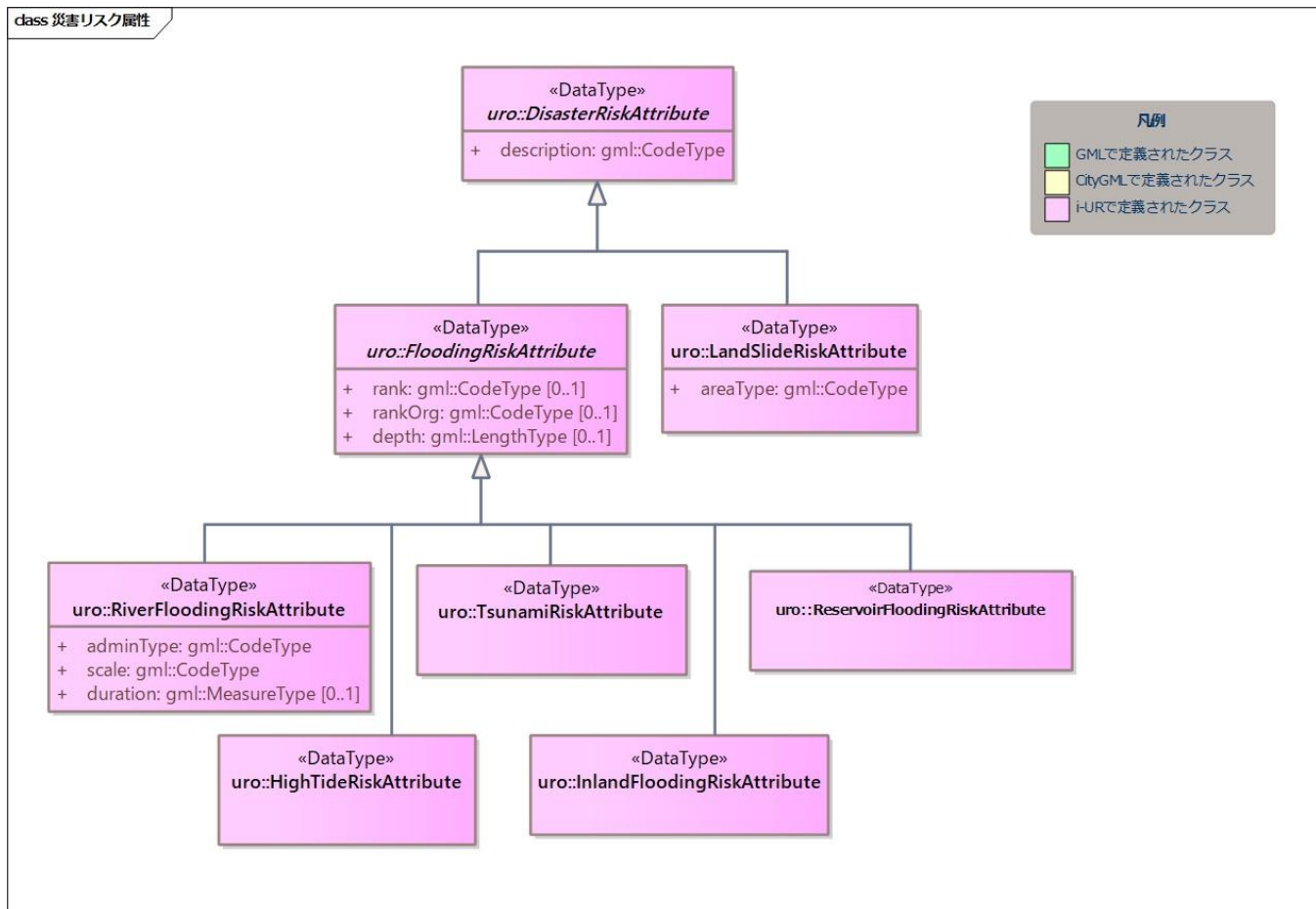


図4-32

4.9.2.3 Urban Function (i-UR)

災害リスク（土砂災害）モデルは、urf::SedimentDisasterProneAreaを使用して記述する。

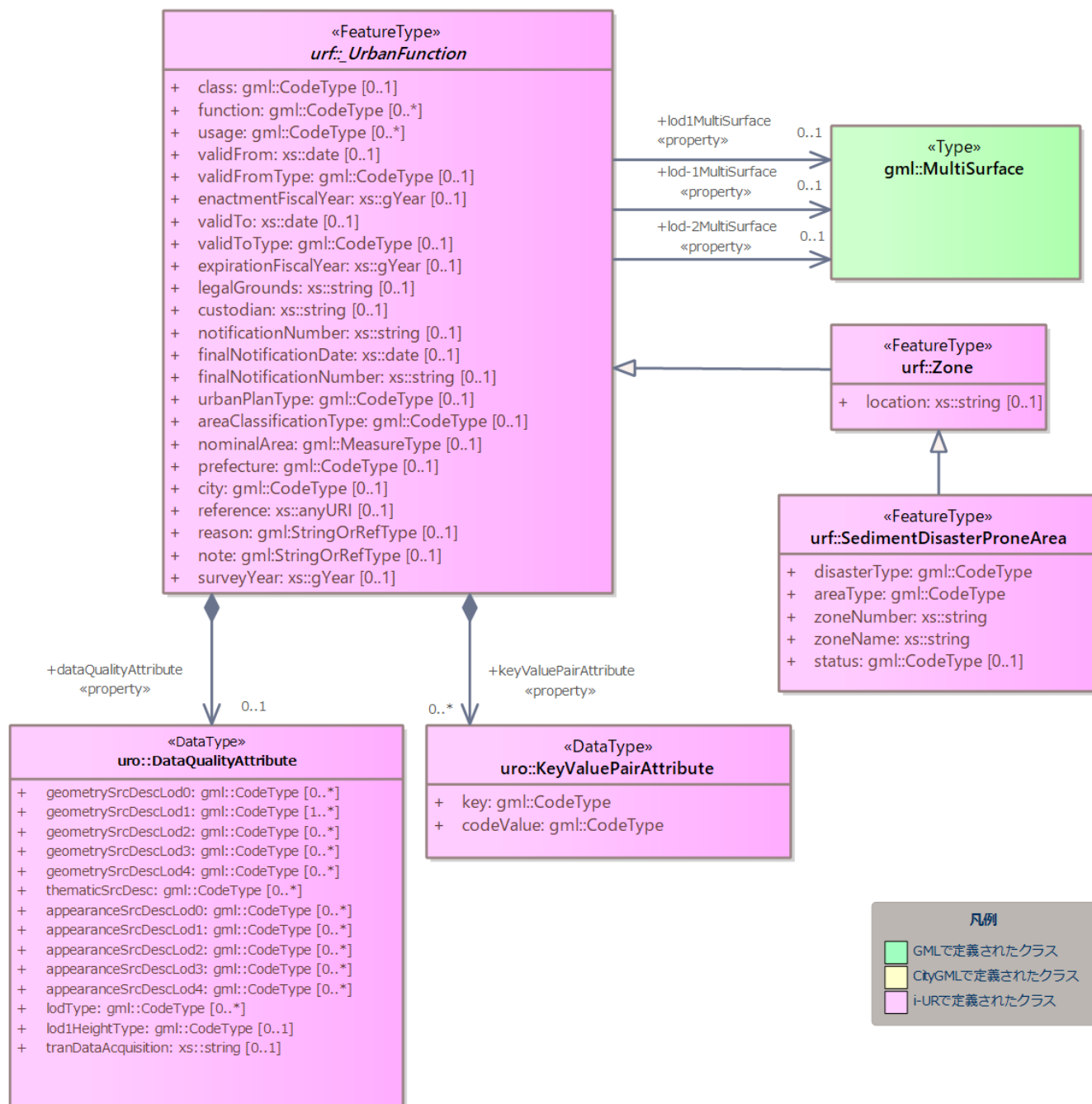


図4-33

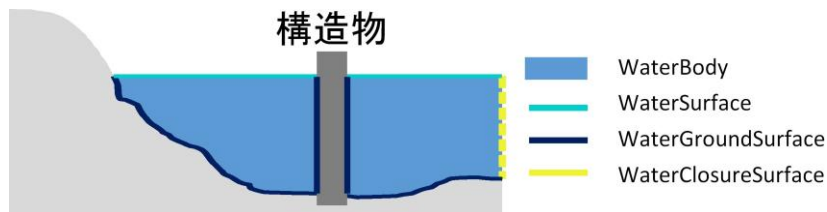
4.9.3 災害リスクモデルの応用スキーマ文書

4.9.3.1 WaterBody (CityGML)

4.9.3.1.1 wtr:WaterBody

表4-313

<p>型の定義</p>	<p>河川、湖沼、等のように陸地内に存在する水の存在する部分及び海。水路や貯水槽、プールのような人工的に存在する水を含む。また、浸水面を含む。</p> <p>・ 河川、湖沼、海及び水路、貯水槽、プールのような人工的に存在する水の場合</p> <p>LOD0 は、ネットワーク又は、公共測量標準図式による表現のいずれかとし、ネットワークを原則とする。</p> <div data-bbox="804 647 1270 913"><p>— 中心線</p><p>— 水涯線</p></div> <p>wtr:WaterBodyの例 (LOD0)</p> <p>LOD1 は、水涯線により囲まれた面として表現する。</p> <div data-bbox="804 1081 1270 1420"><p>中洲を表現</p></div> <p>wtr:WaterBodyの例 (LOD1)</p> <p>LOD2 は、水面と水底面に囲まれた立体として表現する。</p> <div data-bbox="603 1568 1444 1776"><p>WaterBody</p><p>WaterSurface</p><p>WaterGroundSurface</p><p>WaterClosureSurface</p></div> <p>wtr:WaterBodyの例 (LOD2)</p> <p>LOD3 は、水面と水底面に囲まれた立体から、水中の構造物を除いた立体として表現する。</p>
-------------	---



wtr:WaterBodyの例 (LOD3)

水部のインスタンスは基準地域メッシュ（第3次地域区画）の境界で区切る。

LOD2 又はLOD3 でインスタンスを分割する場合は、基準地域メッシュの水部の立体の境界面分割するための仮想的な境界面を「wtr:WaterClosureSurface」とする。

・ 浸水面の場合

洪水浸水想定区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップ（以下、浸水想定区域等と呼ぶ）の浸水面を記述する。浸水面は、LOD1のみを対象とする。浸水面を構成する図形の頂点の高さは、標高に水位を加えた高さとする。

浸水面は以下の場所で区切る。

- － ランクが変化する場所
- － ファイル単位となるメッシュの境界

浸水想定区域等の場合、gml:nameには、浸水想定区域等の図面に示される、図面の名称を記述する。この場合、gml:nameは必須とする。

上位の型	wtr:_WaterObject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
wtr:class [WaterBody]	gml::CodeType [0..1]	水部の分類。コードリスト（WaterBody_class.xml）から選択する。浸水想定区域等の場合は、1140 とする。
wtr:function [WaterBody]	gml::CodeType [0..*]	浸水想定区域等の種類。コードリスト（WaterBody_function.xml）より選択する。浸水想定区域等の場合は、必須とする。
wtr:usage	gml::CodeType [0..*]	水部の利用方法。標準製品仕様書では使用しない。

[WaterBody]		
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
wtr:boundedBy [_WaterObject]	wtr:_WaterBoundarySurface [0..*]	水部の外形を構成する水面（wtr:WaterSurface）や水底面（wtr:WaterGroundSurface）等の境界面。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
wtr:lod0MultiCurve [WaterBody]	gml:MultiCurve [0..1]	LOD0の幾何形状。中心線とする。詳細は各モデルのLOD定義を参照すること。災害リスクモデルの浸水面を表現する場合には使用しない。
wtr:lod1MultiSurface [WaterBody]	gml:MultiSurface [0..1]	LOD1の幾何形状。水面の範囲を面の集まりにより表現する。水平面に投影した場合に隣り合う水部のインスタンスは、連続でなければならない。各頂点の高さは、水位+標高となる。詳細は各モデルのLOD定義を参照すること。
wtr:lod2Solid [WaterBody]	gml:_Solid [0..1]	LOD2の幾何形状。水面（wtr:WaterSurface）と不規則三角網（TIN）により表現する水底面（wtr:WaterGroundSurface）を境界面とする水部の外形を示す立体により表現する。 詳細は各モデルのLOD定義を参照すること。災害リスクモデルの浸水面を表現する場合には使用しない。
wtr:lod3Solid [WaterBody]	gml:_Solid [0..1]	LOD3の幾何形状。水面（wtr:WaterSurface）と不規則三角網（TIN）を発生した水底面（wtr:WaterGroundSurface）を境界面とする水部の外形を示す立体により表現する。 詳細は各モデルのLOD定義を参照すること。災害リスクモデルの浸水面を表現する場合には使用しない。
uro:floodingRiskAttribute [WaterBody]	uro:FloodingRiskAttribute [0..1]	浸水リスクに関する情報。浸水想定区域の場合のみ最大1個作成する。
uro:waterBodyDetailAttribute [WaterBody]	uro:WaterBodyDetailAttribute [0..1]	水部の基礎的な情報。 災害リスク（浸水）の場合は本関連役割は使用しない。

uro:wtrDataQualityAttribute [WaterBody]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。 公共測量成果又は基本測量成果となる場合はuro: PublicSurveyDataQualityAttributeを使用して記述する。 公共測量成果又は基本測量成果とならない場合は uro:DataQualityAttributeを使用して記述する。
uro:wtrDmAttribute [WaterBody]	uro:DmAttribute [0..*]	公共測量標準図式による図形表現に必要な情報。 災害リスク（浸水）の場合は本関連役割は使用しない。
uro:wtrFacilityAttribute [WaterBody]	uro:FacilityAttribute [0..*]	uro:wtrFacilityTypeAttribute.classによって指定された分野における施設管理情報。 災害リスク（浸水）の場合は本関連役割は使用しない。
uro:wtrFacilityIdAttribute [WaterBody]	uro:FacilityIdAttribute [0..1]	uro:wtrFacilityTypeAttribute.classによって指定された分野における施設の識別情報。 災害リスク（浸水）の場合は本関連役割は使用しない。
uro:wtrFacilityTypeAttribute [WaterBody]	uro:FacilityTypeAttribute [0..*]	特定分野における施設の分類情報。 災害リスク（浸水）の場合は本関連役割は使用しない。
uro:wtrKeyValuePairAttribute [WaterBody]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。

4.9.3.2 Urban Object (i-UR)

4.9.3.2.1 uro:RiverFloodingRiskAttribute

表4-314

型の定義	<p>洪水浸水想定区域内に存在する建築物に、浸水想定区域がもつ属性を与えるための属性型。</p> <p>同一の浸水想定区域図において、複数の区域に建築物が跨って存在する場合は、同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、浸水ランクがより危険な区域を採用する）</p> <p>浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する）</p> <p>浸水継続時間は採用した浸水深のメッシュと重なる浸水継続時間のメッシュの浸水継続時間を採用する。複数の浸水継続時間のメッシュが重なる場合は最も大きい浸水継続時間の値を採用する。</p> <p>浸水深の有効桁数は、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第4版）」に従い、浸水深の有効桁数は、小数点以下 3 桁まで登録可能とするが、小数点以下 2 桁でもよいとする。</p> <p>面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。</p>
------	---

<div></div>		
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	<p>使用する下位のデータ型により以下のように定義する。</p> <ul style="list-style-type: none">洪水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。 <ul style="list-style-type: none">津波浸水想定の場合<ul style="list-style-type: none">津波浸水想定 of 属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。高潮浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">高潮浸水想定区域 of 属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。内水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">内水浸水想定区域 of 属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。ため池ハザードマップの場合<ul style="list-style-type: none">ため池ハザードマップ of 属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より

		<p>選択する。都市ごとにコードリストを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（HighTideRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加え</p>

		て定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。
uro:depth [FloodingRiskAttribute]	gml::LengthType [0..1]	浸水の深さ。 津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。 単位はm（uom="m"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:adminType [RiverFloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	洪水予報河川又は水位周知河川を指定した機関の別。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_adminType.xml）より選択する。
uro:scale [RiverFloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	想定最大規模降雨あるいは計画規模降雨のいずれにより作成されたかの区分。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_scale.xml）より選択する。
uro:duration [RiverFloodingRiskAttribute]	gml::MeasureType [0..1]	浸水が継続する時間。単位は時間（uom="hour"）とする。

4.9.3.2.2 uro:TsunamiRiskAttribute

表4-315

型の定義	津波浸水想定区域内に存在する建築物に、津波浸水想定区域の属性を与えるための属性型。 1回の津波浸水シミュレーションに関して、複数の区域が一棟の建築物に跨って存在する場合は、同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、より危険な区域を採用する） 浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する） 浸水深の有効桁数は、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第4版）」に従い、浸水深の有効桁数は、小数点以下3桁まで登録可能とするが、小数点以下2桁でもよいとする。 面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。	
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	使用する下位のデータ型により以下のように定義する。 ・洪水浸水想定区域の場合 －指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列

		<p>挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（<code>TsunamiRiskAttribute_description.xml</code>）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（<code>HighTideRiskAttribute_description.xml</code>）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（<code>InlandFloodingRiskAttribute_description.xml</code>）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（<code>ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml</code>）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（<code>LandSlideRiskAttribute_description.xml</code>）より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（<code>RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml</code>）より選択する。 ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（<code>TsunamiRiskAttribute_rank.xml</code>）より選択する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（<code>HighTideRiskAttribute_rank.xml</code>）より選択する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（<code>InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml</code>）より選択する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（<code>ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml</code>）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>

uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:depth [FloodingRiskAttribute]	gml::LengthType [0..1]	<p>浸水の深さ。</p> <p>津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。</p> <p>単位はm（uom="m"）とする。</p>

4.9.3.2.3 uro:HighTideRiskAttribute

表4-316

型の定義	<p>高潮浸水想定区域に存在する建築物に、高潮浸水想定区域の属性に与えるための属性型。</p> <p>一回の高潮浸水シミュレーションに関して、複数の区域が一棟の建築物に跨って存在する場合は同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、浸水ランクがより危険な区域を採用する）</p> <p>浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する）</p> <p>浸水深の有効桁数は、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第4版）」に従い、浸水深の有効桁数は、小数点以下3桁まで登録可能とするが、小数点以下2桁でもよいとする。</p> <p>面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。</p>
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute
ステレオタイプ	<< DataType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	<p>使用する下位のデータ型により以下のように定義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> 指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> 内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 高潮浸水想定区域の場合

		<ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（HighTideRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:depth [FloodingRiskAttribute]	gml::LengthType [0..1]	<p>浸水の深さ。</p> <p>津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。</p> <p>単位はm（uom="m"）とする。</p>

4.9.3.2.4 uro:InlandFloodingRiskAttribute

表4-317

型の定義	内水浸水想定区域に存在する建築物に、内水浸水想定区域の属性を与えるための属性型。
------	--

	1回の内水浸水シミュレーションに関して、複数の区域が一棟の建築物に跨って存在する場合は、同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、浸水ランクがより危険な区域を採用する） 浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する） 浸水深の有効桁数は、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第4版）」に従い、浸水深の有効桁数は、小数点以下 3 桁まで登録可能とするが、小数点以下 2 桁でもよいとする。 面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。	
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	使用する下位のデータ型により以下のように定義する。 <ul style="list-style-type: none">・洪水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">－ 指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。・津波浸水想定の場合<ul style="list-style-type: none">－ 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。・高潮浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">－ 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。・内水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">－ 内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。・ため池ハザードマップの場合<ul style="list-style-type: none">－ ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。・土砂災害警戒区域の場合

		<ul style="list-style-type: none"> 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（HighTideRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:depth	gml:LengthType [0..1]	浸水の深さ。

[FloodingRiskAttribute]	津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。 単位はm (uom="m") とする。
---------------------------	--

4.9.3.2.5 uro:ReservoirFloodingRiskAttribute

表4-318

型の定義	ため池ハザードマップに存在する建築物に、ため池ハザードマップの属性を与えるための属性型。 「ため池ハザードマップ」とは、ため池が決壊する恐れのある場合又は決壊した場合に迅速かつ安全に非難するための参考資料である。 〔出典：「ため池ハザードマップ作成の手引き」農林水産省農村振興局防災課、2013年5月〕 複数の区域が一棟の建築物に跨って存在する場合は、同一浸水ランクを持つ浸水ランクのメッシュを一つの区域とし、その区域と建築物が重なる面積が最も大きい浸水ランクの値を採用する。（面積が等しい場合は、より浸水ランクの危険な区域を採用する） 浸水深は採用した浸水ランクを持つ浸水深のメッシュのうち、建築物と重なる面積が最も大きいメッシュの浸水深を採用する。（同じ浸水深を持つメッシュは面積算出の際に合算する） 面積の有効桁数は、小数点2桁（3桁目で四捨五入）とする。	
上位の型	uro:FloodingRiskAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	使用する下位のデータ型により以下のように定義する。 ・洪水浸水想定区域の場合 － 指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。 ・津波浸水想定の場合 － 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・高潮浸水想定区域の場合 － 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（

		<p>HighTideRiskAttribute_description.xml) より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 内水浸水想定区域の属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト (InlandFloodingRiskAttribute_description.xml) より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － ため池ハザードマップの属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト (ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml) より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 発生が想定されている災害の種類。コードリスト (LandSlideRiskAttribute_description.xml) より選択する。
uro:rank [FloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ・津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (TsunamiRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ・高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (HighTideRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ・内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 ・ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml) より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:rankOrg [FloodingRiskAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>市町村等が独自に設定した浸水深（津波浸水想定の場合は「水位」）に応じた区分。uro:rank又はuro:rankOrgのいずれか一つをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (RiverFloodingRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 ・津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (TsunamiRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 ・高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － コードリスト (HighTideRiskAttribute_rankOrg.xml) より選択する。 ・内水浸水想定区域の場合

		<ul style="list-style-type: none"> コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_rank Org.xml）より選択する。 ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_rank Org.xml）より選択する。 <p>なお、津波浸水想定の場合の水位は、「津波基準水位」がある場合はこれを採用し、ない場合は「津波浸水想定に定める水深に係る水位」とする。「津波基準水位」とは、「津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇（せき上げ）を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位」（『津波浸水想定の設定の手引き』参照）である。</p>
uro:depth [FloodingRiskAttribute]	gml::LengthType [0..1]	<p>浸水の深さ。</p> <p>津波浸水想定、高潮浸水想定、内水浸水想定区域及びため池ハザードマップの場合は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。</p> <p>単位はm（uom="m"）とする。</p>

4.9.3.2.6 uro:LandSlideRiskAttribute

表4-319

型の定義	土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に存在する構造物に、いずれの区域に含まれているかを属性として付与する。 一つの都市オブジェクトに、複数の「区域区分」が重なっている場合は、以下の優先順位に基づき、最も優先順位の高い区域区分のみを付与する。 区域区分の優先順位は優先順位の高いほうから、 <ul style="list-style-type: none">・ 土砂災害特別警戒区域（指定済）・ 土砂災害警戒区域（指定済）・ 土砂災害特別警戒区域（指定前）・ 土砂災害警戒区域（指定前） とする。 なお、一つの建築物に、複数の「現象区分」が重なっている場合は、それぞれを土砂災害リスク属性として記述する。	
上位の型	uro:DisasterRiskAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:description [DisasterRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	使用する下位のデータ型により以下のように定義する。 <ul style="list-style-type: none">・ 洪水浸水想定区域の場合<ul style="list-style-type: none">－ 指定河川の名称。コードリスト（RiverFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 指定河川の名称には、水防法に基づき指定された洪水浸水想定区域図の対象となる洪水予報河川又は水位周知河川として示された、「水系名」及び「指定河川名」を用いることを基本とする。 一つの浸水想定区域図に複数の洪水予報河川又は水位周知河川が含まれている場合は、「指定河川名」を列挙する。指定河川名を列挙する場合の区切り文字は「・」（全角中点）を使用する。また、都道府県が独自に作

		<p>成している浸水の区域図は、当該浸水想定区域の名称から、対象となる区域を指す名称を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波浸水想定の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 津波浸水想定属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（TsunamiRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 高潮浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 高潮浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータ集合の名称。コードリスト（HighTideRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 内水浸水想定区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 内水浸水想定区域属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（InlandFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ ため池ハザードマップの場合 <ul style="list-style-type: none"> － ため池ハザードマップ属性を付与する元となる図又はデータの名称。コードリスト（ReservoirFloodingRiskAttribute_description.xml）より選択する。都市ごとにコードリストを作成する。 ・ 土砂災害警戒区域の場合 <ul style="list-style-type: none"> － 発生が想定されている災害の種類。コードリスト（LandSlideRiskAttribute_description.xml）より選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:areaType [LandSlideRiskAttribute]	gml::CodeType [1..1]	土砂災害警戒区域に含まれているのか、否かの区分。 コードリスト（ LandSlideRiskAttribute_areaType.xml）より選択する。

4.9.3.2.7 uro:KeyValuePairAttribute

表4-320

型の定義	都市オブジェクトに付与する追加情報。都市オブジェクトが継承する属性及び都市オブジェクトに定義された属性以外にコード型の属性を追加したい場合に使用する。 属性名称と属性の値の対で構成される。コード値以外の属性を追加する場合は、gen:_GenericAttributeを使用すること。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:key [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張する属性の名称。名称は、コードリスト（KeyValuePairAttribute_key.xml）を作成し、選択する。
uro:codeValue [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張された属性の値。名称は、コードリスト（KeyValuePairAttribute_key[key].xml）を作成し、選択する。 [key]は、属性uro:keyの値に一致する。

表4-321

型の定義	都市オブジェクトの品質を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:geometrySrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [1..*]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:geometrySrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれ

		ているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。))。
uro:geometrySrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択する。拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること(例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。))。</p>
uro:thematicSrcDesc [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>主題属性の作成に使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>主題属性が作成対象となっている場合は必須とする。</p>
uro:appearanceSrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD0の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD2の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD3の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト (DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml) より選択する。</p>

		<p>拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:lodType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>幾何オブジェクトに適用されたLODの詳細な区分。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の場合 コードリスト（ Building_lodType.xml）より選択する。 LOD2以上の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 道路、徒歩道又は広場の場合 コードリスト（ Road_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 鉄道の場合 コードリスト（ Railway_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ LODの細分が定義されていない地物型の場合 この属性を使用しない。
uro:lod1HeightType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	<p>LOD1の立体図形を作成する際に使用した高さの算出方法。コードリスト（DataQualityAttribute_lod1Height-Type.xml）より選択する。立体の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。</p>
uro:tranDataAcquisition [DataQualityAttribute]	xs:string [0..1]	<p>道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）（平成27年5月）に定める「取得レベル(level)」を記述するための属性。 道路の場合にのみ使用する。</p>
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:publicSurveyDataQualityAttribute [DataQualityAttribute]	uro:PublicSurveyDataQualityAttribute [0..1]	<p>使用した公共測量成果の地図情報レベルと種類。各LODの幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性（uro:geometrySrcDescLod0等）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）となっている場合は、必須とする。</p>

4.9.3.3 Urban Function (i-UR)

4.9.3.3.1 urf:SedimentDisasterProneArea

表4-322

型の定義	土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（土砂災害防止法）により指定された、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域。 ・ 属性urf:functionは、標準製品仕様書では使用しない。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf.validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト (Common_valid-Type.xml) より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf.disasterType [SedimentDisasterProne Area]	gml::CodeType [1..1]	土砂災害警戒区域で起こりうる災害の内容。コードリスト (LandSlideRiskAttribute_description.xml) より選択する。

urf:areaType [SedimentDisasterProne Area]	gml:CodeType [1..1]	土砂災害警戒区域に含まれているのか、土砂災害特別警戒区域に含まれているのかの区分。コードリスト (LandSlideRiskAttribute_areaType.xml) より選択する。
urf:zoneNumber [SedimentDisasterProne Area]	xs:string [1..1]	土砂災害警戒区域を識別する番号。
urf:zoneName [SedimentDisasterProne Area]	xs:string [1..1]	土砂災害警戒区域の名称。
urf:status [SedimentDisasterProne Area]	gml:CodeType [0..1]	土砂災害警戒区域（イエローゾーン）のみ公示を行っているが、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）の調査・公示を行っていないことを示すフラグ。コードリスト (LandSlideRiskAttribute_status.xml) より選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.9.4 災害リスクモデルで使用するコードリストと列挙型

4.9.4.1 WaterBody（CityGML）

4.9.4.1.1 WaterBody_class.xml

表4-323

ファイル名	WaterBody_class.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/WaterBody_class.xml
コード	説明
1000	sea（海）
1010	tidal waterbody（潮汐水域）
1020	watercourse（水路）
1030	river / stream（河川/小川）
1060	lake / pond（湖）
1090	waterfall（滝）
1110	swamp（湿地、沼地）
1140	flooded land（浸水域）
1190	reservior（貯水池）
9999	unknown（不明）

4.9.4.1.2 WaterBody_function.xml

表4-324

ファイル名	WaterBody_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/WaterBody_function.xml
コード	説明
1	洪水浸水想定区域
2	津波浸水想定
3	高潮浸水想定区域
4	内水浸水想定区域
5	ため池ハザードマップ

4.9.4.2 Urban Object (i-UR)

4.9.4.2.1 RiverFloodingRiskAttribute_adminType.xml

表4-325

ファイル名	RiverFloodingRiskAttribute_adminType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/RiverFloodingRiskAttribute_adminType.xml
コード	説明
1	国
2	都道府県
出典：[26]	

4.9.4.2.2 RiverFloodingRiskAttribute_scale.xml

表4-326

ファイル名	RiverFloodingRiskAttribute_scale.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/RiverFloodingRiskAttribute_scale.xml
コード	説明
1	L1（計画規模）
2	L2（想定最大規模）
出典：[26]	

4.9.4.2.3 RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml

表4-327

ファイル名	RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml
コード	説明
1	0.5m未満

ファイル名	RiverFloodingRiskAttribute_rank.xml
-------	-------------------------------------

2	0.5m以上3m未満
3	3m以上5m未満
4	5m以上10m未満
5	10m以上20m未満
6	20m以上
出典：[26]	

4.9.4.2.4 TsunamiRiskAttribute_rank.xml

表4-328

ファイル名	TsunamiRiskAttribute_rank.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TsunamiRiskAttribute_rank.xml
コード	説明
1	0.5m未満
2	0.5m以上3m未満
3	3m以上5m未満
4	5m以上10m未満
5	10m以上20m未満
6	20m以上
出典：[25]	

4.9.4.2.5 HighTideRiskAttribute_rank.xml

表4-329

ファイル名	HighTideRiskAttribute_rank.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/HighTideRiskAttribute_rank.xml
コード	説明
1	0.5m未満
2	0.5m以上3m未満
3	3m以上5m未満
4	5m以上10m未満
5	10m以上20m未満
6	20m以上
出典：[36]	

4.9.4.2.6 InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml

表4-330

ファイル名	InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml
コード	説明
1	0.5m未満

ファイル名	InlandFloodingRiskAttribute_rank.xml
2	0.5m以上3m未満
3	3m以上5m未満
4	5m以上10m未満
5	10m以上20m未満
6	20m以上
出典：[15]	

4.9.4.2.7 ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml

表4-331

ファイル名	ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ReservoirFloodingRiskAttribute_rank.xml
コード	説明
1	0.5m未満
2	0.5m以上1m未満
3	1m以上2m未満
4	2m以上3m未満
5	3m以上5m未満
6	5m以上
出典：[9]	

4.9.4.3 Urban Function (i-UR)

4.9.4.3.1 LandSlideRiskAttribute_description.xml

表4-332

ファイル名	LandSlideRiskAttribute_description.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/LandSlideRiskAttribute_description.xml
コード	説明
1	急傾斜地の崩落
2	土石流
3	地すべり
出典：[17]	

4.9.4.3.2 LandSlideRiskAttribute_areaType.xml

表4-333

ファイル名	LandSlideRiskAttribute_areaType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/LandSlideRiskAttribute_areaType.xml
コード	説明
1	土砂災害警戒区域（指定済）
2	土砂災害特別警戒区域（指定済）

ファイル名	LandSlideRiskAttribute_areaType.xml
-------	-------------------------------------

3	土砂災害警戒区域（指定前）
4	土砂災害特別警戒区域（指定前）
出典：[17]	

4.9.4.3.3 LandSlideRiskAttribute_status.xml

表4-334

ファイル名	LandSlideRiskAttribute_status.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/LandSlideRiskAttribute_status.xml
コード	説明
0	特別警戒区域指定済み
1	特別警戒区域未指定

4.9.4.3.4 DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-335

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
101	（公共測量又は基本測量ではない）現地測量の測量成果
102	（公共測量又は基本測量ではない）UAV写真測量の測量成果
103	（公共測量又は基本測量ではない）空中写真測量の測量成果
104	（公共測量又は基本測量ではない）既成図数値化の測量成果
105	（公共測量又は基本測量ではない）修正測量の測量成果
106	（公共測量又は基本測量ではない）写真地図作成の測量成果
107	（公共測量又は基本測量ではない）地図編集の測量成果
108	（公共測量又は基本測量ではない）地上レーザ測量の測量成果
109	（公共測量又は基本測量ではない）UAV写真点群測量の測量成果
110	（公共測量又は基本測量ではない）UAVレーザ測量の測量成果
111	（公共測量又は基本測量ではない）車載写真レーザ測量の測量成果
112	（公共測量又は基本測量ではない）航空レーザ測量の測量成果
113	（公共測量又は基本測量ではない）航空レーザ測深測量の測量成果
114	（公共測量又は基本測量ではない）路線測量の測量成果
115	（公共測量又は基本測量ではない）河川測量の測量成果
116	（公共測量又は基本測量ではない）用地測量の測量成果
117	（公共測量又は基本測量ではない）その他の応用測量の測量成果
118	（公共測量又は基本測量ではない）LidarSLAM計測の測量成果
119	（公共測量又は基本測量ではない）高密度航空レーザ測量の測量成果
120	（公共測量又は基本測量ではない）写真点群測量の測量成果
121	（公共測量又は基本測量ではない）三次元数値図化の測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
300	台帳

301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
700	その他の資料
801	現地調査
803	GISデータ演算
901	推定
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.9.4.3.5 DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml

表4-336

ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
100	公共測量成果又は基本測量成果ではない測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
600	統計データ
701	建築計画概要書
700	その他の資料
801	現地調査
802	写真判読
803	GISデータ演算
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.9.4.3.6 DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml

表4-337

ファイル名	DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml

ファイル名	DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
コード	説明

1	空中写真
2	衛星写真
3	車載写真レーザ測量システムにより撮影した写真
4	手持ちカメラにより撮影した写真
5	疑似テクスチャ
99	未作成

4.9.4.3.7 RiverFloodingRiskAttribute_description.xml

表4-9-4-3-7

ファイル名	RiverFloodingRiskAttribute_description.xml
コード	説明
1	大和川水系大和川
2	大和川水系坂根川
3	大和川水系信貴川
4	大和川水系実盛川・大門川

4.10 都市計画決定情報モデルの応用スキーマ

都市計画決定情報とは、都市計画図書（計画図及び計画書）に含まれる情報である。
（都市計画法第14条、都市計画法施行規則第9条第2項）

4.10.1 都市計画決定情報モデルのLOD


4.10.1.1 都市計画決定情報モデル（LOD1）

4.10.1.1.1 都市計画決定情報モデル（LOD1）の概要

都市計画決定情報モデル（LOD1）では、都市計画の区域の形状を、面により表現する。

都市計画決定情報モデル（LOD1）の取得イメージを表4-338に示す。

表4-338 都市計画決定情報モデル（LOD1）の取得イメージ

	LOD1
取得例	
説明	<p>区域の境界により囲まれた面を取得する。 高さは0とする。</p>

4.10.1.1.2 都市計画決定情報モデル（LOD1）の定義

表4-339

LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD1	●	Zone を継承する地物型	Multi Surface	都市計画に定める区域	<ul style="list-style-type: none"> 区域の境界に囲まれた面を取得する。 高さは0とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画の区域は、Zone を継承するクラスを用
LOD		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
						いて記述する。
記号説明 ● : 必須 ■ : 条件付必須 ○ : 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.10.1.2 各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性

都市計画決定情報モデルの各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性を表4-340に示す。

表4-340 — 都市計画決定情報モデルの記述に使用する地物型と空間属性

地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	適用
urf:Zoneを継承する 地物型			●			都市計画の区域は、urf:Zoneを継承するクラス を用いて記述する。
	urf:lod1MultiSur- face		●			
記号説明						
● ： 必須						
■ ： 条件付必須						
○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.10.2 都市計画決定情報モデルの応用スキーマクラス図

4.10.2.1 都市計画の区域とクラスとの対応

表4-341

都市計画の区域	対応するクラス	クラス図
都市計画区域	urf:UrbanPlanningArea	4.10.2.3
準都市計画区域	urf:QuasiUrbanPlanningArea	
区域区分	urf:AreaClassification	4.10.2.4
地域地区	urf:DistrictsAndZones	4.10.2.5
用途地域	urf:UseDistrict	
特別用途地区	urf:SpecialUseDistrict	
特定用途制限地域	urf:SpecialUseRestrictionDistrict	
特例容積率適用地区	urf:ExceptionalFloorAreaRateDistrict	
高層住居誘導地区	urf:HighRiseResidentialAttractionDistrict	

高度地区	urf:HeightControlDistrict	
高度利用地区	urf:HighLevelUseDistrict	
特定街区	urf:SpecifiedBlock	
都市再生特別地区	urf:SpecialUrbanRenaissanceDistrict	
居住調整地域	urf:HousingControlArea	
居住環境向上用途誘導地区	urf:ResidentialEnvironmentImprovementDistrict	
特定用途誘導地区	urf:SpecialUseAttractionDistrict	
都市計画の区域	対応するクラス	クラス図
防火地域又は準防火地域	urf:FirePreventionDistrict	
特定防災街区整備地区	urf:SpecifiedDisasterPreventionBlockImprovementZone	
景観地区	urf:LandscapeZone	
風致地区	urf:ScenicDistrict	
駐車場整備地区	urf:ParkingPlaceDevelopmentZone	
臨港地区	urf:PortZone	
歴史的風土特別保存地区	urf:SpecialZoneForPreservationOfHistoricalLandscape	
第一種歴史的風土保存地区 又は第二種歴史的風土保存地区	urf:ZoneForPreservationOfHistoricalLandscape	
緑地保全地域	urf:GreenSpaceConservationDistrict	
特別緑地保全地域	urf:SpecialGreenSpaceConservationDistrict	
緑化地域	urf:TreePlantingDistrict	
流通業務地区	urf:DistributionBusinessZone	
生産緑地地区	urf:ProductiveGreenZone	
伝統的建造物群保存地区	urf:ConservationZoneForClustersOfTraditionalStructures	
航空機騒音障害防止地区 又は航空機騒音障害防止特別地区	urf:AircraftNoiseControlZone urf:AircraftNoiseControlZone	
促進区域	urf:ProjectPromotionArea	4.10.2.6
市街地再開発促進区域	urf:UrbanRedevelopmentPromotionArea	
土地区画整理促進区域	urf:LandReadjustmentPromotionArea	
住宅街区整備促進区域	urf:ResidentialBlockConstructionPromotionArea	
拠点業務市街地整備土地区画整理促進区域	urf:LandReadjustmentPromotionAreasForCoreBusinessUrbanDevelopment	
遊休土地転換利用促進地区	urf:UnusedLandUsePromotionArea	4.10.2.7
被災市街地復興推進地域	urf:UrbanDisasterRecoveryPromotionArea	4.10.2.8
都市施設	urf:UrbanFacility	4.10.2.9
交通施設	urf:TrafficFacility	4.10.2.10
公共空地	urf:OpenSpaceForPublicUse	4.10.2.11
供給施設及び処理施設	urf:SupplyFacility, urf:TreatmentFacility	4.10.2.12
水路	urf:Waterway	4.10.2.13
教育文化施設	urf:EducationalAndCulturalFacility	4.10.2.14

医療施設及び社会福祉施設	urf:MedicalFacility, urf:SocialWelfareFacility	4.10.2.15
市場、と畜場、火葬場	urf:MarketsSlaughterhousesCrematoria	4.10.2.16
一団地の住宅施設	urf:CollectiveHousingFacilities	4.10.2.9
一団地の官公庁施設	urf:CollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities	
流通業務団地	urf:DistributionBusinessPark	
一団地の津波防災拠点市街地形成施設	urf:CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention	
都市計画の区域	対応するクラス	クラス図
一団地の復興再生拠点市街地形成施設	urf:CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization	
一団地の復興拠点市街地形成施設	urf:CollectiveFacilitiesForReconstruction	
一団地の都市安全確保拠点施設	urf:CollectiveUrbanDisasterPreventionFacilities	
政令で定める都市施設	urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
電気通信施設	urf:TelecommunicationFacility	
防風施設	urf:WindProtectionFacility	
防火施設	urf:FireProtectionFacility	
防潮施設	urf:TideFacility	
防水施設	urf:FloodPreventionFacility	
防雪施設	urf:SnowProtectionFacility	
防砂施設	urf:SandControlFacility	
市街地開発事業	urf:UrbanDevelopmentProject	4.10.2.17
土地区画整理事業	urf:LandReadjustmentProject	
新住宅市街地開発事業	urf:NewHousingAndUrbanDevelopmentProject	
工業団地造成事業	urf:IndustrialParkDevelopmentProject	
市街地再開発事業	urf:UrbanRedevelopmentProject	
新都市基盤整備事業	urf:NewUrbanInfrastructureProject	
住宅街区整備事業	urf:ResidentialBlockConstructionProject	
防災街区整備事業	urf:DisasterPreventionBlockImprovementProject	
市街地改造事業	urf:UrbanRenewalProject	
市街地開発事業等の予定区域	urf:ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	4.10.2.18
新住宅市街地開発事業の予定区域	urf:ScheduledAreaForNewHousingAndUrbanDevelopmentProjects	
工業団地造成事業の予定区域	urf:ScheduledAreaForIndustrialParkDevelopmentProjects	
新都市基盤整備事業の予定区域	urf:ScheduledAreaForNewUrbanInfrastructureProjects	
一団地の住宅施設の予定区域	urf:ScheduledAreaForCollectiveHousingFacilities	
一団地の官公庁施設の予定区域	urf:ScheduledAreaForCollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities	

流通業務団地の予定区域	urf:ScheduledAreaForDistributionBusinessPark	
地区計画等		4.10.2.19
地区計画	urf:DistrictPlan	
地区整備計画	urf:DistrictDevelopmentPlan	
地区施設	urf:DistrictFacilityurf:DistrictFacility	
沿道地区計画	urf:RoadsideDistrictPlan	
沿道地区整備計画	urf:RoadsideDistrictImprovementPlan	
沿道地区施設	urf:RoadsideDistrictFacility	
都市計画の区域	対応するクラス	クラス図
集落地区計画	urf:RuralDistrictPlan	
集落地整備計画	urf:RuralDistrictImprovementPlan	
集落施設	urf:RuralDistrictFacility	
歴史的風致維持向上地区計画	urf:HistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrictPlan	
歴史的風致維持向上地区整備計画	urf:DistrictImprovementPlanForHistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrict	
防災街区整備地区計画	urf:DisasterPreventionBlockImprovementZonePlan	
特定建築物地区整備計画	urf:SpecifiedBuildingZoneImprovementPlan	
特定地区防災施設	urf:ZonalDisasterPreventionFacility	
防災街区整備地区整備計画	urf:DistrictImprovementPlanForDisasterPreventionBlockImprovementZonePlan	
地区防災施設	urf:ZonalDisasterPreventionFacility	
立地適正化計画		4.10.2.21
都市機能誘導区域	urf:UrbanFunctionAttractionArea	
居住誘導区域	urf:ResidenceAttractionArea	

4.10.2.2 都市計画決定情報の概要

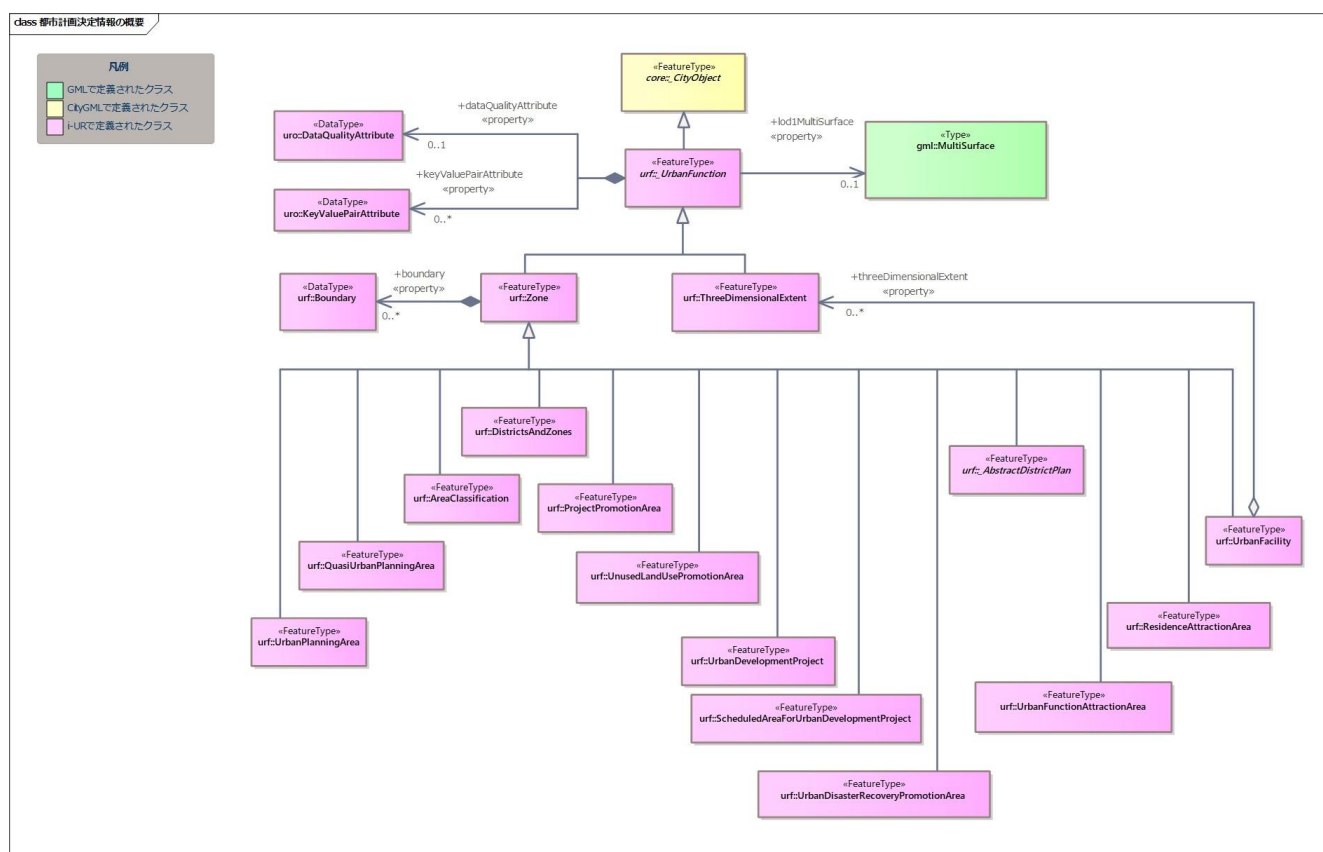


图4-34

4.10.2.3 都市計画区域、準都市計画区域

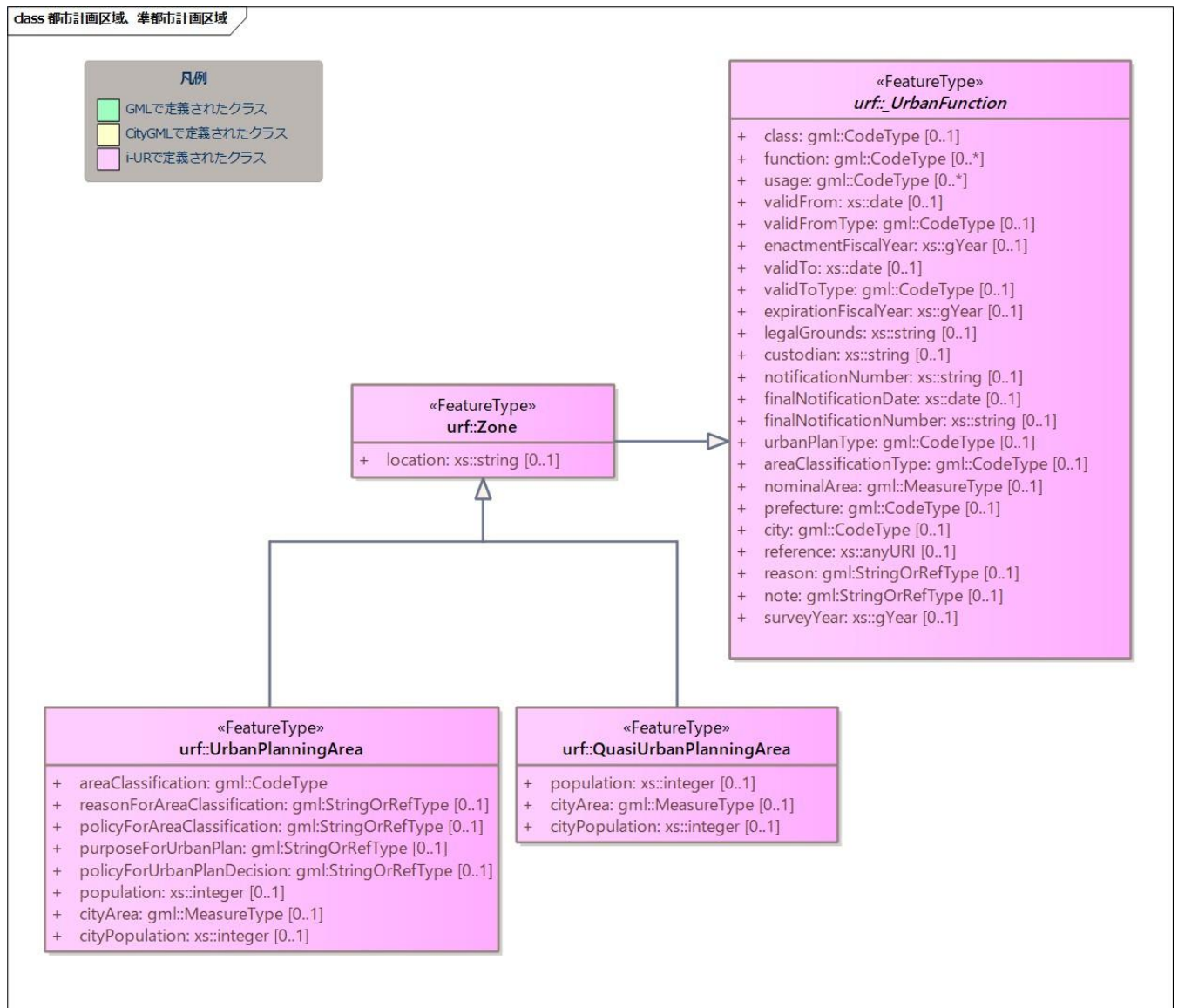


図4-35

4.10.2.4 区域区分

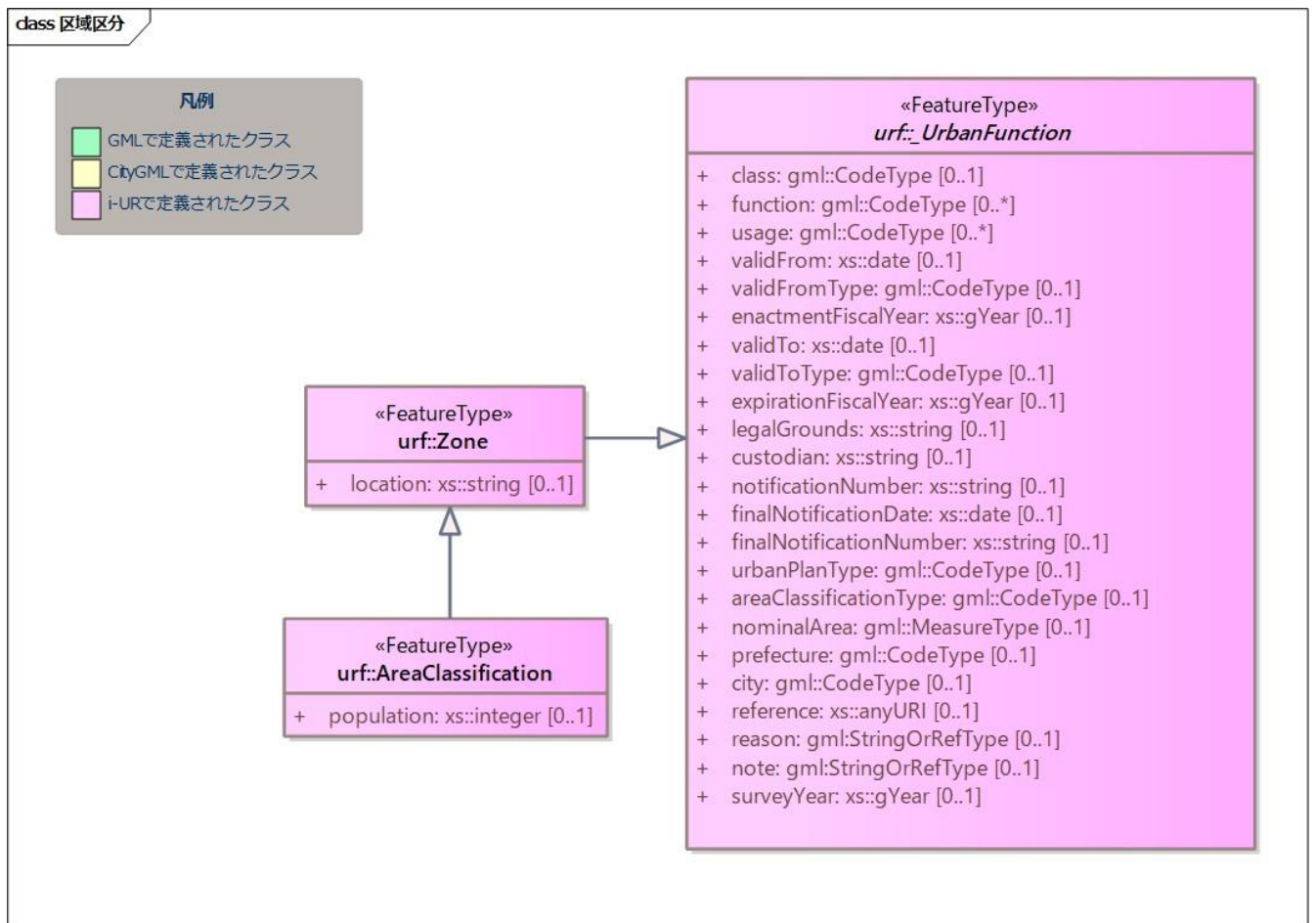
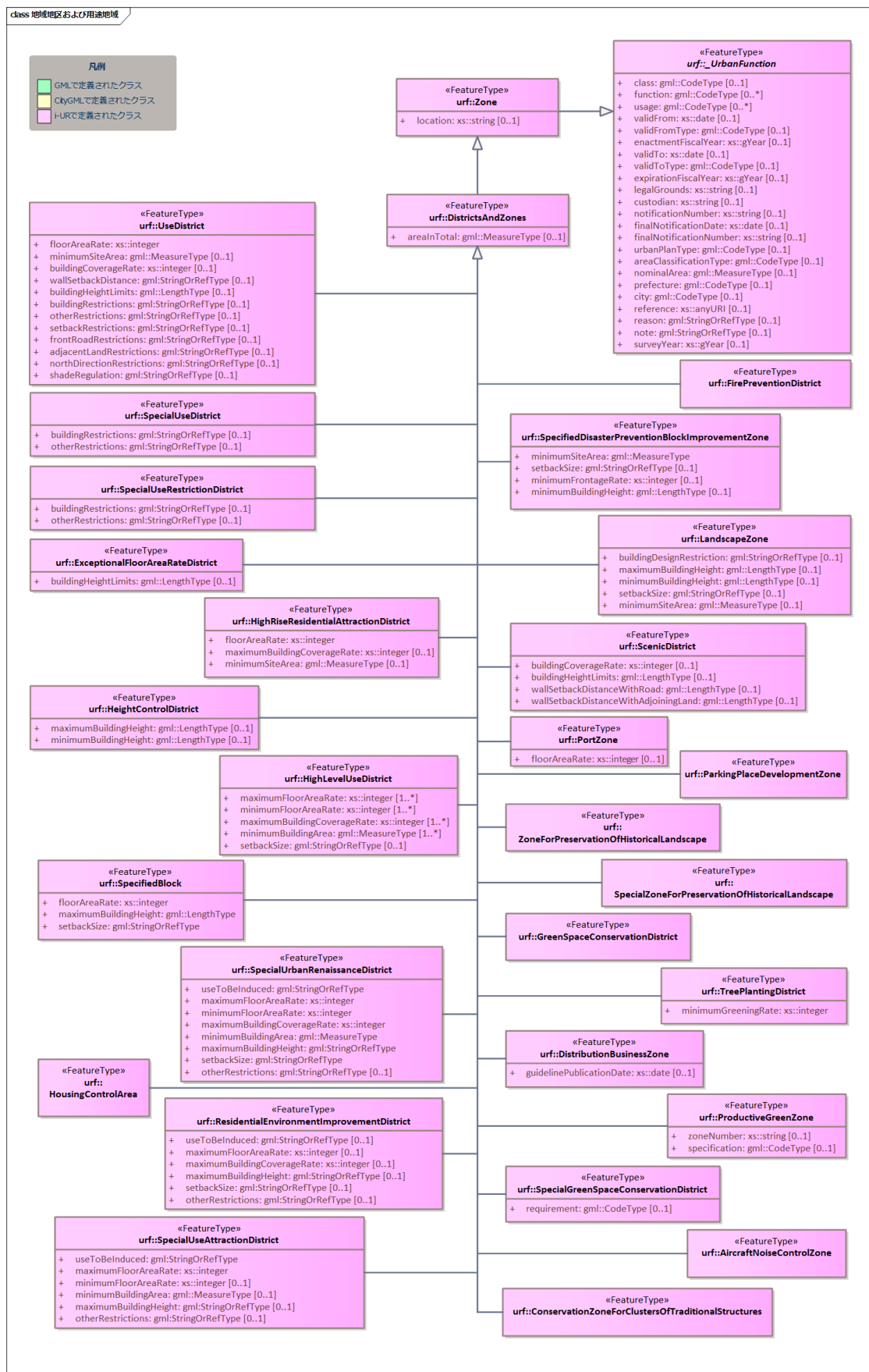


図4-36

4.10.2.5 地域地区及び用途地域



4.10.2.6 促進区域

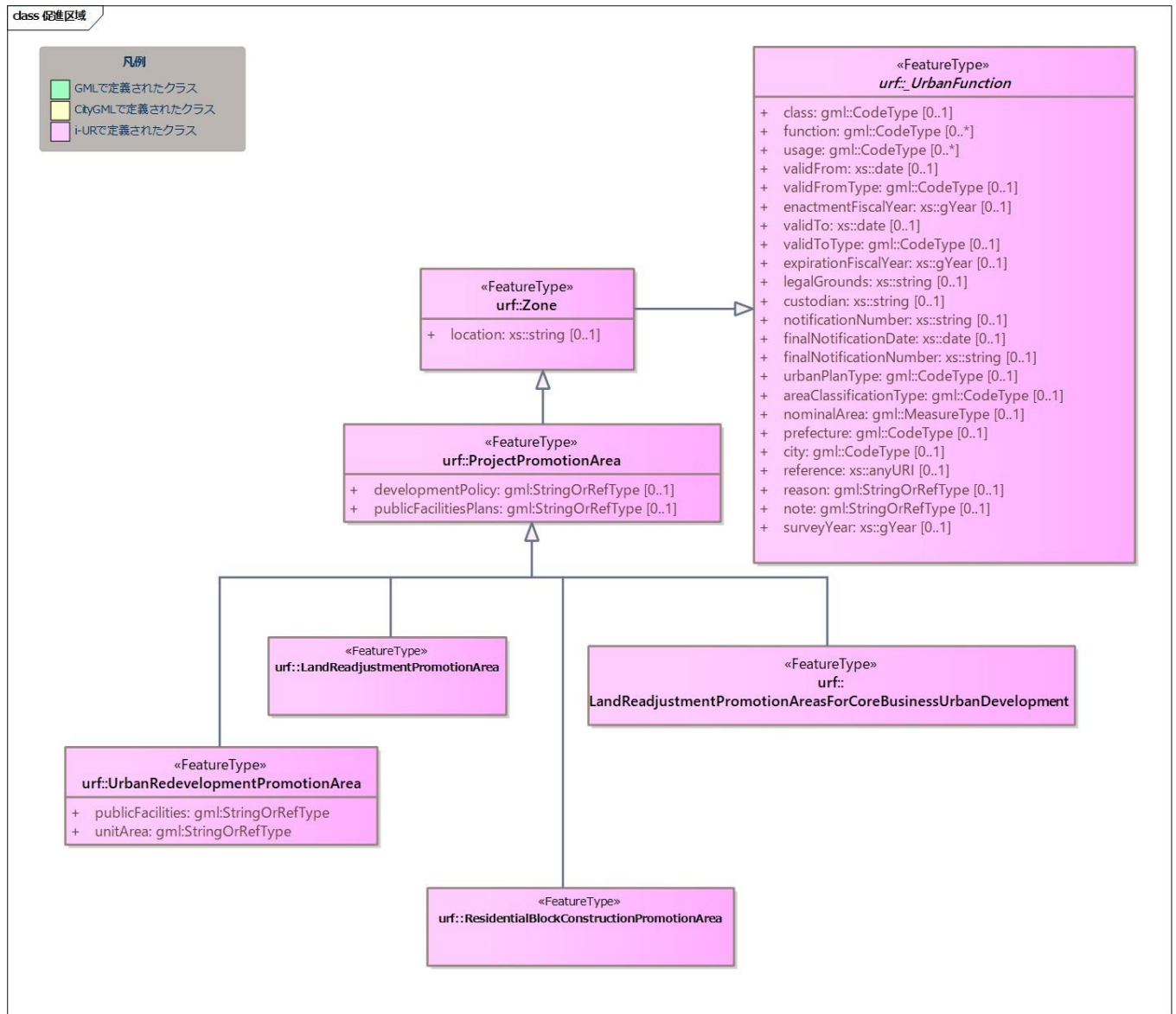


図4-38

4.10.2.7 遊休土地転換利用促進地区

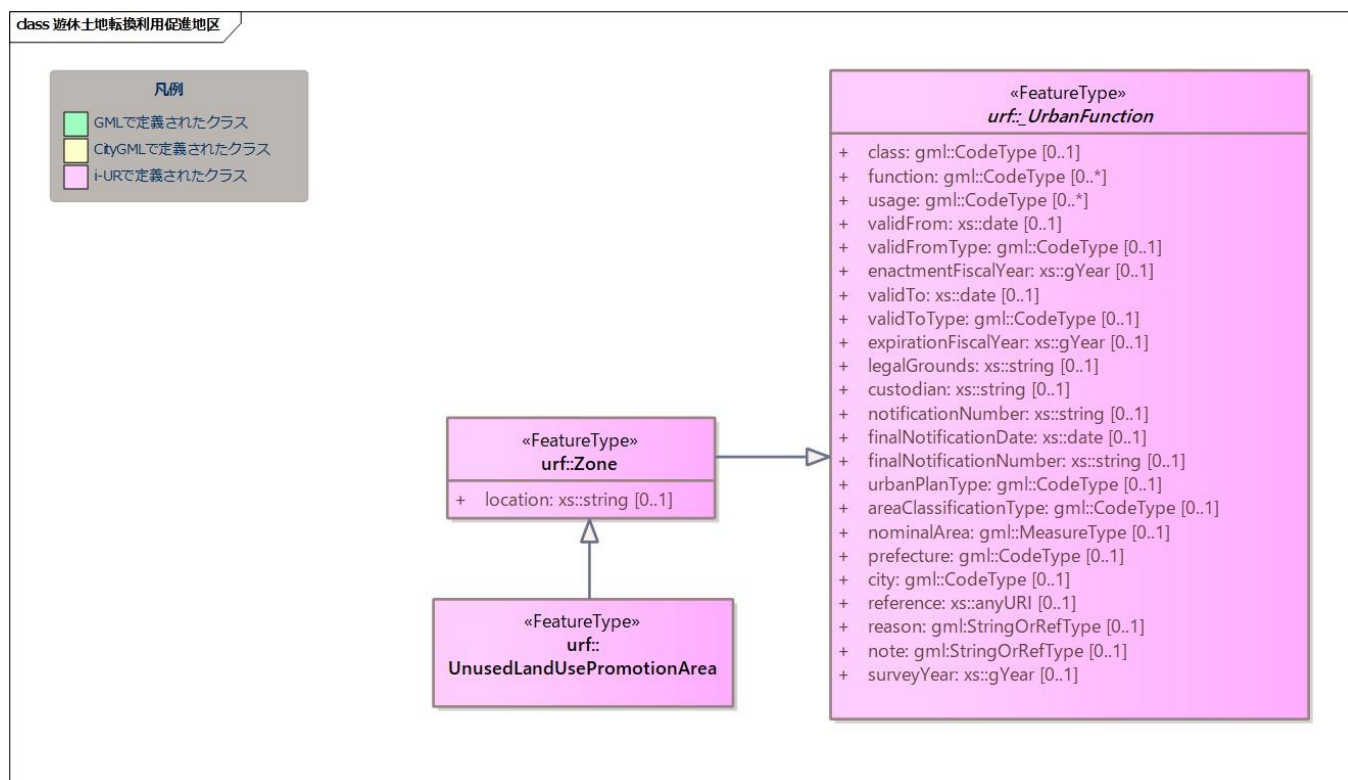


図4-39

4.10.2.8 被災市街地復興推進地域

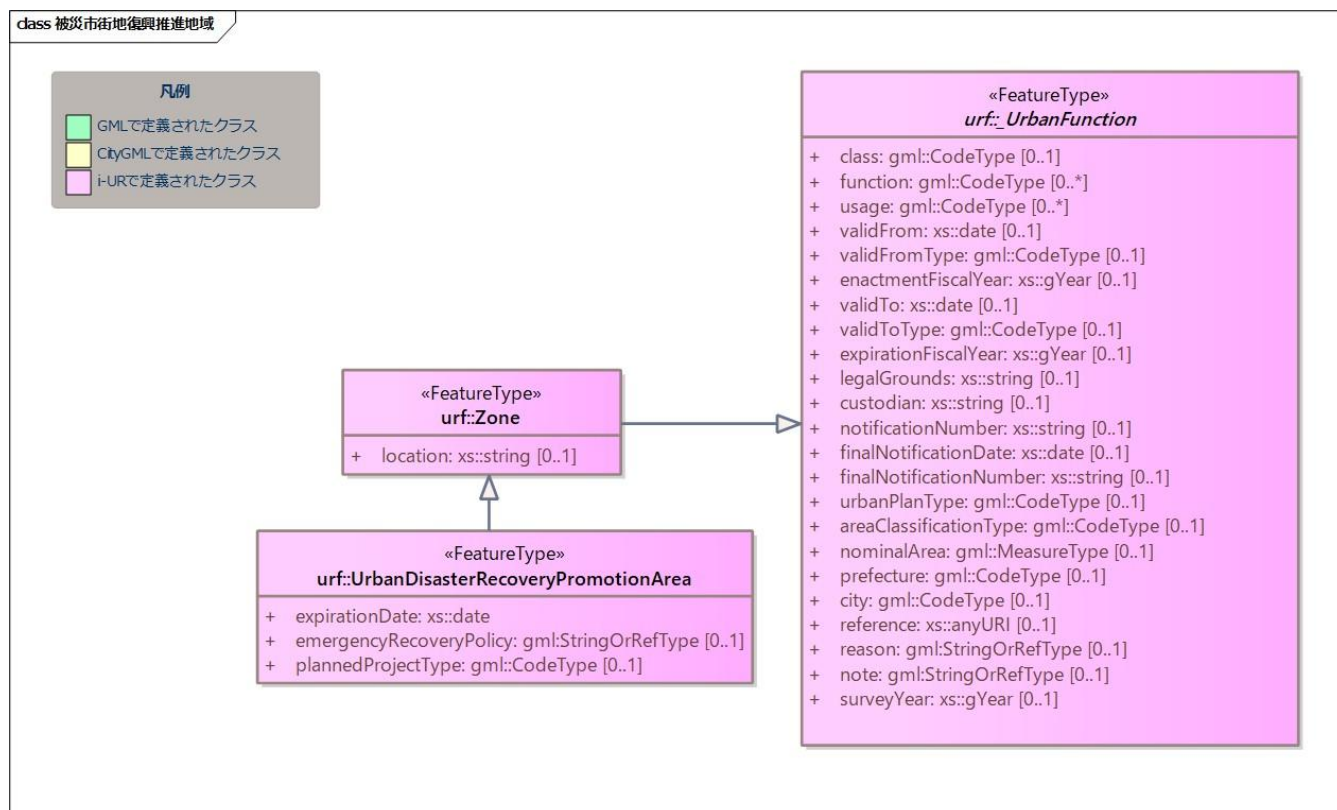
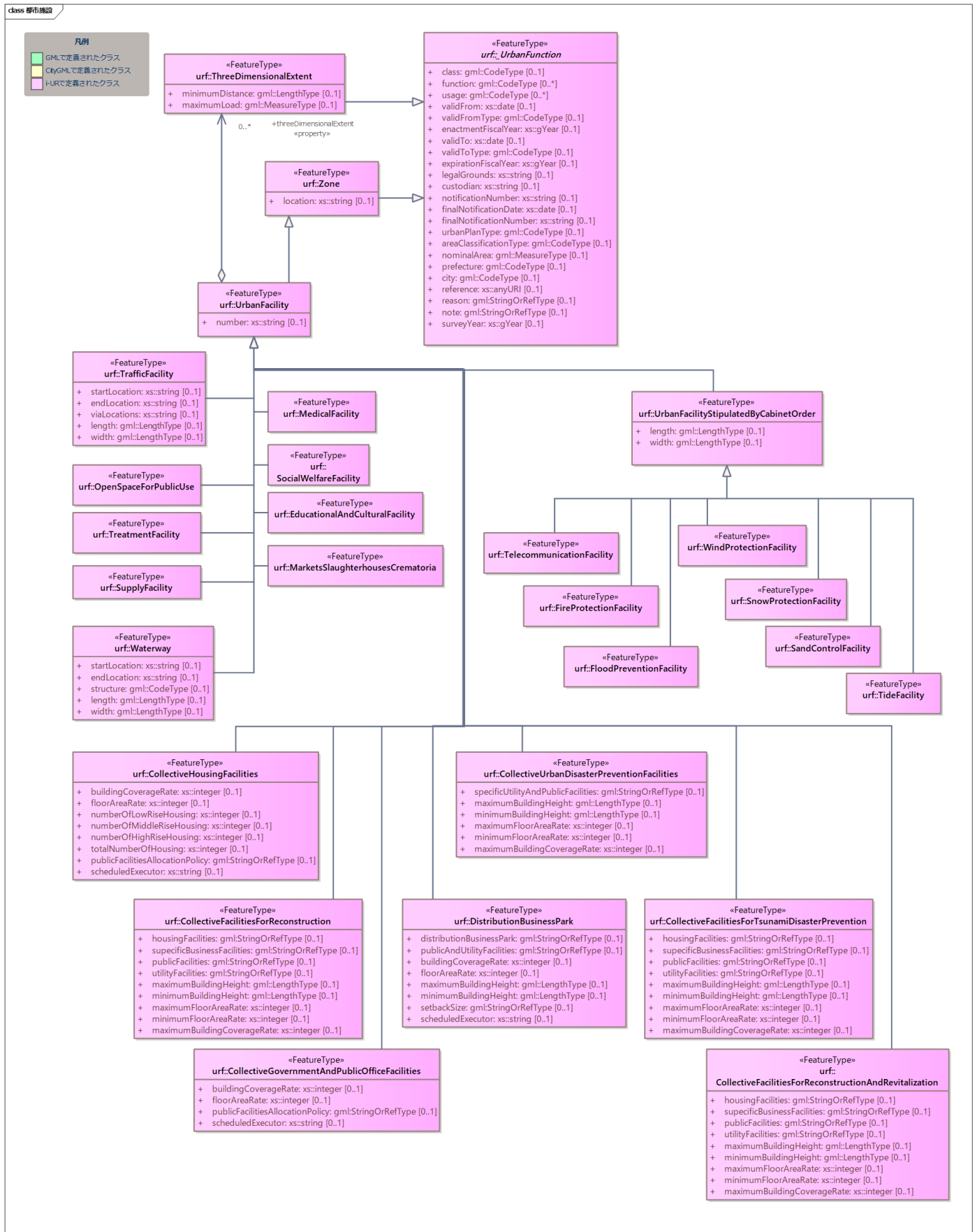


図4-40

4.10.2.9 都市施設



4.10.2.10 交通施設

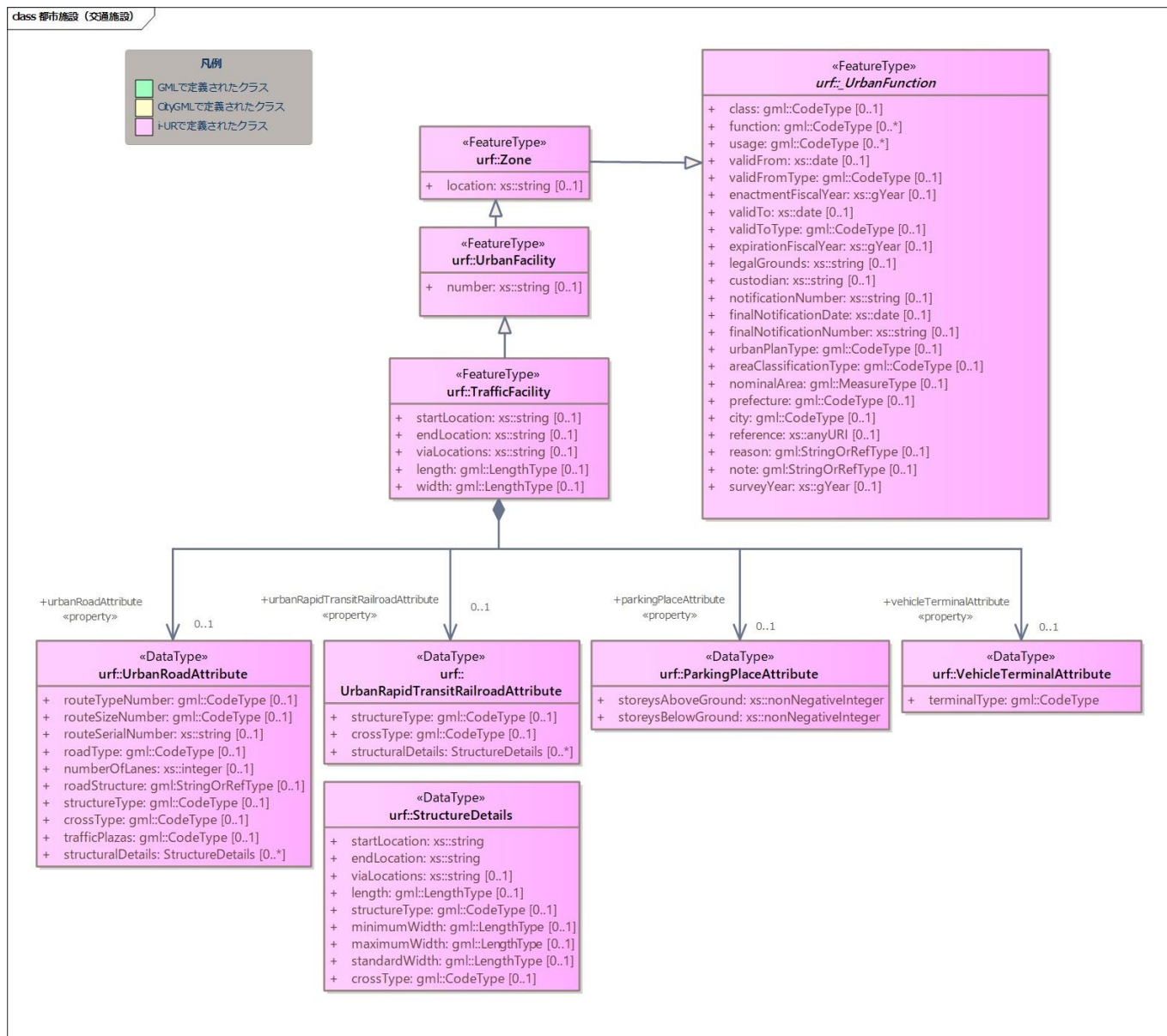


図4-42

4.10.2.11 公共空地

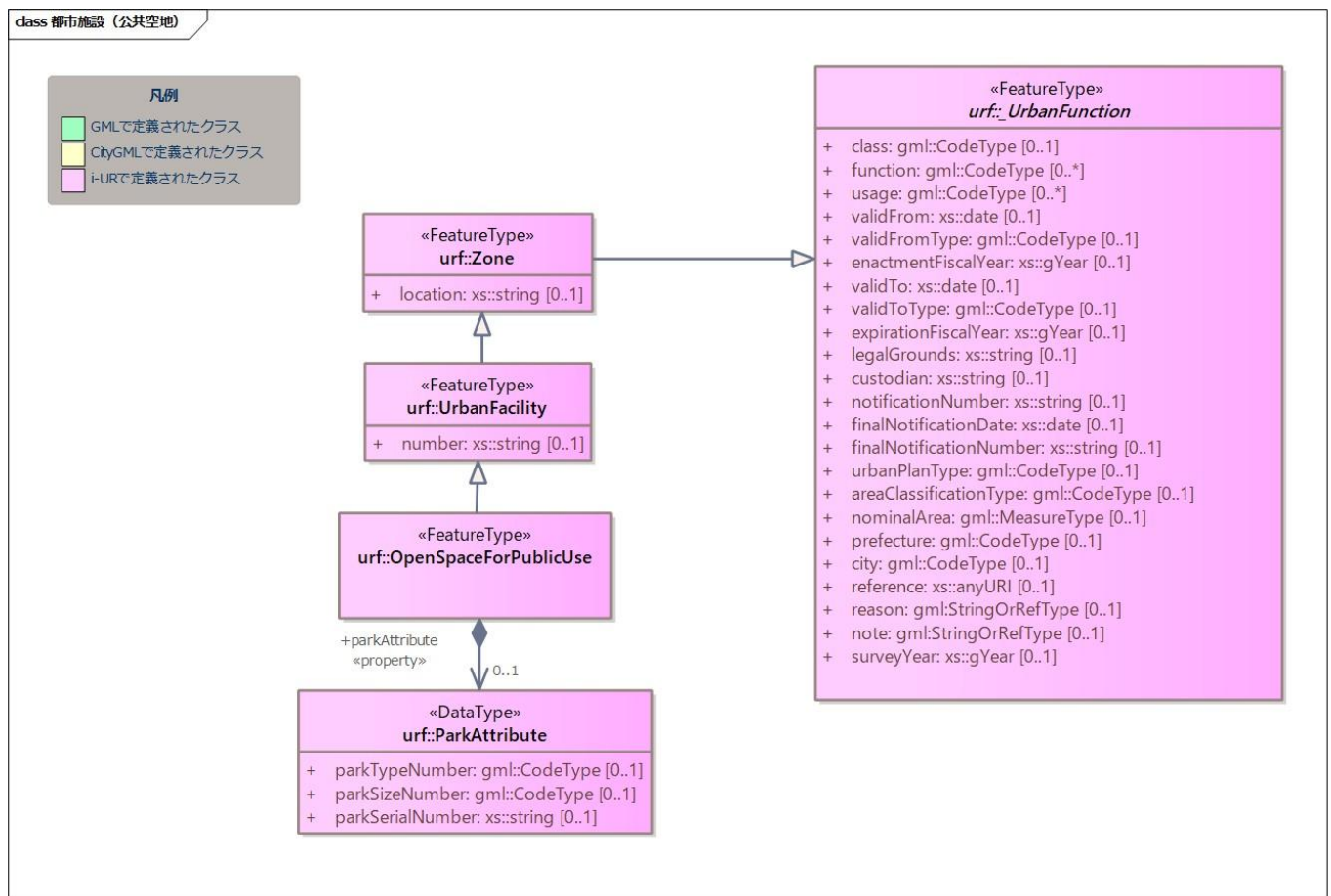


図4-43

4.10.2.12 供給施設及び処理施設

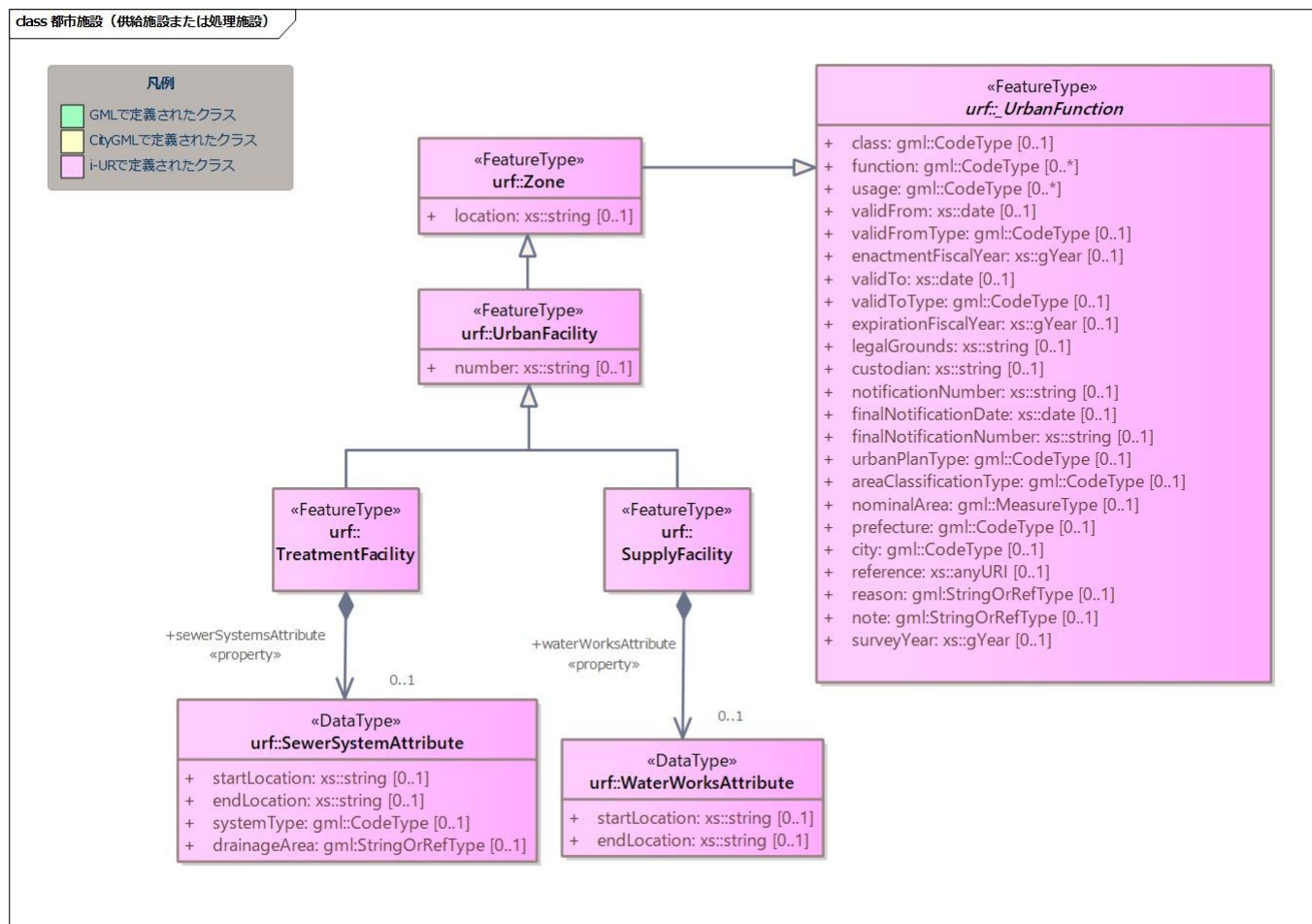


図4-44

4.10.2.13水路

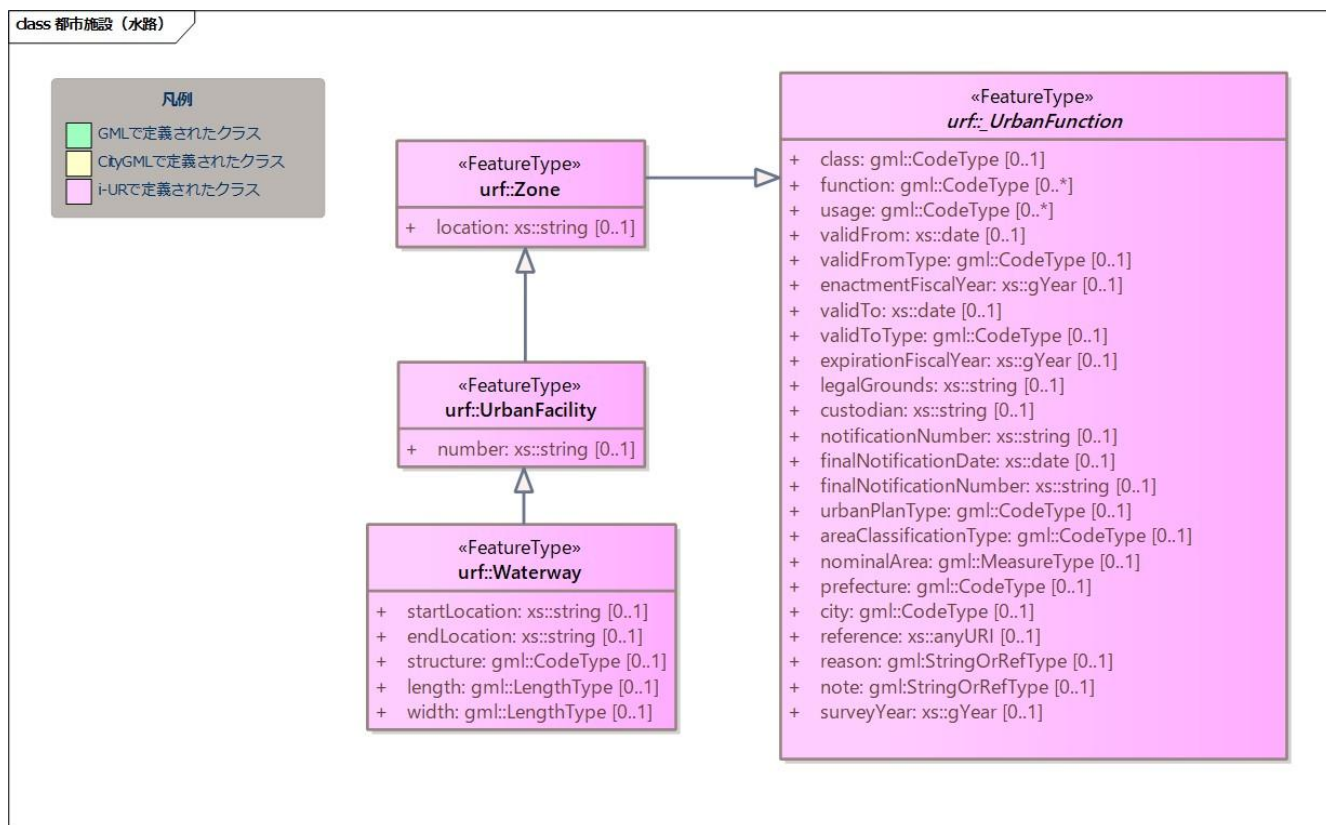


図4-45

4.10.2.14 教育文化施設

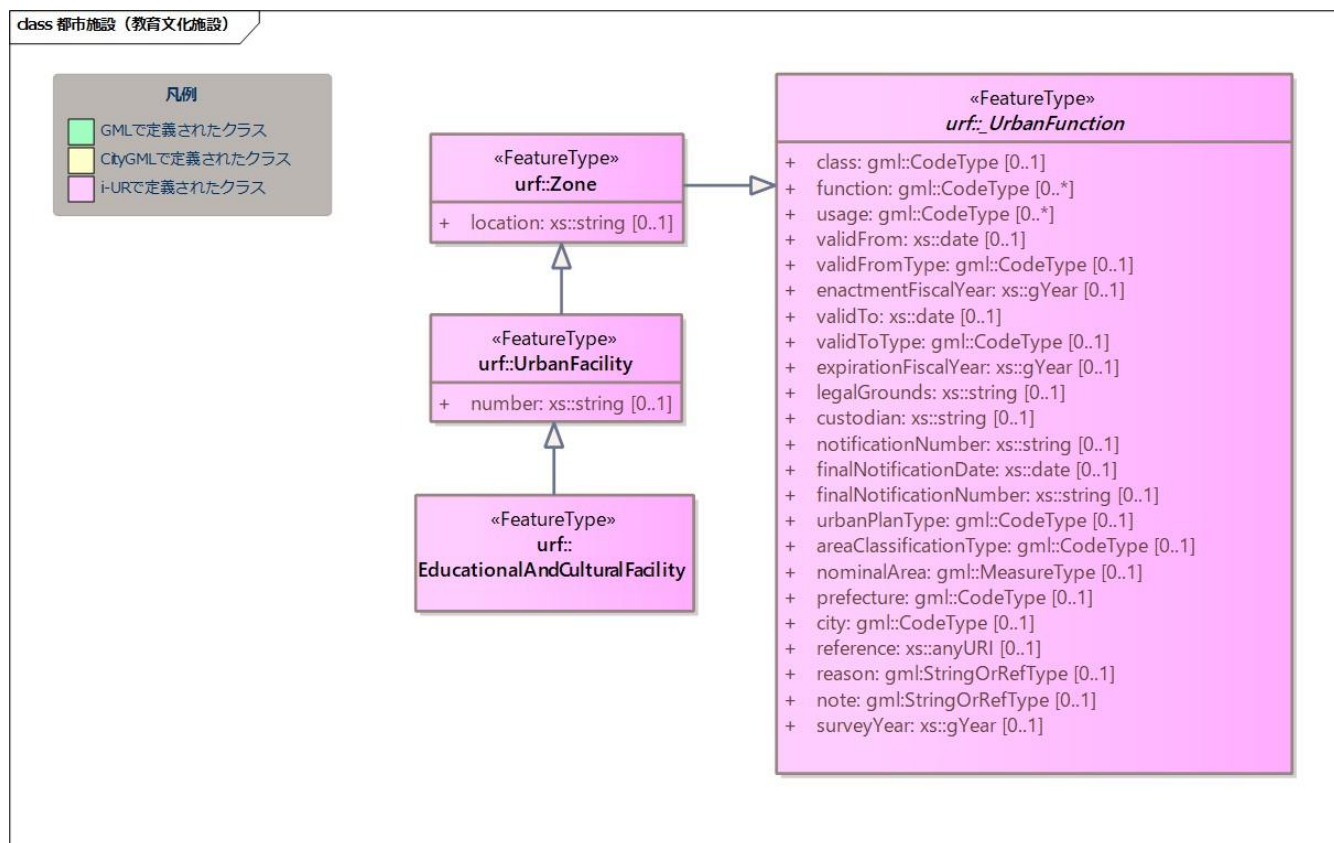


図4-46

4.10.2.15 医療施設及び社会福祉施設

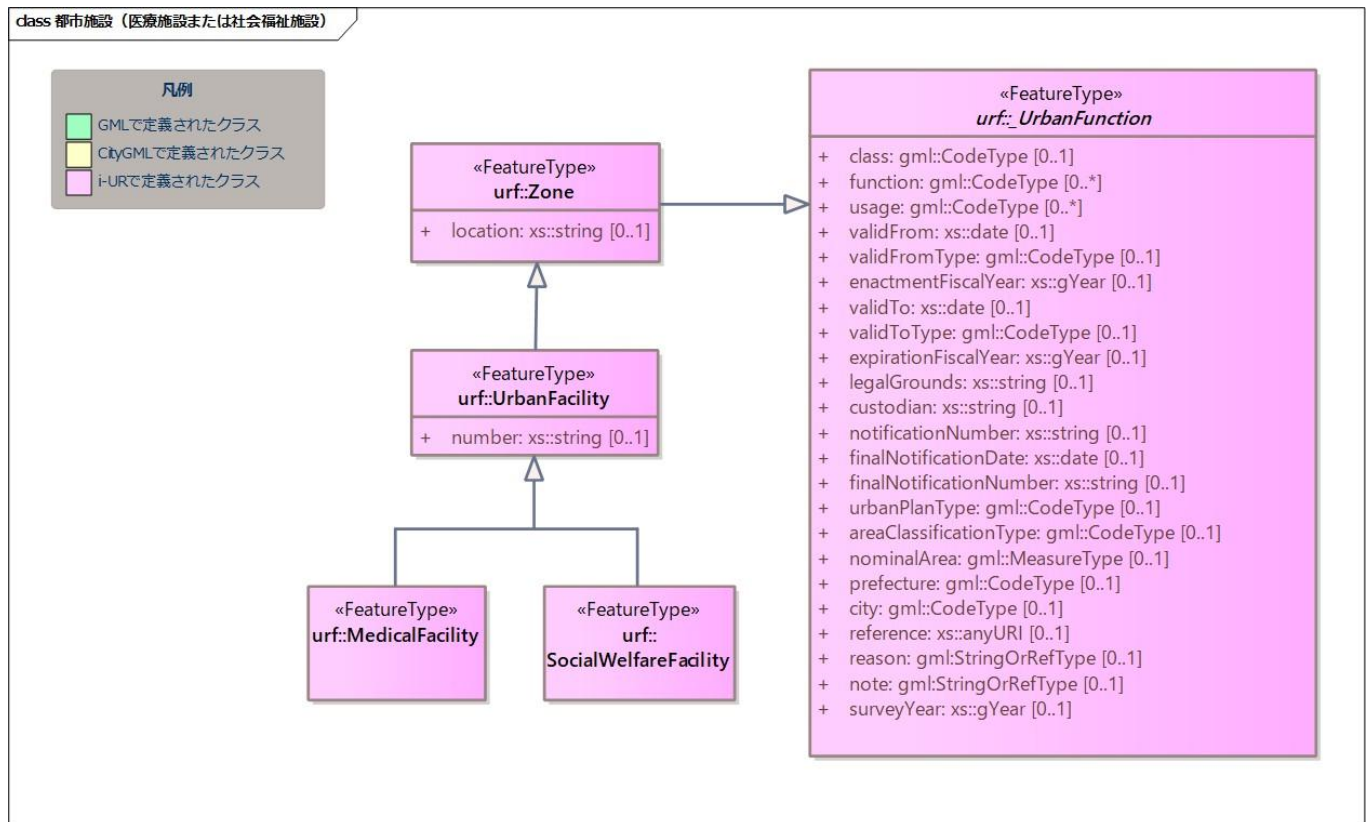


図4-47

4.10.2.16 市場、と畜場、火葬場

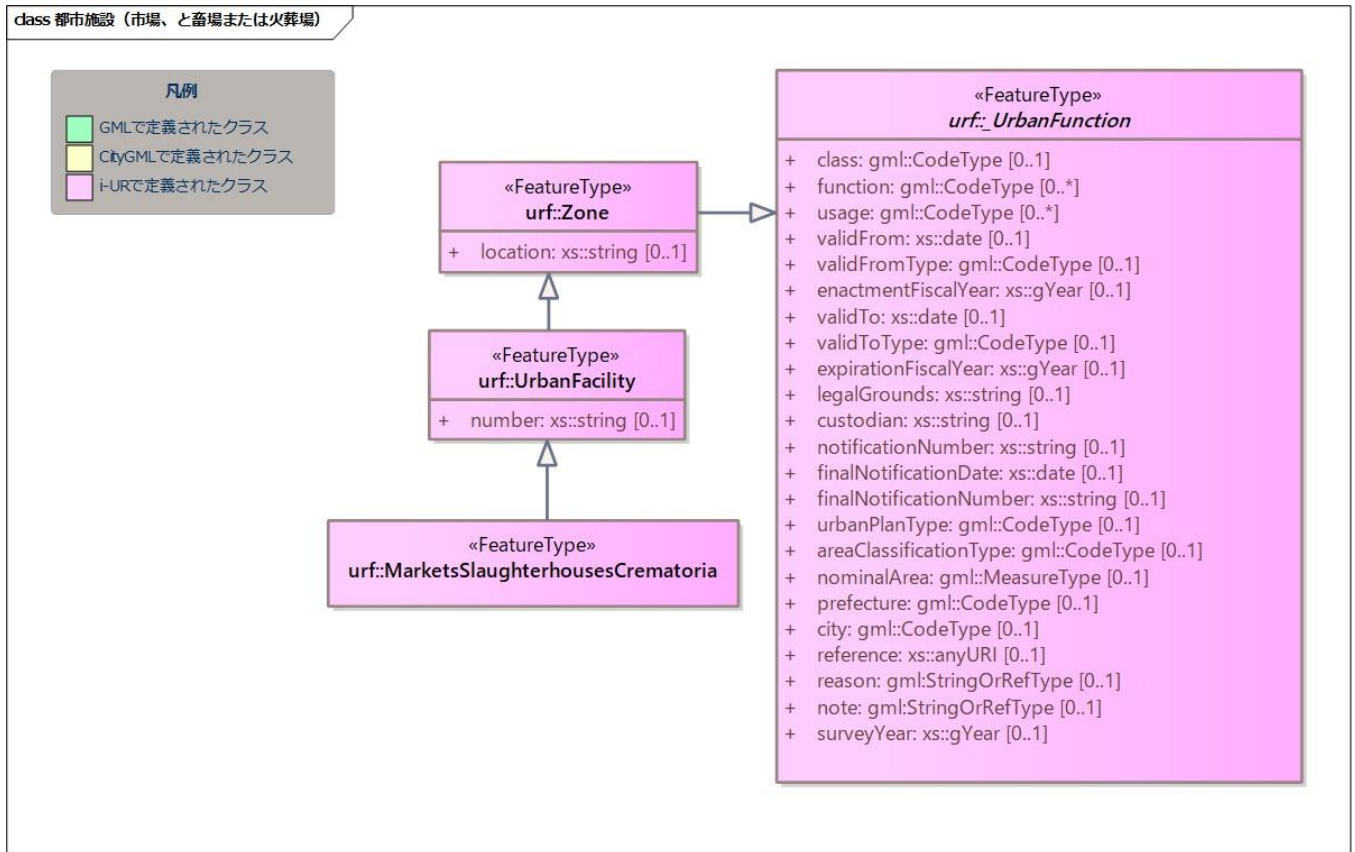


図4-48

4.10.2.17 市街地開発事業

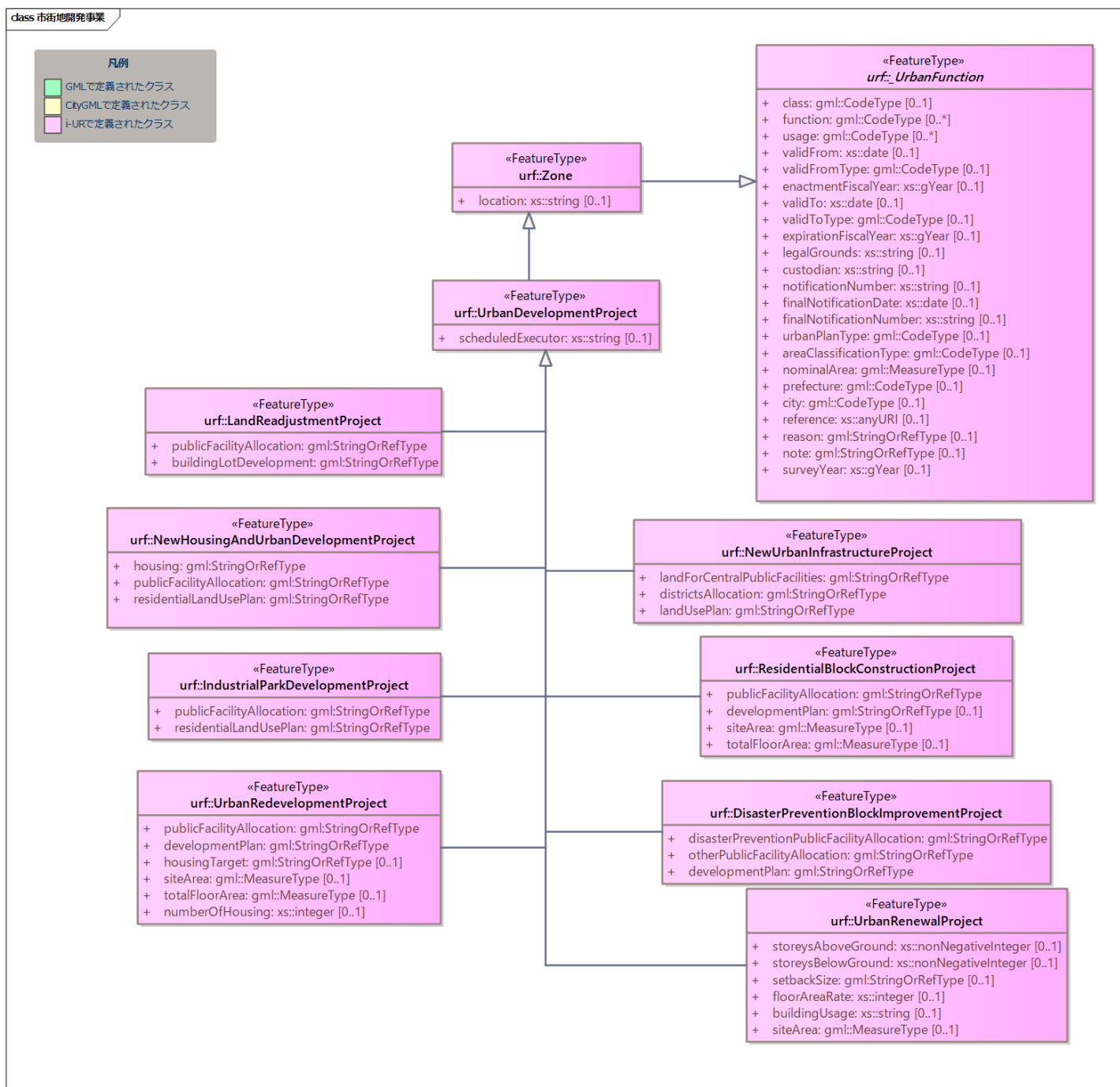
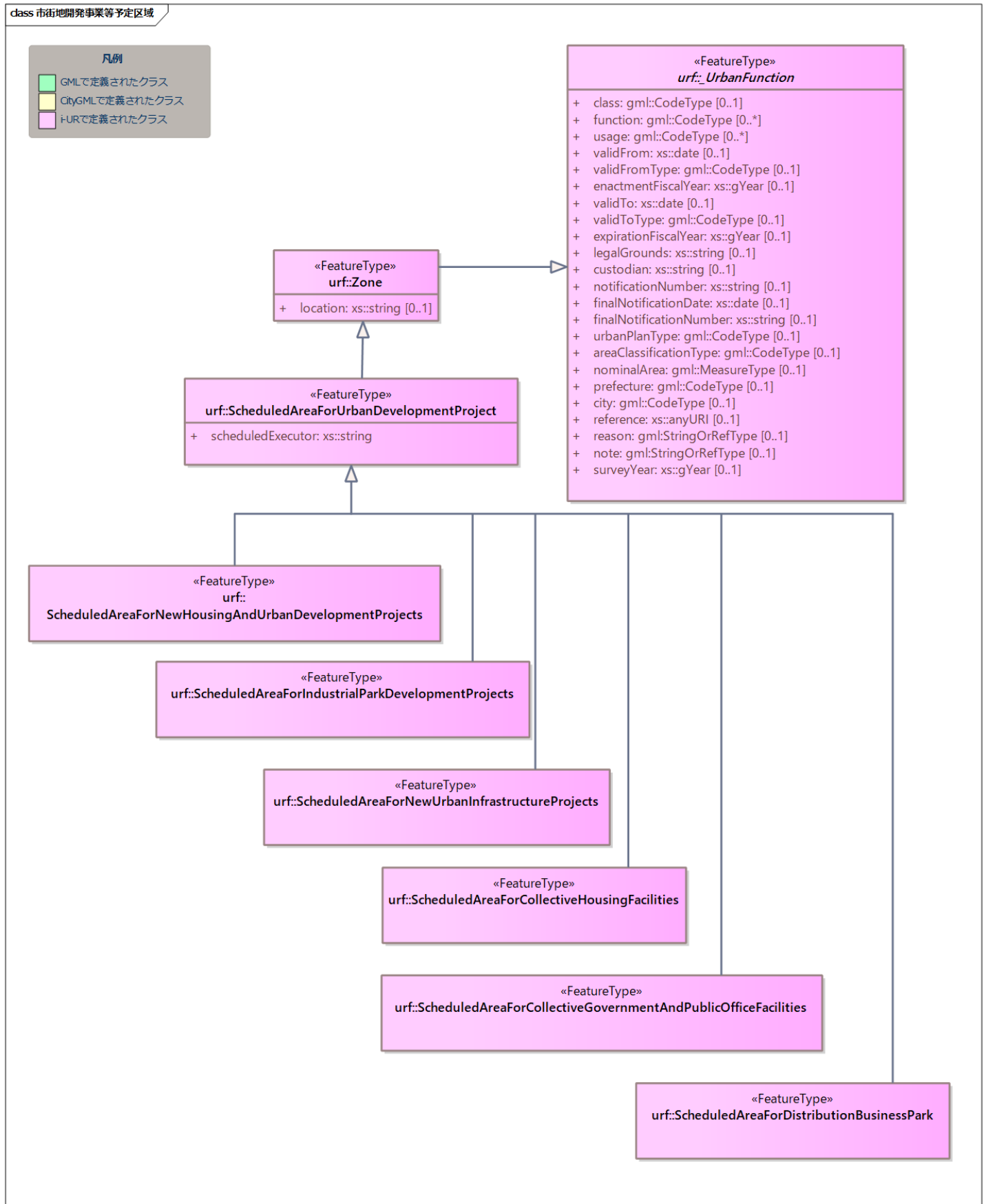


図4-49

4.10.2.18 市街地開発事業等予定区域



4.10.2.19 地区計画等

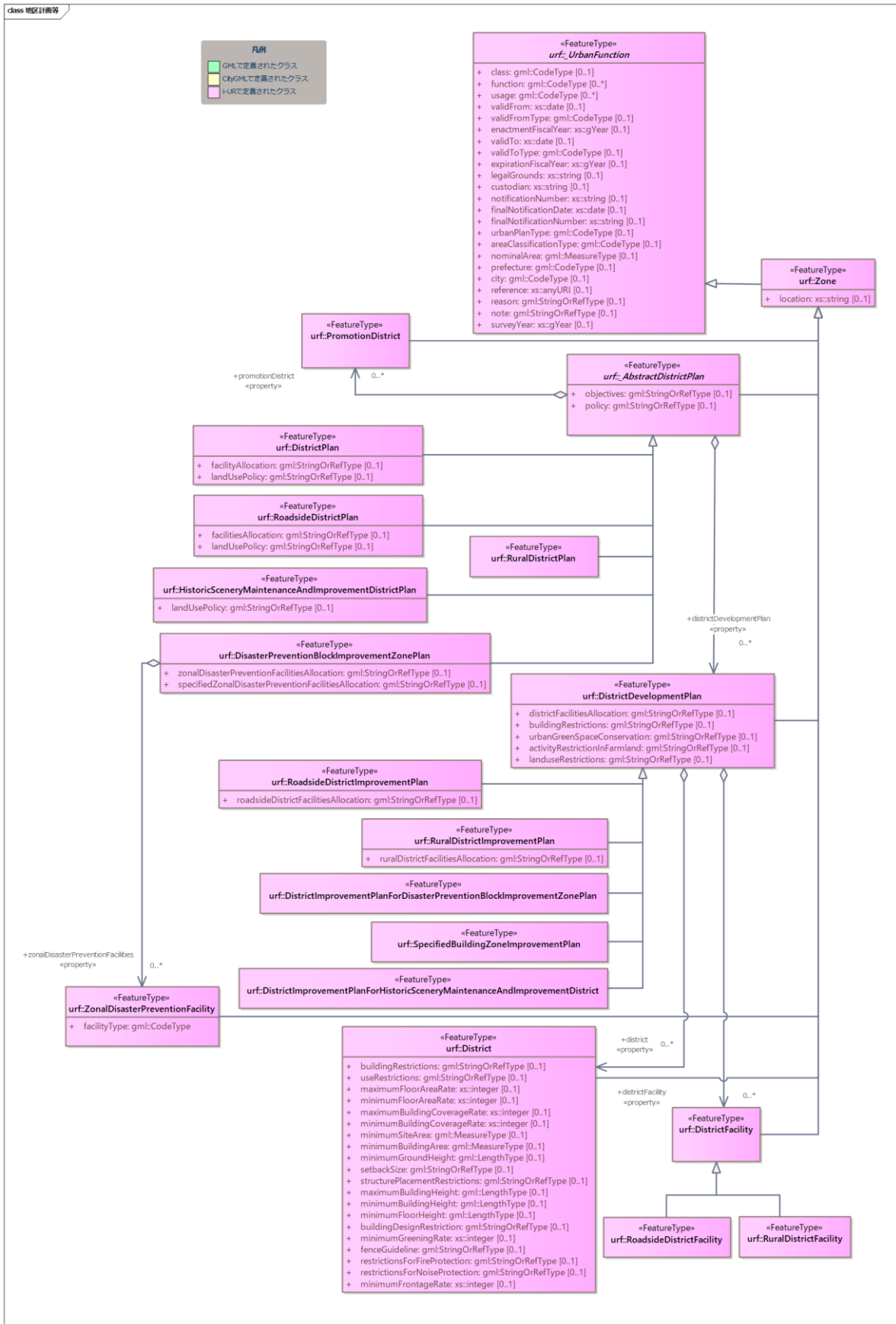


図4-51

4.10.2.20 立体的な範囲、区域界、品質属性

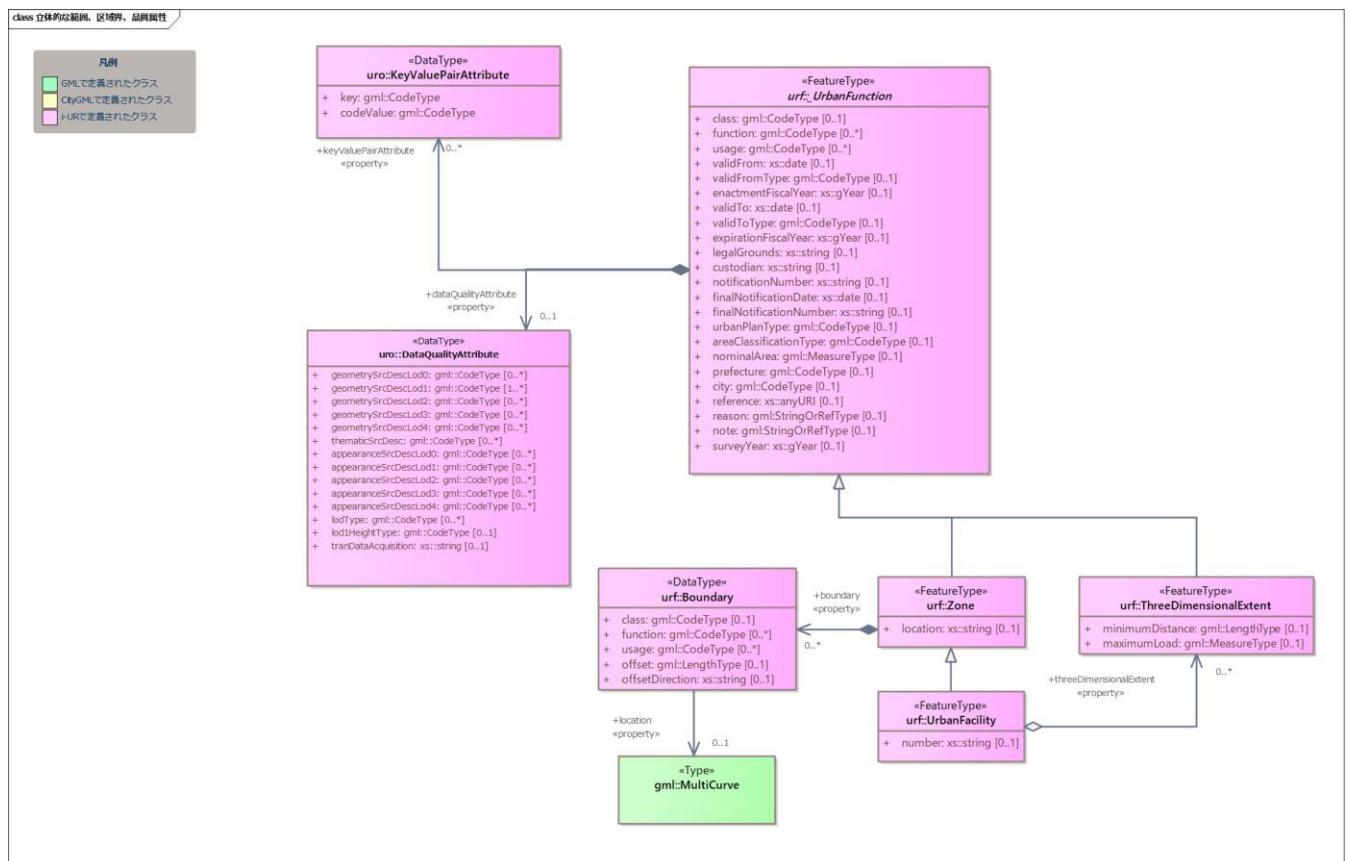


図4-52

4.10.2.21 立地適正化計画

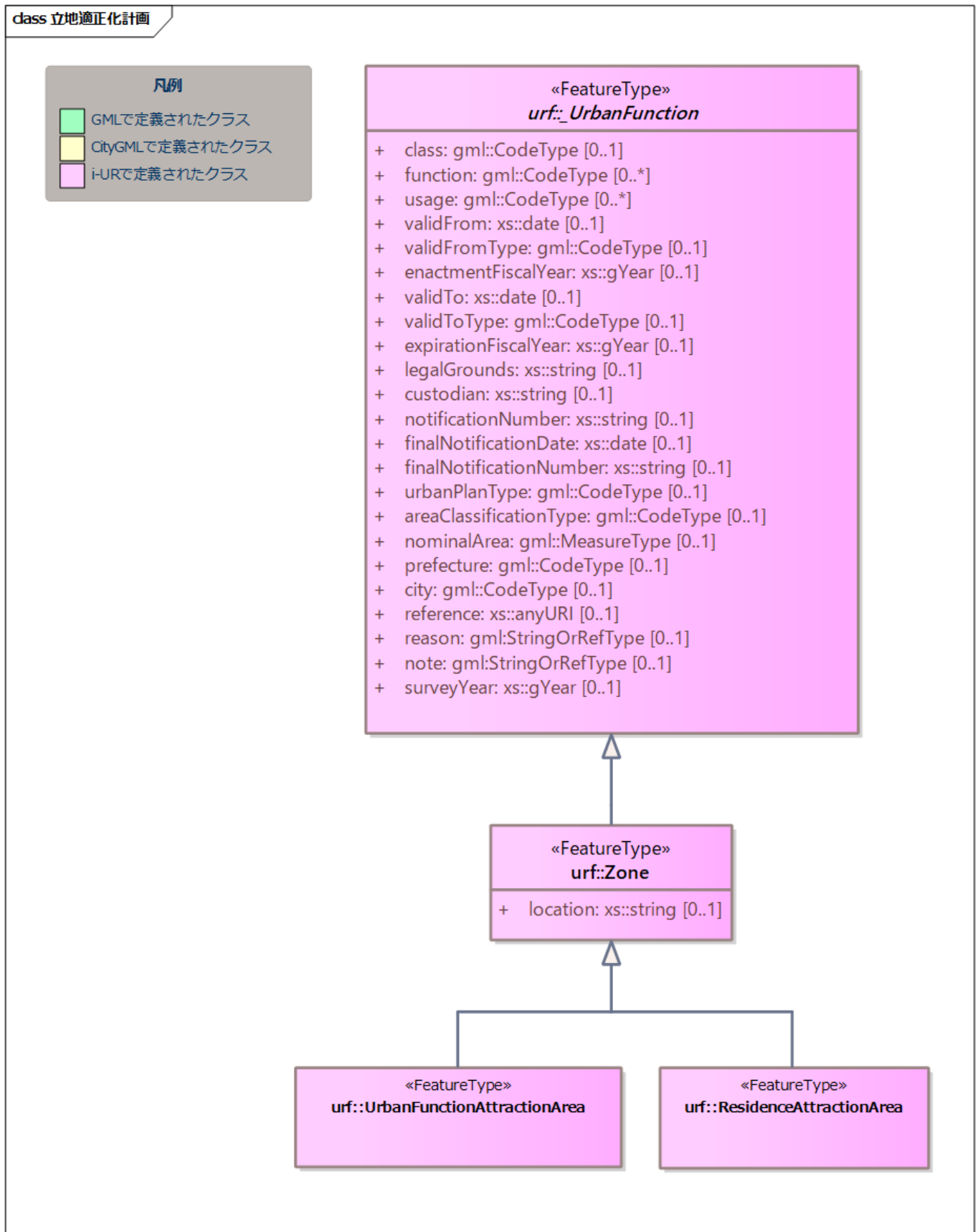


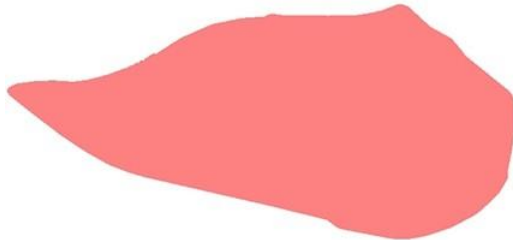
図4-53

4.10.3 都市計画決定情報モデルの応用スキーマ文書

4.10.3.1 都市計画区域、準都市計画区域

4.10.3.1.1 urf:UrbanPlanningArea

表4-342

型の定義	都市計画区域。都市の実態や将来の計画を勘案して、一体の都市地域となるべき区域として指定された区域。（都市計画法第5条第1項）	
		
	都市計画区域の例	
	複数の市区町村にまたがる都市計画の区域の場合は、市区町村の境界で区切る。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:functionは、コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。・ 属性urf:usage、urf:urbanPlanType、urf:areaClassificationType及びurf:locationは、使用しない。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function	gml::CodeType [0..*]	機能。

[_UrbanFunction]		これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:areaClassification [UrbanPlanningArea]	gml::CodeType [1..1]	都市計画法第6条の2第2項第1号に定める区域区分の決定の有無。コードリスト（Common_availabilityType.xml）より選択する。
urf:reasonForAreaClassification [UrbanPlanningArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画区域内に区域区分を設定する又はしない理由。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:policyForAreaClassification [UrbanPlanningArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第6条の2第2項第1号に定める区域区分を定める場合のその方針。
urf:purposeForUrbanPlan [UrbanPlanningArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第6条の2第2項第2号に定める目標。
urf:policyForUrbanPlanDecision [UrbanPlanningArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第6条の2第2項第3号に定める土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針。
urf:population [UrbanPlanningArea]	xs:integer [0..1]	都市計画区域内の総人口。単位は人とする。
urf:cityArea [UrbanPlanningArea]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画区域が複数市区町村に跨っている場合の、当該市区町村の面積。単位はha（uom="ha"）とする。
urf:cityPopulation [UrbanPlanningArea]	xs:integer [0..1]	都市計画区域が複数市区町村に跨っている場合の、当該市区町村内の人口。単位は人とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.1.2 urf:QuasiUrbanPlanningArea

表4-343

型の定義	準都市計画区域。そのまま土地利用を整理し、又は環境を保全するための措置を講ずることなく放置すれば、将来における一体の都市としての整備、開
------	--

	発及び保全に支障が生じるおそれがあると認められる一定の区域。（都市計画法第5条の2第1項） 複数の市区町村にまたがる準都市計画区域の場合は、市区町村の境界で区切る。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usage、urf:urbanPlanType、urf:areaClassificationType及びurf:locationは、使用しない。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。

urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:population [QuasiUrbanPlanningArea]	xs:integer [0..1]	準都市計画区域内の総人口。単位は人とする。
urf:cityArea [QuasiUrbanPlanningArea]	gml:MeasureType [0..1]	準都市計画区域が複数市区町村に跨っている場合の、当該市区町村内の面積。単位はha（uom="ha"）とする
urf:cityPopulation [QuasiUrbanPlanningArea]	xs:integer [0..1]	準都市計画区域が複数市区町村に跨っている場合の、当該市区町村内の人口。単位は人とする。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.2 区域区分

4.10.3.2.1 urf:AreaClassification

表4-344

型の定義	<p>都市計画法第7条に基づき、無秩序な市街地の拡大による環境悪化の防止、計画的な公共施設整備などによる良好な市街地の形成などを行うため、都市計画区域について区分された、計画的な市街化を図るべき区域「市街化区域」と、市街化を抑制すべき「市街化調整区域」。（都市計画法第7条）</p> <div></div> <p style="text-align: center;">区域区分（市街化調整地域）の例</p> <p>複数の市区町村にまたがる市街化区域又は市街化調整区域の場合は、市区町村の境界で区切る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:functionは、コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。・ 属性urf:usage、urf:areaClassificationType及びurf:locationは、使用しない。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。

core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。

		都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:population [AreaClassification]	xs:integer [0..1]	都市計画法第13条第1項第2号で定められる整備、開発、保全の方針に記載される人口。単位は人とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3 地域地区

4.10.3.3.1 urf:DistrictsAndZones

表4-345

型の定義	<p>地域地区。都市計画法第8条に基づき、都市計画区域内の土地をその利用目的によって区分し、建築物などに対するルールを決め、土地の合理的な利用を図るために指定された区域。</p> <p>下位の地物型として定義されていない地域地区を記述したい場合にのみ、この地物型を使用し、属性「urf:function」でその内容を識別する。下位の地物型として定義されている場合は、必ず下位の地物型を使用すること。</p>
------	---



urf:DistrictsAndZones及び下位型の例

(3D地形の上でLOD1のbldg:Buildingと重畳表示している)

- ・ 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
- ・ 属性urf:usageは使用しない。
- ・ 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。

上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function	gml::CodeType [0..*]	機能。

[_UrbanFunction]		これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、 gen:_GenericAttribute の下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.2 urf:UseDistrict

表4-346

型の定義	都市計画法第八条第1項第一号で定められる用途地域。 第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、田園住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域又は工業専用地域。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:floorAreaRate [UseDistrict]	xs:integer [1..1]	都市計画法第8条第3項第2号イに定める容積率（延べ面積の敷地面積に対する割合）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumSiteArea [UseDistrict]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号イに定める建築物の敷地面積の最低限度。単位はm2（uom="m2"）とする。
urf:buildingCoverageRate [UseDistrict]	xs:integer [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号ロ及びハに定める建ぺい率（建築面積の敷地面積に対する割合）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:wallSetbackDistance [UseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号ロに定める外壁の後退距離。 一律に距離が指定されている場合は、半角数字と単位(m) を記述する。 複数の上限が設定されている場合はその条件を列挙する。
urf:buildingHeightLimits [UseDistrict]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号ロに定める建築物の高さの限度。

urf:buildingRestrictions [UseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、用途地域内の建築物の制限。
urf:otherRestrictions [UseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
urf:setbackRestrictions [UseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築物の各部分の高さの制限。
urf:frontRoadRestrictions [UseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	用途地域に適用される、建築基準法第56条第1項第1号に定める道路斜線制限。
urf:adjacentLandRestrictions [UseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	用途地域に適用される、建築基準法第56条第1項第2号に定める隣接斜線制限。
urf:northDirectionRestrictions [UseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	用途地域に適用される、建築基準法第56条第1項第3号に定める北側斜線制限。
urf:shadeRegulation [UseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、日影による中高層の建築物の制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3 urf:SpecialUseDistrict

表4-347

型の定義	都市計画法第8条第1項第2号で定められる特別用途地区。 用途地域内の一定の地区における当該地区の特性にふさわしい土地利用の増進、環境の保護等の特別の目的の実現を図るため当該用途地域の指定を補完して定める地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、区域の用途とする。コードリスト（SpecialUseDistrict_usage.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:buildingRestrictions [SpecialUseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築基準法第49条で定められるその地区の指定の目的のためにする建築物の建築の制限又は禁止に関して必要な規定。
urf:otherRestrictions [SpecialUseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築基準法第50条で定められる特別用途地区における建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.4 urf:SpecialUseRestrictionDistrict

表4-348

型の定義	都市計画法第8条第1項第2号で定められる特定用途制限地域。 用途地域が定められていない土地の区域（市街化調整区域を除く。）内において、その良好な環境の形成又は保持のため当該地域の特性に応じて合理的な土地利用が行われるよう、制限すべき特定の建築物等の用途の概要を定める地域。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。

		・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。

[Zone]		[記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:buildingRestrictions [SpecialUseRestrictionDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築基準法第49条の2で定められる建築物の用途の制限。
urf:otherRestrictions [SpecialUseRestrictionDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築基準法第50条で定められる特定用途制限地域における建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.5 urf:ExceptionalFloorAreaRateDistrict

表4-349

型の定義	都市計画法第8条第1項第2号の3で定められる特例容積率適用地区。 第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域又は工業地域内の適正な配置及び規模の公共施設を備えた土地の区域において、建築基準法第52条第1項から第9項までの規定による建築物の容積率の限度からみて未利用となっている建築物の容積の活用を促進して土地の高度利用を図るため定める地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:buildingHeightLimits [ExceptionalFloorAreaRate District]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号に定める当該地区における市街地の環境を確保するために必要な場合に定められた建築物の高さの最高限度。単位はm（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.6 urf:HighRiseResidentialAttractionDistrict

表4-350

型の定義	都市計画法第8条第1項第2号の4で定められる高層住居誘導地区。 住居と住居以外の用途とを適正に配分し、利便性の高い高層住宅の建設を誘導するため、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域
------	---

	又は準工業地域でこれらの地域に関する都市計画において建築基準法第五十二 条第一項第二号に規定する建築物の容積率が十分の四十又は十分の五十と 定められたものの内において、建築物の容積率の最高限度、建築物の建蔽率 の最高限度及び建築物の敷地面積の最低限度を定める地区。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用 途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）よ り選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述す る場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必 須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が 設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照 系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では 使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0. .1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使 用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコー ドリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて 使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記 述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とす る。多重度は任意となっているが、運用上必須 とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とす る。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_ validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意と なっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述 する。

urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト (Common_valid-Type.xml) より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:arealnTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。

自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:floorAreaRate [HighRiseResidentialAttractionDistrict]	xs::integer [1..1]	都市計画法第8条第3項第2号イに定める容積率（延べ面積の敷地面積に対する割合）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:maximumBuildingCoverageRate [HighRiseResidentialAttractionDistrict]	xs::integer [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号ロ及びハに定める（建ぺい率建築面積の敷地面積に対する割合）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumSiteArea [HighRiseResidentialAttractionDistrict]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号イに定める建築物の敷地面積の最低限度。単位はm2（uom="m2"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.7 urf:HeightControlDistrict

表4-351

型の定義	都市計画法第8条第1項第3号で定められる高度地区。 用途地域内において市街地の環境を維持し、又は土地利用の増進を図るため、建築物の高さの最高限度又は最低限度を定める地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、高度地区の区分とする。コードリスト（HeightControlDistrict_usage.xml）より選択する。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。

core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。

urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:maximumBuildingHeight [HeightControlDistrict]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号トに定める建築物の高さの最高限度。単位はm (uom="m") とする。
urf:minimumBuildingHeight [HeightControlDistrict]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号トに定める建築物の高さの最低限度。単位はm (uom="m") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.8 urf:HighLevelUseDistrict

表4-352

型の定義	<p>都市計画法第8条第1項第3号で定められる高度利用地区。</p> <p>用途地域内の市街地における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図るため、建築物の容積率の最高限度及び最低限度、建築物の建蔽率の最高限度、建築物の建築面積の最低限度並びに壁面の位置の制限を定める地区。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
------	--

	<ul style="list-style-type: none">属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。

		<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf.maximumFloorAreaRate [HighLevelUseDistrict]	xs:integer [1..*]	都市計画法第8条第3項第2号チに定める容積率の最高限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf.minimumFloorAreaRate [HighLevelUseDistrict]	xs:integer [1..*]	都市計画法第8条第3項第2号チに定める容積率の最低限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限

		度)。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:maximumBuildingCoverageRate [HighLevelUseDistrict]	xs::integer [1..*]	都市計画法第8条第3項第2号チに定めるに定める建ぺい率の最高限度（建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumBuildingArea [HighLevelUseDistrict]	gml::MeasureType [1..*]	都市計画法第8条第3項第2号チに定める建築物の建築面積の最低限度。単位はm2（uom="m2"）とする。
urf:setbackSize [HighLevelUseDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第8条第3項第2号チに定めるに定める外壁の後退距離。文字列又は計画図への参照とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.9 urf:SpecifiedBlock

表4-353

型の定義	都市計画法第8条第1項第4号で定められる特定街区。 市街地の整備改善を図るため街区の整備又は造成が行われる地区について、その街区区内における建築物の容積率並びに建築物の高さの最高限度及び壁面の位置の制限を定める街区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。

urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:floorAreaRate [SpecifiedBlock]	xs:integer [1..1]	都市計画法第8条第3項第2号りに定める容積率 (延べ面積の敷地面積に対する割合)。全体を「100」とする割合 (百分率) で記述する。 (単位は%)
urf:maximumBuildingHeight [SpecifiedBlock]	gml::LengthType [1..1]	都市計画法第8条第3項第2号りに定める建築物の高さの最高限度。単位はm (uom="m") とする。
urf:setbackSize [SpecifiedBlock]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市計画法第8条第3項第2号りに定める外壁の後退距離。文字列又は計画図への参照とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.10 urf:SpecialUrbanRenaissanceDistrict

表4-354

型の定義	<p>都市計画法第8条第1項第4号の2で定められる都市再生特別地区。都市再生特別措置法（平成十四年法律第二十二号）第三十六条第一項の規定による都市再生特別地区。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。
------	--

	・ 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。

		多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf.useToBeInduced [SpecialUrbanRenaissance District]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市再生特別措置法第36条第2項に定める当該地区において建築物その他の構造物の誘導すべき用途。
urf.maximumFloorAreaRate [SpecialUrbanRenaissance District]	xs:integer [1..1]	都市再生特別措置法第36条第2項に定める容積率の最高限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%） 複数存在する場合は、最高となる値とし、詳細は属性referenceにより計画書を参照する。

urf:minimumFloorAreaRate [SpecialUrbanRenaissance District]	xs::integer [1..1]	都市再生特別措置法第36条第2項に定める容積率の最低限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:maximumBuildingCover- ageRate [SpecialUrbanRenaissance District]	xs::integer [1..1]	都市再生特別措置法第36条第2項に定める建ぺい率の最高限度（建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumBuildingArea [SpecialUrbanRenaissance District]	gml::MeasureType [1..1]	都市再生特別措置法第36条第2項に定める建築物の建築面積の最低限度。単位はm2（uom="m2"）とする。
urf:maximumBuildingHeight [SpecialUrbanRenaissance District]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市再生特別措置法第36条第2項に定める建築物の高さの最高限度。
urf:setbackSize [SpecialUrbanRenaissance District]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市再生特別措置法第36条第2項に定める外壁の後退距離。
urf:otherRestrictions [SpecialUrbanRenaissance District]	gml:StringOrRefType [0..1]	建築基準法第50条で定める建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

[_UrbanFunction]		
urf:lod2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.11 urf:HousingControlArea

表4-355

型の定義	都市計画法第8条第1項第4号の2で定められる地区。 都市再生特別措置法（平成十四年法律第二十二号）第八十九条の規定による居住調整地域。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。

core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合 は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っ ている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面 積」について、同一の種類となる区域の当該市区町 村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用す る。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用 する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書 では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用し ない。

urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.12 urf:ResidentialEnvironmentImprovementDistrict

表4-356

型の定義	<p>都市計画法第8条第1項第4号の2で定められる地区。都市再生特別措置法（平成十四年法律第二十二号）第九十四条の二第一項の規定による居住環境向上用途誘導地区。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。
------	--

	・ 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。

		多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf.useToBeInduced [ResidentialEnvironmentIm- provementDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市再生特別措置法第94条の2第2項に定める当該地区において建築物その他の構造物の誘導すべき用途。
urf.maximumFloorAreaRate [ResidentialEnvironmentIm- provementDistrict]	xs:integer [0..1]	都市再生特別措置法第94条の2第2項に定める容積率の最高限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf.maximumBuildingCover- ageRate	xs:integer [0..1]	都市再生特別措置法第94条の2第2項に定める建ぺい率の最高限度（建築面積の敷地面積に対する割合の

[ResidentialEnvironmentIm- provementDistrict]		最高限度)。全体を「100」とする割合（百分率） で記述する。（単位は%）
urf:maximumBuildingHeight [ResidentialEnvironmentIm- provementDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市再生特別措置法第94条の2第2項に定める建築物 の高さの最高限度。
urf:setbackSize [ResidentialEnvironmentIm- provementDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市再生特別措置法第94条の2第2項に定める外壁の 後退距離。
urf:otherRestrictions [ResidentialEnvironmentIm- provementDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	建築基準法第50条で定める建築物の敷地、構造又は 建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用す る。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用 する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書 では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用し ない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルで の表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書 では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用し ない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現 に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書で は使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しな い。
urf:lod0MultiSurface	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。

[_UrbanFunction]		標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.13 urf:SpecialUseAttractionDistrict

表4-357

型の定義	都市計画法第8条第1項第4号の2で定められる地区。 都市再生特別措置法（平成十四年法律第二十二号）第百九条第一項の規定による特定用途誘導地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。

urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:useToBeInduced [SpecialUseAttractionDistrict]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市再生特別措置法第109条第2項第1号に定める当該地区において建築物その他の構造物の誘導すべき用途。
urf:maximumFloorAreaRate [SpecialUseAttractionDistrict]	xs:integer [1..1]	都市再生特別措置法第109条第2項第1号に定める容積率の最高限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumFloorAreaRate [SpecialUseAttractionDistrict]	xs:integer [0..1]	都市再生特別措置法第109条第1項第2号に定める容積率の最低限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumBuildingArea [SpecialUseAttractionDistrict]	gml::MeasureType [0..1]	都市再生特別措置法第109条第1項第2号に定める建築物の建築面積の最低限度。単位はm2（uom="m2"）とする。
urf:maximumBuildingHeight [SpecialUseAttractionDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市再生特別措置法第109条第2項第3号に定める建築物の高さの最高限度。
urf:otherRestrictions [SpecialUseAttractionDistrict]	gml:StringOrRefType [0..1]	建築基準法第50条で定める建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.14 urf:FirePreventionDistrict

表4-358

型の定義	都市計画法第8条第1項第5号で定められる防火地域又は準防火地域。 市街地における火災の危険を防除するため定める地域。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、防火地域又は準防火地域の種類とする。コードリスト（FirePreventionDistrict_usage.xml）より選択する。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。属性urf:arealTotalは、urf:functionが「防火地域」の場合は、防火地域の合計面積とし、種類が「準防火地域」の場合は、準防火地域の合計面積。単位はha（uom="ha"）とする。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。

		・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。

[Zone]		[記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:arealTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。

urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.15 urf:SpecifiedDisasterPreventionBlockImprovementZone

表4-359

型の定義	都市計画法第8条第1項第5号の2で定められる地区。 密集市街地整備法第三十一条第一項の規定による特定防災街区整備地区。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。

urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。

[_UrbanFunction]		
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:minimumSiteArea [SpecifiedDisasterPreventionBlockImprovementZone]	gml:MeasureType [1..1]	密集市街地整備法第31条第3項第1号に定める建築物の敷地面積の最低限度。単位はm2（uom="m2"）とする。
urf:setbackSize [SpecifiedDisasterPreventionBlockImprovementZone]	gml:StringOrRefType [0..1]	密集市街地整備法第31条第3項第2号に定める外壁の後退距離。制限を設けない場合は「無」とする。
urf:minimumFrontageRate [SpecifiedDisasterPreventionBlockImprovementZone]	xs:integer [0..1]	密集市街地整備法第31条第3項第2号に定める間口率の最低限度（建築物の防災都市計画施設に面する部分の長さの敷地の防災都市計画施設に接する部分の長さに対する割合の最低限度）。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumBuildingHeight [SpecifiedDisasterPreventionBlockImprovementZone]	gml:LengthType [0..1]	密集市街地整備法第31条第3項第2号に定める建築物の高さの最低限度。単位はm（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.16 urf:LandscapeZone

表4-360

型の定義	<p>都市計画法第8条第1項第6号で定められる景観地区。 景観法（平成十六年法律第百十号）第六十一条第一項の規定による景観地区。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。
------	--

	・ 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。

		多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf.buildingDesignRestriction [LandscapeZone]	gml:StringOrRefType [0..1]	景観法第61条第2項第1号に定める建築物の形態にかかる制限。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf.maximumBuildingHeight [LandscapeZone]	gml:LengthType [0..1]	景観法第61条第2項第2号に定める建築物の高さの最高限度。単位はm（uom="m"）とする。
urf.minimumBuildingHeight [LandscapeZone]	gml:LengthType [0..1]	景観法第61条第2項第2号に定める建築物の高さの最低限度。単位はm（uom="m"）とする。
urf.setbackSize [LandscapeZone]	gml:StringOrRefType [0..1]	景観法第61条第2項第3号に定める外壁の後退距離。

urf:minimumSiteArea [_LandscapeZone]	gml:MeasureType [0..1]	景観法第61条第2項第4号に定める建築物の敷地面積の最低限度。単位はm2 (uom="m2") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

[_UrbanFunction]		
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.17 urf:ScenicDistrict

表4-361

型の定義	都市計画法第8条第1項第7号で定められる風致地区。都市の風致を維持するため定める地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、風致地区の種類とする。コードリスト（ScenicDistrict_usage.xml）より選択する。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。

urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。

[_UrbanFunction]		
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:buildingCoverageRate [ScenicDistrict]	xs:integer [0..1]	風致地区内における建築等の規制に関する条例附則第4条第1項で定める建ぺい率の規制。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:buildingHeightLimits [ScenicDistrict]	gml:LengthType [0..1]	風致地区内における建築等の規制に関する条例附則第4条第1項で定める建築物等の高さの規制。単位はm（uom="m"）とする。
urf:wallSetbackDistanceWithRoad [ScenicDistrict]	gml:LengthType [0..1]	風致地区内における建築等の規制に関する条例附則第4条第1項で定める建築物の壁面から敷地境界までの距離(道路に接する部分)。単位はm（uom="m"）とする。
urf:wallSetbackDistanceWithAdjoiningLand [ScenicDistrict]	gml:LengthType [0..1]	風致地区内における建築等の規制に関する条例附則第4条第1項で定める建築物の壁面から敷地境界までの距離(道路に接しない部分)。単位はm（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.18 urf:ParkingPlaceDevelopmentZone

表4-362

型の定義	<p>都市計画法第8条第1項第8号で定められる地区。 駐車場法（昭和三十二年法律第百六号）第三条第一項の規定による駐車場整備地区。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
上位の型	urf:DistrictsAndZones
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。

urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.19 urf:PortZone

表4-363

型の定義	都市計画法第8条第1項第9号で定められる臨港地区。港湾を管理運営するため定める地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、分区の種類とする。コードリスト（PortZone_usage.xml）より選択する。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。

[_UrbanFunction]		
urf.validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf.validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目

urf:arealTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:floorAreaRate [PortZone]	xs::integer [0..1]	延べ面積の敷地面積に対する割合。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。

[_UrbanFunction]		区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.20 urf:SpecialZoneForPreservationOfHistoricalLandscape

表4-364

型の定義	都市計画法第8条第1項第10号で定められる地区。古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（昭和四十一年法律第一号）第六条第一項の規定による歴史的風土特別保存地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function	gml::CodeType [0..*]	機能。

[_UrbanFunction]		これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。

		標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.21 urf:ZoneForPreservationOfHistoricalLandscape

表4-365

型の定義	都市計画法第8条第1項第11号で定められる地区。 明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法（昭和五十五年法律第六十号）第三条第一項の規定による第一種歴史的風土保存地区又は第二種歴史的風土保存地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。

core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面 積」について、同一の種類となる区域の当該市区町 村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用す る。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用 する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1) 。標準製品仕様書 では使用しない。

urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.22 urf:GreenSpaceConservationDistrict

表4-366

型の定義	<p>都市計画法第8条第1項第12号で定められる地区。都市緑地法（昭和四十八年法律第七十二号）第五条の規定による緑地保全地域。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
上位の型	urf:DistrictsAndZones
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。

urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.23 urf:SpecialGreenSpaceConservationDistrict

表4-367

型の定義	<p>都市計画法第8条第1項第12号で定められる地区。都市緑地法（昭和四十八年法律第七十二号）第十二条の規定による特別緑地保全地区。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）よ
------	---

	り選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:usageは使用しない。・ 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。

urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:requirement [SpecialGreenSpaceConser- vationDistrict]	gml:CodeType [0..1]	都市緑地法第3条で定める指定の要件。コードリスト（SpecialGreenSpaceConservationDistrict_requirement.xml）から選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。

[_CityObject]		
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。

urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.24 urf:TreePlantingDistrict

表4-368

型の定義	都市計画法第8条第1項第12号で定められる地区。 都市緑地法（昭和四十八年法律第七十二号）第三十四条第一項の規定による緑化地域。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須

		とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:minimumGreeningRate [TreePlantingDistrict]	xs:integer [1..1]	都市緑地法第34条第3項で定める最低限度の緑化率。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.25 urf:DistributionBusinessZone

表4-369

型の定義	都市計画法第8条第1項第13号で定められる地区。流通業務市街地の整備に関する法律（昭和四十一年法律第百十号）第四条第一項の規定による流通業務地区。 <ul style="list-style-type: none">属性functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。

core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。

urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:guidelinePublicationDate [DistributionBusinessZone]	xs:date [0..1]	流通業務市街地の整備に関する法律第5条の2で定める流通業務施設の整備に関する基本方針が定められた日。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.26 urf:ProductiveGreenZone

表4-370

型の定義	<p>都市計画法第8条第1項第14号で定められる地区。生産緑地法（昭和四十九年法律第六十八号）第三条第一項の規定による生産緑地地区。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。 属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
上位の型	urf:DistrictsAndZones
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。

urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:zoneNumber [ProductiveGreenZone]	xs:string [0..1]	生産緑地地区番号。
urf:specification [ProductiveGreenZone]	gml:CodeType [0..1]	特定生産緑地指定の有無。コードリスト（Common_availabilityType.xml）より選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.27 urf:ConservationZoneForClustersOfTraditionalStructures

表4-371

型の定義	都市計画法第8条第1項第15号で定められる地区。文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第百四十三条第一項の規定による伝統的建造物群保存地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。

[_UrbanFunction]		
urf.validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf.validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目

urf:arealTotal [DistrictsAndZones]	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha (uom="ha") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。

uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.3.28 urf:AircraftNoiseControlZone

表4-372

型の定義	都市計画法第8条第1項第16号で定められる地区。 特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法（昭和五十三年法律第二十六号）第四条第一項の規定による航空機騒音障害防止地区及び航空機騒音障害防止特別地区。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第8条第3項第1号に定める地域地区（及び用途地域）の区分とする。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。ただし、コードリストに定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第8条第3項第1号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。

urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。

[_UrbanFunction]		
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:areaInTotal [DistrictsAndZones]	gml:MeasureType [0..1]	都市計画法第8条第3項第3号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位はha（uom="ha"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.4 促進区域

4.10.3.4.1 urf:ProjectPromotionArea

表4-373

型の定義	都市計画法第10条の2に基づき、都市計画区域に定められた促進区域。 下位の地物型として定義されていない促進区域を記述したい場合には、この地物型を使用し、属性「urf:function」でその内容を識別する。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第10条第2項に定める促進区域の区分とする。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）に定義されていない促進区域を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第10条の2第2項に定める促進区域が設定された位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:developmentPolicyは、促進区域の開発の方針とする。属性urf:publicFacilitiesPlansは、当該区域の開発に必要な公共施設に関する都市計画とする。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。

[_Feature]		CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択す

		る。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:developmentPolicy [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	促進区域の開発の方針。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
urf:publicFacilitiesPlans [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の開発に必要な公共施設に関する都市計画。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。

uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.4.2 urf:UrbanRedevelopmentPromotionArea

表4-374

型の定義	<p>都市計画法第10条の2第1項第1号で定められる区域。 都市再開発法第七条第一項の規定による市街地再開発促進区域。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第10条第2項に定める促進区域の区分とする。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）に定義されていない促進区域を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。
------	---

	<ul style="list-style-type: none">属性urf:locationは、都市計画法第10条の2第2項に定める促進区域が設定された位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:developmentPolicyは、使用しない。属性urf:publicFacilitiesPlansは、使用しない。	
上位の型	urf:ProjectPromotionArea	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。

urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:developmentPolicy [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	促進区域の開発の方針。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
urf:publicFacilitiesPlans [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の開発に必要な公共施設に関する都市計画。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:publicFacilities [UrbanRedevelopmentPromotionArea]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市再開発法第7条第2項に定める道路、公園、広場その他政令で定める公共の用に供する施設の配置及び規模。
urf:unitArea	gml:StringOrRefType [1..1]	都市再開発法第7条第2項に定める市街地再開発促進区域内における建築敷地の造成及び公共施設の用に

[UrbanRedevelopmentPromotionArea]		供する敷地の造成を一体として行うべき土地の区域としてふさわしいものとなるように定められた整備区の単位。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

[_UrbanFunction]		
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.4.3 urf:LandReadjustmentPromotionArea

表4-375

型の定義	都市計画法第10条の2第1項第2号で定められる区域。大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第五条第一項の規定による土地区画整理促進区域。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第10条第2項に定める促進区域の区分とする。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）に定義されていない促進区域を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第10条の2第2項に定める促進区域が設定された位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:developmentPolicyは、大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第5条第2項に示される住宅市街地としての開発の方針とする。属性urf:publicFacilitiesPlansは、当該区域が良好な住宅市街地として開発されるために必要な公共施設に関する都市計画とする。	
上位の型	urf:ProjectPromotionArea	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function	gml::CodeType [0..*]	機能。

[_UrbanFunction]		これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:developmentPolicy [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	促進区域の開発の方針。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
urf:publicFacilitiesPlans [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の開発に必要な公共施設に関する都市計画。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.4.4 urf:ResidentialBlockConstructionPromotionArea

表4-376

型の定義	都市計画法第10条の2第1項第3号で定められる区域。大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第二十四条第一項の規定による住宅街区整備促進区域。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第10条第2項に定める促進区域の区分とする。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）に定義されていない促進区域を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第10条の2第2項に定める促進区域が設定された位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:developmentPolicyは、大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第5条第2項に示される住宅市街地としての開発の方針とする。属性urf:publicFacilitiesPlansは、当該区域が良好な住宅市街地として開発されるために必要な公共施設に関する都市計画とする。	
上位の型	urf:ProjectPromotionArea	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。

[_Feature]		
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:developmentPolicy [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	促進区域の開発の方針。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
urf:publicFacilitiesPlans [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の開発に必要な公共施設に関する都市計画。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.4.5 urf:LandReadjustmentPromotionAreasForCoreBusinessUrbanDevelopment

表4-377

型の定義	<p>都市計画法第10条の2第1項第4号で定められる区域。 地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律第十九条第一項の規定による拠点業務市街地整備土地区画整理促進区域。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第10条第2項に定める促進区域の区分とする。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）に定義されていない促
------	--

	進区域を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第10条の2第2項に定める促進区域が設定された位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:developmentPolicyは、地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再開発の促進に関する法律第19条第2項に示される開発の方針とする。属性urf:publicFacilitiesPlansは、地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再開発の促進に関する法律第19条第4項に示される、当該区域が良好な拠点業務市街地として整備され、又は開発されるために必要な公共施設に関する都市計画とする。	
上位の型	urf:ProjectPromotionArea	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト (Common_valid-Type.xml) より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:developmentPolicy [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	促進区域の開発の方針。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。
urf:publicFacilitiesPlans [ProjectPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の開発に必要な公共施設に関する都市計画。市街地再開発促進区域の場合は使用しない。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.5 遊休土地転換利用促進地区

4.10.3.5.1 urf:UnusedLandUsePromotionArea

表4-378

型の定義	都市計画法第10条の3第1項で定められる遊休土地転換利用促進地区。 ・ 属性urf:function、urf:usageは、使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第10条の3第2項に定める区域が設定された位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須

		とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf.validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト (Common_validType.xml) より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf.enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf.validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf.validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト (Common_validType.xml) より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。

urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.6 被災市街地復興推進地域

4.10.3.6.1 urf:UrbanDisasterRecoveryPromotionArea

表4-379

型の定義	都市計画法第10条の4第1項で定められる被災市街地復興推進地域。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:function、urf:usageは、使用しない。・ 属性urf:locationは、都市計画法第10条の3第2項に定める区域が設定された位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。

urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。

[_UrbanFunction]		
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:expirationDate [UrbanDisasterRecoveryPromotionArea]	xs:date [1..1]	都市計画法第10条の4第2項で定める別に法律で定める事項のうち、被災市街地復興特別措置法第5条の2で定められる期間満了の日。
urf:emergencyRecoveryPolicy [UrbanDisasterRecoveryPromotionArea]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条の4第2項で定める別に法律で定める事項のうち、緊急かつ健全な復興を図るための市街地の整備改善の方針。
urf:plannedProjectType [UrbanDisasterRecoveryPromotionArea]	gml:CodeType [0..1]	当該区域で実施される事業の種類。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_function.xml）より選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.7 都市施設

4.10.3.7.1 urf:UrbanFacility

表4-380

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項各号に掲げる施設。下位の地物型として定義されていない都市施設を記述したい場合には、この地物型を使用し、属性「urf:function」で地物型の内容を識別する。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

[_CityObject]		
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.2 urf:TrafficFacility

表4-381

型の定義	<p>都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項各号に掲げる施設。道路、都市高速鉄道、駐車場、自動車ターミナルその他の交通施設。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述す
------	--

	る場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:usageは使用しない。・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。

urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:startLocation [TrafficFacility]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項で定める位置 [起点の地名] 。
urf:endLocation [TrafficFacility]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項で定める位置 [終点の地名] 。
urf:viaLocations [TrafficFacility]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項で定める位置 [起点から終点までに存在する主な地名] 。

urf:length [TrafficFacility]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項で定められる区域 [起点から終点までの延長距離]。単位はm (uom="m") とする。
urf:width [TrafficFacility]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項で定められる区域 [幅員]。単位はm (uom="m") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。

urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf:parkingPlaceAttribute [TrafficFacility]	urf:ParkingPlaceAttribute [0..1]	交通施設が駐車場の場合の追加情報。
urf:urbanRapidTransitRailroadAttribute [TrafficFacility]	urf:UrbanRapidTransitRailroadAttribute [0..1]	交通施設が都市高速鉄道の場合の追加情報。
urf:urbanRoadAttribute [TrafficFacility]	urf:UrbanRoadAttribute [0..1]	交通施設が道路の場合の追加情報。
urf:vehicleTerminalAttribute [TrafficFacility]	urf:VehicleTerminalAttribute [0..1]	交通施設が自動車ターミナルの場合の追加情報。

4.10.3.7.3 urf:UrbanRoadAttribute

表4-382

型の定義	都市計画法第11条第1項第1号に定める道路について定めるべき事項。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:routeTypeNumber [UrbanRoadAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市局長通達(昭和44年建設省都計発第102号)IV(2)③で定められる区分。コードリスト（UrbanRoadAttribute_routeTypeNumber.xml）より選択する。
urf:routeSizeNumber [UrbanRoadAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市局長通達(昭和44年建設省都計発第102号)IV(2)③で定められる規模。コードリスト（UrbanRoadAttribute_routeSizeNumber.xml）より選択する。
urf:routeSerialNumber [UrbanRoadAttribute]	xs::string [0..1]	都市局長通達(昭和44年建設省都計発第102号)IV(2)③で定められる一連番号。
urf:roadType [UrbanRoadAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第1号で定める道路の種別。コードリスト（UrbanRoadAttribute_roadType.xml）より選択する。
urf:numberOfLanes [UrbanRoadAttribute]	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第1号で定める車線の数。
urf:roadStructure [UrbanRoadAttribute]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第1号で定める道路の構造。

urf:structureType [UrbanRoadAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第1号及び都市計画法施行規則第7条第1項第2号で定める構造種別。コードリスト（TrafficFacility_trafficFacilityStructureType.xml）より選択する。
urf:crossType [UrbanRoadAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第1号及び都市計画法施行規則第7条第1項第2号で定める交差種別（道路構造が地表式のみ）。コードリスト（TrafficFacility_trafficFacilityCrossingType.xml）より選択する。
urf:trafficPlazas [UrbanRoadAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第11条第1項で定める施設における交通広場の有無。コードリスト（Common_availabilityType.xml）より選択する。
urf:structuralDetails [UrbanRoadAttribute]	StructureDetails [0..*]	道路の構造の内訳。

4.10.3.7.4 urf:UrbanRapidTransitRailroadAttribute

表4-383

型の定義	都市計画法第11条第1項第1号に定める都市高速鉄道について定めるべき事項。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:structureType [UrbanRapidTransitRailroad Attribute]	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第4号及び都市計画法 施行規則第7条第1項第6号で定められる構造(鉄道構 造)。コードリスト (TrafficFacility_trafficFacilityStructure- Type.xml) より選択する。
urf:crossType [UrbanRapidTransitRailroad Attribute]	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第4号及び都市計画法 施行規則第7条第1項第6号で定められる構造（鉄道 構造が地表式のみ）。コードリスト（ TrafficFacility_ trafficFacilityCrossingType.xml）より選択する。
urf:structuralDetails [UrbanRapidTransitRailroad Attribute]	StructureDetails [0..*]	鉄道の構造の内訳。

4.10.3.7.5 urf:StructureDetails

表4-384

型の定義	道路及び都市高速鉄道の構造を区間ごとに記述するために使用する型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:startLocation [StructureDetails]	xs:string [1..1]	起点の位置。
urf:endLocation [StructureDetails]	xs:string [1..1]	終点の位置。
urf:viaLocations [StructureDetails]	xs:string [0..1]	起点から終点までに存在する主な地名。
urf:length [StructureDetails]	gml::LengthType [0..1]	区間の長さ。単位はm（uom="m"）とする。

urf:structureType [StructureDetails]	gml::CodeType [0..1]	道路又は鉄道の構造の形式。コードリスト (TrafficFacility_trafficFacilityStructureType.xml) より選択する。
urf:minimumWidth [StructureDetails]	gml::LengthType [0..1]	最小の幅員。単位はm (uom="m") とする。
urf:maximumWidth [StructureDetails]	gml::LengthType [0..1]	最大の幅員。単位はm (uom="m") とする。
urf:standardWidth [StructureDetails]	gml::LengthType [0..1]	標準的な幅員。単位はm (uom="m") とする。
urf:crossType [StructureDetails]	gml::CodeType [0..1]	交差の種別。コードリスト (TrafficFacility_trafficFacility-CrossingType.xml) より選択する。

4.10.3.7.6 urf:ParkingPlaceAttribute

表4-385

型の定義	都市計画法第11条第1項第1号に定める駐車場について定めるべき事項。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:storeysAboveGround [ParkingPlaceAttribute]	xs::nonNegativeInteger [1..1]	都市計画法施行令第6条第1項第2号及び都市計画法施行規則第7条第1項第3号に定める駐車場の地上階数。
urf:storeysBelowGround [ParkingPlaceAttribute]	xs::nonNegativeInteger [1..1]	都市計画法施行令第6条第1項第2号及び都市計画法施行規則第7条第1項第3号に定める駐車場の地下階数。

4.10.3.7.7 urf:VehicleTerminalAttribute

表4-386

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第1号に定める自動車ターミナルについて定めるべき事項。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:terminalType [VehicleTerminalAttribute]	gml::CodeType [1..1]	都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。 コードリスト（VehicleTerminalAttribute_terminalType.xml）から選択する。

4.10.3.7.8 urf:OpenSpaceForPublicUse

表4-387

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第2号に定める公園、緑地、広場、墓園その他の公共空地。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト (UrbanFacility_function.xml) に定義されていない都市施設を記述す
------	---

	る場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:usageは使用しない。・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。

urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf:parkAttribute [OpenSpaceForPublicUse]	urf:ParkAttribute [0..1]	公共空地が公園の場合の追加情報。

4.10.3.7.9 urf:ParkAttribute

表4-388

型の定義	都市計画法第11条第1項第2号に定める公園について定めるべき事項。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:parkTypeNumber [ParkAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市局長通達(昭和44年建設省都計発第102号)IV(4)②にて定められる一連番号。
urf:parkSizeNumber [ParkAttribute]	gml::CodeType [0..1]	都市局長通達(昭和44年建設省都計発第102号)IV(4)②にて定められる規模。コードリスト（ParkAttribute_parkSizeNumber.xml）より選択する。
urf:parkSerialNumber [ParkAttribute]	xs::string [0..1]	都市局長通達(昭和44年建設省都計発第102号)IV(4)②にて定められる区分。コードリスト（ParkAttribute_parkTypeNumber.xml）より選択する。

4.10.3.7.10 urf:SupplyFacility

表4-389

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第3号に定める水道、電気供給施設、ガス供給施設その他の供給施設。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。

urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf:waterWorksAttribute [SupplyFacility]	urf:WaterWorksAttribute [0..1]	供給施設が水道の場合の追加情報。

4.10.3.7.11 urf:WaterWorksAttribute

表4-390

型の定義	都市計画法第11条第1項第3号に定める水道について定めるべき事項。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:startLocation [WaterWorksAttribute]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項で定める位置 [起点の町丁目又は字] 。
urf:endLocation [WaterWorksAttribute]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項で定める位置 [終点の町丁目又は字] 。

4.10.3.7.12 urf:TreatmentFacility

表4-391

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第3号に定める下水道、汚物処理場、ごみ焼却場その他の処理施設。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs::gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。

urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf:sewerSystemsAttribute [TreatmentFacility]	urf:SewerSystemAttribute [0..1]	処理施設が下水道の場合の追加情報。

4.10.3.7.13 urf:SewerSystemAttribute

表4-392

型の定義	都市計画法第11条第1項第3号に定める下水道について定めるべき事項。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:startLocation [SewerSystemAttribute]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項で定める位置 [起点の町丁目又は字] 。
urf:endLocation [SewerSystemAttribute]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項で定める位置 [終点の町丁目又は字] 。
urf:systemType [SewerSystemAttribute]	gml::CodeType [0..1]	下水道法施行規則第19条第1項第3号で定められる種別。コードリスト (SewerSystemAttribute_systemType.xml) より選択する。
urf:drainageArea [SewerSystemAttribute]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第6号に定められた排水区域。

4.10.3.7.14 urf:Waterway

表4-393

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第4号に定める河川、運河、その他の水路。 <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種別。コードリスト (UrbanFacility_function.xml) に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種別を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
上位の型	urf:UrbanFacility
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。

urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:startLocation [Waterway]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項に定める「位置」を表す水路の起点位置。
urf:endLocation [Waterway]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第2項に定める「位置」を表す水路の終点位置。
urf:structure [Waterway]	gml:CodeType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第4号に定める「構造」。コードリスト（Waterway_structure.xml）より選択する。
urf:length [Waterway]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位はm（uom="m"とする。）
urf:width [Waterway]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位はm（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。

[_CityObject]		
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。

urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.15 urf:EducationalAndCulturalFacility

表4-394

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第5号に定める学校、図書館、研究施設その他の教育文化施設。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。 ・ 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf.validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須

		とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf.validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf.enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf.validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf.validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.16 urf:MedicalFacility

表4-395

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第6号に定める病院その他の医療施設。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。 ・ 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。

urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、 gen:_GenericAttribute の下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.17 urf:SocialWelfareFacility

表4-396

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第6号に定める保育所その他の社会福祉施設。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。・ 属性urf:usageは使用しない。・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。・ 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.18 urf:MarketsSlaughterhousesCrematoria

表4-397

型の定義	<p>都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第7号に定める市場、と畜場又は火葬場。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。
------	---

	・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。 ・ 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。

		<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.19 urf:CollectiveHousingFacilities

表4-398

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第8号に定める、一団地における50戸以上の集団住宅及びこれらに附帯する通路その他の施設（一団地の住宅施設）。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。

[_UrbanFunction]		
urf.validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf.validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.number	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。

[UrbanFacility]		
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:buildingCoverageRate [CollectiveHousingFacilities]	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第7号に定める建ぺい率の限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:floorAreaRate [CollectiveHousingFacilities]	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第7号に定める容積率の限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:numberOfLowRiseHousing [CollectiveHousingFacilities]	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第7号に定める低層住宅の予定戸数。
urf:numberOfMiddleRiseHousing [CollectiveHousingFacilities]	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第7号に定める中層住宅の予定戸数。
urf:numberOfHighRiseHousing [CollectiveHousingFacilities]	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第7号に定める高層住宅の予定戸数。
urf:totalNumberOfHousing [CollectiveHousingFacilities]	xs::integer [0..1]	住宅予定戸数の合計。
urf:publicFacilitiesAllocationPolicy [CollectiveHousingFacilities]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第7号に定める公益的施設、住宅及び公共施設の配置方針。
urf:scheduledExecutor [CollectiveHousingFacilities]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第5項に定める都市施設に関する都市計画事業の施行予定者。区域の面積が二十ヘクタール以上の一団地の住宅施設の場合に適用する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.20 urf:CollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities

表4-399

型の定義	<p>都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第9号に定める、一団地の国家機関又は地方公共団体の建築物及びこれらの付帯に関する通路その他の施設（一団地の官公庁施設）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。
上位の型	urf:UrbanFacility
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。

urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf.buildingCoverageRate [CollectiveGovernmentAnd PublicOfficeFacilities]	xs:integer [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第8号に定める建ぺい率の限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf.floorAreaRate [CollectiveGovernmentAnd PublicOfficeFacilities]	xs:integer [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第8号に定める容積率の限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf.publicFacilitiesAllocation Policy [CollectiveGovernmentAnd PublicOfficeFacilities]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法施行令第6条第1項第8号に定める公益的施設、住宅及び公共施設の配置方針。

urf:scheduledExecutor [CollectiveGovernmentAnd PublicOfficeFacilities]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第5項に定める都市施設に関する 都市計画事業の施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書 では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用し ない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルで の表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書 では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用し ない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現 に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書で は使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しな い。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書で は使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれ た平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使 用しない。

uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.21 urf:DistributionBusinessPark

表4-400

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第11号に定める施設（流通業務団地）。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。

urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。

[_UrbanFunction]		
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:distributionBusinessPark [DistributionBusinessPark]	gml:StringOrRefType [0..1]	流通業務市街地整備法第7条第2項に定める流通業務施設の敷地の位置及び規模。
urf:publicAndUtilityFacilities [DistributionBusinessPark]	gml:StringOrRefType [0..1]	流通業務市街地整備法第7条第2項に定める公共施設及び公益的施設の位置及び規模。
urf:buildingCoverageRate [DistributionBusinessPark]	xs:integer [0..1]	流通業務市街地整備法第7条第3項に定める建ぺい率の限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は％）
urf:floorAreaRate [DistributionBusinessPark]	xs:integer [0..1]	流通業務市街地整備法第7条第3項に定める容積率の限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は％）
urf:maximumBuildingHeight [DistributionBusinessPark]	gml::LengthType [0..1]	流通業務市街地整備法第7条第3項に定める建築物の高さの最高限度。単位はm（uom="m"）とする。
urf:minimumBuildingHeight [DistributionBusinessPark]	gml::LengthType [0..1]	流通業務市街地整備法第7条第3項に定める建築物の高さの最低限度。単位はm（uom="m"）とする。
urf:setbackSize [DistributionBusinessPark]	gml:StringOrRefType [0..1]	流通業務市街地整備法第7条第3項に定める外壁の後退距離。
urf:scheduledExecutor [DistributionBusinessPark]	xs:string [0..1]	都市計画法第11条第5項に定める都市施設に関する都市計画事業の施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.22 urf:CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention

表4-401

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第12号に定める施設。 津波防災地域づくりに関する法律（平成二十三年法律第二百二十三号）第二条第十五項に規定する一団地の津波防災拠点市街地形成施設。
------	--

	<ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。

urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:housingFacilities [CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]	gml:StringOrRefType [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第1号に定める住宅施設の位置及び規模。
urf:supecificBusinessFacilities	gml:StringOrRefType [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第1号に定める特定業務施設の位置及び規模。

[CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]		
urf:publicFacilities [CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]	gml:StringOrRefType [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第1号に定める公共施設の位置及び規模。
urf:utilityFacilities [CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]	gml:StringOrRefType [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第1号に定める公益的施設の位置及び規模。
urf:maximumBuildingHeight [CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]	gml::LengthType [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第2号に定める建築物の高さの最高限度。単位はm (uom="m") とする。
urf:minimumBuildingHeight [CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]	gml::LengthType [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第2号に定める建築物の高さの最低限度。単位はm (uom="m") とする。
urf:maximumFloorAreaRate [CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]	xs::integer [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第2号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumFloorAreaRate [CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]	xs::integer [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第2号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:maximumBuildingCoverageRate [CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention]	xs::integer [0..1]	津波防災地域づくり法第17条第2項第2号に定める建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.23 urf:CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization

表4-402

型の定義	<p>都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第13号に定める施設。福島復興再生特別措置法（平成二十四年法律第二十五号）第三十二条第一項に規定する一団地の復興再生拠点市街地形成施設。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。
上位の型	urf:UrbanFacility
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。

urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf.housingFacilities [CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]	gml:StringOrRefType [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第1号に定める住宅施設の位置及び規模。
urf.supecificBusinessFacilities [CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]	gml:StringOrRefType [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第1号に定める特定業務施設の位置及び規模。
urf.publicFacilities [CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]	gml:StringOrRefType [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第1号に定める公共施設の位置及び規模。
urf.utilityFacilities	gml:StringOrRefType [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第1号に定める公益的施設の位置及び規模。

[CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]		
urf:maximumBuildingHeight [CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]	gml::LengthType [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第2号に定める建築物の高さの最高限度。単位はm (uom="m") とする。
urf:minimumBuildingHeight [CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]	gml::LengthType [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第2号に定める建築物の高さの最低限度。単位はm (uom="m") とする。
urf:maximumFloorAreaRate [CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]	xs::integer [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第2号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumFloorAreaRate [CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]	xs::integer [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第2号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:maximumBuildingCoverageRate [CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization]	xs::integer [0..1]	福島復興再生特措法第32条第2項第2号に定める建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、 gen:_GenericAttribute の下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.24 urf:CollectiveFacilitiesForReconstruction

表4-403

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第14号に定める施設。大規模災害からの復興に関する法律（平成二十五年法律第五十五号）第二条第八号に規定する一団地拠点市街地形成施設。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:housingFacilities [CollectiveFacilitiesForReconstruction]	gml:StringOrRefType [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第1号に定める住宅施設の位置及び規模。
urf:supecificBusinessFacilities [CollectiveFacilitiesForReconstruction]	gml:StringOrRefType [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第1号に定める特定業務施設の位置及び規模。
urf:publicFacilities [CollectiveFacilitiesForReconstruction]	gml:StringOrRefType [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第1号に定める公共施設の位置及び規模。
urf:utilityFacilities [CollectiveFacilitiesForReconstruction]	gml:StringOrRefType [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第1号に定める公益的施設の位置及び規模。
urf:maximumBuildingHeight [CollectiveFacilitiesForReconstruction]	gml::LengthType [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第2号に定める建築物の高さの最高限度。単位はm（uom="m"）とする。
urf:minimumBuildingHeight [CollectiveFacilitiesForReconstruction]	gml::LengthType [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第2号に定める建築物の高さの最低限度。単位はm（uom="m"）とする。

urf:maximumFloorAreaRate [CollectiveFacilitiesForRecon- struction]	xs::integer [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第2号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は％）
urf:minimumFloorAreaRate [CollectiveFacilitiesForRecon- struction]	xs::integer [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第2号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は％）
urf:maximumBuildingCover- ageRate [CollectiveFacilitiesForRecon- struction]	xs::integer [0..1]	大規模災害復興法第41条第2項第2号に定める建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は％）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。

[_UrbanFunction]		標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.25 urf:CollectiveUrbanDisasterPreventionFacilities

表4-404

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第10号に定める施設（一団地の都市安全確保拠点施設）。洪水、湛水、津波、高潮その他の自然現象による災害が発生した場合における居住者等（居住者、来訪者又は滞在者をいう。以下同じ。）の安全を確保するための拠点となる一団地の特定公益的施設（避難場所の提供、生活関連物資の配布、保健医療サービスの提供その他の当該災害が発生した場合における居住者等の安全を確保するために必要な機能を有する集会施設、購買施設、医療施設その他の施設をいう。）及び公共施設をいう。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。

core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合 は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っ ている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:specificUtilityAndPublicFa- cilities [CollectiveUrbanDisasterPre- ventionFacilities]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第11条第4項第1号に定める特定公益施設 及び公共施設の位置及び規模。
urf:maximumBuildingHeight [CollectiveUrbanDisasterPre- ventionFacilities]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第4項第2号に定める建築物の高さ の最高限度。単位はm (uom="m") とする。
urf:minimumBuildingHeight [CollectiveUrbanDisasterPre- ventionFacilities]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第4項第2号に定める建築物の高さ の最低限度。単位はm (uom="m") とする。
urf:maximumFloorAreaRate [CollectiveUrbanDisasterPre- ventionFacilities]	xs:integer [0..1]	都市計画法第11条第4項第2号に定める延べ面積の敷 地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」と する割合 (百分率) で記述する。 (単位は%)
urf:minimumFloorAreaRate [CollectiveUrbanDisasterPre- ventionFacilities]	xs:integer [0..1]	都市計画法第11条第4項第2号に定める延べ面積の敷 地面積に対する割合の最低限度。全体を「100」と する割合 (百分率) で記述する。 (単位は%)
urf:maximumBuildingCover- ageRate [CollectiveUrbanDisasterPre- ventionFacilities]	xs:integer [0..1]	都市計画法第11条第4項第2号に定める建築面積の敷 地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」と する割合 (百分率) で記述する。 (単位は%)
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。

[_CityObject]		
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。

urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.26 urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder

表4-405

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第15号の政令で定める施設。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須

		とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf.validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト (Common_validType.xml) より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf.enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf.validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf.validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト (Common_validType.xml) より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:length [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位は m（uom="m"）とする。
urf:width [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位は m（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.27 urf:TelecommunicationFacility

表4-406

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第15号の政令で定める電気通信事業の用に供する施設。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。

[_CityObject]		
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
urf:length [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位はm（uom="m"）とする。
urf:width [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位はm（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。

uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.28 urf:WindProtectionFacility

表4-407

型の定義	<p>都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第15号の政令で定める防風の施設。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述す
------	---

	る場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:usageは使用しない。・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。・ 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。

[_UrbanFunction]		
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。 不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
urf:length [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位はm（uom="m"）とする。
urf:width [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位はm（uom="m"）とする。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.29 urf:FireProtectionFacility

表4-408

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第15号の政令で定める防火の施設。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

[_UrbanFunction]		<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf.validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf.enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf.validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf.validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 <ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

[_UrbanFunction]		
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
urf:length [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位は m（uom="m"）とする。
urf:width [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位は m（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.30 urf:TideFacility

表4-409

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第15号の政令で定める防潮の施設。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。 ・ 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。

core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。

		都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
urf:length [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位はm (uom="m") とする。
urf:width [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位はm (uom="m") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.31 urf:FloodPreventionFacility

表4-410

型の定義	<p>都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第15号の政令で定める防水の施設。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:usageは使用しない。
------	---

	・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。	
上位の型	urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。

		多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
urf.length [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位はm（uom="m"）とする。
urf.width [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位はm（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。

urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.32 urf:SnowProtectionFacility

表4-411

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第15号の政令で定める防雪の施設。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。 ・ 関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。

urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
urf:length [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位は m（uom="m"）とする。
urf:width [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml:LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位は m（uom="m"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.7.33 urf:SandControlFacility

表4-412

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第11条第1項第15号の政令で定める防砂の施設。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設の種類。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第11条第2項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。関連役割urf:threeDimensionalExtentは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。

core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。

		都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:number [UrbanFacility]	xs:string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
urf:length [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す延長。単位はm (uom="m") とする。
urf:width [UrbanFacilityStipulatedBy-CabinetOrder]	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第11条第2項の区域を示す幅員。単位はm (uom="m") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:threeDimensionalExtent [UrbanFacility]	urf:ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。立体的な範囲が定められている場合にのみ作成する。

4.10.3.8 市街地開発事業

4.10.3.8.1 urf:UrbanDevelopmentProject

表4-413

型の定義	都市計画法第12条に定める市街地開発事業。 下位の地物型として定義されていない市街地開発事業を記述したい場合には、この地物型を使用し、属性「function」で地物型を識別する。
------	--

	<ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian	xs:string [0..1]	決定者。

[_UrbanFunction]		・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機関の名称。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.8.2 urf:LandReadjustmentProject

表4-414

型の定義	都市計画法第12条第1項第1号に定める事業。土地区画整理法（昭和二十九年法律第百十九号）による土地区画整理事業。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usage、urf:scheduledExecutorは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト (Common_valid-Type.xml) より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機関の名称。

自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:publicFacilityAllocation [_LandReadjustmentProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市計画法第12条第3項に定める公共施設の配置。
urf:buildingLotDevelopment [_LandReadjustmentProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市計画法第12条第3項に定める宅地の整備に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。

		区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.8.3 urf:NewHousingAndUrbanDevelopmentProject

表4-415

型の定義	都市計画法第12条第1項第2号に定める事業。新住宅市街地開発法（昭和三十八年法律第百三十四号）による新住宅市街地開発事業。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。

urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。

[_UrbanFunction]		
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:housing [NewHousingAndUrbanDevelopmentProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	新住宅市街地開発法第4条に定める住区。
urf:publicFacilityAllocation [NewHousingAndUrbanDevelopmentProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	新住宅市街地開発法第4条に定める公共施設の配置及び規模。
urf:residentialLandUsePlan [NewHousingAndUrbanDevelopmentProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	新住宅市街地開発法第4条に定める宅地の利用計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.8.4 urf:IndustrialParkDevelopmentProject

表4-416

型の定義	都市計画法第12条第1項第3号に定める事業。首都圏の近郊整備地帯及び都市開発区域の整備に関する法律（昭和三十三年法律第九十八号）による工業団地造成事業又は近畿圏の近郊整備区域及び都市開発区域の整備及び開発に関する法律（昭和三十九年法律第百四十五号）による工業団地造成事業。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。

core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機 関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:publicFacilityAllocation [IndustrialParkDevelopment Project]	gml:StringOrRefType [1..1]	首都圏の近郊整備地帯及び都市開発区域の整備に関 する法律第5条第1項又は近畿圏の近郊整備区域及び 都市開発区域の整備及び開発に関する法律第7条第1 項に定める公共施設の配置及び規模。
urf:residentialLandUsePlan [IndustrialParkDevelopment Project]	gml:StringOrRefType [1..1]	首都圏の近郊整備地帯及び都市開発区域の整備に関 する法律第5条第1項又は近畿圏の近郊整備区域及び 都市開発区域の整備及び開発に関する法律第7条第1 項に定める宅地の利用計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用す る。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用 する。
gen:stringAttribute	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.8.5 urf:UrbanRedevelopmentProject

表4-417

型の定義	都市計画法第12条第1項第4号に定める事業。都市再開発法による市街地再開発事業。
------	--

	<ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、市街地再開発事業の種類とする。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_usage.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:scheduledExecutorは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。

urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:publicFacilityAllocation [UrbanRedevelopmentProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	都市再開発法第4条第1項に定める公共施設の配置及び規模。
urf:developmentPlan	gml:StringOrRefType [1..1]	都市再開発法第4条第1項に定める建築物及び建築敷地の整備計画。

[UrbanRedevelopment Project]		
urf:housingTarget [UrbanRedevelopment Project]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市再開発法第5条に定める当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の戸数その他住宅建設の目標。
urf:siteArea [UrbanRedevelopment Project]	gml::MeasureType [0..1]	都市再開発法第5条に定める当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の敷地面積。単位はm2 (uom="m2") とする。
urf:totalFloorArea [UrbanRedevelopment Project]	gml::MeasureType [0..1]	都市再開発法第5条に定める当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の延床面積。単位はm2 (uom="m2") とする。
urf:numberOfHousing [UrbanRedevelopment Project]	xs:integer [0..1]	都市再開発法第5条に定める当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の戸数。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.8.6 urf:NewUrbanInfrastructureProject

表4-418

型の定義	都市計画法第12条第1項第5号に定める事業。新都市基盤整備法（昭和四十七年法律第八十六号）による新都市基盤整備事業。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。

urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:landForCentralPublicFacilities [NewUrbanInfrastructureProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	新都市基盤整備法第4条第1項に定める根幹公共施設の用に供すべき土地の区域。
urf:districtsAllocation [NewUrbanInfrastructureProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	新都市基盤整備法第4条第1項に定める開発誘導地区の配置及び規模。
urf:landUsePlan [NewUrbanInfrastructureProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	新都市基盤整備法第4条第1項に定める開発誘導地区内の土地の利用計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.8.7 urf:ResidentialBlockConstructionProject

表4-419

型の定義	都市計画法第12条第1項第6号に定める事業。大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法による住宅街区整備事業。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト (UrbanDevelopmentProject_function.xml) より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。
上位の型	urf:UrbanDevelopmentProject
ステレオタイプ	<< FeatureType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。

urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:publicFacilityAllocation [ResidentialBlockConstructionProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	大都市における住宅及び住宅地の供給促進に関する特別措置法第31条第2項に定める公共施設の配置及び規模。
urf:developmentPlan [ResidentialBlockConstructionProject]	gml:StringOrRefType [0..1]	大都市における住宅及び住宅地の供給促進に関する特別措置法第31条第2項に定める施設住宅の建設に関する計画。
urf:siteArea [ResidentialBlockConstructionProject]	gml:MeasureType [0..1]	当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の敷地面積。単位はm2（uom="m2"）とする。
urf:totalFloorArea [ResidentialBlockConstructionProject]	gml:MeasureType [0..1]	当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の延床面積。単位はm2（uom="m2"）とする。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.8.8 urf:DisasterPreventionBlockImprovementProject

表4-420

型の定義	都市計画法第12条第1項第7号に定める事業。密集市街地整備法による防災街区整備事業。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト（UrbanDevelopmentProject_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usage、urf:scheduledExecutorは、使用しない。	
上位の型	urf:UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。

urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:disasterPreventionPublic FacilityAllocation [DisasterPreventionBlockIm- provementProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	密集市街地整備法第120条第1項に定める防災公共施設の配置及び規模。
urf:otherPublicFacilityAlloca- tion [DisasterPreventionBlockIm- provementProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	密集市街地整備法第120条第1項に定めるその他の公共施設の配置及び規模。
urf:developmentPlan [DisasterPreventionBlockIm- provementProject]	gml:StringOrRefType [1..1]	密集市街地整備法第120条第1項に定める防災施設建築物の整備に関する計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.8.9 urf:UrbanRenewalProject

表4-421

型の定義	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関する法律(昭和36年法律第109号)第3条で定められる、旧都市計画法(大正8年法律第36号)第3条の定める手続きによって都市計画として決定された市街地改造事業。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条第2項に定める市街地開発事業の種類とする。コードリスト (UrbanDevelopmentProject_function.xml) より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。・ 属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。

core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合 は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っ ている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [UrbanDevelopmentProject]	xs:string [0..1]	都市計画法第12条第5項に定める事業の実施予定機 関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:storeysAboveGround [UrbanRenewalProject]	xs::nonNegativeInteger [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関す る法律第4条第2項で定められる建築物の整備に関す る計画に示される建築物の地上階数。
urf:storeysBelowGround [UrbanRenewalProject]	xs::nonNegativeInteger [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関す る法律第4条第2項で定められる建築物の整備に関す る計画に示される建築物の地下階数。
urf:setbackSize [UrbanRenewalProject]	gml:StringOrRefType [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関す る法律第4条第2項で定められる建築物の整備に関す る計画に示される壁面の位置の限度。
urf:floorAreaRate [UrbanRenewalProject]	xs::integer [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関す る法律第4条第2項で定められる建築物の整備に関す る計画に示される容積の限度。全体を「100」とする 割合 (百分率) で記述する。(単位は%)
urf:buildingUsage [UrbanRenewalProject]	xs:string [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関す る法律第4条第2項で定められる建築物の整備に関す る計画に示される主な用途。
urf:siteArea [UrbanRenewalProject]	gml::MeasureType [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関す る法律第4条第2項で定められる建築物の整備に関す る計画に示される建築敷地の面積。単位はm2 (uom= "m2") とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。

gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。

urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
------------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------

4.10.3.9 市街地開発事業の予定区域

4.10.3.9.1 urf:ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject

表4-422

型の定義	都市計画法第12条の2に定める予定区域。 下位の地物型として定義されていない市街地開発事業等予定区域を定義したい場合には、この地物型を使用し、属性urf:functionで地物型を識別する。 <ul style="list-style-type: none">属性gml:nameは、都市計画法第12条の2第2項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。運用上必須とする。文字列とする。属性urf:functionは、都市計画法第12条の2第2項に定める市街地開発事業予定区域の種類とする。コードリスト（ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。

urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:scheduledExecutor [ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject]	xs:string [1..1]	都市計画法第12条の2第2項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.9.2 urf:ScheduledAreaForNewHousingAndUrbanDevelopmentProjects

表4-423

型の定義	都市計画法第12条の2第1項第1号に定める新住宅市街地開発事業の予定区域。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性gml:nameは、都市計画法第12条の2第2項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。運用上必須とする。文字列とする。・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条の2第2項に定める市街地開発事業予定区域の種類とする。コードリスト（ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。・ 属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function	gml::CodeType [0..*]	機能。

[_UrbanFunction]		これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject]	xs:string [1..1]	都市計画法第12条の2第2項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。

		標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.9.3 urf:ScheduledAreaForIndustrialParkDevelopmentProjects

表4-424

型の定義	都市計画法第12条の2第1項第2号に定める工業団地造成事業の予定区域。 <ul style="list-style-type: none">属性gml:nameは、都市計画法第12条の2第2項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。運用上必須とする。文字列とする。属性urf:functionは、都市計画法第12条の2第2項に定める市街地開発事業予定区域の種類とする。コードリスト（ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。

core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。

urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject]	xs:string [1..1]	都市計画法第12条の2第2項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.9.4 urf:ScheduledAreaForNewUrbanInfrastructureProjects

表4-425

型の定義	都市計画法第12条の2第1項第3号に定める新都市基盤整備事業の予定区域。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性gml:nameは、都市計画法第12条の2第2項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。運用上必須とする。文字列とする。・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条の2第2項に定める市街地開発事業予定区域の種類とする。コードリスト（ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。・ 属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。

core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [ScheduledAreaForUrbanDe- velopmentProject]	xs:string [1..1]	都市計画法第12条の2第2項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用す る。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用 する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書 では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用し ない。

urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.9.5 urf:ScheduledAreaForCollectiveHousingFacilities

表4-426

型の定義	都市計画法第12条の2第1項第4号に定める区域の面積が20ha以上の一団地の住宅施設の予定区域。 ・ 属性gml:nameは、都市計画法第12条の2第2項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。運用上必須とする。文字列とする。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条の2第2項に定める市街地開発事業予定区域の種類とする。コードリスト（ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。

gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject]	xs:string [1..1]	都市計画法第12条の2第2項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。

uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.9.6 urf:ScheduledAreaForCollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities

表4-427

型の定義	都市計画法第12条の2第1項第5号に定める一団地の官公庁施設の予定区域。
------	--------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none">属性gml:nameは、都市計画法第12条の2第2項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。運用上必須とする。文字列とする。属性urf:functionは、都市計画法第12条の2第2項に定める市街地開発事業予定区域の種類とする。コードリスト（ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。

[_UrbanFunction]		
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。 不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject]	xs:string [1..1]	都市計画法第12条の2第2項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.9.7 urf:ScheduledAreaForDistributionBusinessPark

表4-428

型の定義	都市計画法第12条の2第1項第6号に定める流通業務団地の予定区域。 <ul style="list-style-type: none">属性gml:nameは、都市計画法第12条の2第2項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。運用上必須とする。文字列とする。属性urf:functionは、都市計画法第12条の2第2項に定める市街地開発事業予定区域の種類とする。コードリスト（ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。	
上位の型	urf:ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト (Common_valid-Type.xml) より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:scheduledExecutor [ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject]	xs:string [1..1]	都市計画法第12条の2第2項に定める施行予定者。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.10 地区計画等

4.10.3.10.1 urf:DistrictPlan

表4-429

型の定義	地区計画。地区計画とは、建築物の建築形態、公共施設その他の施設の配置等からみて、一体としてそれぞれの区域の特性にふさわしい態様を備えた良好な環境の各街区を整備し、開発し、及び保全するための計画。（都市計画法第12条の4第1項第1号） 促進区を定める場合、「再開発促進区を定める地区計画」又は「開発整備促進区を定める地区計画」となる。 <ul style="list-style-type: none">・ 属性gml:nameは、都市計画法第12条の4第2項で定める名称（地区計画を識別する名前）とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。文字列とする。・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区計画の種類とする。促進区を定める場合、当該地区計画は、再開発等促進区又は開発整備促進区を定める地区計画となる。コードリスト（DistrictPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。・ 属性urf:usageは使用しない。・ 属性urf:locationは、都市計画法第12条の4第2項に定める位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。・ 属性urf:objectivesは、都市計画法第12条の5第2項第2号に定める当該地区計画の目標とする。・ 属性urf:policyは、都市計画法第12条の5第2項第3号に定める当該区域の整備、開発及び保全に関する方針とする。・ 関連役割urf:districtDevelopmentPlanは、都市計画法第12条の5第2項第1号に定める当該地区計画等に定められた地区整備計画とする。・ 関連役割urf:promotionDistrictは、当該地区計画等に再開発等促進区や開発整備促進区を定める場合の促進区とする。促進区を定める場合のみ作成する。促進区を定める場合、「再開発促進区を定める地区計画」又は「開発整備促進区を定める地区計画」となる。	
上位の型	urf:_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。

[_CityObject]		
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は 使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨って いる場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:objectives [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該地区計画等の目標。
urf:policy [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の整備、開発及び保全に関する方針。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:facilityAllocation [DistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	道路、公園その他の政令で定める施設 (都市計画施 設及び沿道地区施設を除く。) の配置及び規模。 地区計画に促進区を定める場合に作成する。 (都市 計画法第12条の5第5項第1号)
urf:landUsePolicy [DistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	土地利用に関する基本方針。 地区計画に促進区を定める場合に作成する。 (都市 計画法第12条の5第5項第2号)
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用す る。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用 する。

gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:districtDevelopmentPlan [_AbstractDistrictPlan]	urf:DistrictDevelopmentPlan [0..*]	都市計画法第12条の5第2項第1号に定める当該地区計画等に定められた地区整備計画。
urf:promotionDistrict [_AbstractDistrictPlan]	urf:PromotionDistrict [0..*]	当該地区計画等に促進区を定める場合の促進区。

4.10.3.10.2 urf:RoadsideDistrictPlan

表4-430

型の定義	幹線道路の沿道の整備に関する法律（昭和五十五年法律第三十四号）第9条第1項の規定による沿道地区計画。 <ul style="list-style-type: none">属性gml:nameは、都市計画法第12条の4第2項で定める名称（地区計画を識別する名前）とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。文字列とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区計画の種類とする。沿道再開発等促進区を定める場合は、沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画となる。コードリスト（DistrictPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:locationは、都市計画法第12条の4第2項に定める位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:policyは、幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第2項第2号に定める沿道の整備に関する方針とする。関連役割urf:districtDevelopmentPlanは、幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第2項第1号に定める当該沿道地区計画に定められた沿道地区整備計画とする。関連役割urf:promotionDistrictは、沿道再開発等促進区とする。沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画の場合にのみ作成する。	
上位の型	urf:_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

		<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf.validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト (Common_validType.xml) より選択する。 <ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf.enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf.validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf.validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト (Common_validType.xml) より選択する。
urf.expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf.legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf.custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 <ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト (Common_urbanPlanType.xml) より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

[_UrbanFunction]		
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:objectives [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該地区計画等の目標。
urf:policy [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の整備、開発及び保全に関する方針。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:facilitiesAllocation [RoadsideDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	道路、公園その他の政令で定める施設（都市計画施設及び沿道地区施設を除く。）の配置及び規模。沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画の場合に作成する（幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第4項）。
urf:landUsePolicy [RoadsideDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	土地利用に関する基本方針。沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画の場合に作成する（幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第4項）。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:districtDevelopmentPlan [_AbstractDistrictPlan]	urf:DistrictDevelopmentPlan [0..*]	都市計画法第12条の5第2項第1号に定める当該地区計画等に定められた地区整備計画。
urf:promotionDistrict [_AbstractDistrictPlan]	urf:PromotionDistrict [0..*]	当該地区計画等に促進区を定める場合の促進区。

4.10.3.10.3 urf:RuralDistrictPlan

表4-431

型の定義	<p>集落地域整備法（昭和六十二年法律第六十三号）第5条第1項の規定による集落地区計画。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 属性gml:nameは、都市計画法第12条の4第2項で定める名称（地区計画を識別する名前）とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。文字列とする。 ・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区計画の種類とする。コードリスト（DistrictPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性urf:usageは使用しない。 ・ 属性locationは、都市計画法第12条の4第2項に定める位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 ・ 属性objectivesは、集落整備法第5条第4項に定める集落地区計画の目標とする。 ・ 属性policyは、集落整備法第5条第4項に定める区域の整備、開発及び保全に関する方針とする。
------	---

	<ul style="list-style-type: none">・ 関連役割urf:districtDevelopmentPlanは、集落地区整備法第5条第3項に定める当該集落地区計画に定められた集落地区整備計画とする。・ 関連役割urf:promotionDistrictは、使用しない。	
上位の型	urf:_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。

		<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:objectives [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該地区計画等の目標。
urf:policy [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の整備、開発及び保全に関する方針。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

urf:districtDevelopmentPlan [_AbstractDistrictPlan]	urf:DistrictDevelopmentPlan [0..*]	都市計画法第12条の5第2項第1号に定める当該地区計画等に定められた地区整備計画。
urf:promotionDistrict [_AbstractDistrictPlan]	urf:PromotionDistrict [0..*]	当該地区計画等に促進区を定める場合の促進区。

4.10.3.10.4 urf:HistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrictPlan

表4-432

型の定義	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（平成二十年法律第四十号）第31条第1項の規定による歴史的風致維持向上地区計画。 <ul style="list-style-type: none">属性gml:nameは、都市計画法第12条の4第2項で定める名称（地区計画を識別する名前）とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。文字列とする。属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区計画の種類とする。コードリスト（DistrictPlan_function.xml,DistrictPlan_function.xml,DistrictPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第12条の4第2項に定める位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:objectivesは、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第31条第2項第2号に定める当該地区計画の目標とする。属性urf:policyは、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第31条第2項第4号に定める当該地区計画の方針とする。関連役割urf:districtDevelopmentPlanは、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第31条第2項第1号に示される歴史的風致維持向上地区整備計画とする。関連役割urf:promotionDistrictは、使用しない。	
上位の型	urf:_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。

		これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:objectives [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該地区計画等の目標。
urf:policy [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の整備、開発及び保全に関する方針。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:landUsePolicy [HistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第31条第2項第3号に定める土地利用に関する基本方針。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:districtDevelopmentPlan [_AbstractDistrictPlan]	urf:DistrictDevelopmentPlan [0..*]	都市計画法第12条の5第2項第1号に定める当該地区計画等に定められた地区整備計画。
urf:promotionDistrict [_AbstractDistrictPlan]	urf:PromotionDistrict [0..*]	当該地区計画等に促進区を定める場合の促進区。

4.10.3.10.5 urf:DisasterPreventionBlockImprovementZonePlan

表4-433

型の定義	<p>密集市街地整備法第32条第1項の規定による防災街区整備地区計画。（都市計画法第12条の4第1項第2号）</p> <p>防災街区整備地区計画については、都市計画法第12条の4第2項に定める事項のほか、都市計画に、密集市街地法第32条第2項第1号及び第2号に掲げる事項を定めるものとするとともに、第3号に掲げる事項を定めるよう努めるものとする。</p> <p>a) 特定建築物地区整備計画 b) 防災街区整備地区整備計画 c) 当該防災街区整備地区計画の目標その他当該区域の整備に関する方針</p> <p>関連役割「地区整備計画」により、「特定建築物地区整備計画」及び「防災街区整備地区整備計画」を保持する。</p>
------	---

	<ul style="list-style-type: none">属性gml:nameは、都市計画法第12条の4第2項で定める名称（地区計画を識別する名前）とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。文字列とする。属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区計画の種類とする。促進区を定める場合、当該地区計画は、再開発等促進区又は開発整備促進区を定める地区計画となる。コードリスト（DistrictPlan_function.xml,DistrictPlan_function.xml,DistrictPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは使用しない。属性urf:locationは、都市計画法第12条の4第2項に定める位置とする。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:objectivesは、密集市街地整備法第32条第2項第3号に定める当該地区計画の目標とする。属性urf:policyは、密集市街地整備法第32条第2項第3号に定める当該地区計画の方針とする。関連役割urf:districtDevelopmentPlanは、防災街区整備地区計画に定められた特定建築物地区整備計画及び防災街区整備地区整備計画とする。関連役割urf:promotionDistrictは、使用しない。	
上位の型	urf:_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。

		・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。

[Zone]		[記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:objectives [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該地区計画等の目標。
urf:policy [_AbstractDistrictPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	当該区域の整備、開発及び保全に関する方針。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:zonalDisasterPreventionFacilitiesAllocation [DisasterPreventionBlockImprovementZonePlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	地区防災施設の区域。
urf:specifiedZonalDisasterPreventionFacilitiesAllocation [DisasterPreventionBlockImprovementZonePlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	特定地区防災施設の区域。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:districtDevelopmentPlan [_AbstractDistrictPlan]	urf:DistrictDevelopmentPlan [0..*]	都市計画法第12条の5第2項第1号に定める当該地区計画等に定められた地区整備計画。
urf:promotionDistrict [_AbstractDistrictPlan]	urf:PromotionDistrict [0..*]	当該地区計画等に促進区を定める場合の促進区。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf:zonalDisasterPreventionFacilities [DisasterPreventionBlockImprovementZonePlan]	urf:ZonalDisasterPreventionFacility [0..*]	防災街区整備地区計画に計画された地区防災施設及び特定地区防災施設。

4.10.3.10.6 urf:DistrictDevelopmentPlan

表4-434

型の定義	主として街区内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設（地区施設）及び建築物等の整備並びに土地の利用に関する計画。 urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:function、urf:reference、urf:reason及びurf:noteのみを対象とする。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区整備計画の種類とする。コードリスト（DistrictDevelopmentPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:districtFacilitiesAllocation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設の配置及び規模。関連役割「urf:districtFacility」により地区施設の区域を示さない場合は、この属性により地区施設を記述する。
urf:buildingRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第2号に定める建築物等の制限。
urf:urbanGreenSpaceConser- vation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
urf:activityRestrictionInFarm- land [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第4号に定める現に存する農地（耕作の目的に供される土地）で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項。
urf:landuseRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第5号に定める土地の利用に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。

[_CityObject]		
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。

urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf:district [DistrictDevelopmentPlan]	urf:District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。
urf:districtFacility [DistrictDevelopmentPlan]	urf:DistrictFacility [0..*]	当該地区整備計画に設定された都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設。

4.10.3.10.7 urf:SpecifiedBuildingZoneImprovementPlan

表4-435

型の定義	当該区域における特定防災機能を確保するための防災公共施設（都市計画施設を除く。以下「地区防災施設」という。）の区域（地区防災施設のうち建築物等と一体となって当該特定防災機能を確保するために整備されるべきもの（特定地区防災施設）にあっては、当該特定地区防災施設の区域及び当該建築物等の整備に関する計画。 urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:function、urf:reference、urf:reason及びurf:noteのみを対象とする。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区整備計画の種類とする。コードリスト（DistrictDevelopmentPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:buildingRestrictionsは、密集市街地整備法第32条第4項第2号に定める建築物等の制限とする。属性urf:districtFacilitiesAllocation、urf:urbanGreenSpaceConservation、urf:activityRestrictionInFarmland及びurf:landuseRestrictionsは使用しない。関連役割urf:districtFacilityは、使用しない。	
上位の型	urf:DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。

urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:districtFacilitiesAllocation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設の配置及び規模。関連役割「urf:districtFacility」により地区施設の区域を示さない場合は、この属性により地区施設を記述する。
urf:buildingRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第2号に定める建築物等の制限。
urf:urbanGreenSpaceConser- vation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
urf:activityRestrictionInFarm- land [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第4号に定める現に存する農地（耕作の目的に供される土地）で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項。
urf:landuseRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第5号に定める土地の利用に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。

urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:district [DistrictDevelopmentPlan]	urf:District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。
urf:districtFacility [DistrictDevelopmentPlan]	urf:DistrictFacility [0..*]	当該地区整備計画に設定された都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設。

4.10.3.10.8 urf:DistrictImprovementPlanForDisasterPreventionBlockImprovementZonePlan

表4-436

型の定義	<p>主として街区内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設（地区施設）及び建築物等（特定建築物地区整備計画の区域内の建築物等を除く。）の整備並びに土地の利用に関して、地区防災施設の区域以外の防災街区整備地区計画の区域について定める計画。</p> <p>urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:function、urf:reference、urf:reason及びurf:noteのみを対象とする。</p>
------	---

	<ul style="list-style-type: none">・ 属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区整備計画の種類とする。コードリスト（DistrictDevelopmentPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。・ 属性urf:districtFacilitiesAllocationは、密集市街地整備法第32条第4項第1号に定める地区施設の配置及び規模とする。・ 属性urf:buildingRestrictionsは、密集市街地整備法第32条第4項第2号に定める建築物等の制限とする。・ 属性urf:urbanGreenSpaceConservationは、密集市街地整備法第32条第4項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項とする。・ 属性urf:activityRestrictionInFarmlandは、都市計画法第12条の5第7項第4号に定める現に存する農地（耕作の目的に供される土地）で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項とする。・ 属性urf:landuseRestrictionsは、密集市街地整備法第32条第4項第4号に定める土地の利用に関する事項とする。・ 関連役割urf:districtFacilityは、使用しない。	
上位の型	urf:DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目

urf:districtFacilitiesAllocation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設の配置及び規模。関連役割「urf:districtFacility」により地区施設の区域を示さない場合は、この属性により地区施設を記述する。
urf:buildingRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第2号に定める建築物等の制限。
urf:urbanGreenSpaceConser- vation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
urf:activityRestrictionInFarm- land [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第4号に定める現に存する農地（耕作の目的に供される土地）で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項。
urf:landuseRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第5号に定める土地の利用に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:district [DistrictDevelopmentPlan]	urf:District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。
urf:districtFacility [DistrictDevelopmentPlan]	urf:DistrictFacility [0..*]	当該地区整備計画に設定された都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設。

4.10.3.10.9 urf:RoadsideDistrictImprovementPlan

表4-437

型の定義	<p>沿道地区整備計画。緑地その他の緩衝空地及び主として当該区域内の居住者等の利用に供される道路その他政令で定める施設（都市計画施設を除く。「沿道地区施設」）並びに建築物その他の工作物の整備並びに土地の利用その他の沿道の整備に関する計画。</p> <p>urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:function、urf:reference、urf:reason及びurf:noteのみを対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区整備計画の種類とする。コードリスト（DistrictDevelopmentPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。 属性urf:districtFacilitiesAllocationは、使用しない。 属性urf:buildingRestrictionsは、幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第6号第2号に定める建築物等の制限とする。 属性urf:urbanGreenSpaceConservationは、幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第6号第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項とする。 属性urf:activityRestrictionInFarmlandは、使用しない。 属性urf:landuseRestrictionsは、幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第6号第4号に定める土地の利用に関する事項その他沿道の整備に関する事項とする。
------	--

	・ 関連役割urf:districtFacilityは、幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第6号第1号に定められた当該地区整備計画に定められた沿道地区施設とする。	
上位の型	urf:DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。

		多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf.location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf.districtFacilitiesAllocation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設の配置及び規模。関連役割「urf:districtFacility」により地区施設の区域を示さない場合は、この属性により地区施設を記述する。
urf.buildingRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第2号に定める建築物等の制限。
urf.urbanGreenSpaceConser- vation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
urf.activityRestrictionInFarm- land [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第4号に定める現に存する農地（耕作の目的に供される土地）で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項。

urf:landuseRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第5号に定める土地の利用に関する事項。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:roadsideDistrictFacilitiesAl- location [RoadsideDistrictImprove- mentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第6項第1号に定める沿道地区施設の配置及び規模。関連役割「urf:districtFacilities」により沿道地区施設の区域を示さない場合は、この属性により沿道地区施設を記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。

[_UrbanFunction]		
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:district [DistrictDevelopmentPlan]	urf:District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。
urf:districtFacility [DistrictDevelopmentPlan]	urf:DistrictFacility [0..*]	当該地区整備計画に設定された都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設。

4.10.3.10.10 urf:RuralDistrictImprovementPlan

表4-438

型の定義	集落地区整備計画。主として当該区域内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設（集落地区施設）及び建築物その他の工作物（建築物等）の整備並びに土地の利用に関する計画。 urf:_UrbanFunctionから継承する属性のうち、urf:function、urf:reference、urf:reason及びurf:noteのみを対象とする。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区整備計画の種類とする。コードリスト（DistrictDevelopmentPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:districtFacilitiesAllocationは、集落地域整備法第5条第5項第2号に定める建築物等の制限とする。属性urf:buildingRestrictionsは、集落地域整備法第5条第5項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項とする。属性urf:urbanGreenSpaceConservationは、使用しない。属性urf:activityRestrictionInFarmlandは、集落地域整備法第5条第5項第4号に定める土地の利用に関する事項とする。属性urf:landuseRestrictionsは、集落地域整備法第5条第5項第1号に定める集落地区施設の配置及び規模とする。関連役割urf:districtFacilityは、集落地域整備法第5条第5項第1号に定められた当該地区整備計画に定められた集落地区施設とする。	
上位の型	urf:DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

[_Feature]		
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:districtFacilitiesAllocation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設の配置及び規模。関連役割「urf:districtFacility」により地区施設の区域を示さない場合は、この属性により地区施設を記述する。
urf:buildingRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第2号に定める建築物等の制限。
urf:urbanGreenSpaceConser- vation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
urf:activityRestrictionInFarm- land [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第4号に定める現に存する農地（耕作の目的に供される土地）で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項。
urf:landuseRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第5号に定める土地の利用に関する事項。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:ruralDistrictFacilitiesAlloca- tion [RuralDistrictImprovement Plan]	gml:StringOrRefType [0..1]	集落地域整備法第5条第5項第1号に定める集落地区施設の配置及び規模。関連役割「urf:districtFacilities」により集落地区施設の区域を示さない場合は、この属性により集落地区施設を記述する。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:district [DistrictDevelopmentPlan]	urf:District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。
urf:districtFacility [DistrictDevelopmentPlan]	urf:DistrictFacility [0..*]	当該地区整備計画に設定された都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設。

4.10.3.10.11 urf:DistrictImprovementPlanForHistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrict

表4-439

型の定義	歴史的風致維持向上地区整備計画。主として街区内の居住者、滞在者その他の者の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設（都市計画施設を除く。地区施設）及び建築物等の整備並びに土地の利用に関する計画。 urf:_UrbanFunctionから継承する属性のうち、urf:function、urf:reference、urf:reason及びurf:noteのみを対象とする。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、都市計画法第12条の4第2項に定める地区整備計画の種類とする。コードリスト（DistrictDevelopmentPlan_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:districtFacilitiesAllocationは、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第31条第4項第1号に定める地区施設の配置及び規模とする。属性urf:buildingRestrictionsは、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第31条第4項第2号に定める建築物等の制限とする。属性urf:urbanGreenSpaceConservationは、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第31条第4項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項とする。属性urf:activityRestrictionInFarmlandは、使用しない。属性urf:landuseRestrictionsは、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第31条第4項第4号に定める土地の利用に関する事項とする。関連役割urf:districtFacilityは、使用しない。	
上位の型	urf:DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。

core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。

urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
urf:districtFacilitiesAllocation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設の配置及び規模。関連役割「urf:districtFacility」により地区施設の区域を示さない場合は、この属性により地区施設を記述する。
urf:buildingRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第2号に定める建築物等の制限。
urf:urbanGreenSpaceConser- vation [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第3号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
urf:activityRestrictionInFarm- land [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第4号に定める現に存する農地 (耕作の目的に供される土地) で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項。
urf:landuseRestrictions [DistrictDevelopmentPlan]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市計画法第12条の5第7項第5号に定める土地の利用に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。
urf:district [DistrictDevelopmentPlan]	urf:District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。
urf:districtFacility [DistrictDevelopmentPlan]	urf:DistrictFacility [0..*]	当該地区整備計画に設定された都市計画法第12条の5第7項第1号に定める地区施設。

4.10.3.10.12 urf:PromotionDistrict

表4-440

型の定義	特定の条件に該当する土地の区域における地区計画について定められた、開発整備を実施すべき区域。 都市計画法第12条の5第4項に定める「再開発等促進区」、同第5項に定める「開発整備促進区」、幹線道路の沿道の整備に関する法律第9条第3項に定める「沿道再開発等促進区」。 urf:_UrbanFunctionから継承する属性のうち、urf:function及びurf:noteのみを対象とする。 ・ 属性urf:functionは、促進区の種類とする。コードリスト（PromotionArea_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs::gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。

urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_valid-Type.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.10.13 urf:District

表4-441

型の定義	地区整備計画に定められる地区。 urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:function、urf:reference、urf:reason及びurf:noteのみを対象とする。 ・ 属性urf:functionは、地区の種類とする。コードリスト（District_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。沿道地区整備計画の場合は沿道地区、防災街区整備地区整備計画の場合は防災地区となる。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。

urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。

urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:buildingRestrictions [District]	gml:StringOrRefType [0..1]	建築物に関する制限事項。
urf:useRestrictions [District]	gml:StringOrRefType [0..1]	建築物等の用途の制限。
urf:maximumFloorAreaRate [District]	xs:integer [0..1]	延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumFloorAreaRate [District]	xs:integer [0..1]	延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:maximumBuildingCover- ageRate [District]	xs:integer [0..1]	建築基準法第53条で定められる建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumBuildingCover- ageRate [District]	xs:integer [0..1]	建築基準法第53条で定められる建築面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:minimumSiteArea [District]	gml:MeasureType [0..1]	建築物の敷地面積の最低限度。単位はm2（uom="m2"）とする。
urf:minimumBuildingArea [District]	gml:MeasureType [0..1]	建築物の建築面積の最低限度。単位はm2（uom="m2"）とする。
urf:minimumGroundHeight [District]	gml:LengthType [0..1]	建築物の敷地の地盤面の高さの最低限度。高さはm（uom="m"）とする。
urf:setbackSize [District]	gml:StringOrRefType [0..1]	外壁の後退距離。
urf:structurePlacementRestrictions [District]	gml:StringOrRefType [0..1]	壁面後退区域における工作物の設置の制限。
urf:maximumBuildingHeight [District]	gml:LengthType [0..1]	建築物の高さの最高限度。単位はm（uom="m"）とする。
urf:minimumBuildingHeight [District]	gml:LengthType [0..1]	建築物の高さの最低限度。単位はm（uom="m"）とする。
urf:minimumFloorHeight [District]	gml:LengthType [0..1]	床面の高さの最低限度。単位はm（uom="m"）とする。
urf:buildingDesignRestriction [District]	gml:StringOrRefType [0..1]	建築物の形態及び意匠にかかる制限。
urf:minimumGreeningRate [District]	xs:integer [0..1]	都市緑地法第34条第3項で定められる最低限度の緑化率。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
urf:fenceGuideline [District]	gml:StringOrRefType [0..1]	垣及びさくの構造にかかる制限。
urf:restrictionsForFireProtection [District]	gml:StringOrRefType [0..1]	建築物の構造に関する防火上必要な制限。

urf:restrictionsForNoiseProtection [District]	gml:StringOrRefType [0..1]	建築物の構造に関する防音上又は遮音上必要な制限。
urf:minimumFrontageRate [District]	xs:integer [0..1]	建築物の特定地区防災施設に係る間口率の最低限度。全体を「100」とする割合（百分率）で記述する。（単位は%）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。

urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.10.14 urf:DistrictFacility

表4-442

型の定義	地区計画において定められる、主として街区内の居住者等の利用に供される道路、公園その他政令で定める施設。 道路、公園、避難路、避難施設、雨水貯留浸透施設、緑地及び広場その他公共空地。 urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:function、urf:usage、urf:reference及びurf:noteのみを対象とする。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、地区施設の種類とする。コードリスト（Common_district-FacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、地区施設の用途とする。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。

		これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。

urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.10.15 urf:RuralDistrictFacility

表4-443

型の定義	集落地区計画において定められる、主として当該区域内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設。 urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:function、urf:usage、urf:reference及びurf:noteのみを対象とする。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、地区施設の種類とする。コードリスト（Common_district-FacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、地区施設の用途とする。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。	
上位の型	urf:DistrictFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。

core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。

urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.10.16 urf:RoadsideDistrictFacility

表4-444

型の定義	沿道地区計画において定められる、緑地その他の緩衝空地及び主として当該区域内の居住者等の利用に供される道路その他政令で定める施設。（都市計画施設は除く） urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:function、urf:usage、urf:reference及びurf:noteのみを対象とする。 <ul style="list-style-type: none">属性urf:functionは、地区施設の種類とする。コードリスト（Common_district-FacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。属性urf:usageは、地区施設の用途とする。コードリスト（UrbanFacility_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。	
上位の型	urf:DistrictFacility	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。

gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。

urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-2)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-2)。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD0)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD1)。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.10.17 urf:ZonalDisasterPreventionFacility

表4-445

型の定義	防災街区整備地区計画において定められる、当該区域における特定防災機能 を確保するための防災公共施設。（都市計画施設は除く） urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:usage、urf:reference及びurf: noteのみを対象とする。 ・ 属性urf:usageは、地区防災施設の用途。コードリスト（UrbanFacility_function. xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。

[_Feature]		
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。

urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:facilityType [ZonalDisasterPreventionFacility]	gml:CodeType [1..1]	地区防災施設の区分。コードリスト（ZonalDisasterPreventionFacility_facilityType.xml）より選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.11 立体的な範囲

4.10.3.11.1 urf:ThreeDimensionalExtent

表4-446

型の定義	都市計画法第11条第3項に定められる「都市施設」について、適正かつ合理的な土地利用を図るため必要があるときに当該都市施設の区域の地下又は空間設けられる当該都市施設を整備する立体的な範囲。
------	---

	<ul style="list-style-type: none">urf:_UrbanFunctionから継承する主題属性のうち、urf:usage及びurf:referenceのみを対象とする。属性urf:usageは、対象となる都市施設の種類の種類とする。コードリスト（Urban-Facility_function.xml）より選択する。	
上位の型	urf:_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 <ul style="list-style-type: none">都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs::date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian	xs:string [0..1]	決定者。

[_UrbanFunction]		<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf.finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf.urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。
urf.areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf.nominalArea [_UrbanFunction]	gml:MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha（uom="ha"）とする。区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf.prefecture [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.city [_UrbanFunction]	gml:CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
urf.reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf.reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf.note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf.surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。都市計画決定情報、区域及び災害リスク（土砂災害）の場合は対象外とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf.minimumDistance [ThreeDimensionalExtent]	gml:LengthType [0..1]	立体的な範囲からの離隔距離の最小限度。単位は、m（uom="m"）とする。
urf.maximumLoad [ThreeDimensionalExtent]	gml:MeasureType [0..1]	立体的な範囲からの1m2当たりの載荷重の最大限度。単位は、kN（uom="kN"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-1）。都道府県レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。

4.10.3.12 区域の境界

4.10.3.12.1 urf:Boundary

表4-447

型の定義	区域の境界線。 都市計画決定された区域を区分する境界線。都市計画決定された区域の境界に確定根拠等の情報を付与したい場合に作成する。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf:class [Boundary]	gml::CodeType [0..1]	境界線の区分。標準製品仕様書では使用しない。
urf:function [Boundary]	gml::CodeType [0..*]	境界線の種類。コードリスト（Boundary_function.xml）より選択する。
urf:usage [Boundary]	gml::CodeType [0..*]	境界が区切る区域の種類。コードリスト（Urban-Plan_areaType.xml）より選択する。 都市計画の区域を区分する境界の場合に、区域の種類を特定する。
urf:offset [Boundary]	gml::LengthType [0..1]	オフセットされている場合の量。単位はm（uom="m"）とする。
urf:offsetDirection [Boundary]	xs::string [0..1]	基準となる線に対するオフセットの方向。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf:location [Boundary]	gml:MultiCurve [0..1]	境界線の位置。高さを0とする。

4.10.3.13 立地適正化計画

4.10.3.13.1 urf:UrbanFunctionAttractionArea

表4-448

型の定義	都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画に記載された、都市機能増進施設の立地を誘導すべき区域（都市機能誘導区域）。 ・ 属性urf:function、urf:usageは、使用しない。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。

core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用す る。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用 する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書 では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用し ない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルで の表現に使用する。

		標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.13.2 urf:ResidenceAttractionArea

表4-449

型の定義	都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画に記載された、都市の居住者の居住を誘導すべき区域（居住誘導区域）。 ・ 属性urf:function、urf:usageは、使用しない。	
上位の型	urf:Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。

[_CityObject]		
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
urf:class [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	分類。 都市計画決定情報の場合は使用しない。
urf:function [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	機能。 これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:usage [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。これを実装する下位の地物型に応じて使用するコードリストを選択する。
urf:validFrom [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を生じる日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、当初の決定日とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。年月日が不明な場合は、0001-01-01とする。
urf:validFromType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を生じる日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。 ・ 都市計画決定情報の場合は、多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf:enactmentFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	決定された年度（西暦）。
urf:validTo [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	効力を失う日の年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf:validToType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	効力を失う日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf:expirationFiscalYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	効力を失う日の年度（西暦）。
urf:legalGrounds [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	法的背景。根拠法令を記述する。
urf:custodian [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	決定者。 ・ 都市計画決定情報の場合は、都市計画法第15条第1項で規定する都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:notificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（当初）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。不明な場合は文字列で「Null」と入力する。
urf:finalNotificationDate [_UrbanFunction]	xs:date [0..1]	告示（最終）の日付。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:finalNotificationNumber [_UrbanFunction]	xs:string [0..1]	告示番号（最終）。多重度は任意となっているが、都市計画決定情報の場合は、運用上必須とする。
urf:urbanPlanType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。都市計画区域及び準都市計画区域の場合は使用しない。

urf:areaClassificationType [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。コードリスト (Common_areaClassificationType.xml) より選択する。 都市計画区域、準都市計画区域及び区域区分の場合は使用しない。
urf:nominalArea [_UrbanFunction]	gml::MeasureType [0..1]	公式の面積。単位はha (uom="ha") とする。 区域の総面積とし、区域が複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf:prefecture [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:city [_UrbanFunction]	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。コード リスト (Common_localPublicAuthorities.xml) より選択 する。
urf:reference [_UrbanFunction]	xs:anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf:reason [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	区域が指定された理由。
urf:note [_UrbanFunction]	gml:StringOrRefType [0..1]	その他特筆すべき事項。
urf:surveyYear [_UrbanFunction]	xs:gYear [0..1]	調査が実施された年 (西暦)。都市計画決定情報、 区域及び災害リスク (土砂災害) の場合は対象外と する。
urf:location [Zone]	xs:string [0..1]	区域の位置を示す名称。 [記述例] 新潟県長岡市大字宮本東方町、大字高頭 町、大字深沢町、大字親沢町及び大字大積町一丁目
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用す る。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用 する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
urf:lod-1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線 (LOD-1)。標準製品仕様書 では使用しない。
urf:lod-1MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置 (LOD-1)。標準製品仕様書では使用し ない。
urf:lod-1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲 (LOD-1)。都道府県レベルで の表現に使用する。

		標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD-2）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod-2MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD-2）。国レベルでの表現に使用する。 標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiPoint [_UrbanFunction]	gml:MultiPoint [0..1]	地物の位置（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod0MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	広がりを持った範囲（LOD0）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiCurve [_UrbanFunction]	gml:MultiCurve [0..1]	地物の外周又は中心線（LOD1）。標準製品仕様書では使用しない。
urf:lod1MultiSurface [_UrbanFunction]	gml:MultiSurface [0..1]	面的な範囲。高さを0とする。 区域の場合は、計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf:target [_UrbanFunction]	core:_CityObject [0..*]	都市オブジェクトへの参照。標準製品仕様書では使用しない。
uro:dataQualityAttribute [_UrbanFunction]	uro:DataQualityAttribute [0..1]	作成したデータの品質に関する情報。必須とする。
uro:keyValuePairAttribute [_UrbanFunction]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
urf:boundary [Zone]	urf:Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。境界線の詳細な情報を記述したい場合にのみ作成する。
urf:urbanParkAttribute [Zone]	urf:UrbanParkAttribute [0..1]	都市公園に関するデータ型を保持する。区域が都市公園の区域の場合に使用する。

4.10.3.14 データ品質

4.10.3.14.1 uro:DataQualityAttribute

表4-450

型の定義	都市オブジェクトの品質を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:geometrySrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例え

		ば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。)
uro:geometrySrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [1..*]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択する。具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:geometrySrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択する。拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること (例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。)
uro:geometrySrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択する。拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること (例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。)
uro:geometrySrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択する。拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること (例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。)
uro:thematicSrcDesc [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	主題属性の作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト (DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml) より選択する。

		主題属性が作成対象となっている場合は必須とする。
uro:appearanceSrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD0の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD1の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書LOD1の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD2の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD3の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:lodType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>幾何オブジェクトに適用されたLODの詳細な区分。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の場合

		<p>コードリスト（ Building_lodType.xml）より選択する。</p> <p>LOD2以上の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路、徒歩道又は広場の場合 コードリスト（ Road_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 鉄道の場合 コードリスト（ Railway_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 LODの細分が定義されていない地物型の場合 この属性を使用しない。
uro:lod1HeightType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD1の立体図形を作成する際に使用した高さの算出方法。コードリスト（DataQualityAttribute_lod1Height-Type.xml）より選択する。立体の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。
uro:tranDataAcquisition [DataQualityAttribute]	xs:string [0..1]	道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）（平成27年5月）に定める「取得レベル(level)」を記述するための属性。 道路の場合にのみ使用する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:publicSurveyDataQualityAttribute [DataQualityAttribute]	uro:PublicSurveyDataQualityAttribute [0..1]	使用した公共測量成果の地図情報レベルと種類。各LODの幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性（uro:geometrySrcDescLod0等）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）となっている場合は、必須とする。

4.10.3.15 拡張属性

4.10.3.15.1 uro:KeyValuePairAttribute

表4-451

型の定義	都市オブジェクトに付与する追加情報。都市オブジェクトが継承する属性及び都市オブジェクトに定義された属性以外にコード型の属性を追加したい場合に使用する。 属性名称と属性の値の対で構成される。コード値以外の属性を追加する場合は、gen:_GenericAttributeを使用すること。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:key [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張する属性の名称。名称は、コードリスト（Key ValuePairAttribute_key.xml）を作成し、選択する。
uro:codeValue [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張された属性の値。名称は、コードリスト（Key ValuePairAttribute_key[key].xml）を作成し、選択する。 [key]は、属性uro:keyの値に一致する。

4.10.4 都市計画決定情報モデルで使用するコードリストと列挙型

4.10.4.1 Urban Function (i-UR)

4.10.4.1.1 Common_urbanPlanType.xml

表4-452

ファイル名	Common_urbanPlanType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_urbanPlanType.xml
コード	説明
21	都市計画区域
26	準都市計画区域
27	都市計画区域外
99	不明

4.10.4.1.2 Common_areaClassificationType.xml

表4-453

ファイル名	Common_areaClassificationType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_areaClassificationType.xml
コード	説明
22	市街化区域
23	市街化調整区域
99	不明

4.10.4.1.3 Common_districtsAndZonesType.xml

表4-454

ファイル名	Common_districtsAndZonesType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_districtsAndZonesType.xml
コード	説明
0	用途地域の指定をしない区域
1	第1種低層住居専用地域
2	第2種低層住居専用地域
3	第1種中高層住居専用地域
4	第2種中高層住居専用地域
5	第1種住居地域
6	第2種住居地域
7	準住居地域
8	田園住居地域
9	近隣商業地域
10	商業地域

ファイル名	Common_districtsAndZonesType.xml
11	準工業地域
12	工業地域
13	工業専用地域
14	特別用途地区
15	特定用途制限地域
16	特例容積率適用地区
17	高層住居誘導地区
18	高度地区
19	高度利用地区
20	特定街区
21	都市再生特別地区
22	居住調整地域
23	特定用途誘導地区
24	防火地域
25	準防火地域
26	特定防災街区整備地区
27	景観地区
28	風致地区
29	駐車場整備地区
30	臨港地区
31	歴史的風土特別保存地区
32	第1種歴史的風土保存地区
33	第2種歴史的風土保存地区
34	緑地保全地域
35	特別緑地保全地区
36	緑化地域
37	流通業務地区
38	生産緑地地区
39	伝統的建造物群保存地区
40	航空機騒音障害防止地区
41	航空機騒音障害防止特別地区
42	居住環境向上用途誘導地区
99	不明

4.10.4.1.4 Common_validType.xml

表4-455

ファイル名	Common_validType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_validType.xml
コード	説明
1	決定
2	廃止
3	変更
9	不明

4.10.4.1.5 Common_availabilityType.xml

表4-456

ファイル名	Common_availabilityType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_availabilityType.xml
コード	説明
1	有り
2	無し
3	不明

4.10.4.1.6 SpecialUseDistrict_usage.xml

表4-457

ファイル名	SpecialUseDistrict_usage.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/SpecialUseDistrict_usage.xml
コード	説明
1	特別工業地区
2	文教地区
3	小売店舗地区
4	事務所地区
5	厚生地区
6	娯楽レクリエーション地区
7	観光地区
8	特別業務地区
9	中高層階住居専用地区
10	商業専用地区
11	研究開発地区
12	その他

4.10.4.1.7 HeightControlDistrict_usage.xml

表4-458

ファイル名	HeightControlDistrict_usage.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/HeightControlDistrict_usage.xml
コード	説明
1	最高限高度地区
2	最低限高度地区

4.10.4.1.8 FirePreventionDistrict_usage.xml

表4-459

ファイル名	FirePreventionDistrict_usage.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/FirePreventionDistrict_usage.xml
コード	説明
1	防火地域（地域）
2	防火地域（路線）
3	準防火地域（地域）
4	準防火地域（路線）

4.10.4.1.9 ScenicDistrict_usage.xml

表4-460

ファイル名	ScenicDistrict_usage.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ScenicDistrict_usage.xml
コード	説明
1	第一種風致地区
2	第二種風致地区
3	第三種風致地区
4	第四種風致地区

4.10.4.1.10 PortZone_usage.xml

表4-461

ファイル名	PortZone_usage.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/PortZone_usage.xml
コード	説明
1	商港区
2	特殊物資港区
3	工業港区
4	鉄道連絡港区
5	漁港区
6	バンカー港区
7	保安港区
8	マリーナ港区
9	修景厚生港区

4.10.4.1.11 SpecialGreenSpaceConservationDistrict_requirement.xml

表4-462

ファイル名	SpecialGreenSpaceConservationDistrict_requirement.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/SpecialGreenSpaceConservationDistrict_requirement.xml
コード	説明
1	無秩序な市街地化の防止、公害又は災害の防止等の為必要な遮断地帯、緩衝地帯又は非難地帯として適切な位置、規模及び形態を有するもの
2	神社、寺院等の建造物、遺跡等と一体となって、又は伝承若しくは風俗慣習と結びついて当該地域において伝統的又は文化的意義を有するもの
3	風致又は景観が優れていて、かつ当該地域の住民の健全な生活環境を確保するため必要なもの
4	動植物の生息地又は生育地として適正に保全する必要がある、かつ当該地域の住民の健全な生活環境を確保するため必要なもの
5	雨水の貯留浸透等のグリーンインフラとしての機能を有する緑地

4.10.4.1.12 ProjectPromotionArea_function.xml

表4-463

ファイル名	ProjectPromotionArea_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ProjectPromotionArea_function.xml
コード	説明
1	市街地再開発促進区域
2	土地区画整理促進区域
3	住宅街区整備促進区域
4	拠点業務市街地整備土地区画整理促進区域

4.10.4.1.13 UrbanRoadAttribute_routeTypeNumber.xml

表4-464

ファイル名	UrbanRoadAttribute_routeTypeNumber.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/UrbanRoadAttribute_routeTypeNumber.xml
コード	説明
1	自動車専用道路
3	幹線街路
7	区画街路
8	特殊街路（歩行者、自転車道）
9	特殊街路（都市モノレール）
10	特殊街路（路面電車）

4.10.4.1.14 UrbanRoadAttribute_routeSizeNumber.xml

表4-465

ファイル名	UrbanRoadAttribute_routeSizeNumber.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/UrbanRoadAttribute_routeSizeNumber.xml
コード	説明
1	幅員40m以上
2	幅員30m以上40m未満
3	幅員22m以上30m未満
4	幅員16m以上22m未満
5	幅員12m以上16m未満
6	幅員8m以上12m未満
7	幅員8m未満

4.10.4.1.15 UrbanRoadAttribute_roadType.xml

表4-466

ファイル名	UrbanRoadAttribute_roadType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/UrbanRoadAttribute_roadType.xml
コード	説明
1	自動車専用道路
2	幹線街路
3	区画街路
4	特殊街路

4.10.4.1.16 TrafficFacility_trafficFacilityStructureType.xml

表4-467

ファイル名	TrafficFacility_trafficFacilityStructureType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TrafficFacility_trafficFacilityStructureType.xml
コード	説明
1	嵩上式
2	地下式
3	掘割式
4	地表式

4.10.4.1.17 TrafficFacility_trafficFacilityCrossingType.xml

表4-468

ファイル名	TrafficFacility_trafficFacilityCrossingType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/TrafficFacility_trafficFacilityCrossingType.xml
ファイル名	TrafficFacility_trafficFacilityCrossingType.xml

コード	説明
1	立体交差
2	平面交差

4.10.4.1.18 VehicleTerminalAttribute_terminalType.xml

表4-469

ファイル名	VehicleTerminalAttribute_terminalType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/VehicleTerminalAttribute_terminalType.xml
コード	説明
1	トラックターミナル
2	バスターミナル

4.10.4.1.19 ParkAttribute_parkTypeNumber.xml

表4-470

ファイル名	ParkAttribute_parkTypeNumber.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ParkAttribute_parkTypeNumber.xml
コード	説明
2	街区公園
3	近隣公園
4	地区公園
5	総合公園
6	運動公園
7	特殊公園（風致の享受に供する）
8	特殊公園（動物、植物、歴史公園等）
9	広域公園

4.10.4.1.20 ParkAttribute_parkSizeNumber.xml

表4-471

ファイル名	ParkAttribute_parkSizeNumber.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ParkAttribute_parkSizeNumber.xml
コード	説明
2	面積1ha未満
3	面積1ha以上4ha未満
4	面積4ha以上10ha未満
5	面積10ha以上50ha未満
6	面積50ha以上300ha未満
7	面積300ha以上

4.10.4.1.21 Waterway_structure.xml

表4-472

ファイル名	Waterway_structure.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Waterway_structure.xml
コード	説明
1	単断面式
2	複断面式
3	築堤式単断面
4	堤防式単断面
5	堤防式複断面
6	掘込式単断面
7	掘込式複断面
8	地下トンネル式単断面
9	地下式単断面
10	掘込式
11	暗渠式
12	ブロック単断面
13	ブロック堤防式

4.10.4.1.22 SewerSystemAttribute_systemType.xml

表4-473

ファイル名	SewerSystemAttribute_systemType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/SewerSystemAttribute_systemType.xml
コード	説明
1	公共下水道
2	流域下水道
3	都市下水路

4.10.4.1.23 UrbanRedevelopmentProject_usage.xml

表4-474

ファイル名	UrbanRedevelopmentProject_usage.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/UrbanRedevelopmentProject_usage.xml
コード	説明
1	第一種
2	第二種

4.10.4.1.24 UrbanDevelopmentProject_function.xml

表4-475

ファイル名	UrbanDevelopmentProject_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/UrbanDevelopmentProject_function.xml
コード	説明
1	土地区画整理事業
2	新住宅市街地開発事業
3	工業団地造成事業
4	市街地再開発事業
5	新都市基盤整備事業
6	住宅街区整備事業

4.10.4.1.25 ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml

表4-476

ファイル名	ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ScheduledAreaForUrbanDevelopment_function.xml
コード	説明
1	新住宅市街地開発事業の予定区域
2	工業団地造成事業の予定区域
3	新都市基盤整備事業の予定区域
4	区域の面積が二十ヘクタール以上の一団地の住宅施設の予定区域
5	一団地の官公庁施設の予定区域
6	流通業務団地の予定区域

4.10.4.1.26 DistrictPlan_function.xml

表4-477

ファイル名	DistrictPlan_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DistrictPlan_function.xml
コード	説明
1	地区計画
2	再開発等促進区を定める地区計画
3	開発整備促進区を定める地区計画
4	地区計画（誘導容積型）
5	地区計画（容積適正配分型）
6	地区計画（高度利用型）
7	地区計画（用途別容積型）
8	地区計画（街並み誘導型）
9	地区計画（立体道路制度）
10	防災街区整備地区計画

ファイル名	DistrictPlan_function.xml
-------	---------------------------

11	歴史的風致維持向上地区計画
12	沿道地区計画
13	沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画
14	集落地区計画

4.10.4.1.27 DistrictDevelopmentPlan_function.xml

表4-478

ファイル名	DistrictDevelopmentPlan_function.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DistrictDevelopmentPlan_function.xml
コード	説明
1	地区整備計画
2	特定建築物地区整備計画
3	防災街区整備地区整備計画
4	沿道地区整備計画
5	集落地区整備計画
6	歴史的風致維持向上地区整備計画

4.10.4.1.28 ZonalDisasterPreventionFacility_facilityType.xml

表4-479

ファイル名	ZonalDisasterPreventionFacility_facilityType.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ZonalDisasterPreventionFacility_facilityType.xml
コード	説明
1	地区防災施設
2	特定地区防災施設

4.10.4.1.29 Common_districtFacilityType.xml

表4-480

ファイル名	Common_districtFacilityType.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_districtFacilityType.xml
コード	説明
1	地区施設
2	沿道地区施設
3	集落地区施設

4.10.4.1.30 District_function.xml

表4-481

ファイル名	District_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/District_function.xml
コード	説明
1	地区
2	沿道地区
3	集落地区

4.10.4.1.31 PromotionArea_function.xml

表4-482

ファイル名	PromotionArea_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/PromotionArea_function.xml
コード	説明
1	再開発促進区
2	開発整備促進区
3	沿道再開発等促進区

4.10.4.1.32 Boundary_function.xml

表4-483

ファイル名	Boundary_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Boundary_function.xml
コード	説明
11	行政界
21	地番界
22	現地杭界
23	見通し界
24	境界未確定
31	道路区域（道路法により定められる）
32	道路区域（現況）
33	河川区域（河川法により定められる）
34	河川区域（現況）
35	水路界
36	鉄道界
37	護岸界、河川界、埋立界
38	都市公園法に定める公園界
41	道路中心線

4.10.4.1.33 UrbanPlan_areaType.xml

表4-484

ファイル名	UrbanPlan_areaType.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/UrbanPlan_areaType.xml
コード	説明
1001	都市計画区域
1002	準都市計画区域
1100	区域区分
2000	地域地区
2100	用途地域
2200	特別用途地区
2201	特定用途制限地域
2202	特例容積率適用地区
2203	高層住居誘導地区
2204	高度地区
2205	高度利用地区
2206	特定街区
2207	都市再生特別地区
2208	居住調整地域
2209	特定用途誘導地区
2210	防火地域又は準防火地域
2211	特定防災街区整備地区
2212	景観地区
2213	風致地区
2214	駐車場整備地区
2215	臨港地区
2216	歴史的風土特別保存地区
2217	第1種・第2種歴史的風土保存地区
2218	緑地保全地域
2219	特別緑地保存地区
2220	緑化地域
2221	流通業務地区
2222	生産緑地地区
2223	伝統的建造物群保存地区
2224	航空機騒音障害防止地区
2225	航空機騒音障害防止特別地区
2226	居住環境向上用途誘導地区
2300	促進区域
2301	市街地再開発促進区域
2302	土地区画整理促進区域
2303	住宅街区整備促進区域
2304	拠点業務市街地整備土地区画整理促進区域
2400	遊休土地転換利用促進地区
2500	被災市街地復興推進地域

ファイル名	UrbanPlan_areaType.xml
3000	都市施設
3010	交通施設
3011	道路
3012	都市高速鉄道
3013	駐車場
3014	自動車ターミナル
3015	空港
3016	港湾
3017	軌道
3020	公共空地
3021	公園
3022	緑地
3023	広場
3024	墓園
3030	供給施設
3031	水道
3032	電気供給施設
3033	ガス供給施設
3040	処理施設
3041	下水道
3042	汚物処理場
3043	ごみ焼却場
3044	ごみ処理場
3050	水路
3051	河川
3052	運河
3060	教育文化施設
3061	学校
3062	図書館
3063	研究施設
3070	医療施設
3071	病院
3080	社会福祉施設
3081	保育所
3090	市場、と畜場、火葬場
3091	市場
3092	と畜場
3093	火葬場
3100	一団地の住宅施設
3110	一団地の官公庁施設
3120	一団地の都市安全確保拠点施設
3130	流通業務団地
3140	一団地の津波防災拠点市街地形成施設
3150	一団地の復興再生拠点市街地形成施設
3160	一団地の復興拠点市街地形成施設

ファイル名	UrbanPlan_areaType.xml
3170	政令で定める都市施設
3180	電気通信施設
3190	防風施設
3200	防火施設
3210	防水施設
3220	防雪施設
3230	防潮施設
3240	防砂施設
4000	市街地開発事業
4001	土地区画整理事業
4002	新住宅市街地開発事業
4003	工業団地造成事業
4004	市街地再開発事業
4005	新都市基盤整備事業
4006	住宅街区整備事業
4100	市街地開発事業等予定地域
4102	新住宅市街地開発事業の予定区域
4103	工業団地造成事業の予定区域
4105	新都市基盤整備事業の予定区域
4107	一団地の住宅施設の予定区域
4108	一団地の官公庁施設の予定区域
4109	流通業務団地の予定区域
5000	地区計画
5010	防災街区整備地区計画
5020	歴史的風致維持向上地区計画
5030	沿道地区計画
5040	集落地区計画
5100	地区整備計画
5110	特定建築物地区整備計画
5111	防災街区整備地区整備計画
5130	沿道地区整備計画
5140	集落地区整備計画
5120	歴史的風致維持向上地区整備計画
5200	地区
5210	地区施設
5220	地区防災施設
5221	特定地区防災施設
6001	都市機能誘導区域
6002	居住誘導区域

4.10.4.1.34 UrbanFacility_function.xml

表4-485

ファイル名	UrbanFacility_function.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/UrbanFacility_function.xml
コード	説明
3000	都市施設
3010	交通施設
3011	道路
3012	都市高速鉄道
3013	駐車場
3014	自動車ターミナル
3015	空港
3016	港湾
3017	軌道
3020	公共空地
3021	公園
3022	緑地
3023	広場
3024	墓園
3025	運動場
3030	供給施設
3031	水道
3032	電気供給施設
3033	ガス供給施設
3034	地域冷暖房施設
3035	石油パイプライン
3040	処理施設
3041	下水道
3042	汚物処理場
3043	ごみ焼却場
3044	ごみ処理場
3050	水路
3051	河川
3052	運河
3060	教育文化施設
3061	学校
3062	図書館
3063	研究施設
3064	博物館
3065	美術館
3070	医療施設
3071	病院
3072	診療所
3073	保健所

ファイル名	UrbanFacility_function.xml
3074	助産所
3080	社会福祉施設
3081	保育所
3082	乳児院
3083	母子寮
3084	養護老人ホーム
3090	市場、と畜場、火葬場
3091	市場
3092	と畜場
3093	火葬場
3100	一団地の住宅施設
3110	一団地の官公庁施設
3120	一団地の都市安全確保拠点施設
3130	流通業務団地
3140	一団地の津波防災拠点市街地形成施設
3150	一団地の復興再生拠点市街地形成施設
3160	一団地の復興拠点市街地形成施設
3170	政令で定める都市施設
3180	電気通信施設
3190	防風施設
3200	防火施設
3201	防火水槽
3210	防水施設
3211	河岸堤防
3220	防雪施設
3230	防潮施設
3231	防潮堤
3240	防砂施設
3241	地滑り防止施設

4.10.4.1.35 DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-486

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
101	(公共測量又は基本測量ではない) 現地測量の測量成果
102	(公共測量又は基本測量ではない) UAV写真測量の測量成果
103	(公共測量又は基本測量ではない) 空中写真測量の測量成果
104	(公共測量又は基本測量ではない) 既成図数値化の測量成果
105	(公共測量又は基本測量ではない) 修正測量の測量成果
106	(公共測量又は基本測量ではない) 写真地図作成の測量成果
107	(公共測量又は基本測量ではない) 地図編集の測量成果

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
108	(公共測量又は基本測量ではない) 地上レーザ測定の測量成果
109	(公共測量又は基本測量ではない) UAV写真点群測定の測量成果
110	(公共測量又は基本測量ではない) UAVレーザ測定の測量成果
111	(公共測量又は基本測量ではない) 車載写真レーザ測定の測量成果
112	(公共測量又は基本測量ではない) 航空レーザ測定の測量成果
113	(公共測量又は基本測量ではない) 航空レーザ測深測定の測量成果
114	(公共測量又は基本測量ではない) 路線測定の測量成果
115	(公共測量又は基本測量ではない) 河川測定の測量成果
116	(公共測量又は基本測量ではない) 用地測定の測量成果
117	(公共測量又は基本測量ではない) その他の応用測定の測量成果
118	(公共測量又は基本測量ではない) LidarSLAM計測の測量成果
119	(公共測量又は基本測量ではない) 高密度航空レーザ測定の測量成果
120	(公共測量又は基本測量ではない) 写真点群測定の測量成果
121	(公共測量又は基本測量ではない) 三次元数値図化の測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
700	その他の資料
801	現地調査
803	GISデータ演算
901	推定
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.10.4.1.36 DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml

表4-487

ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelist/3.2/DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
100	公共測量成果又は基本測量成果ではない測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
600	統計データ

ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
701	建築計画概要書
700	その他の資料
801	現地調査
802	写真判読
803	GISデータ演算
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.10.4.1.37 DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml

表4-488

ファイル名	DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
コード	説明
1	空中写真
2	衛星写真
3	車載写真レーザ測量システムにより撮影した写真
4	手持ちカメラにより撮影した写真
5	疑似テクスチャ
99	未作成

4.11 橋梁モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.12 トンネルモデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.13 その他の構造物モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.14 都市設備モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.15 地下埋設物モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.16 地下街モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.17 植生モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.18 地形モデルの応用スキーマ

地形とは、地表の起伏の状態をいう。[付録7 公共測量標準図式]

4.18.1 地形のLOD

4.18.1.1 地形モデル（LOD0）

4.18.1.1.1 地形（LOD0）の概要

地形モデル（LOD0）では、地形を点又は線により表現する。

地形モデル（LOD0）の取得イメージを表4-767に示す。

表4-767 地形モデル（LOD0）の取得イメージ

	LOD0				
取得例				<div>地図情報レベル500及び1000の場合</div> <div>地図情報レベル2500の場合</div>	
説明	等高線及び等深線は等値線を取得する。	凹地は高い方を左に見るように等値線を取得する。	凹地（小）は高い方を1点目、低い方を2点目として取得する。	洞口は正射影の方向に一致させて記号を表示する。	露岩は、高度の高い方を右に見る形で界線を取得する。
	LOD0				
取得例			<div>地図情報レベル500及び1000の場合</div> <div>地図情報レベル2500の場合</div>	<div>界線を取得する場合</div> <div>地図情報レベル500及び1000で記号で表示する場合</div> <div>地図情報レベル2500で記号で表示する場合</div>	<div>地図情報レベル500及び1000の場合</div> <div>地図情報レベル2500の場合</div>

説明	土がけは、頂部を示す線と射影部を示す短線を頂部から最大傾斜方向へ図上2.0mmまで表示し、それ以上の射影部は下端を破線で表示する。また、正射影の幅が図上1.0cm以上の場合には記号の挿入位置を取得する。	岩がけは、頂部を山型に表示し、傾斜を示す短線は頂部を示す線から最大傾斜方向に、壁面を示す短線は傾斜を示す短線と直角に表示する。傾斜を示す短線は、最大図上2.5mmを表示し射影部の下端を破線で表示する。正射影の幅が図上1.0cm以上の場合には、適宜の位置に（岩）の記号を添えて表示する。	雨裂は、地図情報レベル500及び1000では土がけの記号で表示する。地図情報レベル2500は雨裂の正射影を表示する。急斜面は、地図情報レベル500及び1000の場合にのみ土がけの記号で表示する。	散岩は、高度の高い方を右に見る形で界線を取得する。極小は記号表示位置の点を取得する。	さんご礁は、高度の高い方を右に見る形で界線を取得する。
----	---	--	---	--	-----------------------------

4.18.1.1.2 地形モデル（LOD0）の定義

地形モデル（LOD0）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-768

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD0	●	Relief Feature	—	・ 等高線、凹地、土がけ、雨裂、急斜面、洞口、岩がけ、露岩、散岩、さんご礁	・ BreaklineRelief又はMass PointReliefの集まりとして取得する。 ・ 高さは0とする。	ReliefFeatureは地物の集まりとして表現し、空間属性はもたない。
LOD0	■	Break-lineRelief	Multi Curve	・ 等高線、凹地	・ 等値線を取得する。 ・ 高さは0とする。	
				・ 土がけ、雨裂、急斜面、岩がけ	・ 上端線及び下端線を取得する。このとき、上端線は低い方を右に見る形で、下端線は高い方を右に見る形で取得する。 ・ 高さは0とする。	
				・ 露岩、散岩、さんご礁	・ 高度の高い方を右に見る形で界線を取得する。 ・ 高さは0とする。	
LOD0	■	Mass PointRelief	Multi Point	・ 岩がけ、土がけ	・ 記号表示位置の点を取得する。 ・ 高さは0とする。	正射影の幅が図上1.0cm以上の場合に、適宜の位置に記号を添えて表示する。

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 洞口 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記号表示位置の点と向きを示す方向を取得する。 ・ 高さは0とする。 	入口の正射影の方向に一致させて記号を表示する。
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 散岩 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記号表示位置の点を取得する。 ・ 高さは0とする。 	数値地形図の取得方法に従う。
記号説明 ● ：必須 ■ ：条件付必須 ○ ：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

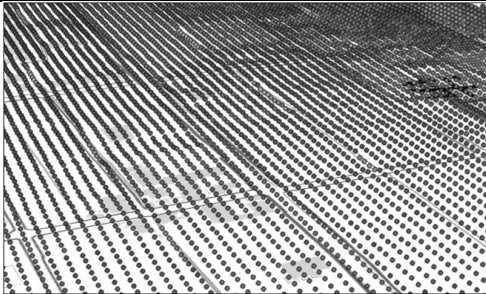
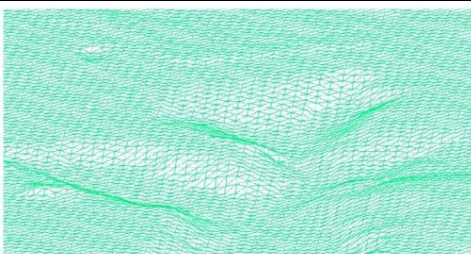
4.18.1.2 地形モデル（LOD1）

4.18.1.2.1 地形モデル（LOD1）の概要

地形モデル（LOD1）では、地形を、標高をもつ点の集まり又は標高をもつ点から構成する三角形の集合により表現する。

地形モデル（LOD1）の取得イメージを表4-769に示す。

表4-769 — 地形モデル（LOD1）の取得イメージ

LOD1		
取得例		
説明	地形を、標高をもつ点の集まりとして表現する。	地形を、標高をもつ任意の三点で構成される三角形の集合として表現する。

4.18.1.2.2 地形モデル（LOD1）の定義

地形モデル（LOD1）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-770

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD1	●	Relief Feature	—		・ MassPointRelief又はTIN-Reliefの集まりとして取得する。	ReliefFeature は地物の集まりとして表現し、空間属性はもたない。
LOD1	■	Mass PointRelief	Multi Point	<ul style="list-style-type: none"> ・ レーザ点群の場合は、点密度0.04点/m²以上 ・ 数値標高モデルの場合は、点密度0.04点/m²以上のレーザ点群を使用して作成し、標高点格子間隔5m以内 	・ 標高をもつ点の集合を取得する。	地形のLODは、その作成に使用する原典資料の点密度又は標高点格子間隔により決定する。
LOD1	■	TINRelief	TIN	<ul style="list-style-type: none"> ・ レーザ点群の場合は、点密度0.04点/m²以上 ・ 数値標高モデルの場合は、点密度0.04点/m²以上のレーザ点群 	・ 標高をもつ3点で構成される三角形の集合を取得する。	地形のLODは、その作成に使用する原典資料の点密度又は標高点格子間隔により決定する。

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
				を使用して作成し、 標高点格子間隔5m以内		
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

なお、地形のLODは、作業規程の準則第417条に示される「地図情報レベルと格子間隔」（表4-771）を参考に決定している。地形モデル（LOD1）を格子間隔5m以内（地図情報レベル5000）と設定した。

表4-771 地図情報レベルと格子間隔の関係

地図情報レベル	格子間隔
500	0.5m以内
1000	1m以内
2500	2m以内
5000	5m以内
出典：付録7 公共測量標準図式	

4.18.1.3 地形モデル（LOD2）

4.18.1.3.1 地形モデル（LOD2）の概要

地形モデル（LOD2）では、地形を、標高をもつ点の集まり又は標高をもつ点から構成する三角形の集合により表現する。地形モデル（LOD2）は、格子間隔2m以内（地図情報レベル2500）としている。

4.18.1.3.2 地形モデル（LOD2）の定義

地形モデル（LOD2）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-772

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2	●	Relief Feature	—		・ MassPointRelief又はTIN-Reliefの集まりとして取得する。	ReliefFeatureは地物の集まりとして表現し、空間属性はもたない。
LOD2	■	Mass PointRelief	Multi Point	<ul style="list-style-type: none"> ・ レーザ点群の場合は、点密度0.25点/m²以上 ・ 数値標高モデルの場合は、点密度0.25点/m²以上のレーザ点群を使用して作成し、標高点格子間隔2m以内 	・ 標高をもつ点の集合を取得する。	地形のLODは、その作成に使用する原典資料の点密度又は標高点格子間隔により決定する。

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD2	■	TINRelief	TIN	<ul style="list-style-type: none"> レーザ点群の場合は、点密度0.25点/m²以上 数値標高モデルの場合は、点密度0.25点/m²以上のレーザ点群を使用して作成し、標高点格子間隔2m以内 	<ul style="list-style-type: none"> 標高をもつ3点で構成される三角形の集合を取得する。 	地形のLODは、その作成に使用する原典資料の点密度又は標高点格子間隔により決定する。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

表4-773

LOD	原典資料	
	レーザ点群の場合 点密度	数値標高モデル（DEM）の場合 作成に使用したレーザ点群の密度及び 標高点格子間隔
LOD2	0.25点/m ² 以上	<ul style="list-style-type: none"> 点密度0.25点/m²以上のレーザ点群を使用して作成 標高点格子間隔2m以内

4.18.1.4 地形モデル（LOD3）

4.18.1.4.1 地形モデル（LOD3）の概要

地形モデル（LOD3）では、地形を、標高をもつ点の集まり又は標高をもつ点から構成する三角形の集合により表現する。地形モデル（LOD3）は、格子間隔1m以内（地図情報レベル1000）としている。

4.18.1.4.2 地形モデル（LOD3）の定義

地形モデル（LOD3）の定義として、含むべき地物型、各地物型の空間属性の型、取得基準、取得方法及び補足を示す。

表4-774

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
LOD3	●	Relief Feature	—		<ul style="list-style-type: none"> MassPointRelief又はTIN-Reliefの集まりとして取得する。 	ReliefFeatureは地物の集まりとして表現し、空間属性はもたない。
LOD3	■	Mass PointRelief	Multi Point	<ul style="list-style-type: none"> レーザ点群の場合は、点密度1点/m²以上 数値標高モデルの場合は、点密度1点/m²以上のレーザ点群を 	<ul style="list-style-type: none"> 標高をもつ点の集合を取得する。 	地形のLODは、その作成に使用する原典資料の点密度又は標高点格子間隔により決定する。

		地物型	空間属性の型	取得基準	取得方法	補足
				使用して作成し、標高点格子間隔1m以内		
LOD3	■	TINRelief	TIN	<ul style="list-style-type: none"> レーザ点群の場合は、点密度1点/m2以上 数値標高モデルの場合は、点密度1点/m2以上のレーザ点群を使用して作成し、標高点格子間隔1m以内 	<ul style="list-style-type: none"> 標高をもつ3点で構成される三角形の集合を取得する。 	地形のLODは、その作成に使用する原典資料の点密度又は標高点格子間隔により決定する。
記号説明 ●：必須 ■：条件付必須 ○：任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.18.1.5 各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性

地形モデルの各LODにおいて使用可能な地物型と空間属性を表4-775に示す。

表4-775 — 地形モデルの記述に使用する地物型と空間属性

地物型	空間属性	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	適用
dem:ReliefFeature		●	●	●	●	dem:ReliefFeatureを作成する場合は、dem:BreaklineRelief、dem:TINRelief又はdem:ReliefFeatureのいずれかを必須とする
dem:BreaklineRelief		■				LOD1、LOD2及びLOD3では、dem:TINReliefを基本とする。
	dem:ridgeOrValleyLines	■				
dem:TINRelief		■	■	■	■	
	dem:tin	■	■	■	■	
dem:MassPointRelief		■	■	■	■	
	dem:reliefPoints	■	■	■	■	
記号説明						
● ： 必須						
■ ： 条件付必須						
○ ： 任意（ユースケースに応じて要否を決定してよい）						

4.18.2 地形モデルの応用スキーマクラス図

4.18.2.1 Relief (CityGML)

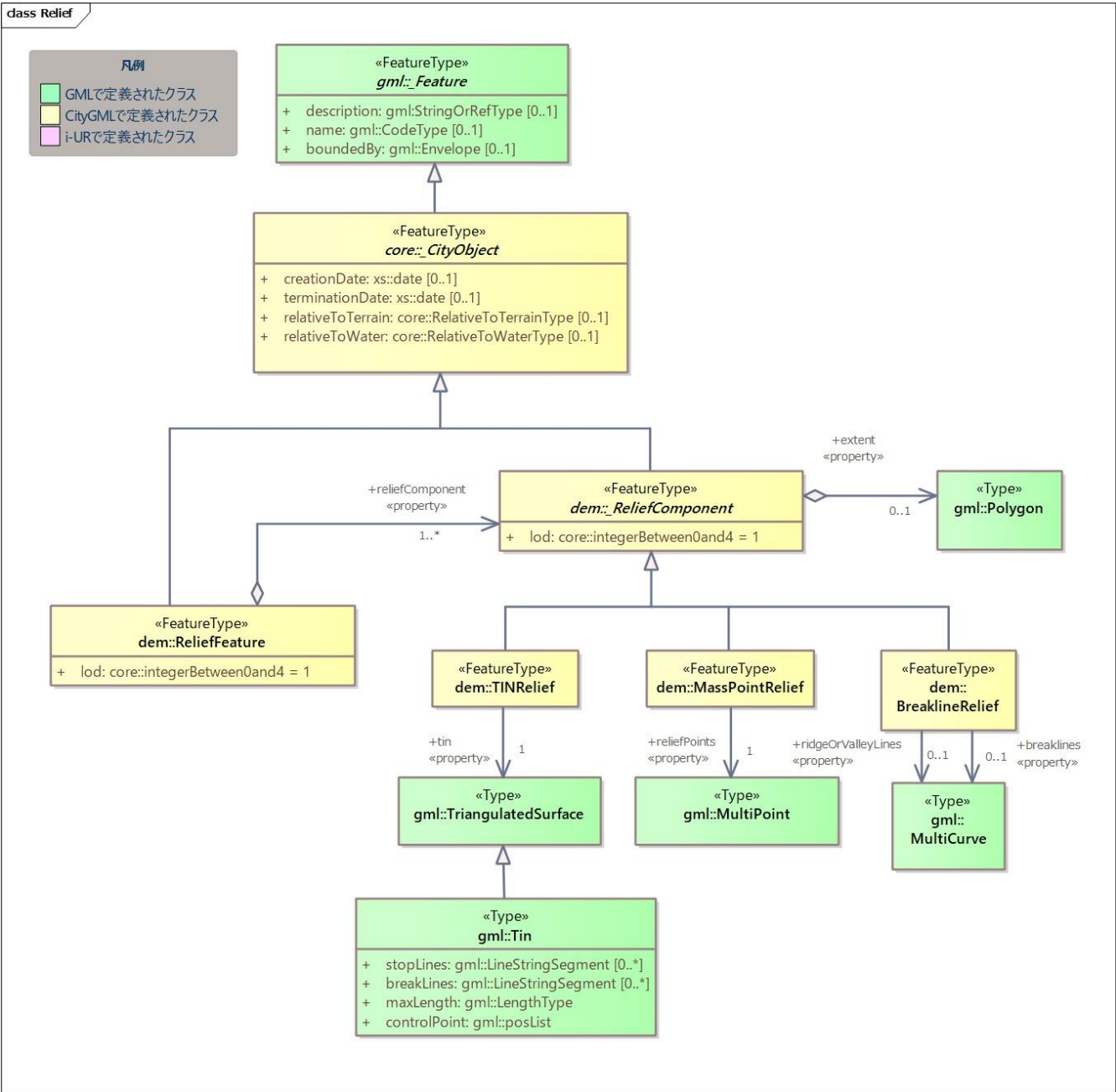


図4-70

4.18.2.2 Urban Object (i-UR)

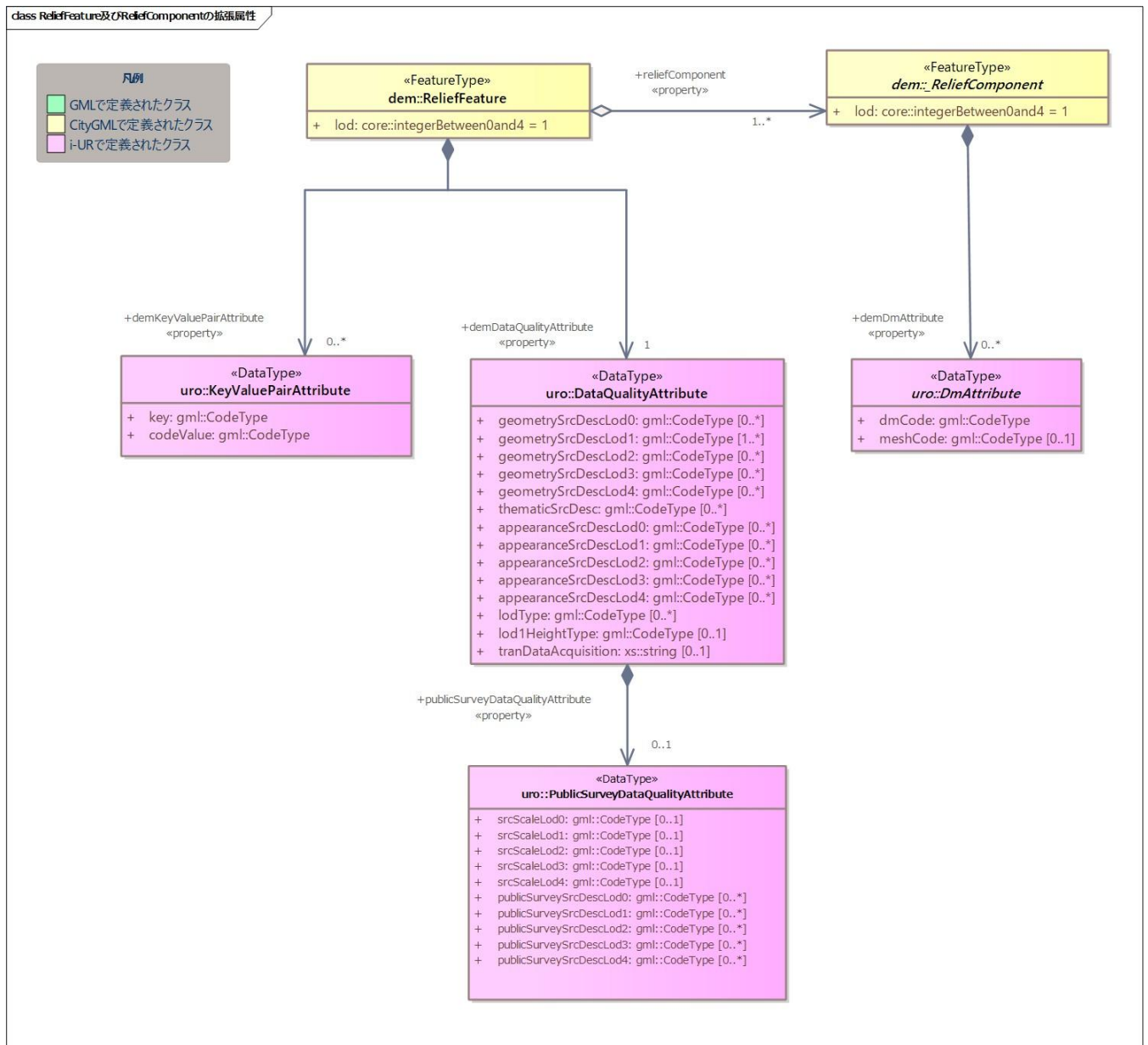


図4-71

4.18.3 地形モデルの応用スキーマ文書

4.18.3.1 Relief (CityGML)

4.18.3.1.1 dem:ReliefFeature

表4-776

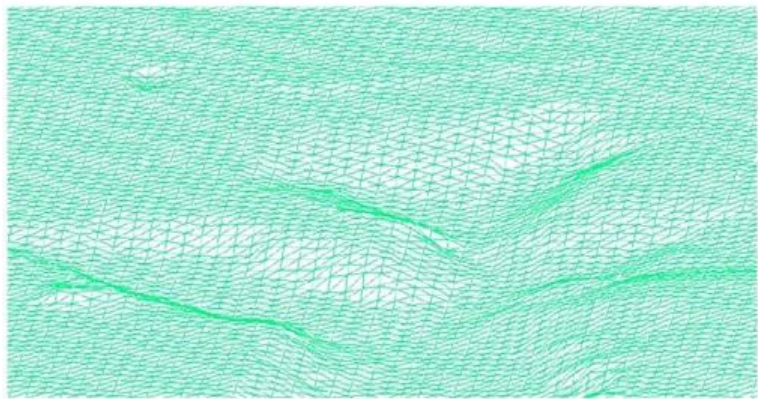
型の定義	地形の凹凸を表現した地物。 基準地域メッシュ（第三次地域区画、一辺の長さ約1km）を地物の単位とする（基準地域メッシュの境界で区切る）。
上位の型	core:_CityObject

ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
dem:lod [ReliefFeature]	core::integerBetween0and4 [1..1]	この地形に適用されるLOD0～3までの半角数字のいずれかとする。LOD1の場合は1となる。 dem:ReliefFeatureがもつdem:TINRelief、dem:MassPointRelief又はdem:BreaklineReliefのlodと一致させる。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
dem:reliefComponent [ReliefFeature]	dem:_ReliefComponent [1..*]	同じ基準地域メッシュ（第3次地域区画）に限り、dem:TINRelief又はdem:MassPointReliefのいずれか1つを複数もつことができる。
uro:demDataQualityAttribute [ReliefFeature]	uro:DataQualityAttribute [1..1]	作成されたデータの品質に関する情報。必須とする。

uro:demKeyValuePairAttribute [ReliefFeature]	uro:KeyValuePairAttribute [0..*]	コード属性を拡張するための仕組み。コード値以外の属性を拡張する場合は、gen:_GenericAttributeの下位型を使用する。
--	----------------------------------	--

4.18.3.1.2 dem:TINRelief

表4-777

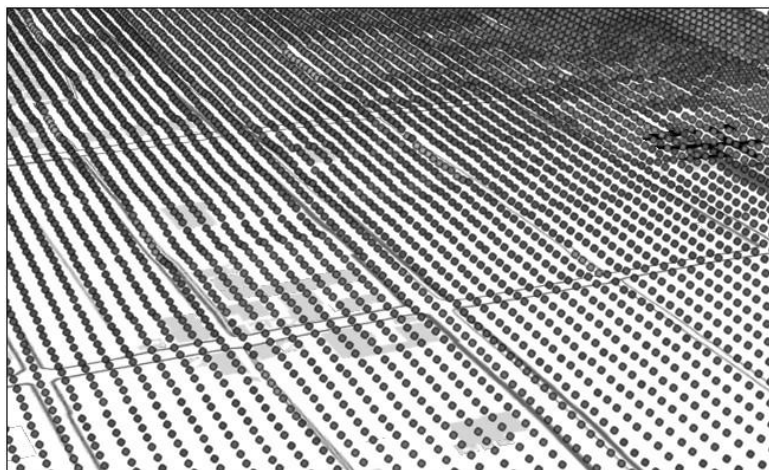
型の定義	三角形の集まりにより地形の起伏を表現した地物。基準地域メッシュ（第三次地域区画、一辺の長さ約1km）を地物の単位とすることを基本とする。	
		
	dem:TINReliefの例	
上位の型	dem:_ReliefComponent	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
dem:lod [_ReliefComponent]	core::integerBetween0and4 [1..1]	この地形に適用されるLOD0～3までの半角数字のいずれかとする。LOD1の場合は1となる。 dem:ReliefFeatureがもつdem:TINRelief、dem:MassPointRelief又はdem:BreaklineReliefのlodと一致させる。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義

core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
dem:extent [_ReliefComponent]	gml:Polygon [0..1]	空間範囲。 extent の exterior として、地形の外形を多角形で記述し、 extent の interior は地形の内空を記述する。
uro:demDmAttribute [_ReliefComponent]	uro:DmAttribute [0..*]	公共測量標準図式による表現に必要な情報。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
dem:tin [TINRelief]	gml:TriangulatedSurface [1..1]	起伏を表現する三角網。 原典資料にて点群が欠落している範囲（水域等）は dem:tin を生成しない。

4.18.3.1.3 dem:MassPointRelief

表4-778

型の定義	点の集まりにより地形の起伏を表現した地物。基準地域メッシュ（第三次地域区画、一辺の長さ約1km）を地物の単位とする。
------	--



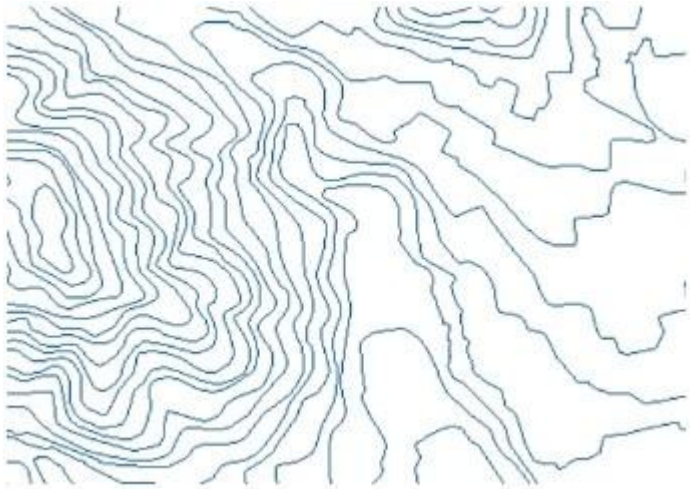
dem:MassPointReliefの例

上位の型	dem:_ReliefComponent	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
core:creationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs::date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
dem:lod [_ReliefComponent]	core::integerBetween0and4 [1..1]	この地形に適用されるLOD0～3までの半角数字のいずれかとする。LOD1の場合は1となる。 dem:ReliefFeatureがもつdem:TINRelief、dem:MassPointRelief又はdem:BreaklineReliefのlodと一致させる。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

[_CityObject]		
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
dem:extent [_ReliefComponent]	gml:Polygon [0..1]	空間範囲。 extent の exterior として、地形の外形を多角形で記述し、 extent の interior は地形の内空を記述する。
uro:demDmAttribute [_ReliefComponent]	uro:DmAttribute [0..*]	公共測量標準図式による表現に必要な情報。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
dem:reliefPoints [MassPointRelief]	gml:MultiPoint [1..1]	起伏を表現する点の集まり。

4.18.3.1.4 dem:BreaklineRelief

表4-779

型の定義	線の集まりにより地形の起伏を表現した地物。基準地域メッシュ（第三次地域区画、一辺の長さ約1km）を地物の単位とする。 <div></div> <div>dem:BreaklineReliefの例</div>	
上位の型	dem:_ReliefComponent	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。

core:creationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが作成された日。運用上必須とする。
core:terminationDate [_CityObject]	xs:date [0..1]	データが削除された日。
core:relativeToTerrain [_CityObject]	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
core:relativeToWater [_CityObject]	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。標準製品仕様書では使用しない。
dem:lod [_ReliefComponent]	core::integerBetween0and4 [1..1]	この地形に適用されるLOD0～3までの半角数字のいずれかとする。LOD1の場合は1となる。 dem:ReliefFeatureがもつdem:TINRelief、dem:MassPointRelief又はdem:BreaklineReliefのlodと一致させる。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:externalReference [_CityObject]	core:ExternalReference [0..*]	外部への参照。標準製品仕様書では使用しない。
gen:dateAttribute [_CityObject]	gen:dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:doubleAttribute [_CityObject]	gen:doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:genericAttributeSet [_CityObject]	gen:genericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット。属性を追加したい場合に使用する。
gen:intAttribute [_CityObject]	gen:intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:measureAttribute [_CityObject]	gen:measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:stringAttribute [_CityObject]	gen:stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
gen:uriAttribute [_CityObject]	gen:uriAttribute [0..*]	URI型属性。属性を追加したい場合に使用する。
uro:pointCloud [_CityObject]	uro:AbstractPointCloud [0..1]	ポイントクラウドへの参照。
dem:extent [_ReliefComponent]	gml:Polygon [0..1]	空間範囲。extentのexteriorとして、地形の外形を多角形で記述し、extentのinteriorは地形の内空を記述する。
uro:demDmAttribute [_ReliefComponent]	uro:DmAttribute [0..*]	公共測量標準図式による表現に必要な情報。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
dem:breaklines [BreaklineRelief]	gml:MultiCurve [0..1]	抑止線を表現する線の集まり。標準製品仕様書では使用しない。
dem:ridgeOrValleyLines [BreaklineRelief]	gml:MultiCurve [0..1]	谷や尾根を表現する線の集まり。

4.18.3.2 Urban Object (i-UR)

4.18.3.2.1 uro:KeyValuePairAttribute

表4-780

型の定義	都市オブジェクトに付与する追加情報。都市オブジェクトが継承する属性及び都市オブジェクトに定義された属性以外にコード型の属性を追加したい場合に使用する。 属性名称と属性の値の対で構成される。コード値以外の属性を追加する場合は、 gen:_GenericAttribute を使用すること。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:key [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張する属性の名称。名称は、コードリスト（Key ValuePairAttribute_key.xml）を作成し、選択する。
uro:codeValue [KeyValuePairAttribute]	gml::CodeType [1..1]	拡張された属性の値。名称は、コードリスト（Key ValuePairAttribute_key[key].xml）を作成し、選択する。 [key]は、属性uro:keyの値に一致する。

4.18.3.2.2 uro:DataQualityAttribute

表4-781

型の定義	都市オブジェクトの品質を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:geometrySrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [1..*]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:geometrySrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。

		コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:geometrySrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること（例えば、建築物モデルについて、一部の範囲のみLOD0の幾何オブジェクトが作成され、対象とする都市オブジェクトにはLOD1の幾何オブジェクトのみが含まれているような場合でも、その都市オブジェクトに関する本属性の値は「999」となる。）。
uro:thematicSrcDesc [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	主題属性の作成に使用した原典資料の種類。 コードリスト（DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml）より選択する。 主題属性が作成対象となっている場合は必須とする。
uro:appearanceSrcDescLod0 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD0の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。 コードリスト（DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。 拡張製品仕様書でLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD0の幾何オブジェクトのアピアランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。
uro:appearanceSrcDescLod1 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD1の幾何オブジェクトのアピアランスに使用した原典資料の種類。

		<p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書LOD1の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD1の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod2 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD2の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD2の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD2の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod3 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD3の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD3の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD3の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:appearanceSrcDescLod4 [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>LOD4の幾何オブジェクトのアピランスに使用した原典資料の種類。</p> <p>コードリスト（ DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml）より選択する。</p> <p>拡張製品仕様書でLOD4の幾何オブジェクトのアピランスが作成対象となっている場合は必須とする。この場合、具体的な都市オブジェクトがLOD4の幾何オブジェクトのアピランスを含んでいない場合でも、「未作成」を示すコード「999」を選択すること。</p>
uro:lodType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	<p>幾何オブジェクトに適用されたLODの詳細な区分。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の場合 コードリスト（ Building_lodType.xml）より選択する。 LOD2以上の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 道路、徒歩道又は広場の場合 コードリスト（ Road_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ 鉄道の場合 コードリスト（ Railway_lodType.xml）より選択する。 LOD3の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。 ・ LODの細分が定義されていない地物型の場合

		この属性を使用しない。
uro:lod1HeightType [DataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD1の立体図形を作成する際に使用した高さの算出方法。コードリスト（DataQualityAttribute_lod1Height-Type.xml）より選択する。立体の幾何オブジェクトを作成する場合は必須とする。
uro:tranDataAcquisition [DataQualityAttribute]	xs:string [0..1]	道路基盤地図情報（整備促進版）製品仕様書（案）（平成27年5月）に定める「取得レベル(level)」を記述するための属性。 道路の場合にのみ使用する。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:publicSurveyDataQualityAttribute [DataQualityAttribute]	uro:PublicSurveyDataQualityAttribute [0..1]	使用した公共測量成果の地図情報レベルと種類。各LODの幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性（uro:geometrySrcDescLod0等）のコード値（コードリスト（DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）となっている場合は、必須とする。

4.18.3.2.3 uro:PublicSurveyDataQualityAttribute

表4-782

型の定義	都市オブジェクトのデータ作成情報を記述するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:srcScaleLod0 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。 「LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類に関する属性」（uro:geometrySrcDescLod0）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。
uro:srcScaleLod1 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。 「LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」（uro:geometrySrcDescLod1）のコード値（コードリスト（ DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択される）が公共測量成果（コード「000」）のみの場合は、必須とする。
uro:srcScaleLod2 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..1]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。 コードリスト（ PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。

		<p>「LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」 (uro:geometrySrcDescLod2) のコード値 (コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択される) が公共測量成果 (コード「000」) のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、壁面は地図情報レベル1000、屋根面は地図情報レベル2500となる場合は、地図情報レベル2500とする。</p>
uro:srcScaleLod3 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。</p> <p>コードリスト (PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml) より選択する。</p> <p>「LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」 (uro:geometrySrcDescLod3) のコード値 (コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択される) が公共測量成果 (コード「000」) のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、壁面は地図情報レベル1000、屋根面は地図情報レベル2500となる場合は、地図情報レベル2500とする。</p>
uro:srcScaleLod4 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml:CodeType [0..1]	<p>LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の地図情報レベル。</p> <p>コードリスト (PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml) より選択する。</p> <p>「LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」 (uro:geometrySrcDescLod4) のコード値 (コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択される) が公共測量成果 (コード「000」) のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の地図情報レベルが混在する場合は、最も低い地図情報レベルを記載する。例えば、外側の形状は地図情報レベル1000、屋内の形状は地図情報レベル500となる場合は地図情報レベル1000とする。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod0 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml:CodeType [0..*]	<p>LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト (PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>「LOD0の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」 (uro:geometrySrcDescLod0) のコード値 (コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択される) が公共測量成果 (コード「000」) のみの場合は、必須とする。</p> <p>複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。</p>
uro:publicSurveySrcDescLod1 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml:CodeType [0..*]	<p>LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト (PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml) より選択する。</p> <p>「LOD1の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」 (uro:geometrySrcDe-</p>

		scLod1) のコード値 (コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択される) が公共測量成果 (コード「000」) のみの場合は、必須とする。 複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。
uro:publicSurveySrcDescLod2 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト (PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml) より選択する。 「LOD2の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」 (uro:geometrySrcDescLod2) のコード値 (コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択される) が公共測量成果 (コード「000」) のみの場合は、必須とする。 複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。
uro:publicSurveySrcDescLod3 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト (PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml) より選択する。 「LOD3の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」 (uro:geometrySrcDescLod3) のコード値 (コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択される) が公共測量成果 (コード「000」) のみの場合は、必須とする。 複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。
uro:publicSurveySrcDescLod4 [PublicSurveyDataQualityAttribute]	gml::CodeType [0..*]	LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類。コードリスト (PublicSurveyDataQualityAttribute_publicSurveySrcDesc.xml) より選択する。 「LOD4の幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」 (uro:geometrySrcDescLod4) のコード値 (コードリスト (DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml) より選択される) が公共測量成果 (コード「000」) のみの場合は、必須とする。 複数の種類の原典資料を使用した場合は、それぞれを記述する。

4.18.3.3 数値地形図のための拡張属性

4.18.3.3.1 uro:DmAttribute

公共測量標準図式の応用スキーマ文書 参照。

4.18.4 地形モデルで使用するコードリストと列挙型

4.18.4.1 Relief (CityGML)

なし

4.18.4.1.1 DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-783

ファイル名	DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
101	(公共測量又は基本測量ではない) 現地測量の測量成果
102	(公共測量又は基本測量ではない) UAV写真測量の測量成果
103	(公共測量又は基本測量ではない) 空中写真測量の測量成果
104	(公共測量又は基本測量ではない) 既成図数値化の測量成果
105	(公共測量又は基本測量ではない) 修正測量の測量成果
106	(公共測量又は基本測量ではない) 写真地図作成の測量成果
107	(公共測量又は基本測量ではない) 地図編集の測量成果
108	(公共測量又は基本測量ではない) 地上レーザ測量の測量成果
109	(公共測量又は基本測量ではない) UAV写真点群測量の測量成果
110	(公共測量又は基本測量ではない) UAVレーザ測量の測量成果
111	(公共測量又は基本測量ではない) 車載写真レーザ測量の測量成果
112	(公共測量又は基本測量ではない) 航空レーザ測量の測量成果
113	(公共測量又は基本測量ではない) 航空レーザ測深測量の測量成果
114	(公共測量又は基本測量ではない) 路線測量の測量成果
115	(公共測量又は基本測量ではない) 河川測量の測量成果
116	(公共測量又は基本測量ではない) 用地測量の測量成果
117	(公共測量又は基本測量ではない) その他の応用測量の測量成果
118	(公共測量又は基本測量ではない) LidarSLAM計測の測量成果
119	(公共測量又は基本測量ではない) 高密度航空レーザ測量の測量成果
120	(公共測量又は基本測量ではない) 写真点群測量の測量成果
121	(公共測量又は基本測量ではない) 三次元数値図化の測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
700	その他の資料
801	現地調査
803	GISデータ演算
901	推定
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.18.4.1.2 DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml

表4-784

ファイル名	DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
コード	説明
000	公共測量成果又は基本測量成果
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
100	公共測量成果又は基本測量成果ではない測量成果
201	都市計画基礎調査
202	都市計画図書
300	台帳
301	道路台帳
400	その他のGISデータ
500	BIMモデル、CADデータ、設計図、完成図、一般図（平面図、配置図、断面図等）
600	統計データ
701	建築計画概要書
700	その他の資料
801	現地調査
802	写真判読
803	GISデータ演算
999	未作成
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #02; PLATEAU Handbook #10	

4.18.4.1.3 DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml

表4-785

ファイル名	DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DataQualityAttribute_appearanceSrcDesc.xml
コード	説明
1	空中写真
2	衛星写真
3	車載写真レーザ測量システムにより撮影した写真
4	手持ちカメラにより撮影した写真
5	疑似テクスチャ
99	未作成

4.18.4.1.4 PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml

表4-786

ファイル名	PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/PublicSurveyDataQualityAttribute_srcScale.xml
コード	説明
0	地図情報レベル5000
1	地図情報レベル2500
2	地図情報レベル1000
3	地図情報レベル500
9	定義なし

4.18.4.1.5 PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml

表4-787

ファイル名	PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/PublicSurveyDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml
コード	説明
001	現地測量の測量成果
002	UAV写真測量の測量成果
003	空中写真測量の測量成果
004	既成図数値化の測量成果
005	修正測量の測量成果
006	写真地図作成の測量成果
007	地図編集の測量成果
008	地上レーザ測量の測量成果
009	UAV写真点群測量の測量成果
010	UAVレーザ測量の測量成果
011	車載写真レーザ測量の測量成果
012	航空レーザ測量の測量成果
013	航空レーザ測深測量の測量成果
014	路線測量の測量成果
015	河川測量の測量成果
016	用地測量の測量成果
017	その他の応用測量の測量成果
018	LidarSLAM計測の測量成果
019	高密度航空レーザ測量の測量成果
020	写真点群測量の測量成果
021	三次元数値図化の測量成果
022	基盤地図情報
023	数値地形図データ
出典: 作業規程の準則について; PLATEAU Handbook #10	

4.19 水部モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.20 区域モデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.21 汎用都市オブジェクトモデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.22 アピアランスモデルの応用スキーマ

アピアランスとは、地物の表面の外観に関する情報である。

[出典：OGC 21-006r2]

建築物の壁面等の都市オブジェクトの表面にテクスチャを重畳する場合には、**Appearance**モジュールに定義された**ParameterizedTexture**を使用する。標準製品仕様書で定義するテクスチャの応用スキーマは、CityGMLの**Appearance**モジュールから、**ParameterizedTexture**を使用するために必要となる型のみを矛盾なく抽出したプロファイルである。

4.22.1 アピアランスモデルのLOD

標準製品仕様書第5.0版では、アピアランスモデルのLODは設定していない。

4.22.2 アピアランスモデルの応用スキーマクラス図

4.22.2.1 Apperance (CityGML)

Appearanceパッケージは、地物の表面の情報を地物型として定義する。**app:X3DMaterial**は地物の表面の色を定義する地物型であり、**app:ParameterizedTexture**は、地物の表面に貼りつける画像を指定する地物型である。

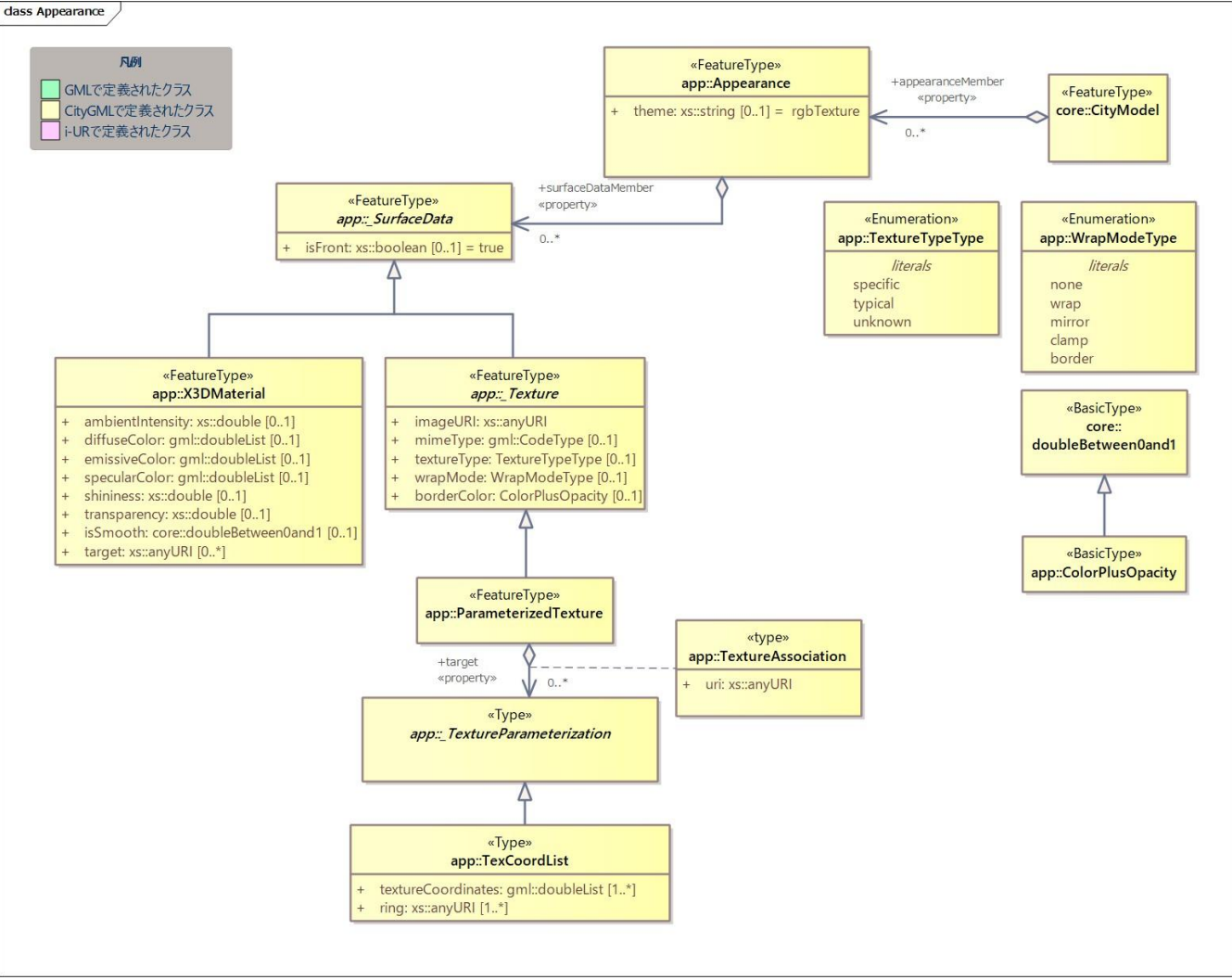


図4-77

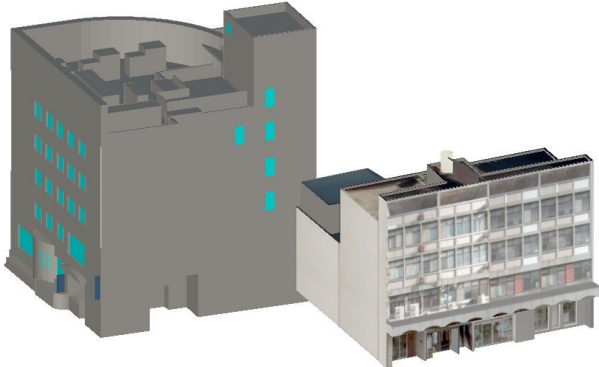
4.22.3 アピアランスモデルの応用スキーマ文書

4.22.3.1 Appearance (CityGML)

4.22.3.1.1 app:Appearance

表4-833

型の定義	地物の外観。地物の幾何オブジェクトとなる面に色又はテクスチャを指定する。
------	--------------------------------------

<div></div> <div>Apperanceを使用してbldg:Buildingの外観を設定した例 (左：色の指定 右：テクスチャの指定)</div>		
上位の型	gml:_Feature	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
app:theme [Appearance]	xs:string [0..1]	主題。固定値とし、「rgbTexture」とする。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
app:surfaceDataMember [Appearance]	app::_SurfaceData [0..*]	使用するテクスチャ及びパラメータ又は色及びパラメータへの参照。

4.22.3.1.2 app:ParameterizedTexture

表4-834

型の定義	地物インスタンスに貼り付ける画像と貼り付け方をパラメータにより指定するための型。
------	--

		
bldg:Buildingの外観としてテクスチャを指定した例		
上位の型	app:_Texture	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
app:isFront [_SurfaceData]	xs:boolean [0..1]	テクスチャを貼る面の指定。
app:imageURI [_Texture]	xs:anyURI [1..1]	テクスチャの画像への参照URI。相対パスにより記述する。
app:mimeType [_Texture]	gml:CodeType [0..1]	テクスチャの画像フォーマット。コードリスト（Appearance_mimeType.xml）より選択する。画像フォーマットは、PNG又はJPEGとする。
app:textureType [_Texture]	TextureTypeType [0..1]	テクスチャの種類。
app:wrapMode [_Texture]	WrapModeType [0..1]	テクスチャの貼り付け方。 borderを選択した場合は、borderColorも指定すること。
app:borderColor [_Texture]	ColorPlusOpacity [0..1]	テクスチャの端の色表現の指定。RGBに加え、不透過率を0から1までの実数値で指定する。不透過率が0の時に透明となる。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
app:target [ParameterizedTexture]	app:_TextureParameterization [0..*]	テクスチャの貼り付けに使用する幾何への参照。 app:TexCoordListを使用する。

4.22.3.1.3 app:TexCoordList

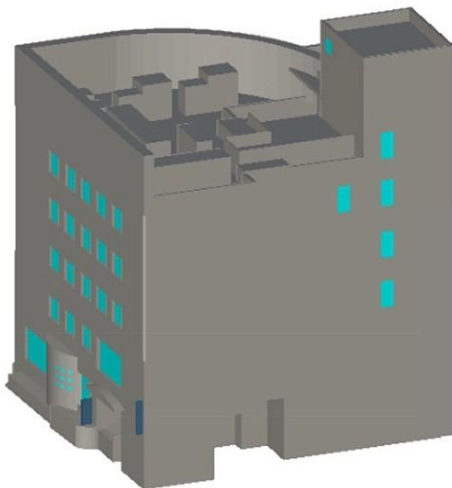
表4-835

型の定義	テクスチャの座標とテクスチャを貼り付ける幾何オブジェクトへの参照の対。	
上位の型	app:_TextureParameterization	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
app.textureCoordinates [TexCoordList]	gml::doubleList [1..*]	テクスチャの座標。UV座標（画像の横方向をU軸、縦方向をV軸とし、座標値を0から1の小数值を用いて記述する座標）により記述する。

app:ring [TexCoordList]	xs:anyURI [1..*]	幾何オブジェクトへの参照。相対パスにより記述する。参照する幾何オブジェクトは、gml:LinearRingとする。
------------------------------	------------------	---

4.22.3.1.4 app:X3DMaterial

表4-836

型の定義	地物インスタンスの表面色を指定するための型。 <div></div> <p>bldg:Buildingの外観として色を指定した例</p>	
上位の型	app:_SurfaceData	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
app:isFront [_SurfaceData]	xs:boolean [0..1]	テクスチャを貼る面の指定。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
app:ambientIntensity [X3DMaterial]	xs::double [0..1]	環境光（光源からの光の当たっていない部分の明るさ）に対する反射率を指定。これが 0 だと陰の部分が真っ暗になる。
app:diffuseColor [X3DMaterial]	gml::doubleList [0..1]	拡散反射率を指定（rgb、いずれも 0～1）。これが物体の色になる。
app:emissiveColor [X3DMaterial]	gml::doubleList [0..1]	発光（rgb、いずれも 0～1）を指定。0 0 0 より大きくすると、この物体自体がその色で発光する。
app:specularColor [X3DMaterial]	gml::doubleList [0..1]	鏡面反射率を指定（rgb、いずれも 0～1）で指定。これは光源の光が物体表面でそのまま反射して見える部分（ハイライト）の色になる。
app:shininess [X3DMaterial]	xs::double [0..1]	ハイライトの「強さ」を、0～1 の間で指定。この値が大きくなるにつれてハイライトが鋭くなり、輝きが増す。
app:transparency [X3DMaterial]	xs::double [0..1]	透明度を指定。0 で不透明になり、1 で透明になる。デフォルトは 0。
app:isSmooth [X3DMaterial]	core::doubleBetween0and1 [0..1]	陰影付のための補間方法を指定。true の場合、グーロー法(による陰影付け)となる。

app:target [X3DMaterial]	xs:anyURI [0..*]	色を設定する幾何への参照。
-------------------------------	------------------	---------------

4.22.4 アピアランスモデルで使用するコードリストと列挙型

4.22.4.1 Appearance (CityGML)

4.22.4.1.1 Appearance_mimeType.xml

表4-837

ファイル名	Appearance_mimeType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Appearance_mimeType.xml
コード	説明
image/jpeg	*.jpeg, *.jpg images
image/png	*.png images
出典: OGC 12-019, 附属書 C.6	

4.22.4.1.2 TextureTypeType

表4-838

列挙型	TextureTypeType
値	説明
specific	特定のオブジェクトのための画像
typical	典型的な画像
unknown	不明
出典： OGC 12-019	

4.22.4.1.3 WrapModeType

表4-839

列挙型	WrapModeType
値	説明
none	画像は繰り返されない
wrap	画像が繰り返される
mirror	画像は鏡面对称で繰り返される
clamp	フレームが引き延ばされる
border	指定された境界線色で塗りつぶされる
出典： OGC 12-019	

4.23 ポイントクラウドモデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.24 都市オブジェクトグループモデルの応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.25 公共測量標準図式の応用スキーマ

公共測量標準図式に従った地図表現を行うための情報を格納するデータ型を定義する。

4.25.1 公共測量標準図式のLOD

公共測量標準図式に従った地図表現は、LOD0とする。

4.25.2 公共測量標準図式の応用スキーマクラス図

4.25.2.1 Urban Object (i-UR)

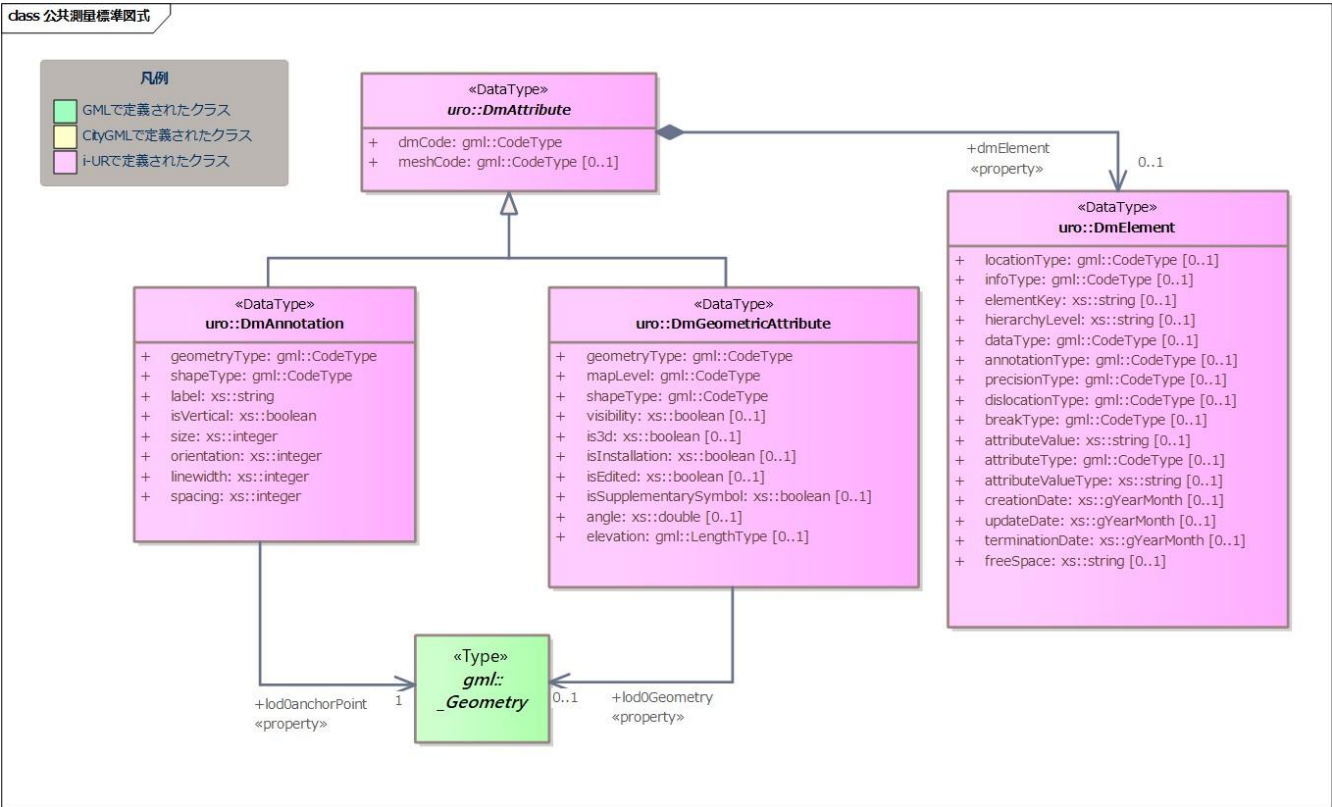


図4-81

4.25.3 公共測量標準図式の応用スキーマ文書

4.25.3.1 Urban Object (i-UR)

4.25.3.1.1 uro:DmGeometricAttribute

表4-859

型の定義	都市計画基本図として、地物の形状を公共測量標準図式に従って表現するためのデータ型。 uro:DmGeometricAttributeは、地物の実体を表す図形だけではなく、地物を図式に従って表現する際に必要な情報（例：建物記号、建物の棟割線、記号の方向、指示点）を含む。 地物（ステレオタイプがFeatureTypeとなるクラス）は、関連役割uro:dmAttributeにより、このuro:DmGeometricAttributeを保持できる。
上位の型	uro:DmAttribute
ステレオタイプ	<< DataType >>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:dmCode [DmAttribute]	gml::CodeType [1..1]	DMの図式分類コード。レイヤ番号（2桁）とデータ項目（2桁）からなる4桁の半角数字の列。 コードリスト（ Common_dmCode.xml）より選択する。
uro:meshCode [DmAttribute]	gml::CodeType [0..1]	数値地形図データが含まれる国土基本図の図郭識別番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:geometryType [DmGeometricAttribute]	gml::CodeType [1..1]	レコードタイプ。 コードリスト（ Common_geometryType.xml）より選択する。
uro:mapLevel [DmGeometricAttribute]	gml::CodeType [1..1]	地図情報レベル。 コードリスト（ Common_MapLevel.xml）より選択する。 都市計画基本図の場合は、2500となる。
uro:shapeType [DmGeometricAttribute]	gml::CodeType [1..1]	図形区分。 コードリスト（ Common_shapeType.xml）より選択する。
uro:visibility [DmGeometricAttribute]	xs::boolean [0..1]	可視性。上空から見た場合に、他の地物に遮蔽されておらず、上空から見えている（地図上に表現される）ことを示すフラグ。仮想的に設定された付属図形で描画対象としない場合にもこのフラグを0にする。 1：他の地物に遮蔽されていない。（省略時値） 0：他の地物に遮蔽されている。
uro:is3d [DmGeometricAttribute]	xs::boolean [0..1]	この図形の座標値が3次元データであることを示すフラグ。 1：この図形の座標値は3次元データである。 0：この図形の座標値は2次元データである。（省略時値） uro:is3d=0の場合、z値に示された"0"は意味を持たない。
uro:isInstallation [DmGeometricAttribute]	xs::boolean [0..1]	この図形が地物の付属図形であることを示すフラグ。 付属図形とは、地物の本質的な実体ではないが、描画処理などで地物を図形表現する際に利用可能な図形である。 1：この図形は付属図形である。 0：この図形は付属図形ではない。（省略時値） uro:isInstallationの値が1の場合、uro:dmShapeTypeの値は、0以外となる。
uro:isEdited [DmGeometricAttribute]	xs::boolean [0..1]	個別の編集処理がおこなわれたことを示すフラグ。 1：編集処理が行われた。 0：編集処理が行われていない。（省略時値）
uro:isSupplementarySymbol [DmGeometricAttribute]	xs::boolean [0..1]	この図形が地物の補助記号であることを示すフラグ。 補助記号とは、公共測量標準図式において自動発生が可能とされる図形を指す。自動発生が不可能な場合で図形を作成する必要がある場合にのみ使用する。 1：この図形は補助記号である。 0：この図形は補助記号ではない。（省略時値）

uro:angle [DmGeometricAttribute]	xs::double [0..1]	図形の角度。真北を0とし、時計まわりを正とする。 uro:dmGeometryTypeの値がE7（方向）の場合に多重度は任意となっているが、必須とする。
uro:elevation [DmGeometricAttribute]	gml::LengthType [0..1]	この図形の標高。単位はmとする。 uro:dmCodeのレイヤ番号が73の場合は、必須とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:dmElement [DmAttribute]	uro:DmElement [0..1]	数値地形図データファイル仕様に基づく要素レコードの情報。 数値地形図データファイルの要素レコード情報を保持したい場合に必須とする。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:lod0Geometry [DmGeometricAttribute]	gml:_Geometry [0..1]	地物の形状を示す幾何オブジェクト。 参照先の幾何オブジェクトの型は、uro:dmCode の値に応じて、gml:MultiPoint、gml:MultiCurve又はgml:MultiSurfaceのいずれかとする。 いずれの幾何オブジェクトの型となるかは、数値地形図の取得方法に従う。

4.25.3.1.2 uro:DmElement

表4-860

型の定義	数値地形図データの要素レコードの情報を保持するためのデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:locationType [DmElement]	gml::CodeType [0..1]	地域分類。文字列とする。 必要に応じて利用者が任意に定義するコード。
uro:infoType [DmElement]	gml::CodeType [0..1]	情報分類。文字列とする。 必要に応じて利用者が任意に定義するコード。
uro:elementKey [DmElement]	xs::string [0..1]	要素識別番号。
uro:hierarchyLevel [DmElement]	xs::string [0..1]	階層レベル。
uro:dataType [DmElement]	gml::CodeType [0..1]	実データ区分。 コードリスト（ DmElement_dataType.xml）から選択する。
uro:annotationType [DmElement]	gml::CodeType [0..1]	注記区分。 コードリスト（ DmElement_annotationType.xml）から 選択する。
uro:precisionType [DmElement]	gml::CodeType [0..1]	精度区分。 コードリスト（ DmElement_precisionType.xml）から選 択する。
uro:dislocationType [DmElement]	gml::CodeType [0..1]	転位区分。 コードリスト（ DmElement_dislocationType.xml）から 選択する。
uro:breakType [DmElement]	gml::CodeType [0..1]	間断区分。 コードリスト（ DmElement_breakType.xml）から選択 する。

uro:attributeValue [DmElement]	xs:string [0..1]	属性数値。
uro:attributeType [DmElement]	gml:CodeType [0..1]	属性区分。利用者が独自に設ける区分。文字列とする。
uro:attributeValueType [DmElement]	xs:string [0..1]	属性データ書式。属性レコードを持つ場合の、そのレコードに記述されている内容の書式をFortran形式で記述する。
uro:creationDate [DmElement]	xs:gYearMonth [0..1]	取得年月。
uro:updateDate [DmElement]	xs:gYearMonth [0..1]	更新年月。
uro:terminationDate [DmElement]	xs:gYearMonth [0..1]	削除年月。
uro:freeSpace [DmElement]	xs:string [0..1]	空き領域。数値地形図データファイル形式で空き領域にデータが設定されている場合には、この属性を用いて保持する。

4.25.3.1.3 uro:DmAnnotation

表4-861

型の定義	都市計画基本図として、注記を表現するために必要な情報のデータ型。 地物（ステレオタイプがFeatureType）は、関連役割uro:dmAttributeにより、uro:DmAnnotationを保持できる。このとき、uro:DmAnnotationは地物に付属する情報となる。	
上位の型	uro:DmAttribute	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:dmCode [DmAttribute]	gml::CodeType [1..1]	DMの図式分類コード。レイヤ番号（2桁）とデータ項目（2桁）からなる4桁の半角数字の列。 コードリスト（ Common_dmCode.xml）より選択する。
uro:meshCode [DmAttribute]	gml::CodeType [0..1]	数値地形図データが含まれる国土基本図の図郭識別番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro:geometryType [DmAnnotation]	gml::CodeType [1..1]	レコードタイプ。 コードリスト（ Common_geometryType.xml）より選択する。 注記の場合はE7となる。
uro:shapeType [DmAnnotation]	gml::CodeType [1..1]	図形区分。 コードリスト（ Common_shapeType.xml）より選択する。 注記の場合は0となる。
uro:label [DmAnnotation]	xs::string [1..1]	注記の文字列。
uro:isVertical [DmAnnotation]	xs::boolean [1..1]	縦書きか否か。 1：縦書き 0：横書き
uro:size [DmAnnotation]	xs::integer [1..1]	字の大きさ。単位は10分の1ミリメートル。

uro:orientation [DmAnnotation]	xs::integer [1..1]	注記の表示方向を示す角度。単位は度、範囲は縦書きの場合は－135度～－45度、横書きの場合は－45度～＋45度とする。
uro:linewidth [DmAnnotation]	xs::integer [1..1]	注記の線の太さ。線号の号数を記述する。
uro:spacing [DmAnnotation]	xs::integer [1..1]	字の間隔。単位は10分の1ミリメートル。全角・半角が混在する場合には、全角を基準とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:dmElement [DmAttribute]	uro:DmElement [0..1]	数値地形図データファイル仕様に基づく要素レコードの情報。 数値地形図データファイルの要素レコード情報を保持したい場合に必須とする。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro:lod0AnchorPoint [DmAnnotation]	gml:_Geometry [1..1]	注記を配置する位置。点（gml:Point）を使用して記述する。

4.25.4 公共測量標準図式で使用するコードリストと列挙型

4.25.4.1 Urban Object (i-UR)

4.25.4.1.1 Common_dmCode.xml

表4-862

ファイル名	Common_dmCode.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelist/3.2/Common_dmCode.xml
コード	説明
1101	都府県界
1102	北海道の支庁界
1103	郡市・東京都の区界
1104	町村・指定都市の区界
1106	大字・町（丁）界
1110	所属界
2101	真幅道路
2103	徒歩道
2106	庭園路
2109	建設中の道路
2203	道路橋
2205	徒橋
2211	横断歩道橋
2213	歩道
2214	石段
2215	地下街・地下鉄等出入口
2219	道路のトンネル

ファイル名	Common_dmCode.xml
2226	分離帯
2228	道路の雪覆い等
2238	並木
2301	普通鉄道
2303	路面電車
2305	特殊鉄道
2306	索道
2309	建設中の鉄道
2401	鉄道橋
2411	跨線橋
2419	鉄道のトンネル
2421	停留所
2424	プラットホーム
2428	鉄道の雪覆い等
3000	分類しない建物
3001	普通建物
3002	堅ろう建物
3003	普通無壁舎
3004	堅ろう無壁舎
3401	門
3402	屋門
4201	墓碑
4202	記念碑
4203	立像
4204	路傍祠
4205	灯ろう
4207	鳥居
4208	自然災害伝承碑
4219	坑口
4221	独立樹（広葉樹）
4222	独立樹（針葉樹）
4225	油井・ガス井
4228	起重機
4231	タンク
4234	煙突
4235	高塔
4236	電波塔
4241	灯台
4243	灯標
4251	水位観測所
4261	輸送管（地上）
4262	輸送管（空間）
4265	送電線
5101	水がい線（河川）(湖池等)（海岸線）
5102	一条河川

ファイル名	Common_dmCode.xml
5299	栈橋（鉄、コンクリート）
5203	栈橋（木製・浮栈橋）
5221	渡船発着所
5226	滝
5227	せき
5228	水門
5232	透過水制
5239	敷石斜坂
5241	流水方向
6101	人工斜面
6102	土堤等
6110	被覆
6130	かき
6140	へい
6201	区域界
6212	駐車場
6214	園庭
6215	墓地
6216	材料置場
6217	太陽光発電設備
6221	噴火口・噴気口
6222	温泉・鉱泉
6301	植生界
6302	耕地界
6311	田
6313	畑
6314	さとうきび畑
6315	パイナップル畑
6317	桑畑
6318	茶畑
6319	果樹園
6321	その他の樹木畑
6323	芝地
6331	広葉樹林
6332	針葉樹林
6333	竹林
6334	荒地
6335	はい松地
6336	しの地（笹地）
6337	やし科樹林
6338	湿地
6340	砂れき地
7101	等高線（計曲線）
7102	等高線（主曲線）
7103	等高線（補助曲線）

ファイル名	Common_dmCode.xml
7105	凹地（計曲線）
7106	凹地（主曲線）
7107	凹地（補助曲線）
7199	凹地（矢印）
7201	土がけ
7202	雨裂
7206	洞口
7211	岩がけ
7212	露岩
7213	散岩
7214	さんご礁
7301	三角点
7302	水準点
7303	多角点等
7304	公共基準点（三角点）
7305	公共基準点（水準点）
7308	電子基準点
7311	標石を有しない標高点
7312	図化機測定による標高点
3503	官公署
3504	裁判所
3505	検察庁
3507	税務署
3509	郵便局
3510	森林管理署
3515	交番・駐在所
3516	消防署
3517	職業安定所
3519	役場支所及び出張所
3521	神社
3522	寺院
3523	キリスト教会
3524	学校
3525	幼稚園・保育園
3526	公会堂・公民館
3530	老人ホーム
3531	保健所
3532	病院
3534	銀行
3536	協同組合
3545	倉庫
3546	火薬庫
3548	工場
3550	変電所
3556	揚排水ポンプ場

ファイル名	Common_dmCode.xml
3560	ガソリンスタンド
8100	注記（未分類）
8110	市・東京都の区
8111	町・村・指定都市の区
8112	市町村の飛び地
8113	大区域
8115	大字・町・丁目
8116	小字・丁目
8117	その他の地名（大）
8118	その他の地名（中）
8119	その他の地名（小）
8121	道路の路線名
8122	道路施設、坂、峠、インターチェンジ
8123	鉄道の路線名
8124	鉄道施設、駅、操車場、信号所
8125	橋
8126	トンネル
8131	建物の名称
8134	建物の付属物
8140	マンホール
8141	電柱
8142	その他小物体
8151	水部
8152	水部施設
8153	地下水部
8161	法面、構囲
8162	諸地、場地
8163	植生
8171	山地
8173	標高注記
8181	説明注記
8199	指示点
出典：付録 7 公共測量標準図式	

4.25.4.1.2 Common_shapeType.xml

表4-863

ファイル名	Common_shapeType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_shapeType.xml
コード	説明
0	非区分（下記に該当しない全データ）
11	射影部の上端
12	射影部の下端
21	高欄

ファイル名	Common_shapeType.xml
22	橋脚
23	親柱
26	ガードレール
27	ガードパイプ
31	中庭線
32	棟割線
33	階層線
34	外付階段
35	ポーチ・ひさし
46	両側敷地のへい
47	輸送管（空間）
出典：付録7 公共測量標準図式	

4.25.4.1.3 Common_MapLevel.xml

表4-864

ファイル名	Common_MapLevel.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_MapLevel.xml
コード	説明
500	地図情報レベル500
1000	地図情報レベル1000
2500	地図情報レベル2500
5000	地図情報レベル5000
10000	地図情報レベル10000
25000	地図情報レベル25000

4.25.4.1.4 Common_geometryType.xml

表4-865

ファイル名	Common_geometryType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/Common_geometryType.xml
コード	説明
E1	面
E2	線
E5	点
E6	方向
E7	注記
出典：付録7 公共測量標準図式	

4.25.4.1.5 DmElement_dataType.xml

表4-866

ファイル名	DmElement_dataType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DmElement_dataType.xml
コード	説明
0	実データなし（地形表面の高さを計測したもの）
1	実データなし（人口構造物等の地形表面以外の高さを計測したもの）
2	二次元座標レコード
3	三次元座標レコード（地形表面の高さを計測したもの）
4	注記レコード
5	属性レコード
6	三次元座標レコード（人口構造物等の地形表面以外の高さを計測したもの）
出典：付録 7 公共測量標準図式	

4.25.4.1.6 DmElement_annotationType.xml

表4-867

ファイル名	DmElement_annotationType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DmElement_annotationType.xml
コード	説明
0	区分しない
1	漢字
2	英数カナ文字
出典：付録 7 公共測量標準図式	

4.25.4.1.7 DmElement_precisionType.xml

表4-868

ファイル名	DmElement_precisionType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DmElement_precisionType.xml
コード	説明
11	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="1～50"
12	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="～100"
13	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="～250"
14	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="～500"
15	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="～1000"
16	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="～2500"
17	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="～5000"
18	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="～10000"
19	数値図化区分="基準点測量を用いる方法" "地図情報レベル"="その他"
21	数値図化区分="TS等を用いた数値実測" "地図情報レベル"="1～50"

ファイル名	DmElement_precisionType.xml
-------	-----------------------------

22	数値図化区分="TS等を用いた数値実測"_"地図情報レベル="100"
23	数値図化区分="TS等を用いた数値実測"_"地図情報レベル="250"
24	数値図化区分="TS等を用いた数値実測"_"地図情報レベル="500"
25	数値図化区分="TS等を用いた数値実測"_"地図情報レベル="1000"
26	数値図化区分="TS等を用いた数値実測"_"地図情報レベル="2500"
27	数値図化区分="TS等を用いた数値実測"_"地図情報レベル="5000"
28	数値図化区分="TS等を用いた数値実測"_"地図情報レベル="10000"
29	数値図化区分="TS等を用いた数値実測"_"地図情報レベル="その他"
31	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="1~50"
32	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="100"
33	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="250"
34	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="500"
35	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="1000"
36	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="2500"
37	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="5000"
38	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="10000"
39	数値図化区分="数値図化法・他の数値地形図データの利用"_"地図情報レベル="その他"
41	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="1~50"
42	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="100"
43	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="250"
44	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="500"
45	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="1000"
46	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="2500"
47	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="5000"
48	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="10000"
49	数値図化区分="既成図数値化（無伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="その他"
51	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="1~50"
52	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="100"
53	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="250"
54	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="500"
55	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="1000"
56	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="2500"
57	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="5000"
58	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="10000"
59	数値図化区分="既成図数値化（伸縮図面を使用）"_"地図情報レベル="その他"
61	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="1~50"
62	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="100"
63	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="250"
64	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="500"
65	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="1000"
66	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="2500"
67	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="5000"
68	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="10000"
69	数値図化区分="航空レーザ測量成果を用いる方法"_"地図情報レベル="その他"
91	数値図化区分="その他"_"地図情報レベル="1~50"
ファイル名	DmElement_precisionType.xml

92	数値図化区分="その他" "地図情報レベル="～100"
93	数値図化区分="その他" "地図情報レベル="～250"
94	数値図化区分="その他" "地図情報レベル="～500"
95	数値図化区分="その他" "地図情報レベル="～1000"
96	数値図化区分="その他" "地図情報レベル="～2500"
97	数値図化区分="その他" "地図情報レベル="～5000"
98	数値図化区分="その他" "地図情報レベル="～10000"
99	数値図化区分="その他" "地図情報レベル="その他"
出典：付録 7 公共測量標準図式	

4.25.4.1.8 DmElement_breakType.xml

表4-869

ファイル名	DmElement_breakType.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DmElement_breakType.xml
コード	説明
0	間断しない
1～9	間断する（数値は優先順位）
出典：付録 7 公共測量標準図式	

4.25.4.1.9 DmElement_dislocationType.xml

表4-870

ファイル名	DmElement_dislocationType.xml
ファイルURL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/DmElement_dislocationType.xml
コード	説明
0	転位しない
1～9	座標列の方向に対して右側に転位する
-1～-9	座標列の方向に対して左側に転位する
出典：付録 7 公共測量標準図式	

4.26 施設管理の応用スキーマ

使用していないため省略する。

4.27 データ集合の応用スキーマ

データ集合は地物の集まりである。

4.27.1 データ集合のLOD

データ集合は地物の集まりであり、それ自身の空間属性をもたないため、LODは定義しない。

4.27.2 データ集合の応用スキーマクラス図

4.27.2.1 Core (CityGML)

Coreパッケージには、CityGMLが定義する地物型の最上位概念であるcore:_CityObjectと、データ集合であるcore:CityModelが定義されている。CityGMLで定義される全ての地物型、また、CityGMLを拡張するi-URで定義される全ての地物型は、core:_CityObjectを継承する。

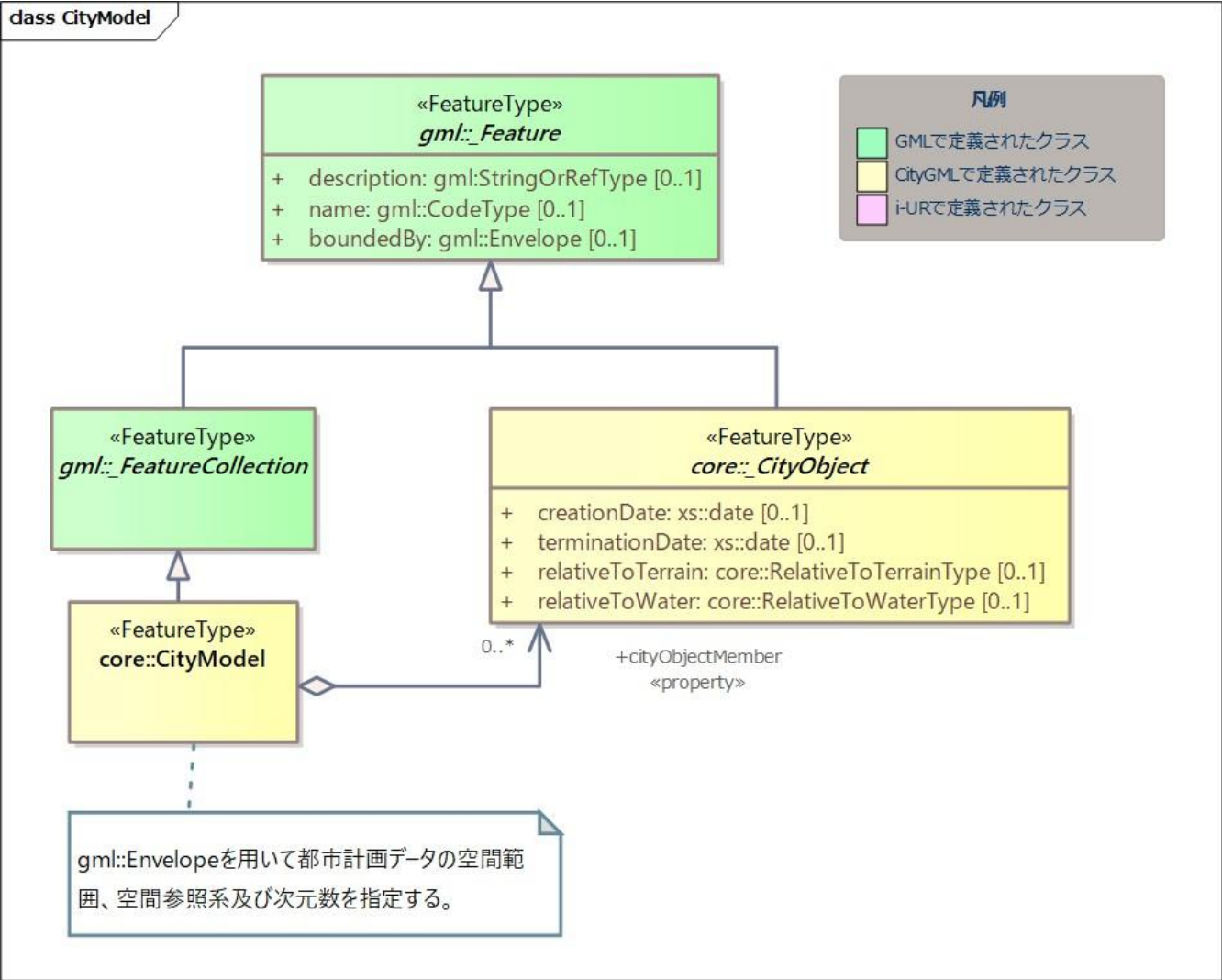


図4-88

4.27.3 データ集合の応用スキーマ文書

4.27.3.1 Core (CityGML)

4.27.3.1.1 core:CityModel

表4-935

型の定義	3次元都市モデルのための地物集合。全ての都市オブジェクト及びその幾何形状等はこの地物型の中に含める。	
上位の型	gml:_FeatureCollection	
ステレオタイプ	<< FeatureType >>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:description [_Feature]	gml:StringOrRefType [0..1]	都市オブジェクトの概要。
gml:name [_Feature]	gml::CodeType [0..1]	都市オブジェクトを識別する名称。文字列とする。
gml:boundedBy [_Feature]	gml::Envelope [0..1]	都市オブジェクトの範囲及び適用される空間参照系。 CityModelの場合のみ必須とする。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
app:appearanceMember [CityModel]	app:Appearance [0..*]	3D都市モデルに紐づけられたテクスチャ及びマテリアルの情報。
core:cityObjectMember [CityModel]	core::_CityObject [0..*]	都市モデルに含まれる都市オブジェクト。 core:CityModelがcore:cityObjectMemberにより直接含む都市オブジェクトは、各応用スキーマにおいて、全体となる都市オブジェクトのみである。 それ以外の都市オブジェクトは、全体となる都市オブジェクトの部品として出現する。 全体となる都市オブジェクトとは、以下である。 bldg:Building brid:Bridge frn:CityFurniture grp:CityObjectGroup luse:LandUse tran:Road tran:Railway tran:Track tran:Square tun:Tunnel veg:SolitaryVegetationObject veg:PlantCover wtr:WaterBody dem:ReliefFeature uro:OtherConstruction uro:UndergroundBuilding uro:UtilityNetworkElementを継承する都市オブジェクト uro:Waterway

4.27.4 データ集合で使用するコードリストと列挙型

4.27.4.1 Core (CityGML)

なし

4.28 空間スキーマプロファイル

4.28.1 クラス図

4.28.1.1 Spatial Schema (GML)

空間スキーマプロファイルは、地物の空間属性（位置や形状）の記述に使用する型（幾何オブジェクト）を定義する。

応用スキーマに定義された各都市オブジェクトは、lod0からlod4までの幾何形状を記述するときに、幾何オブジェクトを使用する。これは、応用スキーマクラス図では、都市オブジェクトから幾何オブジェクトへの参照として記述される。

4.28.1.1.1 幾何プリミティブ

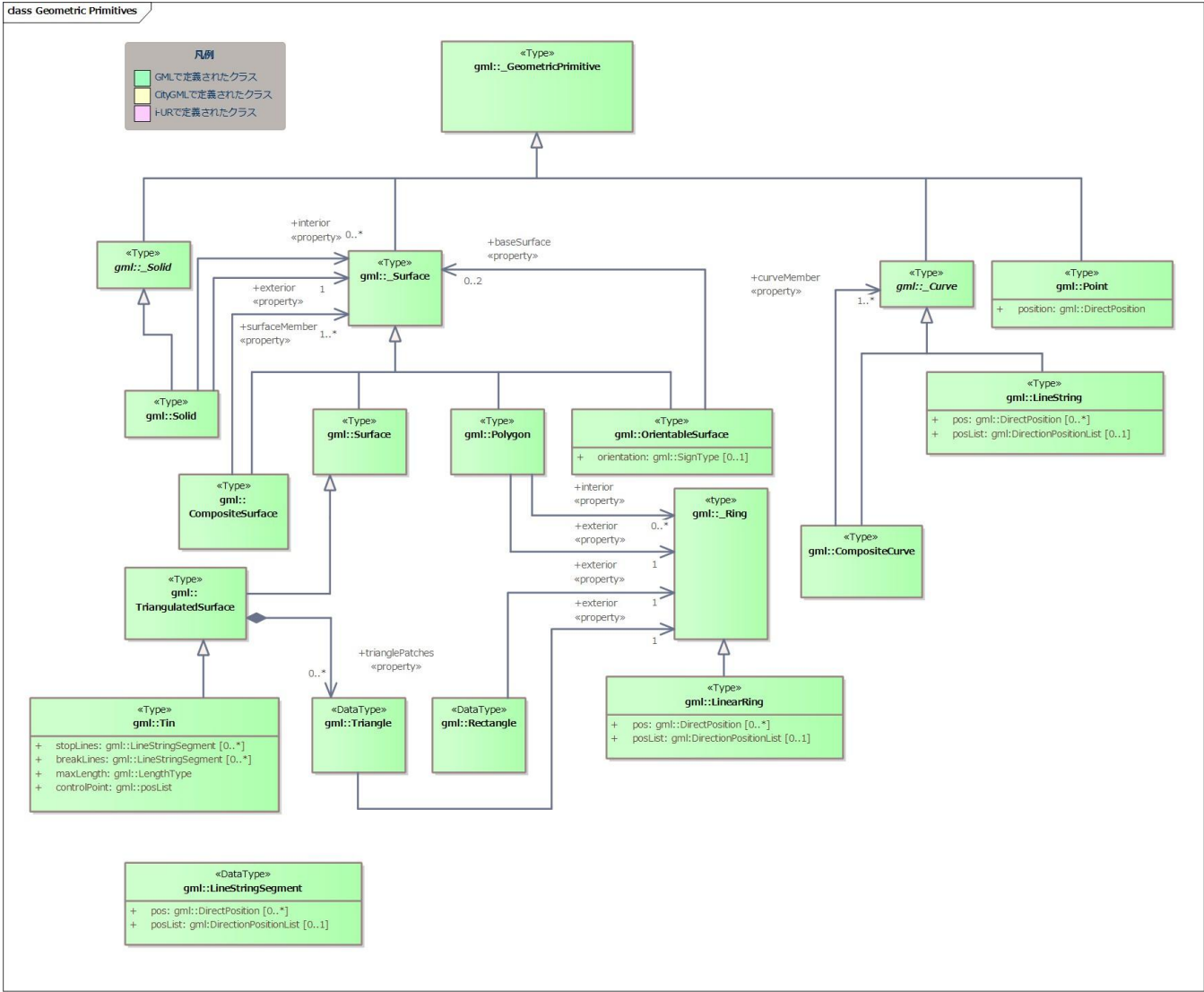


图4-89

4.28.1.1.2 幾何複体及び幾何集成

幾何複体(Geometric Complex)とは、互いに素な幾何プリミティブの集合である。

[出典：JIS X 7107]

また、幾何集成とは、内部構造をもたない幾何オブジェクトの集まりである。

[出典： JIS X 7107]

幾何複体と幾何集成は、いずれも幾何形状の集まりとして表現される。ただし、幾何複体は、集められた幾何形状が互いに重なってはならない。一方、幾何集成は、集められた幾何形状が互いに重なっていてもよい。

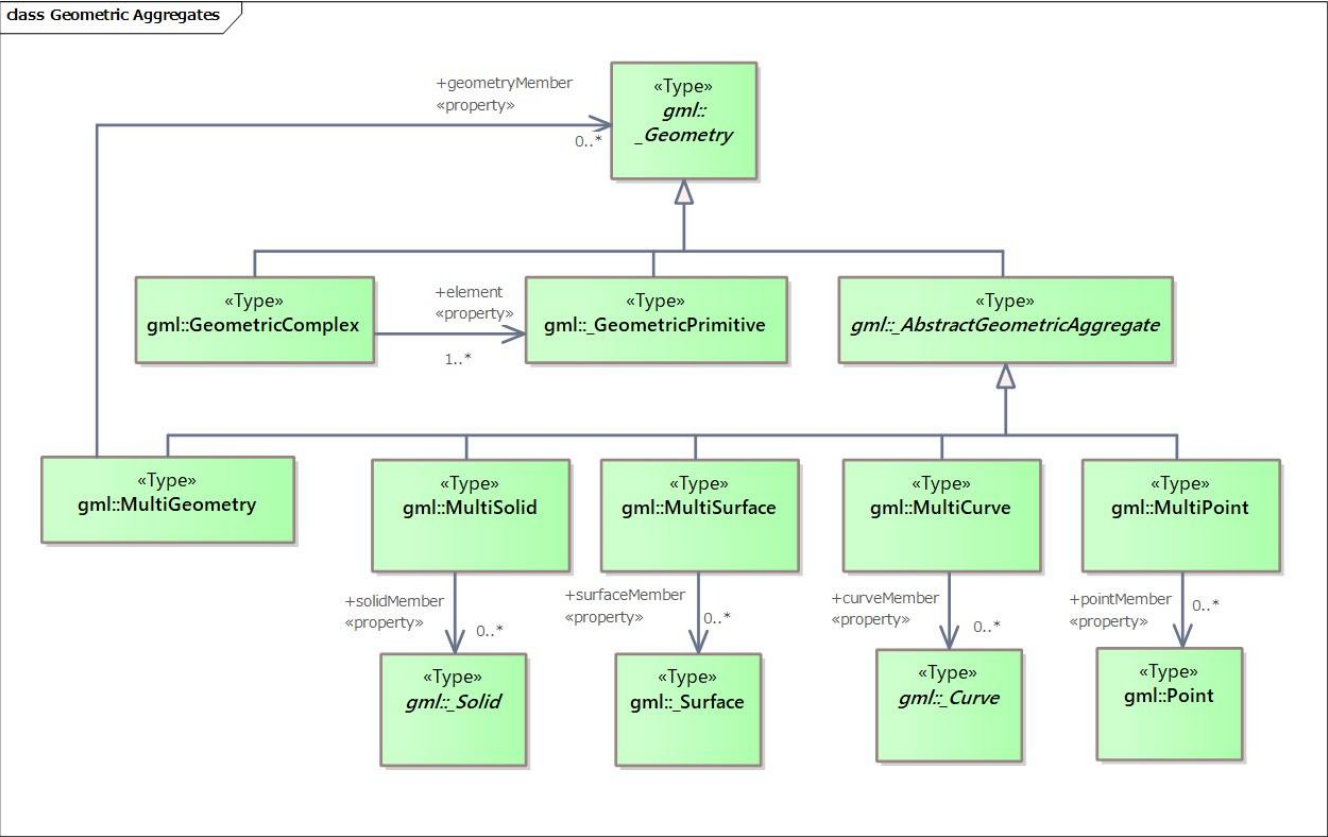


図4-90

4.28.2 スキーマ文書

4.28.2.1 Spatial Schema (GML)

4.28.2.1.1 gml:Point

表4-936

型の定義	点。	
上位の型	gml:_GeometricPrimitive	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:position [Point]	gml::DirectPosition [1..1]	座標値。

4.28.2.1.2 gml:LineString

表4-937

型の定義	線。2点以上の点から構成され、それらの点の順序は始点から終点までの順列になっていなければならない。始点と終点以外の点の座標が、他の点の座標と一致してはならず、また、一つの折れ線に自己交差や重なりがあってはならない。 属性pos又はposListのいずれかを使用する。	
上位の型	gml::_Curve	

ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:pos [LineString]	gml::DirectPosition [0..*]	線を構成する座標値の列。 各座標値を各要素に分けて記述する場合にはこの属性を使用する。この属性を使用する場合は、属性を2回以上繰り返さなければならない。
gml:posList [LineString]	gml:DirectionPositionList [0..1]	線を構成する座標値の列。各座標値を一つの要素にまとめて記述する場合にはこの属性を使用する。この属性を使用する場合は、2個以上の座標値が含まなければならない。

4.28.2.1.3 gml:CompositeCurve

表4-938

型の定義	線の集まり。ただし、集まりを構成する最初の線を除く各線が直前の線の終点から始まる（方向が揃った有向曲線となる）。始点と終点以外の点の座標が、ほかの点の座標と一致してはならず、また、自己交差や重なりがあってはならない。	
上位の型	gml:_Curve	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:curveMember [CompositeCurve]	gml:_Curve [1..*]	集まりを構成する線。

4.28.2.1.4 gml:Polygon

表4-939

型の定義	<p>多角形。以下を満たさなければならない。</p> <p>a) 内周が、外周に完全に含まれている。</p> <p>b) 内周が他の内周と重なっておらず、他の内周に包含されてもいない。</p> <p>c) 内周が外周に接していてもよいが、gml:Polygonの内部を分断しない。</p> <p>d) 内周と外周が線分で重ならない。</p> <p>e) 外周及び内周に自己交差がなく、始終点以外の点で一致する点がない。</p> <div><div><div>外周</div><div>正</div><div></div><div>外周</div><div>誤</div><div></div><div>外周</div><div>正</div><div></div><div>外周</div><div>誤</div><div></div></div><p>内周が外周に含まれていない</p><p>内周がポリゴンを分断</p><div><div>外周</div><div>正</div><div></div><div>外周</div><div>誤</div><div></div><div>外周</div><div>誤</div><div></div><div>外周</div><div>誤</div><div></div></div><p>他の内周に包含</p><p>自己交差</p><p>始終点以外で一致</p></div>	
上位の型	gml:_Surface	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:exterior [Polygon]	gml:_Ring [1..1]	多角形の外周。

gml:interior [Polygon]	gml:_Ring [0..*]	多角形の内周。
-----------------------------	------------------	---------





4.28.2.1.5 gml:LinearRing

表4-940

型の定義	線形から構成する輪。 多角形の境界として使用される。 4点以上の順列から構成され、始点と終点が一致する。gml:LinearRingを構成する全ての点は、始点と終点を除き、一致しない。自己交差しない。 属性pos又はposListのいずれかを使用する。	
上位の型	gml:_Ring	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:pos [LinearRing]	gml::DirectPosition [0..*]	輪を構成する座標値の列。各座標値を各要素に分けて記述する場合にはこの属性を使用する。この属性を使用する場合は、属性を4回以上繰り返さなければならない。
gml:posList [LinearRing]	gml:DirectionPositionList [0..1]	輪を構成する座標値の列。各座標値を一つの要素にまとめて記述する場合にはこの属性を使用する。この属性を使用する場合は、4個以上の座標値が含まなければならない。

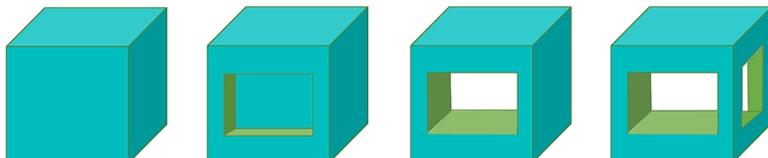
4.28.2.1.6 gml:CompositeSurface

表4-941

型の定義	<p>面の集まり。ただし、構成要素となる全ての面は連続していなければならない。</p> <p>立体の外殻や内殻として使用される。</p> <div><div><p>正</p></div><div><p>誤</p><p>離れている</p></div><div><p>誤</p><p>重なっている</p></div><div><p>誤</p><p>法線方向が異なっている</p></div></div>	
上位の型	gml:_Surface	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:surfaceMember [CompositeSurface]	gml:_Surface [1..*]	集まりを構成する面。

4.28.2.1.7 gml:Solid

表4-942

型の定義	<p>立体。以下を満たさなければならない。</p> <p>a) gml:Solidの境界を構成する曲面が、自己交差していない。</p> <p>b) gml:Solidは閉じている（水密である）。</p> <p>c) gml:Solidの内部が連続している。</p> <p>d) gml:Solidの境界を構成する曲面が、適切な方向を向いている。</p> <p>e) gml:Solidの境界を構成する曲面が、重なっていない。</p> <div></div> <p>妥当なgml:Solidの例</p>	
上位の型	gml:_Solid	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:exterior [Solid]	gml:_Surface [1..1]	立体の外殻。gml:CompositeSurfaceを使用する。
gml:interior [Solid]	gml:_Surface [0..*]	立体の内殻。gml:CompositeSurfaceを使用する。

4.28.2.1.8 gml:Triangle

表4-943

型の定義	三角形。	
上位の型	gml:_SurfacePatch	
ステレオタイプ	<< DataType >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:exterior [Triangle]	gml:_Ring [1..1]	三角形の外周となる輪。

4.28.2.1.9 gml:TriangulatedSurface

表4-944

型の定義	三角形網。	
上位の型	gml:Surface	
ステレオタイプ	<< Type >>	
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:patches [Surface]	gml:_SurfacePatch [1..*]	面を構成する要素（SurfacePatch）。標準製品仕様書では使用しない。 gml:Tinの場合は継承に制限がかかるため、gml:patchesではなくgml:trianglePatchesで部品となる要素を持つ。

自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:trianglePatches [TriangulatedSurface]	gml:Triangle [0..*]	三角網を構成する三角形。

4.28.2.1.10 gml:Tin

表4-945

型の定義	不規則三角形網。	
上位の型	gml:TriangulatedSurface	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml:stopLines [Tin]	gml::LineStringSegment [0..*]	TINの生成を止める境界線。
gml:breakLines [Tin]	gml::LineStringSegment [0..*]	地形の変化点をつなぐ線分。
gml:maxLength [Tin]	gml::LengthType [1..1]	TINを構成する三角形の最大辺長。
gml:controlPoint [Tin]	gml::posList [1..1]	TIN生成の制御点リスト。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:patches [Surface]	gml:_SurfacePatch [1..*]	面を構成する要素（SurfacePatch）。標準製品仕様書では使用しない。 gml:Tinの場合は継承に制限がかかるため、gml:patchesではなくgml:trianglePatchesで部品となる要素を持つ。
gml:trianglePatches [TriangulatedSurface]	gml:Triangle [0..*]	三角網を構成する三角形。

4.28.2.1.11 gml:MultiPoint

表4-946

型の定義	点の集まり。	
上位の型	gml:_AbstractGeometricAggregate	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:pointMember [MultiPoint]	gml:Point [0..*]	構成要素となる点。

4.28.2.1.12 gml:MultiCurve

表4-947

型の定義	線の集まり。	
上位の型	gml:_AbstractGeometricAggregate	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:curveMember [MultiCurve]	gml:_Curve [0..*]	構成要素となる線。

4.28.2.1.13 gml:MultiSurface

表4-948

型の定義	面の集まり。	
上位の型	gml:_AbstractGeometricAggregate	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:surfaceMember [MultiSurface]	gml:_Surface [0..*]	構成要素となる面。

4.28.2.1.14 gml:MultiSolid

表4-949

型の定義	立体の集まり。 標準製品仕様書では複数の立体からなる幾何オブジェクトは使用しない。 gml:MultiSolidを使用する場合、これに含まれる立体は、必ず1でなければならない。	
上位の型	gml:_AbstractGeometricAggregate	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
gml:solidMember [MultiSolid]	gml:_Solid [0..*]	構成要素となる立体。

5 参照系

5.1 空間参照系

データ製品には、以下の空間参照系を適用する。

表5-1

次元数	空間参照系の名称
3	日本測地系2011における経緯度座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系

ただし、地下埋設物については、9.8の記載を適用する。

5.2 時間参照系

データ製品に適用する時間参照系は、「グレゴリオ暦及び日本標準時」とする。

6 データ品質

データ製品が保証すべき品質の基準（品質要求）及び品質評価の手法（品質評価手順）を示す。

6.1 標準製品仕様の品質要求

本製品仕様書で示す品質要求は、標準製品仕様書に示された標準的な品質要求を採用する。

6.2 品質評価手順に関する共通事項

標準製品仕様では、品質評価手法を以下の2種類に大別する。

- 全数・自動検査
- 抜取・目視検査

このうち、抜取検査を実施する場合、標準製品仕様書では、抜取方法と合否判定を「地図情報レベル2500数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）」を参考に、以下のとおり設定する。

a) 検査ロット

3D都市モデル整備対象となる全域

b) 検査量

総面積の2%

c) 検査単位の抽出方法

「4分の1地域メッシュ（分割地域メッシュ）」を検査単位とする。

「4分の1地域メッシュ」とは、基準地域メッシュ（第3次地域区画）を経線方向緯線方向に四分割したメッシュである。

[出典：https://www.stat.go.jp/data/mesh/m_tuite.html]

検査量2%のうち、1%は監督員による任意抽出とし、残りの1%は無作為抽出により抽出する。無作為抽出の結果、監督員が既に抽出した検査単位、検査の対象が含まれない検査単位、市町村境界の外側や海などの白部が含まれる地区が抽出された場合には、隣接する検査単位を選択する。白部が含まれない検査単位を抽出することが困難な場合には、出来る限り白部の比率が小さい検査単位を選択する。最小検査単位数は16とする。同一の成果に対しては、異なる品質評価項目に対しても原則として同一の検査単位を使用する。

d) アイテム（品質評価の対象）の定義

個別に規定する。

e) 抜取率（母集団からサンプルを抽出する割合）

検査単位内の全数を対象とする。

各検査単位を10×10サブメッシュ（品質評価手順によっては2×2）に分割し、サブメッシュ毎に全数を点検する。

f) 検査方法

個別に規定する。

g) 合否判定

次式により検査単位ごとに誤率を求める。

式：誤率（％）＝(エラーが一つでも含まれるサブメッシュ数 / 検査単位ごとの全サブメッシュ数) × 100

検査単位ごとの全サブメッシュ数は100に等しく、検査単位の一部に白部が含まれる場合にも100として誤率を計算する。

一つ以上の検査単位で誤率が適合品質水準を超えたら「不合格」とする。不合格となった場合、全般について再点検を行う。再点検が終了したら、3%の面積に相当する検査単位の抽出を行うものとし、その結果不適合が認められた場合には、さらに4%の追加実施を行うか、再作業を行う。

6.3 品質要求及び品質評価手順

データ製品に対する品質要求及び品質評価手順を示す。

6.3.1 完全性

完全性とは、データ集合内の過剰なデータの存在（過剰）とデータ集合内のデータの欠落（漏れ）である。

表6-1

No	C01
品質要求	データ製品内に、gml:idが同一となるインスタンスがない。
品質要素	完全性・過剰
品質適用範囲	データ製品内の全てのgml:idをもつインスタンス。
品質評価尺度	インスタンスに与えられたgml:idと同じgml:idをもつ他のインスタンスがデータ製品内に存在しない。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. データ製品に含まれる全てのインスタンスについて、gml:idの値が同じインスタンスの数をエラーとして数える。

表6-2

No	C02：参照データに含まれるデータを分割・統合・追加・削除せずに使用する場合
品質要求	参照データとインスタンス数が等しい。
品質要素	完全性・過剰/漏れ
品質適用範囲	データ集合内の全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	参照データと都市モデルに含まれる各地物のインスタンス数が等しい。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. 参照データに含まれるデータ数を、地物型ごとに数える。 ・ 手順2. 都市モデルに含まれるインスタンス数を地物型ごとに数える。 ・ 手順3. 手順1. と手順2. の結果より、地物型ごとに差を計算し、その絶対値の和をエラーの数とする。

表6-3

No	C03：参照データに含まれるデータを分割・統合・追加・削除し使用する場合、又は新規にデータを作成する場合
品質要求	参照データと比較して過剰・漏れが許容誤差の範囲内である。
品質要素	完全性・過剰/漏れ
品質適用範囲	データ集合内の全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	参照データに存在しないのに地物インスタンスが存在する場合、あるいは参照データに存在するのに地物インスタンスが存在しない場合をエラーとする。1個以上のエラーが存在するサブメッシュをエラーサブメッシュとする。 式：誤率（％）＝（エラーサブメッシュの数 / 100）× 100
適合品質水準	全ての検査単位の誤率が10%以下なら合格、10%を超える検査単位が1つ以上あれば不合格。
品質評価手法	抜取・目視検査を実施する。 ・手順1. 抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ・手順2. 検査単位の各メッシュを5×5のサブメッシュに分割する。 ・手順3. 検査単位の範囲について、対象となる全ての地物インスタンスを抽出する。 ・手順4. 検査単位ごとに全サブメッシュについて、参照データと手順3. を目視で比較して、どちらかに対応が取れない地物インスタンスがあった場合、そのサブメッシュをエラーとして、エラーの存在するサブメッシュ数を数える。 ・手順5. 手順4. の結果より、検査単位ごとに誤率を算出する。

表6-4

No	C04（LODで指定された地物型の過剰）
品質要求	応用スキーマごとに定義された、各LODにおいて使用可能な地物型以外のインスタンスが含まれていない。
品質要素	完全性・過剰
品質適用範囲	データ集合内の全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	応用スキーマごとに定義された、各LODにおいて使用可能な地物型以外のインスタンスが含まれている場合にエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	応用スキーマごとに全数・自動検査を実施する。 ・手順1. データ製品に含まれる、全体となる地物型 ^{a)} のインスタンスがもつ空間属性のLOD（LODの詳細な区分が行われている場合には、その区分）を取得する。 ・手順2. LOD又はLODの詳細な区分 ^{b)} において、標準製品仕様書に示された使用可能な地物型を取得する。 ・手順3. データ製品に、手順2. で取得した地物型以外のインスタンスが存在した場合に、エラーとしてその数を数える。
<p>注^{a)} 全体となる地物型とは、以下をいう。 bldg:Building,brid:Bridge,frn:CityFurniture,luse:LandUse,tran:Road,tran:Railway,tran:Track,tran:Square,tun:Tunnel,veg:SolitaryVegetationObject,veg:PlantCover,wtr:WaterBody,dem:ReliefFeature,uro:OtherConstruction,uro:UndergroundBuilding,uro:UtilityNetworkElementを継承する都市オブジェクト,uro:Waterway,urf:Zone及びこれを継承する地物型。</p> <p>注^{b)} LOD又はLODの詳細な区分ごとに仕様可能な地物型は、標準製品仕様書の4.2～4.21に、応用スキーマごとに示す。</p>	

表6-5

No	C05（出力すべき主題属性及び関連役割の漏れ）
品質要求	作成対象とする主題属性及び関連役割が、必ず要素（タグ）として出力される。
品質要素	完全性・漏れ

No	C05（出力すべき主題属性及び関連役割の漏れ）
品質適用範囲	データ製品に含まれる、作成対象とする主題属性及び関連役割のうち、必ず出力すべき主題属性及び関連役割のインスタンス。
品質評価尺度	拡張製品仕様書が作成対象とする主題属性及び関連役割のうち、必ず出力すべきインスタンスの漏れ。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <p>・手順1. 検査プログラムによって、各都市の拡張製品仕様書で作成対象とする主題属性及び関連役割のうち、必ず要素（タグ）として出現すべき主題属性及び関連役割が、都市オブジェクトの子要素として出現していない箇所をエラーとして数える。</p> <p>作成対象とする主題属性及び関連役割とは、取得項目一覧のA.3.1_取得項目一覧シートにおいて、I列「作成対象」の欄に「○」が付いている全ての主題属性及び関連役割である。</p> <p>必ず要素（タグ）として出現すべき主題属性及び関連役割とは、取得項目一覧のA.3.1_取得項目一覧シートにおいて、N列「不明な場合に不明値を出力する」の欄に「○」が付いている全ての主題属性及び関連役割である。</p> <p>作成対象とする主題属性及び関連役割（I列に「○」）のうち、出力すべき主題属性及び関連役割（N列に「○」）は、必ず要素（タグ）として出力しなければならない。</p>

表6-6

No	C06（作成対象である主題属性及び関連役割の漏れ）
品質要求	作成対象とする主題属性及び関連役割が、必ず要素（タグ）として1つ以上出力される。
品質要素	完全性・漏れ
品質適用範囲	作成対象とする主題属性及び関連役割。
品質評価尺度	拡張製品仕様書で作成対象としている主題属性及び関連役割のインスタンスの漏れ。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <p>・手順1. 検査プログラムによって、地物型ごとに各都市の拡張製品仕様書で作成対象とする主題属性及び関連役割が、都市オブジェクトの子要素として出現している箇所を数える。</p> <p>・手順2. 出現している箇所が0か所（データセットにインスタンスが存在しない）となる主題属性及び関連役割の数を数える。</p> <p>作成対象とする主題属性及び関連役割とは、取得項目一覧のA.3.1_取得項目一覧シートにおいて、I列「作成対象」の欄に「○」が付いている全ての主題属性及び関連役割である。</p>

表6-7

No	C07（品質属性の漏れ）
品質要求	全ての幾何オブジェクトについて、作成に使用した原典資料の種類が入力されている。
品質要素	完全性・漏れ
品質適用範囲	全ての都市オブジェクト。
品質評価尺度	幾何オブジェクトの作成に使用する原典資料の種類漏れ。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <p>地物型毎、かつ、拡張製品仕様書 表4-1に示される、作成対象となるLODごとに実施する。</p> <p>・手順1. 品質属性（uro:DataQualityAttribute）のうち、あるLODの幾何オブジェクトが作成されているにもかかわらず、当該LODについての「幾何オブジェクトの作成に使用した原典資料の種類についての属性」が含まれていない場合にエラーとする。</p> <p>・手順2. 全ての地物型及び作成対象とする全てのLODに対して手順1. を実施し、エラーの数を合計する。</p> <p>「幾何オブジェクト作成するために使用した原典資料の種類についての属性」とは、以下である。</p> <p>LOD0の場合：uro:geometrySrcDescLod0</p> <p>LOD1の場合：uro:geometrySrcDescLod1</p>

No	C07（品質属性の漏れ）
	LOD2の場合：uro:geometrySrcDescLod2 LOD3の場合：uro:geometrySrcDescLod3 LOD4の場合：uro:geometrySrcDescLod4

表6-8

No	C08（公共測量品質属性の漏れ）
品質要求	公共測量成果又は基本測量成果となる全ての幾何オブジェクトについて、作成に使用した公共測量成果又は基本測量成果の種類が入力されている。
品質要素	完全性・漏れ
品質適用範囲	全ての都市オブジェクト。
品質評価尺度	幾何オブジェクトの作成に使用する公共測量成果又は基本測量成果の種類の漏れ。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <p>地物型毎、かつ、拡張製品仕様書 表4-1に示される、作成対象となるLODごとに実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順1. データセットに含まれる都市オブジェクトの品質属性（uro:DataQualityAttribute）について、各LODで「幾何オブジェクト作成するために使用した原典資料の種類についての属性」の値が「公共測量成果又は基本測量成果（コード「000」）」のみである属性の有無及びそのLODを特定する。 ・手順2. 手順1. で「公共測量成果又は基本測量成果（コード「000」）」のみとなる属性がある場合は、uro:DataQualityAttributeの子要素としてuro:PublicSurveyDataQualityAttributeが出現し、かつ、そのLODにおける「公共測量成果又は基本測量成果の地図情報レベルについての属性」及び「公共測量成果又は基本測量成果の種類についての属性」が入力されていない場合に、エラーとする。 ・手順3. 全ての地物型及び作成対象とする全てのLODに対して手順1. 及び手順2. を実施し、エラーの数を合計する。 <p>「幾何オブジェクト作成するために使用した原典資料の種類についての属性」とは、以下である。</p> <p>LOD0の場合：uro:geometrySrcDescLod0 LOD1の場合：uro:geometrySrcDescLod1 LOD2の場合：uro:geometrySrcDescLod2 LOD3の場合：uro:geometrySrcDescLod3 LOD4の場合：uro:geometrySrcDescLod4</p> <p>「公共測量成果又は基本測量成果の地図情報レベルについての属性」とは、以下である。</p> <p>LOD0の場合：uro:srcScaleLod0 LOD1の場合：uro:srcScaleLod1 LOD2の場合：uro:srcScaleLod2 LOD3の場合：uro:srcScaleLod3 LOD4の場合：uro:srcScaleLod4</p> <p>「公共測量成果又は基本測量成果の種類についての属性」とは、以下である。</p> <p>LOD0の場合：uro:publicSurveySrcDescLod0 LOD1の場合：uro:publicSurveySrcDescLod1 LOD2の場合：uro:publicSurveySrcDescLod2 LOD3の場合：uro:publicSurveySrcDescLod3 LOD4の場合：uro:publicSurveySrcDescLod4</p>

表6-9

No	C-bldg-01
品質要素	完全性・過剰
品質適用範囲	bldg:Building
品質評価尺度	データ製品内に、属性「uro:buildingID」が同一となるインスタンスがない。

No	C-bldg-01
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. データ製品に含まれる全ての建築物インスタンスについて、属性「uro:buildingID」の値が同一となるインスタンスを抽出する。 ・ 手順2. 同一の属性「uro:buildingID」の値をもつインスタンス群について、属性「uro:branchID」又は「uro:partID」をもたないインスタンスが複数存在した場合に、エラーとしてその数を数える。

表6-10

No	C-bldg-02（建築物と部屋の完全性）
品質要求	参照データとインスタンス数が等しい。
品質要素	完全性・過剰/漏れ
品質適用範囲	LOD4の幾何オブジェクトをもつbldg:Building,bldg:Room
品質評価尺度	参照データに含まれるIfcBuilding及びIfcSpaceのインスタンス数と、建築物モデル（LOD4）に含まれるbldg:Building及びbldg:Roomのインスタンス数が等しい。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 参照データに含まれる、IfcBuilding及びIfcSpaceのインスタンス数を数える。 ・ 手順2. 建築物モデル（LOD4）に含まれるbldg:Building及びbldg:Roomのインスタンス数を数える。 ・ 手順3. 手順1. と手順2. の結果より、IfcBuildingとbldg:Building、IfcSpaceとbldg:Room、それぞれのインスタンス数の差分を求め、その絶対値の和をエラーの数とする。

表6-11

No	C-bldg-03（LOD4における開口部の完全性）
品質要求	参照データとの一致。
品質要素	完全性・過剰
品質適用範囲	bldg:Door,bldg:Window
品質評価尺度	建築物モデル（LOD4）に含まれるbldg:Window及びbldg:Doorと、参照データに含まれる開口部（窓、ドア）のインスタンス数が等しい。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>抜取・目視検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 建築物モデル（LOD4）に含まれる、bldg:Door及びbldg:Windowの全インスタンスの2%となるまで抽出する。 ・ 手順2. 参照データを表示し、抽出したbldg:Door及びbldg:Windowに対応する開口部（窓、ドア）のインスタンスが存在するか、目視で確認する。 ・ 手順3. 対応するインスタンスが存在しない場合にエラーとする。

表6-12

No	C-bldg-04（LOD4.1及びLOD4.2における付属物の過剰）
品質要求	参照データとの一致。
品質要素	完全性・過剰
品質適用範囲	bldg:IntBuildingInstallation
品質評価尺度	参照データに含まれる内部付属物と建築物モデル（LOD4）に含まれるbldg:IntBuildingInstallationのインスタンス数が等しい。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	抜取・目視検査を実施する。

No	C-bldg-04（LOD4.1及びLOD4.2における付属物の過剰）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 建築物モデル（LOD4）に含まれるbldg:IntBuildingInstallationの全インスタンスの2%の数となるまでbldg:IntBuildingInstallationを抽出する。 ・ 手順2. 参照データを表示し、抽出したbldg:IntBuildingInstallationに対応する内部付属物が存在し、その種類が一致するかを目視で確認する。 ・ 手順3. 対応する内部付属物が存在しない場合、又は存在していても種類が不一致となる場合にエラーとする。
注記 内部付属物について IntBuildingInstallationとすべき内部付属物は、「（別冊）3D都市モデルとの連携のための情報伝達マニュアル（IDM）・モデルビュー定義（MVD）第3.0版IFCクラスとPLATEAU標準建築物モデル（LOD4）の対応表」により、確認できる。	

6.3.2 論理一貫性

論理一貫性とは、データの構造、属性及び関係に関する論理的規則の遵守の度合いであり、以下の四つから構成される。

- 概念一貫性：応用スキーマに一致しているか否か
- 定義域一貫性：定義域に含まれているか否か
- 書式一貫性：XMLのフォーマットに従っているか否か
- 位相一貫性：応用スキーマに定義した位相的な特性が正しいか否か

表6-13

No	L01
品質要素	論理一貫性・書式一貫性
品質適用範囲	データ製品に含まれる全ての都市モデル（core:CityModel）のインスタンス。
品質評価尺度	整形式(Well-Formed XML)になっていない箇所数。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合に不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラム（XMLパーサなど）によって、都市モデルの書式が、XML文書の構文として正しくない箇所を数える。

表6-14

No	L02
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	データ製品に含まれる全ての都市モデル（core:CityModel）のインスタンス。
品質評価尺度	妥当（Valid）なXML文書になっていない箇所数。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合に不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラム（XMLパーサなど）によって、都市モデルに含まれる地物型の構造が、7.1に符号化仕様として示すi-UR及びCityGMLのXMLSchemaが規定する構造と合致しない箇所を数える。

表6-15

No	L03
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	データ製品に含まれる全ての都市モデル（core:CityModel）のインスタンス。

No	L03
品質評価尺度	応用スキーマに定義していない地物型の出現箇所数。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、各都市の拡張製品仕様書の4章に示す応用スキーマ（応用スキーマクラス図及び応用スキーマ文書）に定義されている地物以外の地物インスタンスが、都市モデルの子要素として出現する箇所を数える。

表6-16

No	L04
品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
品質適用範囲	<code>gml:CodeType</code> を型としてもつ地物属性のうち、コードリストを参照している地物属性。
品質評価尺度	指定されたコードリストに定義されていない値となっている箇所数。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. <code>gml:CodeType</code>に含まれるコードリストへの相対パスを取得する。 ・ 手順2. 相対パスで指定されたコードリストに定義された全てのコード値（<code>gml:name</code>により記述）を取得する。 ・ 手順3. 検査プログラムにより、地物属性の値と取得した全てのコード値との比較を行い、地物属性の値が、コード値と合致しない箇所を数える。
注記 コードリストへの相対パスは、 <code>gml:CodeType</code> の属性である <code>codeSpace</code> の値として記述されている。	

表6-17

No	L05
品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
品質適用範囲	全ての都市モデル（ <code>core:CityModel</code> ）のインスタンス。
品質評価尺度	都市モデルに指定された空間参照系の識別子が、製品仕様書で指定された識別子ではない。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。エラーの数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 都市モデルに含まれる<code>gml:Envelope</code>に記述された空間参照系のURIが、製品仕様書に示されたURIに合致しない箇所を数える。
注記 空間参照系のURIは、 <code>gml:Envelope</code> の属性である <code>srsName</code> の値として記述されている。	

表6-18

No	L06
品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
品質適用範囲	全ての幾何オブジェクトのインスタンス。
品質評価尺度	幾何オブジェクトインスタンスの座標値に含まれる、緯度、経度、標高が、この幾何オブジェクトインスタンスを含む都市モデル（ <code>core:CityModel</code> ）の空間範囲に含まれる。
適合品質水準	エラーとなる幾何オブジェクトが0個の場合に合格。エラーとなる幾何オブジェクトが1個以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 都市モデルに含まれる<code>gml:Envelope</code>の属性<code>boundedBy</code>に記述された、緯度、経度及び標高の下限値及び上限値を超える座標値を有する幾何オブジェクトをエラーとする。

表6-19

No	L07
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	BIMモデルから変換したbldg:Building及びbldg:Buildingが含む、下位の地物インスタンスが持つgml:LineString及びgml:LinearRingのインスタンスを除く、全てのgml:LineString及びgml:LinearRingのインスタンス。
品質評価尺度	同一座標又は頂点間での距離が近接閾値（0.01m）未満の頂点が連続する、又はgml:LineString及びgml:LinearRingのインスタンスを構成する点が2点未満のインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-20

No	L08
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全てのgml:LineStringのインスタンス。
品質評価尺度	単一インスタンスに始終点以外の「自己交差」又は「自己接触」が存在する場合にエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-21

No	L09
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全てのgml:LinearRingのインスタンス。
品質評価尺度	全てのgml:Ringのインスタンスの始終点の座標が一致していない、「自己交差」、「自己接触」、又は始終点以外に重複する座標値が存在するインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-22

No	L10
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全てのgml:Polygon及びgml:_SurfacePatchの下位クラスのインスタンス。
品質評価尺度	座標列の向きが不正なインスタンスをエラーとする。外周は反時計回り、内周は時計回りが正しい。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-23

No	L11
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	LOD1の地物の空間属性に使用されるgml:Polygonのインスタンス。
品質評価尺度	gml:Polygonの境界を構成する全ての座標値が同一平面上になければならない。同一平面上にない座標値が存在するインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-24

No	L12
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	LOD2又はLOD3の空間属性に使用されるgml:Polygonのインスタンス。
品質評価尺度	gml:Polygonの境界を構成する全ての座標値が同一平面とみなす許容誤差（0.03m）内に存在しなければならない。同一平面とみなす許容誤差内に存在しない座標値が存在するインスタンスをエラーとする。 同一平面とみなす許容誤差は、作成に使用する原典資料や作成方法により異なるため、作業者が許容誤差案を作成し、監督員の確認を得てから品質評価を実施すること。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-25

No	L13
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	内周が存在するgml:Polygonのインスタンス。
品質評価尺度	gml:Polygonに内周が存在する場合に、以下に示す条件に一つ以上に合致する場合にエラーとする。 ・ 内周が外周と交差している。 ・ 内周と外周が接することにより、gml:Polygonが二つ以上に分割されている。 ・ 内周同士が重なったり、包含関係にあったりする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-26

No	L14
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全てのgml:Solidのインスタンス。
品質評価尺度	gml:Solidを構成する全ての境界面が、以下の条件を満たしていない場合にエラーとする。 ・ 境界面が自己交差していない。 ・ 閉じている。 ・ 全ての境界面の向きが立体の外側を向いている。

No	L14
	<ul style="list-style-type: none"> 境界面が立体を分断してはならない。 境界面が交差してはならない。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-27

No	L15
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全てのgml:Triangleのインスタンス。
品質評価尺度	始点と終点が一致する4点の座標値から構成されていない場合に、エラーとする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-28

No	L16
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全てのgml:TriangulatedSurface及びこの下位クラスのインスタンス。
品質評価尺度	gml:TriangulatedSurfaceの境界が閉じている場合にエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-29

No	L17
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全てのgml:CompositeCurveのインスタンス。
品質評価尺度	gml:CompositeCurveを構成する（最初のgml:LineStringを除いた）gml:LineStringの始点が、直前のgml:LineStringの終点の座標と一致していない場合にエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-30

No	L18
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全てのgml:CompositeSurfaceのインスタンス。
品質評価尺度	gml:CompositeSurfaceを構成するgml:Polygonが、以下の場合にエラーとする。 <ul style="list-style-type: none"> 同じgml:CompositeSurfaceを構成する他のgml:Polygonと重なる。 同じgml:CompositeSurfaceを構成する他のgml:Polygonのいずれとも接していない。
適合品質水準	エラーの数が0個の場合に合格。1以上なら不合格。

No	L18
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

表6-31

No	L-bldg-01
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	bldg:Buildingのインスタンス。
品質評価尺度	bldg:Buildingが空間属性として保持する立体（gml:Solid）同士が重ならない。
適合品質水準	エラーとなるインスタンスが0個の場合に合格。エラーとなるbldg:Buildingが1個以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 全てのインスタンスについて、bldg:lod1Solid及びbldg:lod2Solidにより構成されるgml:Solidを抽出する。 ・ 手順2. 抽出したgml:Solidのうち、重なるべきではないgml:Solid同士が交差している場合にエラーとする。

表6-32

No	L-bldg-02
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	bldg:BuildingPartをもつbldg:Buildingのインスタンス。
品質評価尺度	1つのbldg:Buildingについて、これを構成するbldg:BuildingPartが空間属性として保持する立体（gml:Solid）同士が離れていない。
適合品質水準	エラーとなるインスタンスが0個の場合に合格。エラーとなるbldg:Buildingインスタンスが1個以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. bldg:BuildingPartをもつbldg:Buildingインスタンスを抽出する。 ・ 手順2. それぞれのインスタンスについて、これを構成する全てのgml:Solidを抽出し、境界面を共有していないgml:Solidが存在している場合にエラーとする。

表6-33

No	L-bldg-03
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	bldg:Window及びbldg:Doorのインスタンス。
品質評価尺度	bldg:_Openingの下位クラスのインスタンスが、これを集約するbldg:_BoundarySurfaceの下位クラスのインスタンスに包含されていない場合にエラーとする。
適合品質水準	エラーとなるbldg:Window、bldg:Doorのインスタンスが0個の場合に合格。エラーとなるインスタンスが1個以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 開口部（bldg:Window、bldg:Door）の空間属性として保持するgml:MultiSurfaceを、これを集約する境界面（bldg:_BoundarySurfaceの下位クラス）の空間属性が保持するgml:MultiSurface上に投影する。 ・ 手順2. 投影されたbldg:Window及びbldg:Doorのgml:MultiSurfaceの一部又は全部が境界面の外側に存在するbldg:Window及びbldg:Doorのインスタンス数を数える。

表6-34

No	L-bldg-04
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	bldg:Building
品質評価尺度	bldg:Buildingの用途を示す属性が正しい階層構造を保っている。
適合品質水準	エラー数が0なら合格、1以上なら不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. データ製品に含まれる全てのbldg:Buildingインスタンスについて、属性「uro:majorUsage2」をもつインスタンスを抽出する。 ・ 手順2. 属性「uro:majorUsage」をもたない場合にエラーとし、その数を数える。

表6-35

No	L-bldg-05
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	bldg:Building
品質評価尺度	bldg:Buildingの用途を示す属性が正しい階層構造を保っている。
適合品質水準	エラー数が0なら合格、1以上なら不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. データ製品に含まれる全ての建築物インスタンスについて、属性「uro:detailedUsage2」又は「uro:detailedUsage3」をもつインスタンスを抽出する。 ・ 手順2. 属性「uro:detailedUsage2」をもつインスタンスは属性「uro:detailedUsage」を、属性「uro:detailedUsage3」をもつインスタンスは属性「uro:detailedUsage2」を、それぞれもたない場合にエラーとし、その数を数える。

表6-36

No	L-bldg-06
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	bldg:Building,bldg:BuildingPart
品質評価尺度	bldg:Building又はbldg:BuildingPartのbldg:lod2Solid及びbldg:lod3Solidにより記述される立体（gml:Solid）の境界面（gml:CompositeSurface）に含まれる多角形（gml:Polygon）は、bldg:boundedByにより参照する、bldg:RoofSurface,bldg:WallSurface,bldg:GroundSurface,bldg:OuterFloorSurface,bldg:OuterCeilingSurface,bldg:ClosureSurface及びこれらが参照する開口部（bldg:Door,bldg:Window）により記述される面（gml:MultiSurface）に含まれる多角形（gml:Polygon）のいずれかでなければならない。
適合品質水準	エラー数が0なら合格、1以上なら不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、bldg:lod2Solid又はbldg:lod3Solidにより記述される立体（gml:Solid）の境界面（gml:CompositeSurface）が参照する多角形（gml:Polygon）のgml:idが、bldg: boundedByにより参照するbldg:RoofSurface,bldg:WallSurface,bldg:GroundSurface,bldg:OuterFloorSurface,bldg:OuterCeilingSurface,bldg:ClosureSurface及びこれらが参照する開口部（bldg:Door,bldg:Window）の面（gml:MultiSurface）の構成要素となる多角形（gml:Polygon）のgml:idと一致していない場合にエラーとする。

表6-37

No	L-bldg-07（境界面と開口部との位相）
品質要素	論理一貫性・位相一貫性

品質適用範囲	bldg:_BoundarySurfaceの下位型及びbldg:_Openingの下位型のインスタンス。
No	L-bldg-07（境界面と開口部との位相）
品質評価尺度	bldg:_Openingの下位クラスのインスタンスの空間属性（bldg:lod4MultiSurface）が、これを集約するbldg:_BoundarySurfaceの下位クラスのインスタンスの空間属性（bldg:lod4MultiSurface）と境界線を共有していない場合にエラーとする。
適合品質水準	エラーとなるbldg:Window、bldg:Doorのインスタンスが0個の場合に合格。エラーとなるインスタンスが1個以上の場合に不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 開口部（bldg:Window、bldg:Door）の空間属性が保持するgml:MultiSurfaceを、これを集約する境界面（bldg:_BoundarySurfaceの下位クラス）の空間属性が保持するgml:MultiSurfaceを抽出する。 ・ 手順2. bldg:Window及びbldg:Doorのgml:MultiSurfaceが境界面のgml:MultiSurfaceと境界線を共有していないbldg:Window及びbldg:Doorのインスタンス数を数える。

表6-38

No	L-bldg-08（bldg:BuildingのLOD4が境界面に区分されていること）
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	bldg:Building
品質評価尺度	bldg:Buildingのbldg:lod4Solid又はbldg:lod4MultiSurfaceを構成するgml:Polygonが、bldg:Buildingに含まれるbldg:_BoundarySurfaceの下位型、bldg:_Openingの下位型、又はbldg:BuildingInstallationのgml:Polygonのいずれかでなければならない。
適合品質水準	エラー数が0なら合格、1以上なら不合格。
品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、bldg:lod4Solidにより記述される立体（gml:Solid）の境界面（gml:CompositeSurface）が参照する多角形（gml:Polygon）又はbldg:lod4MultiSurfaceにより記述される面の集まり（gml:MultiSurface）に含まれる多角形（gml:Polygon）のgml:idが、以下のいずれかに一致していない場合にエラーとする。 <ul style="list-style-type: none"> － bldg:boundedByにより参照するbldg:RoofSurface,bldg:WallSurface,bldg:GroundSurface,bldg:OuterFloorSurface,bldg:OuterCeilingSurface,bldg:ClosureSurface及びこれらが参照する開口部（bldg:Door,bldg:Window）の面（gml:MultiSurface）の構成要素となる多角形（gml:Polygon）のgml:id － bldg:outerBuildingInstallationにより参照するbldg:BuildingInstallationの境界面となるbldg:RoofSurface,bldg:WallSurface,bldg:GroundSurface,bldg:OuterFloorSurface,bldg:OuterCeilingSurface,bldg:ClosureSurface及びこれらが参照する開口部（bldg:Door,bldg:Window）の面（gml:MultiSurface）の構成要素となる多角形（gml:Polygon）のgml:id

表6-39

No	L-bldg-09（bldg:RoomのLOD4が境界面に区分されていること）
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	bldg:Room
品質評価尺度	bldg:Roomのbldg:lod4Solidを構成するgml:Polygonが、bldg:Roomに含まれるbldg:_BoundarySurfaceの下位型又はbldg:_Openingの下位型のgml:Polygonのいずれかでなければならない。
適合品質水準	エラー数が0なら合格、1以上なら不合格。

品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、bldg:lod4Solidにより記述される立体（gml:Solid）の境界面（gml:CompositeSurface）が参照する多角形（gml:Polygon）のgml:idが、以下のいずれかに一致していない場合にエラーとする。 <ul style="list-style-type: none"> － bldg:boundedByにより参照するbldg:CeilingSurface,bldg:InteriorWallSurface,bldg:FloorSurface,bldg:ClosureSurface及びこれらが参照する開口部（bldg:Door,bldg:Window）の面（gml:MultiSurface）の構成要素となる多角形（gml:Polygon）のgml:id
--------	---

表6-40

No	L-bldg-10（屋内・屋外の境界面の向き）
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	bldg:_BoundarySurfaceの下位型。
品質評価尺度	建築物（bldg:Building）の外形を構成する境界面は常に法線ベクトルが外向きであり、部屋（bldg:Room）を構成する境界面は、常に法線ベクトルが内向きである。
適合品質水準	エラー数が0なら合格、1以上なら不合格。
品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順1. 検査プログラムによって、以下のエラーをカウントする。 <ul style="list-style-type: none"> － bldg:Buildingのbldg:boundedByにより保持されるbldg:_BoundarySurfaceの法線ベクトルの向きが、建築物の内側を向いている場合 － bldg:BuildingInstallationのbldg:boundedByにより保持されるbldg:_BoundarySurfaceの法線ベクトルの向きが、建築物の内側を向いている場合 － bldg:Roomのbldg:boundedByにより保持されるbldg:_BoundarySurfaceの法線ベクトルの向きが、建築物の外側を向いている場合 － bldg:IntBuildingInstallationのbldg:boundedByにより保持されるbldg:_BoundarySurfaceの法線ベクトルの向きが、建築物の外側を向いている場合

表6-41

No	L-bldg-11（部屋を構成する幾何オブジェクトと、境界面との関係）
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	bldg:Room
品質評価尺度	bldg:Roomのbldg:lod4Solidにより記述される立体又はbldg:lod4MultiSurfaceにより記述される面の集まりであるgml:Polygonが、bldg:Roomが参照する境界面又はbldg:IntBuildingInstallationの境界面となgml:Polygonの反対の向きとなる。
適合品質水準	エラー数が0なら合格、1以上なら不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順1. 検査プログラムによって、bldg:Roomのbldg:lod4Solidにより記述される立体（gml:Solid）の境界面（gml:CompositeSurface）の構成要素（gml:surfaceMember）又はbldg:lod4MultiSurfaceにより記述される面の集まり（gml:MultiSurface）の構成要素（gml:surfaceMember）が、以下のいずれかに一致していない場合にエラーとする。 <ul style="list-style-type: none"> － gml:surfaceMemberにより参照される面がorientationの値が“-“となるgml:OrientableSurfaceではない。 － gml:OrientableSurfaceが、gml:baseSurfaceにより参照するgml:idが、以下のいずれにも該当しない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ bldg:boundedByにより参照するbldg:InteriorWallSurface,bldg:FloorSurface,bldg:CeilingSurface,bldg:ClosureSurface及びこれらが参照する開口部（bldg:Door,bldg:Window）の面（gml:MultiSurface）の構成要素となる多角形（gml:Polygon）のgml:id ・ bldg:roomInstallationにより参照する、bldg:IntBuildingInstallationがbldg:boundedByにより参照する、bldg:InteriorWallSurface,bldg:CeilingSurface,bldg:FloorSurface,bldg:ClosureSurface及びこれらが参照する開口部（bldg:Door,bldg:Window）により記述される面（gml:MultiSurface）に含まれる多角形（gml:Polygon）のgml:id

表6-42

No	L-bldg-12（建築物と屋内に存在する地物との相対的な位置関係）
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	bldg:Building、bldg:Room、bldg:IntBuildingInstallation、bldg:BuildingFurniture

No	L-bldg-12（建築物と屋内に存在する地物との相対的な位置関係）
品質評価尺度	全てのbldg:Room、bldg:IntBuildingInstallation、bldg:BuildingFurnitureの幾何オブジェクト（gml:Solid又はgml:MultiSurface）が、これを含むbldg:Buildingの幾何オブジェクト（gml:Solid又はgml:MultiSurface）の内側に含まれていなければならない。
適合品質水準	エラー数が0なら合格、1以上なら不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、全てのbldg:Room、bldg:IntBuildingInstallation、bldg:BuildingFurnitureのLOD4の幾何オブジェクトに含まれるgml:Polygonが、bldg:Buildingの幾何オブジェクトと交差しているgml:Polygonの数をカウントする。 ・ 手順2. 検査プログラムによって、全てのbldg:Room、bldg:IntBuildingInstallation、bldg:BuildingFurnitureのLOD4の幾何オブジェクトに含まれるgml:Polygonの外側（負となる向き）に、bldg:Buildingの幾何オブジェクトが存在していないgml:Polygonの数をカウントする。 ・ 手順3. 手順1. 及び手順2. の合計をエラー数とする。

表6-43

No	L-frn-01
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	空間属性として、lod1Geometry、lod2Geometry又はlod3Geometryをもつ全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	空間属性により保持又は参照する幾何オブジェクトの型が、応用スキーマ文書で指定された幾何オブジェクト（gml:MultiSurface又はgml:Solid）ではないインスタンスの個数。
適合品質水準	エラーの箇所が0個の場合に合格。エラーの箇所数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となるインスタンスを検索する。 ・ 手順2. 検索されたインスタンスの空間属性の型が、応用スキーマ文書と合致しないインスタンスを数える。

表6-44

No	L-frn-02
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	空間属性として、lod0Geometryをもつ全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	空間属性により保持又は参照する幾何オブジェクトの型が、応用スキーマ文書で指定された幾何オブジェクト（gml:Point、gml:MultiPoint、gml:MultiCurve又はgml:MultiSurface）ではないインスタンスの個数。
適合品質水準	エラーの箇所が0個の場合に合格。エラーの箇所数が1以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、対象となるインスタンスを検索する。 ・ 手順2. 検索されたインスタンスの空間属性の型が、応用スキーマ文書と合致しないインスタンスを数える。

表6-45

No	L-tran-01
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	tran:Road、tran:TrafficArea、tran:AuxiliaryTrafficArea
品質評価尺度	延長方向に連続するインスタンスの空間属性（tran:lod2MultiSurface及びtran:lod3MultiSurface）が、境界線を共有していない場合をエラーとする。
適合品質水準	エラーとなるインスタンスが0個の場合に合格。エラーとなるインスタンスが1個以上の場合は不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。

No	L-tran-01
	<p>同一の地物型かつ同一のLODで記述されている空間属性に対して実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 道路の延長方向に連続する全ての同一の地物型かつ同一のLODの空間属性をもつペアを抽出する。 ・ 手順2. 全てのインスタンスのペアについて、“境界線で接する”、“離れている”のいずれにも該当しないオブジェクトのペアの数を数える。

表6-46

No	L-tran-02
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	tran:TrafficArea、tran:AuxiliaryTrafficArea
品質評価尺度	<p>同一の道路インスタンスに含まれる交通領域及び交通補助領域の空間属性（tran:lod2MultiSurface及びtran:lod3MultiSurface）は、境界線を共有するか、又は、離れているかのいずれかであり、それ以外の場合にエラーとする。</p> <p>ただし、以下は例外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央帯と分離帯（分離帯は中央帯に含まれる場合がある。） ・ 中央帯と側帯（側帯は中央帯に含まれる場合がある。） ・ 路肩と側帯（側帯は路肩に含まれる場合がある。）
適合品質水準	エラーとなるインスタンスが0個の場合に合格。エラーとなるインスタンスが1個以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <p>同一のLODで記述されている空間属性に対して実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 対象となる地物の全インスタンスのペアを抽出する。 ・ 手順2. 全てのインスタンスのペアについて、“境界線で接する”に該当しないインスタンスの数を数える。

表6-47

No	L-tran-03
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	tran:Road、tran:TrafficArea、tran:AuxiliaryTrafficArea
品質評価尺度	tran:Roadインスタンスに含まれるtran:TrafficAreaインスタンス及びtran:AuxiliaryTrafficAreaインスタンスの空間属性（tran:lod2MultiSurface及びtran:lod3MultiSurface）に含まれる全てのMultiSurfaceを道路インスタンスが参照していない場合にエラーとする。
適合品質水準	エラーとなるインスタンスが0個の場合に合格。エラーとなるインスタンスが1個以上の場合は不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 対象となる地物の全インスタンス数を数える。 ・ 手順2. 全てのインスタンスのペアについて、“境界線で接する”に該当しないインスタンスの数を数える。

6.3.3 位置正確度

位置正確度とは、空間参照系内の地物の位置の正確さのことである。標準製品仕様書では、位置正確度として、報告された座標値と採択された値又は真とみなす値との近さを示す絶対正確度（外部正確度とも呼ぶ）を採用する。

標準製品仕様では、データ製品が満たすべき位置正確度として、地図情報レベル2500を適用することを基本とする。

ユースケースに応じて、位置正確度の適合品質水準は変更してもよい。ただし、変更に当たっては作業規程の準則に定義される地図情報レベルに従い決定すること。また、このレベルは地物型ごとに替えてよい。

点群や画像からの図化により取得したインスタンスは、P01とP02、P05とP06、又はP07とP08から、その地図情報レベルに応じて、品質要求及び評価手順を適用する。

また、GISデータからの変換により取得したインスタンスの場合はP03、既成図数値化により取得したインスタンスはP04を適用する。

なお、地形については、P-dem-01を適用する。

● 地図情報レベル2500の場合の位置正確度

表6-48

No	P01
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	点群や画像からの図化により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	データ集合内の位置の座標と、より正確度の高い参照データである点検測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は0とする。 ただし、データ品質属性の「幾何属性作成方法」の値が「0（推定）」となるインスタンスは検査対象としない。
適合品質水準	全ての検査単位について、水平位置の標準偏差が、水平距離1.75m以内であれば合格、1.75mを超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに明瞭な地物から21辺以上（2点以上／辺）を抽出する。 ・ 手順4. 抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 ・ 手順5. 抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の点検測量成果を取得する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、誤差の標準偏差を計算する。

表6-49

No	P02
品質要素	位置正確度・外部正確度
品質適用範囲	点群や画像からの図化により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。 ただし、地形（dem:ReliefFeature）は除く。
品質評価尺度	データ集合内の位置の座標と、より正確度の高い参照データである水準測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は0とする。 ただし、データ品質属性の「幾何属性作成方法」の値が「0（推定）」となるインスタンスは検査対象としない。
適合品質水準	全ての検査単位別に、標高の標準偏差が0.66m以内であれば合格、0.66mを超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに明瞭な地物から21辺以上（2点以上／辺）を抽出する。 ・ 手順4. 抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標（標高）を測定する。 ・ 手順5. 抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の水準測量成果を取得する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、誤差の標準偏差を計算する。

● 地図情報レベル500又は地図情報レベル1000の場合の位置正確度

地図情報レベルを変更する場合は、P1及びP2に示す適合品質水準を下表に従い変更する。図化以外（GISデータの変換及び既成図数値化）の場合には、P3又はP4を使用する。

表6-50 新規測量における数値地形図データの位置精度及び地図情報レベル（作業規程の準則第106条）

地図情報レベル	水平位置の標準偏差	標高の標準偏差
500	0.25m以内	0.25m以内
1000	0.70m以内	0.33m 以内

● 地図情報レベル500の場合の位置正確度

表6-51

No	P05
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	点群や画像からの図化により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	データ集合内の位置の座標と、より正確度の高い参照データである点検測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は0とする。 ただし、データ品質属性の「幾何属性作成方法」の値が「0（推定）」となるインスタンスは検査対象としない。
適合品質水準	全ての検査単位について、水平位置の標準偏差が、水平距離0.25m以内であれば合格、0.25mを超えれば不合格。
品質評価手法	<p>抜取検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに明瞭な地物から21辺以上（2点以上／辺）を抽出する。 ・ 手順4. 抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 ・ 手順5. 抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の点検測量成果を取得する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、誤差の標準偏差を計算する。

表6-52

No	P06
品質要素	位置正確度・外部正確度
品質適用範囲	点群や画像からの図化により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。 ただし、地形（dem:ReliefFeature）は除く。
品質評価尺度	データ集合内の位置の座標と、より正確度の高い参照データである水準測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は0とする。 ただし、データ品質属性の「幾何属性作成方法」の値が「0（推定）」となるインスタンスは検査対象としない。
適合品質水準	全ての検査単位別に、標高の標準偏差が0.25m以内であれば合格、0.25mを超えれば不合格。
品質評価手法	<p>抜取検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに明瞭な地物から21辺以上（2点以上／辺）を抽出する。 ・ 手順4. 抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標（標高）を測定する。 ・ 手順5. 抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の水準測量成果を取得する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、誤差の標準偏差を計算する。

● 地図情報レベル1000の場合の位置正確度

表6-53

No	P07
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	点群や画像からの図化により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	データ集合内の位置の座標と、より正確度の高い参照データである点検測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は0とする。 ただし、データ品質属性の「幾何属性作成方法」の値が「0（推定）」となるインスタンスは検査対象としない。
適合品質水準	全ての検査単位について、水平位置の標準偏差が、水平距離0.7m以内であれば合格、0.7mを超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに明瞭な地物から21辺以上（2点以上／辺）を抽出する。 ・ 手順4. 抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 ・ 手順5. 抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の点検測量成果を取得する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、誤差の標準偏差を計算する。

表6-54

No	P08
品質要素	位置正確度・外部正確度
品質適用範囲	点群や画像からの図化により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。 ただし、地形（dem:ReliefFeature）は除く。
品質評価尺度	データ集合内の位置の座標と、より正確度の高い参照データである水準測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は0とする。 ただし、データ品質属性の「幾何属性作成方法」の値が「0（推定）」となるインスタンスは検査対象としない。
適合品質水準	全ての検査単位別に、標高の標準偏差が0.33m以内であれば合格、0.33mを超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに明瞭な地物から21辺以上（2点以上／辺）を抽出する。 ・ 手順4. 抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標（標高）を測定する。 ・ 手順5. 抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の水準測量成果を取得する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、誤差の標準偏差を計算する。

GISデータからの変換を行う場合及び既成図数値化を行う場合：適合品質水準は地図情報レベル2500の場合と同様とする。ただし、原典資料は変更した地図情報レベルの要件を満たさなければならない。

● GISデータの変換の場合

表6-55

No	P03
品質要素	位置正確度・外部正確度
品質適用範囲	GISデータからの変換により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。 ただし、地形（dem:ReliefFeature）は除く。
品質評価尺度	「データ集合内の座標」と「原典資料の座標」との誤差の標準偏差を計算する。

No	P03
	ただし、原典資料は地図情報レベル2500の要件を満たしているものとする。また、誤差の母平均は0とする。
適合品質水準	全ての検査単位別に、標準偏差が0mであれば合格、0mを超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに他の地物との関係から位置が明確な点を10点以上抽出する。 ・ 手順4. 抽出した点について、データ集合上のインスタンスの座標値を取得する。 ・ 手順5. 原典資料を用いて、手順4. で抽出した地物の点の座標値を取得する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、検査単位毎に誤差の標準偏差を計算する。

● 既成図数値化の場合

表6-56

No	P04
品質要素	位置正確度・外部正確度
品質適用範囲	既成図数値化により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	「データ集合内の水平位置の座標」と「データ取得時に使用した原典資料を用いて図化したデータ集合内の水平位置の座標」との誤差の標準偏差を計算する。 ただし、原典資料は地図情報レベル2500の要件を満たしているものとする。また、誤差の母平均は0とする。
適合品質水準	全ての検査単位について、図上の水平位置の標準偏差が0.3mm以内であれば合格、0.3mmを超えれば不合格。
品質評価手法	既成図の図郭四隅の残存誤差を計測し、図郭四隅の残存誤差が0.2mm以内であれば、以降の手順に従い、地物の空間属性が保持する幾何オブジェクトの誤差の標準偏差を計測する。 抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに明瞭な地物から21辺以上（2点以上／辺）を抽出する。 ・ 手順4. 抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 ・ 手順5. 抽出した地物の点に対応する既成図上の座標を測定する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、検査単位毎に誤差の標準偏差を計算する。

● 地形の位置正確度

表6-57

No	P-dem-01
品質要素	位置正確度・外部正確度
品質適用範囲	dem:ReliefFeature
品質評価尺度	データ集合内の位置の座標と、より正確度の高い参照データである水準測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は0とする。 ただし、データ品質属性の「幾何属性作成方法」の値が「0（推定）」となるインスタンスは検査対象としない。
適合品質水準	全ての検査単位別に、標高の標準偏差が0.7m以内であれば合格、0.7mを超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・ 手順3. 検査単位ごとに明瞭な地物から21 辺以上（2点以上／辺）を抽出する。 ・ 手順4. 抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標（標高）を測定する。

No	P-dem-01
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順5. 抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の水準測量成果を取得する。 ・ 手順6. 手順4. 及び手順5. より、誤差の標準偏差を計算する。

6.3.4 時間正確度

CityGMLでは、時間オブジェクトを定義する時間スキーマ（ISO 19108）を使用していないことから、標準製品仕様書でも時間スキーマは使用していない。そのため、時間正確度は本標準仕様書では対象外とする。

なお、年や日付の値が設定された地物属性は主題正確度による品質要求を行い、参照データとの比較による品質評価手法を示す。

6.3.5 主題正確度

主題正確度は、定量的属性の正確度、非定量的属性、地物分類及び地物間関係の正しさである。なお、定量的属性とは、長さや大きさなど、値が大小関係のある数値となる属性である。また、非定量的属性とは文字列やコードのような値の大小関係がない属性である。

表6-58

No	T01
品質要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
品質適用範囲	非定量的主題属性をもつ全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	インスタンスに設定された地物属性のうち、型がxs:string、gml:CodeType、xs:boolean、xs:date、xs:gYear、gml:MeasureOrNullableType又は、gml:StringOrRefTypeとなる主題属性について、設定された値が参照データの属性値と一致しないインスタンスをエラーインスタンスとする。
適合品質水準	エラーの箇所が0個の場合に合格。エラーの箇所数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位の各メッシュを5×5のサブメッシュに分割する。 ・ 手順3. 検査単位の範囲について、属性値が識別できるようにインスタンスを表示又は出力する。 ・ 手順4. 検査単位ごとに全サブメッシュについて、参照データと手順3. を比較し、サブメッシュに含まれる全てのインスタンスの値が妥当であることを確認する。

表6-59

No	T02
品質要素	主題正確度・定量的主題属性の正しさ
品質適用範囲	定量的主題属性をもつ全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	インスタンスに設定された地物属性のうち、型がxs:integer、xs:nonNegativeInteger、xs:double、gml:MeasureType、gml:LengthType又はgml:MeasureOrNullableTypeとなる主題属性について、設定された値が参照データの属性値と一致しないインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの箇所が0個の場合に合格。エラーの箇所数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位の各メッシュを5×5のサブメッシュに分割する。 ・ 手順3. 検査単位の範囲について、属性値が識別できるようにインスタンスを表示又は出力する。 ・ 手順4. 検査単位ごとに全サブメッシュについて、参照データと手順3. を比較し、サブメッシュに含まれる全てのインスタンスの値が妥当であることを確認する。

表6-60

No	T03
品質要素	主題正確度・分類の正しさ
品質適用範囲	地物関連（幾何オブジェクトへの参照を含む）のうち、gml:idの参照により実装されている全てのインスタンス。
品質評価尺度	地物関連により参照されるgml:idをもつインスタンスの型が、応用スキーマの中で指定された関連相手先の型と一致しない箇所の出現回数。
適合品質水準	エラーの箇所が0個の場合に合格。エラーの箇所数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、xlink:href属性により参照されたgml:idをもつインスタンスを検索する。 ・ 手順2. 検索されたインスタンスの型が、応用スキーマで定義された関連相手先となる地物型又は幾何オブジェクト型と合致しないインスタンスを数える。

表6-61

No	T-bldg-01
品質要素	主題正確度・分類の正しさ
品質適用範囲	以下の地物型のインスタンス：bldg:RoofSurface,bldg:WallSurface,bldg:GroundSurface,bldg:OuterFloorSurface,bldg:OuterCeilingSurface,bldg:ClosureSurface
品質評価尺度	<p>建築物及び建築物部分を構成する境界面が、正しく区分されていないインスタンスをエラーとする。エラーが1つ以上存在するサブメッシュをエラーサブメッシュとする。</p> <p>式：誤解率（％）＝（エラーサブメッシュの数 / 検査単位毎の全サブメッシュ数）× 100</p>
適合品質水準	全ての検査単位の誤率が10%以下なら合格、10%を超える検査単位が1つ以上あれば不合格。
品質評価手法	<p>抜取検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ・ 手順2. 検査単位の各メッシュを5×5のサブメッシュに分割する。 ・ 手順3. 検査単位の範囲について、建築物及び建築物部分を構成する境界面を識別できるようにインスタンスを表示又は出力する。 ・ 手順4. 検査単位ごとに全サブメッシュについて、参照データと手順3. を比較し、サブメッシュに含まれる全てのインスタンスの境界面が妥当であるかを確認する。 ・ 手順5. 確認の結果、妥当ではないインスタンスが一つでも存在するサブメッシュをエラーとして、エラーの存在するサブメッシュ数を数える。 ・ 手順6. 手順5. の結果より、検査単位ごとに誤率を算出する。

No	T-bldg-02
品質要素	主題正確度・分類の正しさ
品質適用範囲	全てのbldg:BuildingInstallationのインスタンス。
品質評価尺度	bldg:lod2Geometry又はbldg:lod3Geometryにより保持又は参照する幾何オブジェクトの型が、gml:MultiSurface又はgml:Solidではないインスタンスの個数。
適合品質水準	エラーの箇所が0個の場合に合格。エラーの箇所数が1以上の場合には不合格。
品質評価手法	<p>全数・自動検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順1. 検査プログラムによって、建築物の屋外付属物のインスタンスのうち、bldg:lod2Geometryにより保持又は参照する幾何オブジェクトの型が、gml:MultiSurface又はgml:Solidと合致しないインスタンスを数える。

6.4 本製品仕様書で追加した品質要求及び評価手順

なし

7 データ製品配布

データ製品配布とは、配布書式情報と配布媒体情報から構成される。配布書式情報は、どのようなデータフォーマットで3D都市モデルが記録されているかを示す情報である。配布媒体情報は、どのような媒体に記録されているかを示す情報である。

7.1 配布書式情報

7.1.1 書式名称

3D都市モデルの書式（データフォーマット）には、i-UR3.2及びCityGML2.0を採用する。

7.1.2 符号化仕様

符号化仕様は、応用スキーマから交換データを導き出すための具体的な方法を示す。

7.1.2.1 符号化要件

7.1.2.1.1 符号化の対象とする応用スキーマとスキーマ言語

符号化の対象とする応用スキーマは、標準製品仕様の第4章において、UMLクラス図(ISO/IEC 19505-2:2012, Information technology — Object Management Group Unified Modeling Language (OMG UML) — Part 2:Superstructure)を用いて示す。

7.1.2.1.2 使用する文字レパートリ

使用する文字レパートリはi-UR3.2及びCityGML2.0が採用しているUTF-8とし、W3C XML Schema及びそれによって作成されるインスタンス文書のヘッダに以下の文を記述する。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
```

図7-1

7.1.2.1.3 データ集合とオブジェクトの識別

データ集合とオブジェクトの識別はCityGML2.0に従う。

すなわち、基本となるオブジェクト単位は、CityGML2.0又はi-UR3.2に定義されたcore:_CityObjectを継承する地物型及びGMLに定義された幾何オブジェクトとする。また、データ集合は、core:CityModelとする。さらに、データ集合とオブジェクトの識別には、gml:idを用いる。

7.1.2.2 入力データ構造

入力データ構造は、応用スキーマクラス図と実装される個々のインスタンスとの関係を示すものである。入力データ構造は、CityGMLが参照するGMLにおいて定義されるAnnex F GML-to-UML Application Schema Encoding Rulesに従う。

7.1.2.3 出力データ構造

出力データ構造には、i-UR3.2及びCityGML2.0を使用する。拡張子は、「.gml」とする。

7.1.2.4 変換規則

7.1.2.4.1 スキーマ変換規則

スキーマ変換規則は、i-UR3.2及びCityGML2.0に従う。

なお、標準製品仕様書は、応用スキーマクラス図及びこれに対応するXMLSchemaを新規に作成するのではなく、i-UR3.2及びCityGML2.0から必要な部分のみを選択し、使用している。
応用スキーマクラス図に示す、クラス名、属性名及び関連役割名は、i-UR3.2及びCityGML2.0において定義されたタグに一致させている。

また、複数の名前空間から選択しているため、全てのクラス名に、i-UR3.2又はCityGML2.0名前空間の接頭辞を付ける。

7.1.2.4.2 インスタンス変換規則

GMLに準拠する。

- オブジェクト識別子 (gml:id)

データ製品に含まれる全ての地物には、gml:idによる識別可能な値を与えることとし、その値には[接頭辞][UUID]を使用する。

[接頭辞]は、CityGML及びi-URの各パッケージに与えられた接頭辞（表7-5）を使用する。

[UUID]は、Universally Unique Identifier (UUID) とする。UUIDとは、ソフトウェア上でオブジェクトを一意に識別するための識別子であり、128ビット（16バイト）の値で表す。先頭から4ビットごとに16進数の値（0～f）に変換し、8桁-4桁-4桁-12桁に区切って表現する。

- 集成の実装

応用スキーマに示された地物型間の集成は、部品となるオブジェクトを、全体となるオブジェクトの子要素として記述する。

この時、部品となるオブジェクトの識別子 (gml:id) を、全体となるオブジェクト以外のオブジェクトが参照してもよい。

- 空間参照系の識別

幾何オブジェクトに適用される空間参照系は、都市モデル (core:CityModel) に挿入されるEnvelop要素の属性srsNameにおいて、以下のEPSGコードを挿入することにより識別する。

表7-1

空間参照系の名称	srsNameに挿入する値
日本測地系2011における経緯度座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSSG/0/6697

- schemaLocationの指定

i-URの符号化仕様は、3D都市モデル内のschemasフォルダ（7.2.4）に格納したXMLSchemaファイルへの相対パスによりschemaLocationを指定する。

- 出力すべきタグ

データ製品に含まれる全ての拡張製品仕様書において作成対象とする全ての主題属性及び空間属性のタグを出力しなければならない。

7.1.3 文字集合

符号化したデータ集合を記述する文字集合には、「UTF-8」を使用する。

7.1.4 言語

地物の属性の値を記述する言語は、日本語とする。

7.2 配布媒体情報

3D都市モデルに適用する配布媒体情報を以下に示す。ただし、地下埋設物については、9.8の記載を適用する。

7.2.1 ファイル単位

7.2.1.1 ファイル単位

ファイル単位は、表7-2に示す標準製品仕様書に示す応用スキーマの単位、かつ、JIS X0410において定められた地域メッシュの単位を基本とする。一つのファイルには、同一の空間参照系のオブジェクトのみを含む。

地域メッシュは、第2次地域区画（統合地域メッシュ、一辺の長さ約10km）又は基準地域メッシュ（第3次地域区画、一辺の長さ約1km）とする。

表7-2 ファイル単位

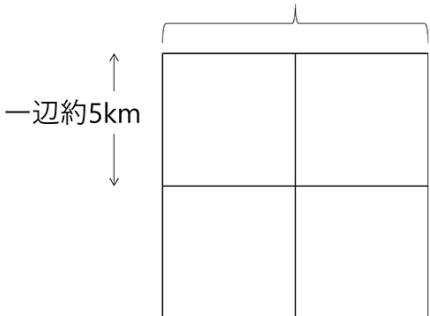
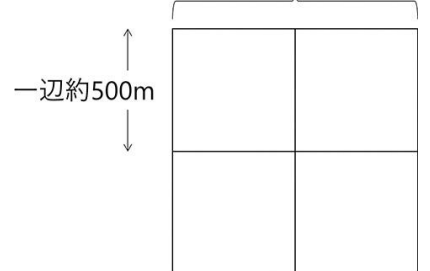
応用スキーマ	ファイル単位
建築物	基準地域メッシュ（第3次地域区画）
橋梁	
トンネル	
その他の構造物	
地下街	
都市設備	
植生	
道路	
鉄道	
徒歩道	
広場	
航路	
汎用都市オブジェクト	
地形	統合地域メッシュ（第2次地域区画）
土地利用	
水部	
土砂災害警戒区域	
都市計画決定情報	
その他の区域	
拡張製品仕様書において拡張した地物	基準地域メッシュ（第3次地域区画） 加えて、同一のメッシュに複数の洪水予報河川や水位周知河川が含まれている場合は、洪水予報河川及び水位周知河川の単位とする。また、
洪水浸水想定区域	

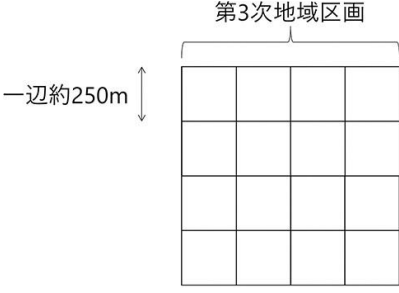
応用スキーマ	ファイル単位
	「洪水浸水想定（計画規模）」と「洪水浸水想定（想定最大規模）」とはそれぞれファイルを分ける。
津波浸水想定、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域、ため池ハザードマップ	統合地域メッシュ（第2次地域区画） 加えて、計算条件等の設定が複数設定されている場合は、設定毎にファイルを分ける。

7.2.1.2 ファイルサイズとファイル分割

1ファイルのデータ量の上限は最大1GBとする。1ファイルのデータ量が1GBを超える場合は、ファイルを分割する。分割したファイルは、同じメッシュを重複して含んではならない。ただし、三次元点群データをインライン記述したファイルは、ファイル分割を禁止する。点群をインライン記述する場合は、そのファイルサイズを1GB以内に収めること。

表7-3 ファイル分割ルール

基本となるファイル単位	分割ルール
第2次地域区画	<p>緯線方向、経線方向に2等分に区切る「4分割」を基本とする。</p> <p style="text-align: center;">第2次地域区画</p>  <p style="text-align: center;">4分割の例</p> <p>4分割したファイルであっても、ファイルサイズが上限を超える場合は、上限を超えるファイルのみを第3次地域区画に分割する。 第3次地域区画に分割したファイルであっても、ファイルサイズが上限を超える場合は、上限を超えるファイルのみを第3次地域区画をファイル単位とする場合の分割ルールに従い分割する。</p>
第3次地域区画	<p>2分の1地域メッシュ（第3次地域区画を緯線方向、経線方向に2等分してできる区域）に分割することを基本とする。</p> <p style="text-align: center;">第3次地域区画</p>  <p style="text-align: center;">2分の1地域メッシュの例</p>

基本となるファイル単位	分割ルール
	<p>2分の1地域メッシュに分割したファイルであっても、ファイルサイズが上限を超える場合は、上限を超えるファイルのみを4分の1地域メッシュ（2分の1メッシュを緯線方向、経線方向に2等分してできる区域）に分割する。</p> <div style="text-align: center;"> <p>第3次地域区画</p>  <p>4分の1地域メッシュの例</p> </div> <p>なお、4分の1地域メッシュに分割してもファイルサイズが上限を超える場合は、ファイル名称の[オプション]を使用し、ファイルを分割する。</p>

7.2.2 境界線上の地物の取り扱い

7.2.2.1 地域メッシュの境界線上に存在する地物

ファイル単位となる地域メッシュのメッシュの境界線上に存在する地物は分割しない。複数のメッシュに跨って存在する地物は、それぞれのメッシュに平面投影した形状が含まれる面積の割合を算出し、この割合が最も大きいメッシュに対応するファイルに含む。面積は、小数点2桁（3桁目で四捨五入、単位はm²）で比較する。面積が同じ場合はメッシュ番号の小さい方とする。

7.2.2.2 行政区域の境界線上に存在する地物

データセットの単位となる行政区域の境界線に跨って存在する地物（例：橋梁、トンネル及びその他の構造物）は分割しない。複数の行政区域に跨って存在する地物は、それぞれの都市のデータセットに含めることを許容する。

7.2.3 ファイル名称

ファイル名称（拡張子を除いた部分）は、[メッシュコード][地物型][CRS][オプション]とする。

表7-4 ファイル名の構成要素

ファイル名称の構成要素	説明	使用可能な文字
[メッシュコード]	ファイル単位となる地域メッシュのメッシュコード又は国土基本図郭の図郭番号	半角英数字
[地物型]	格納された地物の種類を示す接頭辞	半角英数字
[CRS]	格納された地物に適用される空間参照系	半角数字
[オプション]	必要に応じてファイルを細分したい場合の識別子（オプション）	半角英数字。区切り文字を使用したい場合は半角のハイフンのみ。
-	ファイル名称の構成要素同士の区切り文字	ファイル名称の構成要素同士を区切る場合には、アンダースコア（ <code>_</code> ）のみを用いる。ファイル名称の構成要素の
ファイル名称の構成要素	説明	使用可能な文字

		中を区切る場合は、ハイフン (-) を用いる。いずれも半角とする。
--	--	-----------------------------------

7.2.3.1 [メッシュコード]

[メッシュコード]は、ファイルの単位に対応する地域メッシュのコードとする。ファイルを分割した場合は、最も若い（左下）のメッシュコードを付与する。

7.2.3.2 [地物型]

[地物型]にはファイルに含まれる応用スキーマを識別する接頭辞（表7-5）を付与する。

表7-5 — 接頭辞

応用スキーマ		接頭辞
建築物モデル		bldg
交通（道路）モデル		tran
交通（鉄道）モデル		rwy
交通（徒歩道）モデル		trk
交通（広場）モデル		sqr
交通（航路）モデル		wwy
土地利用モデル		luse
災害リスク（浸水）モデル	洪水浸水想定区域	fld
	津波浸水想定	tnm
	高潮浸水想定区域	htd
	内水浸水想定区域	ifld
	ため池ハザードマップ	rfld
災害リスク（土砂災害）モデル	土砂災害警戒区域	lsld
都市計画決定情報モデル		urf
橋梁モデル		brid
トンネルモデル		tun
その他の構造物モデル		cons
都市設備モデル		frn
地下埋設物モデル		unf
地下街モデル		ubld
植生モデル		veg
地形モデル		dem
水部モデル		wtr
区域モデル		area
汎用都市オブジェクト		gen
アピアランスモデル		app
拡張製品仕様書で追加した地物（ただし、urf:Zoneを継承する地物を除く）		ext

7.2.3.3 [CRS]

[CRS]には、当該ファイルに含まれるオブジェクトの空間参照系の略称（半角数字）としてEPSGコード（<https://epsg.org/home.html>）を入力する。EPSGコードは、空間参照系に与えられた固有の識別子である。標準製品仕様書で使用する空間参照系の略称を下表に示す。

表7-6 空間参照系の略称

オブジェクトに適用される空間参照系	略称
日本測地系2011における経緯度座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系	6697

なお、標準製品仕様書第2.3版までは、高さとして標高を含むファイルと、仮想的な高さを含むファイルを識別するために、空間参照系の略称として2次元の座標参照系を示す「6668」も採用していた。

しかし、標準製品仕様書第3.0版において、応用スキーマごとにLODの定義を明確にしたこと、また、対象とするLODにLOD0も含めた。これにより、高さとして標高を含むファイルと仮想的な高さを含むファイルを識別子で区分することが不要となったため、略称として6668は削除した。

3D都市モデルの各ファイルに適用する空間参照系の略称は、「6697」に統一する。

7.2.3.4 [オプション]

[オプション]は、メッシュ単位及び地物型単位となるファイルをさらに分割したい場合に使用する。使用しない場合は区切り文字と共に省略する。表7-7に標準製品仕様書において定めるオプションに使用可能な文字列を示す。

表7-7 オプションに使用する文字列

オプション	適用するフォルダ名	オプションの意味
l1	fld	ファイルに含まれる洪水浸水想定区域が対象とする降雨規模が計画規模である。
l2	fld	ファイルに含まれる洪水浸水想定区域が対象とする降雨規模が想定最大規模である。
05	urf	都市計画区域及び準都市計画区域
07	urf	区域区分
08	urf	地域地区
10-2	urf	促進区域
10-3	urf	遊休土地転換利用促進地区
10-4	urf	被災市街地復興推進地域
11	urf	都市施設
12	urf	市街地開発事業
12-2	urf	市街地開発事業等の予定区域
12-4	urf	地区計画等
lnp	urf	都市機能誘導区域及び居住誘導区域
lod3	dem	地形モデル（LOD3）を分けて格納したデータを意味する。
{識別子}	gen	汎用都市オブジェクトのファイルを、地物の種類ごとに分けたい場合に使用する。[識別子]は、コードリスト（GenericCityObject_name.xml）のコードと一致させる。






オプション	適用するフォルダ名	オプションの意味
		このオプションを使用する場合は、拡張製品仕様書において使用するオプションの一覧を示さなければならない。
[識別子]	ext	拡張製品仕様書で追加した地物のファイルを、地物ごとに分けたい場合に使用する。[識別子]は、任意の半角英数字の組み合わせとする。 このオプションを使用する場合は、拡張製品仕様書において使用するオプションの一覧を示さなければならない。
[識別子]	udx以下の全てのサブフォルダ	その他の事由によりファイルを分割する場合に使用する。[識別子]は、任意の半角英数字の組み合わせとする。ただし、他のオプションの文字列と重複してはならない。 このオプションを使用する場合は、拡張製品仕様書において使用するオプションの一覧を示さなければならない。

7.2.4 フォルダ構成とフォルダ名称

7.2.4.1 フォルダ構成

データ製品のフォルダ構成を示す。

表7-9 フォルダ構成

フォルダ構成		フォルダ名	フォルダの説明
		[都市コード][都市名英名][提供者区分][整備年度]_citygml_[更新回数][オプション]	成果品を格納するフォルダのルート。 このフォルダの直下に格納するファイルは索引図及びREADMEのみであり、その他のファイルはこのフォルダに設けたサブフォルダに格納する。 フォルダの名称は、ルートフォルダの命名規則に従う。
		codelists	ルートフォルダ直下に作成された、コードリストを格納するフォルダ。3D都市モデルが参照する全てのコードリストを格納する。
		metadata	ルートフォルダ直下に作成された、メタデータを格納するフォルダ。
		schemas	3D都市モデルのGMLSchemaを格納するフォルダ。 GMLSchemaは指定された版のi-URをG空間情報セン
フォルダ構成		フォルダ名	フォルダの説明
			ターより入手する。以下に示す構造でサブフォルダを設け、GMLSchemaファイルを格納する。 /iur/uro/3.2/urbanObject.xsd /iur/urf/3.2/urbanFunction.xsd
		specification	ルートフォルダ直下に作成された、拡張製品仕様書（PDF形式、Excel形式）を格納するフォルダ。

		udx	ルートフォルダ直下に作成された、3D都市モデルを格納するフォルダ。このフォルダの直下に、接頭辞ごとのサブフォルダ（例：bldg）を作成し、そのサブフォルダの中に指定されたファイル単位で区切られた全ての3D都市モデルのファイルを格納する。
		area	区域モデルを格納するフォルダ。拡張製品仕様書に追加した地物のうち、urf:Zoneを継承する地物を含む。（urf:UnclassifiedBlankarea（非線引き用途白地）、urf:UnclassifiedUseDistrict（非線引き用途地域））を含む。
		bldg	建築物モデルを格納するフォルダ。
		brid	橋梁モデルを格納するフォルダ。
		cons	その他の構造物モデルを格納するフォルダ
		dem	地形モデルを格納するフォルダ。
		ext	拡張製品仕様書で追加した地物（ただし、urf:Zoneを継承する地物は除く）を格納するフォルダ。
		fld	災害リスク（浸水）モデルのうち、洪水浸水想定区域を格納するフォルダ。区域図ごとにサブフォルダを作成する。サブフォルダの構成及び名称は、別途示す。
		frm	都市設備を格納するフォルダ。
		gen	汎用都市オブジェクトを格納するフォルダ。
		htd	災害リスク（浸水）モデルのうち、高潮浸水想定区域を格納するフォルダ。区域図ごとにサブフォルダを作成する。サブフォルダの構成及び名称は、別途示す。
		ifld	災害リスク（浸水）モデルのうち、内水浸水想定区域を格納するフォルダ。区域図ごとにサブフォルダを作成する。サブフォルダの構成及び名称は、別途示す。
		lsld	災害リスク（土砂災害）モデルを格納するフォルダ。
		luse	土地利用モデルを格納するフォルダ。
		rflid	災害リスク（浸水）モデルのうち、ため池ハザードマップを格納するフォルダ。ハザードマップごとにサブフォルダを作成する。サブフォルダの構成及び名称は、別途示す。
フォルダ構成		フォルダ名	フォルダの説明
		nwy	交通（鉄道）モデルを格納するフォルダ。
		sqr	交通（広場）モデルを格納するフォルダ。

		tnm	災害リスク（浸水）モデルのうち、津波浸水想定を格納するフォルダ。津波浸水想定ごとにサブフォルダを作成する。サブフォルダの構成及び名称は、別途示す。
		tran	道路モデルのデータを格納するフォルダ。
		trk	交通（徒歩道）モデルを格納するフォルダ。
		tun	トンネルモデルを格納するフォルダ。
		ubld	地下街モデルを格納するフォルダ。
		urf	都市計画決定情報モデルを格納するフォルダ。
		unf	地下埋設物モデルの格納するフォルダ。
		veg	植生モデルを格納するフォルダ。
		wtr	水部モデルを格納するフォルダ。
		wwy	交通（航路）モデルを格納するフォルダ

7.2.4.2 ルートフォルダの命名規則

ルートフォルダの名称は、[都市コード]_[都市名英名]_[提供者区分]_[整備年度]_citygml_[更新回数]_[オプション]とする。

表7-10 ルートフォルダの命名規則

ルートフォルダ名称の構成要素	説明	使用可能な文字
[都市コード]	3D都市モデルを作成する範囲を識別するコード。 作成範囲が市区町村の場合は、都道府県コード（2桁）と市区町村コード（3桁）の組み合わせからなる5桁の数字とする。 都道府県の場合は、都道府県コード（2桁）とする。	半角数字
[都市名英名]	市区町村コードに対応する都道府県名又は市区町村名の英名。 英名の表記は、デジタル庁が定める「行政基本情報データ連携モデル_住所」に従う。	半角英字
[提供者区分]	データセットの提供者を識別するための文字列。 提供者が市区町村又は都道府県の場合は、以下とする。 city：市区町村 pref：都道府県	半角英数字、区切り文字（-）

ルートフォルダ名称の構成要素	説明	使用可能な文字
	<p>提供者が市区町村及び都道府県以外の場合は、[事業分野][提供者]の組み合わせとする。</p> <p>[事業分野]は、提供者の事業分野の略称であり、半角英数字の組み合わせとする。</p> <p>[提供者]は、当該提供者を識別する任意の文字列であり、半角英数字とする。</p> <p>標準製品仕様書で使用する事業分野の略称</p> <p>unf: ユーティリティ事業</p> <p>tran: 道路事業</p> <p>rwyt: 鉄道事業</p> <p>[提供者区分]の例を以下に示す。ただし、[提供者]の部分はいずれも作成例である。</p> <p>tran-mlit: 国土交通省が提供する交通（道路）モデル</p> <p>unf-tg: 東京ガスが提供する地下埋設物モデル</p> <p>tran-enexco: NEXCO東日本が整備する交通（道路）モデル</p> <p>rwyt-jre: JR東日本が提供する交通（鉄道）モデル</p>	
[整備年度]	<p>3D都市モデルを整備した年度（半角数字4桁の西暦）とする。</p> <p>整備とは、以下の1（新規整備）に加え、2及び3を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データセットの追加（新規整備） 2. 地物型の追加 3. 地物の追加（整備範囲の拡張、既存地物の更新） <p>以下の4から6は含まない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 空間属性の追加 5. 主題属性の追加 6. 標準製品仕様書の改定に伴うバージョンアップ 	半角数字
[更新回数]	<p>履歴管理用に半角数字を付す。初回に作成した成果物は1とする。以降、修正等を行った場合はバージョンアップごとに数字を加算していく。</p> <p>[更新回数]は[整備年度]ごとに加算する。[整備年度]が変わった場合は、1から開始する。</p>	半角数字
[オプション]	<p>成果品が複数種類作成される場合に、これらを識別する任意の文字列とする。半角英数字のみ使用可とする。成果品が1種類の場合は、[オプション]は省略する。</p>	半角英数字、区切り文字 (-)
-	ルートフォルダ名称の構成要素同士の区切り文字	ルートフォルダ名称の構成要素同士を区切る場合には、アンダースコア () のみを用いる。

7.2.4.3 サブフォルダの作成

3D都市モデルを格納するudxフォルダには、3D都市モデルの応用スキーマに対応するサブフォルダを作成し、各データ製品を格納する。

災害リスクモデルについては、災害の種類ごとに分けてサブフォルダ（fld、tnm、htd、ifld、rfld 及び lsld）を作成する。また、災害リスクのうち、浸水想定区域のサブフォルダ（fld、tnm、htd、ifld 及び rfld）には、さらに区域図ごとのサブフォルダを設ける。サブフォルダを作成する場合は、下表に従い、作成したサブフォルダの一覧を付す。

本製品仕様書において作成する災害リスク（浸水）モデルのフォルダ構成を下表に示す。

● 洪水浸水想定区域のフォルダ構成

サブフォルダ「fld」の中に、国を示すサブフォルダ「natl」と都道府県を示すサブフォルダ「pref」を作成し、「natl」及び「pref」の中にさ

らに洪水浸水想定区域図ごとのサブフォルダを作成する。

なお、「natl」と「pref」には、水防法第 14 条第 1 項に定める「洪水浸水想定区域」である災害リスク（浸水）モデルを格納する。また、水防法第 14 条第 1 項に定める「洪水浸水想定区域」以外の洪水ハザードマップ等に基づく浸水面や、破堤点ごと、時間経過ごとの浸水面を表現する災害リスク（浸水）モデルは、サブフォルダ「org」を作成し、この中にさらに区域図ごとのサブフォルダを作成する。

表 7-1 洪水浸水想定区域のフォルダ構成

フォルダ名	サブフォルダ名	フォルダの説明（洪水浸水想定区域図の名称）
natl	yamatogawa_yamatogawa	大和川水系大和川洪水浸水想定区域図
pref	yamatogawa_sakanegawa	大和川水系坂根川洪水浸水想定区域図
pref	yamatogawa_sanemorigawa-daimongawa	大和川水系実盛川・大門川洪水浸水想定区域図
pref	yamatogawa_shigigawa	大和川水系信貴川洪水浸水想定区域図

7.2.5 成果品の単位と空間範囲

成果品の単位は基礎自治体とし、成果品の空間範囲は基礎自治体が整備する原典資料の整備範囲と一致させることを基本とする。

- ただし、都道府県等広域で原典資料が整備されている場合の市区町村の空間範囲は、地物型のファイル単位（7.2.1）に応じて、市区町村の行政区域を包含する基準地域メッシュ（第3次地域区画）又は統合地域メッシュ（第2次地域区画）とする。
- 図7-2は都道府県で都市計画基本図が整備されている場合の例である。A市とB市にはそれぞれの空間範囲を包含するメッシュに該当するファイルがそれぞれのデータセットに含まれる。このとき、A市とB市の行政界を跨ぐメッシュのファイルは、それぞれのデータセットに重複して含まれる。



図7-2 都道府県で都市計画基本図が整備されている場合に重複して格納されるファイルの例

7.2.6 媒体名

DVD、HDD又はウェブサイトからのダウンロードとする。

ルートフォルダをZIP形式（拡張子.zip）又は7Z形式（拡張子.7z）に圧縮する。圧縮後のファイル名称は、以下とする。

[都市コード]_[都市名英名]_[提供者区分]_[整備年度]_citygml_[更新回数]_[オプション]

（オープンデータの場合は、[都市コード]_[都市名英名]_[提供者区分]_[整備年度]_citygml_[更新回数]_[オプション]_op）

[都市コード]、[都市名英名]、[提供者区分]、[整備年度]及び[更新回数]の表記は、「7.2.4」に示すルートフォルダの命名規則に従う。

[オプション]は、成果品が複数種類作成される場合に、これらを識別するために使用する、半角英数字からなる任意の文字列とする。成果品が1種類の場合は、_[オプション]を省略する。

7.2.7 オープンデータのための配布媒体情報

作成したデータ製品から、オープンデータを作成する場合には、以下に従う。

- 「ファイル単位」は「7.2.1」に従う。
- 「境界線上の地物の取り扱い」は、「7.2.2」に従う。
- 3D都市モデルの「ファイル命名規則」は[メッシュコード]_[地物型]_[CRS]_[オプション]_opとする。[メッシュコード]、[地物型]、[CRS]及び[オプション]の表記は「7.2.3」に従う。また、オープンデータであることを明らかにするため、末尾に「_op」を付与する。
- ファイル構成は「7.2.4」に従う。ただし、ルートフォルダの名称の末尾に「_op」を付与する。
- 媒体名は「7.2.6」に従う。

8 メタデータ

データ製品に関するメタデータとして、JMP2.0に基づくメタデータ、3D都市モデルの作成に使用した原典資料のリスト、データ製品の概要を示すREADME及び3D都市モデルの空間範囲をLOD別に地図上で示す索引図を作成する。JMP2.0に基づくメタデータの仕様を、8.1から8.4に示す。原典資料リストの仕様を、8.5に示す。READMEの仕様を8.6に示す。索引図の仕様を8.7に示す。

8.1 メタデータの形式

メタデータの形式は、JMP2.0とする。

8.2 メタデータの記載項目

メタデータの記載項目を表8-1に示す。

表8-1 — メタデータに含めるべき項目

メタデータ項目	記述する内容	記述例
メタデータ>ファイル識別子	udx_[都市コード][整備年度][地物型][オプション]とする。 [都市コード]及び[整備年度]成果品のフォルダ名称に一致する。 [地物型]は、地物型またはモジュールを示す接頭辞（3文字又は4文字のアルファベット）とする。 なお、[地物型]は、メタデータを地物型又はモジュールごとに作成せず、まとめて作成した場合は省略する。 [オプション]は、成果品が複数種類作成される場合に、これらを識別するために使用する任意の文字列とする。半角英数字のみを使用可とする。成果品を格納するルートフォルダに使用する[オプション]の文字列に一致させること。成果品が1種類の場合は省略する。	udx_27100_city_2020_flg
メタデータ>言語	メタデータの記述に使用する言語。日本語とする。	jpn （固定値）
メタデータ>文字集合	メタデータに使用する文字コード。UTF-8とする。	004 （固定値）
メタデータ>階層レベル	メタデータの作成対象。データ集合とする。	005 （固定値）
メタデータ>問い合わせ先	発注者の問合せ先を記述する。役割、組織名、電話番号、オンライン情報源（Project PLATEAUのURL等）を記述する。 役割は「010（刊行者）」とする。	010（固定値） 国土交通省都市局 03-5253-8397 www.mlit.go.jp/ plateau/
メタデータ>日付	メタデータの作成日付をYYYY-MM-DDにより記述する。	2021-02-25
メタデータ>規格の名称	メタデータの仕様。	JMP （固定値）
メタデータ>規格の版	メタデータの版。	2.0 （固定値）
参照系情報	データ集合に適用される空間参照系の識別子。製品仕様書で指定された空間参照系の識別子を記述する。識別子は、JMP2.0を参照する。 「日本測地系2011における経緯度座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系」の場合は、JGD2011,TP/ (B,L) ,Hとなる。 「日本測地系2011における平面直角座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系」の場合は、JGD2011,TP/n (X,Y) ,Hとなる。	JGD2011,TP/ (B,L) ,H

	ここでは、平面直角座標系の系番号であり、拡張製品仕様書に使用する系番号を明記する。	
識別情報>題名	3D都市モデル_[都市コード]_[提供者区分]_[整備年度]_[オプション] [都市コード]、[提供者区分]、[整備年度]及び[オプション]は、成果品のフォルダ名称に一致する。	3D都市モデル_27100_city_2020
識別情報>日付及び日付型	データの作成日付及び日付型を記述する。 作成日付はYYYY-MM-DDにより記述する。 日付型は以下より選択する。 001：作成日、002：刊行日、003：改訂日	2021-02-25, 003
識別情報>要約	3D都市モデルの概要を記載する。 以下の文章を入れる。 「3D都市モデルとは、都市空間に存在する建物や街路といったオブジェクトに名称や用途、建設年といった都市活動情報を付与することで、都市空間そのものを再現する3D都市空間情報プラットフォームです。様々な都市活動データが3D都市モデルに統合され、フィジカル空間とサイバー空間の高度な融合が実現します。これにより、都市計画立案の高度化や、都市活動のシミュレーション、分析等を行うことが可能となります。」 また、データ集合に含まれる地物やそのLOD、作成に使用した原典資料、作成方法を示す。また、以下に示すデータの利用上の注意事項を入れること。 「ただし、原典資料の位置の正しさの違いや、作成された時期の違いにより、現状を正確に反映していない場合があることにご注意ください。」 また、同一の地物型について、複数のモデル整備事業者がモデルを作成した場合は、ファイル名のオプションに使用する文字列の説明を記載すること。	複数のモデル整備事業者がモデルを作成した場合の記載例： 本データに含まれる建築物モデルのうち、オプション値にpscとあるものは令和5年度に株式会社パスコが、aacとあるものは令和5年度に朝日航洋株式会社が作成したデータを意味します。
識別情報>目的	各都市において想定される3D都市モデルのユースケースを記述する。	災害リスクの3次元可視化
識別情報>状態	「完成」を示す固定値とする。	001（固定値）
識別情報>問い合わせ先	発注者の問合せ先を記述する。役割、組織名、電話番号、オンライン情報源（Project PLATEAUのURL等）を記述する。 役割は「010（刊行者）」とする。	010（固定値） 国土交通省都市局 03-5253-8397 www.mlit.go.jp/plateau/
	作成者の問合せ情報を記述する。 役割名は「060（創作者）」とする。	060（固定値） 〇〇株式会社 www.sample.co.jp
識別情報>記述的キーワード	キーワードを、複数グループ化して記述する。 ・「type=002」として、データ製品に含まれる都市の名称を入れる。 ・「type=005」として、データ製品に含まれる地物型の名称を入れる。 ・「type=005」として、データ製品に含まれるLODのレベルを入れる。 ・「type=005」として、データ製品に想定されるユースケースを入れる。 ・「type=005」として、データ製品の作成に使用した原典資料の名称を入れる。	東京23区, 002 建築物, 005 LOD1, 005 景観シミュレーション, 005 都市計画基本図, 005
識別情報>利用制限	固定値とし、「Licensed under CC BY 4.0」を記述する。	Licensed under CC BY 4.0 （固定値）
識別情報>空間表現型	ベクトルを意味する固定値「001」を入力する。	001（固定値）

識別情報>空間解像度	等価縮尺の分母にデータ集合に適用する地図情報レベルを入力する。 複数のレベルが混在する場合は、それぞれ記述する。	2500
識別情報>言語	メタデータの記述に使用する言語。日本語とする。	jpn (固定値)
識別情報>文字集合	メタデータに使用する文字コード。UTF-8とする。	004 (固定値)
識別情報>主題分類	構造物を意味する「017」を入力する。	017 (固定値)
識別情報>範囲	<ul style="list-style-type: none"> 作成範囲を包含する最小の矩形を、東西の経度、南北の緯度により記述する。 地物やLODにより整備範囲が異なる場合は、作成範囲の違いを自由記述により明記する。 地理記述には、都道府県及び市区町村名を記述する。 	LOD1の作成範囲は●●市全域、LOD2の作成範囲は、△△駅を中心とする半径約300m内。
配布情報>配布書式	固定値「CityGML 2.0」及び「i-UR 3.2」をそれぞれ書式情報として入れる。	CityGML 2.0 i-UR 3.2
配布情報>オンライン	G空間情報センターのURLを記述する。	https://front.geospatial.jp/ (固定値)
データ品質情報>データ品質	<p>製品仕様書に示す品質要求の各項目について品質評価結果を記述する。</p> <p>系譜(データが作成されるまでの過去の記録や履歴、原典資料の概要)には、主題属性の作成方法や図形と属性のアンマッチへの対処方法等、データ品質に記載できないが、データ製品の利用にあたり注意が必要となるデータの品質に係る事項を記述する。</p> <p>また、公共測量成果の対象となる建築物モデル、交通モデル、橋梁モデル、トンネルモデル、その他の構造物モデル、植生モデル、地形モデル及び水部モデルについて、公共測量成果ではない都市オブジェクトが含まれている場合は、該当しない理由を記載する。</p>	(系譜の例) 一部の橋梁モデルは、厚みを推定で作成しているため、公共測量成果ではありません。

8.3 メタデータの作成単位

メタデータは、3D都市モデル全体について、一つのメタデータを作成することを原則とする。
以下の場合には、3D都市モデル全体のメタデータとは別に、対象を限定したメタデータを作成する。

- 原典資料の管理者が3D都市モデルの整備主体とは異なる場合（ただし、原典資料がオープンデータである場合は除く。）
 - － 洪水浸水想定区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域にかかる原典資料として、国土数値情報（オープンデータ）ではなく、河川管理者等から貸与されたデータを使用した場合は、それぞれメタデータを作成する。
 - － 建築物モデル（LOD4）の原典資料として、整備主体以外の施設管理者から貸与されたBIMモデル等を使用した場合は、建築物モデル（LOD4）に対するメタデータを作成する。
- 3D都市モデルの整備事業者が対象地物によって異なる場合
 - － 整備事業者毎に作成する。
- 空間参照系が日本測地系2011における経緯度座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系以外の場合
 - － 地下埋設物モデルは空間参照系が日本測地系2011における平面直角座標系と東京湾平均海面を基本とする標高の複合座標参照系であるため、地下埋設物モデルに対するメタデータを作成する。

8.4 メタデータのファイル名称

メタデータのファイル名称は、メタデータの記載項目である「ファイル識別子」に一致させる。メタデータの拡張子は、.xmlとする。

8.5 原典資料リストの仕様

JMP2.0では、データ製品を作成する際に使用した原典資料の諸元を詳細に記述できないことから、標準製品仕様書では、原典資料リストのための仕様を定める。3D都市モデルを作成する際には、必ずこの原典資料リストを作成しなければならない。

8.5.1 原典資料リストの記載項目

表8-2 原典資料リストの記載項目

原典資料リスト項目	記述する内容	記述例
meshcode	標準地域メッシュのコードを記述する。 コードは、地物のファイル単位として指定されている3次メッシュ又は2次メッシュのメッシュコードとする。地下埋設物モデルの場合は、国土基本図の図郭コード（図郭の区画名）とする。 メッシュ毎又は図郭ごとに記述することを基本とする。 同一の地物・属性について、都市域全体で同一の原典資料が使用されている場合、メッシュコード又は図郭コードを省略する。 例えば、一つの洪水浸水想定区域図を都市域全体で使用している場合は、メッシュコードを省略する。 一方、LOD0の建築物の外形について、都市計画基本図を使用して作成しつつ、一部のメッシュは航空写真から図化した場合は、同一地物・属性について複数の原典資料が使用されているため、メッシュ毎に記述する。 また、都市計画基礎調査を複数年に分けて実施しており、場所によって作成時点の異なる都市計画基礎調査の成果が使用されている場合には、同一地物・属性について複数の原典資料が使用されているため、メッシュ毎に記述する。	50305455
feature	地物名を記述する。 各モジュールに複数の地物が定義されている場合は、集成する地物（例：Building）を記述することを基本とする。集成する地物に束ねられ、部品として使われる地物（例：WallSurface,Door）は記述しなくてもよいが、特に明記したい場合は、記述してもよい。 なお、Appearance（地物に貼るテクスチャ）は、貼り付ける対象となる地物（例：Building）のプロパティとして本リストでは記述する。 地物名には接頭辞を付する。例えばBuildingの場合は、bldgを付する。	bldg:Building
featureName	“feature”で、“GenericCityObject”を記述した場合は、どのGenericCityObjectを使用したかを識別するため、name属性の値を記述する。GenericCityObject以外をfeatureに記述した場合は、空とする。	20
property	地物の主題属性（データ型を含む）及び空間属性（幾何オブジェクトへの参照）を記述する。空間属性はLOD別とする。 地物の主題属性がデータ型として定義されている場合は、関連役割名とする。ただし、データ型に定義された各属性に異なる原典資料が使用されている場合は、“関連役割名.主題属性名”とする。 地物のテクスチャは、“property”を“app:appearance”とする。 属性名には、接頭辞を付す。 接頭辞は、応用スキーマ文書に示す地物の主題属性又は空間属性に付す接頭辞に一致させる。 例	bldg:lod0RoofEdge

原典資料リスト項目	記述する内容	記述例
	bldg:function,bldg:lod1Solid,bldg:lod2Solid,uro:buildingDetailAttribute,uro:buildingDetailAttribute.uro:vacancy,app:appearance	
propertyName	“property”で、“gen:stringAttribute”などの任意に追加した属性を記述した場合は、属性を識別するため、name属性（又はkey属性）の値を記述する。任意に追加した属性以外をpropertyに記述した場合は、空とする。	名称
sourceName	原典として使用した資料の名称を記述する。	航空写真
authority	原典資料の作成機関の名称を記述する。	●●県三郷町
date	原典資料が作成、公表又は改訂された日付を記述する。	2021-01-01
dateType	“date”で記述した日付の意味を記述する。作成日の場合は001、公表日の場合は002、改訂日の場合は003、不明な場合は004とする。 作成日は原典資料の納品日とする。 公表日は原典資料がオープンデータとして公開された日とする。 改訂日は作成又は公開された原典資料が修正され、納品又は公開された日とする。	001
srs	原典資料がGISデータ又は図面の場合に、適用されている座標参照系の識別子を、JIS X7115メタデータ附属書2に従い記述する。GISデータではない場合は空とする。	JGD2011/2 (X,Y)
mapLevel	原典資料がGISデータの場合又は図面の場合に、地図情報レベルを記述する。数値のみの記載とする。例：地図情報レベル2500の場合は“2500”とする。 一つの原典資料に複数の地図情報レベルが混在している場合は、列挙してよい。ただし、その他の項目の内容が同一である場合に限る（その他の項目の内容は異なる場合は行を分ける）。	2500 列挙する場合 2500;1000
URL	原典資料又はその詳細な情報が入手可能なウェブサイトがある場合にはURLを記述する。	https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A27-v3_0.html

8.5.2 原典資料リストの作成単位

データ製品に含まれる各都市に対して一つの原典資料リストを作成する。

8.5.3 原典資料リストのファイル仕様

出力データ構造には、CSVを使用する。拡張子は、「.csv」とする。

8.5.1に示す記載項目の組を1レコードとし、以下に示す規則に従い出力する。

表8-3 原典資料リストのファイル仕様

文字コード	UTF-8（BOM付）
改行コード	CRLF
区切り文字	カンマ（,）
ヘッダ行の有無	あり
ヘッダ行の行数	1
ヘッダ行の内容	原典資料リスト項目を使用する。
文字列でのダブルクォートの有無	あり
null値の指定方法	,,（区切り文字の連続）
1項目内で、複数の値を列挙する場合に使用する区切り文字	;（セミコロン）

禁則文字	指定しない
------	-------

8.5.4 原典資料リストのファイル名称

udx_[都市コード]_[整備年度]_resource

[都市コード]及び[整備年度]は、成果品のルートフォルダ名に一致する。

8.6 READMEの仕様

データ製品の概要書として、READMEを作成する。READMEの仕様を以下に示す。

8.6.1 形式

md（マークダウン）形式とする。ファイル拡張子は、.mdとする。

8.6.2 ファイル名

READMEとする。（拡張子を含めると、README.md）

8.6.3 記載項目

READMEに含むべき項目は下表のとおりとする。

表8-4 — READMEに含める項目

記載項目	記述する内容	記述例
成果品名称	3D都市モデルの名称。以下のとおりとする。 3D都市モデル（Project PLATEAU）[都市名]（[整備年度]） [都市名] 整備対象都市の名称を入れる。市区町村の場合は、市区町村名、都道府県の場合は都道府県名とする。 [整備年度]作成又は更新した年度（例：2022年度）を入れる。西暦とする。成果品のフォルダ名称に含める[整備年度]と一致させる。	3D都市モデル（Project PLATEAU）大阪市（2023年度）
都市名	都道府県及び市区町村の名称。	大阪市
作成（更新）年月日	データ製品の作成（又は更新）年月日。YYYY-MM-DDにより記述する。	2024-02-18
3D都市モデルの概要	概要として、以下の文章を記述する。 「3D都市モデルとは、都市空間に存在する建物や街路といったオブジェクトに名称や用途、建設年といった都市活動情報を付与することで、都市空間そのものを再現する3D都市空間情報プラットフォームです。 様々な都市活動データが3D都市モデルに統合され、フィジカル空間とサイバー空間の高度な融合が実現します。これにより、都市計画立案の高度化や、都市活動のシミュレーション、分析等を行うことが可能となります。」	3D都市モデルとは、都市空間に存在する建物や街路といったオブジェクトに名称や用途、建設年といった都市活動情報を付与することで、都市空間そのものを再現する3D都市空間情報プラットフォームです。 様々な都市活動データが3D都市モデルに統合され、フィジカル空間とサイバー空間の高度な融合が実現します。これにより、都市計画立案の高度化や、都市活動のシミュレーション、分析等を行うことが可能となります。
都市の面積	データ製品の対象となる市区町村の面積。単位はkm2とする。	225.3km2
記載項目	記述する内容	記述例

3D都市モデルの整備内容	<p>データ製品に含まれる地物を応用スキーマごとに示す。</p> <p>また、以下に示す地物は、LOD別の整備範囲及び整備規模（面積、箇所数等）を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物モデル：LOD別の棟数、整備範囲及び整備面積。 ・交通（道路）モデル：LOD別の整備範囲及び整備面積。 ・交通（徒歩道）モデル：LOD別の整備範囲及び整備面積。 ・交通（広場）モデル：LOD別の整備範囲及び整備箇所数。整備箇所数は、整備した広場の数とする。 ・交通（航路）モデル：LOD別の航路数。航路数は、整備した航路の数とする。 ・土地利用モデル：整備範囲及び整備面積。 ・都市設備モデル：LOD別の整備範囲及び整備面積。 ・植生モデル：LOD別の整備範囲及び整備面積。 ・災害リスク（浸水）モデル：洪水浸水想定区域、高潮浸水想定区域、津波浸水想定ごとの区域図の名称。 ・災害リスク（土砂災害）モデル：区域種類及び区域数。 ・都市計画決定情報：整備対象とした都市計画の種類。 ・橋梁モデル：LOD別の箇所数。 ・トンネルモデル：LOD別の箇所数。 ・その他の構造物モデル：LOD別の箇所数。 ・地下街モデル：LOD別の箇所数及び整備範囲。整備範囲は地下街の名称とする。 ・水部モデル：LOD別の整備面積。 ・地形モデル：LOD別の整備面積。 ・区域モデル：LOD別の区域数及び整備面積。 <p>LODは、「LOD2.0」「LOD3.0」「LOD3.1」のように、最小の区分を示す。</p> <p>整備範囲は、都市全域、都市計画区域、市街化区域等、整備した地域の説明とする。「三郷町全域」「市街化区域」「用途地域」「〇〇駅周辺エリア」のように、整備範囲が分かる名称とする。</p> <p>整備面積は、整備範囲の面積とする。単位は、km²を基本とするが、整備範囲が小さい場合はhaを使用してもよい。</p> <p>整備範囲の記載がない場合は、整備した地物の総面積とする。</p> <p>例えば、整備範囲が都市計画区域の場合、整備面積は都市計画区域の面積とする。</p> <p>なお整備範囲内において、整備の対象とする地物や整備エリアを限定している場合に、その整備規模として施設数、整備面積、又は整備延長を記載する。</p>	<p>建築物モデル</p> <p>LOD1 : 797965棟、市域全域、225.3km²</p> <p>LOD2 : 20棟、新大阪駅周辺、1.19km²</p> <p>交通（道路）モデル</p> <p>LOD1 : 225.3km²、市域全域</p> <p>交通（広場）モデル</p> <p>LOD2 : 新大阪駅周辺、1か所、0.4ha</p>
準拠する標準製品仕様書の版	<p>拡張製品仕様書が準拠する標準製品仕様書の版を記述する。</p> <p>「3D都市モデル標準製品仕様書 第5.0版」</p>	<p>3D都市モデル標準製品仕様書 第5.0版</p>
記載項目	<p>記述する内容</p>	<p>記述例</p>

地図情報レベル	データ製品に含まれる地物の地図情報レベル。「地図情報レベル2500」が基本となるが、地図情報レベル500や地図情報レベル1000の地物が含まれている場合には、対象とする地物やエリアを記述する。	データセット全体の位置正確度 地図情報レベル2500 上記以外の位置正確度 建築物モデルLOD3: 地図情報レベル500 建築物モデルLOD4: 地図情報レベル500 交通（道路）モデル（LOD3）: 地図情報レベル500
索引図へのリンク	成果品フォルダに含まれる索引図（PDFファイル）への相対パス。	
製品仕様書へのリンク	成果品フォルダに含まれる製品仕様書（PDFファイル及びEXCELファイル）への相対パス。	
メタデータへのリンク	成果品フォルダに含まれるメタデータ（XMLファイル）への相対パス。	
原典資料リストへのリンク	成果品フォルダに含まれる原典資料リスト（CSVファイル）への相対パスとする。	
利用に関する留意事項	オープンデータの場合は、以下を記入する。 「本データセットは PLATEAU Site Policy 「3. 著作権について」 で定められた以下のライセンスを採用します。 + 政府標準利用規約（第2.0版） + クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの表示 4.0国際 + ODC BY（ https://opendatacommons.org/licenses/by/1-0/ ） + OdbL（ https://opendatacommons.org/licenses/odbl/ ） 利用者は、いずれかのライセンスを選択し、商用利用も含め、無償で自由にご利用いただけます。 原典資料の位置の正しさの違いや、作成された時期の違いにより、現状を正確に反映していない場合があることにご注意ください。」	本データセットは PLATEAU Site Policy 「3. 著作権について」 で定められた以下のライセンスを採用します。 + 政府標準利用規約（第2.0版） + クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの表示 4.0国際 + ODC BY（ https://opendatacommons.org/licenses/by/1-0/ ） + OdbL（ https://opendatacommons.org/licenses/odbl/ ） 利用者は、いずれかのライセンスを選択し、商用利用も含め、無償で自由にご利用いただけます。 原典資料の位置の正しさの違いや、作成された時期の違いにより、現状を正確に反映していない場合があることにご注意ください。

8.6.4 作成単位

データ製品に対して1つのファイルを作成する。

8.6.5 テンプレート

README.mdのテンプレートは、製品仕様書作成テンプレートセットに含めている。

製品仕様書作成テンプレートセットは、<https://www.mlit.go.jp/plateaudocument/> より入手できる。

8.7 索引図の仕様

索引図の仕様を下表に示す。

表8-5 — 索引図の仕様

項目	仕様
タイトル	「〇〇 3D都市モデル整備範囲図」
項目	仕様
	〇〇の部分は整備範囲となる市区町村名又は都道府県名を記載する。

背景地図	国土地理院の地理院地図（地理院タイル）を標準とする。
縮尺	任意とする。（指定のサイズ・レイアウトに収める。）
サイズ・レイアウト	用紙サイズA4を基本とする。レイアウトは対象範囲の形状を考慮し縦又は横いずれも可とする。
記載項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3D都市モデルの詳細度（LOD1～LOD4）ごとに色を分けて表示する。 <ul style="list-style-type: none"> － LOD3及びLOD4の整備範囲は、整備範囲の広さに応じて詳細図を表示する。 ・ 対象範囲の標準地域メッシュ（2次メッシュ、3次メッシュ）のメッシュとメッシュ番号を表示する。 ・ 凡例を表示する。主な記載項目は以下とする。 <ul style="list-style-type: none"> － 2次メッシュ及びそのメッシュ数：記号は水色（R:5,G:110,B:255）の太線の四角を標準とする。 － 3次メッシュ及びそのメッシュ数：記号は黒色（R:0,G:0,B:0）の中太線の四角を標準とする。 － LOD1整備範囲（範囲の通称）及び面積km²：記号は黒色（R:0,G:0,B:0）の太線の四角を標準とする。 － LOD2整備範囲（範囲の通称）及び面積km²：記号は赤色（R:240,G:5,B:0）の太線の四角を標準とする。 － LOD3整備範囲（範囲の通称）及び数量（km²又はkm等）：記号は緑色（R:90,G:255,B:0）の太線の四角又は線を標準とする。 － LOD4整備範囲（範囲の通称）及び数量（km²又はkm等）：記号は青色（R:0,G:0,B:255）の太線の四角又は線を標準とする。
形式	PDF

9 その他

9.1 データ取得

本来、製品仕様とは、成果物（3D都市モデル）が製品仕様に示された品質要求を満たしていれば、その過程（作成手法、原典資料）は問わないが、作成した3D都市モデルが国際標準に準拠したものとなるよう、データ取得についても規定する。

標準製品仕様に規定する地物の取得は、「3D都市モデル標準作業手順書」エラー! 参照元が見つかりません。及び「三郷町公共測量作業規程」に従う。

9.2 製品仕様のプロファイル

標準製品仕様を拡張（標準製品仕様に地物や地物属性・地物関連役割を追加）や制限（標準製品仕様を制限し、その一部を使用）することができる。

標準製品仕様の拡張又は制限においては、以下に示す規則に従う。

9.2.1 拡張規則

標準製品仕様に定義されていない地物や地物属性・地物関連役割を用いたい場合は、以下に示す規則に従う。

規則1：標準製品仕様に定義されておらず、i-URに定義されている地物又は地物属性・地物関連を使用したい場合は、i-URから必要な要素を抽出し、i-URの定義と矛盾なく使用する。

規則2：標準製品仕様に定義されておらず、CityGMLに定義されている地物又は地物属性・地物関連を使用したい場合は、CityGMLから必要な要素を抽出し、CityGMLの定義と矛盾なく使用する。

規則3：標準製品仕様に定義されておらず、i-UR及びCityGMLのいずれにも定義されていない地物を使用したい場合には、CityGMLに定義された`gen:GenericCityObject`を使用して、地物を追加する。

注記1

i-UR又はCityGMLに該当する地物が存在する場合には、`gen:GenericCityObject`を使用してはならない。

規則4：標準製品仕様、i-UR、又はCityGMLのいずれにも定義されていない地物属性を使用したい場合には、CityGMLに定義された`gen:_genericAttribute`の下位型を使用して、これを該当する地物に追加する。

注記2

標準製品仕様、i-UR又はCityGMLに該当する属性が存在する場合には、`gen:_genericAttribute`を使用してはならない。

注記3

「建築物」にコード型の地物属性を追加したい場合には、「建築物」に定義された「拡張属性」の仕組みを利用し、コード型の地物属性を追加する。

規則5：規則1、2又は規則4に従い、地物属性を追加する場合において、コード型の属性を定義する場合には、必ず、参照すべきコードリストを作成しなければならない。

注記4

コードリストの形式は、GML3.1.1 simple dictionary profile(1.0.0)に従う。

規則6：規則1から規則5までに示す拡張規則に従い、標準製品仕様を拡張する場合には、拡張の内容を示す製品仕様を作成しなければならない。

注記5

製品仕様の作成においては、地理空間データ製品仕様書作成マニュアルに従うこと。

9.2.2 制限規則

規則1：標準製品仕様に定められた地物、属性又は関連を使用しない場合には、応用スキーマクラス図及び応用スキーマ文書修正は行わない。標準製品仕様書に使用する地物、属性及び関連の一覧を付し、制限の内容を示す製品仕様を作成しなければならない。

9.3 XMLSchemaの多重度と運用上の多重度についての留意事項

3D都市モデルの符号化仕様として、CityGML及びi-URにおいて策定されたXMLSchemaを採用している。そのため、これらのXMLSchemaに定義されたタグ及びその多重度に従う必要がある。

この時、CityGMLは汎用的な利用が想定されていることから、全ての地物あるいは属性に対応するタグの出現回数が、XMLSchema上では全て[0..1]又は[0..*]というように設定されている。これは、いずれの地物あるいは属性を示すタグがデータ集合に出現してもしなくてもよいことを意味する。

しかしながら、3D都市モデルの整備や利用を推進するにあたり、その運用上、特定のタグの出現を必須（多重度[1]）としたり、あるいは出現を禁止（多重度[0]）としたり、出現回数を制限したい場合がある。例えば、bldg:Building（建築物）のuro:buildingIDAttribute（建築物識別属性）は、XMLSchema上は多重度が[0..*]となるが、3D都市モデル上で建築物を識別するための情報となるため、多重度を[1]としたい場合がこれに該当する。

標準製品仕様を示す応用スキーマ（UMLクラス図及び定義文書）では、3D都市モデルとして必要な運用上の多重度を示している。データ製品の実装においては、応用スキーマとの一致（運用上の多重度との一致）が必要となることに留意すること。

なお、応用スキーマの多重度とXMLSchemaに定義された多重度との一覧を別表「応用スキーマとXMLSchemaとの多重度の対応」

（https://www.mlit.go.jp/plateau/file/libraries/doc/specification_attachedTable1.xlsx）に示す。両者に差異がある場合には、併せてその内容を留意事項として示す。

9.4 テクスチャのための標準製品仕様

本項では、建築物の外観（app:Apperance）に使用する画像（テクスチャ）の標準的な仕様を定める。使用する画像の諸元を以下に示す。

9.4.1 画像の仕様

使用する画像の仕様を表9-1に示す。

表9-1 画像の製品仕様

形式	JPG（拡張子は.jpg）又はPNG（拡張子は.png）とする。
サイズ	高さ及び幅の各辺長のサイズは2の累乗とし、2048ピクセル以下とすることを基本とする。 ただし、大規模な建築物等では、各辺を4096ピクセルとすることを可とする。 高さ及び幅は異なる辺長として良い。
解像度	解像度は、10cm/pixel以下を基本とする。 ただし、ユースケースが必要とする場合は10cm/pixel以上の高解像画像を用いることを可能とするが、高解像画像を広域に用いた場合に描画負荷が大きいことに留意する。
ファイル単位	パフォーマンスの観点から複数の地物のテクスチャを1つの画像ファイルにまとめること（アトラス化）を推奨する。 アトラス化の単位は、1つのCityGMLファイルを上限とする。画像サイズは一辺2048ピクセル以下（辺長サイズは2の累乗）を基本とし、一辺4096ピクセルを上限とする。 ただし、大規模な地物などで1つあたりのテクスチャサイズが画像サイズの上限（一辺4096ピクセル）を超える場合は、画像ファイルを分割してもよい。
背景色	背景色は、黒（R,G,B:0,0,0）を基本とする。 ただし、建築物モデルの色調との調和を考慮し、灰色（R,G,B：90,90,90等）を設定してよい。

9.4.2 テクスチャの実装仕様

地物の外観に画像を貼る場合は、アピアランスモデル（app:Appearance）を使用する。アピアランスモデルは、テクスチャとして使用する画像への参照、地物に貼り付けたい画像の部分を切り出すための画像上の座標、切り出した画像の貼り付けたい地物の面への参照により構成する。

画像への参照及び貼り付けたい地物の面への参照は、相対パスを使用する。画像上の座標値の指定は、UV座標を用いる。UV座標とは、横方向をU軸、縦方向をV軸とする2次元の直交座標系に基づく座標であり、その座標値は、左下を原点（0.0,0.0）、右上を（1.0,1.0）とする0から1までの小数値で表現される。

9.5 三次元点群データのための標準製品仕様

使用していないため省略する。

9.6 データ利用時の留意事項

9.6.1 XMLSchemaタグの日本語表記

本標準製品仕様書に示す応用スキーマクラス図に示すクラスの名称や属性・関連役割の名称には、CityGML及びi-URのXMLSchemaに定義されたタグを使用している。このタグに対応する日本語表記を別表「応用スキーマとXMLSchemaとの多重度の対応」

（https://www.mlit.go.jp/plateau/file/libraries/doc/specification_attachedTable1.xlsx）に示す。

この日本語表記は3D都市モデルの可視化において使用できる。ユースケースによって最適な可視化方法は異なるため、別表の日本語表記の採用は必須ではないが、ユースケースの実現に支障のない範囲でこの日本語表記を採用することが望ましい。

9.6.2 不明な値の表記

本標準製品仕様書では、都市計画決定情報モデルの属性notificationNumber（当初の告示番

号)、custodian(都市計画を定める者の名称)及びvalidFrom(当初の告示日)について、値が不明な場合の対応を以下の通り指定している。

notificationNumber、custodian	不明な場合は「Null」とする。
validFrom	不明な場合は「0001-01-01」とする。

3D都市モデルの可視化では、これらの属性が「Null」又は「0001-01-01」の値を取る場合に「不明」又はこれに相当する値を表示する。

9.7 品質評価ツール

品質評価については、関連するオープンソースソフトウェアがProject“PLATEAU”公式GitHubリポジトリに公開されており、それらを利用しても良い(<https://github.com/Project-PLATEAU/>)。

ただし、この品質評価ツールは、3D都市モデル標準製品仕様書第2.3版に対応しており、この標準製品仕様書が発行される時点では、この標準製品仕様書には対応していないことに留意する必要がある。

品質評価ツールは主に全数・自動検査により実施可能な品質要求を対象としている。

表9-3 品質評価ツールと品質要求との対応

		品質評価尺度	機能概要	検査対象	論理検査	全数	補足
過剰	C01	インスタンスに与えられたgml:idと同じgml:idをもつ他のインスタンスがデータ製品内に存在しない	カウント、数を出力	○	○	○	
		品質評価尺度	機能概要	検査対象	論理検査	全数	補足
漏れ	C02	参照データとインスタンス数が等しい	都市モデルの数をカウントして表示、ユーザが保持する参照データの数と比較	○	○	○	論理検査の結果を、目視で比較
書式一貫性	L01	整形形式(Well-Formed XML)になっていない箇所数	XML文法チェック	○	○	○	
概念一貫性	L02	妥当(Valid)なXML文書になっていない箇所数	CityGML/i-URスキーマチェック	○	○	○	
	L03	応用スキーマに定義していない地物型の出現箇所数	CityGML/i-UR未定義のクラスをカウント	○	○	○	他スキーマが読み込まれた場合、当該クラスは排除不可
	L-bldg-06	建築物のbldg:lod2Solidにより記述される立体(gml:Solid)の境界面(gml:MultiSurface)と、bldg:boundedByにより参照する屋根面、底面、壁面、外部天井、外部床面又は閉鎖面がbldg:lod2MultiSurfaceにより記述される面(gml:MultiSurface)とが一致する。	Solidを構成する面が正しいBoundarySurfaceを参照しているかチェック	○	○	○	
定義域一	L04	codeSpaceにより指定された辞書に定義されていない値となっている箇所数	カウント、数を出力	○	○	○	
	L05	srsNameにより指定された空間参照系のepsgコードが、6697あるいは6668のいずれでもない。	カウント、数を出力	○	○	○	

貫性	L06	幾何オブジェクトインスタンスの座標値に含まれる、緯度、経度、標高が、この幾何オブジェクトインスタンスを含む都市モデル（core:CityModel）の属性boundedByにより示された空間範囲に含まれる。	カウント、数を出力	○	○	○	
位相一貫性	L10	座標列の向きが不正なインスタンスをエラーとする。外周は反時計回り、内周は時計回りがただし。	カウント、数を出力	○	○	○	対象はSolidのみ
	L11 L12	gml:Polygonの境界を構成する全ての座標値が同一平面上になければならない。同一平面上にない座標値が存在するインスタンスをエラーとする。	カウント、数を出力	○	○	○	対象はSolidのみ
	L13	gml:Polygonに内周が存在する場合に、以下に示す条件に1つ以上に合致する場合にエラーとする。 a) 内周が外周と交差している。 b) 内周と外周が接することにより、gml:Polygonが2つ以上に分割されている。 c) 内周同士が重なったり、包含関係にあったりする。	カウント、数を出力	○	○	○	対象はSolidのみ
	L14	gml:Solidを構成する全ての境界面が、以下の条件を満たしていない場合にエラーとする。 a) 境界面が自己交差していない。 b) 閉じている。 c) 全ての境界面の向きが立体の外側を向いている。 d) 境界面が立体を分断してはならない。 e) 境界面が交差してはならない。	カウント、数を出力	○	○	○	対象はSolidのみ
		品質評価尺度	機能概要	検査対象	論理検査	全数	補足
分類の正しさ	T03	id参照により参照されたgml:idを与えられたインスタンスの型が、応用スキーマにおいて示された関連相手先となる型と一致しない箇所の出現回数	Xlink先が間違っただけとなっていないか確認、数を出力	○	○	○	
	T-bldg-02	bldg:lod2Geometryにより保持又は参照する幾何オブジェクトの型が、gml:MultiSurface又はgml:Solid、あるいはgml:CompositeSolidではないインスタンスの個数	Pointなどが混在していないか確認、数を出力	○	○	○	
	-	gen:lod0Geometryにより保持又は参照する幾何オブジェクトの型が、gml:MultiSurfaceではないインスタンスの個数	カウント、数字を出力	○	○	○	

9.8 地下埋設物における特記事項

地下埋設物モデルにおいて、標準製品仕様書に記載の事項を一部変更して運用する。

変更される事項について、下記に示す。

9.8.1 空間参照系

地下埋設物モデルは、以下の空間参照系のいずれかを適用する。平面直角座標系を推奨とするが、広域な地下埋設物モデルを整備する場合においては、経緯度座標系を使用してもよい。

表9-4

次元数	空間参照系の名称
-----	----------

3	日本測地系2011における平面直角座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系
3	日本測地系2011における経緯度座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系

9.8.2 ファイル単位

9.8.2.1 ファイル単位

ファイル単位は、「作業規程の準則 付録7 公共測量標準図式 第84条」において定められた国土基本図の図郭とする。

また、一つのファイルには、同一の空間参照系のオブジェクトのみを含む。国土基本図の図郭は、地図情報レベル2500（一辺の長さ南北1.5km、東西2km）とする。

9.8.2.2 ファイルサイズとファイル分割

1ファイルのデータ量の上限は最大1GBとする。1ファイルのデータ量が1GBを超える場合は、ファイルを分割する。分割したファイルは、同じ図郭を重複して含んではならない。

表9-5 ファイル分割ルール

基本となるファイル単位	分割ルール
国土基本図の図郭（地図情報レベル2500）	ファイルサイズが上限を超える場合は、上限を超えるファイルのみを分割する。 国土基本図の図郭（地図情報レベル500）に分割する。

9.8.3 境界線上の地物の取り扱い

9.8.3.1 ファイルの境界線上に存在する地物

ファイル単位となる国土基本図の図郭の境界線上に存在する地物は分割しない。

複数の図郭に跨って存在する地物は、それぞれの図郭に平面投影した形状が含まれる面積又は延長の割合を算出し、この割合が最も大きい図郭に対応するファイルに含む。

面積又は延長は、小数点2桁（3桁目で四捨五入、単位はm²又はm）で比較する。面積又は延長が同じ場合は、付録7 公共測量標準図式 第84条第4項が定める国土基本図の図郭の区画名の若い方（左上）とする。

9.8.3.2 行政区域の境界線上に存在する地物

データセットの単位となる行政区域の境界線に跨って存在する地物は、分割しない。

複数の行政区域に跨って存在する地物は、それぞれの都市のデータセットに含めることを基本とする。

9.8.4 ファイル名称

ファイル名称（拡張子を除いた部分）は、[図郭コード]_[地物型]_[CRS]_[オプション]とする。

表9-6 ファイル名の構成要素

ファイル名称の構成要素	説明	使用可能な文字
[図郭コード]	ファイル単位となる国土基本図の図郭の区画名	半角英数字

[地物型]	格納された地物の種類を示す接頭辞	半角英数字
[CRS]	格納された地物に適用される空間参照系	半角数字
[オプション]	必要に応じてファイルを細分したい場合の識別子（オプション）	半角英数字。区切り文字を使用したい場合は半角のハイフンのみ。
—	ファイル名称の構成要素同士の区切り文字	ファイル名称の構成要素同士を区切る場合には、アンダースコア（_）のみを用いる。ファイル名称の構成要素の中を区切る場合は、ハイフン（-）を用いる。いずれも半角とする。

[図郭コード]は、ファイルの単位に対応する国土基本図の図郭の区画名とする。ファイルを分割した場合は、最も若い（左上）の図郭のコードを付与する。

[地物型]にはファイルに含まれる応用スキーマを識別する接頭辞（表7-5）を付与する。

表9-7 — 接頭辞

応用スキーマ	接頭辞
地下埋設物モデル	unf

[CRS]には、当該ファイルに含まれるオブジェクトの空間参照系の略称（半角数字）として EPSGコード（<https://epsg.org/home.html>）を入力する。EPSGコードは、空間参照系に与えられた固有の識別子である。地下埋設物に適用する空間参照系の略称を下表に示す。

表9-8 — 空間参照系の略称

オブジェクトに適用される空間参照系	略称
日本測地系2011における平面直角座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系	下記のいずれかのコードを使用する。 10162 10163 10164 10165 10170 10166 10167 10168 10169 10170 10171 10172 10173 10174

なお、「日本測地系2011における平面直角座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系」の略称は、適用される平面直角座標系の系により、以下の通り区分されている。

表9-9 — 適用される平面直角座標系の区分

略称	座標参照系	略称	座標参照系	略称	座標参照系
10162	第Ⅰ系	10167	第Ⅵ系	10172	第Ⅺ系
10163	第Ⅱ系	10168	第Ⅶ系	10173	第Ⅻ系
10164	第Ⅲ系	10169	第Ⅷ系	10174	第ⅩⅢ系
10165	第Ⅳ系	10170	第Ⅸ系		
10166	第Ⅴ系	10171	第Ⅹ系		

[オプション]は、メッシュ単位及び地物型単位となるファイルをさらに分割したい場合（例：ユーティリティ事業者ごとにファイルを分割する）に使用する。使用しない場合は区切り文字と共に省略する。
[オプション]を使用する場合は、オプションの文字列、適用するフォルダの名称、オプションの意味の一覧を作成する。

表9-10 — オプションに使用する文字列

オプション	適用するフォルダ名	オプションの意味

9.8.5 繰り返しオブジェクト（Implicit Geometry）

繰り返しオブジェクト（ImplicitGeometry）は、地物毎に幾何オブジェクトを作成する代替として、一つのプロトタイプモデルを作成し、そのプロトタイプモデルを複数の地物が参照する仕組みである。CityGMLでは、都市設備、単独木など、特定の地物型のみこの仕組みを使用できる。

地物毎に、どのプロトタイプモデルを使用するのか、どこに配置するのか、また、プロトタイプモデルをどう変形するのかを情報としてもつことができる。

標準製品仕様書では、埋設物モデル（LOD2）、埋設物モデル（LOD3）、埋設物モデル（LOD4）のみ繰り返しオブジェクトを使用することを可とする。

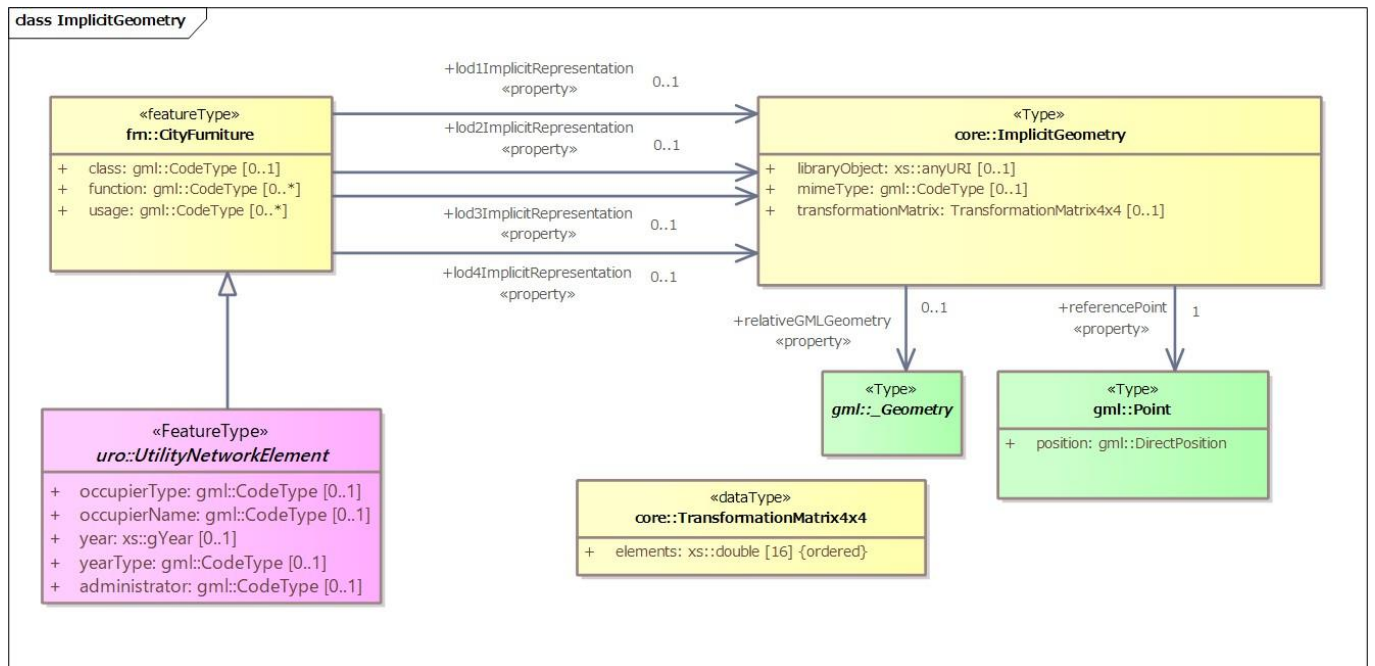


図9-1

9.8.5.1 core:ImplicitGeometry

表9-11

型の定義	繰り返しオブジェクト。地物毎に幾何オブジェクトを作成する代替として、一つのプロトタイプモデルを複数の地物が参照する仕組み。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< Type >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
core:libraryObject [ImplicitGeometry]	xs:anyURI [0..1]	繰り返しオブジェクトで使用するプロトタイプモデルの所在を示すURI。この属性が記述されていない場合、core:relativeGMLGeometryを必須とする。
core:mimeType [ImplicitGeometry]	gml::CodeType [0..1]	繰り返しオブジェクトで使用するプロトタイプモデルのファイル種類。コードリスト（ImplicitGeometry_mimeType.xml）より選択する。
core:transformationMatrix [ImplicitGeometry]	TransformationMatrix4x4 [0..1]	繰り返しオブジェクトで使用するプロトタイプモデルの変形パラメータ。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core:referencePoint [ImplicitGeometry]	gml:Point [1..1]	繰り返しオブジェクトの原点（0,0,0）を配置する参照点。3D都市モデルに適用される測地座標で記述する。
core:relativeGMLGeometry [ImplicitGeometry]	gml:_Geometry [0..1]	繰り返しオブジェクトで使用するプロトタイプモデル。GML形式で記述する場合に必須とする。この関連役割が記述されていない場合、core:libraryObjectを必須とする。

9.8.5.2 core:TransformationMatrix4x4

表9-12

型の定義	繰り返しオブジェクトで使用するプロトタイプモデルを変形（拡大縮小、回転、平行移動）するための、3次元座標のアフィン変換行列。4×4の行列を示す16桁の数値の列からなる。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<< dataType >>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
core:elements [TransformationMatrix4x4]	xs::double [16..16]	16桁の実数の列。順序をもつ。16桁は4×4の変換行列を示し、最初の4桁は1行目、次の4桁は2行目、次の4桁は3行目、最後の4桁は4行目となる。

9.8.5.3 ImplicitGeometry_mimeType.xml

表9-13

ファイル名	ImplicitGeometry_mimeType.xml
ファイル URL	https://www.geospatial.jp/iur/codelists/3.2/ImplicitGeometry_mimeType.xml
コード	説明
model/gltf +json	.gltf
model/x3d +xml	.x3db, .x3d
model/ x3+vrmf	.x3dv, .x3dvz
model/obj	.obj

9.8.5.4 ImplicitGeometryにより地下埋設物の形状を表現する場合の関連役割

地下埋設物の形状を、ImplicitGeometryにより表現する場合、frn:CityFurnitureから継承する関連役割を使用する。

表9-14

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
frn:lod2ImplicitRepresentation	core:ImplicitGeometry [0..1]	LOD2の幾何オブジェクトの代替として使用する繰り返しオブジェクト。
frn:lod3ImplicitRepresentation	core:ImplicitGeometry [0..1]	LOD3の幾何オブジェクトの代替として使用する繰り返しオブジェクト。
frn:lod4ImplicitRepresentation	core:ImplicitGeometry [0..1]	LOD4の幾何オブジェクトの代替として使用する繰り返しオブジェクト。

参考文献

- [1] PLATEAU Handbook #02, 国土交通省都市局. 3D都市モデル標準作業手順書. Version 第5.0版. 国土交通省. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/>
- [2] PLATEAU Handbook #10, 国土交通省都市局. 3D都市モデル整備のための測量マニュアル. Version 第4.0版. 国土交通省. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/>
- [3] ISO 6707-1, Buildings and civil engineering works — Vocabulary — Part 1: General terms
- [4] 国土交通省. Cyber Port サイバーポート. 入手先: <https://www.cyber-port.mlit.go.jp>
- [5] European Commission Joint Research Centre. D2.8.III.6 INSPIRE Data Specification on Utility and Government Services — Technical Guidelines. 入手先: <https://inspire.ec.europa.eu/Themes/136/2892>
- [6] buildingSMART International. IFC Bridge Fast Track Project — Report WP2: Conceptual Model. 入手先: <https://www.buildingsmart.org/standards/domains/infrastructure/ifc-bridge/>
- [7] European Commission, Joint Research Centre. INSPIRE registry. 入手先: <https://inspire.ec.europa.eu/registry>
- [8] NBS Enterprises Ltd. Uniclass. 入手先: <https://uniclass.thenbs.com>
- [9] 農林水産省農村振興局防災課. ため池ハザードマップ作成の手引き. 入手先: https://www.maff.go.jp/j/nousin/bousai/bousai_saigai/b_tameike/pdf/tameike_manual_1rev.pdf
- [10] 国土交通省国土技術政策総合研究所. わが国の街路樹Ⅷ. 入手先: <http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn1050.htm>
- [11] 日本下水道協会. 下水道台帳管理システム標準仕様（案）・導入の手引き. Version Ver.5. 入手先: <https://www.jswa.jp/publication/list/>
- [12] 国土交通省不動産・建設経済局. 不動産 ID ルールガイドライン. 入手先: https://www.mlit.go.jp/tochi_fudousan_kensetsugyo/content/001594268.pdf
- [13] 国土交通省. 全国道路施設点検データベース 損傷マップ. 入手先: <https://road-structures-map.mlit.go.jp>
- [14] 国土交通省都市局. 公共用緑化樹木等品質寸法規格基準（案）. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/notice/noticedata/sgml/035/76000224/76000224.html>
- [15] 国土交通省水管理・国土保全局下水道部. 内水浸水想定区域図作成マニュアル（案）. 入手先: https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/pdf/naisui_manual.pdf
- [16] 国土交通省政策統括官付地理空間情報課. 国土数値情報. 入手先: <https://nlftp.mlit.go.jp>
- [17] 国土交通省不動産・建設経済局. 国土数値情報（土砂災害警戒区域）製品仕様書. 入手先: https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/product_spec/KS-PS-A33-v2_0.pdf
- [18] 国土交通省国土政策局. 国土数値情報（洪水浸水想定区域）製品仕様書. 入手先: https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/product_spec/KS-PS-A31-v2_1.pdf
- [19] 総務省 統計局. 地域メッシュ統計について. 入手先: https://www.stat.go.jp/data/mesh/m_tuite.html
- [20] 国土交通省 水管理・国土保全局 防災課. 地域防災計画の作成の基準. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/common/001618459.pdf>
- [21] 国土交通省国土地理院. 地理空間データ製品仕様書作成マニュアル JPGIS 2014版. 入手先: <https://www.gsi.go.jp/common/000250810.pdf>

- [22] 国土交通省国土地理院. 建物三次元データ作成マニュアル (案). 入手先: https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/Laser_gijutusiryo.html
- [23] 日本国政府. 建築基準法 (昭和二十五年法律第二百一号). 入手先: <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=325AC0000000201>
- [24] 日本国政府. 水防法 (昭和二十四年法律第百九十三号). 入手先: <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=324AC0000000193>
- [25] 国土交通省水管理・国土保全局海岸室, 国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室. 津波浸水想定 の設定の手引き. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/content/001621078.pdf>
- [26] 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課水防企画室, 国土技術政策総合研究所河川研究部水害研究 室. 洪水浸水想定区域図作成マニュアル (第4版). Version 4. 入手先: https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/index.html
- [27] 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課水防企画室下水道部海岸室. 浸水想定区域図データ電子化 ガイドライン (第4版). Version 4. 入手先: https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/index.html
- [28] 国土交通省. 緊急輸送道路. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/road/bosai/measures/index3.html>
- [29] 国土交通省 道路局. 道路保守・管理. 入手先: https://www.mlit.go.jp/road/soudan/soudan_08b_01.html
- [30] 国土交通省中部地方整備局. 道路施設台帳作成マニュアル. Version 第1.3版. 入手先: <https://www.cbr.mlit.go.jp/architecture/kensetsugijutsu/download/index.htm>
- [31] 日本国政府. 道路法 (昭和二十七年法律第百八十号). 入手先: <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=327AC1000000180>
- [32] 国土交通省道路局. 道路緑化技術基準. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/road/sisaku/ryokuka/index.html>
- [33] 国土交通省都市局. 都市計画基礎調査実施要領. Version 第4版. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/kisotyousa001.html>
- [34] 国土交通省都市局. 都市計画情報のデジタル化・オープン化ガイダンス. Version 第1.0版. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/genkyou.html>
- [35] 国土交通省都市局都市計画課都市計画調査室. 都市計画現況調査. 入手先: <https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/genkyou.html>
- [36] 農林水産省農村振興局整備部防災課, 農林水産省水産庁漁港漁場整備部防災漁村課, 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課, 国土交通省水管理・国土保全局海岸室, 国土交通省港湾局海岸・防災課. 高潮浸水想定区域図作成の手引き. 入手先: https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kaigan/takashioshinsui_manual.pdf
- [37] IANA media-types, Media Types. 更新しました 2025年3月6日. Internet Assigned Numbers Authority. 入手先: <https://www.iana.org/assignments/media-types>
- [38] IETF RFC 4122, P. Leach, M. Mealling, R. Salz. A Universally Unique IDentifier (UUID) URN Namespace. RFC Series. 入手先: <https://www.rfc-editor.org/info/rfc4122>
- [39] JIS E 1001:2001, 鉄道一線路用語
- [40] JIS X 7107, 地理情報一空間スキーマ
- [41] OGC 21-006r2, Tatjana Kutzner, Carl Stephen Smyth, Claus Nagel, Volker Coors, Diego Vinasco-Alvarez, Nobuhiro Ishi. OGC City Geography Markup Language (CityGML) Part 2: GML Encoding

Standard. Version 2. Open Geospatial Consortium. 入手先: <http://www.opengis.net/doc/IS/CityGML-2/3.0.0>

- [42] OGC 20-010, Thomas H. Kolbe, Tatjana Kutzner, Carl Stephen Smyth, Claus Nagel, Carsten Roensdorf, Charles Heazel. OGC City Geography Markup Language (CityGML) Part 1: Conceptual Model Standard. Open Geospatial Consortium. 入手先: <http://www.opengis.net/doc/IS/CityGML-1/3.0.0>
- [43] OGC 12-019, Gerhard Gröger, Thomas H. Kolbe, Claus Nagel, Karl-Heinz Häfele. OGC City Geography Markup Language (CityGML) Encoding Standard. Open Geospatial Consortium. 入手先: <http://www.opengis.net/spec/citygml/2.0>
- [44] OGC 07-036, Clemens Portele. OpenGIS Geography Markup Language (GML) Encoding Standard. Open Geospatial Consortium
- [45] OGC 23-024, Open Geospatial Consortium. OGC Model for Underground Data Definition and Integration (MUDDI) Part 1: Conceptual Model. 入手先: <https://portal.ogc.org/files/106383>

改訂履歴

[illegible]

